高等専門学校機関別認証評価

自 己 評 価 書

平成２３年６月

旭川工業高等専門学校

目　　次

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　目的 ・・・　2

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

基準２　教育組織（実施体制） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３１

基準３　教員及び教育支援者等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７５

基準４　学生の受入 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１５

基準５　教育内容及び方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４７

基準６　教育の成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７９

基準７　学生支援等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１３

基準８　施設・設備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４９７

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・５４５

基準10　財務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６１７

基準11　管理運営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６６５

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴

１　現況

（１）高等専門学校名

旭川工業高等専門学校

（２）所在地

北海道旭川市

（３）学科等の構成

学　科：機械システム工学科（定員 40 名），
電気情報工学科（定員 40 名），
システム制御情報工学科（定員 40 名），
物質化学工学科（定員 40 名）

専攻科：生産システム工学専攻（定員 12 名），
応用化学専攻（定員４名）

（４）学生数及び教員数（平成23年５月１日現在）

①学生数　　単位：人

準学士課程	１年	２年	３年	４年	５年	合計
機械システム工学科	51	39	41	36	37	204
電気情報工学科	46	47	42	36	37	208
ｼｽﾃﾑ制御情報工学科	41					41
制御情報工学科	4	40	45	46	38	173
物質化学工学科	40	46	42	46	42	216
計	182	172	170	164	154	842

専攻科課程	１年	２年	合計
生産システム工学専攻	14	20	34
応用化学専攻	8	10	18
計	22	30	52

総計　　894　人

②教員数

専任教員数：60人(再雇用教員を除く)

助手数：０人

２　特徴

（１）沿革

旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）は，昭和37年４月，国立工業高等専門学校の１期校として機械工学科２学級，電気工学科１学級で創設され，昭和41年度に工業化学科１学級を増設した。昭和63年度には機械工学科を機械工学科と制御情報工学科とに分離改組し，４学科構成となった。平成10年度に工業化学科を物質化学工学科に改組，平成15年度には電気工学科を電気情報工学科に，翌平成16年度には機械工学科を機械システム工学科へと名称変更した。また平成23年度には，制御情報工学科をシステム制御情報工学科に名称変更し，「コンピュータ中心のシステム作り」をキーワードに再構築されたカリキュラムに基づいた教育を行っている。

一方，平成 11 年度には，工学に関する知識・技術をより広くかつ深く教授するために，専攻科が設置された。専攻科は生産システム工学専攻と応用化学専攻との２専攻から構成され，前者は準学士課程の機械システム工学科，電気情報工学科及びシステム制御情報工学科を基盤とした複合型専攻であり，後者は物質化学工学科を基盤とした単独専攻である。また，平成 16 年度には，「環境・生産システム工学」教育プログラムが工学（融合複合・新領域）関連分野で，日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受け，本校の技術者教育が大学と同格であることが認められている。

（２）教育

本校の教育理念は，将来性のある人間性豊かな「実践的研究開発型技術者」を養成することであり，この理念に基づき教育目標が設定されている。

本校の教育の特徴の一つとしては，低学年の数学，物理を中心とした基礎科目の実力向上を目指して各学科教員による教育が行われており，最近数年間の学習到達度試験においては，数学の点数は全国平均を上回っている。また英語教育の充実のため１・４年生に対する All English の授業が実施されている。国際交流推進事業としては，平成 22 年度旭川市・韓国水原(スウォン)市の青少年交流事業の一環として，本校と水原ハイテク高校間の学生交流が行われ，相互に 10 名の学生が８日間の海外生活経験を通して，貴重な体験を得ることができた。水原との交流事業は，今後も引き続き実施される予定である。

本科・専攻科を通して実験・実習を重視した体験学習による創造力と行動力の育成は，高専教育の大きな柱である。その教育の成果は，ロボットコンテスト全国大会において，２度の優勝と１度の大賞受賞を果たしていることにも現れている。専攻科においては，本校同窓会との連携により，企業技術者をマイスターとする“創造工学”が実施されており，専攻科教育の充実に大きな役割を果たしている。

Ⅱ　目的

１．旭川工業高等専門学校の目的

旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）は，教育基本法の精神にのっとり，かつ，学校教育基本法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

２．旭川工業高等専門学校の教育理念と教育目標

本校の教育理念は「将来性のある人間性豊かな実践的研究開発型技術者を養成する」ことである。これに基づき，本校としての具体的な教育目標を，準学士課程と専攻科課程について，それぞれ以下のように定めている。

【準学士課程】

１．人間形成に必要な一般教育科目をできるだけ幅広く展開し，豊かな教養と幅広い思考力を養う。また，外国語を鍛え，外国文化に対する理解力を養う。

２．若く新鮮な感性と実験・実習等を重視した体験学習により，豊かな創造力と行動力を養う。

３．工学基礎及び専門基礎をしっかり身に付けさせ，広い専門的視野と総合的判断力を持たせる。

４．自主的に思考し，学習し，行動する習慣を身に付けさせ，心身の健康維持，増進に努めさせる。

【専攻科課程】

社会を支える技術者を育成するため，高等専門学校における５年間の課程で培われた工学に関する知識・技術をより深く教授する。

３．第二期中期計画の基本方針

平成 21 年度に開始された本校の第二期中期計画においては，以下の基本方針が定められている。

（１）実践性・創造性を重視した一貫教育を基に，我が国のイノベーションを支え，国際的に活躍できる人材を育成する。

（２）産業界・地域社会との幅広い連携の下で，教育の個性化・高度化を目指した改革を積極的に進める。

４．準学士課程の各専門学科における教育上の目的

準学士課程の教育目標及び第二期中期計画基本方針にのっとり，各専門学科における教育上の目的が，以下のように学則に定められている。なお，各専門学科の具体的な教育目標並びに一般人文科及び一般理数科の教育目標については，基準１で述べる。

（１）機械システム工学科

機械工学に関する基礎的・専門的知識を身に付け，更に，それぞれの技術要素を有機的に構成し，新たな社会構築に役立つシステムを創造していく能力を身に付けた，国際的視野を持った技術者を育成することを目的とする。

（２）電気情報工学科

電気・電子工学及び情報工学に関する基礎的・専門的知識を身に付け，更に，創造力，柔軟な思考力，情報化社会におけるモラル及びコミュニケーション能力を身に付けた，国際的視野を持った技術者を育成することを目的とする。

（３）システム制御情報工学科

情報技術，機械工学及び電気・電子工学に関する基礎的・専門的知識を身に付け，それぞれの専門分野の技術が融合されたシステムの技術に対応できる，国際的視野を持った技術者を育成することを目的とする。

（４）物質化学工学科

化学及び生物分野に関する基礎的・専門的知識を身に付け，科学技術が自然環境に与える影響を自覚して社会全体の諸問題に対応できる，国際的視野を持った技術者を育成することを目的とする。

５．専攻科課程における教育目標

本校には，生産システム工学専攻と応用化学専攻との２専攻が設置されている。先に述べた専攻科課程の教育目標にのっとり，各専攻の教育目標は以下のように定められている。

（１）生産システム工学専攻

機械システム工学科，電気情報工学科及びシステム制御情報工学科で教授した教育内容を基礎とし，それぞれの専門分野の技術が融合した境界領域分野の諸問題にも対応できるように教育課程を編成し，メカトロニクス，エレクトロニクス，コンピュータ応用等の技術が融合した生産システム分野において活躍できる，総合的能力を備えた技術者を育成する。

（２）応用化学専攻

物質化学工学科で教授した教育内容を基礎とし，化学・バイオ関連産業における専門的な実務に携わることを前提とした教育課程を編成し，製品・技術の開発及びそれに伴う環境や社会への配慮等に柔軟に対応できる，総合的能力を備えた技術者を育成する。

６．「環境・生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標

本校では，国際的な工学教育の水準を満たし，21 世紀の社会に貢献できる能力を持った技術者を育成するため，本科第４学年から専攻科第２学年までの４年間のカリキュラムで構成される「環境・生産システム工学」教育プログラムが設けられている。平成 16 年度には，この教育プログラムが工学（融合複合・新領域）関連分野で，日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けた。本校の専攻科に入学した学生はこの教育プログラムの履修対象者となる。以下に，「環境・生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標を示す。

（A）地域社会，産業社会の様々な要求に応える情報機器・分析機器を使いこなし，新しい技術に対応できる能力を持った技術者の育成

（B）常に日本及び世界の歴史，文化を視野に収め，科学技術が社会や環境に及ぼす影響を考察し，その社会的責任を自覚する技術者倫理を持った技術者の育成

（C）倫理的思考に支えられた明晰な日本語によって記述し，発表する能力，学会等において討議できるコミュニケーション能力及び国際的な場でのプレゼンテーション等の基礎的コミュニケーション能力を持った技術者の育成

（D）多様な工業技術システムを理解し，地球環境にやさしい技術や研究開発を企画，設計，デザインする能力を持った技術者の育成

（E）多角的視点で自ら考え，新たな価値を創造・開発でき，それをシステム化し，あるいは再構築する能力を持った技術者の育成

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的

（１）観点ごとの分析

観点１－１－①：　高等専門学校の目的が，それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ，その内容が，学校教育法第115条に規定された，高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また，学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

（観点に係る状況）

学校教育法第 115 条には，「高等専門学校は深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と記載されている。また，独立行政法人国立高等専門学校機構法第１章第３条では，「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成する」ことが目的にあげられている。本校では，これらを念頭に置いて，学則第１章第１条にて本校の目的を明確に設定（資料１－１－①－１）するとともに，「将来性のある人間性豊かな実践的研究開発型技術者を養成する」という明確な教育理念（資料１－１－①－２）を掲げている。そして，上記の目的や教育理念を達成するために，準学士課程及び専攻科課程の教育目標（資料１－１－①－３）を掲げている。本校には，それぞれの個性を持つ４つの専門学科と，全学科の基礎を担当する一般科が設置されており，それぞれの学科・科は，本校共通の目標や人材育成の実現に向けた，より具体的な教育目標を掲げている（資料１－１－①－４）。

専攻科は，生産システム工学専攻と応用化学専攻との２専攻から構成され，前者は，準学士課程の機械システム工学科，電気情報工学科及びシステム制御情報工学科を基盤とした複合型専攻であり，後者は，物質化学工学科を基盤とした単独専攻である。それぞれの専攻においても，具体的な教育目標が掲げられている（資料１－１－①－５）。

更に，本校が平成 16 年度に，工学（融合・複合，新領域）分野で JABEE の認定を受けた「環境・生産システム工学」教育プログラムにおいても，このプログラムが目指している技術者像とその育成のための教育目標が明確に設定されている（資料１－１－①－６）。

資料１－１－①－１

「旭川工業高等専門学校学則（抜粋）」

第１章　目的

第１条　旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）は，教育基本法（平成18年法律第120号）の精神にのっとり，かつ，学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

（出典　本校ウェブサイト例規集）

資料１－１－①－２

「旭川工業高等専門学校の教育理念」

将来性のある人間性豊かな「実践的研究開発型技術者」を養成する。

（出典　平成23年度学生生活のしおり前書き）

資料１－１－①－３

「旭川工業高等専門学校の教育目標」

【本科】

① 人間形成に必要な一般教育科目をできるだけ幅広く展開し，豊かな教養と幅広い思考力を養う。また，外国語を鍛え，外国文化に対する理解力を養う。

② 若く新鮮な感性と実験・実習等を重視した体験学習により，豊かな創造力と行動力を養う。

③ 工学基礎及び専門基礎をしっかり身に付けさせ，広い専門的視野と総合的判断力を持たせる。

④ 自主的に思考し，学習し，行動する習慣を身に付けさせ，心身の健康維持，増進に努めさせる。

【専攻科】

社会を支える技術者を育成するため，高等専門学校における５年間の課程で培われた工学に関する知識・技術をより深く教授する。

（出典　平成23年度学生生活のしおり前書き）

資料１－１－①－４

「各学科(科)の教育目標（平成 23 年度～）」

（平成 22 年度第７回教務委員会了承
平成 22 年度第８回運営委員会報告）

機械システム工学科

機械システム工学科では，「機械工学に関する基礎的・専門的知識を身に付け，さらに，各々の技術要素を有機的に構成し，新たな社会構築に役立つシステムを創造していく能力を身に付けた，国際的視野を持った技術者」の育成を目指しており，以下の教育目標を掲げている。

① 機械工学に関する基礎的・専門的知識を身に付ける。
② 機械システムを創造する能力を身に付ける。
③ 課題の発見と問題解決のできる能力を身に付ける。
④ 社会環境との調和を多角的に考察できる能力を身に付ける。
⑤ 幅広い視野と豊かなコミュニケーション能力を身に付ける。

電気情報工学科

我々の社会，経済，生活が，インターネットの急速な発展によって大きく変わろうとしている。また，半導体技術の発展によって，コンピュータはあらゆる電子機器の中に部品のレベルで組み込まれ，それらが通信ネットワークと有機的に結びついて制御されるユビキタス情報社会を形成しようとしている。このような情報社会では，電気・電子技術をベースとする情報技術者の養成はますます重要になっており，電気情報工学科では以下の教育目標を掲げている。

① 電気電子工学の基礎である電磁気学，電気回路，電子回路等の知識を修得させ，その上に半導体工学や電力工学等の専門的能力を身に付けさせる。
② 情報工学，計算機工学等の情報技術を修得させ，ソフトウェアプログラミングやネットワークシステムに関する専門的能力を身に付けさせるとともに，電気電子技術と情報技術とが融合する新技術分野に柔軟に対応できる技術者を育てる。
③ 技術が社会に与える影響や環境について考えることができ，電気・電子・情報技術を用いてエネルギー,環境問題にアプローチできる技術者を育てる。
④ 電気・電子・情報分野での問題解決能力を高めるため，国際的視野をもった技術者を育成するとともに，コミュニケーション・プレゼンテーション能力を養う。

システム制御情報工学科

コンピュータ及び情報技術は，電化製品や自動車等の産業製品，それら製品を製造する生産機械や産業ロボット，さらには金融・物流システム等に組み込まれており，現代社会にとって欠くことのできない基盤技術である。コンピュータの応用技術は，その構成要素であるマイクロプロセッサ，電気・電子部品，機械部品等のハードウェア技術と，これらをシステムとして有機的に結合し目的の機能を発揮させるソフトウェア技術から成り立っている。したがって，それらを統合するためには，機械・電気・情報をはじめとする多様な領域にまたがる知識とシステム制御の技術を身に付けることが必須である。このような複合領域にまたがる技術に対応できる技術者への社会的・国際的要請は，今後もますます強くなると考えられる。

システム制御情報工学科では，「コンピュータ中心のシステム作り」をキーワードとして，情報技術と機械工学，電気工学等の基礎が融合した複合領域分野で活躍できる国際的視野を持った技術者を育成することを目的とする。具体的には，以下の項目を教育目標とする。

① コンピュータ応用技術に関する専門科目と実験・実習を通して，コンピュータを道具として自在に操る情報技術を持たせる。
② 機械工学，電気・電子工学に関する専門科目と実験・実習を通して，ものづくりの基礎となる知識を習得させるとともに，ものづくりのセンスを磨かせる。
③ 情報技術，機械工学及び電気・電子工学を融合させた分野である画像・計測システム，情報システム，制御システム，メカニカルシステム等の複合領域の技術を持たせる。
④ 卒業研究を通して，学んだ知識を総合的に応用して国際的視野を持って創造する力を育てる。

物質化学工学科

我々の生活を便利で快適にしている高機能で多機能な様々な製品は，化学の力によって生み出された優れた材料を基盤としている。将来にわたってこのような豊かな生活を続けていくためには，材料及び製品の開発，製造，利用，廃棄の過程での省エネルギーと地球環境に負荷をかけない技術の開発が重要となっている。また，有限な資源の利用だけでなく，生物の力を利用した再生可能な資源やエネルギーを有効に使った，持続可能な社会の構築も重要な課題となっている。物質化学工学科は，食品，医療，環境保全，エネルギー，情報，材料等，現代生活を支えるあらゆる分野に貢献できる，国際的視野を持った技術者の育成をめざして，以下のような教育目標を掲げている。

①　化学及び生物分野の基礎的知識を，実験等を通して十分身に付けさせる。
②　化学及び生物分野の専門的知識を基に，幅広い視野に立って地域社会や社会全体に貢献できる能力を身に付けさせる。
③　人間と自然環境との関わりを理解し，科学技術がそれに与える影響を自覚できる能力を身に付けさせる。
④　様々な分析機器や情報機器を積極的に活用して，諸問題に取り組む能力を身に付けさせる。

一般人文科

一般人文科では，一般理数科や専門学科と協力しながら教養豊かな人間性の涵養を図り，また，専門科目の内容を十分に理解できる基礎学力を育むため，以下のような教育目標を掲げている。

①　日本語や外国語によるコミュニケーション能力を高め，異文化を理解する力を育成する。
②　現代社会の仕組みや特質を理解するとともに，科学技術が及ぼす影響を考えてその社会的責任を自覚する技術者倫理を育成する。
③　自律性・創造性に富み，地球的視野で物事を考え，地域社会に貢献し得る能力を育成する。
④　自主的に思考し，学習し，行動する習慣を身に付け，社会人として必要な心身の健康維持，増進に努める態度を育成する。

一般理数科

一般理数科では，一般人文科や専門学科と協力しながら教養豊かな人間性と創造性の涵養を図り，また，専門科目の内容を十分理解できる基礎学力を育むため，以下のような教育目標を掲げている。

①　数学・自然科学の原理や法則を理解し，科学的で論理的な思考能力を育成する。
②　絶え間なく進歩する科学技術に，将来とも対応できる能力を育成する。

（出典　平成 22 年度第 7 回教務委員会資料）

資料１－１－①－５

「各専攻の教育目標（平成 20 年度～）」

（平成 19 年度第 16 回専攻科委員会了承
平成 19 年度第 11 回運営委員会報告）

生産システム工学専攻

機械システム工学科，電気情報工学科及び制御情報工学科で教授した教育内容を基礎とし，それぞれの専門分野の技術が融合した境界領域分野の諸問題にも対応できるように教育課程を編成し，メカトロニクス，エレクトロニクス，コンピュータ応用等の技術が融合した生産システム分野において活躍できる，総合的能力を備えた技術者を育成する。

応用化学専攻

物質化学工学科で教授した教育内容を基礎とし，化学・バイオ関連産業における専門的な実務に携わることを前提とした教育課程を編成し，製品・技術の開発及びそれに伴う環境や社会への配慮等に柔軟に対応できる，総合的能力を備えた技術者を育成する。

（出典　平成 19 年度第 16 回専攻科委員会資料）

資料１－１－①－６

〔「環境・生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標〕

A）地域社会，産業社会の様々な要求に応える情報機器・分析機器を使いこなし，新しい技術に対応できる能力を持った技術者の育成

A－１）数学・自然科学・情報技術に関する知識を有し，それを活用することができる。

A－２）基礎工学の知識・能力をもとに，地域や社会の要求を理解し分析することができる。

A－３）基礎的実験・実習技術を習得し，必要とされるスキルと知識を活用することができる。

B）つねに日本及び世界の歴史，文化を視野に収め，科学技術が社会や自然環境に及ぼす影響を考察し，その社会的責任を自覚する技術者倫理を持った技術者の育成

B－１）文化の多様性を認識するとともに，日本の文化について理解し，説明することができる。

B－２）地球的視点から多面的に考え，教養を高めるための努力を継続することができる。

B－３）専門分野の立場から職業的倫理を持ち，自己の技術行為が及ぼす影響について考察することができる。

C）論理的思考に支えられた明晰な日本語によって記述し，発表する能力，学会等において討議できるコミュニケーション能力及び国際的な場でのプレゼンテーション等の基礎的コミュニケーション能力を持った技術者の育成

Ｃ－１）適切な日本語を用いて，記述・発表・討議することができる。
Ｃ－２）外国語による基礎的コミュニケーションができる。
Ｃ－３）英語による技術論文や取扱説明書等を理解することができる。

D）多様な工業技術システムを理解し，地球環境にやさしい技術や研究開発を企画，設計，デザインする能力を持った技術者の育成
Ｄ－１）基礎工学及び専門工学に関する知識・能力を有し，それを活用することができる。
Ｄ－２）データを分析・解釈し，結論を導き出すことができる。
Ｄ－３）工学全般の知識・技術をもとに，環境に配慮した技術や研究を企画し，デザインすることができる。

Ｅ）多角的な視点で自ら考え，新たな価値を創造・開発でき，それをシステム化し，あるいは再構築する能力を持った技術者の育成
Ｅ－１）共通的工学関連分野の知識を有し，自主的・継続的に学習することができる。
Ｅ－２）チーム活動を通して，メンバーの同意形成を図り，協調しながら一つの目的を成し遂げることができる。
Ｅ－３）複眼的な思考能力をもとに，創造性を発揮して課題を探求・解決することができる。

（出典　平成23年度学生生活のしおり前書き）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，学校教育法の高等専門学校の目的を踏まえた明確な学則及び教育理念に基づいて，これからの産業社会において必要とされる技術者を育成するため，準学士課程においては４つの教育目標を，さらには専攻科課程の教育目標を定めている。そして，これらの教育目標に基づいて，準学士課程における各専門学科・科及び専攻科課程の各専攻の教育目標，さらにJABEE認定を受けた「環境・生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標が定められている。各課程において，本校として養成すべき人材像は，これらの教育目標を達成した学生であるといえる。

以上のことから，本校は高等専門学校としての目的を明確に定めている。

観点１－２－①：　目的が，学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

教職員に対しては，学校要覧（資料１－２－①－１），本校ウェブサイト（資料１－２－①－２）等に掲載するとともに，配布して周知しているほか，新任教職員説明会において説明している（資料１－２－①－３）。また，学生に対しては，学生生活のしおり（前述資料１－１－①－２～３），シラバス（資料１－２－①－４），専攻科案内パンフレット（資料１－２－①－５）等に掲載・配布して周知するとともに，準学士課程及び専攻科課程における各課程共通の教育目標と，環境・生産システム工学教育プログラムを学生玄関に（資料１－２－①－６），各学科・科の教育目標と，各学科・科の案内を，廊下に掲示している（資料１－２－①－７）。さらに，準学士課程及び専攻科課程ともに入学時におけるオリエンテーション時にこれらの内容について，関係教員による説明が行われている（資料１－２－①－８）。

平成 22 年 10 月には教職員，準学士課程及び専攻科課程の学生に対し，教育目的の認知状況についてアンケート調査を行った結果（資料１－２－①－９），教員については，ほとんどが「知っている」と解答しており，学生については約半数，職員も 70%程度が「知っている」と解答している。なお，専攻科生では，「環境・生産システム工学」教育プログラムの認知度は，90%程度の高い数値を示している。

資料１－２－①－１

「要覧における教育目標の記載」



校長 President

工学博士　髙橋　英明

D.Eng.　TAKAHASHI, Hideaki

教　育　目　標

本校の教育理念は,将来性ある人間性豊かな「実践的研究開発型技術者」を養成することです。このため,本校の具体的な教育目標を次のように定めています。

1. 人間形成に必要な一般教育科目をできるだけ幅広く展開し,豊かな教養と幅広い思考力を養う。また,外国語を鍛え,外国文化に対する理解力を養う。
2. 若く新鮮な感性と実験・実習等を重視した体験学習により,豊かな創造力と行動力を養う。
3. 工学基礎及び専門基礎をしっかり身に付けさせ,広い専門的視野と総合的判断力を持たせる。
4. 自主的に思考し,学習し,行動する習慣を身に付けさせ,心身の健康維持,増進に努めさせる。

【Objectives of Education】

The objective of our education is to train the students to be engineers who, having acquires rich humanity and great possibilities, not only have practical technical skills but also are qualified for further research and development. To achieve this objective, we have practical education objects, as follows:

1. Since liberal subjects are indispensable to cultivating humanity, we teach the students a variety of them so that they can acquire rich culture and thinking ability. We also teach them languages and cultures of foreign countries.
2. We offer the students chances of learning by experience in which we make much of young and fresh sensitivity, experiments and exercises, so that they can acquire rich creativity and a grate drive to take a role in research and development.
3. We teach the students the bases of engineering and technical subjects so that they can acquire a broad engineering viewpoint and the ability of seeing problems from all points concerned.
4. We train the students to have a habit of thinking, studying and acting by themselves, and make efforts to retain and enhance their health.

（出典　平成 22 年度学校要覧 P. １）

資料１－２－①－２

「本校ウェブサイトにおける教育目標の掲載」



独立行政法人国立高等専門学校機構
旭川工業高等専門学校
ASAHIKAWA NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

Home　学校案内　学科・専攻科　学生生活　施設情報　各種情報

更新日:2011/04/05

学校案内

- 校長の挨拶
- 校章の由来・校歌
- 本校の歴史
- 本校の組織
- 本校の特色
- 教育システム
- 本校の中期計画
- 自己点検・評価報告書
- 外部評価報告書
- 機関別認証評価
- JABEE
- 学生数
- 就職状況・進学状況
- 入学料・授業料・奨学金
- 入試情報
- 財務情報(PDF)
- 施設配置図
- 交通案内(所在地)
- 問い合わせ先一覧

教育目標

本校の教育理念は，将来性のある人間性豊かな「実践的研究開発型技術者」を養成することです。
このため，本校の具体的な教育目標を次のように定めています。

○本　科

1. 人間形成に必要な一般教育科目をできるだけ幅広く展開し，豊かな教養と幅広い思考力を養う。また，外国語を鍛え，外国文化に対する理解力を養う。
2. 若く新鮮な感性と実験・実習等を重視した体験学習により，豊かな創造力と行動力を養う。
3. 工学基礎及び専門基礎をしっかり身に付けさせ，広い専門的視野と総合的判断力を持たせる。
4. 自主的に思考し，学習し，行動する習慣を身に付けさせ，心身の健康維持，増進に努めさせる。

各学科の教育目標

- 機械システム工学科
- 電気情報工学科
- システム制御情報工学科
- 物質化学工学科

○専攻科

社会を支える技術者を育成するため，高等専門学校における５年間の課程で培われた工学に関する知識・技術をより深く教授する。

各専攻の教育目標

（出典　本校ウェブサイト）

資料１－２－①－３

「高専を取り巻く諸状況について」

教育理念（本科・専攻科）

将来性のある人間性豊かな
実践的研究開発型技術者
を養成すること

教育目標（本科）

①人間形成に必要な一般教育科目をできるだけ幅広く展開し，豊かな教養と幅広い思考力を養う。また，外国語を鍛え，外国文化に対する理解力を養う。

②若く新鮮な感性と実験・実習等を重視した体験学習により，豊かな創造力と行動力を養う。

③工学基礎及び専門基礎をしっかり身に付けさせ，広い専門的視野と総合的判断力を持たせる。

④自主的に思考し，学習し，行動する習慣を身に付けさせ，心身の健康維持，増進に努めさせる。

（出典　平成 23 年度新任教職員説明会パワーポイント）

資料１－２－①－４

「シラバスにおける教育目標の記載」

旭川工業高等専門学校(本科)の教育目標

① 人間形成に必要な一般教育科目をできるだけ幅広く展開し，豊かな教養と幅広い思考力を養う。また，外国語を鍛え，外国文化に対する理解力を養う。
② 若く新鮮な感性と実験･実習等を重視した体験学習により，豊かな創造力と行動力を養う。
③ 工学基礎及び専門基礎をしっかり身に付けさせ，広い専門的視野と総合的判断力を持たせる。
④ 自主的に思考し，学習し，行動する習慣を身に付けさせ，心身の健康維持，増進に努めさせる。

機械システム工学科の教育目標

機械システム工学科では，「機械工学に関する基礎的･専門的知識を身に付け，さらに，各々の技術要素を有機的に構成し，新たな社会構築に役立つシステムを創造していく能力を身に付けた，国際的視野を持った技術者」の育成を目指しており，以下の教育目標を掲げている。

① 機械工学に関する基礎的･専門的知識を身に付ける。
② 機械システムを創造する能力を身に付ける。
③ 課題の発見と問題解決のできる能力を身に付ける。
④ 社会環境との調和を多角的に考察できる能力を身に付ける。
⑤ 幅広い視野と豊かなコミュニケーション能力を身に付ける。

一般人文科の教育目標
一般理数科の教育目標
「環境･生産システム工学」教育プログラムの学習･教育目標

（出典　平成 23 年度機械システム工学科シラバス前書き）

資料１－２－①－５

専攻科案内パンフレットにおける教育目標の記載

専攻科の教育目標

本校専攻科は、社会を支える技術者を育成するため、高等専門学校における5年間の課程で培われた工学に関する知識・技術をより深く教授する。

各専攻の教育目標

生産システム工学専攻

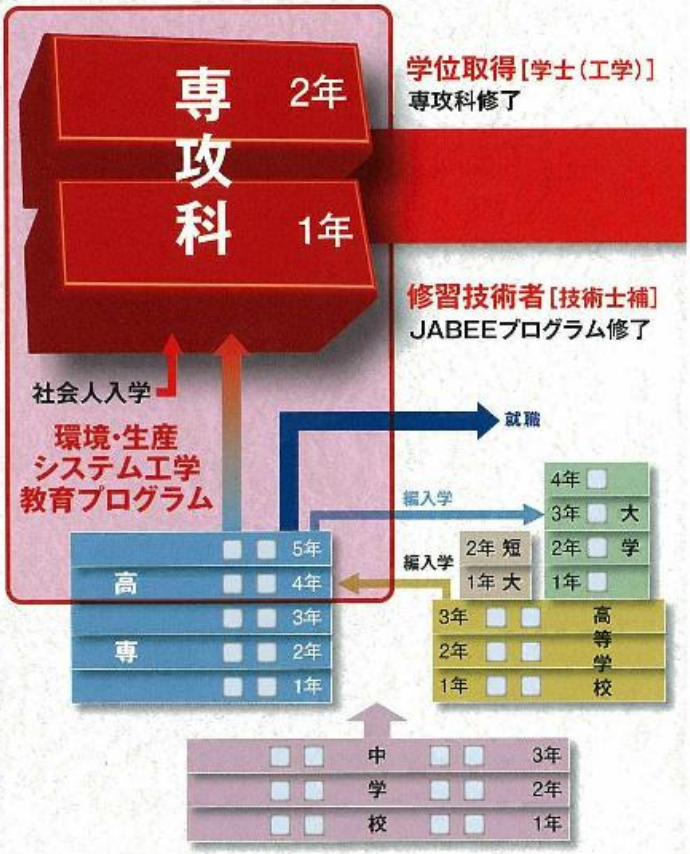
機械システム工学科、電気情報工学科及び制御情報工学科で教授した教育内容を基礎とし、それぞれの専門分野の技術が融合した境界領域分野の諸問題にも対応できるように教育課程を編成し、メカトロニクス、エレクトロニクス、コンピュータ応用等の技術が融合した生産システム分野において活躍できる、総合的能力を備えた技術者を育成する。

応用化学専攻

物質化学工学科で教授した教育内容を基礎とし、化学・バイオ関連産業における専門的な実務に携わることを前提とした教育課程を編成し、製品・技術の開発及びそれに伴う環境や社会への配慮等に柔軟に対応できる、総合的能力を備えた技術者を育成する。

本校の「環境・生産システム工学」教育プログラムが、JABEE認定プログラム［工学（融合複合・新領域）関連分野］として認定されています。
専攻科に入学した学生は、全員プログラムの履修者となり、専攻科修了とともにプログラムを修了し、登録すると技術士補の資格が得られます。

Accredited by JABEE Since 2004
環境・生産システム工学
JABEE認定技術者教育プログラム



「環境・生産システム工学」教育プログラム　学習・教育目標

A) 地域社会、産業社会の様々な要求に応える情報機器・分析機器を使いこなし、新しい技術に対応できる能力を持った技術者の育成。

B) つねに日本及び世界の歴史、文化を視野に収め、科学技術が社会や自然環境に及ぼす影響を考察し、その社会的責任を自覚する技術者倫理を持った技術者の育成。

C) 論理的思考に支えられた明晰な日本語によって記述し、発表する能力、学会等において討議できるコミュニケーション能力及び国際的な場でのプレゼンテーション等の基礎的コミュニケーション能力を持った技術者の育成。

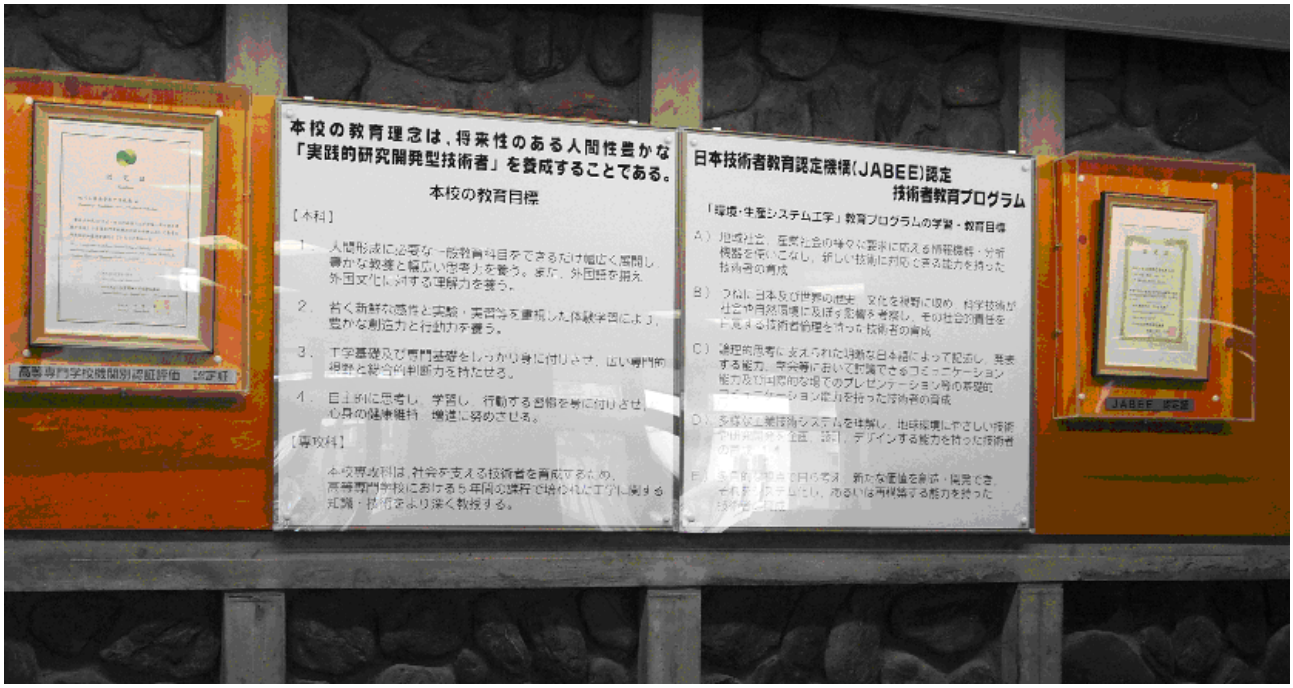
D) 多様な工業技術システムを理解し、地球環境にやさしい技術や研究開発を企画、設計、デザインする能力を持った技術者の育成。

E) 多角的視点で自ら考え、新たな価値を創造・開発でき、それをシステム化し、あるいは再構築する能力を持った技術者の育成。

（出典　2012 専攻科案内パンフレット）

資料１－２－①－６

「教育目標等の学生玄関掲示」



（出典　本校学生玄関掲示物）

資料１－２－①－７

「学科教育目標等の廊下掲示」



（出典　本校廊下掲示物）

資料１－２－①－８

「新入生オリエンテーション実施要領」

平成23年度新入生オリエンテーション（留学生含む）
実　施　要　領

日　時　　平成23年４月７日(木)　オリエンテーションⅠ　8：45～ 9：35
　　オリエンテーションⅡ　13：00～14：00
場　所　　オリエンテーションⅠ　階段教室（１組・２組），講義室１（３組・４組）
　　オリエンテーションⅡ　第２体育館

１　オリエンテーションⅠ

時　　間　　8：45～ 9：35
場　　所　　階段教室（１組・２組），講義室１（３組・４組）
出 席 者　　一般人文科長，一般理数科長，第１学年学級担任
次　　第　　一般人文科長・一般理数科長講話・説明
　　※一般人文科長　階段教室→講義室１
　　※一般理数科長　講義室１→階段教室
進　　行　　学年主任（鈴木）（１組・２組）
　　学級担任（青山）（３組・４組）
説明内容　　本校及び一般人文科・一般理数科の教育目標
　　主に学習面について
持参させるもの　　平成23年度学生生活のしおり
　　筆記用具
そ の 他　　①学科長講話については，後日，専門科目の授業時に行う（20分程度）。
　　日時は学年主任が学科長に確認する。
　　②オリエンテーション終了後，学級担任は，学生を引率してＨＲ教室へ戻り，
　　学生に椅子を持たせて第１体育館へ誘導する。（クラス写真撮影，対面式）

２　オリエンテーションⅡ

時　　間　　13：00～14：00
場　　所　　第２体育館
出 席 者　　教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，学生相談室長，
　　ｾｸｼｭｱﾙ･ﾊﾗｽﾒﾝﾄ相談室長，第１学年学級担任，学生課長，教務係長
次　　第　　教務主事講話　　（20分）
　　学生主事講話　　（15分）
　　寮務主事講話　　（10分）
　　専攻科長講話　　（ 5分）
　　学生相談室長講話　　（ 5分）
　　ｾｸｼｭｱﾙ･ﾊﾗｽﾒﾝﾄ相談室長講話（ 5分）
進　　行　　学生課長
持参させるもの　　平成23年度学生生活のしおり
　　筆記用具
そ の 他　　①学級担任は，学生に椅子を持たせて第２体育館へ誘導する。
　　※移動開始 12：50
　　②３年留学生も受講させる。当該学級担任は，開始時刻までに学生に椅子を
　　持たせて第２体育館へ誘導し，列の最後尾に着席させる。

（出典　H23 新入生オリエンテーション実施要領）

資料１－２－①－９

「平成２２年度認証評価基準に係わるアンケート調査結果（教育目標の認知度）」

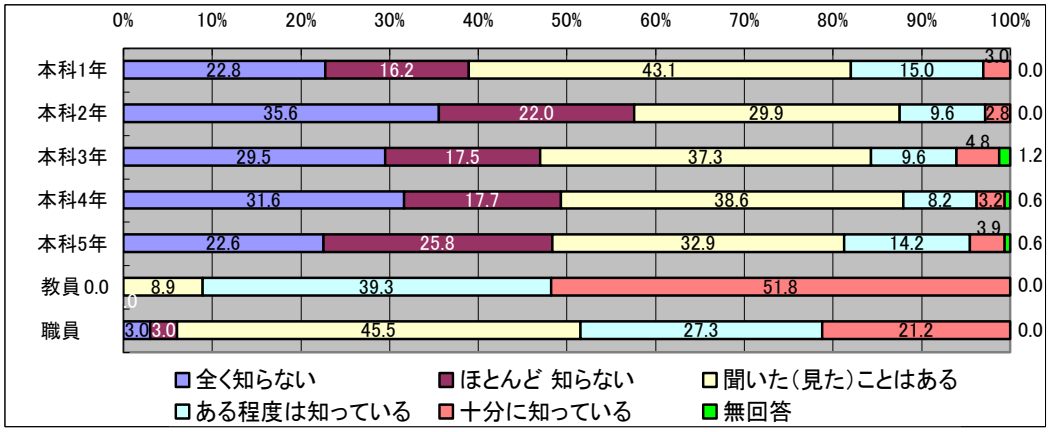
〔準学士課程〕

22年度認証評価基準に係るアンケート調査結果

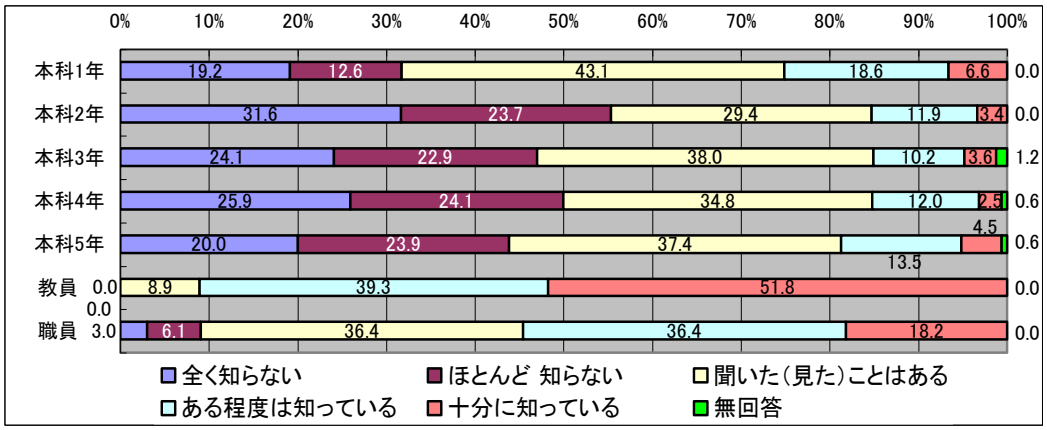
Ⅰ　教育目標の認知について

Q1　旭川工業高等専門学校（以下「本校」と称する）の目的は次のように定められていますが、本校の目的を知っていますか。

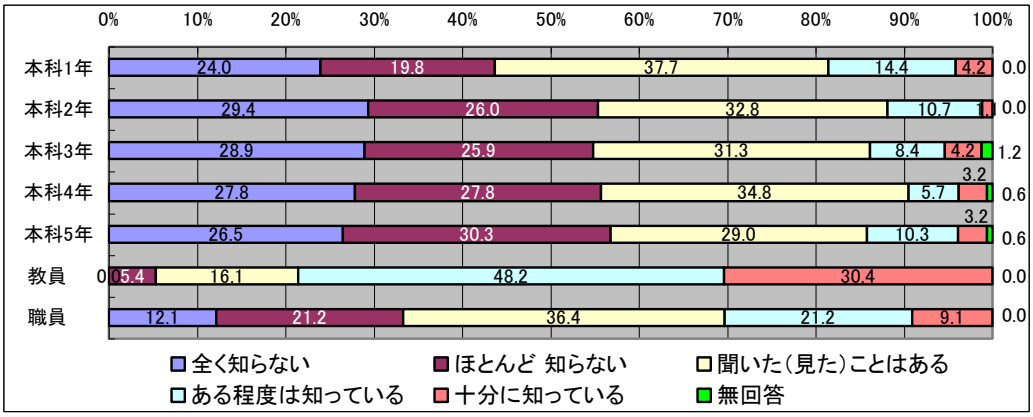
「旭川工業高等専門学校は、教育基本法の精神にのっとり、かつ、学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」（学生生活のしおり、学則第1条）



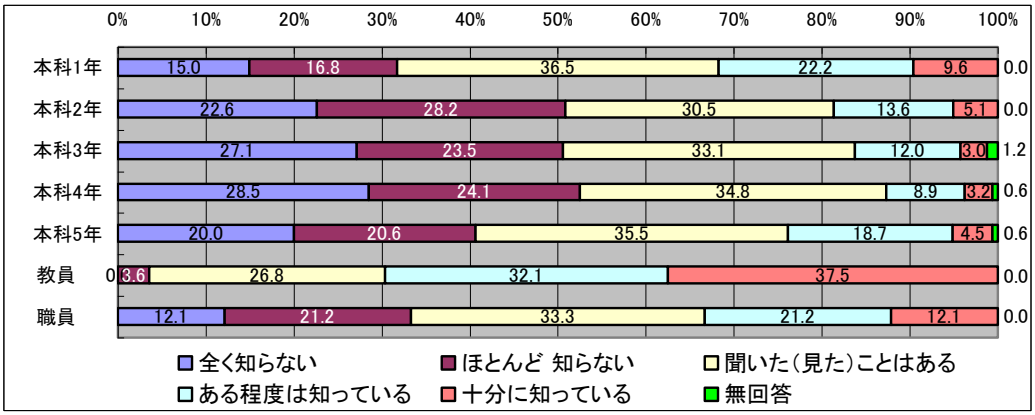
Q3　本校の教育目標は次のように定められ、学生玄関に掲示されていますが、本校の教育目標を知っていますか。
□
1.人間形成に必要な一般教育科目をできるだけ幅広く展開し、豊かな教養と幅広い思考力を養う。また、外国語を鍛え、外国文化に対する理解力を養う。
2.若く新鮮な感性と実験・実習等を重視した体験学習により、豊かな創造力と行動力を養う。
3.工学基礎を及び専門基礎をしっかり見に付けさせ、広い専門的視野と総合的判断力を持たせる。
4.自主的に思考し、学習し、行動する習慣を身に付けさせ、心身の健康維持、増進に努めさせる。



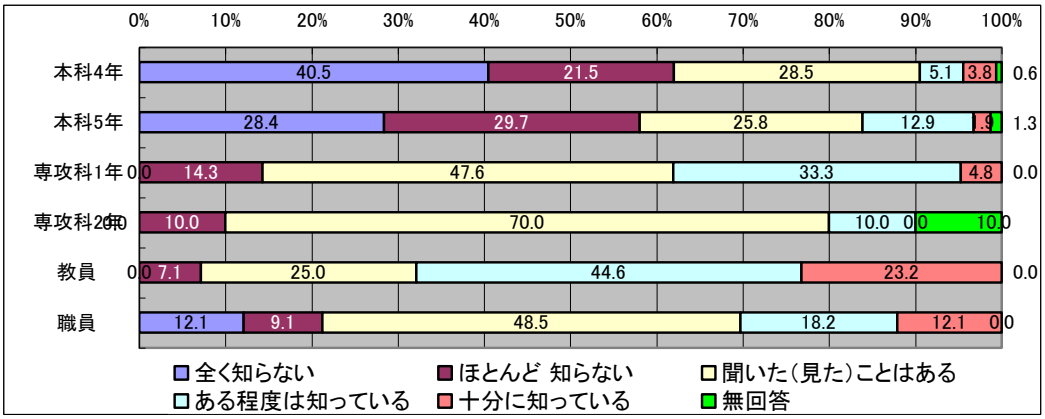
Q5　本校の準学士課程（本科1?5学年）における一般人文科及び一般理数科の教育目標は次のように定められ、校内に掲示されていますが、一般科の教育目標を知っていますか。



Q7　本校の準学士課程における各専門学科の教育目標は次のように定められ、校内に掲示されていますが、専門学科の教育目標を知っていますか（対象は所属学科み）。



Q9 本校の「環境・生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標は次のように定められ、学生玄関に掲示されていますが、学習・教育目標を知っていますか。



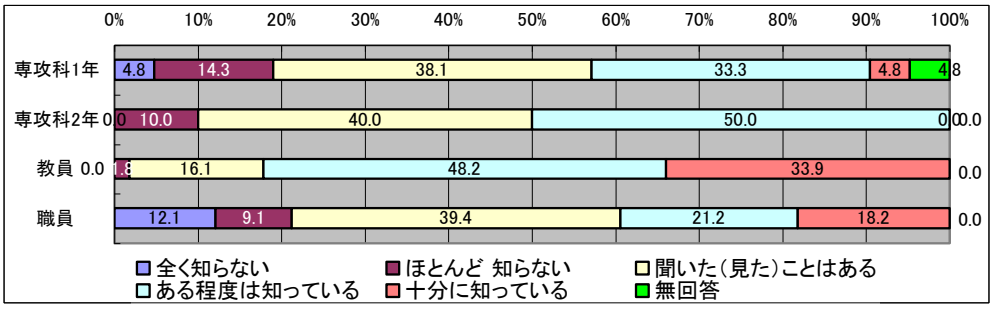
〔専攻科課程〕

Ⅰ　教育目標の認知について

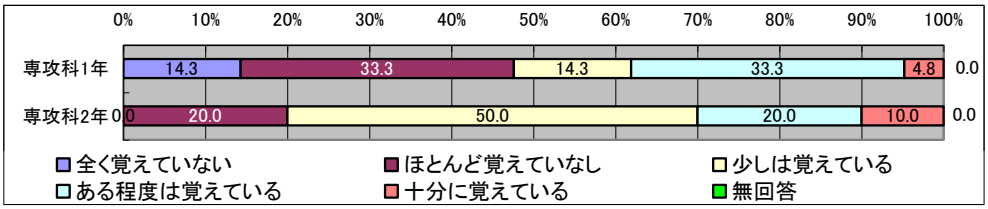
Q1　本校専攻科の目的は次のように定められていますが、知っていますか。

□

「専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、より深く高度な工業に関する専門知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。」（学生生活のしおり、学則第41条）

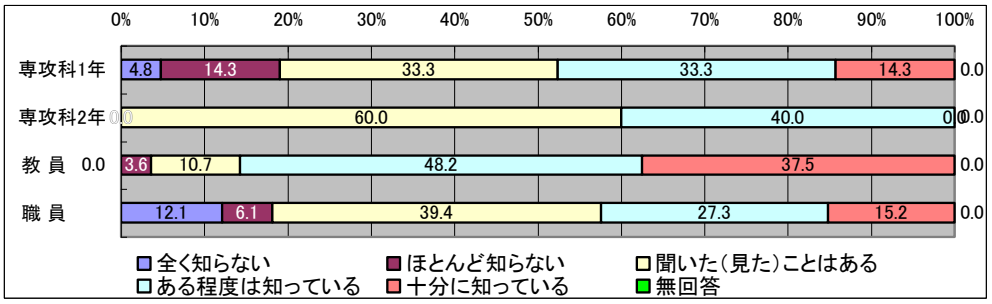


Q2　本校専攻科の目的について、文書等により説明を受けたことを覚えていますか。

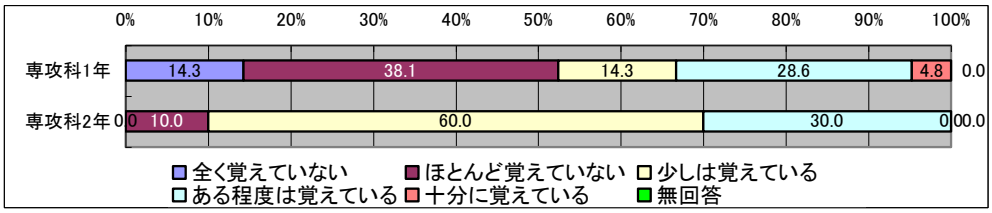


Q3　本校専攻科の教育目標は次のように定められていますが、知っていますか。

高等専門学校における5年間の課程で培われた工学に関する知識・技術の基礎をより深く学び、これからの社会を支える工業技術のスペシャリストの育成を支援する。



Q4　本校専攻科の教育目標について、文書等により説明を受けたことを覚えていますか。



Q5　本校専攻課程における各専攻の教育目標は次のように定められていますが、知っていますか。（対象は所属専攻のみ）

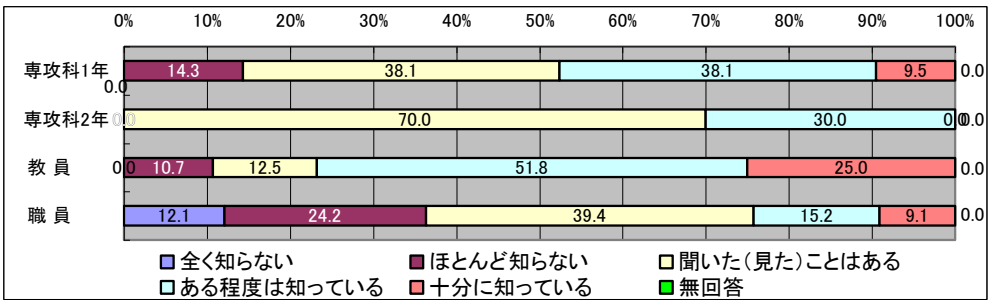
□

○生産システム工学専攻

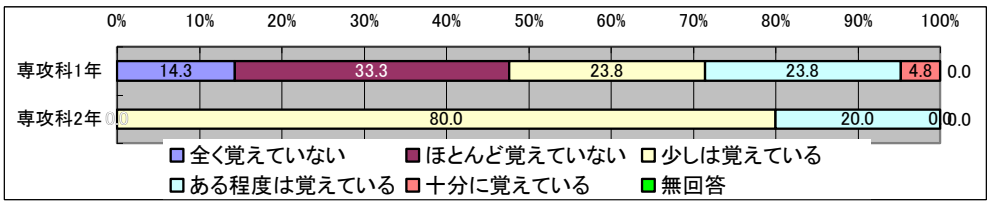
機械システム工学科、電気情報工学科及び制御情報工学科で修得した基礎学力をベースとして、それぞれの専門分野の技術が融合した境界領域分野の諸問題にも対応できるよう教育課程を編成し、コンピュータ利用・応用技術、エレクトロニクス技術、制御技術、情報技術等の技術が結集された生産システム分野において活躍できる、総合的研究開発能力を備えた技術者を育成する。

○応用化学専攻

物質化学工学科で習得した基本技術・知識をベースとして、材料化学、化学工学、バイオテクノロジー等に関係する広範な専門分野の諸問題（食糧問題、エネルギー問題、環境問題等）にも対応できるよう教育課程を編成し、地球環境にやさしい工業製品や新技術の研究・開発等に柔軟に対応することができる、創造性豊かな研究開発型の実践的技術者を育成する。



Q6　所属専攻の教育目標について、文書等により説明を受けたことを覚えていますか。



（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育理念及び教育目標については，教職員や学生に対し様々な印刷物の配布，説明会や掲示等によって周知を図っている。目的の周知度を測るアンケートの結果を見ると，教職員や専攻科課程の学生については，十分に周知されているといえる。準学士課程の学生については，半数程度の学生が「知っている」と答えている。

以上のことから，目的は，本校構成員におおむね周知されている。

観点１－２－②：　目的が，社会に広く公表されているか。

（観点に係る状況）

本校の教育理念，教育目標，育成する技術者像等々についての社会に対する公表実態については，本校ウェブサイトへの掲載（資料１－２－①－２（12ページに前出））とともに，学校要覧（資料１－２－①－１（11ページに前出））や学校案内（資料１－２－②－１）等の冊子に掲載し，これらを道内全域の中学校，関係機関へ配布している。また，旭川市内及び道内各地の進学説明会（資料１－２－②－２），本校における体験入学と同時に開催する進学説明会（資料１－２－②－３）あるいは中学校訪問（資料１－２－②－４），学習塾訪問（資料１－２－②－５），企業訪問時等の適切な機会を利用して配布し（資料１－２－②－６），入学者選抜委員会の委員を中心に口頭により説明している。

資料１－２－②－１

「学校案内における教育目標の記載」



（出典　学校案内 2011）

資料１－２－②－２

「進学説明会」

旭川高専進学説明会

平成 24 年度入学者募集に関する説明会を開催します。本校の内容，各学科の紹介などもいたしますので，中学生，保護者の方をはじめ，中学校の先生，学習塾の方など，どなたでもご興味のある方はぜひお集まりください。

★　旭川高専の特色　★

- 希望者の就職率はほぼ 100%！求人倍率は 17～22 倍（平成 22 年度）で，企業からの人気抜群！
- 進学希望者のほぼ 100%が現役で高専専攻科及び国立大学へ進学！進学実績にも自信あり！
- 恵まれた教育・研究環境と軽い経済負担！（１～３年生までは，「就学支援金」の対象です。）
- 専攻科で大学卒業者と同等の学士の学位を取得！
- ロボコン優勝・大賞３つ獲得に裏付けられる「ものづくり教育！」
- 教育の質は国際標準！（JABEE 認定校）

★　説明会開催日時・会場　★

開　催　日　時	会　　場
７月３０日(土)　①１０:３０～ ②１４:００～	**旭川工業高等専門学校** 旭川市春光台２条２丁目１番６号
７月３１日(日)　①１０:３０～ ②１４:００～	
９月　３日(土)　①１３:３０～ ②１４:３０～	**北海道大学工学部Ｂ棟講義室** **（道内国立高専合同入試説明会）** 札幌市北区北 13 条西８丁目
９月１０日(土)　１３:００～	**帯広市民文化ホール** 帯広市西５条南 11 丁目 48 番地２
９月１７日(土)　１３:００～	**旭川工業高等専門学校** 旭川市春光台２条２丁目１番６号
１０月　１日(土)　１３:００～	**北見芸術文化ホール『きた･アート 21』** 北見市泉町１丁目 2-22
１０月　２日(日)　１３:３０～	**永山住民センター** 旭川市永山７条４丁目
１０月　９日(日)　１３:３０～	**北海道教育大学札幌駅前サテライト** 札幌市中央区北５条西５丁目（SAPPORO55 ビル４階）
１０月１０日(月)　１０:００～	**北海道大学学術交流会館（道新進学フェア）** 札幌市北区北８条西８丁目
１０月１５日(土)　１１:００～	**旭川市科学館『サイパル』** 旭川市宮前通東
１０月２９日(土)　１０:３０～	**江別市野幌公民館** 江別市野幌町 13-6

お申込みは不要です。お気軽にご来場ください！

★　学校見学　★

ご連絡いただければいつでもご案内します。平日は授業の見学や食堂の利用もできます。
休日もご案内します。お気軽にお電話ください。

★　お問い合わせ先　★

旭川工業高等専門学校　学生課入学試験室
旭川市春光台２条２丁目１番６号
TEL 0166-55-8121　　e-mail g_nyushi@asahikawa-nct.ac.jp

（出典　本校ウェブサイト）

資料１－２－②－３

「体験入学開催時の進学説明会」

「2011 旭川高専体験入学--進学説明会同時開催--」実施要項（案）

１　目的

中学生を対象とした体験入学を実施することにより，理工系分野の魅力について理解を深めてもらう。特に，科学技術に関して実験実習や施設見学も通じて興味や関心を持てるように工夫することにより，理工系分野の学問の意味及び重要性を考え，将来の進路選択の一助とする。

また，進学説明会及び進学相談を併せて実施する。

２　日時

平成２３年７月３０日(土)・３１日(日)　10：30～16：20

（全体的なプログラムは 15：30 まで）

＊省略

別紙（実施要領）

１　体験入学

時　　間：１班 13：35～15：30　　２班 10：30～12：25

集合場所：講義室１

実施場所及び内容：

機械ｼｽﾃﾑ工学科　　機械創造演習室　「動くロボットを作って遊んでみよう」

電気情報工学科　　電気情報実験室

「電子工作とプログラミングで自在に光をだしてみよう！」

ｼｽﾃﾑ制御情報工学科　CAD/CAM 計算機室　「パソコンを使って設計図を書こう」

物質化学工学科　　生化学大実験室

「楽しい化学実験♪～色々なポリマーを使った実験～」

補助学生人数：機械ｼｽﾃﾑ工学科　６人，電気情報工学科　５人

ｼｽﾃﾑ制御情報工学科　８人，物質化学工学科　10 人

※寮の見学希望者を確認し，時間厳守で終了させること。

２　進学説明会

時　　間：１班 10：30～11：10　　２班 14：05～14：45

場　　所：階段教室

次　　第：（司会：学生課長）

校長挨拶（1 分）

本校の紹介及び募集要項等入試説明（30 分）

質疑応答（4 分）

配付資料：募集要項・学校案内・専攻科案内・アンケート用紙

（出典　学生課資料）

資料１－２－②－４

「中学校訪問」

月日	担当者 □	訪問地域	出発時間	訪				
8月25日(水)	篁	市内・鷹栖	9:00	9:30 東光	10:00 北都	10:30 明星	11:00 常盤	13:30
8月26日(木)	今野	美深・中川・幌延・豊富・稚内・ 猿払・浜頓別・枝幸	8:30	10:00 美深	11:30 中川 11:00希望	13:30 幌延問寒別	14:45 豊富	15:15
8月27日(金)			8:30	9:00 稚内	9:30 稚内南	10:00 稚内潮見が丘	10:30 稚内東	12:00
8月31日(火)	石井	三笠・赤平・芦別	8:30	10:30 三笠中央	11:00 三笠	13:30 赤平	14:00 赤平中央	14:45
9月 1日(水)	橋本	名寄・士別・剣淵・和寒・比布・ 当麻	8:30	10:00 名寄	11:00 名寄東	12:00 士別	13:30 士別南	14:00
9月 2日(木)	吉本	士別・下川・名寄・幌加内	8:30	9:30 士別朝日	10:30 下川	11:30 名寄智恵文	13:30 名寄風連	14:30
9月 3日(金)	津田	札幌	8:30	11:00 札幌東栄	11:30 札幌北辰	12:00 札幌明園	13:30 札幌元町	14:00
9月 4日(土)		※札幌		9:30 保護者懇談会	13:30 合同入試説明会			
9月 7日(火)	今野	美唄・滝川	8:30	10:00 美唄峰延	10:30 美唄	11:00 南美唄	11:30 美唄東	13:30
9月 8日(水)	津田	小樽・札幌	8:30	11:30 小樽塩谷	12:00 小樽長橋	13:30 小樽北山	14:00 小樽末広	14:30
9月 9日(木)			8:30	9:30 小樽潮見台	10:00 小樽桜町	10:30 小樽望洋台	11:00 小樽朝里	11:45
9月10日(金)	津田	新得・音更・帯広	8:30	11:30 新得	12:00 新得屈足	14:00 音更	14:30 音更共栄	15:00
9月11日(土)		※帯広		10:00 保護者懇談会	13:00 進学説明会			
9月14日(火)	長岡	南富良野・富良野・中富良野	8:30	10:30 南富良野	11:30 富良野山部	12:00 富良野布部	13:30 富良野布礼別 麓郷から変更	14:30
9月15日(水)	今野	市内	9:00	9:30 嵐山	10:00 忠和	10:30 神楽	11:00 東明	11:30
9月16日(木)	津田	鹿追・士幌・上士幌・足寄 池田・幕別・帯広	8:30	11:30 上士幌	12:00 士幌町中央	13:30 鹿追瓜幕	14:00 鹿追	15:30
9月17日(金)			9:00	9:30 幕別札内	10:00 帯広第六	10:30 帯広第三	11:00 帯広第四	11:30
9月18日(土)	津田	旭川高専		13:00 進学説明会				
9月30日(木)	古崎	江別	8:40	10:30 江別大麻東	11:00 江別大麻	11:30 江別野幌	12:00 江別第二	13:30
10月 1日(金)	津田	北見	8:30	9:30 上川	10:30 遠軽白滝	11:30 丸瀬布	13:30 遠軽	14:00
10月 2日(土)		※北見		10:00 保護者懇談会	13:15 進学説明会			
10月 3日(日)	津田	※旭川永山		13:00 進学説明会				
10月 5日(火)	今野	岩見沢	8:30	10:00 岩見沢豊	10:30 岩見沢上幌向	11:30 岩見沢清園	12:00 岩見沢光陵	13:30
10月 6日(水)	篁	中富良野・上富良野・美瑛・東神楽・東川	8:45	10:00 上富良野東中	10:30 上富良野	11:15 美瑛美馬牛	12:00 美瑛	13:30
10月 8日(金)	津田	日高・鵡川・厚真・安平	8:30	11:30 日高門別	12:00 日高富川	13:30 鵡川	14:15 厚真厚南	15:00
10月 9日(土)		※江別		13:00 進学説明会				
10月12日(火)	冨永	奈井江・岩見沢・新篠津・ 当別・石狩・札幌	8:45	9:30 奈井江	10:30 岩見沢北村	11:00 新篠津	11:45 当別	13:30
10月13日(水)	津田	上川・滝上・紋別・興部・西興部 雄武・湧別・佐呂間・北見・ 網走・遠軽	8:50	9:30 愛別	11:00 滝上	11:30 紋別上渚滑	13:30 興部	14:30
10月14日(木)			8:30	9:30 興部沙留	10:15 渚滑	10:45 紋別潮見	11:15 紋別	13:30
10月15日(金)			8:30	9:30 網走第四	10:15 網走第三	10:45 網走第一	11:15 網走第二	12:00
10月18日(月)	津田	占冠・清水・芽室・帯広 更別・中札内	8:30	11:30 占冠	13:30 占冠トマム	14:30 清水	15:15 芽室西	15:45
10月19日(火)			8:30	9:30 更別中央	10:00 中札内	10:45 帯広清川	11:30 帯広第七	12:00

資料１－２－②－５

「学校案内配布学習塾の一部」

	学習塾
1	旭川練成会
2	秀英予備校旭川本部校
3	たいせつゼミ
4	ニスコ進学スクール旭川本部
5	北大学力増進会旭川本部
6	ITS進学センター旭川運営本部
7	旭川大町学習塾
8	旭川学習館
9	株式会社栄進ゼミナール出版旭川支店
10	エミール学習塾
11	MPSリベラ
12	開成塾
13	開明塾
14	楽集館
15	学研教室　北海道事務局旭川分局
16	旭進学院
17	KUMON旭川事務局
18	慶応學舎
19	慶学館旭川運営本部
20	光星進学館
21	ジー・エム・シー学習塾
22	志学館
23	智望塾
24	ひかり総合教育本部
25	古川塾
26	フレンド学習塾
27	学びの森
28	学舎

（出典　学生課資料）

資料１－２－②－６

「学校要覧配布先」

配　付　先	部数	備考
文部科学省高等教育局専門教育課	1	
国立高等専門学校機構	1	
名誉教授	35	
学内（教職員等）	107	※1
来校者	150	（学生課・総務課各 75 部）
産学連携関係PR用	215	
企業訪問（学生係）	100	
運営懇話会，後援会等（総務係）	75	
教職員採用（人事・労務係）	160	
予備	56	
計	900	

※１　（内　　訳）

教員	６３
職員	４０
図書館	1
情報処理ｾﾝﾀｰ	1
地域共同ﾃｸﾉｾﾝﾀｰ	1
学生相談室	1

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育理念・教育目標の公表は，ウェブサイトに掲載しているほか，学校要覧および学校案内に掲載しており，中学校・企業等に対して，訪問時の説明や印刷物の配布の手段をとっている。

以上のことから，本校の目的は，社会に対して十分に公表・周知されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・　本校の教育理念や教育目標を学生玄関に，また，各学科の教育目標や特徴を廊下に掲示することにより，目的の周知に積極的に取り組んでいる。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準１の自己評価の概要

本校の目的・社会的使命として，教育理念に基づいた教育目標が準学士課程及び専攻科課程の各学科（科），専攻それぞれについて定められている。また，技術者教育プログラムとしてJABEE の認定を受けた「環境・生産システム工学」教育プログラムにおいても学習・教育目標が明確に定められている。これらは，本校において準学士課程及び専攻科課程の５年間又は７年間の教育を受けた学生が，それぞれの専門分野において有能な技術者として活躍ができるために習得すべき技術・知識を示したものである。以上の内容は，学校教育法第 115 条に規定された高等専門学校一般に求められる目的に適合している。

これらの目的は，学校要覧，学生生活のしおり，学校案内あるいはシラバス等々の各種資料に記載されており，学生生活のしおりやシラバスを全教職員及び全学生に配布するとともに，学生に対しては，入学直後のオリエンテーション時，あるいは年度初めの始業式等において周知している。

一方，これらの目的は，本校ウェブサイトへの掲載を始めとし，学校要覧，学校案内，専攻科パンフレット等に掲載し，学生募集活動の一環としての中学校訪問，旭川市内及び道内各地における入試説明会あるいは進学説明会等のあらゆる機会を利用して，中学生，保護者，中学校教員及び企業関係者に対して配布・説明し，周知徹底を図っている。

基準２　教育組織（実施体制）

（１）観点ごとの分析

観点２－１－①：　学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校は，卒業生が産業社会の広範な分野において活躍できるように，工業の広い分野をカバーする基盤的な学科である機械システム工学科，電気情報工学科，システム制御情報工学科，物質化学工学科の４学科で構成・整備されており（資料２－１－①－１），各学科の教育上の目的が定められている（資料２－１－①－２）。なお，システム制御情報工学科は，平成 23 年度に制御情報工学科から名称変更されている（資料２－１－①－３）。

これらの準学士課程の構成については，高度情報化が著しく進展する産業社会において，それぞれの技術分野で要求される技術内容・レベル及び技術者像の変遷に対応して学科の分離・改組，名称変更，教育課程の見直し・改編等が適宜行われ現在に至っている（資料２－１－①－４）。

資料２－１－①－１

「学科の構成」

第７条　学科，学級数及び入学定員は，次のとおりとする。

学　　科	学　級　数	入学定員
機械システム工学科	１	４０人
電気情報工学科	１	４０人
システム制御情報工学科	１	４０人
物質化学工学科	１	４０人

（出典　旭川工業高等専門学校学則）

資料２－１－①－２

「学則に記載された各学科の教育上の目的」

第７条の２　各学科の教育上の目的は，次のとおりとする。

(1) 機械システム工学科は，機械工学に関する基礎的・専門的知識を身に付け，さらに，それぞれの技術要素を有機的に構成し，新たな社会構築に役立つシステムを創造していく能力を身に付けた，国際的視野を持った技術者を育成することを目的とする。

(2) 電気情報工学科は，電気・電子工学及び情報工学に関する基礎的・専門的知識を身に付け，さらに，創造力，柔軟な思考力，情報化社会におけるモラル及びコミュニケーション能力を身に付けた，国際的視野を持った技術者を育成することを目的とする。

(3) システム制御情報工学科は，情報技術，機械工学及び電気・電子工学に関する基礎的・専門的知識を身に付け，それぞれの専門分野の技術が融合されたシステムの技術に対応できる，国際的視野を持った技術者を育成することを目的とする。

(4) 物質化学工学科は，化学及び生物分野に関する基礎的・専門的知識を身に付け，科学技術が自然環境に与える影響を自覚して社会全体の諸問題に対応できる，国際的視野を持った技術者を育成することを目的とする。

（出典　旭川工業高等専門学校学則）

資料２－１－①－３

「制御情報工学科名称変更説明資料」

〔説明用資料〕

平成２２年８月２０日

○学科名が変わります

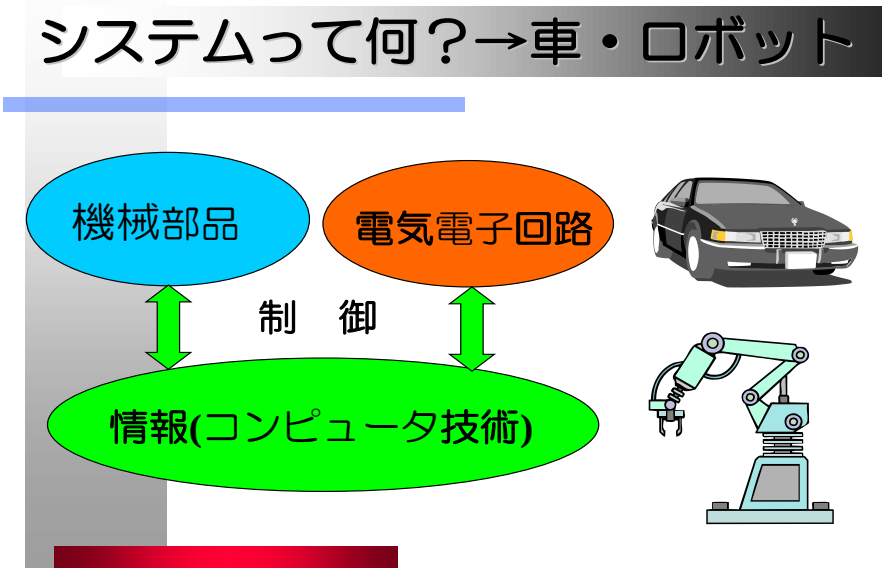
「制御情報工学科」 → 「システム制御情報工学科」

（１） 名称変更の必要性

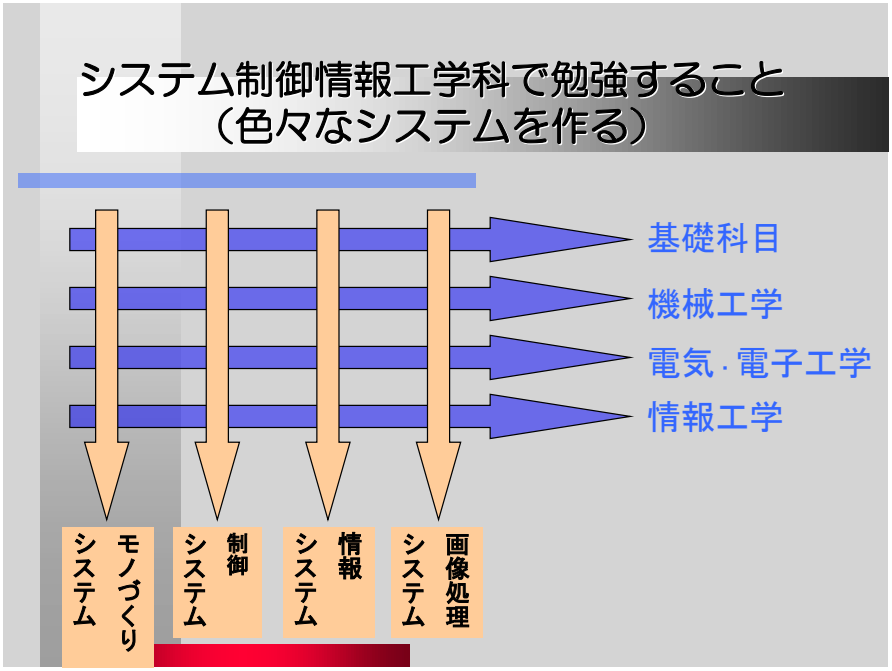
制御情報工学科の名称変更にあたって，本校の在学生（1～5 年生）212 名（回答 196 名）に対してアンケートを行った結果，在学生の約７割の学生が入学前の学科名称から受けるイメージと実際の学習内容とが違うという感想を持っていたことが明らかとなった。具体的にどのような違いを感じたかについては，情報系の授業が主と思っていた学生が１８%，工作実習や手書き製図があると思わなかった学生が３１%と圧倒的に多くを占めている。

制御情報工学科の教育内容については，学校説明会や中学校訪問等の折に触れて，中学生（中学校）や保護者など外部に対して，「コンピュータ応用技術，機械工学，電気・電子工学の基礎とそれら異種技術の融合分野の教育を行う学科」であると説明してきたが，これだけ多くの在学生が実際とは異なるイメージを持っていたのは，学科名やパンフレットのイメージが中学生に与える影響が大きいことを示している。

本校としては，学生による上記アンケート結果を踏まえ，制御情報工学科が広い分野について学ぶ学科であることを正確に伝えるために，学科名を教育内容がより的確に表現できる「システム制御情報工学科」に改め，学生がイメージと異なるといった問題点の解消を図る。名称変更については，在学生の８割，企業の大部分が変更には抵抗がないという結果が出ており，学科名称を「システム制御情報工学科」へ変更することによる混乱はないと考える。



（２）カリキュラム改正の概要



新しいカリキュラムでは，「コンピュータ応用技術，機械工学，電気・電子工学及びそれらの融合領域にわたる広い分野について教育する」という制御情報工学科の基本的な性格は維持しながら，複数のシステムについて学ぶことを目標とし，各システムの構築に必要な知識を修得するために専門科目を新設あるいは改正する。新しい分野としては，広い応用分野を持つ「画像・計測システム」を導入する。

●画像処理に関わる教科として，画像・信号処理を新設する。
●様々な分野のシステム作りに対応できるよう，主にコンピュータ応用技術関連の科目を改正して各学年に配置する。
●システム作りに関連した選択科目も４科目新設する。
●１年生から３年生まで行われていた実習系科目の内，１年生の工作実習を廃止して２・３年生の２年間に実習内容を圧縮し，４年生で創造工学を新設。
●１年生の工作実習の代わりには，数学・物理の基礎演習を行う科目として，工学基礎演習Ⅰを新設し，２年生の工学基礎演習Ⅱと合わせて基礎学力の底上げを計る。

（出典　平成22年度中学校訪問配布資料）

資料２－１－①－４

「本校の歴史」

更新日:2011/04/01

沿革

昭和３７年	１月１０日	旭川市に工業高等専門学校設置決定
	２月２４日 ・２５日	昭和 37 年度入学者選抜試験実施
	４月　１日	昭和 37 年３月 29 日法律第 36 号により国立学校設置法の一部を改正する法律が公布され，旭川工業高等専門学校が設置された
		機械工学科２学級（入学定員 80 名），電気工学科１学級（入学定員 40 名）
昭和41年	４月　１日	工業化学科1学級(入学定員 40 名)が設置された
	10月15日	有田喜一文部大臣本校視察
	12月11日	武道場新営工事竣工
昭和63年	４月　１日	機械工学科2学級を機械工学科1学級(入学定員 40 名)と制御情報工学科1学級(入学定員 40 名)に改組
平成10年	４月　１日	工業化学科を物質化学工学科に改組
平成11年	４月　１日	専攻科(生産システム工学専攻(入学定員 12 名),応用化学専攻(入学定員 4 名))が設置
	４月12日	第１回専攻科入学式挙行
	６月18日	専攻科設置記念式典挙行
平成15年	４月　１日	電気工学科を電気情報工学科に名称変更
平成16年	４月　１日	国立学校設置法(昭和 24 年法律第 150 号)が廃止され，旭川工業高等専門学校は独立行政法人国立高等専門学校機構法(平成 15 年法律第 113 号)に基づき，独立行政法人国立高等専門学校機構旭川工業高等専門学校となった
		機械工学科を機械システム工学科に名称変更
平成17年	３月25日	寄宿舎第二棟改築工事(女子寮)竣工
	５月12日	「環境・生産システム工学」教育プログラムがJABEE(日本技術者教育認定機構)の認定を受ける
平成23年	４月　１日	制御情報工学科をシステム制御情報工学科に名称変更

（出典　本校ウェブサイト抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

広範な技術分野にまたがる産業社会において活躍できる技術者を育てるために，準学士課程は工学の基幹分野をカバーする四つの専門学科で構成されている。これらの学科構成は，社会の変化，あるいは社会から要請される技術者像の変化に対応して教育内容等の不断の見直しを行ってきている。

以上のことから，学科構成は非常にバランスがとれており，教育目標を達成する上で適切なものである。

観点２－１－②：　専攻科を設置している場合には，専攻科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校の専攻科課程は，「社会を支える技術者を育成するため，準学士課程における５年間の課程を基礎とし，工学に関する技術・知識をより深く教授する」ことを目的として教育課程が編成されている（資料２－１－②－１）。専攻科課程は，準学士課程の３専門学科（機械システム工学科，電気情報工学科，システム制御情報工学科（制御情報工学科））を基盤とした複合型専攻である生産システム工学専攻と，物質化学工学科を基盤とした単独専攻である応用化学専攻の２専攻から構成されており（資料２－１－②－２），各専攻の教育目標が定められている（資料２－１－②－３）。

本校専攻科の「環境・生産システム工学」教育プログラムは，JABEEの「工学(融合複合・新領域)関連分野」として認定されており（資料２－１－②－４），専攻科入学生は，全員本プログラムの履修者となる。

資料２－１－②－１

「専攻科規定に関する学則」

第８章　専攻科

第４０条　本校に，専攻科を置く。
第４１条　専攻科は，高等専門学校における教育の基礎の上に，より深く高度な工業に関する専門的知識及び技術を教授し，その研究を指導することを目的とする。
第４２条　専攻科の専攻及び入学定員は，次のとおりとする。

専　　攻	入学定員
生産システム工学専攻	１２人
応 用 化 学 専 攻	４人

（出典　旭川工業高等専門学校学則）

資料２－１－②－２

「専攻科の構成」



（出典　平成22年度学校要覧　Ｐ．22～23）

資料２－１－②－３

「各専攻の教育目標」

生産システム工学専攻

機械システム工学科，電気情報工学科及び制御情報工学科で教授した教育内容を基礎とし，それぞれの専門分野の技術が融合した境界領域分野の諸問題にも対応できるように教育課程を編成し，メカトロニクス，エレクトロニクス，コンピュータ応用等の技術が融合した生産システム分野において活躍できる，総合的能力を備えた技術者を育成する。

応用化学専攻

物質化学工学科で教授した教育内容を基礎とし，化学・バイオ関連産業における専門的な実務に携わることを前提とした教育課程を編成し，製品・技術の開発及びそれに伴う環境や社会への配慮等に柔軟に対応できる，総合的能力を備えた技術者を育成する。

（出典　平成23年度学生生活のしおり　前書き）

資料２－１－②－４

「専攻科教育プログラム」

技術者教育プログラム
Engineering Education Program

旭川高専専攻科「環境・生産システム工学」教育プログラム
The Education Program of the Advanced Course of Environment and Production System Engineering

本校では,国際的な工学教育の水準を満たし,21世紀の社会に貢献できる能力を持った技術者を育成するため,大学の学部レベルに相当する本科第4学年から専攻科第2学年までの4年間のカリキュラムで構成される「環境・生産システム工学」教育プログラムを設けています。

この教育プログラムは,2005年5月に工学(融合複合・新領域)関連分野でJABEE(日本技術者教育認定機構)の認定を受けており,名実ともに大学と同格であることが認められています。

Asahikawa National College of Technology has an engineering education program named "Environment and Production System Engineering". Four year Curricula in the programme are given to 4th and 5th grade students of the regular course and 1st and 2nd grade students of the advanced course, in order to grow them into engineers who are able to contribute to the development of international society in 21st century.

In May of 2005, Japan Accreditation Board for Engineering Education (JABEE) accredited that the program satisfies internally standardized criteria in the engineering-related, multidisciplinary field and offers equal quality of education with universities.


認定証

認定証 certificate

（出典　平成22年度学校要覧Ｐ．３）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科課程においては，準学士課程の４専門学科での教育を基礎に，融合技術分野と，より専門化された技術分野への対応が可能な技術者の育成を目指した２専攻が設置されている。

以上のことから，その構成は，本校の教育目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点２－１－③：　全学的なセンター等を設置している場合には，それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

教育の目的を達成するための全学的な組織として，技術創造部，情報処理センター，地域共同テクノセンターを設置している。

１）技術創造部

体験型学習の技術的な支援を行う技術創造部は，平成21年度に技術室を改組して設置され，その組織や運営規則が整備された（資料２－１－③－１，資料２－１－③－２）。本組織は，実験・実習教育の実践，卒業研究や専攻科特別研究における実験装置等の製作や技術指導等の場として，技術職員による教育指導・支援体制が確立している。また，地域連携の一環として公開講座を開催したり，技術の高度化やより広い分野の技術習得等を目的として様々な研修活動を行っており（資料２－１－③－３），毎年発表報告会によってその成果を公表している（資料２－１－③－４）。

資料２－１－③－１

「旭川工業高等専門学校技術創造部組織規程」

（平成２１・２・１２　達第９号）

旭川工業高等専門学校技術創造部組織規程

（設置）

第１条　旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）に独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第１２条の規定に基づき，旭川工業高等専門学校技術創造部(以下「技術創造部」という。)を置く。

（目的）

第２条　技術創造部は，本校技術職員の技術に関する専門的業務を組織的かつ効率的に行うとともに，その職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り，もって本校の教育研究支援体制の充実に資することを目的とする。

（組織）

第３条　技術創造部に，次に掲げる職員を置く。

(1) 技術創造部長

(2) 技術長

(3) 技術専門職員

(4) 技術職員（建物及び施設の営繕，保守並びに管理に関する事務を担当する技術職員その他これに準ずる技術職員を除く。）

２　前項に規定するもののほか，技術創造部に，技術専門員，技術長補佐，グループ長を置くことができる。

３　技術創造部に次のグループを置く。

(1) 基盤技術グループ

(2) 教育研究グループ

(3) 創造開発グループ

４　第１項及び第２項に掲げる職員は，校長が任命する。

５　技術創造部は，各業務支援先に所属の職員（技術創造部長を除く。）を派遣して，業務を行わせるものとする。

（技術創造部長）

第４条　技術創造部長は，副校長をもって充てる。

２　技術創造部長は，上司の命を受け，技術創造部の業務を掌理し，所属の職員を指揮・監督する。

（技術長）

第５条　技術長は，上司の命を受け，技術専門員，技術専門職員及び技術職員の業務を統括する。

（技術専門員）

第６条　技術専門員は，上司の命を受け，極めて高度の専門的な技術をもって，技術に従事する。

（技術専門職員）

第７条　技術専門職員は，上司の命を受け，高度の専門的な技術をもって，技術に従事する。

（技術職員）

第８条　技術職員は，上司の命を受け，所掌の業務に従事する。

（技術長補佐）

第９条　技術長補佐は，上司の命を受け，技術長を補佐し，技術創造部の業務を整理する。

（グループ長）

第１０条　グループ長は，技術専門職員をもって充てる。

２　グループ長は，上司の命を受け，当該グループの業務を掌理する。

（業務等）

第１１条　技術創造部は，次に掲げる業務を行う。

(1) 本科及び専攻科の教育・研究にかかる技術支援に関すること。

(2) 学生の実験・実習・演習等の技術指導及び安全管理に関すること。

(3) 実習工場，地域共同テクノセンター，その他学内共同利用施設等の教育・研究及び管理・運用並びに企業等と共同で行う事業等の支援に関すること。

(4) 技術資料の作成及び保管並びに提供に関すること。

(5) その他技術創造部に必要な業務に関すること。

２　技術創造部の各グループは前項に規定するもののほか，次に掲げる業務を分掌する。

(1) 基盤技術グループ
　イ　技術創造部の管理運営に関すること。
　ロ　グループ間の連絡調整に関すること。
　ハ　技術創造部の業務計画の運営及び予算執行に関すること。
　ニ　技術創造部運営委員会の庶務に関すること。
　ホ　その他基盤技術グループに関すること。
(2) 教育研究グループ
　イ　教育研究支援のための技術開発及び技術業務に関すること。
　ロ　実験・実習・演習等実施計画の策定に関すること。
　ハ　機械設備計画及び維持管理に関すること。
　ニ　共通機器等の保守・管理に関すること。
　ホ　その他教育研究グループに関すること。
(3) 創造開発グループ
　イ　共同研究，地域連携業務及び公開講座の実施等に伴う技術支援に関すること。
　ロ　技術研修，技術発表会等の企画，実施等に関すること。
　ハ　技術開発に関すること。（教育研究グループの所掌に属するものを除く。）
　ニ　技術の改善，継承及び保存に関すること。
　ホ　その他創造開発グループに関すること。
（技術創造部運営委員会）
第１２条　技術創造部に，技術創造部の組織的かつ効率的な運営を図るため，旭川工業高等専門学校技術創造部運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
２　委員会の庶務は，技術創造部において処理する。
３　委員会の組織及び運営に関し必要な事項は，別に定める。
（雑則）
第１３条　この規程に定めるもののほか，技術創造部の組織等に関し必要な事項は，別に定める。

（出典　旭川工業高等専門学校技術創造部組織規程）

資料２－１－③－２

「旭川工業高等専門学校技術創造部運営委員会規程」

（平成２１・２・１２　達第１０号）

旭川工業高等専門学校技術創造部運営委員会規程

（趣旨）
第１条　この規程は，旭川工業高等専門学校技術創造部組織規程第１２条第３項の規定に基づき，技術創造部運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し，必要な事項を定めるものとする。
（審議事項）
第２条　委員会は，次に掲げる事項を審議する。
(1) 技術創造部の管理運営における重要事項に関すること。
(2) 技術創造部の業務計画の策定に関すること。
(3) 技術創造部の予算執行計画の策定に関すること。
(4) 技術創造部の点検・評価に関すること。
(5) 教育効果向上のための施策に関すること。
(6) その他技術創造部の重要事項に関すること。
（組織）
第３条　委員会は，次に掲げる委員をもって組織する。
(1) 技術創造部長
(2) 教務主事
(3) 専攻科長
(4) 各学科及び科のうちから各１名

(5) 事務部長
(6) 技術長
(7) その他校長が必要と認めた者
２ 前項に掲げる委員は，校長が任命する。
（任期）
第４条　前条第１項第４号及び第７号に掲げる委員の任期は，２年とし，再任を妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第５条　委員会に委員長を置き，技術創造部長をもって充てる。
２　委員長は，委員会を招集して議長となる。
３　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
（専門部会）
第６条　委員会に，技術創造部の業務を円滑に遂行するため，技術創造部技術専門部会（以下「専門部会」という。）を置き，次に掲げる事項を審議する。
(1) 技術創造部の業務計画の実行に関すること。
(2) 技術創造部の予算執行に関すること。
(3) 業務支援先の決定に関すること。
(4) その他技術創造部に必要な具体的方策に関すること。
２　専門部会は，次に掲げる者をもって組織する。
(1) 技術長
(2) 技術長補佐
(3) グループ長
３　専門部会に部会長を置き，技術長をもって充てる。
４　部会長は，専門部会を招集して議長となる。
５　部会長に事故があるときは，あらかじめ部会長が指名した部会員がその職務を代行する。
（庶務）
第７条　委員会及び専門部会の庶務は，技術創造部において処理する。
（雑則）
第８条　この規程に定めるもののほか，委員会及び専門部会の運営に関し必要な事項は，委員会及び専門部会が別に定める。

（出典　旭川工業高等専門学校技術創造部運営委員会規程）

資料２－１－③－３

「技術創造部業務内容」

技術創造部

技術創造部の主な業務は，「実習・実験」，「卒業研究・特別研究」等の学生への技術指導や，「教員研究」等への技術支援です．研修では，技術の継承や専門以外での知識を身につけるための「技術職員研修」や，各技術職員が一年間の業務実績等を学内の教職員に対し発表する「発表報告会」，北海道内四高専での各校の活動報告や，協議題・承合事項などを話し合う「技術職員 SD 研修会」などを行っています．また，地域連携の一環として一般向けの溶接入門講座や，小中学生を対象とした公開講座などを行っています．

技術指導・技術

- 実習，実験
- 卒業研究，特別研究
- 教員研究，実験装置製作
- ロボットコンテスト



機械製作実習



卒業研究

研　修

- 技術職員研修
- 発表報告会
- 学外研究会発表
- 各種セミナー，研修会への参加



発表報告会



技術職員 SD 研修会

地域連携

- 公開講座
- 体験入学
- ものづくり人材育成講座



公開講座（溶接）



公開講座（鋳造）

（出典　平成 23 年度学校要覧）

「技術創造部発表報告会」　資料２－１－③－４

平成 22 年度（第 2 回）技術創造部発表報告会開催要項

開催日：平成 23 年 3 月 15 日（火）
開催場所：3 F 階段教室
開催時間：13 時 30 分～16 時 30 分

発表者　技術長　：山内　広也
技術長補佐　：三田村　均
基盤技術グループ：館田　尚弘，小林　一誠
教育研究グループ：小牧　悟，佐藤　陽亮，鈴木　利結樹
創造開発グループ：江口　篤史，川江　修，舟木　聡

司会進行
創造開発グループ：江口，川江，舟木

タイムスケジュール		座長
13:30	開会の挨拶 校長　高橋　英明	江口
13:35 ～45	山内　広也　技術長 「平成 22 年度技術創造部活動報告」	川江
13:45 ～50	質疑応答：3 分　準備：2 分	
13:50 ～00	江口篤史　創造開発グループ長　技術専門職員 「平成 22 年度公開講座の実施報告」	
14:00 ～05	質疑応答：3 分　準備：2 分	
14:05 ～15	佐藤陽亮　教育研究グループ　技術専門職員 「平成 22 年度　研究成果と発表報告」	
14:15 ～20	質疑応答：3 分　準備：2 分	
14:20 ～30	三田村　均　技術長補佐 「高周波溶解炉導入報告」	
14:30 ～35	質疑応答：3 分　準備：2 分	

（出典　平成22年度技術創造部技術職員報告会要項）

２）情報処理センター

情報処理センターには，教育用としてセンター端末室，マルチメディア実習室，情報処理演習室があり，コンピュータ・リテラシー，情報処理関連専門科目の教育の他，学生実験，学生のレポート作成，インターネットによる情報収集などに利用されている（資料２－１－③－５）。

情報処理センターは，これら情報教育に係わる支援以外に，学内ネットワークシステムの管理運営を行っている（資料２－１－③－６）。また，マルチメディア実習室については，自学自習のために19時まで利用することができる（資料２－１－③－７）。

資料２－１－③－５

「情報処理センター利用状況」

H23前期　利用クラス　時間割

		月			火			水			木		
		センター	マルチ	実習室	センター	マルチ	実習室	センター	マルチ	実習室	センター	マルチ	実習室
1	8:40—9:25	4E ソフトウェア工学 笹岡	5S 自動設計学Ⅰ 橋本		4M プログラミング応用Ⅰ 石井	1S 情報基礎 久志野・嶋田	1−4 英語Ⅰ 櫻井	3M プログラミング基礎 後藤				5S 数値解析Ⅰ 今野	5E 情報理論 笹岡
2	9:35—10:20									3S CAD／CAM演習 佐竹・技術職員			
3	10:30—11:15		1C 情報基礎 久志野・嶋田	4M 機械設計演習Ⅰ 後藤	5E コンピュータ工学 小山	4C 情報処理演習 千葉(誠)	1−3 英語Ⅰ 櫻井	5S 計算力学 戸村	2P 情報通信工学 笹岡		3S コンピュータグラフィックス 橋本	1E 情報基礎 久志野・嶋田	
4	11:25—12:10												1−1 英語Ⅰ 鈴木
5	13:00—13:45	3E プログラミング実習Ⅱ 笹岡	5S 工学実験3 今野・三井・佐竹・阿部・戸村・森川・技術職員		1C 基礎化学実験 小林・富樫・杉本・千葉(誠)・堺井・青山	3E 電気情報工学基礎実験Ⅱ 有馬・笹岡・畑口・技術職員	1S 電子計算機概論 戸村	3C 情報処理 高田・杉本	1M 情報基礎 久志野・嶋田	4S ロボット機構学Ⅰ 佐竹	4S 計算機援用設計製図Ⅰ 戸村	5M 機械システム工学演習 岡田・松岡・技術職員	2E 電気情報工学基礎実験Ⅰ 吉本・大島・井口・技術職員
6	13:55—14:40	4S 電子計算機Ⅰ 橋本					5S 産業財産権論 谷口						
7	14:55—15:40												
8	15:50—16:35												

（出典　情報処理センター事務室資料）

資料２－１－③－６

「旭川工業高等専門学校情報処理センター運営規則」

（平成９．　１．　３０　達第１号）

改正　平成 23. 3.18 達第 37 号

旭川工業高等専門学校情報処理センター運営規則

（趣旨）

第１条　この規則は，旭川工業高等専門学校情報処理センター（ 以下「センター」という。）の適正かつ円滑な運営を図るため，　必要な事項を定めることを目的とする。

（定義）

第２条　この規則において，センターとは次の施設をいう。

(1) 校内ＬＡ　Ｎシステムに関する施設

(2) 情報処理センター端末室

(3) マルチメディア実習室

(4) 情報処理演習室

（業務）

第３条　センターにおいては，　次に掲げる業務を行う。

(1) センターの管理運営に関すること。

(2) 情報教育及びコンピュータ支援教育に関すること。

(3) 情報処理に関する調査，　研究，開発及び普及に関すること。

(4) 情報ネットワークに関すること。

(5) 教育に係る情報化推進に関すること。

(6) センター施設設備の維持管理に関すること。

(7) その他センターに関すること。

（組織）

第４条　センターに，　次の職員を置く。

(1) センター長

(2) 副センター長２名

(3) センター員４　名

２　センター長は，教授又は准教授のうちから校長が任命する。

３　副センター長は，　センター員のうちから校長が任命する。

４　センター員は，各学科及び科の教員のうちから各１名とし，校長が任命する。

５　センター長，　副センター長及びセンター員の任期は，　２年とし，再任は妨げない。ただし，　センター長，　副センター長又はセンター員が欠けた場合の後任者の任期は，　前任者の残任期間とする。

（運営委員会）

第６　条　センターの効果的な運営を図るため，センター運営委員会（以下「委員会」という。）　を置く。

第７条　委員会は，次の事項を審議する。

(1) センターの管理運営の重要事項に関すること。

(2) センターの利用計画に関すること。

(3) センターの予算に関すること。

(4) 情報教育及びコンピュータ支援教育の重要事項に関すること。

(5) センターの施設の整備充実に関すること。

(6) 情報ネットワークの管理運営に関すること。

(7) 教育に係る情報化推進計画に関すること。

(8) その他センターの重要事項に関すること。

第８条　委員会は，次に掲げる者をもって構成する。

(1) 副校長

(2) 事務部長

(3) センター長

(4) その他校長が必要と認めた者

第９条　委員会に委員長を置き，副校長をもって充てる。

２　委員長は，　委員会を招集して議長となる。

３　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

第１０ 条委員長が必要と認めたときは， 委員以外の者の出席を求め， 説明又は意見を聴くことができる。
（センター会議）
第１１条　センターの円滑な運用を図るため， センター会議を置く。
第１２条　センター会議は，次の事項を審議する。
(1) センター業務の具体的な執行方法等に関すること。
(2) 委員会からの諮問事項に関すること。
第１３条　センター会議は，次に掲げる者をもって構成する。
(1) センター長
(2) 副センター長
(3) センター員
第１４条　センター長は， センター会議を招集して議長となる。
２ センター長に事故があるときは，副センター長がその職務を代行する。
第１５条　センター長が必要と認めたときは，構成員以外の者の出席を求め， 説明又は意見を聴くことができる。
（議事）
第１６条　委員会及びセンター会議（ 以下「委員会等」という。） は， 構成員の３ 分の２以上の出席をもって成立する。
２ 議事は，出席者の過半数をもって決し， 可否同数のときは， 議長の決するところによる。
（庶務）
第１７ 条委員会等の庶務に関することは，総務課が処理する。
（利用）
第１８ 条この規則の定めるもののほか， センターの利用について必要な事項は，別に定める。

（出典　旭川工業高等専門学校情報処理センター運営規則）

資料２－１－③－７

「情報処理センター利用時間」

（平成９．１．３０　達第２号）

改正　平成 12. 2. 8　達第 23 号　　平成 19. 3.13　達第 88 号
平成 20. 6. 4

旭川工業高等専門学校情報処理センター利用内規

（目的）
第１条　この内規は，旭川工業高等専門学校情報処理センター（以下「センター」という。）運営規則（平成 9 年旭高専達第１号）第１８条の規定に基づき，センターの利用について定めることを目的とする。

＊＊省略

第５条　センターのうち，マルチメディア実習室及び情報処理演習室の開室時間は８時３０分から１７時まで，情報処理センター端末室の開室時間は８時３０分から１９時までとする。なお，長期休業中は，マルチメディア実習室及び情報処理演習室は閉室とする。
２　利用時間外に利用しようとする場合は，あらかじめ，情報処理センター長（以下「センター長」という。）の承認を得るものとする。
３　前条及び第１項の規定にかかわらず，センター長が必要と認めたときは，臨時的に開室及び閉室することができる。

＊＊省略

（出典　旭川工業高等専門学校情報処理センター利用内規）

３）地域共同テクノセンター

地域共同テクノセンターは，地域企業等からの技術開発相談や共同研究の問い合わせ等に対応するとともに，旭川工業高等専門学校産業技術振興会（資料２－１－③－８）を中心とした旭川地域の企業や市内金融機関等と協力して，産学官連携活動の推進を図っている。また，公開講座や小中学校への出前授業を通じて，本校と地域の交流を図る活動を行っている（資料２－１－③－９，資料２－１－③－10）。

資料２－１－③－８

「旭川工業高等専門学校産業技術振興会規約

（目的）
第１条本会は、旭川工業高等専門学校と旭川産業界の連携を密にし、両者の連携による産業技術の振興をもって地域社会の発展に寄与することを目的とする。
（名称）
第２条本会は、旭川工業高等専門学校産業技術振興会と称する。
（事業）
第３条本会は、第１条の目的を達成するため、次の事業を行う。
(1) 産学官の連携及び調整に関する事業
(2) 地域産業の発展に関する事業
(3) 教育研究の充実に関する事業
(4) 旭川工業高等専門学校と地域産業界の交流に関する事業
(5) その他の事業
（会員）
第４条本会の会員は、本会設立の趣旨に賛同する者をもって組織する。
（役員）
第５条本会に次の役員を置く。
(1) 会長１名
(2) 副会長若干名
(3) 理事若干名
(4) 監事２名
２ 役員の任期は２年とし再任を妨げない。但し、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（役員の職務）
第６条前条第１項の役員の職務は次のとおりとする。
(1) 会長は、本会を代表し会務を総括する。
(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
(3) 理事は、本会の運営をつかさどる。
(4) 監事は、本会の会計を監査する。
（役員の選任）
第７条会長は、会員の中から総会において選出する。
２ 会長は、総会の承認を得て副会長、理事及び監事を委嘱する。
（顧問及び参与）
第８条第６条１項の他に顧問及び参与を置くことができる。
２ 顧問及び参与は、役員会の推薦で会長が委嘱する。
３ 顧問及び参与は、会長の要請に応じ、または会議に出席し意見を述べることができる。
（総会）
第９条総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が招集し、議長となる。
２ 定期総会は年１回とし、臨時総会は必要に応じて開催する。
（役員会）
第10条役員会は、会長、副会長、理事及び監事をもって組織し、必要の都度会長が

これを招集する。
２ 役員会は、事業の企画、立案等、事業遂行のために必要な事項、総会に上程する
議案及び重要事項を審議する。
３ 役員会は、必要に応じて、旭川工業高等専門学校の意見を徴する。
（事務局）
第11条本会の事務局は、旭川商工会議所に置く。
（経費）
第12条本会の運営は、会費、寄付金その他の収入をもって充てる。
２ 会費は年会費とし、企業が１万円、個人が２千円とする。
（会計年度）
第13条本会の会計は、毎年４月１日に始まり翌年３月３１日に終わる。
（その他）
第14条本規約に定めるもののほか、必要な事項は、役員会において定める。
附則
１ 本規約は平成１４年６月６日から施行する。
２ 本規約は平成１６年６月２８日から施行する。__

資料２－１－③－９

「旭川工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則」

旭川工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則

（設置）
第１条　旭川工業高等専門学校（ 以下「本校」という。） に， 地域社会における産業技術の振興及び発展に寄与するとともに，本校の教育研究の活性化を図るため， 旭川工業高等専門学校地域共同テクノセンター（以下「センター」という。）を置く。
（業務）
第２条　センターは， 次に掲げる業務を行う。
(1) センターの管理及び運営に関すること。
(2) 旭川工業高等専門学校産業技術振興会との連携に関すること。
(3) 地元自治体等との連携に関すること。
(4) 同窓会との連携に関すること。
(5) 学内共同利用の推進に関すること。
(6) 高等教育機関との連携に関すること。
(7) その他本校と地域との交流に関すること。
（組織）
第３条　センターに次の職員を置く。
(1) センター長
(2) 副センター長２名
(3) センター員４ 名
（センター長）
第４条　センター長は，本校教員のうちから校長が任命する。
２ センター長は，センターの業務を掌理する。
３ センター長の任期は２年とし， 再任を妨げない。ただし， センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（副センター長）
第５条　副センター長は， センター員のうちから校長が任命する。
２ 副センター長は， センター長の命を受け，センターの業務を処理するとともにセンター長の職務を助ける。
３ 副センター長の任期は２ 年とし， 再任を妨げない。ただし， 副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は， 前任者の残任期間とする。

（センター員）
第６条　センター員は，各学科及び科の教員のうちから各１名とし，校長が任命する。
２ センター員は，センター長の命を受け，センターの業務を処理する。
３ センター員の任期は２年とし， 再任を妨げない。ただし， センター員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（運営委員会）
第７条　センターの運営に関する事項を審議するため，旭川工業高等専門学校地域共同テクノセンター運営委員会（以下「運営委員会」という。） を置く。
第８条　運営委員会は，次に掲げる事項を審議する。
(1) センターの運営に関すること。
(2) 旭川工業高等専門学校産業技術振興会との連携に関すること。
(3) 地元自治体等との連携による技術交流， 情報交換等に関すること。
(4) 研究機関との共同研究， 技術指導等の共同企画等に関すること。
(5) 同窓会との連携に関すること。
(6) 学内共同利用の推進に関すること。
(7) 高等教育機関との連携に関すること。
(8) その他地域サービスに関すること。
(9) 知的財産の啓発に関する事項
(10) その他知的財産に関すること。
第９条　運営委員会は，次に掲げる委員をもって組織する。
(1) 校長
(2) 副校長
(3) センター長
(4) 副センター長
(5) 各学科長及び科長
(6) 事務部長
(7) その他校長が必要と認めた者
第１０ 条運営委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。
２ 委員長は， 運営委員会を招集し，その議長となる。
３ 委員長が不在のときは， あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
第１１条　運営委員会は， 委員の３ 分の２ 以上の出席をもって成立する。
２ 議事は，出席者の過半数をもって決し， 可否同決のときは， 議長の決するところによる。
第１２条　運営委員長は第９ 条第５ 号の委員が運営委員会に出席できないときは，代理の者を出席させることができる。
２ 代理の者には，議決権を与える。
３ 第１項に規程する代理の者は， 教授とする。
第１３条　委員長が必要と認めた場合は， 外部有識者等委員以外の者を運営委員会に出席させ，審議に加えることができる。
（テクノセンター会議）
第１４ 条センターの円滑な運用を図るため，旭川工業高等専門学校テクノセンター会議（以下「センター会議」という。）を置く。
第１５条　センター会議は，次に掲げる事項を審議する。
(1) センター業務の具体的な事業計画の立案及び実施に関すること。
(2) センター運営委員会からの諮問事項に関すること。
第１６ 条センター会議は，次に掲げる者をもって構成する。
(1) センター長
(2) 副センター長
(3) センター員
(4) 技術長

(5) 総務課長
(6) その他センター長が認めた者
２ センター長は，センター会議を招集して議長となる。
３ センター長に事故があるときは，副センター長がその職務を代行する。
第１７条　センター会議は，構成員の３分の２ 以上の出席をもって成立する。
２ 議事は，出席者の過半数をもって決し， 可否同決のときは， 議長の決するところによる。
第１８条　議長は第１ ６ 条第２ 号から３号までの構成員がセンター会議に出席できないときは，代理の者を出席させることができる。
２ 代理の者には，議決権を与える。
第１９条　議長が必要と認めたときは，センター会議に構成員以外の者の出席を求め， 説明又は意見を聴くことができる。
（技術開発相談室）
第２０条　センターに， 地域企業等からの技術相談及び共同研究等に対応するため， 技術開発相談室（ 以下「相談室」という。）を置く。
２ 相談室に， 室長を置き，センター長をもって充てる。
３ 室長は，相談室を統括する。
（事務）
第２１条　センターに関する事務処理については， 総務課において処理する。
（雑則）
第２２条　この規則に定めるもののほか， センターに関する必要な事項は， 別に定める。

（出典　旭川工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則）

資料２－１－③－10

平成22年度テクノセンター年間事業計画（案）と平成21年度実績

事　　業	平成22年度　実施（予定）
1 自治体・各種団体との連携	
旭川商工会議所と連携した「ものづくり人材育成講座」の実施	**９月～12月**
北海道銀行と連携した「ビジネスマッチング」への参加	**未定**
北海道銀行及び北海道中小企業家同友会と連携した「中小企業応援センター」への参画	**随時**
旭川しんきんと連携した「地域開放特別事業」の実施	**８月３日（火）**
2 高等教育機関との連携	
旭川ウェルビーイング・コンソーシアム	
連携公開講座の実施	**未定**
コンソーシアム・シンポジウムへの参加	**10月**
シーズ集作成への協力	**未定**
産学官連携戦略展開事業（拠点校　苫小牧高専）	
産学官連携戦略展開研修会への参加（札幌）	**８月**
テクノ・イノベーションフォーラムへの参加（札幌）	**11月（ビジネスEXPOと同日開催を計画）**
企業との技術相談会への参加（札幌）	**11月（ビジネスEXPOと同日開催を計画）**
ノーステックとの技術相談会への参加（札幌）	**未定**
発明協会主催知的財産に関するセミナーへの参加（札幌）	**６月、10月**
道内工学系大学との協定締結による業務	**未定**
3 本校と地域との交流	
公開講座の実施	**10件（７月～翌年２月）**
出前講座の実施	**随時（35講座提供中）**
地域開放特別事業の実施	**８月３日（火）、１月上旬**
4 地域の産業技術の支援	
技術開発相談の実施	**７件（５月31日現在）**
共同研究・受託研究の推進	**共同研究１件（５月31日現在）**

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

体験型学習を重視する技術教育の実践の場としての技術創造部，高度情報化社会における基盤技術習得の場としての情報処理センターの施設・設備は十分に整備されており，有効利用が図られている。また，地域共同テクノセンターは，「産業界・地域社会との幅広い連携」を達成するための役割を担う目的で設置されたものであり，適切なものになっている

以上のことから，これらの全学的センターは，本校教育目的を達成するために，適切なものとなっている。

観点２－２－①：　教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。

（観点に係る状況）

本校では，学校の運営全般に係わる具体的事項の検討のために，36の委員会，部会，室が設けられている（資料２－２－①－１）。

そのなかで，学校運営を円滑に行うための最高審議機関として「運営委員会」が置かれている。運営委員会は，校長，副校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，各学科長及び科長，事務部長から構成され，教育活動全般の方針等について審議している（資料２－２－①－２）。平成22年度の運営委員会は，臨時を含めて16回開かれている（資料２－２－①－３）。また，本校における管理運営の円滑化と連携の強化を図るため，校長，副校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，事務部長からなる「校長連絡会」が設置されている。

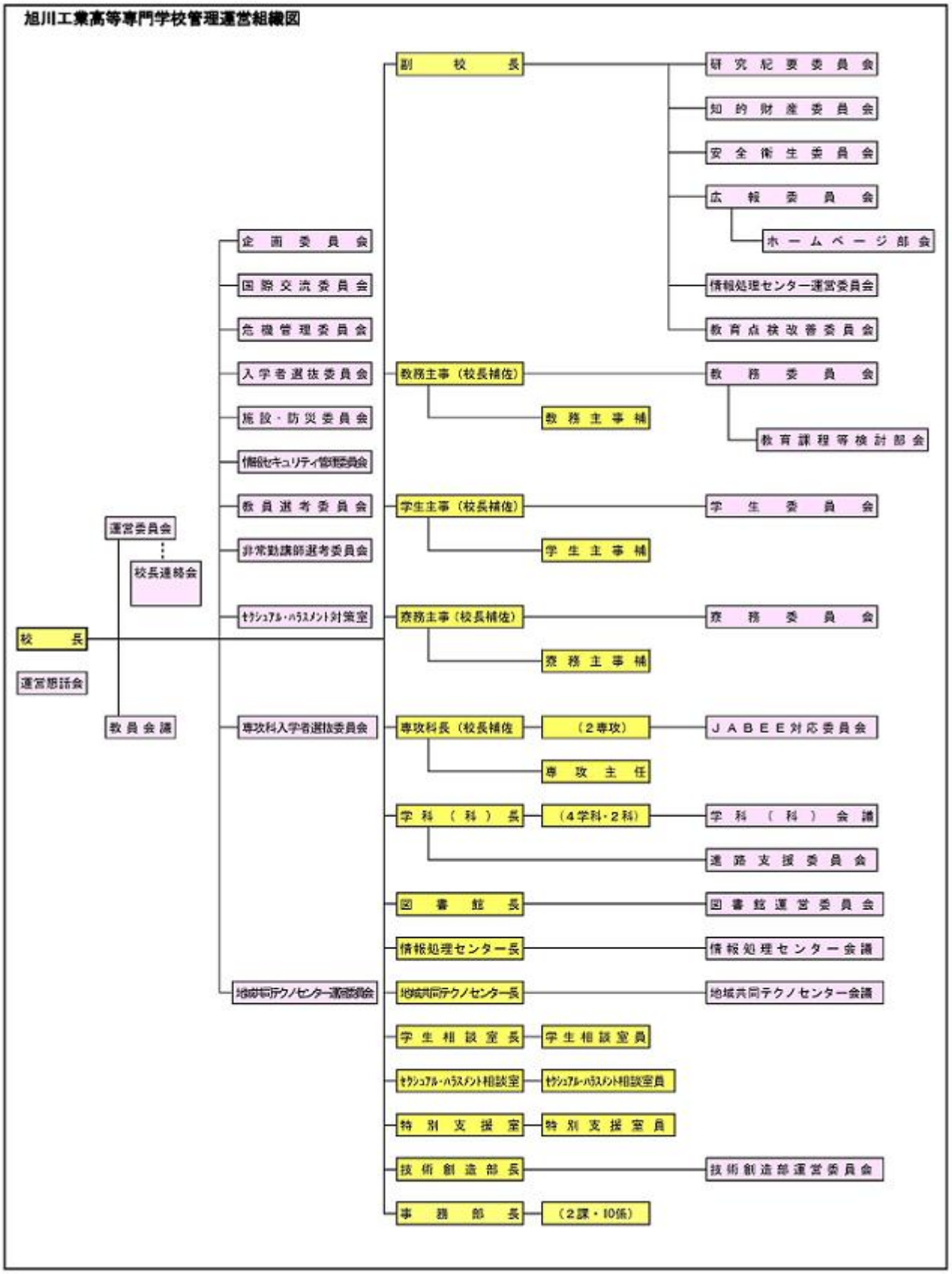
準学士課程・専攻科課程の入学，卒業（修了），進級，転学科や学生の処分の一部等については，全教員を構成員とする「教員会議」で審議され（資料２－２－①－４），教員会議は，平成22年度には11回開催されている。

準学士課程及び専攻科課程に関する重要事項の審議を行うために「教務委員会」が設置されており（資料２－２－①－５），平成22年度は13回開かれている（資料２－２－①－６）。平成22年度までは，専攻科課程に関する審議は「専攻科委員会」で行われていたが，平成23年度から教務委員会に統合されている。毎年度の教育課程は４専門学科及び２専攻ごとに検討された原案を教務委員会で審議し，最終的に運営委員会の了承を経て実施に移される。また，準学士課程においては，教務委員会の下に設置されている「教育課程等検討部会（平成23年度より教育課程等委員会より組織変更）」が教育課程に関する専門的事項について審議を行っており（資料２－２－①－７），平成22年度には７回開催されている（資料２－２－①－８）。

教育活動のあり方を含めて本校の将来構想，中期目標・中期計画等に関する事項を審議し，運営委員会に提案するために，「企画委員会」（資料２－２－①－９，平成 20 年度に企画室から組織変更）が設置されている。平成 22 年度には６回開催され，中期目標・中期計画の検討及び委員会の見直しについて検討した結果，いくつかの委員会が統合され，平成 23 年度から実行に移されている（資料２－２－①－10）。

資料２－２－①－１

「管理運営組織図」



（出典　総務課資料）

資料２－２－①－２

「運営委員会規程」

（平成１　１．４．１　達第３号）

改正　　平成19.11.13 達第13号　　平成23. 3.18 達第49号

旭川工業高等専門学校運営委員会規程

（趣旨）
第１条　この規程は，旭川工業高等専門学校教員等組織規程（昭和４１年旭高専達第１９号）第２９条の規定に基づき，旭川工業高等専門学校運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。
（審議事項）
第２条　委員会は，校長の諮問に応じて次に掲げる事項を審議する。
(1) 学校運営を円滑に行うために必要な事項
(2) 教育効果の向上に関する事項
(3) 組織，運営に係る将来計画に関する事項
(4) 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成13年法律140号）に基づく情報公開に関する事項
(5) 独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年法律59号）に基づく個人情報に関する事項
(6) 自己点検及び評価に関する事項
(7) 他機関,企業等との共同研究及び受託研究の推進に関する事項
(8) 寄附金の受入に関する事項
(9) 研究推進に関する事項
(10) その他学校運営について重要と認められる事項
（組織）
第３条　委員会は，次に掲げる者をもって組織する。
(1) 校長
(2) 副校長
(3) 教務主事，学生主事及び寮務主事
(4) 専攻科長
(5) 各学科長及び科長
(6) 事務部長
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。
２ 委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
３ 委員長に事故があるときは，副校長がその職務を代行する。
（会議）
第５条　委員会は，原則として毎月１ 回開催するものとする。ただし，委員長が必要と認めたときは，臨時に開催することができる。
（議事）
第６条　委員会は，委員の３分の２ 以上の出席をもって成立する。
２ 議事は，出席者の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。
（代理出席）
第７条　委員長は，第３ 条第５ 号の委員が委員会に出席できないときは，代理の者を出席させることができる。
２ 代理の者には，議決権を与える。
３ 第１項に規定する代理者は，教授とする。
（委員以外の者の出席）
第８条　委員会が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，説明又は意見を聴くことができる。
（ワーキング・グループ）
第９条　委員会に，専門的事項について調査，検討するため， 必要に応じてワーキング・グループを置くことができる。
２ ワーキング・グループに関して必要な事項は， 別に定める。
（庶務）
第１０ 条委員会の庶務に関することは， 総務課において処理する。

（出典　旭川工業高等専門学校運営委員会規程）

資料２－２－①－３

「運営委員会議事要旨」

運営委員会（平成２２年度第１回）議事要旨

日 時 平成２２年４月１３日（火）１６：４５～１８：３５
場 所 中会議室

出 席 者 高橋校長，今野副校長，津田教務主事，石本学生主事，後藤寮務主事，三井専攻科長，石井学科長，吉本学科長，橋本学科長，古崎学科長，十河科長，長岡科長，川口事務部長
陪 席 者 総務課長，学生課長，技術長，総務課課長補佐（総務担当），総務課課長補佐（財務担当），学生課課長補佐，総務係長
議事に先立ち，校長から，配付資料に基づき本年度の委員会構成員の紹介があった。

議 事

協議事項
１．平成２１年度年度計画実施状況及び評価報告（運営委員会）（案）について（資料１）

２．平成２２年度年度計画（運営委員会）（案）について （資料２）

報告事項
１．独立行政法人国立高等専門学校機構校長会議について （資料３）

２．社団法人 全国高等専門学校体育協会
第１３６回理事会・第９６回評議員会・第９４回総会について （資料４）

３．高等専門学校連合会連絡会について （資料５）

４．北海道地区国立工業高等専門学校校長会議について （資料６）

５．平成２１年度科学研究費補助金の採択状況等について （資料７）

６．平成２２年度学内予算配分について

７．平成２２年度特別教育研究経費の要求について （資料８）

８．その他
（１）教職員の服務規律の確保について

以 上

＊＊各項目の内容は省略

（出典　平成 22 年４月 13 日　運営委員会議事録要旨）

資料２－２－①－４

「旭川工業高等専門学校教員等組織規程」

（昭和４１．１２．１６達第１９号）

改正　　平成 19. 3.13　達第 28 号

旭川工業高等専門学校教員等組織規程

第１章　総則

（目的）

第１条　この規程は，旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教員の責任体制を確立し，かつ，連絡を密にして教育効果の向上を図ることを目的とする。

＊＊省略

第１０章　教員会議

（設置）

第３０条　校長が，校務運営方針を教員に伝達し，かつ，教員の意見を聴し，学校運営の円滑化を図るための諮問機関として，旭川工業高等専門学校教員会議（以下「教員会議」という。）を置く。

（構成）

第３１条　教員会議は，校長，教授，准教授，講師（専任），助教及び助手をもって構成する。

２　校長は，この会議に事務部長及び課長を出席させる。

３　校長は，必要に応じて課長補佐及び係長を出席させる。

（会議）

第３２条　教員会議は，校長が招集して主宰する。

第３３条　校長は，教員会議において，次の事項を諮問する。

⑴ 学校運営の重要事項に関すること。

⑵ 教育効果の向上に関すること。

⑶ 学生に関して，校長より諮問した事項

⑷ その他学校に関する重要事項及び校長の諮問事項

第３４条　教員会議は，原則として毎月１回開催する。なお，必要に応じて臨時に開催することがある。

（庶務）

第３５条　教員会議の庶務に関することは，総務課が処理する。

第１１章　委員会等

（設置）

第３６条　本校に，校長の命により，委員会等を置く。

２　委員会等に関することは，別に定める。

＊＊以下省略

（出典　旭川工業高等専門学校教員等組織規程抜粋）

資料２－２－①－５

「 旭川工業高等専門学校教務委員会規程」

（昭和３　８年４月１　日制定）

改正　　平成 23. 3.18 達第 21 号

旭川工業高等専門学校教務委員会規程

（設置）
第１条　旭川工業高等専門学校（ 以下「本校」という。） に， 本校の教務に関する重要事項について審議するため，教務委員会（ 以下「委員会」という。）を置く。
（任務）
第２条　委員会は，次の事項について審議する。
(1) 教育課程の編成及び実施に関すること。
(2) 教育計画及び授業時間の編成に関すること。
(3) 学校行事に関すること。
(4) 学生異動に関すること。
(5) 試験及び学業成績に関すること。
(6) 出欠席の取扱いに関すること。
(7) 指導要録の作成に関すること。
(8) 教科書その他の教材の取扱いに関すること。
(9) 教育内容，授業内容及び教育方法等の改善に関すること。
(10) 教員の資質向上のための企画及び調査研究に関すること。
(11) 研究生，聴講生及び科目等履修生の受入れ等に関すること。
(12) その他教務に関する重要事項
（構成）
第３条　委員会は，次の委員をもって構成する。
(1) 教務主事
(2) 専攻科長
(3) 教務主事補
(4) 各学科長及び科長
(5) 学生課長
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，教務主事をもって充てる。
２ 委員長は， 委員会を招集して議長となる。
３ 委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
（議事）
第５条　委員会は，委員の３分の２ 以上の出席をもって成立する。
２ 議事は，出席者の過半数をもって決し， 可否同数のときは，議長の決するところによる。
（代理出席）
第６条　委員長は，第３ 条第４ 号の委員が委員会に出席できないときは，代理の者を出席させることができる。
２ 代理の者には，議決権を与える。
３ 第１項に規定する代理者は，教授とする。
（委員以外の者の出席）
第７条　委員長は，必要に応じて委員以外の者を出席させることができる。
（専門部会）
第８条　委員会に，教務に関する専門的事項を審議するため， 専門部会を置くことができる。
２ 専門部会に関して必要な事項は，別に定める。
（報告）
第９条　委員長は，委員会で協議した事項を総括し，校長に報告する。
（庶務）
第１０条　委員会の庶務に関することは， 学生課が処理する。

（出典　旭川工業高等専門学校教務委員会規程）

資料２－２－①－６

「教務委員会議事要旨」

教務委員会（平成 22 年度第 12 回）議事要旨

日 時 平成 23 年３月 17 日(木) 14：00～17：25
場 所 中会議室
出席者 津田委員長，篁委員，冨永委員，石井委員，吉本委員，橋本委員，古崎委員，
十河委員，長岡委員，髙見委員
事務部 教務係長
【協議事項】

1 平成 22 年度進級認定について

2 平成 23 年度教務関係規則申合せ(案)について

3 平成 23 年度学級担任の手引き(案)について

4 平成 23 年度授業計画の一部変更(案)について

5 平成 23 年度当初の行事(案)について

【報告事項】
1 平成 23 年度入学予定者数について

2 平成 23 年度混合学級の学級担任・学生と専門学科との連絡教員について

3 混合学級制度の検証について

4 特別な配慮を必要とする学生について

5 工学系数学統一試験（EMaT）の実施結果について

6 授業料未納による除籍処分該当者について

7 その他

＊＊各項目の内容は省略

（出典：平成 22 年３月 17 日　教務委員会議事要旨）

資料２－２－①－７

「教育課程等検討部会要項」

（ 平成２３ 年３月１８ 日達第 22 号）

旭川工業高等専門学校教育課程等検討部会要項

（設置）
第１条　旭川工業高等専門学校教務委員会規程第８ 条の規定に基づき， 本校の教育課程に関する専門的事項について審議するため，旭川工業高等専門学校教育課程等検討部会（ 以下「検討部会」という。）を置く。
（構成）

第２条　検討部会は，次の部会員をもって構成する。
(1) 教務主事補のうちから１ 名
(2) 各学科及び科の教員のうちから各１名
（任期）
第３条　前条第２号の部会員の任期は，１年とし，再任は妨げない。
（部会長）
第４条　検討部会に部会長を置き，教務主事補をもって充てる。
２ 部会長は，部会を招集し，その議長となる。
３ 部会長に事故あるときは，あらかじめ部会長が指名した部会員がその職務を代行する。
（議事）
第５条　検討部会は，部会員の３分の２以上の出席をもって成立する。
２ 議事は，出席者の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。
（代理出席）
第６条　部会長は，第２条第２号の部会員が検討部会に出席できないときは，代理の者を出席させることができる。
２ 代理の者には，議決権を与える。
（部会員以外の者の出席）
第７条　部会長は，必要に応じて部会員以外の者を出席させることができる。
（報告）
第８条　部会長は，検討部会で審議した事項を総括し，教務委員会に報告する。
（庶務）
第９条　検討部会の庶務に関することは，学生課が処理する。
附則
１ この要項は，平成２３ 年４ 月１ 日から施行する。
２ 旭川工業高等専門学校教育課程等委員会規程（平成１６年旭高専達第６号）は，廃止する。

（出典　旭川工業高等専門学校教育等検討部会要項）

資料２－２－①－８

「教育課程等委員会議事要旨」

教育課程等委員会（平成 22 年度第 7 回）議事要旨

日 時 平成 23 年 1 月 12 日(水) 16：53～18:34
場 所 ミーティングルーム
出席者 筐委員長，宇野委員，井口委員，中村委員，梅田委員，鈴木委員，岡島委員，
石坂委員
事務部 宮本教務係員

【審議事項】
１ 各学科（科）の新カリキュラム（案）について

２ 各学科の学年別配当時間について

３ 科目系統図について

【報告事項】
１ 新カリキュラム（案）における物質化学工学科の科目名の一部変更について

２ 新カリキュラム（案）における外国人留学生に対し特別に編成する授業科目について

３ 現行カリキュラムと新カリキュラム（案）の対応について

４ 「環境・生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標について

５ 「環境・生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標と新カリキュラム（案）における開講科目の対応について

６ 学科（科）の教育目標と現行カリキュラム及び新カリキュラム（案）における開講科目の対応について

７ その他
（１）次回の開催について

＊＊各項目の内容省略

（出典　平成 23 年１月 12 日　教育課程等委員会議事要旨）

資料２－２－①－９

「 企画委員会規程」

（ 平成２０ ． ４． １ 達第３ ２号）
改正　平成 23. 3.18 達第 20 号

旭川工業高等専門学校企画委員会規程

（設置）
第１条　旭川工業高等専門学校に， 旭川工業高等専門学校企画委員会（ 以下「委員会」という。） を置く。
（審議事項）
第２条　委員会は，次に掲げる事項を審議し，運営委員会に提案する。
(1) 将来構想に関する事項
(2) 中期目標・中期計画に関する事項
(3) 自己点検及び評価に関する事項
(4) 外部評価に関する事項
(5) 高等専門学校間の交流に関する事項
(6) その他校長が必要と認める事項
（組織）
第３条　委員会は，次に掲げる者をもって組織する。
(1) 校長
(2) 副校長
(3) 教務主事，学生主事及び寮務主事
(4) 専攻科長
(5) 事務部長
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。
２ 委員長は， 委員会を招集し，その議長となる。
３ 委員長に事故があるときは，副校長がその職務を代行する。
（専門部会）
第５条　委員会に，専門的事項について調査，検討するため， 必要に応じて専門部会を置くことができる。
２ 専門部会に関して必要な事項は，別に定める。
（庶務）
第６条　委員会の庶務は， 総務課において処理する。
（雑則）
第７条　この規程に定めるもののほか，委員会に関し必要な事項は，委員会が別に定める。

（出典　旭川工業高等専門学校企画委員会規程）

資料２－２－①－10

「企画委員会 議事要旨」

平成２２年度第５回 企画委員会 議事要旨

日 時 平成２３年1月１９日（水）１６：４５～１８：００
場 所 中会議室
出席者 今野委員長，宇野，土橋，沼田，鈴木，川口，横道の各委員
欠席者 堀川，青山，高見の各委員
陪席者 原 課長補佐

議題

１．旭川高専における各種委員会等の見直し（案）について・・・資料１，参考資料

委員長から前回，１２月９日開催の本委員会で決定された事項と併せて，１２月２４日開催の校長連絡会で検討された事項を加え，資料１のとおり取りまとめた旨の説明があり，資料の内容について審議された。

新たに加えられた事項について，資料１に基づき，以下のとおり説明があった。

◆１頁：１．運営委員会
＊＊省略

◆２頁：２．企画委員会
＊＊省略

◆５頁：３．専攻科委員会
● 専攻科委員会については，原案どおり，発展的に解消し，入学者選抜に関する事項以外の審議事項は，教務委員会に移行し，新たに『専攻科入学者選抜委員会』を設置して専攻科の入学者選抜に関する事項を審議する。専攻科入学者選抜委員会の構成員は，校長，専攻科長，専攻主任，一般人文科及び一般理数科の教員のうちから各１名とする。

◆５頁：４．入学者選抜委員会
● 入学者選抜委員会については，構成員から「専攻科長」を，審議事項から「専攻科入試に関すること」を削る。

◆６頁：５．進路支援委員会
● 進路支援委員会については，名称を原案どおり『進路支援委員会』とする。
構成員については，「学科長のうちから１名」を加えて，同人を委員長とし，「第４学年学級担任のうちから１名」を「第４学年各学級担任」とする。

◆６～７頁：６．国際交流委員会
＊＊省略

◆８頁：７．危機管理委員会
＊＊省略

◆１０頁：８．広報委員会作業部会
＊＊省略

◆１２～１３頁：９．地域共同テクノセンターワーキング・グループ
● 構成員のうち，副センター長は，将来的な事も見据え，「センター長がセンター員の中から指名する」こととする。なお，各学科（科）からの委員６名が，センター長，副センター長２名，センター員３名となる。
＊＊省略

２．平成２２年度年度自己点検評価【企画委員会分】（案）について・・・資料２
＊＊省略

３．平成２３年度年度計画【企画委員会分】（案）について・・・資料３
＊＊省略

４．学習達成度評価アンケートについて

委員長から『高等専門学校機関別認証評価に係るアンケートについて，「学習達成度の評価」に係る事項を除く調査を１０月２０日から１１月１２日にかけて実施したが，１月３１日～２月４日に「学習達成度の評価」に係るアンケートを実施する予定である。調査票ができしだい，アンケート調査実施前に本委員会委員に配布し，調査項目の内容を確認していただきたい。』旨依頼があり，了承された。

（出典　平成 23 年 1 月 19 日　企画委員会議事要旨）

（分析結果とその根拠理由）

学校運営全体を円滑に行うための「運営委員会」，「教員会議」及び教育活動に対する具体的な事項を審議する「教務委員会」とその下部組織である「教育課程等検討部会」が設置されており，それぞれの役割を果たしている。管理運営の円滑化と連携の強化のため「校長連絡会」がある。また，中・長期的な事柄について検討し，運営委員会に提案する「企画委員会」が設置されている。これらの委員会において教育活動等の実施に係る重要事項の審議を行い，運営委員会における審議を経て実行に移される検討・運営体制が整備されている。

以上のことから，教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，必要な活動が行われている。

観点２－２－②：　一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか。

（観点に係る状況）

「教務委員会」，「教育課程等検討部会」等の教育に係る各委員会には，一般科目を担当している一般人文科・一般理数科，および専門科目を担当する各専門学科の教員が委員として参加している。

ＦＤ事業の一つとして，一般人文科・理数科教員と専門学科教員との間で教員同士の懇談会を行っており，平成22年度には，数学及び理科担当教員と各専門学科教員との懇談が行われた（資料２－２－②－１）。

平成19年度からは，第１・２学年に「混合学級制」を採用している。混合学級の運営に当たり，各専門学科では連絡教員を決め，一般科目の１・２学年担任との間で打ち合わせを行っている（資料２－２－②－２）。

資料２－２－②－１

「ＦＤ教員懇談会概要」

日　時：平成 22 年 10 月 7 日（木）
　　理科　15:00～16:10
　　数学　16:10～17:30

場　所：大会議室

出席者：（機械）石井，後藤，宇野，江頭，千葉良一
　　（電気）吉本，篁，畑口
　　（制御）今野，橋本，堀川
　　（化学）小林，津田，古崎，高田，杉本，千葉誠，沼田
　　（人文）なし
　　（理数）山田，近藤，長岡，岡島，降旗，青山，冨永，石垣，大澤，久志野

懇談内容
【理　科】
　最初に，物理に関して，岡島先生より１～４年の説明があり，化学に関して，青山先生より１～２年の説明があった。
　続いて，専門学科からの要望，意見として，
- 編入学試験対策を入れてほしい。
- 底辺の学生と編入の学生との棲み分けをどうするか
- 学生ができない。専門で使えない。
- 物理に自信を持つ学生を育ててほしい。
- 定着の問題。
- オフィスアワーの活用の問題。
- 低学年の底上げ。問題を解く機会が少ない。
- 予習の徹底？

などについて意見交換された。

最後に，FD 推進委員長から，懇談会のまとめとして，次のように示された。
- 来年度カリキュラムの物理特講の位置づけとして，間接的に受験対策を行う。
- オフィスアワーの使い方として，低学力の学生を呼び出して指導する。
- 受験対策として物理の先生のところに行って質問することで対応する。

【数　学】
　最初に低学年は大澤先生より，高学年は降旗先生より，数学担当教員作成の資料に基づき，現状説明があった。また，答案の書き方がなっていない。立体イメージが出来ない。計算力を問う問題はダメなどの説明があった。
　続いて，専門学科からの要望，意見として，
- 機械：プラスαとしてラプラス変換を行ってほしい。
- 電気：数学より電気の方が早く使う。
- 制御：統計をやってほしい。算数ができない。
- 化学：検定をやってほしい。３年で数学に差が出てしまう原因は何か。
- 1-3 学年は，何十年も内容は大きく変わっていない。
- 数学の裏にある事，持っている意味，考える力を養いたい。
- 化学は，数学に触れる時間が少ないのが原因か・・・
- 応用数学については，単元毎の出し入れは各学科との調整で可能。
- 数学特講に係わる編入学対策。

などについて意見交換された。

最後に，FD 推進委員長から，懇談会のまとめとして，次のように示された。

- 機械システム工学科の応用数学に調整してラプラス変換を導入する。
- 物質化学工学科の応用数学に検定をちょっと入れる。
- 数学特講では，編入学対策を意識した授業展開をする。
- オフィスアワーの補習では，低学力の学生を呼び出して指導する。

（出典　学生課資料）

資料２－２－②－２

「専門学科連絡教員と第１・2 学年担任との打ち合わせ合意事項（2009/04/06）」

Ⅰ.確認事項

①使用教室･･･機械　1-1, 2-1　電気　1-2, 2-2　制御　1-3, 2-3　物質　1-4, 2-4

②学科連絡教員

機械　１年　石井先生　２年　立田先生　電気　１･２年　井口先生

制御　１年　今野先生　２年　大柏先生　物質　１年　小林先生　２年　沼田先生

Ⅱ.合意事項

１．専門学科連絡教員の役割

・担任に準ずる立場で，学科クラスの状況を把握

・学科の特性，方針，教科内容等に関する担任からの問い合わせへの対応

・定期試験時の対応･･･在籍表記入，試験用座席表の作成

２．専門科目授業時の対応

ⅰ)移動について

a．１時限目開始の場合･･･１時限目授業科目担当教員に，移動に時間がかかることを了承の上，開始時間を５分ほど猶予してもらう

b．昼から，または６時限目以降授業が始まる場合

・２年生は移動に慣れているが，１年生はとまどうと思われるので，年度当初は，授業科目担当教員に集合が多少(５分程度)遅れることを了解してもらう

c．移動前も移動先でも机の中は空にする･･･忘れ物をしないように指導する

d．荷物はロッカーに入れるか持って移動する

ⅱ)昼食について

a．授業が昼休みを挟む場合･･･移動先で食事することを原則とする

b．午前中で授業が終わる場合

･･･クラスに戻って食事することを原則とする。クラスでまだ各学科の授業が続いている場合は，適宜対応するよう指導する

ⅲ)座席表について

・学科連絡教員に作成してもらう。

ⅳ)掃除への対応について

a．休講や授業が早く終わる時の対応

・予めわかっている場合は，授業担当教員からクラス担任に連絡を入れてほしい

→　学科連絡教員から学科教員に周知してもらう

b．使用したクラスの机上への落書き，消しゴムカスの放置への対応

・使った机の上はきれいにするように指導してもらう

→　学科連絡教員から学科教員に周知してもらう

３．定期試験時の対応

ⅰ）移動･･･朝の SHR の終了後（8：40），各学科使用クラスに移動

ⅱ）在籍確認

・予め，各クラスにおいて，学科ごとに学科代表学生 1 名（計 4 名）を決めておく。欠席者や遅刻者がいる場合には，担任が記入した「欠席等連絡表」を該当する学科のクラス代表に渡し，当該科目の試験監督教員に手渡すこととする。

・「欠席等連絡表」を受け取った，試験監督教員は，在籍連絡表に，その内容を記載する。

・専門科目の試験に関する在籍連絡表及び試験用座席表（5列）は学科連絡教員が作成し，教卓上へ添付する。

ⅲ）試験時間割への配慮

・専門科目の試験はできるだけまとめてもらう

・最終日はできるだけ一般科目の試験を組んでもらう

４．その他

・今後，学科連絡教員と担任との打ち合わせを教務関係業務の一環として扱うように教務主事に働きかける

（出典　連絡教員と１・２年担任団打ち合わせ資料）

（分析結果とその根拠理由）

専門科目及び一般科目を担当する専門学科教員と一般科目教員とは，観点２－２－①で述べた各種委員会（運営委員会，教務委員会，教育課程等検討部会）での活動を通して連携が取られている。その他，一般科目と専門科目間の教育内容等の連携・調整等のために，関係教員間のミーティングや懇談会も行われている。

以上のことから，専門学科教員と一般科目教員との連携は機能的に行われている。

観点２－２－③：　教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

（観点に係る状況）

教育活動の基本は，クラス単位の指導体制であり，これを遂行するために，学級担任が配置されている。専攻科課程についても学級担任に相当する職務を担う専攻主任を配置している。特に第１・２学年では，担任業務を補助する副担任を配置している。担任教員は，教務主事，学生主事，寮務主事，専門学科長，一般人文科・理数科長，副担任と共に，連携して指導を行っている（資料２－２－③－１）。

教員の教育活動が円滑に行われるよう，毎年，全教員に「教務関係規則申し合わせ」（資料２－２－③－２）が配布されている。さらに，クラス指導の指針となるべき「学級担任の手引き」（資料２－２－③－３）を作成し，クラス指導の参考に供している。この手引書は，担任が日常の学級運営に役立つと思われる事柄が列挙されている。特に，必修科目としての低学年特別教育活動（ロングホームルーム：LHR）の年間指導計画事例を手引き書に掲載し，担任教員によるLHRの効果的指導及び運営の参考に供している。

一方，課外活動に関しては，その教育的意義の重要性を踏まえ，「学生生活指導に関する申し合わせ事項」（資料２－２－③－４）及び「課外指導に関する申し合わせ事項」（資料２－２－③－５）の「クラブ顧問依頼に関する申し合わせ」に基づき，全教員がその指導に当たる体制が整備されている（資料２－２－③－６）ほか，技術的指導が困難なクラブへは，外部コーチを招き，人的支援を行っている（資料２－２－③－７）。

資料２－２－③－１

「旭川工業高等専門学校教員等組織規程」

（昭和４１．１２．１６達第１９号）

改正　　平成 19. 3.13　達第 28 号

旭川工業高等専門学校教員等組織規程　（抜粋）

＊＊（省略）

第５章　学級担任・学級副担任

（資格及び任命）

第２１条　学級担任は，教授，准教授又は講師をもって充てる。教務主事は，学級担任候補者を定め校長に申し出，これに基づき校長が任命する。

２　学級担任の職務を補佐するため，第１学年及び第２学年に学級副担任を置き，教員のうちから校長が任命する。

（職務）

第２２条　学級担任は，校長の命を受け，教務主事，学生主事及び寮務主事並びに学科長及び科長と連絡を密にして，次の事項を行う。

(1) 学級の教務に関すること。

(2) 学級の学生補導に関すること。

(3) 学級の特別教育活動に関すること。

(4) その他学級運営に関すること。

＊＊（省略）

第８章　専攻主任

（資格及び任期）

第２７条　専攻主任は，専攻科の専攻を担当する教授又は准教授をもって充てる。

２　専攻主任は，当該専攻の基礎学科から各１名の推薦に基づき，校長が任命する。

３　専攻科長は，専攻主任を兼ねることができる。

（職務）

第２８条　専攻主任は，専攻科長の職務を助け，専攻の運営に関することを総括する。

（出典　旭川工業高等専門学校教員等組織規程抜粋）

資料２－２－③－２

「平成23年度教務関係規則申し合わせ　目次」

平成23年度

教　務　関　係　規　則　申　合　せ

目　　次

1　履修認定について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
2　試験成績について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
3　進級・卒業認定について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
4　処分，留年，転入学生について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
5　転科の取扱いについて　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
6　選択科目について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
7　定期試験等について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8
8　休講対策について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
9　出欠席及び遅刻の取扱いについて　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
10　特別欠席について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
11　出校停止について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
12　宿泊研修，日帰り研修及び見学旅行について　・・・・・・・・・・・・・・・１８
13　学級担任及びホームルームについて　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
14　休学，退学等及び進路変更について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
15　退学者等に係る単位認定の取扱いについて　・・・・・・・・・・・・・・・・２１
16　授業時間割について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
17　混合学級について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
18　開講時間数について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
19　その他　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３

（出典　学生課資料）

資料２－２－③－３

平成23年度
学級担任の手引き

目次

章	大項目	小項目
１．ホームルーム運営・・・・・Ｐ１	ホームルーム運営の方針	①前学級担任との引継ぎ　②方針の立案と周知　③同一学年の学級担任との連携　④学科間での連携　⑤編入学生の事前指導　⑥留学生の事前指導　⑦留年生等の事前指導　⑧第１志望以外で入学した学生の指導
	ホームルーム運営の計画	①年間指導計画　②ホームルームの運営　③ＨＲ特別活動経費
２．ホームルーム組織と教室環境・・・・・・・・・Ｐ３	ホームルーム組織	①ホームルーム役員と学生会委員の選出　②級長の役割　③日直の役割　④連絡網の作成　⑤学級日誌　⑥掃除当番
	教室環境	①座席配置　②ＨＲ教室の設備・備品　③掲示　④窓の施錠等　⑤その他
３．学習指導・・・・・Ｐ５	日常の学習指導	①ホームルームでの指導　②授業態度等に関する指導　③個別指導　④科目担当教員との連携
	中間・定期試験時の指導	①試験勉強の指導　②試験前日の指導　③不正行為防止の指導　④中間・定期試験後の指導　⑤保護者への成績通知
	未修得科目の指導	①前年度未修得科目（過年度科目）の指導　②前期開講未修得科目の指導
	担任所見等の記録	①学生指導要録への記載
	進級認定について	①進級認定の指導
４．進路指導・・・・・Ｐ７	進路決定の指導	①進路決定の指導　②就職指導　③進学指導　④休学　⑤退学　⑥転学等　⑦転科
５．生活指導・・・・・Ｐ９	出欠席状況の把握	①出欠席等状況の把握　②病気欠席　③遅刻　④早退　⑤忌引　⑥特別欠席　⑦出校停止
	生活状況の把握	①生活状況の把握
	身だしなみ	①礼儀・服装・頭髪
	クラブ活動の指導	①所属クラブと活動状況把握　②顧問教員との連携
	学生相談室・医務室との連携	①学生相談室との連携　②医務室との連携
	問題行動や違反行為発生時の指導	①問題行動　②違反行為
	盗難防止	①自転車　②貴重品管理　③ロッカー
	紛失物・落し物	①紛失物・落し物
	自宅通学生の指導	①家庭訪問　②家庭訪問時の事務手続き
	寮生の指導	①寮での生活状況の把握　②寮への訪問　③寮務委員会及び寮務係との連携　④通学生の寮訪問
	下宿生・アパート生の指導	①下宿生・アパート生の生活状況の把握　②下宿・アパート訪問
	校外生活	①アルバイト　②ﾊﾟﾁﾝｺ, ｽﾛｯﾄ, ﾊﾟｿｺﾝ, ｹﾞｰﾑ等　③交通安全に関する指導

＊＊省略

② LHR の指導テーマ例

学年	テーマ	
	LHR 指導目標 A 人間性・社会性の育成を図る	LHR 指導目標 B 技術者養成のための教育及び進路指導を行う
１年	○ 自己紹介 ○ 個人プロフィール作成 ○ 合宿研修のまとめ ○ マナーとエチケット ○ 勉強と部の両立 ○ 学生会役員による学生会紹介	○ 入学の動機と将来の仕事 ○ 進路情報紹介・進路の選択肢 ○ 第５学年及び専攻科学生の講話 「先輩の生き方に学ぶ」 ○ 専門学科教員の講話
２年	○ グループ討論 ○ 情報化社会とコミュニケーション ○ 宿泊旅行のまとめ ○ 留学生講話	○ 技術と環境問題 ○ 理想の技術者とは ○ 人生の設計図を描いてみる ○ 卒業生講話
３年	○ 高専祭のクラス企画の立案 ○ リーダの資質とは ○ 最近の社会情勢の議論 ○ 現代の社会問題に関する議論	○ 将来の専門分野の展望 ○ 進路へ向けた学習計画（進路設計） ○ 職業適性検査 ○ 技術者倫理 ○ 卒業生・企業人講話
共通	○ 作文 ○ ビデオ鑑賞による感想文 ○ 健康を考える ○ クラスレクリエーション行事 ○ セクシュアル・ハラスメント講話 ○ ボランティア活動の意義と実践	○ 学年ごとの学習目標と抱負 ○ 試験結果の分析・評価法 ○ 長期休業中の学習計画

※ホームルーム年間指導計画の中に，その年度の LHR の計画も上記のテーマ例を参考にして組み入れておくとよい。また，講話やボランティア活動等は学年ごとにまとまって企画することもできる。

（出典　学生課資料）

資料２－２－③－４

平成２３年度

Ⅰ 学生生活指導に関する申し合わせ事項

Ⅱ 課外指導に関する申し合わせ事項

Ⅲ 課外指導に伴う経費に関する申し合わせ事項

目　　次

頁

Ⅰ　学生生活指導に関する申し合わせ事項

１．基本的な指導方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １
２．学生生活心得 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２
　Ａ　校内生活
　Ｂ　校外生活
３．表彰及び懲戒処分に関する申し合わせ・・・・・・・・・・・・・・・ ３
　Ａ　学生の表彰について
　Ｂ　処分を伴う学生指導に関する申し合わせ・・・・・・・・・・・・・ ６
４．特別欠席について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８

Ⅱ　課外指導に関する申し合わせ事項・・・・・・・・・・・・・・・・・ １０
（１）「課外指導」の対象
（２）課外活動の教育的意義
（３）クラブ顧問の役割について
（４）クラブ顧問依頼に関する申し合わせについて
（５）試験期間の活動について
（６）合宿指導
（７）高専祭のパート顧問について

Ⅲ　課外指導に伴う経費に関する申し合わせ事項・・・・・・・・・・・・・１２
（１）課外指導等の種類
（２）指導手続き
（３）　指導手当（課外活動，Ｈ・Ｒ学生指導を含む）
（４）交通費
（５）支給手続き
（６）クラブ顧問に対する物品の貸与について
（７）その他

【別記１】クラブ顧問依頼に関する申し合わせ（平成１９年度版）・・・・・・１３
【別記２】合宿心得 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
【別記３】学生指導(生活指導,課外指導)における指導手続等について・・・・１５

（出典　学生課資料）

資料２－２－③－５

【別記1】

クラブ顧問依頼に関する申し合わせ （平成19年度版）

１．この申し合わせにおけるクラブとは，体育系部，文化系部及びロボットラボラトリーである。
２．教員は，必ず１クラブの顧問の任に当たることとし，複数クラブの顧問になることは原則としてできない。
３．各クラブの顧問の人員数は２名以上とし，その数は，別に定める「クラブ顧問適正人数算定表」による。
４．特別な事情により，１人の教員が２クラブの顧問を兼任せざるを得ないときは，学生委員会の承認を必要とする。
５．各教員が顧問を担当するクラブは，平成１５年度を基点に４年間を一サイクルとして決めることとする。そこで，どのクラブの顧問を担当するかは，次の手続きによる。
　① 適当な時期（クラブ活動等が多忙時期以外）に，「顧問アンケート調査」を行う。（指定調査書配布）
　② 適当な時期（クラブ活動等が多忙時期以外）に，「クラブの顧問をお願いしたい教員名の調査書」を各クラブの部長に提出してもらう。（指定調査書配布）
　③ 適当な時期（クラブ活動等が多忙時期以外）に，当年度と次年度の活動状況に関する「クラブ活動実態調査書」を，クラブのチーフ顧問に提出してもらう。（指定調査書配布）
　④ ②及び③の資料を参考にして，クラブ間の顧問業務労力の格差を是正することを目的とした「クラブ顧問適正人数算定表」を作成する。（担当主事補）
　⑤ ①，②及び④の資料を参考にして，担当主事補（または主事）は，各クラブにチーフ顧問を含む２名程度の顧問を先ず決める。
　⑥ ④の算定表と⑤で配置できた人数との差分については，各クラブチーフ顧問の意見，①及び②の資料を参考にして決める。（主事または担当主事補）
　⑦ ⑥で調整不可能な場合は，関係者の間で抽選によって決めることとする。
６．ここで決められた顧問の任期は原則として，平成１９年度～２２年度とする。
７．６．で定められた任期中であっても，当事者同士で合意があったときは，変更は可能であるが，学生委員会での承認を必要とする。
８．退職等により，欠員が生じたときは，新任教員を含めたクラブ顧問変更希望者の間で調整する。なお，調整不可能の場合には，関係者の間で抽選により決めることとする。
９．著しく部員に変動があったり，学生会の監査で問題が指摘された場合は，６．で定められた期間内であっても，学生委員会（または担当主事補）に諮り顧問を調整することがある。

（出典　学生課資料）

資料２－２－③－６

平成２３年度　　クラブ・同好会　顧問教員・部長学生　一覧

No.	部名(五十音順)	顧問教員名（◎印：チーフ顧問，五十音順）
1	アーチェリー部	◎佐竹　　堺井
2	剣道部	◎久志野　岡島
3	サッカー部	◎堀川　　青山　　小山　　嶋田
4	柔道部	◎大柏　　笹岡　　松岡
5	ソフトテニス部	◎大島　　畑口　　吉本
6	卓球部	◎立田　　梅田　　高田
7	テニス部	◎石井　　近藤　　鈴木
8	バスケットボール部	◎杉本　　木本　　小林　　千葉(誠) 津田
9	バドミントン部	◎宮越　　富樫　　沼田　　降旗
10	男子バレーボール部	◎小西　　石本
11	女子バレーボール部	◎土橋　　十河
12	野球部	◎古崎　　櫻井　　戸村　　中村　　水野
13	ラグビー部	◎根本　　江頭　　本荘　　横井
14	陸上部	◎井口　　宇野　　篁
15	軽音楽部	◎岡田　　橋本
16	茶華道部	◎平野　　大澤
17	吹奏楽部	◎倉持　　冨永　　長岡
18	パソコン部	◎有馬　　森川
19	発明研究会	◎谷口　　千葉(良)

No.	同好会名(五十音順)	顧問教員名（◎印：チーフ顧問，五十音順）
1	旭川工業高等専門学校 放送局という名の同好会	◎本荘　　降旗　　□
2	イラスト同好会	◎畑口
3	カヌー同好会	◎久志野
4	水泳同好会	◎平野　　久志野
5	数学同好会	◎降旗　　長岡
6	ストリートダンス同好会	◎木本
7	大東流研究会	◎大柏

No.	その他部名	顧問教員名（◎印：チーフ顧問，五十音順）
1	ロボット･ラボラトリー	◎三井　　阿部　　後藤　　今野

（出典　学生課資料）

資料２－２－③－７

外部コーチによる課外活動指導状況

年度	茶華道部	指導時間（時間）	サッカー部	指導時間（時間）	ラグビー部	指導時間（時間）	剣道部	指導時間（時間）	野球部	指導時間（時間）
18		75 75 75		60		490		6		270
19		66 66 66		86		459				
20		45 44 12 45 4		141		419				
21		52 44 4 44 12		140		377				
22		68 68 11 68		180		476				

（出典　学生関係資料）

（分析結果とその根拠理由）

学級担任によるクラス指導を基本として，学科長・科長，さらに低学年では副担任制を導入した指導体制により教育活動の支援が行われている。また，課外活動指導については全教員による指導体制が敷かれ十分な支援が行われている。

以上のことから，教員の教育活動を実施するための支援体制が機能している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・　本校の専門学科は４学科から構成され，産業社会における技術の変遷に対応して学科の分離・改組，名称変更，教育課程の見直し・改編等が適宜行われてきた。

低学年については担任業務を補助する立場の副担任を配置し，クラス指導の充実を期している。

また，体験型学習の技術的な支援を行う技術創造部は，教育の支援組織としての機能以外に，独自の活動が定着している。

（改善を要する点）
該当なし

（３）基準２の自己評価の概要

準学士課程は，工業の広い分野をカバーする基盤的な学科である機械システム工学科，電気情報工学科，システム制御情報工学科及び物質化学工学科の４学科で構成・整備されている。さらに，これらの各専門学科で修得した工学に関する専門技術・知識を基礎として４専門学科を２専攻に集約する形で体系的に構成された専攻科課程が設置され，より広範な技術分野に対応できる技術教育を可能としている。これらの教育活動を可能とする施設・設備として，実験・実習のための技術創造部，情処理技術教育のための情報処理センターが整備されている。また，地域共同テクノセンターは，地域企業等からの技術開発相談や共同研究の問い合わせ等に対応するとともに，旭川工業高等専門学校産業技術振興会を中心とした旭川地域の企業や市内金融機関等と協力して，産学官連携活動の推進を図る等，本校と地域の交流を推進する活動を行っている。

教育活動を展開する上で必要な運営体制については，教育課程の編成及び教務に関する事項の審議を行う教務委員会及びその専門委員会として，カリキュラム編成等の教務関連事項を審議する教育課程等検討部会が設置されている。さらに，教育活動等に関する点検・評価の実施とその改善を提言するための教育点検改善委員会，そして将来計画，中期目標・中期計画，各種認証評価対応のために企画委員会が設置されている。最終的には運営委員会において教育活動全体について審議され，実施に移される適切な体制が整備され，機能している。

一般人文科・理数科教員と専門学科教員との連携については，双方の教員が各種委員会の構成員として，教育課程の審議・改編についての審議ができる体制が確立され，さらに関連科目間の教授内容の調整や混合学級に関する意見交換の機会が持たれる等の連携体制が確立されている。

教育活動の支援体制は，準学士課程の全クラスに担任教員を配置するとともに，特に第１，２学年においては副担任を配置し，クラス運営や学生指導に対する支援体制が確立されている。専攻科課程についても専攻主任が配置されており，同様の業務を担当している。

基準３　教員及び教育支援者等

（１）観点ごとの分析

観点３－１－①：　教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の一般科目では，観点１－１－①で述べている教育理念や教育目標を達成するため，専任教員20人，再雇用教員１人，非常勤講師21人（専攻科担当を含む）の一般科教員を配置している（資料３－１－①－１）。教員は，それぞれの専門分野に適合した教科目を担当している（資料３－１－①－２）。

本校では，工学の基礎となる数学教育の充実を図るため，数学に重点を置いた教員配置となっている。また，外国語を鍛え，外国文化に対する理解を深めるため，英語授業の一部でAll English 授業を行うなど，外国語教育の充実が図られている。

なお，高等専門学校設置基準第６条第２項によれば，本校では４学級であるので一般科目を担当する専任者の数は18人を下ってはいけないが，本校では一般科目専任教員が20人であり，全員が准教授以上である。

資料３－１－①－１

一般科目担当教員の数　　（平成23年4月1日現在）

	数学	英語	国語	物理 化学	社会	体育	音楽 美術	心理学	韓国語	哲学 文学	合計
教授	3	2	1	1	2	0	0	0	0	0	9
准教授	2	3	1	2	1	2	0	0	0	0	11
助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	5	5	2	3	3	2	0	0	0	0	20
非常勤講師	0	7	5	4	0		1	1	1	2	21
嘱託教授	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	6	12	7	8	3	2	1	1	1	2	42

（出典　総務課資料）

資料３－１－①－２

平成23年度一般科目担当教員の専門分野と担当授業科目

専任教員

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	近藤　真一	工学博士	数学教育	数学ⅠA, 数学ⅠB, 数学ⅡA, 数学ⅡB
教授	長岡　耕一		数学教育, 応用代数学	数学ⅠA, 数学ⅠB, 数学ⅡA, 数学Ⅲ, 応用数学III, IV
教授	岡島　吉俊	博士(工学)	物性物理学, 固体電子論, 実験物理学	物理I, 応用物理 I,Ⅱ, 応用物理実験
教授	降旗　康彦	博士(理学)	相対論, 宇宙論	数学IA, 数学ⅠB, 数学Ⅲ, 応用数学I, II, III, IV
教授	十河　克彰	教育学修士	英語教育(EFL), 英語イディオム	英語Ⅲ, 英語演習, 英語IVA, 英語特講Ⅰ
教授	平野　友彦	文学修士	日本史	現代社会, 歴史, 史学A, B
教授	石本　裕之	文学修士	中国哲学, 日本文学, 教科教育学	国語I, 国語, 文学A, 哲学
教授	谷口　牧子	博士(法学)	国際関係法学, 新領域法学(知的財産法)	地理, 法学Ⅰ, Ⅱ, 国際関係論, 産業財産権論
教授	鈴木　智己	修士(文学)	英語教育	英語Ⅰ, 英文法, 英語演習, 英語IVB
准教授	青山　陽子	Ph.D	高分子化学	化学Ⅰ, 化学Ⅱ, 基礎化学, 基礎化学実験, 有機化学特論
准教授	冨永　徳雄	博士(理学)	関数解析学, 数理物理学	数学ⅡA, 数学Ⅲ, 応用数学I, II
准教授	大澤　智子	修士(理学)	関数解析学, 作用素論	数学ⅠA, 数学ⅠB, 数学ⅡB, 数学III, 応用数学I, II
准教授	久志野　彰寛	博士(理学)	放射線検出器, 超伝導工学	情報基礎, 物理II, 応用物理Ⅱ,応用物理実験
准教授	根本　聡	文学修士	西洋史, 経済史, 政治学	現代社会, 歴史, 経済学Ⅰ, Ⅱ, 政治学
准教授	小西　卓哉	修士(教育学)	スポーツ科学・体育史	保健, 体育Ⅰ, II
准教授	倉持　しのぶ	博士(文学)	日本上代文学	国語I, 国語,
准教授	本荘　忠大	博士(文学)	英米・英語圏文学	英語II, 英語IVA, 英語IVB, 文学B(外国文学)
准教授	櫻井　靖子	修士(教育学)	言語学	英語Ⅰ, 英文法, 英語演習
准教授	水野　優子	博士(文学)	英語学	英語Ⅰ, 英文法, 英語演習
准教授	木本　理可	修士(教育学)	スポーツ生理学	保健, 体育Ⅰ, II

非常勤講師

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
非常勤講師	末武英一		美術	美術
非常勤講師	佐藤奈々恵		英語学	英語II, 英語III, 英語IVB
非常勤講師	David M. Fairweather		英語学	基礎英会話
非常勤講師	小林さつき		国語学	国語
非常勤講師	Harry E. Creagen		英語学	英語III
非常勤講師	片山礼子		国語学	言語表現
非常勤講師	岸美千代		国語学	言語表現
非常勤講師	寒崎秀一		英語学	英語V
非常勤講師	月岡道晴		文学	文学B
非常勤講師	信木春雄		哲学	哲学(西洋哲学)
非常勤講師	越智幸一		心理学	心理学
非常勤講師	Sook P. Wong		英語学	英語特講II
非常勤講師	金　美智江		英語学	第二外国語I (韓国語)
非常勤講師	坂井　勝		国語学	国語
非常勤講師	藤兼厚子		国語学	日本語
嘱託教授	山田敏清	博士(博士)	数学	数学ⅡB
土肥　宣昭	非常勤講師		物理学	物理II
森田　穣	非常勤講師		化学	化学Ⅱ, 物理化学実験
田上龍一	非常勤講師		地学	理科総合(地学分野)
清水将英	非常勤講師		物理学	応用物理I, 応用物理実験

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

一般科目担当教員の構成は，高等専門学校設置基準を満たしつつ，それぞれの専門分野を考慮して配置している。教育目標である工学基礎及び専門基礎をしっかり身に付けさせることや，国際的視野を持った技術者を育成することを実践するため，数学・英語に重点を置いた配置となっている。

以上のことから，教育目標を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されている。

観点３－１－②：　教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校専門学科では，観点１－１－①で述べている具体的な教育目標を達成するため，準学士課程は，機械システム工学科，電気情報工学科，システム制御情報工学科及び物質化学工学科の４学科で構成されている。各専門学科の教員定員は基本的に10人であるが，物質化学工学科においては，第４，５学年の高学年で材料化学及び生物化学の２コース制を導入していることから，12人の定員が配置されている。専門科目担当教員の配置は，資料３－１－②－１に示しており，その数は専任教員40人，非常勤講師３人となっている。教員は資料３－１－②－２～５に示すように，各自の専門分野と適合した授業科目を担当している。教育目標である「３．工学基礎及び専門基礎をしっかり身に付けさせ，広い専門的視野と総合的判断力を持たせる」ことの実現のため，修士又は博士の学位を取得した教員及び企業や大学等の勤務経験者が各学科に配置されている（資料３－１－②－２～６）。

なお，高等専門学校設置基準第６条第３項によれば，工学に関する４学科を置いている場合，教員（助手を除く）のうち，専門科目を担当する専任教員の数は29人を下ってはならないが，本校では専門科目担当の専任教員40名が助教以上である。また，高等専門学校設置基準第８条には，「専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数は，一般科目を担当する専任教員数と専門科目を担当する専任教員数との合計数の２分の１を下ってはならない」とあり，４学科構成では24人となるところ，本校では専門科目を担当する専任教授及び准教授は34人である。

資料３－１－②－１

専門科目担当教員の数　　（平成23年4月1日現在）

	機械システム工学科	電気情報工学科	システム制御情報工学科	物質化学工学科	合計
教授	5	4	4	5	18
准教授	3	4	4	5	16
助教	1	2	2	1	6
助手	0	0	0	0	0
計	9	10	10	11	40
非常勤講師	1	1	0	1	3
合計	10	11	10	12	43

（出典　総務課資料）

資料３－１－②－２

平成23年度専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（機械システム工学科）

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目	実務経験
教授	立田　節雄	博士(工学)	熱工学	工学基礎演習, 機械製図, 機械製作実習, 力学基礎, 機械システム工学実験I, II, 企業実習, 熱エネルギー工学II, 機械システム工学演習, 卒業研究,	
教授	石井　悟	博士(工学)	機械材料・材料力学	工学基礎演習I, 材料力学Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, , プログラミング応用Ⅰ, Ⅱ, 機械製図I, 機械システム工学実験I, II, 卒業研究, 計算力学	有
教授	岡田　昌樹	経営管理修士(専門職), 技術士	設計工学・機械機能要素・トライボロジー, 経営学	機械加工学, 生産技術論, メカトロニクスIII, 機械製作実習I, 機械創造実習, 機械システム工学実験I, II, 卒業研究	有
教授	後藤　孝行	博士(工学)	設計工学, 機械機能要素・トライボロジー	センシング工学Ⅰ, Ⅱ, 制御工学Ⅰ, Ⅱ, プログラミング基礎, CAD/CAM, 機械設計演習Ⅰ, 機械創造実習, 機械システム工学実験I, II, 卒業研究, ロボティクス	
教授	宇野　直嗣	博士(工学)	流体工学, 設計工学・機械機能要素・トライボロジー	CAD/CAM, 機械創造実習, 流体力学Ⅰ, Ⅱ, 機械設計演習Ⅱ, 機械システム工学実験I, II, 流体工学I, 卒業研究,	
准教授	江頭　竜	博士(工学)	流体工学	工学基礎演習I, 熱力学Ⅰ, Ⅱ, 機械システム工学実験I, II, 熱エネルギー工学I, 流体工学II, 卒業研究,	有
准教授	横井　直倫	博士(工学)	計測工学	力学演習, 機械要素Ⅰ, Ⅱ, メカトロニクスⅠ, 機械システム工学実験I, II, メカトロニクスIV, 機械システム工学ゼミナール, 卒業研究, オプトエレクトロニクス	有
准教授	千葉　良一	博士(工学)	機械材料・材料力学, 複合材料・物性, 材料加工・処理	機械製図I, 材料加工学, 機械材料学, 機械システム工学実験I, II, 卒業研究, 塑性加工学	有
助教	松岡　俊佑	博士(工学)	計算機システム・ネットワーク	工学基礎演習, 電気工学, メカトロニクスⅡ, 機械システム工学実験I, II, 機械システム工学演習, 卒業研究	
非常勤	木曽直吉		機械力学	機械力学I, II	

（出典　総務課資料）

資料３－１－②－３

平成23年度専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（電気情報工学科）

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目	実務経験
教授	土橋　剛	博士(工学)	電子・電気材料工学	工学基礎演習, 機械製図, 機械製作実習, 力学基礎, 機械システム工学実験I, II, 企業実習, 熱エネルギー工学II, 機械システム工学演習, 卒業研究,	
教授	吉本　健一	博士(工学)	電子・電気材料工学	工学基礎演習I, 材料力学Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, , プログラミング応用Ⅰ, Ⅱ, 機械製図I, 機械システム工学実験I, II, 卒業研究, 計算力学	有
教授	小山　貴夫	博士(工学)	計算機システム・ネットワーク	機械加工学, 生産技術論, メカトロニクスIII, 機械製作実習I, 機械創造実習, 機械システム工学実験I, II, 卒業研究	有
教授	大島　功三	博士(工学)	通信・ネットワーク工学	センシング工学Ⅰ, Ⅱ, 制御工学Ⅰ, Ⅱ, プログラミング基礎, CAD/CAM, 機械設計演習Ⅰ, 機械創造実習, 機械システム工学実験I, II, 卒業研究, ロボティクス	
教授	有馬　達也	工学修士	応用光学・量子光工学	CAD/CAM, 機械創造実習, 流体力学Ⅰ, Ⅱ, 機械設計演習Ⅱ, 機械システム工学実験I, II, 流体工学I, 卒業研究,	有
准教授	笹岡　久行	博士(工学)	知能情報学	工学基礎演習I, 熱力学Ⅰ, Ⅱ, 機械システム工学実験I, II, 熱エネルギー工学I, 流体工学II, 卒業研究,	有
准教授	篁　耕司	博士(理学)	物性Ⅰ, 薄膜・表面界面物性, 電子・電気材料工学	力学演習, 機械要素Ⅰ, Ⅱ, メカトロニクスⅠ, 機械システム工学実験I, II, メカトロニクスIV, 機械システム工学ゼミナール, 卒業研究, オプトエレクトロニクス	有
准教授	井口　傑	博士(工学)	電力工学, 電力変換, 電気機器	機械製図I, 材料加工学, 機械材料学, 機械システム工学実験I, II, 卒業研究, 塑性加工学	有
助教	畑口　雅人	修士(工学)	工学基礎	工学基礎演習, 電気工学, メカトロニクスⅡ, 機械システム工学実験I, II, 機械システム工学演習, 卒業研究	
助教	嶋田　鉄兵	博士(工学)	ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｼｽﾃﾑ, Webシステム	機械力学I, II	
非常勤	菊田裕二			電力システム工学, 環境エネルギー工学	有

（出典　総務課資料）

資料３－１－②－４

平成23年度専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（システム制御情報工学科）

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目	実務経験
教授	今野　廣	工学博士	計測工学，情報処理	工学基礎演習I，情報処理，形状処理基礎，工学実験II，数値解析I，II，工学実験III，卒業研究	有
教授	橋本　直樹	工学博士	設計工学・機械機能要素・トライポロジー	工学基礎演習I，工学基礎，コンピュータグラフィックス，電子計算機I，II，工学実験I，II，III，自動設計学I，II，卒業研究	
教授	三井　聡	博士(工学)	知能機械学，機械システム	工学基礎演習I，工作実習，機械要素設計，電子工学I，II，自動加工学I，II，メカトロニクスI，II，卒業研究	有
教授	佐竹　利文	博士 (情報工学)	知能機械学，機械システム	工学基礎演習I，CAD/CAM演習，ロボット機構学I，II，工学実験I，III，システム工学I，II，卒業研究，	有
准教授	大柏　哲治	工学修士	機械力学・制御	製図，機械製図，工業力学I，II，加工学II，工学実験I，II，卒業研究	有
准教授	阿部　晶	博士(工学)	機械力学・制御	工学基礎演習I，材料力学I，II，熱・流体工学I，II，企業実習，計算力学，工学実験III，卒業研究	有
准教授	戸村　豊明	博士 (情報科学)	知覚情報処理，知能ロボティクス	電子計算機概論，電気工学，計算機援用設計製図I，II，工学実験I，III，計算力学，卒業研究	
准教授	堀川　紀孝	博士(工学)	機械材料，材料力学	工学基礎演習I，工学基礎，材料学，加工学I，工学実験I，II，工業英語，卒業研究	有
助教	森川　一	工学修士	医用生体工学・生体材料学，医用システム，教育工学	工学基礎演習I，制御工学I，II，III，IV，工学実験I，III，卒業研究	有
助教	中村　基訓	博士(工学)	マイクロ・ナノデバイス，電子デバイス・電子機器	工学基礎演習I，工学基礎，計測工学I，II，工学実験II，卒業研究	有

（出典　総務課資料）

資料３－１－②－５

平成23年度専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（物質化学工学科）

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目	実務経験
教授	小林　渡	理学博士	科学教育，発生生物学	理科総合（生物分野），基礎化学，化学基礎演習，基礎化学実験，基礎生物学，生化学実験，生物環境化学，企業実習，物質化学工学演習II，卒業研究，生物化学工学実験，基礎生命科学，	有
教授	富樫　巌	博士(農学) 技術士	微生物利用，微生物制御	基礎化学，化学基礎演習，基礎化学実験，微生物学，化学工学実験，生物工学Ⅰ，Ⅱ，卒業研究，生物化学工学実験，応用微生物学	有
教授	津田　勝幸	博士(工学)	有機化学，高分子化学	基礎化学，化学基礎演習，有機化学Ⅱ，化学工学III，化学工業，高分子化学，基礎工学概論II，卒業研究，材料化学実験	有
教授	宮越　昭彦	博士(理学)	環境技術・環境材料，触媒・資源化学プロセス	基礎化学，化学基礎演習，分析化学，無機分析化学実験，材料化学Ⅰ，Ⅱ，化学工業，卒業研究，材料化学実験，環境分析，反応工学，	有
教授	古崎　睦	博士(工学)	環境関連化学，無機材料・物性	基礎化学，化学基礎演習，無機化学Ⅰ，II，無機分析化学実験，機器分析，材料化学ゼミナール，卒業研究，材料化学実験，無機化学特論	
准教授	梅田　哲	博士(工学)	高分子化学，有機化学	基礎化学，化学基礎演習，基礎化学実験，有機化学Ⅰ，有機化学実験，機器分析，材料化学Ⅰ，Ⅱ，材料化学ゼミナール，物質化学工学演習Ⅰ，卒業研究，材料化学実験，エネルギー工学	
准教授	髙田　知哉	博士(工学)	科学教育，物理化学	基礎化学，化学基礎演習，基礎化学実験，情報処理，物理化学II，III，化学工学IV，物理化学実験，，物質化学工学演習Ⅱ，基礎工学概論，卒業研究，生物化学工学実験，物理化学特論	
准教授	杉本　敬祐	博士(工学)	構造生物化学	基礎化学，化学基礎演習，基礎化学実験，情報処理，生化学，生化学実験，生物工学Ⅰ，Ⅱ，生物化学工学ゼミナール，物質化学工学演習Ⅱ，卒業研究，生物化学工学実験，タンパク質化学	
准教授	千葉　誠	博士(工学)	物理化学，電気化学，腐食防食化学	基礎化学，化学基礎演習，基礎化学実験，物理化学I，情報処理演習，化学工学実験，生物化学工学ゼミナール，卒業研究，生物化学工学実験，電気化学	
准教授	沼田　ゆかり	博士(工学)	高分子・繊維材料	在外研究員（フランス滞在中）	有
助教	堺井　亮介	博士(工学)	高分子化学，機能物質化学	基礎化学，化学基礎演習，基礎化学実験，化学工学I，II，有機化学実験，化学工学実験，卒業研究，材料化学実験	有
非常勤講師	源津憲昭			基礎工学概論I	有

（出典　総務課資料）

資料３－１－②－６

各学科の学位取得者及び企業･大学･研究所経験者の配置状況

学科名	学位取得者		企業経験者	大学･研究所	全教員数
	修士	博士			
機械システム工学科	1	8	3	2	9
電気情報工学科	2	8	3	3	10
システム制御情報工学科	2	8	5	3	10
物質化学工学科	0	11	2	4	11

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

専門科目担当教員の構成は，高等専門学校設置基準を満たしつつ，それぞれの専門分野を考慮してバランスよく配置している。専任教員全員が修士以上の学位を取得しており，深く専門的知識を教授できる教育体制がとられている。また，「実践的研究開発型技術者」を育成するために，企業や大学・研究所に勤務経験のある教員を各専門学科に複数名配置している。

以上のことから，各学科の専門科目担当教員が，適切に配置されている。

観点３－１－③：　専攻科を設置している場合には，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の専攻科課程は生産システム工学専攻及び応用化学専攻の２専攻から構成されている。一般科教員は，主に両専攻に共通する教養科目（必修），専門関連科目（必修・選択）を担当している（資料３－１－③－１）。４専門学科の教員は，相互に両専攻に共通する専門関連科目（必修・選択）を担当すると共に，各専攻の専門的科目（必修・選択）を担当している。いずれの専攻においても，各専攻の教育目標を達成するため，教員の専門分野と担当授業科目を適合させている（資料３－１－③－２～３）。

資料３－１－③－１

平成23年度専攻科の一般科目担当教員の専門分野と担当授業科目

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
准教授	櫻井　靖子	修士(教育学)	言語学	英語講読
教授	降旗　康彦	博士(理学)	相対論，宇宙論	応用解析学I
准教授	青山　陽子	Ph.D	高分子化学	環境科学，機能性材料
准教授	冨永　徳雄	博士(理学)	関数解析学，数理物理学	応用解析学II

（出典　総務課資料）

資料３－１－③－２

平成23年度専攻科の専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（生産システム専攻）

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目	実務経験
教授	立田　節雄	博士(工学)	熱工学	エネルギー工学特論, 生産システム工学特別研究, 生産システム工学特別ゼミナールI, II, 生産システム工学特別研究, 応用熱工学	
教授	石井　悟	博士(工学)	機械材料・材料力学	生産システム工学特別研究, 生産システム工学特別ゼミナールI, II, 連続体力学	有
教授	岡田　昌樹	経営管理修士(専門職), 技術士	設計工学・機械機能要素・トライボロジー, 経営学	技術者倫理, 生産システム工学特別ゼミナールI, II	有
教授	後藤　孝行	博士(工学)	設計工学, 機械機能要素・トライボロジー	生産システム工学特別実験, 生産システム工学特別ゼミナールI, II, 形状処理工学特論	
教授	宇野　直嗣	博士(工学)	流体工学, 設計工学・機械機能要素・トライボロジー	生産システム工学特別研究, 生産システム工学特別実験, 生産システム工学特別ゼミナールI, II, 圧縮性流体力学	
教授	土橋　剛	博士(工学)	電子・電気材料工学	生産システム工学特別ゼミナールI, II, 集積回路設計	
教授	吉本　健一	博士(工学)	電子・電気材料工学	生産システム工学特別研究, 生産システム工学特別ゼミナールI, II, 固体電子工学	有
教授	小山　貴夫	博士(工学)	計算機システム・ネットワーク	工学情報処理演習, 生産システム工学特別実験, 生産システム工学特別ゼミナールI, II	有
教授	大島　功三	博士(工学)	通信・ネットワーク工学	電気回路特論, 生産システム工学特別研究, 生産システム工学特別ゼミナールI	
教授	今野　廣	工学博士	計測工学, 情報処理	生産システム工学特別研究, 生産システム工学特別ゼミナールI, II	有
教授	橋本　直樹	工学博士	設計工学・機械機能要素・トライポロジー	生産システム工学特別ゼミナールI, II	
教授	三井　聡	博士(工学)	知能機械学, 機械システム	メカトロニクス特論, 創造工学, 生産システム工学特別実験, 生産システム工学特別ゼミナールI, II	有
教授	佐竹　利文	博士(情報工学)	知能機械学, 機械システム	生産システム工学, 生産システム工学特別研究, 生産システム工学特別ゼミナールI, II, 知能機械	有

准教授	江頭　竜	博士(工学)	流体工学	計算力学特論, 生産システム工学特別研究, 生産システム工学特別実験, 生産システム工学特別ゼミナールI, II	有
准教授	横井　直倫	博士(工学)	計測工学	生産システム工学特別ゼミナールI, II	有
准教授	千葉　良一	博士(工学)	機械材料・材料力学, 複合材料・物性, 材料加工・処理	生産システム工学特別実験, 生産システム工学特別ゼミナールI, II	有
准教授	有馬　達也	工学修士	応用光学・量子光工学	生産システム工学特別実験, 生産システム工学特別ゼミナールI, II	有
准教授	笹岡　久行	博士(工学)	知能情報学	生産システム工学特別ゼミナールI, II, 情報通信工学	有
准教授	篁　耕司	博士(理学)	物性Ｉ, 薄膜・表面界面物性, 電子・電気材料工学	生産システム工学特別ゼミナールI, II, 電磁気学特論	有
准教授	井口　傑	博士(工学)	電力工学, 電力変換, 電気機器	環境マネジメント, 生産システム工学特別ゼミナールI, II	有
准教授	大柏　哲治	工学修士	機械力学・制御	生産システム工学特別ゼミナールI, II	有
准教授	阿部　晶	博士(工学)	機械力学・制御	システム制御工学, 生産システム工学特別研究, 生産システム工学特別実験, 生産システム工学特別ゼミナールI, II	有
准教授	戸村　豊明	博士(情報科	知覚情報処理, 知能ロボティクス	生産システム工学特別研究, 生産システム工学特別ゼミナールI, II, 画像処理工学	
准教授	堀川　紀孝	博士(工学)	機械材料, 材料力学	生産システム工学特別研究, 生産システム工学特別ゼミナールI, II, 材料工学特論	有
助教	松岡　俊佑	博士(工学)	計算機システム・ネットワーク	生産システム工学特別研究, 生産システム工学特別ゼミナールI, II	
助教	畑口　雅人	修士(工学)	工学基礎	生産システム工学特別実験, 生産システム工学特別ゼミナールI, II	
助教	嶋田　鉄兵	博士(工学)	ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｼｽﾃﾑ, Webシステム	生産システム工学特別ゼミナールI, II	
助教	森川　一	工学修士	医用生体工学・生体材料学, 医用システム, 教育工学	生産システム工学特別研究, 生産システム工学特別ゼミナールI, II	有
助教	中村　基訓	博士(工学)	マイクロ・ナノデバイス, 電子デバイス・電子機器	センサー工学, 生産システム工学特別ゼミナールI, II	有

（出典　総務課資料，旭川工業高等専門学校シラバス2011）

資料３－１－③－３

平成23年度専攻科の専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目(応用化学専攻)

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目	実務経験
教授	小林　渡	理学博士	科学教育，発生生物学	生命科学，応用化学特別研究，応用化学特別実験，応用化学特別ゼミナールI，II	有
教授	富樫　巌	博士(農学)，技術士	微生物利用，微生物制御	応用化学特別研究，応用化学特別実験，応用化学特別ゼミナールI，II，応用微生物学特論	有
教授	津田　勝幸	博士(工学)	有機化学，高分子化学	応用化学特別研究，応用化学特別実験，応用化学特別ゼミナールI，II，応用有機化学特論	有
教授	宮越　昭彦	博士(理学)	環境技術・環境材料，触媒・資源化学プロセス	応用化学特別研究，応用化学特別実験，応用化学特別ゼミナールI，II，環境触媒化学特論	有
教授	古崎　睦	博士(工学)	環境関連化学，無機材料・物性	応用化学特別研究，応用化学特別実験，応用化学特別ゼミナールI，II，機器分析特論	
准教授	梅田　哲	博士(工学)	高分子化学，有機化学	応用化学特別研究，応用化学特別実験，応用化学特別ゼミナールI，II，複合	
准教授	髙田　知哉	博士(工学)	科学教育，物理化学	応用化学特別研究，応用化学特別実験，応用化学特別ゼミナールI，II，化学情報工学	
准教授	杉本　敬祐	博士(工学)	構造生物化学	応用化学特別研究，応用化学特別実験，応用化学特別ゼミナールI，II，生物工学特論	
准教授	千葉　誠	博士(工学)	物理化学，電気化学，腐食防食化学	工業物理化学特論，応用化学特別研究，応用化学特別実験，応用化学特別ゼミナールI，II	
准教授	沼田　ゆかり	博士(工学)	高分子・繊維材料	在外研究員(フランス滞在中)	有
助教	堺井　亮介	博士(工学)	高分子化学，機能物質化学	応用化学特別研究，応用化学特別実験，応用化学特別ゼミナールI，II，有機合成化学	有

(出典　総務課資料，旭川工業高等専門学校シラバス2011)

資料３－１－③－４

平成23年度専攻科非常勤講師

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目	実務経験
非常勤講師	平井しのぶ		英語学	英語会話I	
非常勤講師	野月朱美		英語学	英語会話II	

(出典　総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

専攻課程の一般科目については，修士以上の学位を取得している教員を配置している。専門科目については，ほとんどが博士の学位を取得しているほか，企業や大学の勤務経験のある教員を配置している。いずれの科目においても，担当授業科目と教員の専門分野を適合させている。

以上のことから，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されている。

観点３－１－④：　学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

（観点に係る状況）

教員採用は，教育・研究活動，学生の課外活動指導，厚生補導等の多岐にわたる各種業務が円滑，かつ活発に行われるよう，専門分野，年齢構成，性別，企業経験，教育経験あるいは技術士等の資格等を考慮して行われている（資料３－１－①－２ 前述 76 ページ，資料３－１－②－２～５ 前述 79～82 ページ）。本校の専任教員の年齢構成は，20 代が少ないことを除くと各年代に平均的に分散している（資料３－１－④－１）。特に専門学科の教員採用に際しては，学位取得者や技術士有資格者を採用することから，20 代が少なくなっている。現在，女性教員は８名在籍しており，さらに女性教員の採用に努めている。

資料３－１－④－１

専任教員年齢階級別･性別集計表(平成23年4月1日現在)

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～63代	計	女性教員
機械システム工学科	0	3	4	2	0	9	0
電気情報工学科	1	2	5	2	0	10	0
システム制御情報工学科	0	3	4	2	1	10	0
物質化学工学科	0	5	3	3	0	11	1
一般教科	0	6	8	5	1	20	7
計	1	19	24	14	2	60	8

（出典　総務課資料）

また，教員の教育研究活動を活性化する手段として，校長裁量経費による支援が行われている（資料３－１－④－２）。

教育・研究，学生の厚生・補導等の職務上顕著な功績があった教員については，教職員表彰規程（資料３－１－④－３）に基づいて，随時表彰を行っている（資料３－１－④－４）。

資料３－１－④－２

「校長裁量経費応募」

平成23年5月18日

平成23年度校長裁量経費
重点配分プロジェクト応募要領

校長　高橋英明

「平成23年度校長裁量経費」重点配分プロジェクトを以下のように募集致しますので奮って応募ください。

① 研究促進費：教員個人の研究をサポートするための経費であるが，二人以上の共同研究，学科の垣根を越えた共同研究，あるいは他研究機関との共同研究を奨励する。また，研究成果公開の観点から，これまでの実績（専門誌への投稿，本校紀要への投稿，学会口頭発表，特許申請，競争的資金申請・獲得等）を重視する。また，新任教員のスタートアップ経費についても考慮する。

② 研究成果公開促進費：研究成果を学会誌に投稿する際の投稿料，あるいは別刷り料などをサポートするものである。

③ 教育改善費：教員個人の教育改善をサポートするものであるが，学校全体，学科全体の取り組み，あるいは，学年，教授科目ごとなどの共同改善を優先する。また，本校の国際化促進の取り組みについて考慮する。成果公開の観点から，「高専教育」などにその成果を投稿するなど，これまでの実績を重視する。

④ 学校公開活動費：公開講座，地域公開特別授業，出前授業など本校の社会貢献，地域貢献の取り組みをサポートするものである。成果公開の観点から，「高専教育」などにその成果を投稿するなど，これまでの実績を重視する。

⑤ ISATE 及びISTSへの参加費：高専機構の主催する International Symposium on Advances in Technology(ISATE) 及び Education International Student Symposium on Technology for Sustainability (ISTS)に参加して研究発表，座長等の重要な任務を果たすため，参加費・旅費などをサポートするものである。

⑥ その他：①～⑤に当てはまらないカテゴリーに属するものである。これまでの実績を重視する。

なお，①，③～⑥については，年度当初におけるプロジェクト申請方式とし，②については，投稿論文が受理(accept)された段階において申請するものとする。

（出典　平成23年５月17日　運営委員会資料）

資料３－１－④－３

「教職員表彰規程」

旭川工業高等専門学校教職員表彰規程

（趣旨）
第１条　この規程は，旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教職員の表彰に関して，必要な事項を定めるものとする。
（被表彰者）
第２条　表彰は，本校の教職員で，次の各号の一に該当する者に対して行う。
(1) 職務上顕著な功績等があった者
ア　教育分野（厚生補導を含む。）又は研究分野で，顕著な功績があった者
イ　本校の運営，改革等の推進に顕著な功績があった者
ウ　職務の能率増進に関して発明・考案を行う等顕著な功績があった者
エ　自己の危険を顧みず職務を遂行した者
(2) 職務外において，人命救助，ボランティア活動等で社会的に高い評価を受け，本校の名誉を著しく高めるなど，本校教職員の模範として表彰に値する善行を行った者
(3) 前２号のほか，校長が必要と認める者
（被表彰者の推薦）
第３条　各学科（科）長，事務部長等は，前条に該当する功績等があったと認めるときは，教職員表彰「被表彰者」推薦調書（別紙様式第１）を，校長に提出するものとする。
（被表彰者の決定）
第４条　被表彰者の決定は，運営委員会の議を経て，校長が行う。
（表彰状の授与）
第５条　表彰は，校長が被表彰者に表彰状（別紙様式第２）を授与することにより行う。
２　前項の表彰状に併せて，記念品を贈呈することができる。
（庶務）
第６条　表彰に関する事務は，総務課において処理する。
（雑則）
第７条　この規程に定めるもののほか，表彰の実施に関し必要な事項は，校長が別に定める。

（出典　旭川工業高等専門学校教職員表彰規程）

資料３－１－④－４

「教職員表彰者一覧」

「旭川工業高等専門学校教職員表彰」歴代受彰者一覧

番号	氏名	所属学科(科)	受彰理由	適用条項	受彰年月日
第１号	古　崎　　睦	物質化学工学科	教育分野・厚生補導分野・産学連携活動に対する国立工業高等専門学校協会会長奨励賞受賞	2条1号	H15. 12. 25
第２号	松　久　喜　一	一般理数科	ロボットラボラトリ顧問教員として全国高等専門学校ロボットコンテストにおいて2003年度優勝等に貢献	2条1号	H15. 12. 25
第３号	三　井　　聡	制御情報工学科	同上	2条1号	H15. 12. 25
第４号	後　藤　孝　行	機械システム工学科	同上	2条1号	H15. 12. 25
第５号	阿　部　　晶	制御情報工学科	同上	2条1号	H15. 12. 25
第６号	遠　藤　　剛	機械システム工学科	本校における課外活動指導及び学校運営に対する貢献	2条1号	H17.　6. 21
第７号	三　井　　聡	制御情報工学科	クラブ指導を通じての「もの作り教育」の実践による本校への貢献	2条1号	H18.　1. 24
第８号	松　久　喜　一	一般理数科	永年にわたる本校の教育・研究への貢献	2条3号	H18.　3. 31
第９号	井　口　　傑	電気情報工学科	学生の資質に応じた教育実践と地域貢献による本校への貢献	2条1号	H19.　1. 19
第10号	後　藤　孝　行	機械システム工学科	本校におけるもの作りを通じた学生指導と工学教育の実践	2条1号	H20.　1. 23
第11号	杉　本　敬　祐	物質化学工学科	本校における新規教育方法の開発・発展と地域貢献	2条1号	H21.　1. 23
第12号	高　田　知　哉	物質化学工学科	高専機構教員顕彰における総合評価において校内1位(若手部門)の成果を収めた	2条1号	H22.　1. 26
第13号	古　崎　　睦	物質化学工学科	高専機構教員顕彰における総合評価において校内1位の成果を収めた	2条1号	H23.　1. 26
第14号	阿　部　　晶	制御情報工学科	高専機構教員顕彰における総合評価において校内1位(若手部門)の成果を収めた	2条1号	H23.　1. 26

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

各学科の教員構成については，他の教育機関における教育経歴，又は公設試験研究機関及び企業等における研究・実務経験等の実績も適切に考慮された構成となっている。また，各学科・科における教員の年齢構成は概ね適正な状況である。校長裁量経費の配分においては，教員の研究及び教育マインドを向上させる方策がとられている。教育活動上の功績については，明確な表彰規定に基づき，表彰が行われている。

以上のことから，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられている。

観点３－２－①：　全教員の教育活動に対して，学校による定期的な評価が行われているか。また，その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等，適切な取組がなされているか。

（観点に係る状況）

教育活動の評価については，平成 14 年度から実施されている国立高等専門学校協会及び独立行政法人国立高等専門学校機構による教員顕彰制度に基づいての「教員評価」と，「学生による授業評価」によって行われている。前者の評価は毎年行われ，教員による自己評価，相互評価及び学生による評価に基づいて被表彰者を推薦している（資料３－２－①－１）。一方，２年毎に行われる学生による授業評価は，これまでに継続的に７回実施され，結果はすべて「学生による授業評価」報告書（資料３－２－①－２）としてまとめられている。各教員は，評価結果を前回と比較し，授業改善に努めることが求められている。校長は、全教員に対してインタビューを行い、教員の教育活動を把握すると共に，各教員の取り組みに助言を与えている（資料３－２－①－３，４，５）。

教員組織の充実としては，運営委員会での検討を経て，ネットワークの運用管理や情報リテラシー教育を担う教員を育成するため，助教１名を採用した（資料３－２－①－６）。

資料３－２－①－１

「教員評価要領」　　**参考資料01：教員の教育業績等評価**

第１部　教員による自己評価

自己評価項目についての留意事項

(1) 多くの項目は５年間の平均値を基に記入して下さい。
(2) 着任後５年未満の教員は，その年数の平均値を基に記入して下さい。
(3) 完全にあてはまらないような設問，回答に対しては適宜判断して答えて下さい。
(4) 小数点が出るような場合，小数点以下を四捨五入して下さい。

A．授業等の担当　　＊＊省略
B．FD活動，地域貢献　＊＊省略
C．学生生活指導等　　＊＊省略
D．経歴関係　　＊＊省略

第２部　教員による相互評価

１．評価方法

教育活動，学生生活指導，地域社会への貢献等に積極的に取り組んでいる，本人以外の複数の教員の氏名を記入する。

＊＊省略

第３部　学生による教員の評価

１．評価方法

学生が以下の項目を参考に複数の教員の氏名を記入する。

・教育に熱心な先生
・分かりやすく教えてくれる先生
・勉強の意義を良く教えてくれる先生
・人生に夢を抱かせてくれる先生
・部・サークルの指導，生活指導に熱心な先生

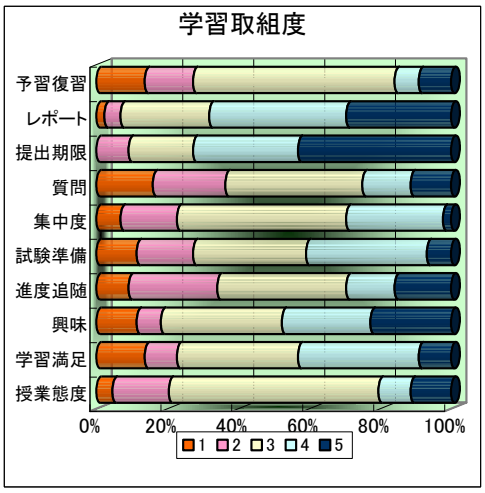
＊＊省略

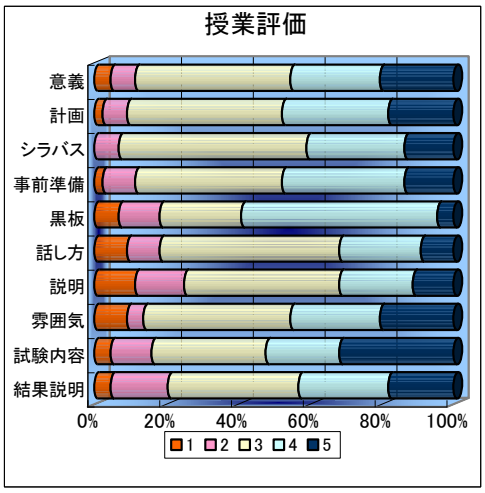
（出典　平成22年11月９日運営委員会参考資料）

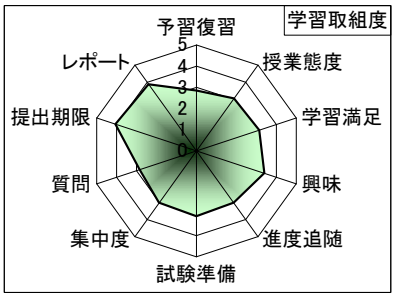
資料３－２－①－２

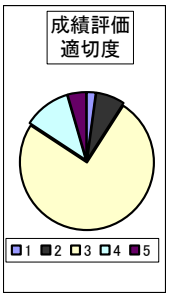
「学生による授業評価」

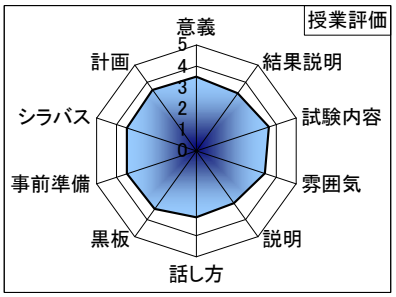
3031	2S	情報処理	通年

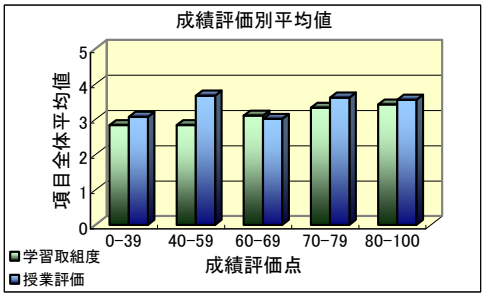


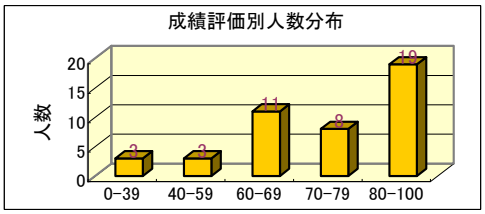












学生コメント（自由記述欄より抜粋）

〇良かった点〇　・ボイス・問題に対するヒント、解答、説明がしっかりしている・授業が早く終わる所。・プリントでプログラムの解答をくばること。・優しい。テストで途中点をいっぱいくれる

△改善してほしい点△　・ていねんをひかえてほしい・教科書がわかりにくい・解答を提示する時がはやすぎるように思うことが時々ある・早くパソコン室に行きたい・配列がさっぱりわからない・テストが難しすぎる。・テストが難しすぎるので、簡単にしてほしい。

教員コメント（意見・改善点・前回比較など）

学生コメントを見る限り、授業は適切に行われていると考えるが、学習取り組み度および授業評価共に、点数が前回より低めである。この理由は不明だが、成績分布では、高得点の学生がかなり多いことから、特に改善を要する点はないと考える。

前回同様、授業に取り残されている学生が散見される。彼らにとっては、平均点が70点台のテストも難しく感じられる。補習も数回行ったが、基本的には論理的な思考力不足が成績不振の理由であり、根本的に力をつけさせることは容易ではない。

在籍　46 人　　有効回答　44 人

（出典　平成23年度学生による授業評価　未定稿）

資料３－２－①－３

「校長インタビュー通知書」

平成23年 5月30日

教　員　各　位
（実施済みの者及び再雇用者を除く）

校　　長

校長インタビューの実施について(通知)

昨年，私が校長として赴任して初めて，教員全員とのインタビューをさせていただきました。先生方一人ひとりのご意見を伺い，本校の管理運営に大変有意義な意見をたくさんいただくことができました。

このインタビューは，大変有効であるものの，先生方の時間を拘束するため，今年度は新任及び昇任教員のみのインタビューに留めるつもりでした。
しかし，5月12日，理事長ヒアリングを受けた際，教員全員に対してインタビューを行うよう機構本部から強く要請されましたので，翻意し，7月4日から教員全員に対する校長インタビューを実施することといたしました。

別添「日程表」のとおり日程を決めさせていただきましたが，都合のつかない場合には，お近くの教員間で調整の上，下記担当までご連絡いただきますようお願いいたします。
なお，大変恐縮ですが，直前の急な用務により当初の日程を変更する場合もあるかと存じますがご容赦ください。

また，インタビューの際の参考としたいので，別添「校長インタビューアンケート用紙」に必要事項を記入の上，6月30日(木)までにe-mailにて下記担当へ提出してください。アンケート用紙は，昨年度のものとほとんど同じ形式ですので，回答内容が同じ部分は，copy-and-pasteで作成してください。
私へ直接お送りいただいても結構ですが，その際には，その旨を下記担当へお知らせください。

教員の皆様には，ご多忙のところご面倒をおかけしますが，ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

※アンケート用紙の提出先アドレス
総務課人事・労務係：s_jinji@asahikawa-nct.ac.jp
校長　　：takahasi@asahikawa-nct.ac.jp

（出典　総務課資料）

資料３－２－①－４

「校長インタビューアンケート用紙」

平成 23 年度　校長インタビューアンケート用紙

氏名		年齢（H23.4.1 現在）	歳
所属学科・科			
本校における職歴	本校採用年月	＿＿年＿＿月、＿＿＿＿として採用	
	昇任年月	＿＿年＿＿月、＿＿＿＿に昇任	
	昇任年月	＿＿年＿＿月、＿＿＿＿に昇任	
本校における活動歴	学級担任、課外活動指導、主事（補）、XX センター委員、XX 委員会委員など、 活動期間を含めて記入してください。多い場合には、その主なものを記入して 下さい。		
本校赴任前の勤務先	大学卒業後、すぐに本校に赴任した場合には、記入する必要はありません。		

平成 23 年度における担当授業科目名（専攻科含む）	単位数	担当クラス数	学期

卒業研究・特別研究学生担当数	年度	卒業研究学生数	特別研究学生数
	平成 22 年度	人	人
	平成 21 年度	人	人

研究業績 2009.11 から 2010.11 まで	Referee 付き論文数	Referee なし論文数・著書冊数	「高専教育」論文数	旭川高専「研究報文」掲載数	特許申請件数	国際会議・全国大会発表件数	支部大会発表件数	科学研究費補助金申請・採択件数	
								申請	採択

最終卒業学校名と現在の連絡状況	＿＿＿＿＿＿＿＿大学＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿研究室 1. 現在でも密接な関係があり、共同研究を行っている。 2. 共同研究は行っていないが、いつでも連絡を取れる状態である。 3. ほとんど接触はなく、連絡も取れない。
所属学会と活動状況・役職	多い場合には、その主なものを記入してください。
特に力を入れている事柄	貴方が、現在最も力を入れている事柄について記入してください。例えば、授業改善、学級運営、学生指導、研究、学校運営、課外活動指導、社会貢献などについて具体的に記入してください。
勤務 Effort#	教育：＿＿＿%、研究：＿＿＿%、管理・運営：＿＿＿%、その他：＿＿＿%
平成 23 年度の目標	教　育　自分自身の教育に対する目標を記入してください。
	研　究　自分自身の研究に対する目標を記入してください。
	その他　例えば、課外活動指導、学生指導、社会貢献等についての目標があれば、記入してください。
現在困っていること	教育・学生指導上の問題，研究上の問題，人間関係上の問題等があれば差し支えない範囲で記入して下さい。
旭川高専の課題と目指すべき方向	旭川高専における管理・運営業務に対して最も問題と思われる事柄，および今後旭川高専が目指すべき方向について意見を記入して下さい。
自由記入欄	

＃勤務 effort：例えば勤務時間８時間のうち、教育に２時間携わったとすると、教育の effort は、25%となります。

（出典　総務課資料）

資料３－２－①－５

「校長インタビューアンケート報告書」

旭川高専における校長による教員インタビュー実施報告書

校長　高橋英明

I. インタビュー実施の目的および経緯

校長就任３年目を迎え、学内のいろいろな規則・慣習・方針などにほころびが見られるとともに、執行部の方針が全教員に周知されていないとの危惧を覚えたため、全教員とのインタビューを計画した。

本年 1 月 4 日の“仕事はじめ”の年頭挨拶においてインタビュー実施の予告を行い、1 月 12 日運営委員会で実施方法等について説明したのち、同日教員全員にインタビュー用アンケート用紙（資料１）を e-mail にて配布するとともに、必要事項を記入の上、2 月 8 日までに返信して頂くよう依頼した。

II. インタビュー実施の概要

期間：平成 22 年 2 月 15 日～4 月 9 日
場所：旭川高専校長室
人数：62 名（100 %、含新任教員）
時間：約 1 時間／人

III. 主なインタビュートピックスと、インタビューにより明らかになった事項

1) 高専および本校を取り巻く昨今の環境について

◎ 多くの教員は、中教審答申「高等専門学校教育の充実について」および高専機構の掲げる「第２期中期目標・中期計画」等を、詳しく理解しておらず、本校の「第２期中期計画」が、これらに基づいたものであることをも理解していない教員が多い。

◎ そのために、社会貢献・地域連携、国際交流あるいは JABEE・認証評価などの事業を「新しく加わった余分な業務」として捉える傾向があり、高専は「学生の教育」に専念すべきであるとの意見を少なからぬ数の教員が持っている。

2) 学内の管理・運営システムについて

◎本校における管理運営は、校長連絡会→運営委員会→学科（科）会議あるいは、その逆順により情報が伝達される仕組みになっているが、学科（科）長の個性により情報伝達量が異なるため、運営委員会に出席しない教員への情報の伝達が充分でない。

◎ 学科（科）会議が、あまり活発でない学科（科）があり、また学科長・年長の教授などの意見が強く、教員一人一人の意見が、執行部まで伝達されにくい。

◎ 委員会の数が多く、それぞれの委員会で何を行っているのかわからない。

◎ 委員会業務が多く、「本来業務」に時間を割けない。また、委員会業務およびクラブ活動顧問の負荷が教員によって異なり、公平なシステムとなっていない。

3) 教員の教育・研究マインドについて

◎研究の重要性は認識しているが、「日常の教育・学生指導」業務が繁忙なため、研究業務を後回しにしている教員が多い。また、長年、日常の教育・学生指導業務に振り回された結果、研究業務に戻れなくなっている教員もいる。

◎ 「高専は大学と異なるのだから、研究はあまり必要ない」と認識している教員も少なくない。

◎ 学生の教育とは、「よい授業を行うこと」および「適切な学生指導を行うこと」であると認識している教員が多く、「学生の自主性をのばす」「人間力（問題設定能力、問題解決能力、リーダーシップ、プレゼンテーション能力など）を向上させる」などの観点から教育にあたっている教員は少ない。

◎ 「教員が、充分に研究ができる環境づくりを組織的に取り組む必要性がある」と訴える教員も少なからずいる。

4) 国際的に活躍できる人材の育成について

◎長年にわたって行われてきた本校の英語教育は、「学生の英語能力の向上に余り寄与していない」ことを多くの教員が認識している。

◎その理由として高専教育の特徴を挙げる者も多く、英語教育方法の改善について余り興味を示さないため、英語科教員の必死の努力にかかわらず、その効果があがっていない。

5) 学生の中退率減少の方策について
◎本校の最近 6 年間における“学生の標準年限卒業率（修業年限 5 年で卒業する率）”は約 78%であるが、その値を当然と受け止め、これは、“質の高い教育の維持”のために必要であると考えている教員が多い。また、最近では、入学者の増大(定員の約 15%増)が、この傾向を助長しており、合格者数を押さえて入学者を定員に近くする必要があると主張する教員も少なからずいる。
◎ 中退率・留年率などの減少のために、教員は、授業の工夫、補習、特別指導など多大の努力を払っており、教員の疲弊感を増長している。教員の多くは、これ以上中退率を減少させるための新しい試みには懐疑的である。
◎ 詰め込み教育をやめて「創造的学生」を育成すべきであるとの意見も少数であるが存在する。また、キャリア教育を充実させ、学生の勉強に対するモチベーションを上げるべきとの意見もある。

6) その他
◎実験室の狭隘についての改善要求
◎ 人事指針についての改善要求：昨年度、「人事は原則公募とし、自動的な昇任人事は極力行わない」旨を文書により確認したが、公募を行わない昇任人事を認めていただきたい。
◎ 教員の評価についての透明性の改善要求

IV. インタビューにより明らかになった点に対する改善措置
1) 昨今の高専を取り巻く環境について
インタビュー中における話し合いの中で、高専を取り巻く環境、今後の高専の行く末、本校の将来構想などについて教員に話をしたが、全体に周知するために“教員懇談会”において話すこととした。

2) 学内の管理・運営システムについて
校長連絡会→運営委員会→学科（科）会議のシステムは、管理・運営の効率化の観点から、無くすことはできないので、今年度から教員会議を 16:00 より開始することとし、終了後”教員懇談会”を行うこととした。”教員懇談会”は、“教員相互の意見交換会”とし、議決機関とはしないが、教員同士のコミュニケーションの円滑化に寄与するものと予想される。
また、昨年度各種委員会で行った自己点検・評価結果をもとに、平成 22 年度に一年間をかけて各種委員会の見直しを行い、本校における運営・管理システムを抜本的に変えることとした。

3) 教員の教育・研究マインドについて
「第一線の研究者による最良の講義」を基礎に「研究を行う者だけが知る研究者魂をバックボーンとして若者を育成する」ことの重要性をインタビュー中、多くの教員に話をした。また、本科５年生の卒業研究、専攻科２年生の特別研究の重視、学生の国内・国際会議への発表の促進を要請した。教員の教育・研究マインドの持ち方について、ある程度コンセンサスが得られつつあると思われる。

4) 国際的に活躍できる人材の育成について
英語教育の抜本的改革について英語科の教員５名に要請した。平成 22 年度より、“全校一斉英語能力検定テスト”“オールイングリッシュ授業”などを開始することとした。また、国際交流により、外国において学生に多様な経験を積ませることを押し進めることとした。なお、他教科の教員にもこれらの試みを周知するとともに、それぞれの授業において英語能力の向上および重要性について認識・実践してもらうようインタビュー中に要請した。

5) 学生の中退率減少の方策について
平成 22 年度の入学試験においては、合格者数を例年以上に絞り、入学者を、定員の７名増（４%増）に押さえることができたので、教員の負担を少々減らすことができた。中退率を引き上げるためには、教育体制の抜本的改革が必要であり、平成 22 年度に“学生のやる気を引き起こすための教育”についての FD を行い、その方策を講じることとした。

6) その他
平成 22 年度に、新しい”教員の顕彰制度”を構築するとともに、教員の定量的な業務評価基準の検討を開始した。

（出典　総務課資料）

資料３－２－①－６

「助教採用に関する資料」

平成 22 年 9 月 14 日

校長手持ちの助教ポストの活用について

校長　高橋英明

◎ 「教員人事指針」（平成 22 年１月 12 日運営委員会了承）において、平成 19 年度の教員定員削減時に、校長手持ちとなっている助教ポストについての取り扱いについて、『このポストの取扱いについては、旭川高専の将来構想を勘案して校長が決定する。』とあり、このポストの活用に関して種々考えをめぐらしてきた。

◎ 本格的な情報社会、ユビキタス社会の到来が、間近に迫っており、本校においても情報処理教育、ICT 教育の充実が重要となっている。また、本校の情報系システムの運用および情報セキュリティーについてもその任務が急速に増大しつつある。

◎ このような状況と本校の将来を見据え、今回「情報関連の助教を１名任用する」こととした。任用助教に望まれる専門分野および能力は以下の通りである。

1) 本校のネットワークの運用管理を内部で担える人材
2) 本校の情報リテラシーの向上を図れる人材（例 MATLAB のようなツールの利用普及推進を図れる人材）
3) e-Learning の本格的導入に向けて，これを担える専門性の高い人材
4) 学内ネットワークや教育システムの効率的な企画・運用および運用の自動化を考えられる人材
5) ＩＣＴ技術を駆使し、旭川高専のプレゼンス向上を積極的に行うことが可能な人材（例えば、対外向けＨＰの整備など）
6) 将来，本校の情報処理センターの方針決定及び実行の中心となる人材

◎ 所属：電気情報工学科

理由： 1) 任用助教のキャリアパス (career path) を考えると、学科に所属することが必要。
2) 任用助教の専門分野と密接に関連。

◎主な任務：任用助教の予想される主な任務は以下の通りである。

１）授業（4 授業時間/週）	10%
２）学生実験（4 授業時間/週）	10%
３）卒業研究（8 授業時間/週）	20%
４）研究およびその他の公務（授業の準備も含む）	20%
５）ネットワーク設定・システム障害対応	20%
６）学内システムの効率化・プレゼンス向上活動	15%
７）技術職員のネットワーク管理技術指導	5%

◎任用助教と外部委託業務との役割分担

現在、本校の情報システム運用の補助として、外部委託（瀬川氏）を御願いしているが、この業務の内訳は、以下の通りである。

1)システム情報の設定など	5%
2)教職員のＰＣ設定・不具合修理サポート	15%
3) システム障害対応	20%
4) センター利用の授業中のシステム不具合対応	50%
5) センター事務処理サポート	10%

システムの耐障害性を高める工夫や，初心者向けの設定マニュアルの整備や事務処理の事務部門への移管を進めた上で，20%程度は情報系教員（情報系助教）が分担することができると思われるので、外部委託業務の圧縮を図るが、基本的には外部委託業務が残存することになる。

◎ 将来解決すべき問題点

1) 任用助教のキャリアパス：助教の任用にあたっては、任用助教のキャリアパスを考慮する必要がある。任用助教が将来本校で昇任又は他校・他分野へ転出する際、後継者を任用することになるが、この後継者の所属については、「教員人事指針」の校長手持の助教ポストの取扱に基づき、電気情報工学科に限ることなく、学内状況と将来構想を考慮して決定する。
外部委託業務の圧縮：本校の運営費交付金が毎年削減されている現状を考えると、情報処理補助業務としての外部委託費の削減は、重要案件である。情報処理委託業務の見直しを図るとともに、技術創造部による教育研究に係る技術支援の業務の対象とする措置を図る必要がある。

（出典　平成22年度第５回運営委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

教育活動の評価は，教員顕彰制度に基づく教員評価と，学生による授業評価により定期的に行われている。学生から寄せられた授業等についての要望・意見等に対しては，各教員が授業改善のためのコメント等を記載する形で自己評価を行っている。校長インタビューにより，教員の教育活動に適切な助言が与えられている。教員組織の見直しは，学校全体の業務を見ながら不断に行われており，新規教員募集において考慮されている。

以上のことから，教員の教育活動に対して定期的な評価が行われ，その結果把握された事項に対して適切な取組が行われている。

観点３－２－②：　教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ，適切に運用がなされているか。

（観点に係る状況）

教員の採用及び昇格については，高等専門学校設置基準に定められている資格を有する者から，教員選考規程（資料３－２－②－１）に基づき，公募を原則として選考を行っている。すなわち，新規採用及び昇格の必要性が生じた場合は，教員選考委員会を設置し，職名，専門分野，担当予定科目，資格・条件（学位，教育経験，実務経験，資格，年齢等）などの応募のための詳細事項（資料３－２－②－２）を決定し公募を行う。応募者の中から，書類審査により第１次候補者を決定し，面接及び模擬授業により人物評価を行い，総合評価の順位をつけ最終決定する。また，非常勤講師の採用についても，教員選考規程（資料３－２－②－１）に基づいて行われている。

資料３－２－②－１

「旭川工業高等専門学校教員選考規程」

（ 平成２３．２．８ 達第１１ 号）

旭川工業高等専門学校教員選考規程

第１章　総則

（趣旨）

第１条　旭川工業高等専門学校（ 以下「本校」という。） の常勤教員（ 教授， 准教授， 講師，助教及び助手）及び非常勤教員（ 非常勤講師）の採用，昇任等に係る選考（以下「選考」という。） は，高等専門学校設置基準（昭和３６年文部省令第２３号）（ 以下「設置基準」という。）によるもののほか，この規程の定めるところによる。

第２章　常勤教員の選考

（選考の開始）
第２条　各学科（科）長は，教員の選考が必要なときは，校長に申し出るものとする。
２ 校長は，前項の申出により必要と認めたときは，教員の選考を開始する。
（教員選考委員会）
第３条　校長は，選考する教員ごとに教員選考委員会を置く。
２ 教員選考委員会は，次に掲げる者をもって構成する。
(1) 校長
(2) 副校長
(3) 教務主事，学生主事及び寮務主事
(4) 専攻科長
(5) 各学科（科）長
(6) 校長が必要と認める者若干名
３ 教員選考委員会は，次の業務を行う。
(1) 公募条件の設定
(2) 応募者の審査
４ 教員選考委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。
５ 委員長は，教員選考委員会を招集し，その議長となる。
６ 教員選考委員会は，当該業務の終了をもって解散する。
第４条　校長は，教員選考委員会の審査結果に基づき，教員の選考を行う。
（選考基準）
第５条　教員となる資格を有する者は，設置基準に定める教員の資格を有する者とする。
（選考方法）
第６条　教員の選考は，原則として公募により行うものとする。
第７条　教員選考委員会は，公募に当たり，任用予定の学科（科），職名，専門分野，担当授業科目，資格条件等の設定を行うものとする。
第８条　公募に当たり，応募者から徴する書類は，次のとおりとする。
(1) 履歴書（ 別紙様式１ ）
(2) 研究業績一覧（別紙様式２）
(3) 主要著書・論文の別刷り（第２号に掲げるもの。複製可。）
(4) 研究・開発等の履歴一覧及び研究・開発の概要（ 別紙様式３ ）
(5) 教育業績一覧（別紙様式４）
(6) 高専教育に対する抱負（ 別紙様式５ ）
(7) 推薦状（ 自薦等で推薦状が得られない場合は別に定める書類）
(8) その他必要とする書類
第９条　公募の方法は，インターネット（ 独立行政法人科学技術振興機構「研究者人材データベース」） によるほか，関連高等教育機関，企業，学会等への依頼により行うものとする。
第１０条　教員選考委員会が行う審査の要領は，次のとおりとする。
(1) 応募者から提出のあった研究業績，教育業績等について書類審査を行い，第１次候補者３名以内を決定する。
(2) 第１次候補者について，面接及び模擬授業により人物評価を行い，総合評価の順位を付す。
(3) 面接員は５名とする。ただし，校長の判断によりその人数を増員することができる。
（公募によらない場合の特例）
第１１条　教員選考委員会において，公募によらず学内からの昇任又は配置換により教員を選考する場合は，第８条に掲げる書類のうち，履歴書及び推薦状を除く書類を提出させ，審査するものとする。
（臨時雇用教員を選考する場合の特例）
第１２条　任期が１年以内の臨時雇用教員（休職又は休業に伴い補充する教員）の選考方法については，第６条から第１０条までの規定にかかわらず，次によることができるものとする。
(1) 選考は，臨時雇用教職員の所属学科（科）長が推薦する応募者について行う。
(2) 応募者から徴する書類は，第８条各号に掲げる書類のうち，履歴書及び校長が必要と認めた書類とする。
(3) 教員選考委員会は，書類審査，面接及び模擬授業により最終候補者を決定する。
(4) 最終候補者の決定に当たっては，複数の候補者から絞り込み，選考するのが望ましいが，単数の候補者から決定することも可能とする。
(5) 職名については，最終候補者の研究業績，教育業績等を勘案し，校長が決定するものとする。

第３章　非常勤教員の選考

（非常勤講師選考委員会）
第１３条　校長は，非常勤講師の選考のため，　非常勤講師選考委員会を置く。
2 非常勤講師選考委員会は，　次に掲げる者をもって構成する。ただし，応募者の中に専攻科の授業科目を担当する者がいない場合は，第4号の専攻科長は除くものとする。
(1) 校長
(2) 副校長
(3) 教務主事
(4) 専攻科長
(5) 各学科（ 科）長
3 非常勤講師選考委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。
4 委員長は，　非常勤講師選考委員会を招集し，その議長となる。
5 非常勤講師選考委員会は，　当該業務の終了をもって解散する。
第14 条校長は，非常勤講師選考委員会の審査結果に基づき，非常勤講師の選考を行う。
（選考基準）
第1 5 条非常勤講師となる資格を有する者は，　次の各号に該当する者とする。ただし，特別な事情により，この規定により難い場合は，　別段の取扱いをすることができる。
(1) 設置基準に定める講師以上の資格を有する者
(2) 相当の教育指導歴があり，本校の教育方針に沿った教育指導ができる者
(3) 65 歳未満（ 採用する年度の4月1 日現在）である者
(4) 心身ともに健全である者
（選考方法）
第1 6 条非常勤講師の選考は，授業計画に基づき，　非常勤講師の所属学科（ 科）長又は専攻科長が推薦する応募者について行うものとする。
第1 7 条応募者から徴する書類は，　第8 条各号に掲げる書類のうち，　履歴書及び校長が必要と認めた書類とする。

第4章　専攻科の授業科目を担当する場合の資格審査

＊＊以下省略

（出典　本校例規集　教員選考規程）

資料３－２－②－２

平成 23 年 4 月 27 日

各関係機関の長 殿

旭川工業高等専門学校長
高 橋 英 明
（公印省略）

教員の公募について（依頼）

謹啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
さて，このたび本校では，下記により教員の公募を行います。
ついては，貴機関関係者への周知及び適任者の推薦について，ご配慮のほどよろしくお願い申し上げます。
敬白

記

１ 募集人員
教授 1 名

２ 所属
物質化学工学科

３ 専門分野
高分子材料化学及び化学工学

４ 担当予定科目
本 科：有機化学Ⅰ，材料化学Ⅰ・Ⅱ，化学工学Ⅱ，有機化学実験，卒業研究
専攻科：複合材料，特別実験，特別研究 など

５ 応募資格
（１）３の専門分野に関する講義・実験指導を担当できる方
（２）博士の学位又は技術士の資格を有する方
（３）高等専門学校での教育・研究，学生指導及び地域連携活動に熱意のある方
（４）安全衛生に関わる資格（衛生管理者等）の取得に熱意のある方

６ 着任時期
2012 年 4 月 1 日

７ 提出書類
（１）履歴書（様式 1）
（２）研究業績一覧（様式 2）
（３）主要著書・論文別刷（5 編以内。複製可。）
（４）研究・開発等の履歴一覧及び研究・開発の概要（様式 3）
（５）教育業績一覧（様式 4）
（６）高専教育に対する抱負（様式 5）
（７）推薦状（2 名以内の方からのもの。自薦で推薦状が得られない場合は，応募者について照会可能な方 2 名以内の氏名・所属・連絡先を記載した書類。）
（８）その他必要となる書類（資格等）
※提出していただいた書類は返却いたしません。
※応募に必要な様式については，本校のホームページからダウンロードしてご利用ください。

８ 応募締切
2011 年 7 月 8 日(金) 必着
９ 選考方法
書類選考及び面接（模擬授業を含む）

10 書類提出先
〒071-8142 旭川市春光台 2 条 2 丁目 1 番 6 号
旭川工業高等専門学校 総務課人事・労務係
電話 0166-55-8105 ＦＡＸ 0166-55-8082
E-mail s_jinji@asahikawa-nct.ac.jp
※上記あてに郵送（簡易書留）してください。なお，封筒の表に「物質化学工学科教員応募書類」と朱書してください。

11 問い合わせ先
物質化学工学科長 古崎 睦
電話・ＦＡＸ 0166-55-8044 E-mail furusaki@asahikawa-nct.ac.jp

12 その他
（１）詳細は，本校ホームページ http://www.asahikawa-nct.ac.jp を参照してください。
（２）本校では，採用に際して男女共同参画に配慮しており，女性の積極的な応募を期待します。
（３）応募者から取得する個人情報は，本校の教員を採用するという目的を達成するために利用するものであり，本校以外の第三者には提供及び公表いたしません。

（出典　本校ウェブサイト　教員の公募について）

（分析結果とその根拠理由）

教員の採用及び昇格は，公募を原則とした明確な規程が整備され，教員選考小委員会での面接や模擬授業による審査及び教員選考委員会の審査を経て選考が行われている。非常勤講師の採用についても常勤教員の場合に準ずる形で選考が行われている。

以上のことから，教員の採用や昇格等に関する規定が明確・適切に定められ，適切に運用されている。

観点３－３－①：　学校における教育活動を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

学校の教育活動を支援するために事務部と技術創造部が設置されており，総務課及び学生課の２課から組織されている事務部には 41 名（運転手，看護師，再雇用職員各１名を除く），技術創造部には 10 名の職員が配置されている（資料３－３－①－１）。また，その業務は明確に定義されている（資料３－３－①－２）。

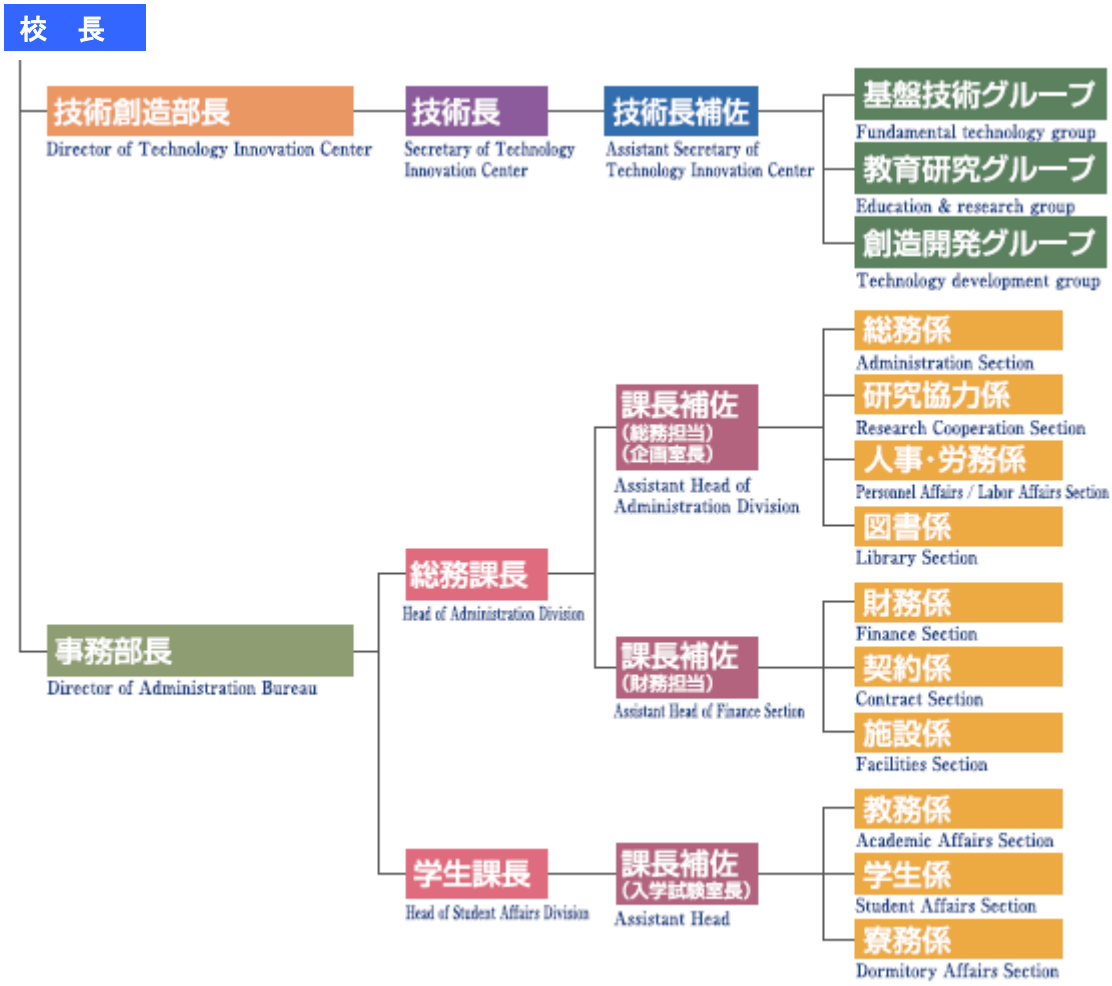
学生の教育・学習支援を中心とした直接的な業務は，事務部の学生課において主に行われている。教務係は教務関係業務（準学士課程・専攻科課程の履修・修得の教務関係実務），学生係は学生の厚生補導関係業務（課外活動指導，進路支援業務，医務室による救急処置・健康管理），寮務係は寮生の生活指導を中心とした業務を，それぞれ支援している。

技術創造部は，全職員が共通の業務として実験・実習等における学生への技術指導を行う他，

本科卒業研究や専攻科特別研究等への技術支援を行っている。業務を効率化するため，３つのグループがそれぞれの業務を担当している（資料３－３－①－３）。各技術職員の専門分野は多岐にわたっており，それぞれが対応した分野で支援業務を行っている（資料３－３－①－４）。

資料３－３－①－１

「職員組織図」



（出典　平成22年度学校要覧）

資料３－３－①－２

「旭川工業高等専門学校事務組織規程」

（昭和４５．１０．　２　　達第　４　号）

改正

平成 21．2.12　達第 11 号

旭川工業高等専門学校事務組織規程

第１章　総則

（目的）

第１条 この規程は，旭川工業高等専門学校学則(昭和３７年制定)第１０条の規定に基づき，旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及び事務分掌の範囲を定めることを目的とする。

第２章　事務組織

（事務部）

第２条　本校に事務部を置く。

（事務部の課）

第３条　事務部に次の２課を置く。

総務課

学生課

（課の室及び係）

第４条　各課にその所掌事務を処理するため室及び係を置く。

２　総務課に企画室，総務係，研究協力係，人事・労務係，図書係，財務係，契約係及び施設係を置く。

３　学生課に入学試験室，教務係，学生係及び寮務係を置く。

（事務部長）

第５条　事務部に事務部長を置く。

２　事務部長は，事務職員をもって充てる。

３　事務部長は，校長の命を受け，事務部の事務を総括し，調整する。

（課長）

第６条　課に課長を置く。

２　課長は，事務職員をもって充てる。

３　課長は，上司の命を受け，課の事務を処理する。

（課長補佐）

第７条　総務課に課長補佐（総務担当）及び課長補佐（財務担当）並びに学生課に課長補佐を置く。

２　課長補佐は，事務職員をもって充てる。

（室長）

第８条　企画室に企画室長を置き，課長補佐（総務担当）をもって充てる。

２　入学試験室に入学試験室長を置き，学生課の課長補佐をもって充てる。

（係長）

第９条　係に係長を置く。

２　係長は，事務職員又は技術職員をもって充てる。

３　係長は，上司の命を受け，係の事務を処理する。

（主任）

第１０条　係に主任を置くことができる。

２　主任は，事務職員又は技術職員をもって充てる。

３　主任は，上司の命を受け，係長を補佐し，高度の知識又は経験を必要とする事務を処理する。

第３章　課及び室の所掌事務

（総務課）

第１１条　総務課においては，次の事務をつかさどる。

(1) 本校の事務部の所掌事務に関し，連絡調整すること。
(2) 機密に関すること。
(3) 儀式その他の会議に関すること。
(4) 学則その他諸規程の制定及び改廃に関すること。
(5) 学術団体等との連絡に関すること。
(6) 渉外に関すること。
(7) 公文書の接受，発送，編集及び保管に関すること。
(8) 公印の管守に関すること。
(9) 国際交流に関すること。
(10) 事務情報化に関すること。
(11) 情報公開及び個人情報保護に関すること。
(12) 本校の組織及び機構に関すること。
(13) 自己点検評価及び外部評価に関すること。
(14) 科学研究費等外部資金に関すること。
(15) 学術助成，研究協力等に関すること。
(16) 内地及び在外研究員等に関すること。
(17) 広報に関すること（入試広報に関することを除く。）。
(18) 教職員の任免，分限，懲戒及び服務等に関すること。
(19) 教職員の給与に関すること。
(20) 教職員の定員に関すること。
(21) 教職員の研修及び勤務評定に関すること。
(22) 教職員の安全衛生及び安全管理に関すること。
(23) 教職員の災害補償に関すること。
(24) 共済組合に関すること。
(25) 退職手当に関すること。
(26) 栄典及び表彰に関すること。
(27) 人事記録に関すること。
(28) 図書館資料の受入並びに整理及び保存等に関すること。
(29) 図書館資料の閲覧，貸出等利用に関すること。
(30) 図書館における参考奉仕（検索指導，読書相談等）に関すること。
(31) 調査統計，その他諸報告に関すること。
(32) 予算及び決算に関すること。
(33) 債権の管理に関すること。
(34) 会計経理の監査及び検査に関すること。
(35) 収入及び支出に関すること。
(36) 現金，小切手，預貯金通帳及び有価証券に関すること。
(37) 教職員給与等の支払に関すること。
(38) 所得税及び住民税の徴収に関すること。
(39) 物品の管理に関すること。
(40) 支出契約決議及び支払決議に関すること。
(41) 不動産の維持管理に関すること。
(42) 土地及び建物の貸付並びに借入に関すること。
(43) 教職員宿舎の管理に関すること。
(44) 土地，建物及び工作物の整備復旧並びに維持保全に関すること。
(45) 営繕工事の企画及び設計に関すること。
(46) 学校環境の整備保全に関すること。
(47) その他，他の課の所掌に属しない事務を処理すること。

（学生課）
第１２条　学生課においては，次の事務をつかさどる。
(1) 入学者の選抜に関すること。
(2) 学生の修学指導に関すること。
(3) 教育課程の編成及び授業に関すること。
(4) 学生の学業成績の整理及び記録に関すること。
(5) 学生の学籍に関すること。
(6) 学生の学外実習及び見学に関すること。
(7) 入試広報に関すること。
(8) 研究生，聴講生及び科目等履修生に関すること。
(9) 学生の課外教育に関すること。
(10) 教育方法の改善・充実に関すること。
(11) 学生及び学生団体の指導監督に関すること。
(12) 学生に対する奨学金，入学料・授業料の減免及び猶予並びに経済援助に関すること。
(13) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。
(14) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
(15) 学生の進学に関すること。
(16) 学生の就職に関すること。
(17) 学生旅客運賃割引証に関すること。
(18) 学生の傷害保険の事務に関すること。
(19) 学生相談に関すること。
(20) 学生寮の管理運営に関すること。
(21) 学生の入退寮に関すること。
(22) 寮生の指導監督に関すること。
(23) 外国人留学生に関すること。
(24) その他教務，学生補導及び寮務に関する事務を処理すること。

第４章　課長補佐及び係の事務分掌
（総務課の事務分掌）
第１３条　総務課の所掌事務は，課長補佐，企画室及び各係において次のとおり分掌する。
２　課長補佐（総務担当）は，次の事務をつかさどる。
(1) 所管事項の事務改善の推進に関すること。
(2) 総務課（総務担当）所掌事務の総括及び各係の業務調整に関すること。
(3) 教職員の能率に関すること。
(4) 教職員の安全衛生の総括に関すること。
(5) その他総務課の所掌事務のうち，上司の命を受けた総務に係る事項に関すること。
３　課長補佐（財務担当）は，次の事務をつかさどる。
(1) 所管事項の事務改善の推進に関すること。
(2) 総務課（財務担当）所掌事務の総括及び各係の業務調整に関すること。
(3) 会計機関の公印に関すること。
(4) 予算及び決算の総括事務に関すること。
(5) 会計検査及び会計監査に関する専門的事項に関すること。
(6) 損害保険プログラムに関すること。
(7) 教職員の安全管理の総括に関すること。
(8) 施設マネジメントの総括に関すること。
(9) その他総務課の所掌事務のうち，上司の命を受けた財務に係る事項に関すること。
４　企画室においては，次の事務をつかさどる。
(1) 本校の管理運営，将来計画及び改革についての企画立案及び連絡調整に関すること。
(2) 自己点検評価及び外部評価の総括に関すること。
(3) 本校の組織及び機構に関すること。
(4) 高専改革に係る情報の収集及び分析に関すること。
(5) 広報活動についての総括及び連絡調整に関すること。

5　総務係においては，次の事務をつかさどる。
(1) 事務部所掌事務の連絡調整に関すること。
(2) 機密に関すること。
(3) 秘書事務に関すること。
(4) 儀式その他諸行事に関すること。
(5) 運営委員会，教員会議その他諸会議に関すること（他の課係等の所掌に属するものを除く。）。
(6) 学則その他校内諸規程の制定及び改廃に関すること。
(7) 渉外に関すること。
(8) 学術団体等との連絡に関すること。
(9) 文書管理に関すること。
(10) 公印の管守に関すること（会計機関に関する公印を除く。）。
(11) 国際交流事業に関すること。
(12) 事務情報化，情報公開及び個人情報保護に関すること。
(13) 教職員の旅行命令に関すること。
(14) 海外渡航に関すること。
(15) 教職員の休暇に関すること。
(16) 教職員のレクリエーションに関すること。
(17) 所掌事務に係る調査統計，その他諸報告に関すること。
(18) その他，他の課係等の所掌に属しない事務に関すること。
6　研究協力係においては，次の事務をつかさどる。
(1) 本校の管理運営，将来計画及び改革についての企画調査に関すること。
(2) 自己点検評価及び外部評価に関すること。
(3) 科学研究費等外部資金の申請，受入及び報告に関すること。
(4) 学術助成及び研究協力等に関すること。
(5) 地域共同テクノセンターに関すること。
(6) 地域との連携に関すること。
(7) 公開講座に関すること（出前講座を含む。）。
(8) 内地及び在外研究員等に関すること。
(9) 学校要覧，その他広報に関すること（入試広報に関することを除く。）。
(10) 知的財産（発明・特許）に関すること。
(11) 本校の沿革史及び諸記録の編纂並びに保存に関すること。
(12) 調査統計資料の収集，整理，保存及び利用に関すること。
(13) 所掌事務に係る調査統計，その他諸報告に関すること。
(14) その他研究協力に関すること。
7　人事・労務係においては，次の事務をつかさどる。
(1) 教職員の任免，分限，懲戒及び服務等に関すること。
(2) 教職員の定員並びに級別定数に関すること。
(3) 教職員の給与に関すること。
(4) 教職員の研修及び勤務評定に関すること。
(5) 教職員の労働時間に関すること。
(6) 教職員の安全衛生に関すること。
(7) 教職員の財産形成貯蓄，財形年金，財形住宅及びその他福利に関すること。
(8) 教職員の災害補償に関すること。
(9) 共済組合の長期給付に関すること。
(10) 退職手当に関すること。
(11) 栄典及び表彰に関すること。
(12) 人事記録に関すること。
(13) 教職員の諸証明に関すること。
(14) 職員団体に関すること。
(15) 所掌事務に係る調査統計，その他諸報告に関すること。
(16) その他人事に関すること。
8　図書係においては，次の事務をつかさどる。
(1) 図書及び学術雑誌の整備計画に関すること。

(2) 図書及び学術雑誌の購入に関すること。
(3) 図書及び学術雑誌の受入，整理及び保管に関すること。
(4) 図書及び学術雑誌の分類及び装備に関すること。
(5) 図書及び学術雑誌基本目録及び閲覧目録に関すること。
(6) 図書及び学術雑誌の閲覧及び貸出に関すること。
(7) 学術文献情報の提供に関すること。
(8) 図書及び学術雑誌の寄附に関すること。
(9) 図書及び学術雑誌の利用相談，読書相談等に関すること。
(10) 研究紀要の編集及び配付に関すること。
(11) 図書及び学術雑誌の相互利用（図書の貸借，文献複写等）に関すること。
(12) 所掌事務に係る調査統計，その他諸報告に関すること。
(13) その他図書に関すること。
9　財務係においては，次の事務をつかさどる。
(1) 総務課（財務担当）所掌事務の連絡調整に関すること。
(2) 予算及び決算に関すること。
(3) 財務関係伝票等の確認に関すること。
(4) 会計諸規程に関すること。
(5) 債権の管理に関すること。
(6) 会計経理の監査及び検査に関すること。
(7) 収入及び支出に関すること。
(8) 収入及び支出に係る伝票の作成に関すること。
(9) 現金，小切手，預貯金通帳及び有価証券に関すること。
(10) 教職員給与等の支払に関すること。
(11) 所得税及び住民税の徴収に関すること。
(12) 旅費，諸謝金及び退職手当の経理及び支払に関すること。
(13) 科学研究費等外部資金の経理及び支払に関すること。
(14) 入札の立会に関すること。
(15) 諸納付金の支払に関すること。
(16) 共済組合に関すること（長期給付に関することを除く。）。
(17) 金庫の管守に関すること。
(18) 所掌事務に係る計算証明書及び調査統計，その他諸報告に関すること。
(19) その他，財務に関して他の係に属しない事務に関すること。
１０　契約係においては，次の事務をつかさどる。
(1) 物品の購入，修繕及び役務等の契約に関すること。
(2) 物品及び役務の検収に関すること。
(3) 物品の管理に関すること。
(4) 物品の寄附採納に関すること（図書係の所掌に属するものを除く。）。
(5) 物品の管理換及び供用換並びに分類換に関すること。
(6) 物品の不用決定及び処分に関すること。
(7) 物品の管理関係諸帳簿記帳に関すること。
(8) 支出契約決議及び支払決議に関すること。
(9) 科学研究費等外部資金の契約に関すること。
(10) 光熱水料及び電話料の経理に関すること。
(11) 自動車の運行及び管理に関すること。
(12) 構内の清掃，衛生及びその他労務作業に関すること。
(13) 所掌事務に係る調査統計，その他諸報告に関すること。
(14) その他契約に関すること。
１１　施設係においては，次の事務をつかさどる。
(1) 施設整備費及び営繕関係費の要求に関すること。
(2) 施設の整備計画，環境整備及び保全に関すること。
(3) 営繕工事の企画及び設計に関すること。
(4) 営繕工事等の契約及び施工に関すること。
(5) 教職員の安全管理に関すること。

(6) 支出契約決議及び支払決議に関すること。
(7) 電気，水道，ガス，電話，暖房等付帯設備の維持管理に関すること。
(8) 不動産の維持管理に関すること。
(9) 土地及び建物の貸付並びに借入に関すること。
(10) 教職員宿舎の管理に関すること。
(11) 所掌事務に係る調査統計，その他諸報告に関すること。
(12) その他施設に関すること。
（学生課の事務分掌）
第１４条　学生課の所掌事務は，課長補佐，入学試験室及び各係において次のとおり分掌する。
２　課長補佐は，次の事務をつかさどる。
(1) 所管事項の事務改善の推進に関すること。
(2) 学生課所掌事務の総括及び各係の業務調整に関すること。
(3) 教育方法の改善・充実に関すること。
(4) その他学生課の所掌事務のうち，上司の命を受けた事項に関すること。
３　入学試験室においては，次の事務をつかさどる。
(1) 入学者の選抜の実施及び選抜方法の改善に関すること。
(2) 進学情報の提供並びに進学説明会及び中学校訪問に関すること。
(3) 入学者の選抜情報の調査及び収集に関すること
(4) 入試広報に関すること。
(5) その他入学者の選抜に関すること。
４　教務係においては，次の事務をつかさどる。
(1) 学生課所掌事務の連絡調整に関すること。
(2) 入学試験室の業務に関すること。
(3) 学生の修学指導に関すること。
(4) 教育課程の編成及び授業に関すること。
(5) 学生の学業成績の整理及び記録に関すること。
(6) 学生指導要録の整理，記録及び保管に関すること。
(7) 学科，学級及び学生定員に関すること。
(8) 入学，進級及び卒業に関すること。
(9) 転科及び転学に関すること。
(10) 休学，復学及び退学に関すること。
(11) 教科書及び教材に関すること。
(12) 学生の出欠席に関すること。
(13) 学生及び卒業生の諸証明に関すること。
(14) 学生の住所変更，転籍，保証人変更等の諸届けに関すること。
(15) 研究生，聴講生及び科目等履修生に関すること。
(16) 学生の学外実習及び見学に関すること。
(17) 学生の課外教育に関すること。
(18) 教務関係の会議に関すること。
(19) 所掌事務に係る調査統計，その他諸報告に関すること。
(20) その他学生課の事務で，他の係等の所掌に属しない事務に関すること。
５　学生係においては，次の事務をつかさどる。
(1) 学生の課外活動に関すること。
(2) 学生の団体及び集会に関すること。
(3) 学生の印刷物の配布，掲示等に関すること。
(4) 学生の表彰及び懲戒に関すること。
(5) 奨学生及び奨学金に関すること。
(6) 入学料，授業料の免除及び徴収猶予に関すること。
(7) 学生の厚生施設及び校舎の施設，設備の使用に関すること。
(8) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
(9) 学生の進学に関すること。
(10) 学生の就職に関すること。
(11) 学生の旅客運賃割引証に関すること。

(12) 学生の通学等の証明に関すること。
(13) 学生の傷害保険の契約及び給付金の支払請求に関すること。
(14) 学生相談に関すること。
(15) 学生の厚生補導関係の会議に関すること。
(16) 高専体育大会等に関すること。
(17) 所掌事務に係る調査統計，その他諸報告に関すること。
(18) その他学生の厚生補導に関すること。

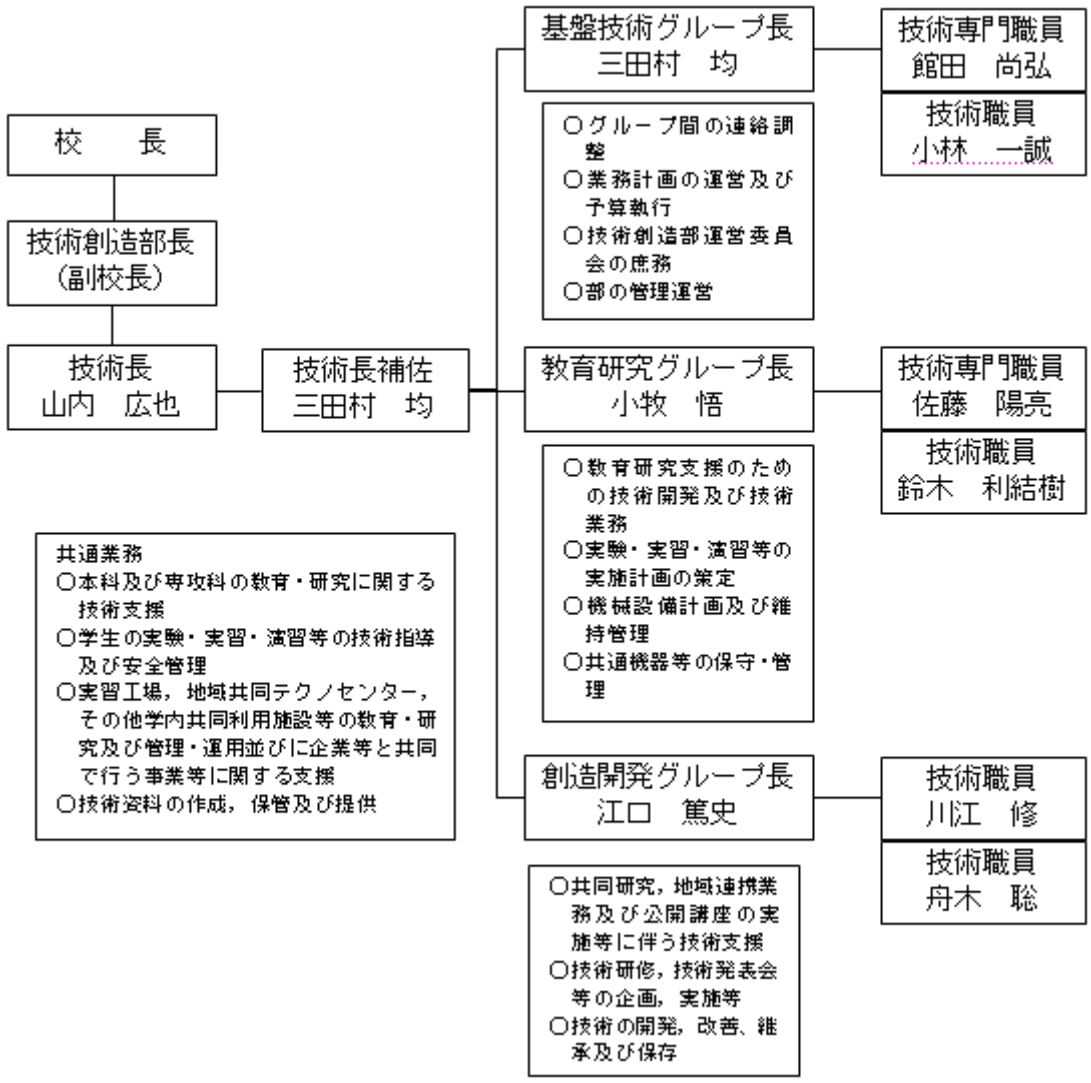
6　寮務係においては，次の事務をつかさどる。
(1) 学生寮の管理運営に関すること。
(2) 学生の入寮及び退寮に関すること。
(3) 寮生の指導監督に関すること。
(4) 寮費の収入及び支出に関すること。
(5) 寮生の給食に関すること。
(6) 寮生の保健衛生に関すること。
(7) 学生寮の環境衛生に関すること。
(8) 寮生の郵便物の収受，電話の取次ぎ，連絡等に関すること。
(9) 学生寮関係の会議に関すること。
(10) 外国人留学生に関すること。
(11) 所掌事務に係る調査統計，その他諸報告に関すること。
(12) その他寮務に関すること。

附　則　　＊＊以下省略

（出典　旭川工業高等専門学校事務組織規程）

資料３－３－①－３

【技術創造部組織図】



（出典　技術創造部資料）

資料３－３－①－４

技術創造部職員業務表		
職　　員	主な専門分野	主な教育支援業務
山内　広也	機械加工（NC旋盤，NCフライス盤， 汎用フライス盤，研削盤），CAD/CAM	機械製作実習I(1M)，機械製作実習(2M)， 機械創造実習(3M)，工学基礎演習I(1S)，工作実習(2S)， CAD/CAM演習(3S)，卒業研究(5M，5S)
三田村　均	鋳造，シーケンス制御 機械加工（汎用フライス盤）	機械製作実習I(1M)，機械製作実習(2M)， 機械創造実習(3M)，工学基礎演習I(1S)，工作実習(2S)， CAD/CAM演習(3S)，卒業研究(5M，5S)
館田　尚弘	分析化学，分離分析	化学I(1年)，化学II(2年)，基礎化学実験(1C)， 無機分析化学実験(2C)
小林　一誠	手工具を用いた塑性加工（板金加工） 溶接，機械加工（汎用フライス盤） 3次元CAD（Solidworks）を用いた設計 レーザーを用いた機械計測	機械製作実習I(1M)，機械製作実習(2M)， 機械創造実習(3M)，工学基礎演習I(1S)，工作実習(2S)， CAD/CAM演習(3S)，卒業研究(5M，5S)
小牧　悟	溶接，鉄鋼および非鉄構造物の製作 H8マイコン制御，塗装，木工	機械製作実習I(1M)，機械製作実習(2M)， 機械創造実習(3M)，工学基礎演習I(1S)，工作実習(2S)， CAD/CAM演習(3S)，卒業研究(5M，5S)
佐藤　陽亮	電気・電子回路，回路設計 積雪量測定	工学基礎演習I(1S)，工作実習(2S)，CAD/CAM演習(3S)， 工学実験II(4S)，工学実験III(5S)，卒業研究(5S)， 特別研究(専攻科)
鈴木　利結樹	機械加工（NCフライス盤） Python/Tkinterを用いたGUIプログラム Linux環境の構築 Linux向けソフトウェア開発	機械製作実習I(1M)，機械製作実習(2M)， 機械創造実習(3M)，工学基礎演習I(1S)，工作実習(2S)， CAD/CAM演習(3S)，卒業研究(5M，5S)
江口　篤史	機械加工（汎用旋盤，NCフライス盤） フルモールド鋳造，CAD/CAM	機械製作実習I(1M)，機械製作実習(2M)， 機械創造実習(3M)，工学基礎演習I(1S)，工作実習(2S)， CAD/CAM演習(3S)，卒業研究(5M，5S)
川江　修	電気電子回路，マイコン制御 機械加工（汎用フライス盤） メタルパウダープレス	機械製作実習I(1M)，機械製作実習(2M)， 機械創造実習(3M)，機械システム工学演習(5M)， 卒業研究(5M)，特別研究(専攻科)
舟木　聡	H8マイコン制御， 半導体電気特性の測定システムの構築 太陽光発電システムの構築	電気情報工学基礎実験I(2E)， 電気情報工学基礎実験II(3)，電気情報工学実験I(4E)， 電気情報工学実験II(4E)，創成工学演習A(4E)， 創成工学演習B(4E)，卒業研究(5E)

（出典　技術創造部資料）

（分析結果とその根拠理由）

教育支援組織として，事務部及び技術創造部が適切に配置されている。事務職員のうち，教育活動に直接関わるのは，学生課の３つの係である。また，技術職員は，各専門学科・科における実験・実習科目及び卒業研究等の技術支援・補助を行っている。

以上のことから，教育活動を展開するために必要な教育支援者が適切に配置されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- 専門４学科の専任教員の中で博士の学位取得者が84%，一般科目の専任教員で修士以上の学位取得者が95%であることから，本校の教育目標を達成するために適切な教員の採用と配置が行われている。また，女性教員の比率も高い(13%)。専門学科40名の教員中，企業での勤務経験者が13名，大学等他の機関での教育経験者が12名，技術士資格者が２名おり，実践的教育を行うために十分な人的資源が確保されている。
- ２年毎に実施している学生による授業評価は，教員の授業改善にフィードバックされ，効果を上げている。
- 技術職員は技術創造部として組織化された３つのグループに分けられており，本科及び専攻科の教育・研究に関する技術支援業務を行っている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準３の自己評価の概要

一般人文科・理数科においては，数学・英語に重点を置いた教員配置が行われ，それぞれの指導が行われている。また，専門学科教員については，それぞれの教育目標を達成するための教育課程を展開するために必要な教員が適切に配置されている。そして実践性・創造性を重視した教育活動の遂行のために，企業経験者や他の教育研究機関あるいは試験研究機関等における教育経験，研究実績及び実務経験等を有する教員が採用されている。専攻科課程の教育を担当する教員についても，それぞれの専門分野を網羅する教員がバランス良く配置されている。

教員の採用及び昇格については，選考方法の明確な規程が整備され，公募を原則として選考されている。非常勤講師の採用も，採用に関する申合せを整備し，適任者を採用している。

教員の教育活動の評価は，学生による授業評価及び独立行政法人国立高等専門学校機構の教員顕彰制度を利用する形で継続的に行われている。これまでに行われた７回の学生による授業評価の結果を踏まえ，教員は授業改善に努めている。

技術創造部による，実験・実習等の技術指導・補助，卒業研究・特別研究の技術支援・指導補助等の本校全体の教育・研究活動への技術的支援体制が機能している。さらに，教育課程を展開する上で必要な教務関連，学生の厚生・課外活動関連及び寮生活指導関連等の各種業務等については，事務組織規程で明確に制定された業務分掌に従って教務係，学生係及び寮務係によって適正に処理されている。

基準４　学生の受入

（１）観点ごとの分析

観点４－１－①：　教育の目的に沿って，求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ，学校の教職員に周知されているか。また，将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

（観点に係る状況）

本校の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）は，「将来性ある人間性豊かな実践的研究開発型技術者を養成すること」という教育理念の下，準学士課程，専攻科課程それぞれに定められている。準学士課程では中学生向けに平易な言葉を用いることに留意している。

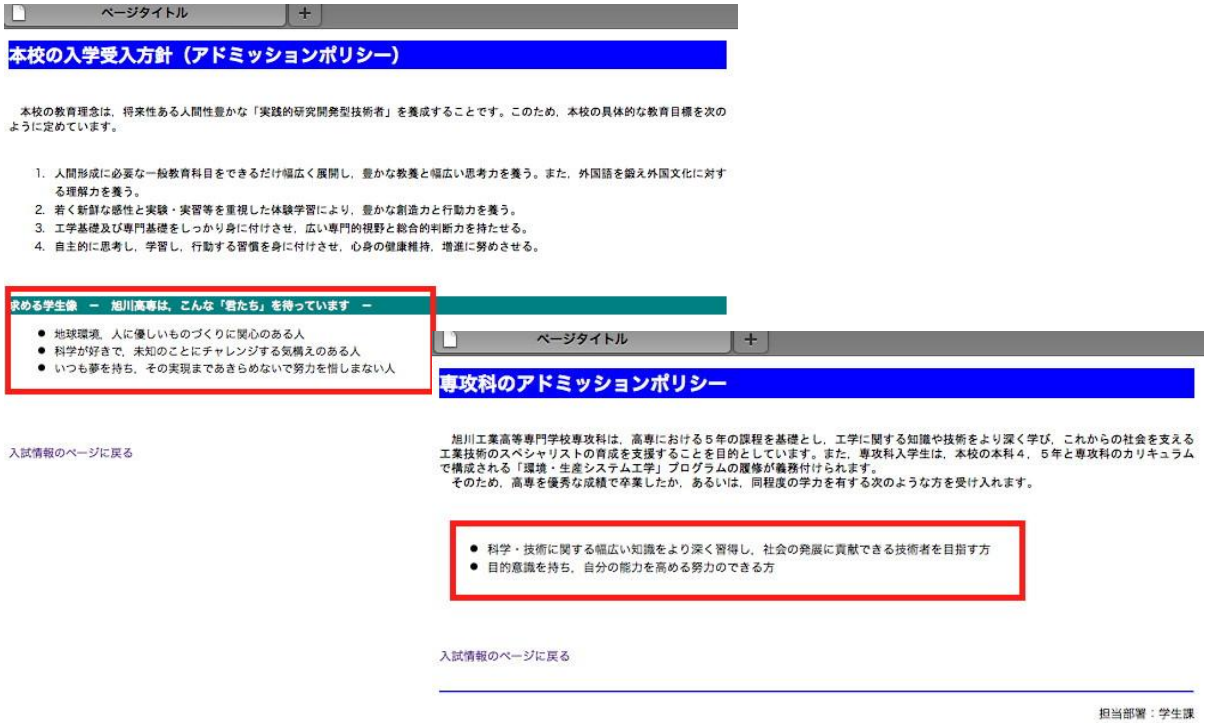
アドミッション・ポリシーは本校ウェブサイト（資料４－１－①－１）に掲載するとともに，学校案内（資料４－１－①－２），学校要覧（資料４－１－①－３），準学士課程入学者募集要項（資料４－１－①－４），編入学者募集要項（資料４－１－①－５），専攻科課程入学者募集要項（資料４－１－①－６），及び専攻科案内（資料４－１－①－７）に記載している。また，本校及び中学校主催による進学説明会，さらに中学校訪問（資料４－１－①－８）の機会を利用して周知に努めているほか，関係機関へ配付し，広く周知している（資料４－１－①－９，10）。

専攻科課程のアドミッション・ポリシーについては，特に本科４年生を対象に開催する専攻科進学説明会で説明している（資料４－１－①－11）。また，専攻科課程はリカレント教育の場を求める社会人に対しても門戸を広げている。そこで産学官の連携を深める目的で設立された旭川工業高等専門学校産業技術振興会の会員企業等（資料４－１－①－12）の協力を得て，専攻科案内，ポスター，募集要項を配布している（資料４－１－①－13）。

教職員への周知については，準学士課程推薦選抜における面接試験でアドミッション・ポリシーに関連した質問をすることとしているため，周知の徹底が図られている。専攻科課程についても，選抜業務を担当する専攻科委員や職員を中心に再確認がなされているほか，アドミッション・ポリシーの教職員や学生に対する周知の度合いを検証するためにアンケート調査を実施している（資料４－１－①－14）。

資料４－１－①－１

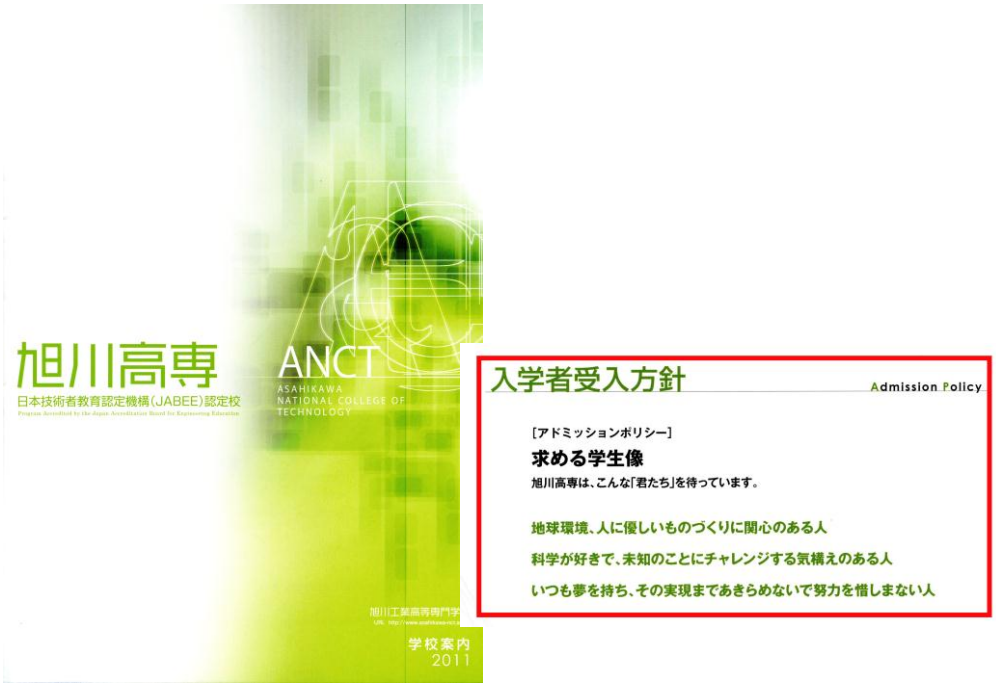
「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」



（出典　本校ウェブサイト）

資料４－１－①－２

「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」



（出典　平成 22 年度学校案内）

資料４－１－①－３

「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」



（出典　平成 22 年度学校要覧 P. １）

資料４－１－①－４

「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」

平成２３年度

入 学 者 募 集 要 項

目　　次

入学者募集要項

1　入学者受入方針(アドミッションポリシー)　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
2　入学定員　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
3　選抜方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
4　推薦による選抜

独立行政法
旭川工
〒071-8142　旭
TEL　0166
FAX　0166
E-mail　g_nyushi
URL　http://w

入 学 者 募 集 要 項

1　入学者受入方針（アドミッションポリシー）

求める学生像 － 旭川高専は，こんな「君たち」を待っています －

- ○ 地球環境，人に優しいものづくりに関心のある人
- ○ 科学が好きで，未知のことにチャレンジする気構えのある人
- ○ いつも夢を持ち，その実現まであきらめないで努力を惜しまない人

2　入学定員

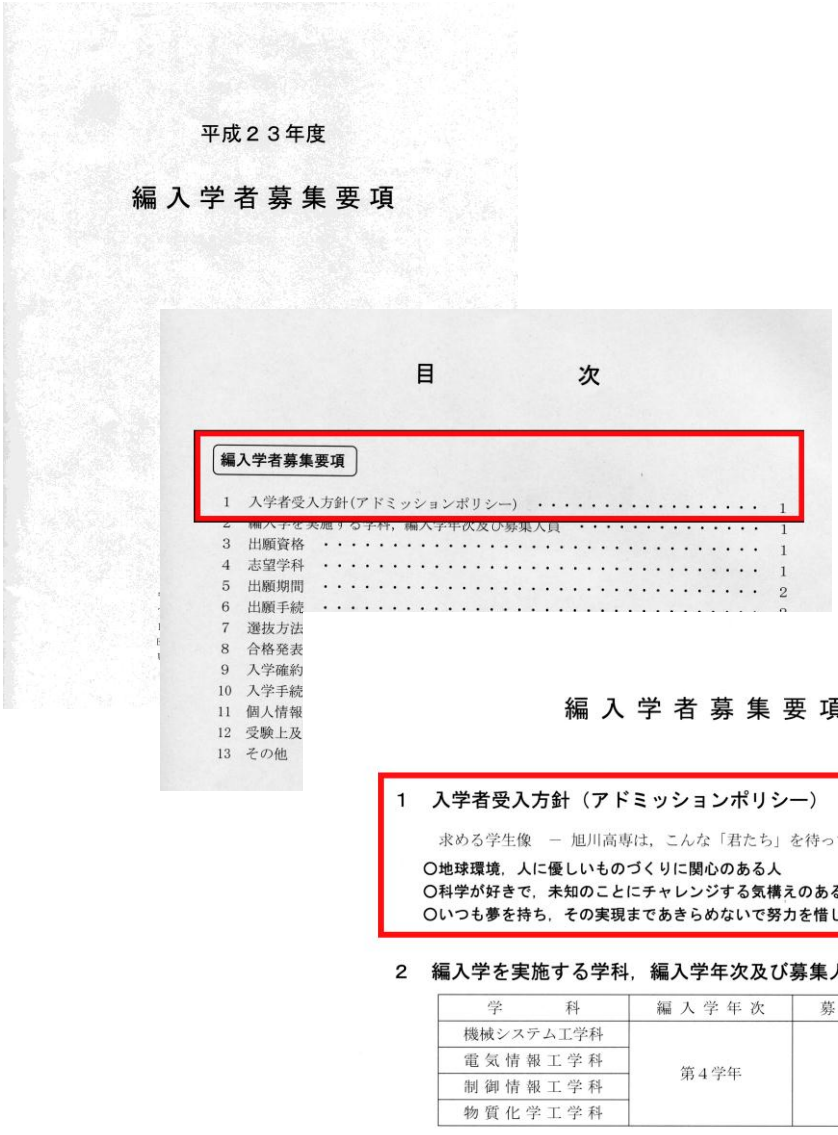
学科別の入学定員は，次のとおりです。なお，推薦による募集人員は，各学科とも入学定員の50%程度とします。

学　　科	入 学 定 員	
機械システム工学科	40名	計 160名
電気情報工学科	40名	
制御情報工学科	40名	
物質化学工学科	40名	

（出典　平成 23 年度入学者募集要項）

資料４－１－①－５

「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」



平成２３年度

編 入 学 者 募 集 要 項

目　　次

編入学者募集要項

1　入学者受入方針(アドミッションポリシー)　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
2　編入学を実施する学科，編入学年次及び募集人員　・・・・・・・・・・・・・・　1
3　出願資格　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
4　志望学科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
5　出願期間　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
6　出願手続　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
7　選抜方法
8　合格発表
9　入学確約
10　入学手続
11　個人情報
12　受験上及
13　その他

編 入 学 者 募 集 要 項

1　入学者受入方針（アドミッションポリシー）

求める学生像　－ 旭川高専は，こんな「君たち」を待っています －

○地球環境，人に優しいものづくりに関心のある人
○科学が好きで，未知のことにチャレンジする気構えのある人
○いつも夢を持ち，その実現まであきらめないで努力を惜しまない人

2　編入学を実施する学科，編入学年次及び募集人員

学　　科	編 入 学 年 次	募　集　人　員
機械システム工学科	第４学年	若 干 名
電 気 情 報 工 学 科		
制 御 情 報 工 学 科		
物 質 化 学 工 学 科		

（出典　平成23年度編入学者募集要項）

資料４－１－①－６

「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」



平成２３年度
専攻科学生募集要項

目　　次

1　入学者受入方針（アドミッションポリシー）　・・・・・・・・・・・・・・・　1
2　入学定員　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
3　選抜方法　・・・・・・
4　推薦による選抜
（1）出願資格　・・・・・
（2）出願手続　・・・・・
（3）選抜方法　・・・・・
（4）合格者の発表　・・・
（5）入学確約書の提出　・
（6）推薦による選抜で合格

学生募集要項

1　入学者受入方針（アドミッションポリシー）

本校では，高専を優秀な成績で卒業したか，あるいは同程度の学力を有する次のような方を受け入れます。
○科学・技術に関する幅広い知識をより深く習得し，社会の発展に貢献できる技術者を目指す方
○目的意識を持ち，自分の能力を高める努力のできる方

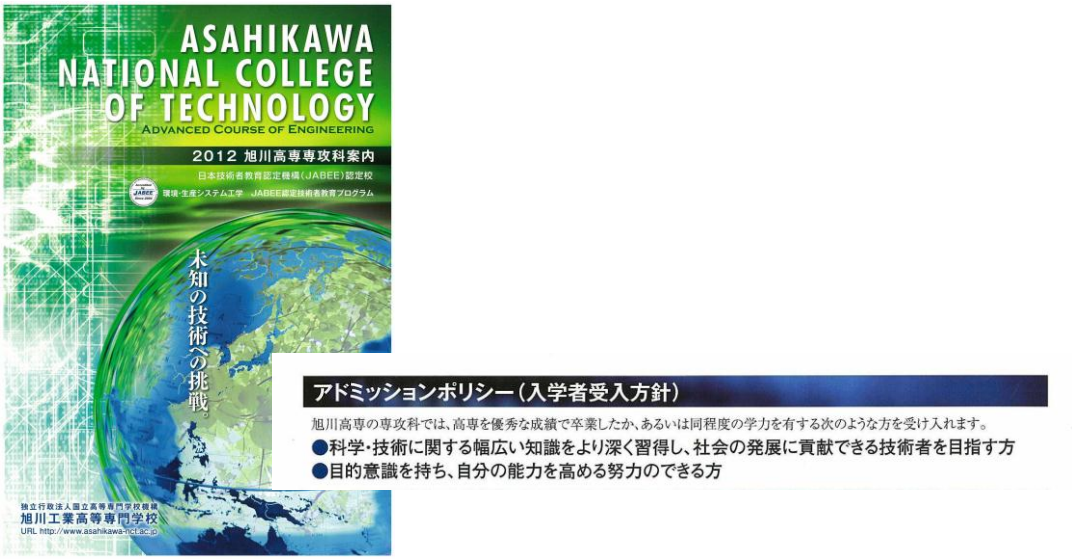
2　入学定員

生産システム工学専攻　１２名
応用化学専攻　４名

（出典　平成 23 年度専攻科学生募集要項）

資料４－１－①－７

「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」



（出典　平成 22 年度専攻科案内）

資料４－１－①－８

「入試広報実績結果」

平成22年度入試広報実施結果

第８回入学者選抜委員会	
H23.1.18	資料２

1　体験入学

月　日	項目	参加者数						昨年度実績
		機械システム工学科	電気情報工学科	制御情報工学科	物質化学工学科	保護者等	合計	
7/31(土)	体験入学	44	43	34	50	－	171	164
	進学相談	－					21	20
	学生寮見学	67					67	62
	学生寮昼食	－					244	232
	送迎バス（札幌）	12				10	22	33
	送迎バス（美瑛）	5				3	8	8
8/1(日)	体験入学	49	41	44	53	－	187	173
	進学相談	－					23	14
	学生寮見学	66					82	82
	学生寮昼食	－					272	281
	送迎バス（札幌）	14				9	23	21
	送迎バス（富良野）	8				1	9	5

2　進学説明会

月　日	会場	説明者	出　席　者　数						昨年度実績
			中学生	保護者	教員	学習塾	その他	合計	
7/24(土)	札幌コンベンションセンター	津田教務主事	11	10				21	24
7/31(土)	旭川(本校)	津田教務主事	172	97				269	248
8/ 1(日)	旭川(本校)	津田教務主事	189	100				289	277
9/ 4(土)	札幌(北海道大学)	津田教務主事	19	16				35	29
9/11(土)	帯広(帯広市民文化ホール)	津田教務主事	4	3				7	7
9/18(土)	旭川(本校)	津田教務主事	9	11				20	22
10/ 2(土)	北見(北見芸術文化ホール)	津田教務主事	0	0				0	6
10/ 3(日)	旭川(永山住民センター)	津田教務主事	2	4				6	7
10/ 9(土)	江別(江別市コミュニティセンター)	津田教務主事	2	4				6	3
10/23(土)	小樽(小樽市民会館)	津田教務主事	0	1				1	2
10/30(土)	旭川(旭川市科学館)	津田教務主事	5	7	1			13	19
合計			413	254		0	0	667	644

3　進学説明会（中学校主催）

月　日	中学校名	説明者	出席者数	昨年度実績
6/22(火)	当麻町立当麻中学校	津田教務主事	生徒 57名・保護者	○
7/15(木)	深川市立音江中学校	津田教務主事	生徒 27名・保護者	○
7/21(水)	旭川市立永山南中学校	津田教務主事	生徒187名・保護者	○
8/20(金)	旭川市立神居中学校	古崎委員	生徒103名・保護者	○
8/25(水)	旭川市立啓北中学校	津田教務主事	生徒107名・保護者	
8/25(水)	旭川市立北門中学校	津田教務主事	生徒158名・保護者	○
8/25(水)	旭川市立聖園中学校	古崎委員	生徒 54名・保護者	○
8/26(木)	旭川市立広陵中学校	後藤委員	生徒172名・保護者	
8/26(木)	旭川市立光陽中学校	橋本委員	生徒118名・保護者	○
8/30(月)	旭川市立西神楽中学校	津田教務主事	生徒 20名・保護者	○
9/ 7(火)	旭川市立永山中学校	津田教務主事	生徒178名・保護者	○
9/ 9(木)	旭川市立東陽中学校	筆教務主事補	生徒152名・保護者	
10/ 5(火)	旭川市立神楽中学校	津田教務主事	生徒132名・保護者	

（出典　平成 22 年度第８回入試委員会資料）

資料４－１－①－９

「学校案内配布先」

配　付　先	部数	備考
文部科学省高等教育局専門教育課	1	
国立高等専門学校機構	1	
名誉教授	35	
学内(教職員等)	107	※1
来校者	150	(学生課・総務課各 75 部)
産学連携関係PR用	215	
企業訪問(学生係)	100	
運営懇話会，後援会等(総務係)	75	
教職員採用(人事・労務係)	160	
予備	56	
計	900	

※１　（内　　訳）

教員	６３
職員	４０
図書館	1
情報処理ｾﾝﾀｰ	1
地域共同ﾃｸﾉｾﾝﾀｰ	1
学生相談室	1

（出典　学生課資料）

資料４－１－①－10

「学校要覧配布先」

配　付　先	部数	備考
文部科学省高等教育局専門教育課	1	
国立高等専門学校機構	1	
名誉教授	35	
学内(教職員等)	107	※1
来校者	150	(学生課・総務課各 75 部)
産学連携関係PR用	215	
企業訪問(学生係)	100	
運営懇話会，後援会等(総務係)	75	
教職員採用(人事・労務係)	160	
予備	56	
計	900	

※１　（内　　訳）

教員	６３
職員	４０
図書館	1
情報処理ｾﾝﾀｰ	1
地域共同ﾃｸﾉｾﾝﾀｰ	1
学生相談室	1

（出典　総務課資料）

資料４－１－①－11

平成 23 年 4 月 8 日

第４学年学生　各位

専 攻 科 長

「環境・生産システム工学」教育プログラムに関する
説明会について

このことについて，下記のとおり実施しますので必ず出席してください。

記

日　時　　4月１３日（水）　１５：００～

場　所　　階段教室

内　容　　１　「環境・生産システム工学」教育プログラムについて

２　専攻科について

３　その他

（出典　学生課資料）

資料４－１－①－12

「旭川工業高等専門学校産業技術振興会会員一覧」

旭川工業高等専門学校産業技術振興会　会員名簿

会社名	フリガナ	代表者役職	代表者	〒	住所	業務内容
㈱あいわプリント	ｱｲﾜ	代表取締役	[redacted]	070-0033	旭川市[redacted]	印刷業
赤川建設興業㈱	ｱｶｶﾞﾜ	代表取締役会長	[redacted]	070-0040	旭川市[redacted]	土木工事業
旭川ガス㈱	ｱｻﾋｶﾜｶﾞｽ	取締役社長	[redacted]	070-8515	旭川市[redacted]	ガス業
旭川ガス管工事㈱	ｱｻﾋｶﾜｶﾞｽｶﾝ	代表取締役	[redacted]	078-8329	旭川市[redacted]	管工事業
旭川計量機㈱	ｱｻﾋｶﾜｹｲ	代表取締役社長	[redacted]	079-8442	旭川市[redacted]	計量・計測器の製造販売修理
旭川高専同窓会	ｱｻﾋｶﾜｺｳｾﾝﾄﾞｳｿｳ	理事	[redacted]	071-0234	上川郡[redacted]	
旭川信用金庫	ｱｻﾋｶﾜｼﾝﾖｳｷﾝｺ	理事長	[redacted]	070-8660	旭川市[redacted]	
㈱アサヒ建設コンサルタント	ｱｻﾋｹ	取締役社長	[redacted]	070-0038	旭川市[redacted]	建設コンサルタント・地質調査等
㈱朝日電気製作所	ｱｻﾋﾃﾞﾝｷｾｲｻｸｼｮ	代表取締役社長	[redacted]	079-8424	旭川市[redacted]	電気機械器具製造業
荒井建設㈱	ｱﾗｲｹﾝｾﾂ	代表取締役社長	[redacted]	070-0054	旭川市[redacted]	一般土木建築工事業
イー・アイ・テック㈱	ｲｰｱｲ	代表取締役	[redacted]	078-8212	旭川市[redacted]	土木工事業
㈱飯塚設備	ｲｲｽﾞｶ	代表取締役	[redacted]	070-0014	旭川市[redacted]	管工事業
㈱生駒組	ｲｺﾏ	取締役社長	[redacted]	070-0034	旭川市[redacted]	建設業(土木工事・橋梁工事・造園工事・下水道工事等)
臼井鋳鉄工業㈱	ｳｽｲﾁｭ	代表取締役	[redacted]	079-8431	旭川市[redacted]	上・下水道用各種鋳鉄蓋の製造・販売等
㈱エフ・イー	ｴﾌｲｰ	代表取締役社長	[redacted]	078-8273	旭川市[redacted]	各種産業洗浄選別施設・圧力容器　各種環境装置
㈲大野塗装看板	ｵｵﾉﾄ	代表取締役	[redacted]	078-8235	旭川市[redacted]	建築塗装、看板の設計企画制作
㈱表鉄工所	ｵﾓﾃﾃ	代表取締役社長	[redacted]	079-8431	旭川市[redacted]	金属製品製造業
㈱河野鐵工所	ｶﾜﾉﾃ	代表取締役社長	[redacted]	078-8331	旭川市[redacted]	土木、建築金物
㈲川邊	ｶﾜﾍﾞ	代表取締役	[redacted]	071-8133	旭川市[redacted]	建築配管
㈱カンディハウス	ｶﾝﾃﾞｨ	代表取締役社長	[redacted]	079-8509	旭川市[redacted]	家具製造業
旭三商事㈱	ｷｮｸｻﾝ	代表取締役社長	[redacted]	079-8444	旭川市[redacted]	木製品製造販売(ダボ・NC加工)
㈱ケンリツ	ｹﾝﾘﾂ	代表取締役	[redacted]	078-8271	旭川市[redacted]	金属加工業
弘友設備工業㈱	ｺｳﾕｳｾ	代表取締役	[redacted]	070-0832	旭川市[redacted]	管工事業
国策機工㈱旭川事業部	ｺｸｻｸｷｺｳ		[redacted]	070-0013	旭川市[redacted]	
国策建設㈱旭川支店	ｺｸｻｸｹﾝｾﾂ	工務部長	[redacted]	078-8231	旭川市[redacted]	一般土木建築工事業
㈱コスモメカニクス	ｺｽﾓﾒｶ	代表取締役	[redacted]	078-8235	旭川市[redacted]	生活関連産業用機械製造業
㈱コンピューター・ビジネス	ｺﾝﾋﾟｭｰ	代表取締役社長	[redacted]	078-8801	旭川市[redacted]	ソフトウェア開発及び機器販売
三栄機械㈱	ｻﾝｴｲ	代表取締役	[redacted]	079-8431	旭川市[redacted]	産業用諸機械設計製作
㈱商工組合中央金庫旭川支店	ｼｮｳｺｳｸﾐｱｲﾁｭｳｵｳ	支店長	[redacted]	070-0035	旭川市[redacted]	金融業
㈱セーヴ・エナジー	ｾｰｳﾞｴﾅ	代表取締役	[redacted]	071-8142	旭川市[redacted]	冷暖房・換気空調設備施工管理
㈱瀬尾塗装店	ｾｵ	代表取締役	[redacted]	070-8044	旭川市[redacted]	塗装工事、防水工事業
㈱総北海	ｿｳﾎｸ	代表取締役社長	[redacted]	078-8272	旭川市[redacted]	企画制作・総合印刷・出版・情報処理・ｼｽﾃﾑ開発
㈱ダイイチプラニング	ﾀﾞｲｲﾁ	常任監査役	[redacted]	070-0811	旭川市[redacted]	リモートセンシング技術活用
第一電気工業㈱	ﾀﾞｲｲﾁﾃﾞﾝ	代表取締役	[redacted]	078-8244	旭川市[redacted]	電気設備工事
第一包装資材㈱	ﾀﾞｲｲﾁﾎ	代表取締役	[redacted]	079-8416	旭川市[redacted]	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸﾌｨﾙﾑ及びポリ袋の印刷製造
㈲ダイコク電機	ﾀﾞｲｺｸ	代表取締役	[redacted]	078-8235	旭川市[redacted]	電気工事業
大東電気工事㈱	ﾀﾞｲﾄｳﾃﾞ	代表取締役	[redacted]	070-0031	旭川市[redacted]	電気工事業
㈱ダンネツ	ﾀﾞﾝﾈﾂ	代表取締役会長	[redacted]	070-8045	旭川市[redacted]	住宅及び建築物の断熱工事
㈱テクノス北海道	ﾃｸﾉｽﾎｯｶｲﾄﾞｳ	代表取締役社長	[redacted]	070-8044	旭川市[redacted]	建物サービス業
東成建設㈱	ﾄｳｾｲ	代表取締役	[redacted]	078-8330	旭川市[redacted]	総合建設業
東洋設備㈱	ﾄｳﾖｳｾﾂ	代表取締役	[redacted]	071-8154	旭川市[redacted]	空気調和、給排水衛生、消防設備の設計施工
西山坂田電気㈱	ﾆｼﾔﾏ	代表取締役	[redacted]	078-8242	旭川市[redacted]	電気工事業
日興設備工業㈱	ﾆｯｺｳｾﾂ	代表取締役社長	[redacted]	070-8017	旭川市[redacted]	建設業（空調設備）
日成工機㈱	ﾆｯｾｲｺ	代表取締役	[redacted]	078-1332	当麻町[redacted]	コンクリート製品用の型枠製造
㈱日星電機旭川支店	ﾆｯｾｲﾃﾞﾝｷ	支店長	[redacted]	078-8234	旭川市[redacted]	電気機械器具設備業
日本製紙㈱北海道工場旭川事業所	ﾆｯﾎﾟﾝｾｲ	旭川総務グループ長	[redacted]	070-8611	旭川市[redacted]	パルプ・紙・紙加工品製造業
日本防水総業㈱旭川	ﾆﾎﾝﾎﾞｳｽｲ	代表取締役	[redacted]	079-8431	旭川市[redacted]	防水工業
㈱橋本川島コーポレーション	ﾊｼﾓﾄｶﾜｼﾏ	代表取締役社長	[redacted]	070-0832	旭川市[redacted]	建設業
㈲ビーインフォー	ﾋﾞｰｲﾝﾌ	代表取締役	[redacted]	079-8413	旭川市[redacted]	ソフトウェア業
㈱檜山鐵工所	ﾋﾔﾏﾃ	代表取締役社長	[redacted]	078-8219	旭川市[redacted]	一般産業機械の製作・鉄骨組立加工
㈱廣野組	ﾋﾛﾉｸﾞ	代表取締役	[redacted]	070-0034	旭川市[redacted]	一般土木建築工事業
藤川電設工業㈱	ﾌｼﾞｶﾜﾃﾞ	代表取締役	[redacted]	070-0027	旭川市[redacted]	電気工事業
㈱ホクカン	ﾎｸｶﾝ	代表取締役社長	[redacted]	079-8424	旭川市[redacted]	濃度計量証明事業・飲料水水質検査・空気環境測定等
㈱北海道銀行旭川支店	ﾎｯｶｲﾄﾞｳｷﾞﾝｺｳ	常務執行役員旭川支店長	[redacted]	070-0032	旭川市[redacted]	銀行
北海道電力㈱旭川支店	ﾎｯｶｲﾄﾞｳﾃﾞﾝ	理事旭川支店長	[redacted]	070-8678	旭川市[redacted]	電気業
㈱北洋銀行旭川中央支店	ﾎｸﾖｳｷﾞﾝｺｳ	執行役員支店長	[redacted]	070-0034	旭川市[redacted]	銀行
㈱まさるや	ﾏｻﾙﾔ	専務取締役	[redacted]	079-8417	旭川市[redacted]	

（企業会員：57社）

（出典　総務課資料）

資料４－１－①－13

〔「専攻科案内」送付文書〕

平成 23 年 4 月 12 日

旭川高専産業技術振興会会員企業各位

旭川工業高等専門学校長
高　橋　英　明
（公印省略）

「2012 旭川高専専攻科案内」の送付について

謹啓　時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は，本校の教育・研究にご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
さて，本校では，今日の複雑・高度・国際化の進展著しい産業界へ柔軟に対応できる研究開発能力を有する技術者を育成することを目標として，専攻科を設置しております。
ついては，今後の専攻科修了生の採用計画のご参考にしていただきたく，下記資料をお送りいたしますので，よろしくお願い申し上げます。

敬白

記

2012 旭川高専専攻科案内・・・・・・・・・・・・・・・・・1 部

担　当：学生課入学試験室
ＴＥＬ：０１６６－５５－８１２１
ＦＡＸ：０１６６－５５－８０８４
e-mail：g_nyushi@asahikawa-nct.ac.jp

（出典　学生課資料）

資料４－１－①－14

「認証評価基準に係わるアンケート抜粋」

22年度認証評価基準に係るアンケート調査結果

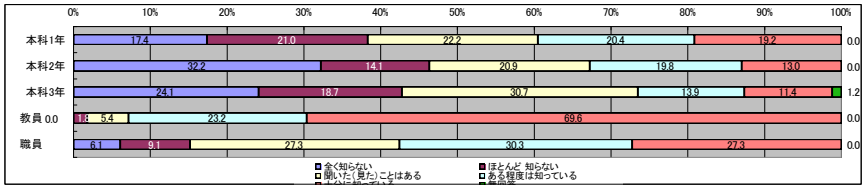
Ⅰ　教育目標の認知について

Q1　旭川工業高等専門学校（以下「本校」と称する）の目的は次のように定められていますが、本校の目的を知っていますか。

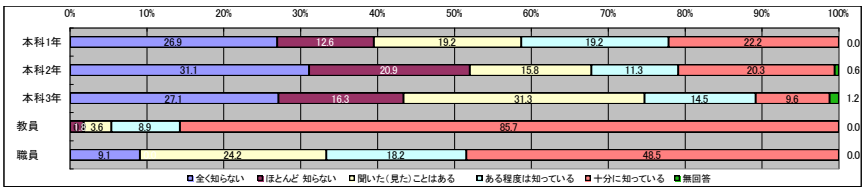
「旭川工業高等専門学校は、教育基本法の精神にのっとり、かつ、学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」（学生生活のしおり、学則第1条）

Ⅱ　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）の認知について

Q11　本校準学士課程においては、次のような入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が定められていますが、知っていますか。
・地球環境、人に優しいものづくりに関心のある人
・科学が好きで、未知のことにチャレンジする気構えのある人
・いつも夢を持ち、その実現まであきらめないで努力を惜しまない人



Q12　準学士課程のアドミッション・ポリシーが、「ホームページ」や「学校案内」、「入学者募集要項」などに掲載されていることを知っていますか。



（出典　認証評価基準に係るアンケート）

（分析結果とその根拠理由）

本校の準学士課程及び専攻科課程のアドミッション・ポリシーは明確に定められ，分かり易い表現を用いて書かれており，各種入学者募集要項やパンフレット等の印刷物，ウェブサイト，あるいは進学説明会での説明などにより社会及び学内に公表されている。教職員への周知についても，アンケート結果から十分に認知していると言える。また，新入生についても６割程度がアドミッション・ポリシーの内容を認知及び理解しており，受験生への周知も十分なされている。

以上のことから，アドミッション・ポリシーが明確に定められ，教職員に周知されており，社会に理解されやすい形で公表されている。

観点４－２－①：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

準学士課程の学力選抜では平成 18 年度以降，アドミッション・ポリシーに記した学生像に合致する者の受験を促すために，学力点で数学・理科・英語の得点を２倍に，また学習点で主要５科目の評価を２倍にする傾斜配点を導入している（資料４－２－①－１）。さらに，願書に志望学科を第４志望まで記入できることとし，本校への入学意識が高い者の入学の可能性を広げたこともあり，志願者数に顕著な増加が見られる（資料４－２－①－２）。

また，推薦選抜における面接試験では，受験者がアドミッション・ポリシーに記す学生像に合致するか否かの判断ができる質問をし，面接採点票（資料４－２－①－３）に各項目を予め記している。さらに面接評価点の総合評価に占める比重を増やす見直しを行い，受験者の入学後の適性や，クラブ活動や諸活動への経験や姿勢，リーダーシップの有無など学習成績以外の情報を判断基準にできるようにしている。推薦選抜への出願者数（資料４－２－①－４）は過去６年間で 80 名～96 名と安定している。

専攻科課程では推薦選抜，学力選抜に加えて，社会人技術者としての経験を活かしたいという意識を持つ人材を受入れる社会人特別選抜も行っている。特に推薦選抜の出願資格を，準学士課程での学科内順位上位 1/2 以上の者に限定せず，アドミッション・ポリシーにある「目的意識」や自己啓発能力の高さを示す資格の取得や，スポーツ以外の分野における全国大会での被表彰実績を条件に学科内順位上位 2/3 の者にまで広げている（資料４－２－①－５）。これは学力に偏らずに明確な目的意識を持ち，自律学習を続けていける志願者の受け入れを積極的に行うという意図によるもので，この考えを反映させるために，学力選抜における英語の筆記試験を廃止し，TOEIC のスコアの提出をもって替えている（資料４－２－①－６）。また，社会人特別選抜では学力試験を課さず，志望動機の明確さ，研究意欲の高さ，調査書，自己推薦書，面接によりアドミッション・ポリシーの趣旨に沿った受験者を選抜することとしている。

資料４－２－①－１

「配点に係る記載箇所」

7	受験票送付用封筒	本校所定の受験票送付用封筒に，志願者の郵便番号・住所・氏名を記入し，350 円分の切手（速達料を含む）を貼ってください。 なお，※欄は記入しないでください。
8	学習成績一覧表 （本校志願者の氏名を記入したもの。）	志願者の在籍学校長は，平成 23 年度公立高等学校入学者選抜実施要項に基づき作成したものを１部提出してください。 なお，推薦による選抜受験者がいる場合は併記してください。 また，他の出願書類と同時に提出できない場合は，**平成 23 年２月９日（水）**までに別途提出してください。

（３）出願方法

出願する場合は，（２）－②の出願に必要な書類等をすべて取りそろえ，封筒の表に「入学願書在中」と朱書きし，学校長を通じて本校学生課入学試験室へ提出してください。

なお，２名以上の志願者をまとめて提出する場合は，１～７の書類を個人毎にクリップ等でまとめ，８の書類を添付して提出してください。書類を郵送する場合は，必ず**「書留・速達」**にしてください。

また，**受験票は２月 15 日（火）までに志願者本人あてに送付します。**同日中までに到着しない場合は，本校学生課入学試験室へ電話で連絡してください。

（４）選抜方法

入学者の選抜は，学力検査の成績，個人調査書及び入学意志確認書の総合判定により行います。

学力検査及び個人調査書の配点は，次のとおりです。

学力検査		個人調査書（学習点）	
国語 社会 数学 理科 英語	100 点 100 点 100 点×2 100 点×2 100 点×2	国語・社会・数学・理科・英語 音楽・美術・保体・技家	各教科５点×３か年×２ 各教科５点×３か年
合計	800 点満点	合計	210 点満点

（５）学力検査日時及び場所

①　学力検査の教科及び日時

期　日	理　科	英　語	数　学	国　語	社　会
平成 23 年２月 20 日（日）	9：30 ～ 10：20	10：40 ～ 11：30	11：50 ～ 12：40	13：30 ～ 14：20	14：40 ～ 15：30

※１　当日は，９時 10 分までに学力検査会場に集合してください。

※２　受験を辞退する場合は，事前に本校学生課入学試験室に電話で連絡してください。

②　学力検査会場

旭川会場　旭川工業高等専門学校（旭川市春光台２条２丁目１番６号）

試験場下見日時　平成 23 年２月 19 日（土）　14：00～15：00

－ 5 －

（出典　平成 23 年度入学者選抜募集要項）

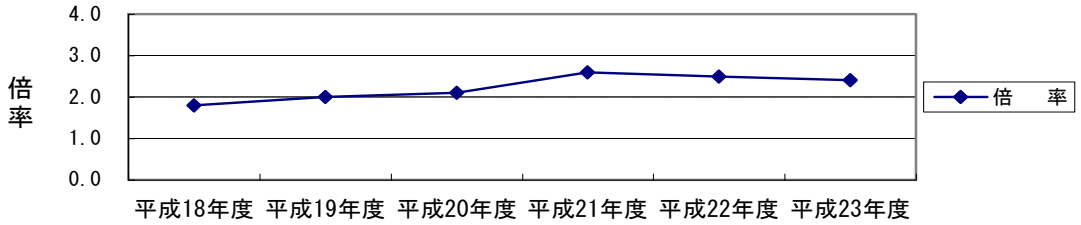
資料４－２－①－２

「入学志願者等の推移」

入学志願者数等推移

本科入試・全学科合計

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
志願者	286	327	338	418	393	390
合格者	258	286	314	332	338	342
入学者	183	177	181	182	167	170
倍　率	1.8	2.0	2.1	2.6	2.5	2.4



（出典　学生課資料）

資料４－２－①－３

「面接採点票」

平成23年度入学者選抜（推薦選抜）面接評価票

受験番号＿＿＿＿＿＿

面接評価項目	評価内容
[redacted]	評価点

評価基準　9～10：本校のアドミッションポリシーの理解及び面接における対応が極めて優秀な者
7～8：本校のアドミッションポリシーの理解及び面接における対応が優秀な者
4～6：本校のアドミッションポリシーの理解及び面接における対応が良好な者
2～3：本校のアドミッションポリシーの理解及び面接における対応が不十分な者
1：本校のアドミッションポリシーの理解及び面接における対応に問題がある者

グループ責任者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

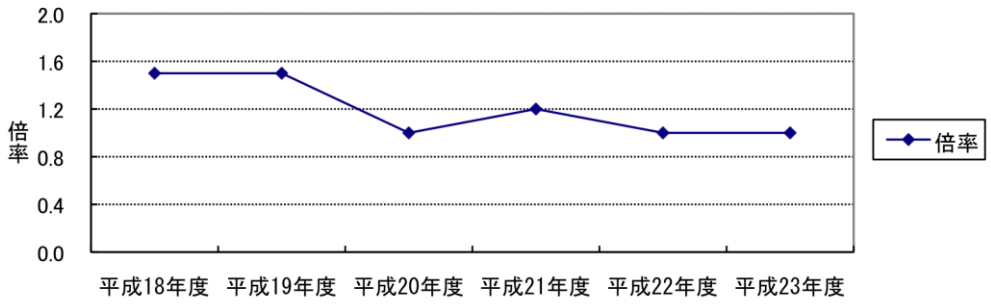
（出典　入学者選抜委員会資料）

資料４－２－①－４

「推薦選抜への出願者数」

本科入試（推薦）・全学科合計

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
志願者	95	96	80	94	82	80
合格者	64	78	75	75	74	78
入学者	64	78	75	75	74	78
倍率	1.5	1.5	1.0	1.2	1.0	1.0



（出典　学生課資料）

資料４－２－①－５

「推薦選抜の出願資格」

学 生 募 集 要 項

1　入学者受入方針（アドミッションポリシー）

本校では，高専を優秀な成績で卒業したか，あるいは同程度の学力を有する次のような方を受け入れます。

○科学・技術に関する幅広い知識をより深く習得し，社会の発展に貢献できる技術者を目指す方
○目的意識を持ち，自分の能力を高める努力のできる方

2　入学定員

生産システム工学専攻　　１２名
応用化学専攻　　４名

3　選抜方法

入学者の選抜は，「推薦による選抜」，「学力検査による選抜」及び「社会人特別選抜」の３つの方法により行います。

4　推薦による選抜

（1）出願資格

平成２３年３月に高等専門学校を卒業見込みの者で，下記のいずれかに該当し，学校長の推薦する者とします。ただし，旭川工業高等専門学校の学生は，出身学科の学科長が優れていると認め推薦する者とします。

① 出身学科における成績がクラス順位上位１/２以内の者（第１学年から第４学年までの順位が平均上位１/２以内の者又は第４学年における順位が上位１/２以内の者）
ただし，クラス順位上位１/２から２/３までの者については，学生個々の資質を総合的に判断して推薦できるものとします。

② 高等専門学校在学中に特別な資格を取得した者又は顕著な業績のあった者
資格（※証明書等を添付すること）
・ＴＯＥＩＣスコア４００以上　　・実用英検２級以上
・工業英検３級以上　　・基本情報技術者　　など
業績　・全国レベルの大会で表彰を受けた者（スポーツ系を除く）

（出典　平成 23 年度専攻科学生募集要項）

資料４－２－①－６

「TOEIC スコアの提出」

○別表

試験等の種類		提出書類
国際コミュニケーション英語能力テスト（TOEIC）	公開テスト（TOEIC）	公式認定証（Official Score Certificate）
	団体特別受験制度（TOEIC IP）	個人成績表（Score Report）
英語運用能力測定試験（TOEFL）	Internet-Based Test（TOEFL iBT）	公式スコア票（Official Score Report）
実用英語技能検定		合格証明書

※「TOEIC」，「TOEIC IP」及び「TOEFL」については，学力検査日以前２年以内のスコアを有効とします。

③　出願の方法等

出願に必要な書類等をすべて取りそろえて角型２号の封筒に入れ，封筒の表に「専攻科入学願書在中」と朱書きし，本校学生課入学試験室へ提出してください。書類を郵送する場合は，必ず「書留・速達」にしてください。

（出典　平成23年度専攻科学生募集要項）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程の学力選抜では，アドミッション・ポリシーに基づく傾斜配点の導入，推薦選抜の評価割合を見直すなど，適切な受け入れ方法が採用されている。専攻科課程においても，学力はもとより意欲的に学習・研究に取り組もうとする学生を広く選抜する方策が取り入れられている。

以上のことから，アドミッション・ポリシーに沿った選抜が行われている。

観点４－２－②：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

準学士課程においては２つの取組みにより検証を行っている。まず，全学年の学生に対してアドミッション・ポリシー，学校の教育目標等の認知・理解についてのアンケート調査を行っている（資料４－１－①－14（127 ページ前出））。また１年生に対しては，高等学校との併願状況や志望動機等についても調査しており（資料４－２－②－１），その結果は入学者選抜委員会で改善点を検討する資料となっている。

２つ目は入学後の成績追跡調査である。これは 10 余年前から継続的に行っているものであり（資料４－２－②－２），入学者選抜結果と入学後の学習成績との相関関係から，入学選抜方法を検証している。

こうした改善例の一つが，平成 18 年度に推薦選抜の面接評価点を[redacted]引き上げた点である。アドミッション・ポリシーにより合致した学生を面接試験で選考し，合否判定に反映できる変更を行い，入学区分ごとの入学後の成績追跡調査（資料４－２－②－３）からは，推薦選抜による入学者の学習成績が，推薦選抜の不合格後に学力選抜で入学した者（推薦不合格）、学力選抜で本校を第一志望とした者（確認書有り）及び学力選抜で本校を第一志望としなかった者（確認書なし）よりも良いことがわかり，平成 19 年度以降は推薦による選抜人数を学科定員の 50%程度にまで広げている。

準学士課程の編入学選抜では，平成 21 年度入試より（資料４－２－②－４）学力検査を従来の筆記試験から口頭試問（ホワイト・ボードでの短時間での解答を含む）に変更し，受験生の負担を減らしている。

また，専攻科課程の学生についても同様にアドミッション・ポリシーや，専攻科と各専攻の教育目標などについての認知度を確認するためのアンケート調査を行っている（資料４－２－②－５）。

資料４－２－②－１

「併願状況，志望動機等調査」

第1回入学者選抜委員会	
H22.5.19	資料5

平成22年度入学者選抜保護者アンケート　　アンケート回答数165名

1 旭川高専志望であった	143名		
(1) 推薦選抜により入学した	74名		
(2) 学力選抜により入学した	69名		
i 他の高校を受験した	44名	入学意思確認書提出者	
a 合格	35名	31名	[illegible]
b 不合格	4名	2名	[illegible]
c 合否不明	5名	5名	[illegible]
ii 他の高校を受験しない	24名	23名	
iii 高校受験について不明	1名	1名	
2 旭川高専が第1志望校ではなかった	21名	入学意思確認書提出者	
・高校と高専の両方に合格し高専を選択	14名	1名	[illegible]
・高校を受験して不合格	7名		[illegible]
3 その他	1名	当初，第1希望ではなかったが，合格発表後に高専への入学意思が強まり，公立高校の合格発表を待たずに高専に入学手続きを行なった。	

（出典　平成 22 年度第１回入学者選抜委員会資料）

資料４－２－②－２

「入学後の成績追跡調査」

非開示資料

入学時成績と本校在籍時成績の追跡調査

(2007-2010 年度入学生)

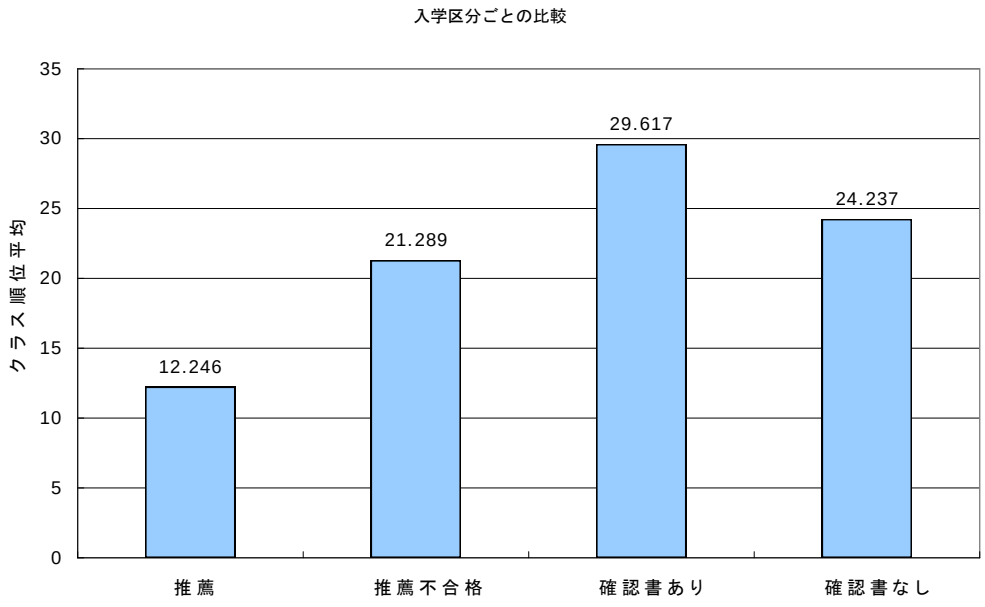
平成 23 年 3 月

入学者選抜委員会
津田勝幸
筐　耕司
冨永徳雄
立田節雄
学生課教務係

（出典　学生課資料）

資料４－２－②－ ３

「入学後の成績追跡調査」



（出典　平成 18 年度　入学者選抜委員会資料）

資料４－２－②－４

「選抜方法の変更」

７　選抜方法

編入学者の選抜は，学力検査（口頭試問）及び調査書の総合判定により行います。
学力検査では，志望動機，その他必要な事項について面接を行うほか，下記の科目に関する口頭試問（黒板を使用する場合あり）を行います（30 分程度）。

（１）学力検査（口頭試問）の科目名及び出題範囲

学　　科	科目名	出題範囲
各学科共通	数　学	数学Ⅰ，数学Ⅱ
	英　語	英語Ⅰ，英語Ⅱ
機械システム工学科	専門科目	機械基礎，電気基礎
	物　理	物理Ⅰ
電気情報工学科	専門科目	電気基礎，情報技術基礎
	物　理	物理Ⅰ
制御情報工学科	専門科目	機械基礎，情報技術基礎
	物　理	物理Ⅰ
物質化学工学科	専門科目	工業化学（無機化学基礎・有機化学基礎）
	化　学	化学Ⅰ

※**数学**及び**英語**のほか，工業高等学校又は高等学校の工業に関する学科の場合は**志望学科の専門科目**，その他の場合は志望学科により**物理又は化学**から出題します。

（２）学力検査（口頭試問）の日時及び場所

日　　時	場　　所
平成 22 年７月 24 日(土)　９：00～	旭川工業高等専門学校

※受験票送付時に開始時間を通知します。

（出典　平成23年度編入学者募集要項）

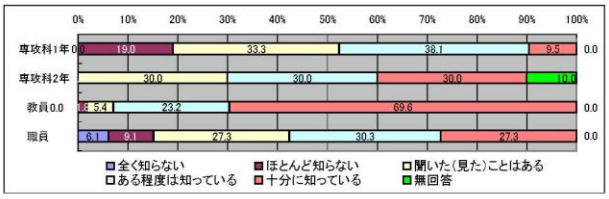
資料４－２－②－５

「認証評価基準に係わるアンケート抜粋」

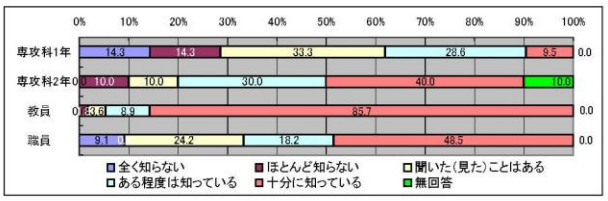
Ⅱ　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）の認知について

Q9 本校専攻課程においては、次のような入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が定められていますが、知っていますか。

・科学・技術に関する幅広い知識をより深く習得し、社会の発展に貢献できる技術者を目指す方
・目的意識を持ち、自分の能力を高める努力のできる方



Q10 専攻科課程のアドミッション・ポリシーが「ホームページ」や「専攻科案内」、「専攻科学生募集要項」などに掲載されていることを知っていますか。



（出典　認証評価基準に係るアンケート）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程では，アドミッション・ポリシー策定後に，傾斜配点による選抜方法を導入したことが，受験者数と入学者数の増加に結びついたと考えられる。また，編入学選抜方法の見直しも，高等学校の工業に関する学科出身者に配慮したものであり，専門領域に対する関心や学力が高く，尚かつアドミッション・ポリシーに合致する者への門戸を広げる意図で導入されている。

専攻科課程においても，入学後にアンケート調査を行い，アドミッション・ポリシーに沿った学生選抜が行われているかを検証しており，その結果を入学選抜方法の改善に役立てている。

以上のことから，入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てている。

観点４－３－①：　実入学者数が，入学定員を大幅に超える，又は大幅に下回る状況になっていないか。また，その場合には，これを改善するための取組が行われる等，入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

（観点に係る状況）

準学士課程の過去６年間の実入学者数（資料４－２－①－２（130 ページに前出））は定員160 名を４％～14％上回る程度で推移している。より高い学力水準と学習意欲を備えた学生を確保するため，多くの志願者数を得ることは最重要課題である。本校では様々な取組の結果，入学定員に対する総志願者数は過去６年間で 1.5 倍から 2.6 倍の間で良好に推移している。

こうした取組のひとつで，本校の特色を知ってもらう最良の機会となっているのが「体験入学」である。平成22年度には358名の中学生に加えて多くの中学校教員・保護者が参加した（資料４－３－①－１）。近年は札幌と美瑛・富良野方面にバスで送迎を行い，参加者の利便性を確保している。

次に，本校及び旭川市内，道内数都市で開催する進学説明会があげられる。平成22年度には延べ11回開催し，413名の中学生及び254名の中学校教員・保護者が参加した。また，旭川市内及び近郊の中学校15校で主催された進学説明会には2,223名の中学生が出席した（資料４－３－①－２）。本校教員による中学校及び学習塾の訪問も延べ330校に及び，地元出版物への広告掲載や校名入り記念品の配布も行っている。

特に中学校訪問については，中学校との連携や信頼関係を深めるための重要な機会と位置づけており，本校へ進学後の卒業生の様子を個人情報に配慮しつつ，可能な範囲で伝えている。さらに，適正な入学者数維持のため，入学者数を推測する上で不可欠な資料となる「入学意志確認書」（学力選抜で任意提出を依頼）の趣旨を理解いただけるよう繰り返し説明をしたことも効果的であった。

また，小・中学生や地域住民を対象に「出前授業」（資料４－３－①－３）や「公開講座」（資料４－３－①－４）を各種開講している。その他，保護者や志願者の利便性に配慮し，週末等を利用した個人対応の学校見学も随時受入れている（資料４－３－①－５）。

４年次編入については，以前は毎年４，５名の入学者がいたものの，過去６年では志願者数が０～６名，入学者が０～３名と残念ながら減少傾向にある（資料４－３－①－６）。

専攻科課程の入学者については，２専攻の入学定員合計 16 名に対して過去６年間で 17～29 人の範囲で推移し，専攻別に見ても常に定員を満たしており（資料４－３－①－７），ほぼ適正である。専攻科課程を経て大学院へ進学する学生の実績や，専攻科課程の充実，専攻科課程へ進学することの利点（少人数教育など）について早い段階から周知をする等の努力によって，ほぼ適正な入学者数の維持が図られている。ただし１学年 25 人を越えると少人数教育の利点が活かせないこともあり，この点には注意を払っている。

資料４－３－①－１

「体験入学参加者数」

平成22年度入試広報実施結果

第８回入学者選抜委員会	
H23.1.18	資料２

１　体験入学

月　日	項目	参加者数						昨年度実績
		機械ｼｽﾃﾑ工学科	電気情報工学科	制御情報工学科	物質化学工学科	保護者等	合計	
7/31(土)	体験入学	44	43	34	50	－	171	164
	進学相談	－					21	20
	学生寮見学	67					67	62
	学生寮昼食	－					244	232
	送迎バス(札幌)	12				10	22	33
	送迎バス(美瑛)	5				3	8	8
8/1(日)	体験入学	49	41	44	53	－	187	173
	進学相談	－					23	14
	学生寮見学	66					82	82
	学生寮昼食	－					272	281
	送迎バス(札幌)	14				9	23	21
	送迎バス(富良野)	8				1	9	5

（出典　平成22年度第８回入学者選抜委員会資料）

資料４－３－①－２

「進学説明会出席者数」

平成22年度入試広報実施結果

第８回入学者選抜委員会	
H23.1.18	資料２

２　進学説明会

月　日	会場	説明者	出席者数						昨年度実績
			中学生	保護者	教員	学習塾	その他	合計	
7/24(土)	札幌コンベンションセンター	津田教務主事	11	10				21	24
7/31(土)	旭川(本校)	津田教務主事	172	97				269	248
8/ 1(日)	旭川(本校)	津田教務主事	189	100				289	277
9/ 4(土)	札幌(北海道大学)	津田教務主事	19	16				35	29
9/11(土)	帯広(帯広市民文化ホール)	津田教務主事	4	3				7	7
9/18(土)	旭川(本校)	津田教務主事	9	11				20	22
10/ 2(土)	北見(北見芸術文化ホール)	津田教務主事	0	0				0	6
10/ 3(日)	旭川(永山住民センター)	津田教務主事	2	4				6	7
10/ 9(土)	江別(江別市コミュニティセンター)	津田教務主事	2	4				6	3
10/23(土)	小樽(小樽市民会館)	津田教務主事	0	1				1	2
10/30(土)	旭川(旭川市科学館)	津田教務主事	5	7	1			13	19
合計			413	254		0	0	667	644

３　進学説明会（中学校主催）

月　日	中学校名	説明者	出席者数	昨年度実績
6/22(火)	当麻町立当麻中学校	津田教務主事	生徒 57名・保護者	○
7/15(木)	深川市立音江中学校	津田教務主事	生徒 27名・保護者	○
7/21(水)	旭川市立永山南中学校	津田教務主事	生徒187名・保護者	○
8/20(金)	旭川市立神居中学校	古崎委員	生徒103名・保護者	○
8/25(水)	旭川市立啓北中学校	津田教務主事	生徒107名・保護者	
8/25(水)	旭川市立北門中学校	津田教務主事	生徒158名・保護者	○
8/25(水)	旭川市立聖園中学校	古崎委員	生徒 54名・保護者	○
8/26(木)	旭川市立広陵中学校	後藤委員	生徒172名・保護者	
8/26(木)	旭川市立光陽中学校	橋本委員	生徒118名・保護者	○
8/30(月)	旭川市立西神楽中学校	津田教務主事	生徒 20名・保護者	○
9/ 7(火)	旭川市立永山中学校	津田教務主事	生徒178名・保護者	○
9/ 9(木)	旭川市立東陽中学校	篁教務主事補	生徒152名・保護者	
10/ 5(火)	旭川市立神楽中学校	津田教務主事	生徒132名・保護者	
10/ 6(水)	旭川市立神居東中学校	津田教務主事	生徒 90名・保護者	○
10/ 6(水)	旭川市立六合中学校	吉本委員	生徒101名・保護者	
10/ 7(木)	旭川市立緑が丘中学校	津田教務主事	生徒194名・保護者	○
10/ 8(金)	旭川市立春光台中学校	篁教務主事補	生徒119名・保護者	○
10/ 8(金)	旭川市立北星中学校	篁教務主事補	生徒115名・保護者	○
11/ 4(木)	旭川市立東明中学校	篁教務主事補	生徒139名・保護者	
合計	19校		生徒2,223名	15校

４　中学校・学習塾訪問

月　日	中学校		中学校昨年度実績		学習塾	学習塾昨年度実績
	延数	実数	延数	実数		
6/16(水)～ 7/23(金)	75	75	57	57	5	5
8/25(水)～11/5(金)	226	206	214	195	1	1
11/8(月)～11/12(金)	29	0	37	7	0	0
合計	330	281	308	259	6	6

※学習塾は全て１回の訪問

訪問回数（中学校）

	今年度	昨年度
１回	248	227
２回	17	15
３回	16	17
計	281	259

（出典　平成22年度第８回入学者選抜委員会資料）

資料４－３－①－３

〔「出前授業」実施結果〕

Ｈ２２年度「出前授業」実施結果

■ 出前授業実施結果一覧　　※ 参加人数について、「生徒数」のみを計上し、「教員数」については、計上していない。

※（H22～ 出前講座）

年度	担当学科（科）	実施先	開催日時	対象者	参加人数（人）
22（計13件実施）	機械システム工学科【ゴム動力ヘリコプターを作ろう】	旭川市立富沢小学校	H22.09.09(木)	小学生	29
	物質化学工学科【電気でパン作り】	下川町公民館	H22.10.02(土)	小学生	18
	物質化学工学科【線香花火を作ろう・入浴剤を作ろう】	旭川市立永山小学校	H22.10.04(月)	小学生	41
	物質化学工学科	利尻富士町立鬼脇中学校	H22.10.26(火)	中学生	6
	物質化学工学科【植物からDNAを取りだそう・生物発光と化学発光】	江別市立江北中学校	H22.11.25(木)	中学生	15
	物質化学工学科【スライムを作ろう・金めっきをしよう・いやしグッズを作ろう】	旭川市立忠和小学校	H22.11.25(木)	小学生	35
	物質化学工学科【生物発光と化学発光・植物からDNAを取りだそう・液体窒素を使った超低温実験】	旭川工業高等専門学校（旭教研理科部からの依頼）	H22.11.27(土)	小・中学校教員	21
	物質化学工学科【入浴剤を作ろう・温熱カイロをつくろう】	旭川中央公民館	H22.12.28(火)	小学生	24
	物質化学工学科【身近な道具を使って電池をつくろう・線香花火を作ろう・いやしグッズを作ろう】	旭川市立東神居小学校	H23. 1.13(木)	小学生	8
	物質化学工学科【線香花火を作ろう・金めっきをしよう】	旭川市立春光小学校	H23. 1.25(火)	小学生	14
	物質化学工学科【温熱カイロをつくろう・身近な道具を使って電池をつくろう】	下川町公民館	H23. 2. 5(土)	小学生	22
	物質化学工学科【「モコモコ（発泡ポリウレタン）を作ろう・入浴剤を作ろう】	旭川市東旭川公民館（上川地区中央ブロック養護教諭研修会）	H23. 2. 8(火)	養護教諭	9
	物質化学工学科【南極に関する講演】	比布町白寿大学	H23. 2.16(水)	学生（高齢者）	70

（出典　総務課資料）

資料４－３－①－４

「公開講座開設状況」

公開講座開設状況一覧

年度	講　座　名	講　師	開設期間	開設時間	受講者数	定員
21	くらしの中の微生物を学ぶ ～キノコ栽培から罪な微生物まで～夜間コース	富樫　巌	7.27	4	11	10
	くらしの中の微生物を学ぶ ～キノコ栽培から罪な微生物まで～昼間コース	富樫　巌	7.28	4	6	10
	初心者向き３Ｄ　ＣＡＤ講座 ～３Ｄ　ＣＡＤで簡単な作図をしてみよう～	大柏　哲治	7/29～30	7	10	15
	ヘミングウェイの世界 ～伝記的背景と文学について～	本荘　忠大	10/14～16	3	5	15
	アジャイル開発講座～アジャイルで行ってみよう！	小山　貴夫	12/5･12/19	5	3	10
	反復型ソフトウェア開発のはじめかた～ 溶接体験入門(初級編) ～アーク溶接とガス溶接を体験しよう～	岡田　昌樹　他	2/22～26	12.5	10	10
22	溶けた金属を使ってデザインプレートを作ろう ～かんたん鋳造体験教室～	三田村　均　他	7.30	6	5	10
	初心者向き３Ｄ　ＣＡＤ講座	大柏　哲治	8/4～5	7	2	15
	「ブラックライトLED」のしくみ	篁　耕司	9.7	1	8	10
	くらしの中の食品衛生を学ぶ ～食中毒・添加物から宇宙食の管理まで～夜間コース	富樫　巌	9.24	2	7	20
	くらしの中の食品衛生を学ぶ ～食中毒・添加物から宇宙食の管理まで～昼間コース	富樫　巌	9.25	2	9/24に統合	20
	わり算から暗号まで ～身近で使われている整数論～	長岡　耕一　他	11/9～11	4.5	6	20
	Ｅｘｃｅｌ利用講座	井口　傑　他	11/9･11/16	3	5	10
	知られざるスウェーデン	根本　聡	11.17	2	0	20
	パソコン入門講座 ～今からでも間に合うかんたん年賀状作り～	笹岡　久行	12.11	2	4	6
	溶接体験入門(ガス・アーク初級編)	岡田　昌樹　他	2/23～27	12.5	16	10

（出典　総務課資料）

資料４－３－①－５

「学校見学者数」

第８回入学者選抜委員会	
H23.1.18	資料２

平成22年度入試広報実施結果

５　高等学校訪問

月　日	訪問校数	昨年度実績
6/29(火)	3	4

６　学校見学（H22.12.14現在）

月　日	訪問者数	昨年度実績	備　考
9/5(日)～	5(1)	10(1)	

※(　)内は女子で内数。

（出典　学生課資料）

資料４－３－①－６

「編入学入学者数推移」

入学志願者数等推移

本科編入学試験・全学科合計

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
志願者	4	6	0	8	5	2
合格者	2	2	0	3	3	0
入学者	2	2	0	3	2	0

（出典　学生課資料）

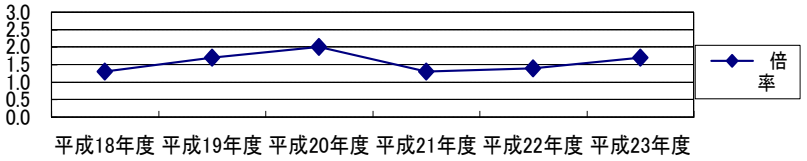
資料４－３－①－７

「専攻科入学者数推移」

入学志願者数等推移

専攻科入試・全専攻合計

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
志願者	21	27	32	21	23	27
合格者	18	23	30	20	23	24
入学者	17	21	29	19	23	22
倍　率	1.3	1.7	2.0	1.3	1.4	1.7



（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程ではこれまで入学者数が入学定員を割ったことはなく，常に定員は充足されている。入学者数が定員を１割以上超える年度もあったが，現在は改善されて大きく超過することはない。多くの志願者を確保できるのは，入念な入試広報活動や中学校との良好な信頼関係の維持に負うところが多い。さらに入試データの蓄積や，入学後に実施するアンケート調査による受験者本人や保護者の本校受験に対する意識傾向が把握されていることも適正な入学者数維持を支えている。

専攻科課程の入学者については，２専攻の入学定員合計 16 名に対して過去６年間で 17～29 人の範囲で推移し，専攻別に見ても常に定員を満たしており，ほぼ適正である。

以上のことから，適正な入学者数を維持する努力と改善がなされている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・　アドミッション・ポリシーで謳われている理念がより具現化されるよう，学力選抜においては数学，理科，英語に傾斜配点を導入すると共に，推薦選抜においては，面接での質問項目にその基本精神が含まれている。出前授業及び中学校訪問により地域社会との信頼関係を構築している。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準４の自己評価の概要

平成18年度より「将来性のある人間性豊かな実践的研究開発型技術者を養成する」という本校の教育理念に基づいて，現在のアドミッション・ポリシー及び入学者選抜方針が策定され運用されている。それらはウェブページや学校案内，学校要覧，入学者募集要項などの印刷物，あるいは体験入学や各種進学説明会や中学校訪問を通して中学生を中心とする社会一般に公表・周知されている。

実際の入学者選抜においてもアドミッション・ポリシーで謳われている理念がより具現化されるよう，学力選抜においては数学，理科，英語に傾斜配点を導入することにより，また推薦選抜においても面接での質問項目にその基本精神が反映される形の選抜が行われている。また，適正な選抜が行われているか否かの検証方法のひとつとして，従前から入学後の学生の成績追跡調査を行い，中学校での学習点，入試での学力点などとの相関関係を調べて入学者選抜方法の検証・改善に役立てている。

15歳人口が減少の一途を辿り，高等学校での入学者定員が削減される中，準学士課程において一定の志願者数を確保することに教職員一丸となって努力している。「出前授業」や小まめに遠隔地まで足を運ぶ中学校訪問で培われた地域社会との信頼関係により，安定した入学者数が維持されている。

一方、専攻科課程では過去６年間，定員を割ることなく充足率が106％～181％で推移してきており，良好な状況にある。これは，良好な就職率及び良好な大学院への進学実績に負うところが多いといえる。

以上のことから，準学士課程及び専攻科課程は，入学者数が入学定員と比較して適正な数になっている。

基準５　教育内容及び方法

（１）観点ごとの分析

＜準学士課程＞

観点５－１－①：　教育の目的に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

平成 23 年４月から，制御情報工学科がシステム制御情報工学科に名称変更したことに伴い，全学科でカリキュラムの見直しが行われた。新旧カリキュラムともに，本校の教育理念に沿って，系統的かつ体系的に編成されている。具体的には，低学年では一般科目を中心に基礎学力養成のための講義を主とする科目を多く配置し，学年の進行とともに，専門科目が多くなる楔形カリキュラムを編成している（資料５－１－①－１）。また，実践力を育成するための演習・実験・実習科目が学年ごとに配置されている（資料５－１－①－２～４）。カリキュラムの見直しに伴い，低学年における授業の過密化解消及び終了時間統一が行われている。

以下に，教育課程の科目系統図（資料５－１－①－５～６），本校の教育目標に対応する科目（資料５－１－①－７～８），低学年一般科目使用教科書（資料５－１－①－９）及びシラバス（資料５－１－①－10～13）を示す。

資料５－１－①－１

「各学年　必修・選択科目開設単位数」

旧カリキュラム（2～5年生）　必修・選択科目開設単位数

学　科（科）		1年	2年	3年	4年	5年	計	合計
一般科目	必修	27	27	16	6	1	77	95
	選択	0	0	0	18		18	
機械システム工学科	必修	8	9	16	24	25	82	91
	選択	0	0	0	1	8	9	
電気情報工学科	必修	6	9	18	25	17	75	100
	選択	0	0	0	5	20	25	
制御情報工学科	必修	6	9	15	28	27	85	86
	選択	0	0	0	1	0	1	
物質化学工学科	必修	6	9	20	24	18	77	104
	選択	0	0	0	3	24	27	

新カリキュラム（1年生）　必修・選択科目開設単位数

学　科（科）		1年	2年	3年	4年	5年	計	合計
一般科目	必修	27	27	16	6	3	79	93
	選択	0	0	0	14		14	
機械システム工学科	必修	6	7	19	26	24	82	89
	選択	0	0	0	1	6	7	
電気情報工学科	必修	6	7	19	26	17	75	102
	選択	0	0	0	5	22	27	
システム制御情報工学科	必修	6	7	19	24	24	80	87
	選択	0	0	0	1	6	7	
物質化学工学科	必修	6	7	19	24	21	77	104
	選択	0	0	0	3	24	27	

（出典　教務関係資料）

資料５－１－①－２

「各学年　講義，演習・実験・実習科目開設単位数」

旧カリキュラム（２～５年生）　講義・演習・実験・実習科目開設単位数

学　科（科）		1年	2年	3年	4年	5年	計	合計
一般科目	講義	25	25	12	24		86	95
	演習・実験・実習	2	2	4	1	0	9	
機械システム工学科	講義	2	5	13	17	22	59	91
	演習・実験・実習	6	4	3	8	11	32	
電気情報工学科	講義	2	5	12	20	29	68	100
	演習・実験・実習	4	4	6	10	8	32	
制御情報工学科	講義	3	6	12	23	18	62	86
	演習・実験・実習	3	3	3	6	9	24	
物質化学工学科	講義	2	5	16	18	32	73	104
	演習・実験・実習	4	4	4	9	10	31	

新カリキュラム（１年生）　講義・演習・実験・実習科目開設単位数

学　科（科）		1年	2年	3年	4年	5年	計	合計
一般科目	講義	25	25	12	22		84	93
	演習・実験・実習	2	2	4	1	0	9	
機械システム工学科	講義	2	3	16	19	19	59	89
	演習・実験・実習	4	4	3	8	11	30	
電気情報工学科	講義	2	3	13	21	31	70	102
	演習・実験・実習	4	4	6	10	8	32	
システム制御情報工学科	講義	4	3	15	21	19	62	87
	演習・実験・実習	2	4	4	4	11	25	
物質化学工学科	講義	2	4	15	17	34	72	104
	演習・実験・実習	4	3	4	10	11	32	

（出典　教務関係資料）

資料５－１－①－３

「機械システム工学科　旧カリキュラム」

別表第１

（機械システム工学科）

〔第1～3学年の授業科目及び開設単位数〕

区分		授業科目		単位数	学年別配当			備考
					1年	2年	3年	
一般科目	必修科目	国語	国語	9	4	3	2	
		社会	社会	2	2			
			歴史	4		2	2	
			地理	2		2		
		数学	数学Ⅰ A	3	3			
			数学Ⅰ B	3	3			
			数学Ⅱ A	3		3		
			数学Ⅱ B	3		3		
			数学Ⅲ	5			5	
		理科	物理Ⅰ	2	2			
			物理Ⅱ	3		3		
			化学Ⅰ	2	2			
			化学Ⅱ	2		2		
			理科総合	2		2		
		保体	保健	1	1			
			体育Ⅰ	6	2	2	2	
		外国語	英語Ⅰ	4	4			
			英語Ⅱ	4		4		
			英語Ⅲ	3			3	
			英文法	2	2			
			基礎英会話	1		1		
			英語演習	2			2	
		芸術	美術	1	1			
		情報	情報基礎	1	1			
		小計		70	27	27	16	
専門科目	必修科目	工学基礎演習		2	1	1		
		力学基礎		2		1	1	
		応用物理Ⅰ		2			2	
		材料加工学		1		1		
		機械加工学		2			2	
		機械材料学		3		1	2	
		材料力学Ⅰ		2			2	
		機械製図		3	2	1		
		ＣＡＤ／ＣＡＭ		1		1		
		機械製作実習		6	3	3		
		機械創造実習		3			3	
		情報処理演習		2	2			
		プログラミング基礎		2			2	
		電気工学		2			2	
		小計		33	8	9	16	
修得単位合計				103	35	36	32	

〔第4・5学年の授業科目及び開設単位数〕

区分		授業科目		単位数	学年別配当		備考
					4年	5年	
教養科目	必修科目	国語	言語表現	1	1		
		社会	国際関係論	1	1		
		保体	体育Ⅱ	1	1		
		外国語	英語Ⅳ A	2	2		
			英語Ⅳ B	1	1		
			英語Ⅴ	1		1	
		小計		7	6	1	
	選択科目	人文系	文学A	1	1		6単位以上選択
			文学B	1	1		
			哲学	1	1		
			心理学	1	1		
			史学A	1	1		
			史学B	1	1		
		社会系	法学Ⅰ	1	1		
			法学Ⅱ	1	1		
			経済学Ⅰ	1	1		
			経済学Ⅱ	1	1		
			政治学	1	1		
			産業財産権論	1	1		
		外国語	英語特講Ⅰ	1	1		
			英語特講Ⅱ	1	1		
			英会話Ⅰ	1	1		
			英会話Ⅱ	1	1		
			第二外国語Ⅰ	1	1		
			第二外国語Ⅱ	1	1		
		小計		18	18		
	修得単位合計				13以上		
専門科目	必修科目	応用数学Ⅰ		1	1		
		応用数学Ⅱ		1	1		
		応用数学Ⅲ		1		1	
		応用数学Ⅳ		1		1	
		応用物理Ⅱ		1	1		
		応用物理実験		1	1		
		機械システム工学ゼミナール		1		1	
		熱力学Ⅰ		1	1		
		熱力学Ⅱ		1	1		
		熱エネルギー工学Ⅰ		1		1	
		熱エネルギー工学Ⅱ		1		1	
		流体力学Ⅰ		1	1		
		流体力学Ⅱ		1	1		
		流体工学Ⅰ		1		1	
		流体工学Ⅱ		1		1	
		材料力学Ⅱ		1	1		
		材料力学Ⅲ		1	1		
		機械力学Ⅰ		1		1	
		機械力学Ⅱ		1		1	
		機械要素Ⅰ		1	1		
		機械要素Ⅱ		1	1		
		メカトロニクスⅠ		1	1		
		メカトロニクスⅡ		1	1		
		機械システム工学演習		2		2	
		機械設計演習Ⅰ		1	1		
		機械設計演習Ⅱ		1	1		
		プログラミング応用Ⅰ		1	1		
		プログラミング応用Ⅱ		1	1		
		センシング工学Ⅰ		1	1		
		センシング工学Ⅱ		1	1		

		制御工学Ⅰ	1		1	
		制御工学Ⅱ	1		1	
		メカトロニクスⅢ	1		1	
		メカトロニクスⅣ	1		1	
		生産技術論	2		2	
		機械システム工学実験Ⅰ	2	2		
		機械システム工学実験Ⅱ	2	2		
		卒業研究	8		8	
		小計	49	24	25	
	選択科目	企業実習	1	1		3単位以上選択
		計算力学	2		2	
		塑性加工学	2		2	
		オプトエレクトロニクス	2		2	
		ロボティクス	2		2	
		小計	9	1	8	
	修得単位合計			52以上		
修得単位合計				65以上		
一般・教養科目修得単位合計			83以上			
専門科目修得単位合計			85以上			

（出典　平成22年度学生生活のしおり P.61-63）

資料５－１－①－４

「機械システム工学科　新カリキュラム」

機械システム工学科

〔第1～3学年の授業科目及び開設単位数〕

区分		授業科目		単位数	学年別配当			備考
					1年	2年	3年	
一般科目	必修科目	国語	国語Ⅰ	4	4			
			国語Ⅱ	3		3		
			国語Ⅲ	2			2	
		社会	現代社会	2	2			
			日本史	2		2		
			世界史	2			2	
			地理	2		2		
		数学	数学ⅠA	3	3			
			数学ⅠB	3	3			
			数学ⅡA	3		3		
			数学ⅡB	3		3		
			数学ⅢA	4			4	
			数学ⅢB	1			1	
		理科	物理Ⅰ	2	2			
			物理Ⅱ	3		3		
			化学Ⅰ	2	2			
			化学Ⅱ	2		2		
			生物	1		1		
			地学	1		1		
		保体	保健	1	1			
			体育Ⅰ	2	2			
			体育Ⅱ	2		2		
			体育Ⅲ	2			2	
		外国語	英語Ⅰ	4	4			
			英語Ⅱ	4		4		
			英語Ⅲ	3			3	
			英文法	2	2			
			基礎英会話	1		1		
			英語演習	2			2	
		芸術	美術	1	1			
		情報	情報基礎	1	1			
		小計		70	27	27	16	
専門科目	必修科目	工学基礎演習Ⅰ		1	1			
		工学基礎演習Ⅱ		1		1		
		力学基礎		2			2	
		応用物理Ⅰ		2			2	
		機械加工学Ⅰ		1		1		
		機械加工学Ⅱ		1			1	
		機械材料学		2			2	
		材料力学Ⅰ		2			2	
		機構学		1			1	
		機械要素Ⅰ		1			1	
		機械製図Ⅰ		2	2			
		機械製図Ⅱ		1		1		
		CAD／CAMⅠ		1		1		
		CAD／CAMⅡ		1			1	
		機械製作実習Ⅰ		3	3			
		機械製作実習Ⅱ		3		3		
		機械総合実習		3			3	
		プログラミング基礎		2			2	
		電気工学		2			2	
		小計		32	6	7	19	
修得単位合計				102	33	34	35	

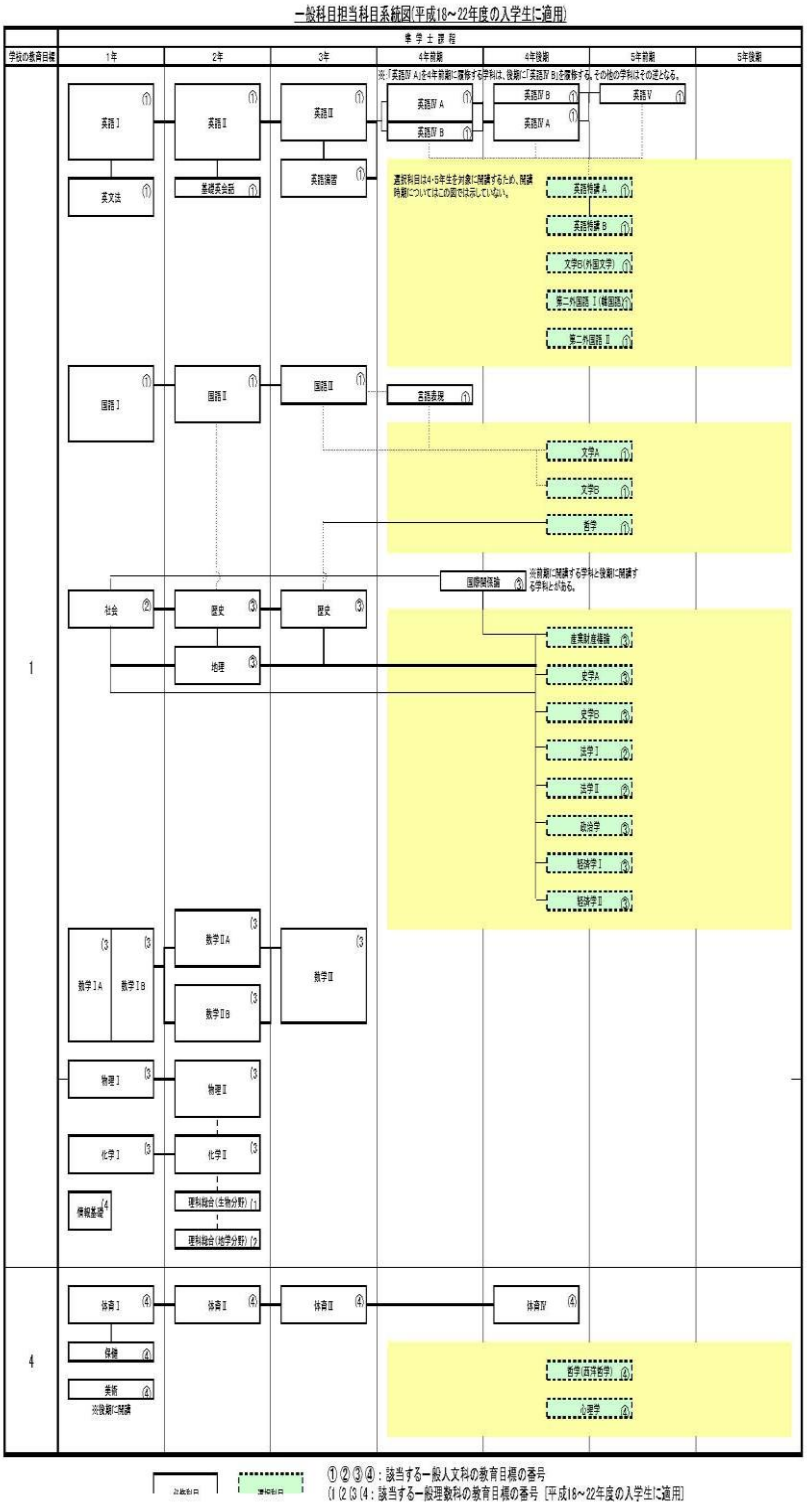
〔第4・5学年の授業科目及び開設単位数〕

区分			授業科目	単位数	学年別配当 4年	学年別配当 5年	備考
一般科目	必修科目	人文系	言語表現	1	1		
			日本文化論	1		1	
		社会系	知的財産権論	1		1	
			経済学	1	1		
		保体	体育Ⅳ	1	1		
		外国語	英語ⅣA	2	2		
			英語ⅣB	1	1		
			英語Ⅴ	1		1	
		小計		9	6	3	
	選択科目	人文系	文学	1	1		3単位以上修得
			哲学	1	1		
			心理学	1	1		
			史学	1	1		
		社会系	法学	1	1		
			政治学	1	1		
		外国語	英語特講A	1	1		
			英語特講B	1	1		
			第二外国語A	1	1		
			第二外国語B	1	1		
		理数系	数学特講	1	1		
			物理特講	1	1		
		一般教養総合	一般教養特別講義A	1	1		
			一般教養特別講義B	1	1		
		小計		14	14		
	修得単位合計				12以上		
専門科目	必修科目		応用数学Ⅰ	1	1		
			応用数学Ⅱ	1	1		
			応用数学Ⅲ	1		1	
			応用数学Ⅳ	1		1	
			応用物理Ⅱ	1	1		
			応用物理実験	1	1		
			機械システム工学ゼミナール	1		1	
			熱力学Ⅰ	1	1		
			熱力学Ⅱ	1	1		
			熱エネルギー工学Ⅰ	1		1	
			熱エネルギー工学Ⅱ	1		1	
			流体力学Ⅰ	1	1		
			流体力学Ⅱ	1	1		
			流体工学Ⅰ	1		1	
			流体工学Ⅱ	1		1	
			材料力学Ⅱ	1	1		
			材料力学Ⅲ	1	1		
			機械力学Ⅰ	1	1		
			機械力学Ⅱ	1		1	
			機械要素Ⅱ	1	1		
			メカトロニクスⅠ	1	1		
			メカトロニクスⅡ	1	1		
			創造実習	2	2		
			機械設計演習Ⅰ	1	1		
			機械設計演習Ⅱ	1	1		
			プログラミング応用Ⅰ	1	1		
			プログラミング応用Ⅱ	1	1		
			CAD／CAE	2		2	
			センシング工学Ⅰ	1	1		
			センシング工学Ⅱ	1	1		
			制御工学Ⅰ	1		1	
			制御工学Ⅱ	1		1	
			システム工学	2		2	
			生産技術論	2	2		
			機械システム工学実験Ⅰ	2	2		
			機械システム工学実験Ⅱ	2		2	
			卒業研究	8		8	
		小計		50	26	24	
	選択科目		企業実習	1	1		3単位以上修得
			計算力学	2		2	
			塑性加工学	2		2	
			オプトエレクトロニクス	2		2	
		小計		7	1	6	
	修得単位合計				53以上		
修得単位合計					65以上		
一般科目修得単位合計				82以上			
専門科目修得単位合計				85以上			

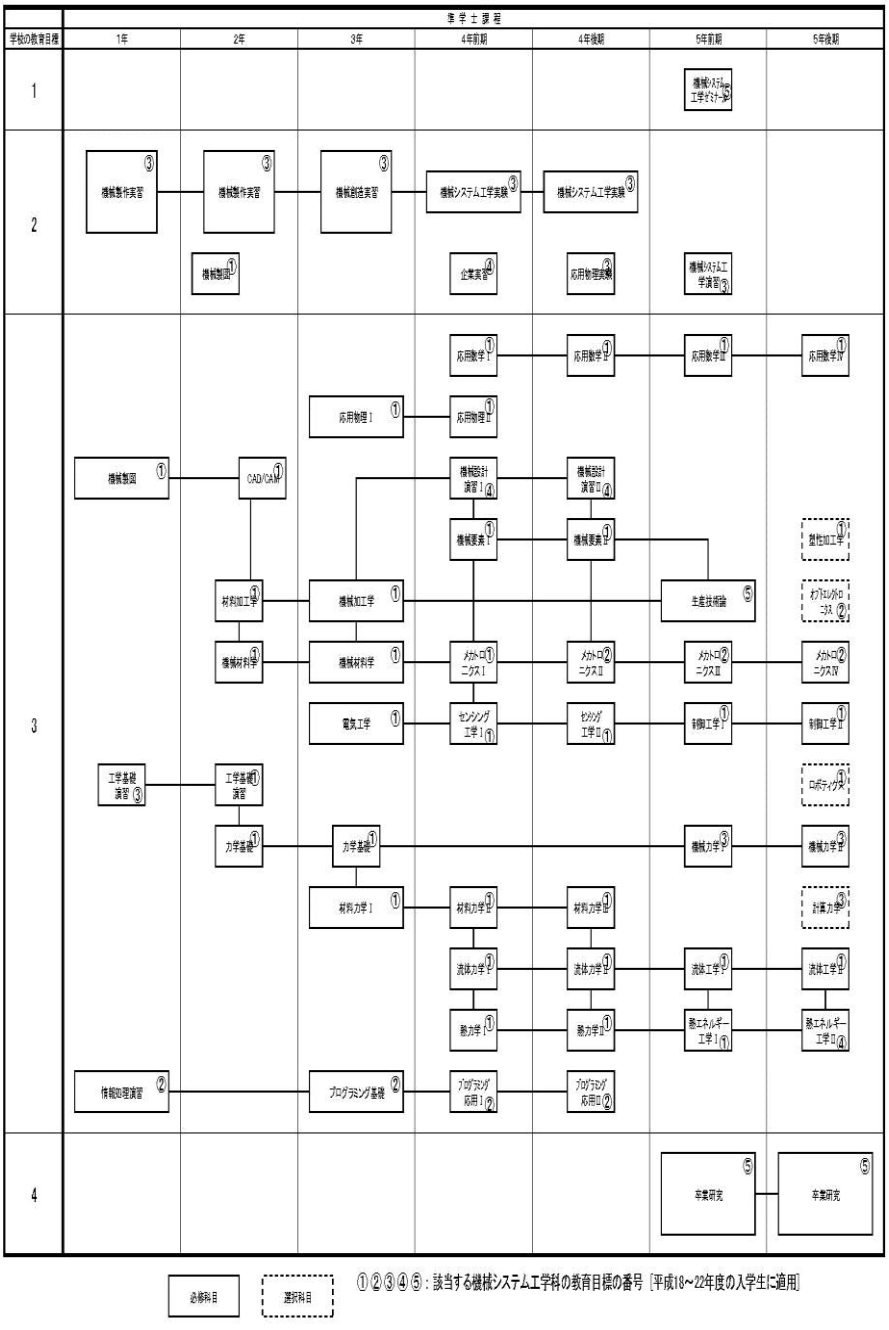
（出典　平成23年度学生生活のしおり P.64-66）

資料５－１－①－５

「旧カリキュラム　機械システム工学科授業科目系統図」



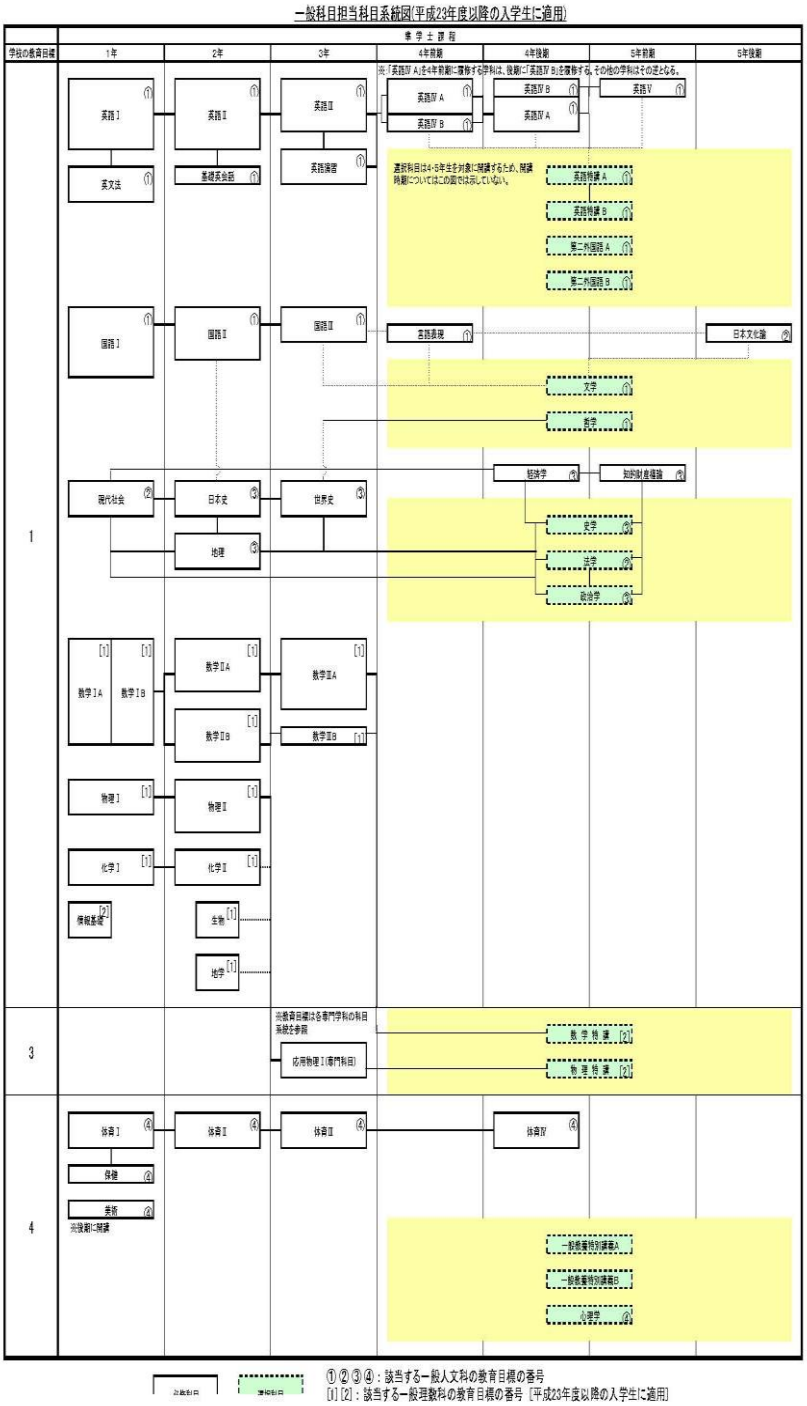
機械システム工学科授業科目(専門科目)教育目標系統図



（出典　教育課程等検討部会）

資料５－１－①－６

「新カリキュラム　機械システム工学科授業科目系統図」



（出典　教育課程等検討部会）

資料５－１－①－７

「旧カリキュラム　本校教育目標に対応する科目」

旧カリキュラム（2−5年生）　本校の教育目標に対応する科目

① 人間形成に必要な一般教育科目をできるだけ幅広く展開し，豊かな教養と幅広い思考力を養う。
また，外国語を鍛え，外国文化に対する理解力を養う。

学科（科）	設定科目
一般科目	国語，言語表現，社会，歴史，地理，歴史，国際関係論，英語Ⅰ−Ⅴ，英文法，基礎英会話，英語演習，文学A−B，文学B（外国文学），哲学，英語特講Ⅰ−Ⅱ，史学A−B，法学Ⅰ−Ⅱ，政治学，産業財産権論，第二外国語Ⅰ（韓国語），数学ⅠA−Ⅲ，情報基礎，物理Ⅰ−Ⅱ，化学Ⅰ−Ⅱ，理科総合（生物・地学）
機械システム工学科	機械システム工学ゼミナール
電気情報工学科	工業英語
システム制御情報工学科	工業英語
物質化学工学科	基礎化学実験，有機化学Ⅰ，有機化学実験，材料化学ゼミナール　等

② 若く新鮮な感性と実験・実習等を重視した体験学習により，豊かな創造力と行動力を養う。

学科（科）	設定科目
一般科目	
機械システム工学科	機械製作実習，機械製図，機械創造実習，応用物理実験，機械システム工学実験Ⅰ−Ⅱ，企業実習，機械システム工学演習
電気情報工学科	創造プログラミング実習，プログラミング実習Ⅰ−Ⅱ，電気情報工学基礎実験Ⅰ−Ⅱ，応用物理実験，電気情報工学実験Ⅰ−Ⅱ，企業実習，情報アルゴリズム
システム制御情報工学科	工作実習，CAD/CAM演習，応用物理実験，工学実験Ⅰ−Ⅲ，企業実習，卒業研究
物質化学工学科	情報処理，生化学実験，応用物理実験，情報処理演習，物理化学実験，化学工学実験，企業実習，卒業研究，材料化学実験，生物化学工学実験，電気化学

③ 工学基礎及び専門基礎をしっかり身に付けさせ，広い専門的視野と総合的判断力を持たせる。

学科（科）	設定科目
一般科目	
機械システム工学科	応用数学Ⅰ−Ⅳ，応用物理Ⅰ−Ⅱ，工学基礎演習，機械製図，情報処理演習，工学基礎演習，力学基礎，材料加工学，機械材料学，CAD/CAM，力学基礎，機械加工学，機械材料学，プログラミング基礎，熱力学Ⅰ−Ⅱ　等
電気情報工学科	応用数学Ⅰ−Ⅱ，応用物理Ⅰ−Ⅱ，電気工学基礎，電気情報基礎演習，基礎電気回路Ⅰ−Ⅱ，電子工学Ⅰ−Ⅱ，電気電子計測Ⅰ−Ⅱ，コンピュータ工学基礎，基礎電磁気学，基礎電子回路，計算機工学，電磁気学Ⅰ−Ⅱ　等
システム制御情報工学科	応用数学Ⅰ−Ⅳ，応用物理Ⅰ−Ⅱ，電子計算機概論，機械製図，情報処理，工学基礎，機械製図，コンピュータグラフィックス，形状処理基礎，材料学，機械要素設計，電気工学，電子計算機Ⅰ−Ⅱ，材料力学Ⅰ−Ⅱ，工業力学Ⅰ−Ⅱ等
物質化学工学科	応用数学Ⅰ−Ⅱ，応用物理Ⅰ−Ⅱ，基礎化学，基礎化学，化学基礎演習，分析化学，無機化学Ⅰ−Ⅱ，無機分析化学実験，有機化学Ⅱ，生化学，物理化学Ⅰ−Ⅲ，化学工学Ⅰ−Ⅳ，基礎生物学，微生物学，機器分析，生物環境化学等

④ 自主的に思考し，学習し，行動する習慣を身に付けさせ，心身の健康維持，増進に努めさせる。

学科（科）	設定科目
一般科目	美術，保健，体育Ⅰ−Ⅱ，哲学（西洋哲学），心理学
機械システム工学科	卒業研究
電気情報工学科	創成工学演習A−B
システム制御情報工学科	
物質化学工学科	

（出典　教務関係資料）

資料５－１－①－８

「新カリキュラム　本校教育目標に対応する科目」

新カリキュラム（1年生） 本校の教育目標に対応する科目

① 人間形成に必要な一般教育科目をできるだけ幅広く展開し，豊かな教養と幅広い思考力を養う。
また，外国語を鍛え，外国文化に対する理解力を養う。

学科（科）	設定科目
一般科目	国語Ⅰ－Ⅱ，言語表現，日本文化論，哲学，文学，英語Ⅰ－Ⅴ，基礎英会話，英文法，英語演習，英語特講A・B，現代社会，日本史，地理，世界史，経済学，知的財産権論，史学，法学，政治学，第二外国語A・B，数学ⅠA－ⅢB，情報基礎，物理Ⅰ－Ⅱ，化学Ⅰ－Ⅱ，生物，地学
機械システム工学科	機械システム工学ゼミナール
電気情報工学科	工業英語
システム制御情報工学科	工業英語
物質化学工学科	材料化学ゼミナール，生物化学工学ゼミナール，物質化学工学演習A

② 若く新鮮な感性と実験・実習等を重視した体験学習により，豊かな創造力と行動力を養う。

学科（科）	設定科目
一般科目	
機械システム工学科	応用物理実験，機械製図Ⅰ，機械製作実習Ⅰ，機械製図Ⅱ，機械製作実習Ⅱ，機械総合実習，創造実習，機械システム工学実験Ⅰ，企業実習，機械システム工学実験Ⅱ，卒業研究
電気情報工学科	応用物理実験，創造プログラミング実習，プログラミング実習Ⅰ－Ⅱ，電気情報工学基礎実験Ⅰ－Ⅱ，電気情報工学実験Ⅰ－Ⅱ，企業実習，情報アルゴリズム，卒業研究
システム制御情報工学科	応用物理実験，工作実習，CAD／CAM演習，創造工学，工学実験Ⅰ，企業実習，ゼミナール，工学実験Ⅱ，卒業研究
物質化学工学科	応用物理実験，基礎化学実験，情報処理，生化学実験，情報処理演習，物理化学実験，化学工学実験，企業実習，卒業研究，材料化学実験，生物化学工学実験，電気化学

③ 工学基礎及び専門基礎をしっかり身に付けさせ，広い専門的視野と総合的判断力を持たせる。

学科（科）	設定科目
一般科目	数学特講，物理特講
機械システム工学科	応用数学Ⅰ－Ⅳ，応用物理Ⅰ－Ⅱ，工学基礎演習Ⅰ－Ⅱ，機械加工学Ⅰ－Ⅱ，CAD／CAM　Ⅰ－Ⅱ，力学基礎，機械材料学，材料力学Ⅰ－Ⅲ，機構学，機械要素Ⅰ－Ⅱ，プログラミング基礎，電気工学，熱力学Ⅰ－Ⅱ，材料力学Ⅰ－Ⅲ等
電気情報工学科	応用数学Ⅰ－Ⅱ，応用物理Ⅰ－Ⅱ，電気工学基礎，電気情報基礎演習，基礎電気回路Ⅰ－Ⅱ，コンピュータ工学基礎，基礎電子回路，基礎電磁気学，電子工学，電気電子計測Ⅰ－Ⅱ，計算機工学，電気回路Ⅰ－Ⅱ，電子回路Ⅰ－Ⅲ等
システム制御情報工学科	応用数学Ⅰ－Ⅱ，応用物理Ⅰ－Ⅱ，電子計算機概論，工学基礎演習Ⅰ－Ⅱ，製図，情報処理，CADⅠ－Ⅱ，コンピュータグラフィックス，アルゴリズムとデータ構造，工業力学，材料工学，機械要素設計，電気工学，数値計算Ⅰ－Ⅱ　等
物質化学工学科	応用数学Ⅰ－Ⅱ，応用物理Ⅰ－Ⅱ，基礎化学，化学基礎演習，分析化学，無機化学Ⅰ－Ⅲ，有機化学Ⅰ－Ⅲ，分析化学実験，基礎生物学，微生物学，生化学，物理化学Ⅰ－Ⅲ，化学工学Ⅰ－Ⅳ，有機化学実験，機器分析　等

④ 自主的に思考し，学習し，行動する習慣を身に付けさせ，心身の健康維持，増進に努めさせる。

学科（科）	設定科目
一般科目	美術，保健，体育Ⅰ－Ⅳ，心理学
機械システム工学科	
電気情報工学科	創成工学演習A－B
システム制御情報工学科	
物質化学工学科	

（出典　教務関係資料）

資料５－１－①－９

低学年一般科目使用教科書

科目名	学年	使用教科書	出版社
国語Ⅰ	1	新編国語総合　改訂版	三省堂
現代社会	1	現代社会	東京書籍
美術	1	高校美術　１	日本文教出版
英語Ⅰ	1	PRO-VISION ENGLISH COURSE Ⅰ New Edition	桐原書店
英文法	1	Intensive English Grammar in 27 Lessons	桐原書店
保健	1	現代保健体育　改訂版	大修館書店
数学ⅠＡ	1	改訂版　新編　数学　Ⅰ･Ⅱ	数研出版
数学ⅠＢ	1	改訂版 新編 数学 A, 改訂版 新編 数学 Ⅱ	数研出版
情報基礎	1	高等学校　情報C　最新版	啓林館
物理Ⅰ	1	新編物理　Ⅰ	東京書籍
化学Ⅰ	1	化学　Ⅰ･Ⅱ	東京書籍
国語	2	精選現代文,新編古典	東京書籍
歴史	2	日本史Ａ－現代からの歴史	東京書籍
地理	2	高等学校 改訂版 地理Ａ 世界の暮らしを学ぶ	第一学習社
英語Ⅱ	2	PRO-VISION ENGLISH COURSE Ⅱ New Edition	桐原書店
基礎英会話	2	Top Notch Level 1 Student Book with Super CD-ROM	Pearson
数学ⅡＡ	2	改訂版 新編 数学 A･B･C,数学IIA	数研出版 旭川高専
数学ⅡＢ	2	改訂版 新編 数学 B,改訂版 新編 数学 Ⅱ･Ⅲ	数研出版
物理Ⅱ	2	新編物理 Ⅰ, 物理 Ⅱ	東京書籍
化学Ⅱ	2	化学　Ⅰ	東京書籍
理科総合 （生物分野）	2	高等学校理科総合B改訂版,四訂版スクエア最新図説生物	啓林館 第一学習社
理科総合 （地学分野）	2	高等学校　理科総合B　改訂版	啓林館
国語	3	現代文	教育出版
歴史	3	明解新世界史Ａ　新訂版	帝国書院
英語Ⅲ	3	ELEMENT English Reading Skills Based	啓林館
英語演習	3	NEW EDITION UNICORN ENGLISH WRITING	文英堂
数学Ⅲ	3	改訂版 新編 数学 Ⅲ,数学 Ⅲ	数研出版 旭川高専
応用物理Ⅰ	3	物理学基礎 第四版	学術図書

＊1年生は新カリキュラム　　＊２・3年は旧カリキュラム

（出典　教務関係資料）

「国語Ⅰシラバス」　　資料５－１－①－10

科目名	国語Ⅰ		科目コード G11001

学年・学科等名	1 学年	全クラス	必修科目
単位数・開講期	4 単位	通年	
総時間数	120 時間		
担当教員	石本　裕之・倉持　しのぶ		

本校の教育目標	1	一般人文科の教育目標	1

JABBE対象外			

教科書名	『新編国語総合　改訂版』(三省堂)
補助教材	『新編国語総合改訂版　学習ノート　現代文編』・『同・古典編』(三省堂)・『漢字の学習』(三省堂)・『高校国語へのブリッジ』(明治書院)・プリント
参考書	『カラー版新国語便覧』(第一学習社)・国語辞典・漢和辞典・古語辞典

A.　科目の教育目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

B.　科目の概要

日本語で思考し、日本語で表現する者にとって、しかるべき国語の力をつけることは最も基本的且つ重要なことである。授業では、国語の学力向上を図って毎週定期的に演習の時間を設ける。(F「授業内容」の「時間」覧に「＋2～3」とあるのがその目安である。)学力の定着と、漢字検定試験3級以上(4年生までに2級)合格をめざそう。

C.　学習上の留意点

平常の授業に「きちんと取り組む」ということの内容を理解し、実行すること。

① 学習に有用な、しっかりしたノート作りを確実に行い、理解力・表現力の伸長に心がける。
▼はじめの授業にノート作り指導をする。以後、どの教材もその仕方で各自ノート作りを行うこと。
▼現代文・古文・漢文それぞれ別個の、ノートを用いること。(ファイル式は不可。)
▼古文は予習として、本文書写と活用語、特に助動詞の明示を怠らないこと。
▼漢文は予習として、白文と書き下し文の記入を怠らないこと。
▼現代文ノートでは特に、聞き取りながらメモする作業を重視すること。

② 辞書を引き予習復習を行って、漢字力・語彙力を養成し、日常的な学習習慣を身につける。
▼教材程度のレベルの文章を自力で読み解くことができるようになることが肝心。
▼予習習慣の身に付けが、学習習慣身に付けの基礎であることを忘れないように。
▼「自分で調べ、読み、書く」ことが「勉強」であると、銘記すること。

③ 新聞を含め広く文章に親しみ、実際に読み書きすることを心がける。具体例としてコラム写書を行うことを推奨する。
▼必要な能力を身に付けるために、国語が不得意と自分で思う者ほど取り組む必要がある。
▼平常点に結びつくものであるから、国語が不得意と自分で思う者ほど取り組む必要がある。

D.　評価

試験(80%)、ノート・課題等平常点(20%)で評価する。自主課題・漢字検定結果を加味する。

E.　授業内容

授業項目	時間	内　　容
ガイダンス	1	・学習意義や評価法、検定受検の意義がわかる。
		・予習・復習、授業への取り組み方がわかる。
ノート法演習	2	・ノート法の基本を身につけ、習慣化できる。
漢)・漢文に親しもう	2	・漢文に親しみ、漢字・熟語・基本的漢文の構造を理解し、訓読文を読み下すことができる。
・五十歩百歩〈故事成語〉	3	
【訓読のしかた】	+2	・訓点を付けたり、書き下し文にしたりできる。
現)・水の惑星〈随想〉	4	・筆者の考えを読み取りながら、自分の考えを深めることができる。
・真実の鏡〈随筆〉	4	
	+3	
古)・古典の響き	1	・音読を通して古典のリズムを感じ取ることができる。
・鳩と蟻〈伊曾保物語〉	2	・歴史的仮名遣いを理解し、古典に親しみ、現代の言葉との関連を理解することができる。
・公世の二位のせうと〈徒然草〉	3	
【古文の読み方】	+2	
(前期中間試験)	1	＋1　答案返却時指導
漢)・蛇足〈故事成語〉	2	・漢文の訓読や訓点・書き下し文に慣れ、身近な漢文を読解することができる。
・漢詩六首(前五首)〈漢詩〉	3	
【漢詩の表現】	+3	・詩の形式を理解し、鑑賞することができる。
現)・羅生門〈小説〉	6	・背景事項、人物の心理変化を的確に読み取り、小説を味読することができる。
・コインは円形か〈評論〉	5	・論理の展開をとらえ、思考を深めることができる。
※草之丞の話	+2	※読書レポートをまとめることができる。
古)・阿蘇の史〈今昔物語集〉	3	・古文の文体に慣れ、筆者のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。
・高名の木登り〈徒然草〉	2	
【古語の用言・用言の活用他】	+3	・活用と活用形、係り結びを理解することができる。
(前期期末試験)		＋1　答案返却時指導
漢)・鶏鳴狗盗〈史記〉	5	・訓読や訓点・書き下し文に習熟し、表現の特色と話の展開について理解することができる。
	+3	
現)・水の東西〈評論〉	5	・論理的な文章の構成を理解し、叙述に即して読解することができる。
・世界観の変貌〈評論〉	5	
	+2	・提起された問題に対して自ら考えることができる。
※猿が島		※読書レポートをまとめることができる。
古)・芥川〈伊勢物語〉	3	・古文の文体に慣れ内容を理解することができる。
・門出〈土佐日記〉	3	・登場人物の心情を読み取り、歌物語や日記文学の特色を理解することができる。
【助動詞の用法】【助詞の用法】	+3	
(後期中間試験)	1	＋1　答案返却時指導
漢)・論語のことば〈論語〉	5	・漢文の基礎知識を固め、孔子の学問に対する考え方を知り、自己の考えを深めることができる。
	+2	
現)・言語は色眼鏡である〈評論〉	5	・筆者の認識を正確にとらえ、自らの考えを深めることができる。
・情報と身体〈評論〉	5	
	+2	
古)・旅立ち〈奥の細道〉	3	・筆者の旅への思いを味わうとともに、俳句についての基本的な事項を理解することができる。
・平泉〈奥の細道〉	3	
【敬語】	+3	・敬語を理解することができる。
(学年末試験)		

F.　関連科目

文学、言語表現、哲学、歴史、科学全般

旭川高専 2011

（出典　平成 23 年度　機械システム工学科シラバス　P. 1-2）

「創造プログラミング実習シラバス（電気情報工学科）」　資料５－１－①－11

科目名	創造プログラミング実習		科目コード E11003

学年・学科等名	1 学年	電気情報工学科	必修科目
単位数・開講期	2 単位	通年	
総時間数	60 時間		
担当教員	有馬　達也		

本校の教育目標	2	電気情報工学科の教育目標	2

JABBE対象外		

教　科　書　名	
補　助　教　材	講義に使用するプリント教材を配布する。
参　　考　　書	BASIC 言語および C 言語の一般的な入門書

A.　教育目標
ポケットコンピュータを用いて BASIC 言語と C 言語を学び、プログラミングの基礎を理解する。

B.　概要
ポケットコンピュータのBASIC言語、C言語の基本的な文法を学び、産業用プログラムや画面制御のプログラミングを行う。前期はBASIC言語、後期は C 言語を主に学ぶ。

C.　学習上の留意点
プリント教材には、サンプル・プログラムを多数記載する。全てのプログラム例題を自分で実行させて理解すること。自分で考案したオリジナルのプログラムを製作できるようにすること。

D.　評価方法
試験（80%程度）、演習（20%程度）。定期試験の一部を事前に課題として与え、レポートによる報告を得点とする場合がある。学年末試験の得点及び完全回答の提出、自主課題の提出を評価する。

E.　授業内容

授業項目	時間	内容
ポケットコンピュータ使用法	2	基本的なキー操作と使用方法について理解できる。
BASIC言語について	2	計算機言語の変数、配列などを理解できる。
	2	基礎的なプログラムが書けるようになる。
	2	データ入力と画面への表示について理解できる。
	2	IF文、For~NEXT 文などの繰り返しを説明できる。
ゲーム・プログラミング（1）	6	簡単なゲームを BASIC 言語でプログラムできる。
（前期中間試験）	2	オリジナルなゲーム・プログラムを BASIC 言語で作成する。
乱数の発生	2	乱数を理解し、プログラムとして利用できる。
ファイル処理	2	データをディスクに移動させ、読み込むプログラムが書ける。
グラフィクス	2	画面に図形を表示し、キャラクタを動かすことができる。
ゲーム・プログラミング（2）	2	乱数を用いるゲーム・プログラムを作ることができる。
	4	画面上でキャラクタを操作するゲーム・プログラムを作る。
（前期期末試験）		高度なゲーム・プログラムをBASIC言語で作成する。
C 言語の基礎（1）	10	C 言語コンパイラの使用法と変数の型の意味を理解できる。
C 言語のプログラミング（1）	8	変数の範囲、配列、if 文、while 文、do 文などを理解できる。
（後期中間試験）	2	C 言語の基礎的なプログラムをC言語で作成する。
C 言語のプログラミング（2）	10	C 言語を用いてグラフィクスに関するプログラミングができる。 C 言語で関数を用いたプログラミムを理解し、応用できる。
（学年末試験） C 言語で複雑なプログラムを関数を多用して作成する。		

F.　関連科目
数値解析

旭川高専 2011

（出典　平成23年度　電気情報工学科シラバス　P. 29）

「制御工学Ⅱシラバス（制御情報工学科）」　　資料５－１－①－12

科目名	制御工学Ⅱ	JABEE科目	科目コード 334

学年・学科等名	4 学年	制御情報工学科	必修科目
単位数・開講期	1 単位	後期	
総時間数	45 時間	講義＋教室内自学自習 30 ＋ 自学自習 15	
担当教員	森川　一		

本校の教育目標	3	制御情報工学科の教育目標	3

JABEE関連	教育プログラム科目区分	201基礎工学科目①設計・システム系
	教育プログラムの学習・教育目標	A-2(25%) D-1(65%) D-2(10%)
	JABEE基準	d

教科書名	自動制御（編者　得丸英勝，森北出版） 演習で学ぶ基礎制御工学（著者　森泰親，森北出版） 電気理論（著者　池田哲夫，森北出版）
補助教材	プリント（各種資料及び演習問題）など
参考書	自動制御理論（著者　樋口龍雄，森北出版）　など

A.　教育目標

制御工学の基本的な考え方を理解し，基本的かつ典型的な電気系（及び機械系）のシステムを数学的に表現する方法を習得する。また，解析を進めるうえで必要となる数学的な概念や計算方法を習得する。

B.　概要

これまでに学習した制御情報工学科の専門科目と関連づけて，制御工学の基礎を学習する。具体的には，第5学年で講義する「制御工学Ⅲ・Ⅳ」の内容を理解できるように，以下のE．授業内容に示す教科書「自動制御」第4章～第6章に該当する内容を順次学習する。

C.　学習上の留意点

ラプラス変換・ラプラス逆変換を活用した伝達関数や制御系の過渡応答の取り扱いを学習する。さらに，制御系の情報伝達を表すのに用いられるブロック線図の取り扱いを理解する。また，制御系の重要な特性の一つである周波数特性の取り扱いを理解する。周波数特性の取り扱いに関しては，具体的な数値計算のほかに，図式表示の相互変換もできるように，その内容を十分学習する。

D.　評価方法

試験を基本（70%を標準として，60～80%の範囲で変更する）として，日常的な演習・課題・レポート・発言等（30%を標準として，40～20%の範囲で変更する）を考慮して総合的に評価する。

E.　授業内容

授業項目	時間	内　容	教育プログラム
1 伝達関数 (1) 伝達関数の定義 (2) 基本的制御要素の伝達関数 (3) ブロック線図 (4) 高次の伝達関数	8	 伝達関数の定義を数学的に説明できる。 各種の基本的制御要素の伝達関数について数学的に説明できる。 制御系をブロック線図で表現でき，必要に応じた等価変換ができる。	A-2, D-1, D-2

授業項目	時間	内　容	教育プログラム
(5) 分布定数系の伝達関数		「高次の伝達関数」の工学的な取り扱いを説明できる。 「分布定数系」と「集中定数系」の違いを具体的に説明できる。	
2 過渡特性 (1) 系の応答 (2) 過渡応答の特性値 (3) 一次遅れ要素 (4) 積分要素 (5) 微分要素	8	系の応答に用いる基本的入力関数の種類や数学的な取り扱いを説明できる。 過渡応答の特性値を説明できる。 制御系の過渡特性を表す各種応答を計算でき，図示できる。 時定数について説明でき，計算できる。 各種要素が有する独特の特性を説明できる。	D-1, D-2
(中間試験)	2	電卓使用可(ポケコン不可)。試験時間 100 分	
(6) 二次遅れ要素 (7) 任意の入力に対する応答		二次遅れ要素の減衰係数に応じた応答とその分類を説明できる。 二次遅れ要素の各種減衰特性を説明でき，計算できる。 任意の入力に対する応答の計算方法(畳み込み積分)を説明でき，計算できる。	
3 周波数特性 (1) 周波数応答 (2) 周波数伝達関数 (3) 周波数伝達関数の図式表示	12	周波数応答の意味を説明できる。 伝達関数と周波数伝達関数の違いを説明でき，それぞれを相互に変換できる。 各種の周波数特性の図式表示の特徴などを説明でき，図示できる。 基本的な周波数伝達関数の周波数特性をナイキスト線図，ボード線図，ゲイン－位相線図等で表現でき，さらに各線図から周波数特性を読み取れる。	D-1, D-2
(学年末試験)			
◆自学自習 ・　予習・復習 ・　演習課題 ・　レポートの作成 ・　定期試験の準備	15	自学自習時間として，日常授業のための予習・復習時間，理解を深めるための演習課題の考察・解法の時間，ノートの整理，レポート作成の時間および定期試験の準備のための勉強時間を総合して15時間と考えている。	A-2, D-1, D-2

F.　関連科目

制御工学(Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ)，応用数学，応用物理，電気工学，工学実験

旭川高専 2011

(出典　平成23年度　制御情報・システム制御情報工学科シラバス P.126-127)

「体育Ⅱシラバス」　　資料５－１－①－13

科目名	体育Ⅱ		科目コード 033

学年・学科等名	4 学年	全学科	必修科目
単位数・開講期	1 単位	後期	
総時間数	30 時間		
担当教員	小西　卓哉・木本　理可		

本校の教育目標	4	一般人文科の教育目標	4

JABBE対象外		

教　科　書　名	なし
補　助　教　材	プリント
参　　考　　書	ルールブック、各種目参考図書は図書館に用意してある。

A.　教育目標

さまざまなスポーツ種目の基本技術習得と経験を通して、生涯に渡って自主的に運動・スポーツ活動を実践する態度と能力を養成する。また合理的な運動学習によって社会性や公正な態度を身につけさせる。

B.　概要

集団スポーツグループと個人スポーツグループに分かれ、各グループで練習やゲームの計画を立て自主的に運営できるようにする。集団スポーツ・個人スポーツともに基本的には、3学年までに学習してきたものとする。各グループにおいて人数、スペース、道具なども考慮して実施するスポーツ種目の計画を立てる。

C.　学習上の留意点

授業に際しては、安全面への配慮から必ず運動に適した服装で参加をすること。怪我の防止のために装飾品は外すこと。

集団スポーツにおいては、チームワークの大切さを理解し、チームでの役割を考えチームプレーを心掛けて積極的に参加をすること。

個人スポーツにおいては、勝利ばかりに固執するのではなく相手を尊敬し、認めたうえでゲーム運営ができること。

個人スポーツと集団スポーツの選択とし、第1週目にグループ分けと計画立案を行う。第8週目に1回目の実技テストを実施する。第9週目に再選択を行いグループ分けと計画立案を行う。最終 15 週目に2回目の実技テストを実施する。同一種目または複数種目を選択した場合でも2回の実技テストのうち良い結果の方を評価の対象とする。

D.　評価方法

実技テスト、ゲーム・試合評価（70%）、取組度（30%）にて評価する。

E.　授業内容

授業項目	時間	内　　容
1. ガイダンス	2	授業の心得がわかる。 ・個人スポーツ・集団スポーツグループの選択 ・グループごとに種目選択、計画立案ができる。 ・ケガの防止等安全に配慮することができる。
2. グループごとに計画の実践	12	グループごとに立案した計画に基づき、スポーツ種目の練習・ゲームをすることができる。 ・それぞれのレベルに合わせた練習方法を工夫することができる。

授業項目	時間	内　　容
		・ルール等を工夫し全員が楽しめる試合を進めることができる。 ・ケガの防止等安全に配慮することができる。
3．グループごとに前半のまとめ （実技テスト） グループごとに掲げた目標や課題をもとに実技テストを実施する	2	前半を振り返り、グループの課題、個人の課題を確認することができる。
4．グループ再選択	2	・個人スポーツ・集団スポーツグループの選択 ・グループごとに種目選択、計画立案ができる。 ・ケガの防止等安全に配慮することができる。
5．グループごとに計画の実践	10	グループごとに立案した計画に基づき、スポーツ種目の練習・ゲームをすることができる。 ・それぞれのレベルに合わせた練習方法を工夫することができる。 ・ルール等を工夫し全員が楽しめる試合を進めることができる。 ・ケガの防止等安全に配慮することができる。
6．グループごとに後半のまとめ （実技テスト） グループごとに掲げた目標や課題をもとに実技テストを実施する	2	後半を振り返り、グループの課題、個人の課題を確認することができる。 体育Ⅱ全体を通して確認した課題を、各個人の課題として今後のスポーツ活動に生かすことができる。

F.　関連科目
第１学年体育Ⅰ、第２学年体育Ⅰ、第３学年体育Ⅰ

旭川高専 2011

（出典　平成 23 年度　機械システム工学科シラバス　Ｐ．93－94（体育Ⅱ））

（分析結果とその根拠理由）

国立高等専門学校機構の目的及び本校の教育理念に基づき，本校の教育目標が設定されており，それを達成するために適切な教育課程が編成されている。一般科目と専門科目が学齢の成長を考慮した上で楔型に配置され，低学年においては，専門科目の学習の基礎となる一般科目を中心に編成しており，中学校との継続性を保ちながら普通高校レベルの内容にも配慮されている。専門科目に関しては，低学年の工学基礎科目から高学年の工学専門科目へと系統的に学べるように，それぞれの学科の特色を活かしたカリキュラムが工夫されている。また，授業の内容は，本校及び各学科・科の教育目標を達成するために，適切なものとなっている。

以上のことから，教育の目的に照らして，教育課程が体系的に編成されており，授業の内容は，教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

観点５－１－②：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

本校学則において，本校以外での学習も 30 単位を超えない範囲で修得を認めている（資料５－１－②－１，２）。また，本校ではいくつかの技能審査について，合格者の申請により特別学習単位として認定している（資料５－１－②－３～６）。さらに，社会的要請に応えるため，第４学年の専門選択科目として企業実習の単位認定を行っている（資料５－１－②－７～10）。

本校では，旭川高専第２期中期計画において，国際的に活躍できる技術者の養成を目的とし，準学士及び専攻科課程修了時点で，それぞれ TOEIC スコア 350 点及び 400 点取得を目標としている。低学年からの英語主体の授業，ネイティブスピーカーによる授業，全校一斉英語試験日の設定により TOEIC スコアアップが実現できるようにしている（資料５－１－②－８，11，12）。

また，社会からの要請に応えるべく，高学年に「産業財産権論」（新カリキュラムでは必修），「卒業研究」における特許電子図書館（IPDL）教育を行う等，授業内容が工夫されている（資料５－１－②－13～15）。

さらに，機械システム工学科及びシステム制御情報工学科において所定の授業・試験に合格した学生には「ガス溶接技能講習修了証」が交付される（資料５－１－②－16）。

「本校以外での単位修得について（学則の規定）」　　資料５－１－②－１

第１３条　教育課程は，授業科目及び特別活動をもって編成する。
２　学年ごとの授業科目及びその開設単位数は，別表第１のとおりとする。
３　各授業科目の単位数は，１個学年３０単位時間（１単位時間は，標準５０分とする。次項において同じ。）の履修を１単位として計算するものとする。
４　前項の規定にかかわらず，第４学年及び第５学年の授業科目にあっては，修得すべき単位のうち，６０単位を超えない範囲について，１単位の授業科目を４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の基準により計算する。ただし，体育及び卒業研究にあっては，前項の規定によるものとする。
(1) 講義については，１５時間の授業時間をもって１単位とする。ただし，外国語の授業にあっては，３０時間の授業をもって１単位とする。
(2) 演習，実験及び実習については，３０時間の授業時間をもって１単位とする。
５　特別活動は，第１学年から第３学年までの各学年において，それぞれ３０単位時間，計９０単位時間を行うものとする。
６　学生は，第２項に規定する授業科目について，一般科目及び教養科目については８３単位以上，専門科目については８５単位以上履修かつ修得し，さらに前項に規定する特別活動を履修するものとする。

第１３条の２　本校においては，文部科学大臣が別に定めるところにより，授業を，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることがある。
２　前条第５項の規定により修得しなければならない単位数のうち，前項の授業の方法により修得する単位数は３０単位を超えないものとする。

第１３条の３　校長は，教育上有益と認めるときは，学生が他の高等専門学校において履修した授業科目について修得した単位を，３０単位を超えない範囲で，本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。
２　前項に関して必要な事項は，別に定める。

第１３条の４　校長は，教育上有益と認めるときは，学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が定める学修を，本校における授業科目の履修とみなし，単位の修得を認定することがある。
２　前項により認定することができる単位数は，前条により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて３０単位を超えないものとする。
３　前２項に関して必要な事項は，別に定める。

（出典　平成23年度　学生生活のしおり（学則13条の２～４）P.52-53）

「本校以外での単位修得例」　　資料５－１－②－２

第11回教務委員会	
H23. 3. 2	資料6

2011 年 2 月 9 日

高度ソフトウェア開発工学（Ⅰ・Ⅱ）成績証明書

東京工業高等専門学校専攻科の上記科目について成績・修得単位を証明します。

東京工業高等専門学校長
古屋 一仁

高専名：　旭川工業高等専門学校

評価：　[redacted]　点　　合格

高度ソフトウェア開発工学Ⅰ　　１単位

氏名	学科	学年
[redacted]	制御情報工学科	4
	制御情報工学科	4
	制御情報工学科	4
	制御情報工学科	4

高度ソフトウェア開発工学Ⅱ　　１単位
（IT リーダー育成キャンプ参加学生）

氏名	学科	学年
[redacted]	制御情報工学科	4

備考：　全課題提出

（出典　平成22年度　第11回教務委員会資料）

「特別学習単位認定規則」　　資料５－１－②－３

○旭川工業高等専門学校特別学修単位認定規則

（平成１６．２．１０　達第９号）

改正　平成19．2.13　達第20号　　平成19．3.13　達第77号

平成21．3.10　達第20号

旭川工業高等専門学校特別学修単位認定規則

（趣旨）

第１条　この規則は，旭川工業高等専門学校学則第１３条の４第３項の規定に基づき，文部科学大臣の認定を受けた技能審査（以下「技能審査」という。）の合格に係る学修（以下「特別学修」という。）による単位修得の認定に関し，必要な事項を定めるものとする。

（技能審査）

第２条　旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）において，単位の修得を認定することができる技能審査は，次の各号に掲げるものとする。

(1) 日本漢字能力検定

(2) 実用英語技能検定

(3) 工業英語能力検定

（認定の申請）

第３条　特別学修による単位修得を受けようとする者は，あらかじめ別表に掲げる認定授業科目の履修を届け出るものとする。

２　前項による届出をした者が，当該技能審査に合格し，単位の認定を申請する時は，別紙様式１の特別学修単位認定申請書に合格を証明する書類を添付し，当該年度の１月末までに学級担任を経て校長に提出するものとする。ただし，第１学年から第３学年までに別表の検定に合格した場合は，第４学年及び第５学年に単位認定の申請をするものとする。

（単位修得の認定）

第４条　前条の規定により申請のあった特別学修については，別表に掲げる授業科目のうち相当する単位数の修得を認定することができる。

２　前項に規定する単位修得の認定は，資格の種別ごとに行い，本校学則に定める授業科目の単位数を超えない範囲で，卒業認定単位数に含むことができる。

３　前２項により，既に単位修得を認定されている者が，新たに上位の資格を取得した場合は，上位の資格の単位数から下位の資格の単位数を減じて得た単位数を認定することとする。

４　単位修得の認定は，教務委員会の審議に基づき，校長が行う。

５　校長は，前条の申請に基づき単位を認定した場合は，申請者に別紙様式２の特別学修単位認定通知書を交付するものとする。

附　則

１　この規則は，平成１６年４月１日から施行する。

２　この規則の施行日前に，本校に在学する学生が取得した技能審査について，第３条の規定に基づく認定の申請をしたときは，単位修得の認定をすることができる。

附　則（平成１９．２．１３　達第２０号）

この規則は，平成１９年４月１日から施行する。

附　則（平成１９．３．１３　達第７７号）

この規則は，平成１９年４月１日から施行する。

附　則（平成２１．３．１０　達第２０号）

１　この規則は，平成２１年４月１日から施行する。

２　改正後の別表は，平成１８年度に入学した者から適用し，平成１７年度以前に入学した者については，なお従前の例による。

別表（第３条関係）

<table>
<tr><th>技能審査の種別</th><th>級</th><th>授業科目</th><th>認　定
単位数</th><th>認定
学年</th></tr>
<tr><td rowspan="3">日本漢字能力検定</td><td>1</td><td rowspan="3">言語表現</td><td rowspan="3">1</td><td rowspan="3">4</td></tr>
<tr><td>準１</td></tr>
<tr><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">実用英語技能検定</td><td>1</td><td rowspan="4">英語特講Ⅰ
英語特講Ⅱ
英会話Ⅰ
英会話Ⅱ</td><td rowspan="4">４以下</td><td rowspan="4">４・５</td></tr>
<tr><td>準１</td></tr>
<tr><td rowspan="2">工業英語能力検定</td><td>1</td></tr>
<tr><td>2</td></tr>
<tr><td>実用英語技能検定</td><td>2</td><td rowspan="2">英語特講Ⅰ
英語特講Ⅱ
英会話Ⅰ
英会話Ⅱ</td><td rowspan="2">２以下</td><td rowspan="2">４・５</td></tr>
<tr><td>工業英語能力検定</td><td>3</td></tr>
</table>

※同位の技能審査に合格した場合は，一方の単位認定申請に限るものとする。

（出典　平成 23 年度　学生生活のしおり　P.84-85）

「特別学習単位の認定（シラバスでの記述）」　　資料５－１－②－４

科目名	言語表現	JABEE科目	科目コード 031

学年・学科等名	4 学年	全学科　必修科目
単位数・開講期	1 単位	前期
総時間数	45 時間	講義＋教室内自学自習 30 ＋ 自学自習 15
担当教員	片山　礼子(非常勤講師)・岸　美千代(非常勤講師)	

本校の教育目標	1	一般人文科の教育目標	1

JABEE関連	教育プログラム科目区分	104一般基礎科目人文系
	教育プログラムの学習・教育目標	B-1(10%) C-1(90%)
	JABEE基準	adf

教　科　書　名	キャリアアップ国語表現法(嵯峨野書院)
補　助　教　材	新聞コラム(主要各紙)。適宜の資料。
参　　考　　書	『国語便覧』(第一学習社)　国語辞典 日本語検定３級過去・模擬問題集(日本語検定委員会)

A.　教育目標

日本語を使って思考しコミュニケーションする能力は、ものを考え、伝え合い、よりよく生きるために必要な能力であることを銘記し、文章および言語行動に関する理論的能力を養い、日本語の運用能力の向上を図る。具体例としては、漢字検定試験２級程度の力の養成、日本語検定試験(３級以上)合格を目標とする。

B.　概要

問題集の演習を通じて漢字の書き取りや読み方を正しく身につけるとともに、履歴書の作成法や手紙の書き方、敬語表現など、実社会で役立つ日本語技術を習得する。

C.　学習上の留意点

日本語の運用能力は、各自が実際に運用してゆく中でしか養われない。所定の表現作業に真剣に取り組むと同時に、ふだんから新聞コラムなどを利用した読み書きを実地に行うこと。

D.　評価方法

試験(60%)、提出課題の評価・小テスト(40%)

日本漢字能力検定 2 級以上の合格者には申請により言語表現の単位を認定する。また、評価に当たっては検定の評価を 80%、言語表現での評価を 20%として総合的に評価する。

E.　授業内容

授業項目	時間	内　　容	教育プログラム
ガイダンス	1	授業への取り組み方、日本語検定概要について理解できる。	B-1, C-1
履歴書・面接の表現 (18～19 課、30 課)	5	・履歴書・エントリーシートなどの実用的な文書の作成ができる。 ・面接での適切な応対ができる。	B-1, C-1
実用的な文書の作成 (15～16 課、20～21 課)	8	・一般的な手紙や案内状などを書くことができる。 ・ビジネス文書の作成ができる。	B-1, C-1
(前期中間試験)	1		
文のしくみから文章作成へ (14 課、9～10 課、13 課、22～24 課)	8	・原稿用紙を正しく使用できる。 ・文のしくみを理解し、基本的な文章構成を用いて文章を書くことができる。	B-1, C-1

授業項目	時間	内　　容	教育プログラム
応対時の表現 （25～29 課）	7	・待遇表現、口答対応等を理解し、運用することができる。	B-1, C-1
（前期期末試験）			
◆自学自習 ・課題によるレポート ・定期試験・小テストの準備	15		

F.　関連科目
文学、国語、科学全般

旭川高専 2011

（出典　平成23年度　機械システム工学科シラバス　P.89-90）

「特別学習単位の認定（シラバスでの記述）」　　資料５－１－②－５

科目名	英語特講Ⅰ	JABEE科目	科目コード 048

学年・学科等名	4・5 学年	全学科　選択科目
単位数・開講期	1 単位	前期
総時間数	45 時間	講義＋教室内自学自習 30 ＋ 自学自習 15
担当教員	十河　克彰	

本校の教育目標	1	一般人文科の教育目標	1

JABEE関連	教育プログラム科目区分	106一般基礎科目外国語講読系
	教育プログラムの学習・教育目標	C-2(30%) C-3(70%)
	JABEE基準	f

教科書名	*Even More True Stories, Level 5,* Pearson Longman
補助教材	英英辞典、英和辞典
参考書	1年次に購入した文法書を随時参照することを勧める

A.　教育目標

英語を英語で理解する能力を養い、実践的な英語コミュニケーション能力を育成する。

B.　概要

この授業はすべて英語で行います。3年生次のスプリット授業で学習した *True Stories* の発展版、*Even More True Stories Level 5* を使用します。内容は興味深く、日本語を介さず一気に英語で理解できるよう編集されています。さらに内容についての質問に答えることで、内容の理解が深化し、書く、話す、の発信型の英語の習得につなげます。

C.　学習上の留意点

演習形式をとっていきますので、自らが学ぶ姿勢、すなわち、「やる気」が重要になります。予習をしっかりやり、授業に積極的に参加してください。そうすることで、英語の面白さがわかり、興味関心が高まります。

D.　評価方法

試験（70%）、発表（30%）

・開講期に TOEIC400 点以上を取得した学生のみに、前期末の成績で 10 点を加点する。また既に 400 点による加点を受けている場合は、50 点以上の得点の伸びがあった時に 10 点を加点する。

・実用英語検定2級以上、あるいは工業英語能力検定3級以上の合格者には、申請により「英語特講Ⅰ」の単位を認定する。

E.　授業内容

講義 30 時間、自学自習 15 時間　総時間数 45 時間

授業項目	時間	内容	教育プログラム
Orientation	1	Orientation by using the textbook.	
Unit 1 Love at First Sight	2	Reading comprehension, Vocabulary questions, Understanding cause and effect, Discussion, Writing, and Challenge	C-2 C-3

授業項目	時間	内容	教育プログラム
Unit 2 The Semong	2	Reading comprehension, Vocabulary questions, Understanding cause and effect, Discussion, Writing, and Challenge.	CC-3
Unit 3 More Alike Than Different	2	Reading comprehension, Vocabulary questions, Understanding cause and effect, Discussion, Writing, and Challenge.	C-2 C-3
Unit 4 Healthy Again	2	Reading comprehension, Vocabulary questions, Understanding cause and effect, Discussion, Writing, and Challenge.	C-2 C-3
Unit 5 If You Have Time	2	Reading comprehension, Vocabulary questions, Understanding cause and effect, Discussion, Writing, and Challenge.	C-2 C-3
Unit 6 The Buried City	2	Reading comprehension, Vocabulary questions, Understanding cause and effect, Discussion, Writing, and Challenge.	C-2 C-3
（前期中間試験）	1		
Unit 7 Misunderstandings	2	Reading comprehension, Vocabulary questions, Understanding cause and effect, Discussion, Writing, and Challenge.	C-2 C-3
Unit 8 A Real Bargain	2	Reading comprehension, Vocabulary questions, Understanding cause and effect, Discussion, Writing, and Challenge.	C-2 C-3
Unit 9 Black Cats and Broken Mirrors	2	Reading comprehension, Vocabulary questions, Understanding cause and effect, Discussion, Writing, and Challenge.	C-2 C-3
Unit 10 Flight 5390	2	Reading comprehension, Vocabulary questions, Understanding cause and effect, Discussion, Writing, and Challenge.	C-2 C-3
Unit 11 A Killer in the Back Seat	2	Reading comprehension, Vocabulary questions, Understanding cause and effect, Discussion, Writing, and Challenge.	C-2 C-3
Unit 12 The Treasure Hunt	2	Reading comprehension, Vocabulary questions, Understanding cause and effect, Discussion, Writing, and Challenge.	C-2 C-3
Unit 13 The Plain People		Reading comprehension, Vocabulary questions, Understanding cause and effect, Discussion, Writing, and Challenge.	C-2 C-3
（前期末試験）			
◆自学自習 ・予習復習（イディオムを覚えるなど） ・定期試験の準備	15	予習復習、内容理解のためのリーディング、タスクの取り組み、定期試験の準備に当てる勉強時間を自学自習時間として総計 15 時間想定している	C-2 C-3

F.　関連科目
英語特講Ⅱ

旭川高専 2011

（出典　平成23年度　機械システム工学科シラバス　P.204-205）

「特別学習　認定単位数」　　資料５－１－②－６

第11回教務委員会	
H23.3.2	資料1

「平成22年度特別学修」単位認定（案）

学年	クラス	氏　名	技能審査の種別	級	合格年月日	授業科目	認定単位数	備考
4	M		日本漢字能力検定	2	平成21年11月30日	言語表現	1	
	E		日本漢字能力検定	2	平成21年 6月23日	言語表現	1	
			日本漢字能力検定	2	平成21年 6月23日	言語表現	1	
	C		日本漢字能力検定	2	平成20年12月 4日	言語表現	1	

（出典　平成22年度　第11回教務委員会資料）

「企業実習シラバス」　　資料５－１－②－７

科目名	企業実習	JABEE科目	科目コード 142

学年・学科等名	4 学年	機械システム工学科	選択科目
単位数・開講期	1 単位		
総時間数	30 時間		
担当教員	立田　節雄		

本校の教育目標	2	機械システム工学科の教育目標	5

JABEE関連	教育プログラム科目区分	304専門工学科目④実務対応系
	教育プログラムの学習・教育目標	B-2(10%) D-1(20%) E-3(70%)
	JABEE基準	adh

教　科　書　名	なし
補　助　教　材	各受入先での資料等
参　　考　　書	

A.　教育目標

企業等における就業体験を通じ，技術者として果たすべき責任感の涵養，職業意識の高揚，及び学習意欲の喚起を図る。

B.　概要

学校で修得した専門に関する知識・技術を活かすために，企業等の現場において問題意識を持って実務訓練を行う。

C.　学習上の留意点

・受入企業等の事業内容を事前に承知しておくとともに，企業実習の趣旨・目的を把握しておくこと。
・企業実習は受入企業等の多くの人達の協力によって実現できることを肝に銘じ，実習生としての責任を十分自覚し，その言動に責任を持つとともに，礼節を守ること。

D.　評価方法

受入先での評価結果（40%）　レポート等（60%）にて評価する。

E.　授業内容

授業項目	時間	内　容	教育プログラム
実習期間	30	夏期休業期間中に5日間以上	B-2, D-1, E-3
実習希望から企業の受入		・担当教員による実習希望の取りまとめ ・担当教員による実習企業の割り当て	
実習内容とテーマ		・実習テーマを決め，指導教員の指導を受ける	
企業実習期間中		・就業規則等の遵守 ・実習先担当者の指示に従うこと ・事故に遭遇しないよう細心の注意する ・実習後は礼状を出す	
実習報告書		・実習終了後，指導教員へ実習報告書を提出する	
企業実習証明書		・実習受入企業から学生の実習状況について，企業実習証明書を学校へ提出する	

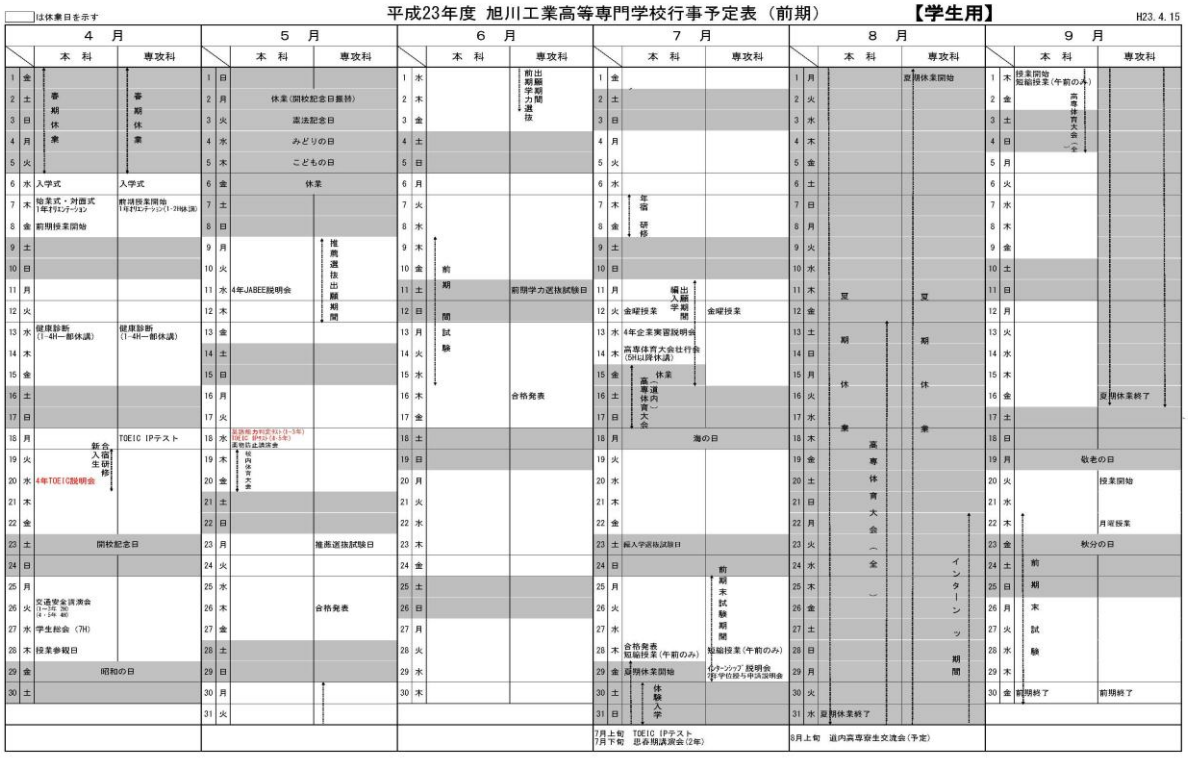
F.　関連科目

機械システム工学実験Ⅰ、機械システム工学実験Ⅱ、卒業研究

旭川高専 2011

（出典　平成23年度　機械システム工学科シラバス　P. 137）

「企業実習　実施時期」　　資料５－１－②－８



（出典　平成23年度　行事予定表（前期））

「インターンシップ手引き書」　資料５－１－②－９

平成２２年度

インターンシップ（企業実習）の手引

旭川工業高等専門学校

目　　次

１　インターンシップとは
（１）インターンシップのメリット　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
２　インターンシップに臨むに当たっての心構え及び留意事項
（１）インターンシップで持参するもの　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
（２）インターンシップの前にすること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
（３）インターンシップ初日に注意すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
（４）インターンシップ中に注意すること
　①　全般について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
　②　指導責任者との関係　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
　③　職場との関係　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
　④　他のインターンシップ学生との関係　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
　⑤　健康・衛生面での注意事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
　⑥　事故が起こった場合の対応　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
　⑦　守秘義務について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
　⑧　最終日に注意すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
（５）インターンシップの終了後について
　①　終了報告と礼状の送付　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
　②　企業実習報告書の提出　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
３　インターンシップの成績評価及び単位認定について　・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
４　損害賠償保険について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
５　学校への連絡先　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

１　インターンシップとは

インターンシップ（企業実習）とは，**「学生が在学中に自らの専攻，将来のキャリアに関連した就業体験を行う」**制度のことです。
実習の形態は，実習先（受入企業，団体等）により異なりますが，大別すると，研修型と見学・体験型に分けられます。実習先によっては，学生のための研修課題を用意したり，新入社員教育と同等の教育研修をしてくれる研修型のインターンシップを実施しているところもありますが，多くの場合は，実際の仕事を体験させたり見学させて，学生生活と社会生活の違いを理解させるための見学・体験型のインターンシップを実施しています。

（１）インターンシップのメリット

学生のメリット

1　職業意識の形成
2　責任感，自立心の向上
3　適職の確認
4　学校での学習意欲の向上
5　専攻，学習分野での知識の向上
6　企業，社会からの評価の確認

企業のメリット

1　人材との新しい出会い
2　企業・職種に対する理解や知識を高められる
3　斬新なアイデアを吸収できる
4　求められる人材の質の変化に対応できる
5　社内の活性化，意識改革のきっかけになる

２　インターンシップに臨むに当たっての心構え及び留意事項

インターンシップは，実習先の指導責任者の方や各担当者の方々が**本務の時間を割いて対応してくれるものです。**参加する皆さんは，インターンシップは授業の一環であることを理解し，在学中の貴重な体験の１つとして，自分なりの目的意識を持って積極的な姿勢で臨んでください。目的意識を持たずに参加してしまうと，せっかくのインターンシップが**「単なるアルバイトと変わらない。無報酬で働かされた。」**というような結果になりかねません。このような結果にならないように，気を引き締めて臨んでください。
インターンシップに臨むに当たっての基本的な心構え及び留意事項を次に挙げましたので，参考にしてください。

（１）インターンシップで持参するもの

1　インターンシップ（企業実習）の手引
2　印鑑
3　学生証
4　健康保険証（遠隔地用の保険証。携行できない場合は健康保険証の写しを携行すること。）
5　手帳，ノート，レポート用紙，筆記用具等
6　身の回り用品（宿泊を伴う場合等必要に応じて）
7　実習先から指定されたもの**（注：出発前に受入条件等を十分に確認しておくこと）**

（２）インターンシップの前にすること

１　実習先の概要を調べておくこと。
　実習先の企業について，その概要を下記の事項等を基に各自調べること。
　①実習先の正式名称　②会長，社長等の代表者　③本社所在地　④事業内容　⑤企業の規模
　⑥最近のトピックス　⑦実習先の所在地と通勤ルート（交通機関の時刻表等を含む）
２　実習日，勤務時間帯，持ち物，服装等受入条件の確認をしておくこと。
　実習先からの資料に記載がなく，電話（メール）で問い合わせる必要がある時は，「インターンシップでお世話になります旭川高専○○学科の○○○○です」とハッキリ名乗って（明記して）から用件を述べるようにすること。

（３）インターンシップ初日に注意すること

１　交通事情や天候等により予想以上の時間がかかる場合があるため，初日は余裕を持って（宿泊先を）出ること。
２　実習先へは，指定された時間の１０～１５分前位に着くように心掛けること。
　この場合，ギリギリの時間でも，３０分前など早く着きすぎても相手に迷惑を掛けるので避けること。
３　インターンシップの指導責任者や，お世話になる職場の皆さんに自己紹介をし，関係づくりの第一歩を始めるように心掛けること。
４　服装等については，原則スーツとし，学生らしい服装をすること。また，身だしなみには十分注意すること（特に，茶髪，ピアス，長い爪，無精ひげ，作業の邪魔になる髪型や装飾品，過度な化粧や香水は厳禁。）。
　なお，実習先から服装等の指示がある場合は，それに従うこと。
５　初日は，オリエンテーションなど事前説明が行われる場合が多いので，内容をよく聴き，必要事項はメモをとり，疑問点があればその場で積極的に質問すること。

（４）インターンシップ中に注意すること

①　全般について

１　インターンシップは，**「授業の場」**であることを常に念頭において行動すること。本校学生としての遵守事項（学則・学生準則）に違反する行為（特に飲酒・喫煙）があった場合は，懲戒処分の対象となるので，注意すること。
２　実習先の定める方針や規則等を守り，指導責任者の指示に従って活動すること。違反行為があった場合は，その時点でインターンシップの実施が取りやめとなることがある。
３　遅刻，無断欠勤等は厳に慎むこと。なお，事故や病気等でやむをえず遅刻又は休まざるを得ない場合は，必ず指導責任者及び学校（学級担任又は学生課）に連絡すること。
　また，代替日が必要な場合は，学校に連絡するとともに，指導責任者との間で調整を図ること。
４　挨拶や返事は積極的に行うこと（おはようございます，ありがとうございます，こんにちは，はいわかりました，お疲れ様でした，失礼します，申し訳ございません等）。挨拶はコミュニケーションの第一歩であり，挨拶の仕方によって相手に与える印象も大きく変わるので注意すること。特に，出社・退社時には必ず指導責任者や職場の皆さんに挨拶をすること。
５　多額の金品，貴重品等は持ち込まないこと。
６　携帯電話は，電源を切るかマナーモードとし，実習時間中には使用しないこと。当然，実習時間中のメールの利用も厳禁です。
７　実習先の備品等は大切に扱い，使った物は所定の置き場所に戻すこと。また，実習終了後は後片付けをきちんと行うこと。
８　任された仕事は責任をもって行い，終了後は指導責任者又は担当者に必ず報告すること。
９　実習中にメモをとる場合は，指導責任者又は担当者に可否を確認してから行うこと。
10　指導責任者又は担当者の許可なく指定外の場所へ入ったり，設備や製品等の写真撮影を行うことは絶対にしないこと。（設備を故障させた場合や守秘義務違反となった場合は，実習先や実習先企業の取引先に多大な迷惑がかかるだけでなく，実習生自身にも多大な賠償責任が科せられる場合があります。）

② 指導責任者との関係

1　作業が終了した時や，問題点，疑問点が浮かんだ時は，報告・連絡・相談（ホウ・レン・ソウ）を必ず行い，その際は５Ｗ１Ｈを明確にすること。
［５Ｗ１Ｈ］
Ｗｈａｔ（何を）　Ｗｈｙ　（なぜ）　Ｗｈｅｎ（いつ）
Ｗｈｏ　（誰が）　Ｗｈｅｒｅ（どこで）　Ｈｏｗ　（どのように）
2　指導責任者（いない場合は担当者）に，その日行うことや日課について確認すること。
3　分からないことは自分の判断で行動せずに，必ず指導責任者に確認し，指示を受けてから行動すること。
4　席（持ち場）を離れる必要がある時は，担当者に断ってから席を離れること。

③ 職場との関係

1　職場では良好な関係づくりに努めること。その第一歩は挨拶であり，丁寧な言葉遣いを心掛けること。
2　実習期間中は，休日に職場の人からドライブ等に誘われても断ること。実習時間帯や通勤時間帯は，「日本スポーツ振興センター災害共済」，「インターンシップ活動賠償責任保険」の約款の範囲内で保険が適用されますが，それ以外の事故については補償の範囲外となるので，十分に注意すること。

④ 他のインターンシップ学生との関係

1　実習中は学生同士での私語を慎み，与えられた業務等を怠ることのないように注意すること。
2　トラブル等を起こさず，協調して実習を受けるよう心掛けること。

⑤ 健康・衛生面での注意事項

1　普段の生活と環境が変わるため，健康管理には十分注意すること。
2　持病や障害があり，実習を受ける上での配慮が必要な場合は，事前に学級担任を通じて実習先に申し出ること。
3　実習中に体の具合が悪くなった場合は，早めに指導責任者（いない場合は担当者）に申し出ること。また，朝，体の具合が悪い場合は無理をせず，実習に参加してもよいか指導責任者の指示をあおぐこと。実習に参加するよう指示があった場合は，必ずマスクを着用すること。なお，発熱の場合は直ちに医療機関の診察を受けること。
4　新型インフルエンザ等の予防のため，屋内や乗り物等混み合った場所で特に換気が不十分な場所に入る際は，なるべくマスクを着用すること。
5　帰宅時のうがいや手洗いを励行すること。

⑥ 事故が起こった場合の対応

1　事故が起こった場合は，速やかに指導責任者及び学校（学級担任又は学生課）へ連絡し，指示を仰ぐこと。
2　事故の報告を怠ると，各種保険金の給付手続き等に支障をきたすので，必ず報告すること。（「４　損害賠償保険について」も参照のこと）

⑦ 守秘義務について

実習中，業務を遂行する上で入手した社内の情報を社外に漏洩してはならない義務があります。特に，下記の事項については慎重に対応すること。
1　新製品の開発に関する情報
2　未公表技術や公開前の特許等に関する情報
3　競合他社に入手察知されると営業上不利となる売上実績，目標等
4　企業の顧客となっている法人又は個人のデータの取扱い
このため，勝手に社内の資料をコピーしたり，許可なく資料を持ち出すこと，USB メモリーを持参することは厳禁です。ただし，企業から USB メモリー持参の指示があった場合はこの限りではありません。

⑧　最終日に注意すること

1　実習先で，インターンシップの成果報告会等の機会がある場合は，率直な感想を述べること。
2　指導責任者やお世話になった職場の皆さんへ，本日で実習を終了する旨を伝え，謝意を述べること。

（５）インターンシップの終了後について

①　終了報告と礼状の送付

1　インターンシップ終了後は,無事終了したことを速やかに学級担任へ電話又はe-mailで報告すること。
2　実習先には，必ず関係者の方々にお礼状を出すこと。学生らしく真摯な気持ちで手紙をしたためること。

②　企業実習報告書の提出

各種報告書の様式，記入方法，提出方法等については，学級担任の指示に従うこと。

３　インターンシップの成績評価及び単位認定について

本校では，専門科目（選択科目）に「企業実習」１単位を開設しています。インターンシップを受講した学生は，当該科目の単位を修得することが可能ですが，成績評価及び単位認定は次のとおりとなります（詳細はシラバスを参照のこと）。

実習期間：原則として長期休業期間中に５日間以上行う
成績評価：受入先での評価結果４０%，レポート等６０%
単位認定：成績認定会議で認定する

４　損害賠償保険について

インターンシップに参加する学生は，入学時に加入している**①日本スポーツ振興センター災害共済**とは別に，**②インターンシップ活動賠償責任保険**への加入が必要となります。
①の保険は，学校の管理下で行われるインターンシップ等（休憩中や通勤中を含む）で，学生が負った事故に対して保険金が支払われるのに対し，②の保険は，インターンシップ中に他人に怪我や持ち物の破損等の損害を与えてしまい，法律上，損害賠償責任を負った場合に保険金が支払われるもので，インターンシップに参加する学生は必ず加入しなければなりません。
損害賠償保険の概要は，次のとおりです。

1　補償期間
保険加入日から２０１１年３月３１日まで
2　保険料
学校が負担（１人あたり２５０円）
3　加入手続
学生課で一括して行う
4　補償内容
・対人賠償　１名１事故　１億円限度
・対物賠償　１事故　２０００万円限度（自己負担額なし）
5　補償の対象となる主な場合
国内において，学校管理下で行うインターンシップ中に，次に掲げる事由により第三者の身体や財物に損害を与え，被保険者が賠償責任を負った場合
①　活動に伴い発生した偶然な事故
②　活動に伴って生産・加工または提供した財物に起因する偶然な事故
③　活動の結果に起因する偶然な事故
④　占有，使用または管理する受託物を損壊しまたは盗取（詐取を含む）により，受託物の正当な権利を有する者に対して被保険者が法律上の賠償責任を負った場合

6　補償の対象とならない主な場合
①　被保険者の故意による損害
②　地震，噴火，洪水，津波等の天災に起因する損害
③　被保険者が所有または管理する財物に与えた損害
④　自動車・昇降機・航空機または施設外における船・車両もしくは動物の所有・使用・管理に起因する事故（ただし，建設用工作車・農作業用工作車については，車種限定・構内限定においてこの限りではない）
⑤　被保険者の心神喪失による事故　等

7　保険請求の手続き
万一事故が発生した場合には，直ちに学校に連絡すること。学校は，保険会社に必要な手続きを行いますが，事故の日から３０日以内に保険会社に連絡しない場合は，保険金が支払われない場合があるので注意すること。

５　学校への連絡先

（１）第４学年学級担任

機械ｼｽﾃﾑ工学科	江　頭　　竜	電話番号：０１６６－５５－８０１０ e-mail：rega@asahikawa-nct.ac.jp
電気情報工学科	大　島　功　三	電話番号：０１６６－５５－８０１６ e-mail：ohshima@asahikawa-nct.ac.jp
制御情報工学科	堀　川　紀　孝	電話番号：０１６６－５５－８０２５ e-mail：horikawa@asahikawa-nct.ac.jp
物質化学工学科	髙　田　知　哉	電話番号：０１６６－５５－８０３６ e-mail：takada@asahikawa-nct.ac.jp

（２）事務担当者（学生課教務係）

	宮　本　武　朗	電話番号：０１６６－５５－８１２３ ＦＡＸ：０１６６－５５－８０８４

（３）警備員室（夜間及び休日で緊急の場合に限る）

電話番号：０１６６－５５－８１３１

（４）学校所在地

〒071-8142　北海道旭川市春光台２条２丁目１番６号

注：学級担任及び事務担当者への連絡は，平日の８時３０分～１７時００分の間に行うこと。

（出典　平成22年度　企業実習説明会資料）

資料５－１－②－10

第7回教務委員会	
H22.10.21	手持資料

別紙様式（第５条関係）

学習指導チューター計画書

平成２２年１０月　８日

教　務　主　事　殿

所　属：　一般理数科
職　名：　准教授
氏　名：　大澤　智子

このたび，低学年の学生に対する補習授業等のため，学習指導チューターによる教育補助業務を必要としますので，計画書を下記のとおり提出します。

記

項　　目		計　　画　　内　　容
科　目　名		数学ⅡA・数学ⅡB
学年・組・学科		第２学年全クラス
対　象　学　生		２０１０年度「数学ⅡA」・「数学ⅡB」前期末成績不振学生および補習希望低学力学生
学習指導チューターについて	必要人数	5　名
	業務期間	平成２２年１０月２５日（月）～平成２２年１１月２９日（月） 毎週　月　曜日　１６時００分～１８時００分
	業務内容	対象学生に、該当科目内容の演習問題を配布し解かせ、その採点・指導を行う。また、内容に対する質問や、勉強方法の相談にも応じる。ただし、演習問題は数学教員が作成するものとする。
備　　考		「ベクトル」「行列」「微分・積分」に精通しており、教えることに意欲的なチューターを希望する。

学生課教務係記入欄		
	学習指導チューター学年・専攻・氏名	
	支給単価及び支給予定額	支給単価　金　860　円 支給予定額(総額)　金　　円
	予　算　科　目	寄付金(後援会)

（出典　平成22年度　第4回教務委員会資料）

「外国語開設科目一覧」　　資料５－１－②－11

新旧カリキュラムにおける外国語開設科目

科目名	学年	単位数	科目の概要	
英語Ⅰ	1	4	英語主体の授業	必修
英文法	1	2		必修
英語Ⅱ	2	4	英語主体の授業	必修
基礎英会話	2	1	ネイティブスピーカー	必修
英語Ⅲ	3	3	1単位分ネイティブスピーカー	必修
英語演習	3	2		必修
英語ⅣＡ	4	2	英語のみの授業	必修
英語ⅣＢ	4	1		必修
英語Ⅴ	5	1		必修
英語特講Ⅰ (英語特講A)	4・5	1	英語のみの授業	選択
英語特講Ⅱ (英語特講B)	4・5	1	ネイティブスピーカー	選択
第二外国語Ⅰ (第二外国語Ａ)	4・5	1		選択
合　計		23		

＊下段（　）内は新カリキュラムで科目名変更

＊第二外国語は平成22年度から韓国語を開設

（出典　教務関係資料）

「平成22年度　英語能力判定テスト及びTOEICテストの通知」　　資料５－１－②－12

平成２２年６月３日

本科学生　各位

教　務　主　事
学　生　主　事

平成２２年度第１学年～第３学年英語能力判定テスト及び第４学年，
第５学年 TOEICIP テスト並びに薬物防止講演会の実施について

標記テスト及び講演会を下記のとおり実施しますのでお知らせします。
なお，当日の授業は全日休講とします。

記

実 施 日　　平成２２年６月１６日(水)

時　　間

第１学年～第３学年
８：３０　登校
９：００～１０：３０　英語能力判定テスト
１０：５０～１１：３０　薬物防止講演会

第４学年，第５学年
８：３０　登校
９：００～１１：４０　TOEIC IP テスト
１２：１０～１２：５０　薬物防止講演会

実施場所

英語能力判定テスト並びにTOEIC IPテスト

第１学年～第４学年　各ホームルーム教室

５Ｍ，５Ｃ　階段教室

５Ｓ　講義室２

５Ｅ　ホームルーム教室

薬物防止講演会

第２体育館

注意事項

（共　通）

・当日は行事とし，通常授業どおり出欠をとります。

（英語能力判定テスト及びTOEIC IPテスト）

・筆記用具（ＨＢの黒鉛筆又はシャープペンシル，プラスチック消しゴム）を持参し，９：００までに試験教室に集合してください。

・遅刻者及び途中退室者の入室は認めません。

・**試験開始３分前までに入室しない場合，試験教室への入室ができなくなり，「欠席」扱いとなります。**

（薬物防止講演会）

・第１学年～第３学年の教室移動の際は，第４学年～第５学年はテスト中となります。移動の際は静粛に移動してください。

・第２体育館へは上履きに履き替え，イスを持参してください。

平成２２年６月３日

教　　員　各位

教　務　主　事
学　生　主　事

平成２２年度第１学年～第３学年英語能力判定テスト及び第４学年，
第５学年 TOEICIP テスト並びに薬物防止講演会の実施について

標記テスト及び講演会を下記のとおり実施しますので，関係業務について協力方よろしくお願いします。
なお，当日の授業は全日休講とします。

記

実 施 日　　平成２２年６月１６日(水)

時　　間

第１学年～第３学年
８：３０　登校
９：００～１０：３０　英語能力判定テスト
１０：３０～１０：５０　（移動時間）
１０：５０～１１：３０　薬物防止講演会

第４学年，第５学年
８：３０　登校
９：００～１１：４０　TOEIC IP テスト
１１：４０～１２：１０　（移動時間）
１２：１０～１２：５０　薬物防止講演会

実施場所

英語能力判定テスト並びにTOEIC IPテスト

第１学年～第４学年　各ホームルーム教室

５M，５C　階段教室

５S　講義室２

５E　ホームルーム教室

薬物防止講演会

第２体育館

注意事項

（共　通）

・当日は行事とし，通常授業どおり出欠をとります。

・ 学級担任は，学生向け通知文書の掲示及び読み上げなどにより，学生への周知方対応願います。

（英語能力判定テスト及びTOEIC IPテスト）

・出欠状況は教務係が取り纏め，学級担任が入力するものとします。

・学級担任は，学生に筆記用具（ＨＢの黒鉛筆又はシャープペンシル，プラスチック消しゴム）を持参させ，９：００までに試験教室に集合させてください。

・遅刻者及び途中退室者の入室は認めません。

・**試験開始３分前までに入室しない場合，試験教室への入室ができなくなり，「欠席」扱いとなります。**

（薬物防止講演会）

・出欠状況は学級担任が取り纏め，入力するものとします。

・第１学年～第３学年の教室移動の際は，第４学年～第５学年はテスト中となります。引率の際は静粛に移動するよう指導願います。

・第２体育館へは上履きに履き替えさせ，イスを持参させてください。

（出典　平成22年度　英語能力判定テスト及びTOEICテスト実施の通知文）

「平成23年度産業財産権論シラバス」　　資料５－１－②－13

科目名	産業財産権論	JABEE科目	科目コード 047

学年・学科等名	4・5 学年	全学科	選択科目
単位数・開講期	1 単位	前期	
総時間数	45 時間	講義＋教室内自学自習 30 ＋ 自学自習 15	
担当教員	谷口　牧子		

本校の教育目標	1	一般人文科の教育目標	3

JABEE関連	教育プログラム科目区分	105一般基礎科目社会系
	教育プログラムの学習・教育目標	B-1(20%) B-2(50%) B-3(30%)
	JABEE基準	abd

教　科　書　名	産業財産権標準テキスト(特許庁編)
参　　考　　書	適宜紹介する

A.　教育目標

産業財産権関連法についての理解を深め、産業財産権をめぐる紛争等を通して不正競争防止法や製造物責任法との関連を学び、特許明細書の書き方や特許電子図書館の検索実習等を通して産業財産権に関する実務的な知識を身に付けることを目指す。

B.　概要

産業財産権の重要性および不正競争防止法や製造物責任法との関連を学んだうえで、特許明細書の書き方を習得する。

C.　学習上の留意点

日本が今後も国際社会において技術立国の地位を保つには、特許等の取得を意識した技術開発を目指すことが技術者たちに求められていることを認識する。

D.　評価方法

試験(90%)、レポート(10%)で評価する。

E.　授業内容

授業項目	時間	内　　容	教　育 プログラム
Ⅰ産業財産権制度の誕生と産業発展の歴史	6	産業財産権制度が国の産業発展にどのように貢献しているのかについて理解できる	B-1,2
Ⅱ産業財産権関連法概説	8	産業財産権制度に関する条約から国内法までの概要を理解できる	B-2
Ⅲ産業財産権をめぐる争訟と不正競争防止法および製造物責任法	8	知的財産権をめぐる国内外の紛争を素材として、特許を中心とした知的財産権の重要性を理解できる 産業財産権と不正競争防止法との関連を理解できる 産業財産権と製造物責任法との関連を理解できる	B-2
Ⅳ特許と発明 特許明細書関係の実習 特許電子図書館の利用	8	産業財産権の中で最も重要である特許に関し、明細書の書き方や電子図書館の利用を通して、実務上の具体的な出願方法等を理解できる	B-1,2,3
(期末試験)			
◆自学自習 予習・復習 定期試験の準備	15		B-1,2,3

F.　関連科目

社会、地理、歴史、経済学、政治学、法学、史学、哲学、国際関係論、各専門科目

旭川高専 2011

(出典　平成23年度　機械システム工学科シラバス　P. 203)

「社会からの要請に応える授業科目についての検討」　　資料５－１－②－14

教務委員会（平成22年度第11回）開催要項

日　時　　平成23年３月２日(水)　14：00～

場　所　　中会議室

議　事

【協議事項】

1　平成22年度特別学修による単位認定について　資料１

2　平成23年度教務関係規則申合せ(案)について　資料２

3　平成23年度学級担任の手引き（案）について　資料３

4　旭川工業高等専門学校学則の一部改正(案)について　資料４

5　旭川工業高等専門学校ガス溶接技能講習に関する業務規程の一部改正(案)について　資料５

6　他高専における修得単位の認定について　資料６

7　特別欠席について　資料７－１　資料７－２

8　平成23年度授業計画の一部変更（案）について　資料８－１　資料８－２

9　その他

【報告事項】

1　学生動向　資料９

2　平成23年度学校行事予定表の一部変更について　資料10

3　平成22年度学習到達度試験の結果について　資料11-1　資料11-2

4　英語能力判定テスト及びTOEIC IPテストの結果について　資料12

5　平成23年度学級担任・学級副担任について　資料13

6　外国人留学生について　資料14

7　ＩＰＤＬ（特許電子図書館）に関する教育について　資料15

8　旭川高専意見箱投稿への回答について　資料16

9　授業料未納による除籍処分該当者について

10　その他

（出典　平成22年度　第11回教務委員会開催要項）

「平成22年度IPDL教育資料」　　資料５－１－②－15

IPDLとパテントマップ

平成23年　1月
電気情報工学科
小山　貴夫

1

CONTENTS

テーマ:IPDLの利用と特許情報の整理
□何故この授業があるのか
□IPDLの利用
– IPDLの概要
– 利用方法
□特許情報の整理
– パテントマップとは
– パテントマップ作成例

2

（出典　平成22年度　第11回教務委員会資料）

「ガス溶接技能講習修了証の交付について」　　資料５－１－②－16

律の整備に関する法律の施行並びにこれに伴う関係政令，省令及び告示の改正等について」（平成１６年３月１９日付け基発０３１９００９号）に規定する資格を有する本校の教職員から選任するものとする。

２　校長は，前項の規定により実施管理者及び講師（以下「講師等」という。）を選任できない場合は，本校教職員以外の者であって前項に規定する資格を有する者を外部講師として選任することができる。

３　校長は，講師等が次の各号のいずれかに該当するときは，講師等を解任するものとする。

（１）第１項に規定する資格を喪失したとき

（２）命令違反や社会的不信を招くような行為があったとき

（３）その他，講師等自身のやむ得ない事由の発生したとき

４　校長は，講師を解任したときは，新たな講師等の選任及び任命を行う。

５　校長は，実施管理者を変更したときは，「登録教習機関に係る実施管理者変更届」（別記様式２号）により，北海道労働局長に報告するものとする。

６　校長は，講師を選任又は解任したときは，「登録教習機関に係る講師（選任・解任）届」（別記様式３号の１）により，北海道労働局長に報告するものとする。

（科目及び時間）

第６条　ガス溶接技能講習規程（昭和４７年労働省告示第１１０号）第２条に基づき，技能講習の科目及び時間は，次のとおりとする（講習時間は１時間を５０分とする）。

講　習　科　目	実　施　日　数	講習時間
ガス溶接等の業務のために使用する設備の構造及び取扱いの方法に関する知識	各学科講義の中で３日間実施 （２時間，２時間，１時間）	５時間
ガス溶接等の業務のために使用する可燃性ガス及び酸素に関する知識	各学科講義の中で２日間実施 （２時間，１．６時間）	３．６時間
関係法令	各学科講義の中で１日間実施	１．２時間
ガス溶接等の業務のために使用する設備の取扱い	各学科実習の中で２日間実施 （３時間，３時間）	６時間
修了試験	上記科目履修者に対し毎年１回実施	１．２時間
合計（修了試験も含め９日間）		１７時間

２　技能講習の実施明細は，別表によるものとする。

（修了証の発行）

第７条　校長は，技能講習の修了試験に合格した者に対し，修了証を交付するものとする。

２　校長は，修了証の再交付又は書替えの申込みのあったときは，「ガス溶接技能講習修了証（再交付・書替）申込書」（別記様式４号）により受け付け，次条に定める「ガス溶接技能講習修了証交付台帳」（別記様式５号。以下「台帳」という。）と照合の上，再交付又は書替えを行うものとする。

（台帳）

第８条　校長は，技能講習修了者に関する必要な事項を台帳により作成するものとする。

２　修了証番号の記載は，年号に関わらず第１号から起算した連続番号を記載するものとする。

３　修了証と台帳には，契印を押印するものとする。
４　再交付又は書替えを行う場合は，備考欄に再交付又は書替えの区分及び交付年月日を記入し，契印を押印するものとする。
５　「ガス溶接技能講習実施記録簿」（別記様式６号）を作成し，台帳と併せて保存するものとする。

（実施結果報告）

第９条　校長は，「ガス溶接技能講習実施結果報告書」（別記様式７号）により，技能講習の実施結果を作成し，毎年５月末日までに北海道労働局長に報告するものとする。

（技能講習の事業計画）

第１０条　校長は，「ガス溶接技能講習事業計画書」（別記様式８号）により，当該年度の技能講習に係る計画を作成し，毎年４月末日までに北海道労働局長に報告するものとする。
２　前項の事業計画書の内容のうち，公表が必要な事項については，掲示その他の方法により学生に周知するものとする。
３　校長は，第１項の事業計画書の内容を変更した場合は，変更後の事業計画書を作成し，その都度速やかに北海道労働局長に報告するものとする。

（技能講習の事業報告）

第１１条　校長は，「技能講習等に関する事業報告書及び収支決算書」（別記様式９号）により，前年度の事業報告及び収支決算を作成し，毎年５月末日までに北海道労働局長に報告するものとする。

（関係書類の保存）

第１２条　校長は，次表の左欄に掲げる関係書類を，当該表の右欄に定める期間保存するものとする。

関　係　書　類	保存期間
１　登録教習機関に係る実施管理者変更届（別記様式２号）	５　年
２　登録教習機関に係る講師(選任・解任)届（別記様式３号）	５　年
３　ガス溶接技能講習修了証(再交付・書替)申込書（別記様式４号）	５　年
４　ガス溶接技能講習修了証交付台帳（別記様式５号）	永　年
５　ガス溶接技能講習実施記録簿（別記様式６号）	５　年
６　ガス溶接技能講習実施結果報告書（別記様式７号）	５　年
７　ガス溶接技能講習事業計画書（別記様式８号）	５　年
８　技能講習等に関する事業報告書及び収支決算書（別記様式９号）	５　年
９　修了試験問題及び解答用紙	５　年

（財務諸表等の謄本等の請求に係る費用）

第１３条　技能講習に関する公文書の開示に当たっては，「情報公開の手数料に係る要項」（平成１６年４月１日独立行政法人国立高等専門学校機構理事長裁定）に基づき，手数料等を徴収するものとする。

（内部監査）

第１４条　技能講習の適正な実施と公平性を保つため，校長が指名する者による内部監査を年１回（第二・四半期）に実施するものとする。

（庶務）

第１５条　ガス溶接技能講習の庶務に関することは，学生課において処理する。

附　則

この規程は，平成２０年６月１０日から施行する。

附　則（平成２１年３月１０日　達第２１号）

この規程は，平成２１年４月１日から施行する。

附　則（平成２３年３月８日　達第１８号）

１　この規程は，平成２３年４月１日から施行する。

２　改正後の別表は，平成２３年度入学する者から適用し，平成２２年度以前に入学した者については，なお従前の例による。

別表

ガス溶接技能講習実施明細

講習科目及び細目	学科	対応科目	時間
ガス溶接等の業務のために使用する設備の構造及び取扱いの方法に関する知識 ①可燃性ガス，酸素容器の構造及び取扱方法　1．5H ②導管，吹管の構造及び取扱方法　1H ③圧力調整器の構造及び取扱方法　1．5H ④安全装置の種類及び取扱方法　1H	機械システム工学科	機械製作実習Ⅰ（第１学年）	5
	システム制御情報工学科	工作実習（第２学年）	
ガス溶接等の業務のために使用する可燃性ガス及び酸素に関する知識 ①燃焼と爆発　1H ②酸素の性質及び危険性　1H ③アセチレンガスの性質及び危険性　1H ④その他の可燃性ガスと危険性　0．6H	機械システム工学科	機械加工学（第３学年）	3．6
	システム制御情報工学科	加工学Ⅰ・Ⅱ（第４学年）	
関係法令 ①労働安全衛生法，労働安全衛生法施行令，労働安全衛生規則　1．2H	機械システム工学科	機械加工学Ⅱ（第３学年）	1．2
	システム制御情報工学科	加工学Ⅰ・Ⅱ（第４学年）	
ガス溶接等の業務のために使用する設備の取扱い ①可燃性ガス及び酸素容器の取扱い　2H ②導管・吹管の取扱い　1．5H ③圧力調整器の取扱い　1．5H ④安全装置の取扱い　1H	機械システム工学科	機械製作実習Ⅰ（第１学年）	6
	システム制御情報工学科	工作実習（第２学年）	
修了試験（上記講習科目履修者全員を対象として１年に１回実施する）			1．2
合計（講習時間は１時間を50分とする）			17時間

（出典　旭川工業高等専門学校ガス溶接技能講習に関する業務規程）

（分析結果とその根拠理由）

教務委員会及び教育課程等検討部会が，国際社会に貢献する技術者を育成するため，より一層社会的要請と変化に耐え得る教育課程の編成や改正を実施してきた。特にこの数年，地場産業の少ない地域にもかかわらず，企業実習に半数以上の学生が参加してきている。また，国際的に活躍できる技術者の養成を目的とし，英語の単位数・学年配当・内容に配慮しながら，全校一斉英語試験も実施している。さらに，最近の特許問題にも対応できるよう「産業財産権論」を開設している。

以上のことから，本校の教育課程は学生のニーズや学術の発展動向，社会からの要請等に対して十分配慮したものとなっている。

観点５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

本校の教育課程は，四つの教育目標に沿って適切に配置されており，いずれの学科においても，授業形態は，講義，演習・実験・実習からなり，それらがバランスよく配置されている（資料５－１－①－２（149 ページに前出）及び５－２－①－１）。

学習指導法の工夫として，独自マニュアルによる安全教育の実施，少人数教育，対話・討論型授業とプレゼンテーション能力の涵養，低学年からの情報機器の活用等，学習指導方法の面で多様な工夫が行われている（資料５－２－①－２～６）。

３年留学生及び高等学校からの４年編入学生に対しては，一部科目の変更や補習教育が行われている（資料５－２－①－７，８）。また，各教員がそれぞれオフィスアワー等を利用して基礎学力不足の学生の補講を実施している（資料５－２－①－７）。さらに，教務委員会の主導により学力不足学生に対する組織的な学習支援が行われている（資料５－２－①－９，10）。

「本校教育目標に対応する講義・実験等の学年配置」　　資料５－２－①－１

旧カリキュラム（2-5年生） 本校の教育目標と講義・実験等の授業形態

学科名	学年	本校の教育目標に対応する科目											
		①			②			③			④		
		講義	実験等	累計	講義	実験等	累計	講義	実験等	累計	講義	実験等	累計
一般科目	1	23		23							2	2	4
	2	25		25								2	2
	3	12	2	14								2	2
	4	21		21							2	1	3
	5												
機械システム工学科	1					3	3	2	3				
	2				1	3	4	4	1				
	3					3	3	13		13			
	4					6	6	17	2	19			
	5					2	2	22		22		8	8
電気情報工学科	1					2	2	2	2	4			
	2					4	4	5		5			
	3					6	6	12		12			
	4					6	6	20	2	22		2	2
	5	1		1	2		2	26	8	34			
システム制御情報工学科	1					3	3	3		3			
	2					3	3	6		6			
	3					3	3	14		14			
	4					6	6	23		23			
	5	2		2		9	9	16		16			
物質化学工学科	1		6					2	1	3			
	2	2						3	4	7			
	3		2		2	2	4	14		14			
	4		2	2		7	7	17	3	20			
	5				2	10	12	30		30			

「旭川工業高等専門学校の教育目標」

【本科】

① 人間形成に必要な一般教育科目をできるだけ幅広く展開し，豊かな教養と幅広い思考力を養う。また，外国語を鍛え，外国文化に対する理解力を養う。

② 若く新鮮な感性と実験・実習等を重視した体験学習により，豊かな創造力と行動力を養う。

③ 工学基礎及び専門基礎をしっかり身に付けさせ，広い専門的視野と総合的判断力を持たせる。

④ 自主的に思考し，学習し，行動する習慣を身に付けさせ，心身の健康維持，増進に努めさせる。

新カリキュラム（1年生）　本校の教育目標と講義・実験等の授業形態

学科名	学年	本校の教育目標に対応する科目											
		①			②			③			④		
		講義	実験等	累計	講義	実験等	累計	講義	実験等	累計	講義	実験等	累計
一般科目	1	21		21							1	2	3
	2	24		24							1	2	3
	3	15	2	17								2	2
	4	19		19				2		2	1	1	2
	5												
機械システム工学科	1		1	1	2	3	5						
	2	2	1	3	1	3	4						
	3					3	3	16		16			
	4				2	4	6	19	2	21			
	5		1	1		10	10	19		19			
電気情報工学科	1					2	2	2	2	4			
	2					4	4	3		3			
	3					6	6	13		13			
	4					6	6	21	2	23		2	2
	5	1		1	2	8	10	28		28			
システム制御情報工学科	1							4	2	6			
	2					3	3	3	1	4			
	3					4	4	15		15			
	4				2	4	6	19		19			
	5	1		1		11	11	18		18			
物質化学工学科	1					3	3	2	1	3			
	2							4	3	7			
	3				2	2	4	13	2	15			
	4		2	2		7	7	17	1	18			
	5				2	11	13	32		32			

（出典　教務関係資料）

「工夫された学習指導方法」　　資料５－２－①－２

工夫された学習指導方法

学習指導法	工夫の事例	学科等
教具・教材	実験・実習における「安全管理マニュアル」の活用	電気・化学
	実習工場における「安全な作業（工作）を行うために」の活用	機械・制御
少人数教育	「工学基礎演習」	機械1・2年，制御1・2年（新）
	「化学基礎演習」	化学1年
	実用英語検定受験学生に対する個別面談の実施	英語
	実験・実習	全学科
	卒業研究	全学科
対話・討論型授業	「機械創造実習」における学生間の対話	機械3年
	「創成工学演習」における学生間の対話	電気4年
	「創造工学」における学生間の対話	制御4年（新）
プレゼンテーション	「機械創造実習」「機械システム工学実習」における作成マシンの報告会	機械3・5年
	「創成工学演習」における作成製品の報告会	電気4年
	「創造工学」における作成製品の報告会	制御4年（新）
	「基礎化学実験」「無機分析化学実験」「無機化学II」における実験・自由研究・課題の発表会	化学1-3年
	「卒業研究」における研究発表	全学科
情報機器の活用	低学年次からのコンピュータ教育「情報基礎」	全学科1年
	情報処理・情報処理演習	全学科
基礎学力不足等の学生への指導	授業担当教員の個別指導	全学科
	オフィスアワーにおける指導	全学科
	留学生・編入学生への指導	全学科
	学習支援室を利用した学習支援	英語・理科・数学
	学生TAを利用した学習指導	全学科

＊（新）は新カリキュラムから実施

（出典　教務関係資料）

資料５－２－①－３

「安全教育資料」



安全な作業(工作)を行うために

旭川工業高等専門学校　実習工場

平成 15 年 3 月作成
平成 18 年 3 月一部改訂
平成 19 年 3 月一部改訂
平成 20 年 3 月一部改訂
平成 21 年 3 月一部改訂
平成 22 年 3 月一部改訂
平成 23 年 3 月一部改訂

はじめに

・危険と安全は、背中合わせです。文明の利器である機械(道具)は、使い方次第で安全なものにも危険なものにもなります。

・どんな場合でも自分の身(安全)を守れるのは、あなた自身です。自らの行動に責任と自覚を持ってください。

・我が身を危険から守るために、保護具を正しく使用しなければなりません。

・後で「危険だと知らなかったから」とか「このくらいは大丈夫だと思った」とか「恥ずかしくて言えなかった」などと、いくら弁解しても、結局怪我をして「痛い」のは、自分自身です。だから「思い立った今」やらなくてはなりません。「今」は、すぐに「過去」になってしまいます。

・そのために「やらなければならないこと」「やってはいけないこと」の知識を正しく持たないといけません。

・「ハッとした」「ヒヤッとした」などの経験は、しない方が良いかもしれませんが、見方を変えれば、それが今後自分の安全を守るために役立つはずです。でも、同じ過ちを繰り返していたら、いつか大きな事故に遭うかもしれません。二度と過ちを繰り返さないように行動しなくてはなりません。

・「あの時やっておけば良かった」などと、後で後悔しないようにしましょう。

保護具について

安全帽　上から落ちてくる危険な場所で使用。頭部の損傷を防ぎます。



保護メガネ　切削の際に飛散する切屑などから眼を保護します。

遮光眼鏡
(ﾊﾝﾄﾞｼｰﾙﾄﾞ)　遮光眼鏡は、溶接作業や金属溶解作業で有害光線から目を保護します。また、飛散する火花やスパッタから顔を保護します。

革手袋　溶接などで手の火傷防止に使います。**※切削加工では、切屑で機械に巻き込まれるのを防ぐため使用が禁止されています。**

足カバー　溶接作業などで足の火傷を防ぎます。

防毒マスク　有害ガスを防いでくれます。

耳栓　騒音のはげしい場所で耳を守ってくれます。

3

④ エアシリンダを動作させるときには、周囲の安全を確認しながら行うこと。
⑤ 複数で操作する場合には、お互いに声をかけて動作確認を行う。

※緊急時の対応について

緊急先電話番号
救急車・消防車　　１１９

事故発生 → 機械の電源を切る、ガスの元栓を閉める
↓
けがの程度は切り傷程度か？ →（はい）→ 工場事務室へ連絡し応急処置を受ける
↓（いいえ）
大声で周囲に応援を求める
↓
事務室に連絡をする
↓
救急車（消防車）が必要か？ →（はい）→ **実習担当教員もしくは技術職員が、救急車（消防車）を要請する　１１９番**
↓（いいえ）
工場事務室から医務室へ連絡し処置を受けてください

※１．部門担当技術職員は、クラス担当者へ事実内容を報告する。
２．クラス担当者は、遅滞なく実習担当教員に連絡し事態に対処をして貰う。

（出典　旭川工業高等専門学校　実習工場編集）

「複数教員による少人数教育」　　資料５－２－①－４

科目名	工学基礎演習Ⅰ		科目コード S11002

学年・学科等名	1 学年	システム制御情報工学科　必修科目
単位数・開講期	2 単位	通年
総時間数	60 時間	
担当教員	今野 廣・橋本 直樹・三井 聡・佐竹 利文・阿部 晶・堀川 紀孝・森川 一・中村 基訓・技術職員	

本校の教育目標	3	システム制御情報工学科の教育目標	2

JABBE対象外			

教科書名	体系問題集　数学 1, 数学 2(数研出版), 機械実習 1, 2(実教出版)
補助教材	プリント(参考資料および演習問題), 工作実習テキスト
参考書	

A.　教育目標

工学を学習するには数学の知識が必要不可欠である. これまで学んできた数学について復習し, これから専門科目を学ぶにあたり数学を手段として使えるように理解を深める. また, 実習を通じてものづくりに必要な基本的な器具の使い方や機械の成り立ちについて体験的に学習する.

B.　概要

中学で学んだ内容について復習する。宿題などの自学自習が重要であることから, 家庭学習の習慣づけを徹底する. さらに専門科目であるコンピュータグラフィックス、形状処理基礎、材料力学、電気工学等で使用する簡単な数学を学習する。また, エンジンの分解組み立てやノギスなどの基本的な器具の使い方を学び, 作業の概要をレポートにまとめる.

C.　学習上の留意点

本教科は, システム制御情報工学科における専門科目教育の動機付けを行うものとして位置付けられていることから, 専門科目との関連を意識して学習に取り組むことが重要である。実習については安全に対する細心の注意を払い, 指導に当たる先生の指示や注意を守り, 集中して取り組まなくてはならない. 数学演習では毎週宿題が課され, 実習においてもレポートを提出する. なお後期中間テストは実施しない.

D.　評価方法

定期試験(50%), 宿題など(25%), 実習レポート(25%)を考慮して最終評価を出す。

E.　授業内容

授業項目	時間	内容・到達目標
1. ガイダンス	2	ガイダンス
2. 正の数と負の数 (1)正の数と負の数 (2)四則の混じった計算	2	正の数と負の数について四則の混じった計算ができる.
3. 式の計算 (1)文字式と多項式の計算 (2)単項式の乗法と除法 (3)文字式の利用	6	文字を使った式の計算および文字を利用した立式および計算ができる.
4. 平方根 (1)根号を含む計算 (2)有理数と無理数	2	根号を含む計算ができる.

授業項目	時間	内容･到達目標
5. 方程式 (1)1 次方程式の解き方とその利用 (2)連立方程式の解き方とその利用	2	1 次方程式や連立方程式が解ける. また, それらを用いて立式ができ, 解答を導ける.
(前期中間試験)	2	
6. 2 次方程式 (1)2 次方程式の解き方 (2)2 次方程式の応用	4	2 次方程式が解ける. また, それらを用いて立式ができ, 解答を導ける.
7. 不等式 (1)不等式の性質と解き方 (2)不等式の利用 (3)連立不等式	4	1 次不等式や連立不等式が解ける. また, それらを用いて立式ができ, 解答を導ける.
8. 1 次関数 (1)比例, 反比例とそのグラフ (2)1 次関数とそのグラフ (3)1 次関数と方程式	2	1 次関数について理解でき, そのグラフが描ける. 関数と方程式の関係が説明できる.
9. 関数 (1)$y=ax^2$ の関数とその応用 (2)いろいろな関数	4	$y=ax^2$ の関数が理解でき, そのグラフが描ける. そのほかいろいろな関数のグラフが描ける.
(前期末試験)		
10. ガイダンス	2	工作実習の意義, 実習レポートの書き方を理解でき, 服装･実習態度について注意を守ることができる.
11. エンジンの分解と組立 (1)基本的な工具の使い方 (2)エンジンの分解組み立て	14	エンジンの分解と組み立てを通して, 工具やノギスの使い方を学ぶとともに, 機械の成り立ちを体験的に理解できる.
(後期中間試験)		実施しない
12. 方程式, 不等式 (1)不等式と 2 次方程式 (2)複素数と方程式	2	方程式、不等式および複素数について理解し, 説明できる.
13. 2 次関数 (1)2 次関数とその応用 (2)2 次関数とグラフ	4	2 次関数について理解し, 説明できる.
14. 三角関数 I (1)三角比 (2)三角比と図形 (3)正弦定理と余弦定理	4	三角比について理解し, 説明できる.
15. 三角関数 II (1)一般角の三角関数 (2)三角関数の加法定理	4	三角関数について理解し, 説明できる.
(学年末試験)		

F.　関連科目

コンピュータグラフィックス, 電気工学, CAD/CAM 演習, 機械要素設計

旭川高専 2011

(出典　平成23年度　システム制御情報工学科シラバス　P.27-28)

「対話・討論型授業」　　資料５－２－①－５

科目名	創成工学演習A	JABEE科目	科目コード 236

学年・学科等名	4 学年	電気情報工学科	選択科目
単位数・開講期	1 単位	前期	
総時間数	45 時間	演習 30 ＋ 自学自習 15	
担当教員	大島　功三・篁　耕司・井口　傑・技術職員		

本校の教育目標	4	電気情報工学科の教育目標	4

JABEE関連	教育プログラム科目区分	303専門工学科目③課題解決系
	教育プログラムの学習・教育目標	C-1(15%) D-3(45%) E-1(15%) E-2(10%) E-3(15%)
	JABEE基準	defgh

教　科　書　名	使用しない
補　助　教　材	プリント，各種実験装置
参　　考　　書	

A.　教育目標

テーマに沿ってプロジェクトを立ち上げ、問題発見と解決を通して、創造力とチームワーク力、実践的な技術を身に付けることを目標とする。

B.　概要

「みえない電気をみる・わかるための製品開発」をテーマに、プロジェクトを立ち上げる。今までの講義、演習、実験を通して学び、身につけた技術を用いて、プロジェクトリーダーを筆頭に、数人で構成されたそれぞれの部門で、それぞれ考え、回路等を組み、製品を作製する。部門ごと、部門間での調整を行い、最終的にプロジェクトを完成させる。作製したものは、学内で発表し、最後に報告書を作成する。

C.　学習上の留意点

取り組み状況や、発表会での状況を含め，下表の項目・指針に基づいて評価する。

D.　評価方法

評価項目	学習・教育目標	指針	評価割合
企画・実行力	D-3	・自ら積極的に研究を進めて目標に到達できるかを考えて実行したか	15%
計画性	D-3	・自ら積極的に行ったか ・自ら段取りを付け，時間配分を考えながら研究を行ったか	15%
発表能力	C-1	・論文の内容を正確に表していたか ・発表会におけるスライド・発表状況・質疑応答等	15%
達成度	E-1	・成果の達成度，論文の内容および体裁等 ・関連分野の工学知識を習得し，自主的・継続的に身に付けることができたか	15%
協調性	E-2	・メンバー間で協調・討議を行い，進められたか ・共同者と協力し合いながら行うことができたか	10%
創意工夫	E-3	・自ら考え進めた研究内容・方法があったか	15%
提出期限	D-3	・期限内：15 点（以降，時間・日数により減点）	15%

E.　授業内容

授業項目	時間	内　　容	教育プログラム
プロジェクト立ち上げ	4	プロジェクトのテーマを決める	C-1 D-3 E-1 E-2 E-3
設計	8	プロジェクトを遂行するために少人数のグループからなる組織を編成し、プロジェクト管理表を作り、設計を進める	
作製	10	各部門毎に製品を作製し、各部門間の調整を行いながら、製品を仕上げる	
発表（学内）	4	学内にて、製品を発表する	
報告書作成	4	半年の成果を時系列として並べ、報告書を作製する	
（前期末評価）			
◆ 自学自習 • 調査 • 試作の考察 • レポート作成	15	自学自習時間として，プロジェクト遂行のための調査、試作の考察時間、議論、およびレポート作成のための時間を総合して 15 時間と考えている。	C-1 D-3 E-1 E-2 E-3

F.　関連科目

電気情報工学科　全科目

旭川高専 2011

（出典　平成23年度　電気情報工学科シラバス　P.133-134）

「低学年情報教育」　　資料５－２－①－６

科目名	情報基礎		科目コード G11012

学年・学科等名	1 学年	全クラス	必修科目
単位数・開講期	1 単位	前期	
総時間数	30 時間		
担当教員	久志野　彰寛		

本校の教育目標	1	一般理数科の教育目標	2

JABBE対象外		

教科書名	高等学校　情報C　最新版(啓林館)
補助教材	必要に応じてプリントを配付する
参考書	

A.　教育目標

コンピュータとネットワークの基本的な知識と操作法を学び，Eメールの利用，インターネットによる情報検索およびwebページの作成等を通してネットワーク上でのコミュニケーション能力，情報収集・発信能力を身につける。また，ネットワーク上でのエチケット，情報モラル，情報セキュリティ等を理解し，情報を取り扱う上での一般常識を習得することを目標とする。

B.　概要

教室での授業とコンピュータを実際に操作して行う実習を組み合わせ，授業で得た知識を実際に利用することを通して，基本的な知識と操作法を習得する。また，ネットワークを利用する他者の立場で考えることを通して，エチケット，情報モラル，情報セキュリティを守る姿勢を身に付ける。

C.　学習上の留意点

授業時間だけでなく，昼休みや放課後などの空いた時間を利用して，復習と反復練習に努めること。また，コンピュータとネットワークだけでなく，普段の生活の中でのエチケット，モラル，セキュリティについても意識すること。

D.　評価方法

試験(50%)，小テスト・課題等(50%)で評価する。

E.　授業内容

授業項目	時間	内　容
ガイダンス	1	授業の概要と情報処理センターの利用について
1. コンピュータとネットワークに関する基礎知識	3	コンピュータに触れ，コンピュータ，周辺機器およびネットワークの環境を知り，ハードウェア・ソフトウェアに関する基礎知識を学ぶと共に，情報に関する基本用語を理解する。また，コンピュータ内部の表現(情報のディジタル化)についても学ぶ。
2. OS の基本事項とその操作	4	Windows 等の OS に関する基礎知識を学び，基本操作を習得する。
3. 電子メールの利用	3	電子メールの基本設定およびその操作を学び，メールを通じてコミュニケーションを行うことができる。また，電子メールを利用する上でのエチケットについても理解する。
4. ネットワークの活用	4	WWWの仕組みを理解し，Internet Explorerの基本操作を学び，インターネットを利用した情報検索方法を習得して，情報収集を行うことができる。また，ネットワークを利用する上でのエチケットや社会常識を理解する。

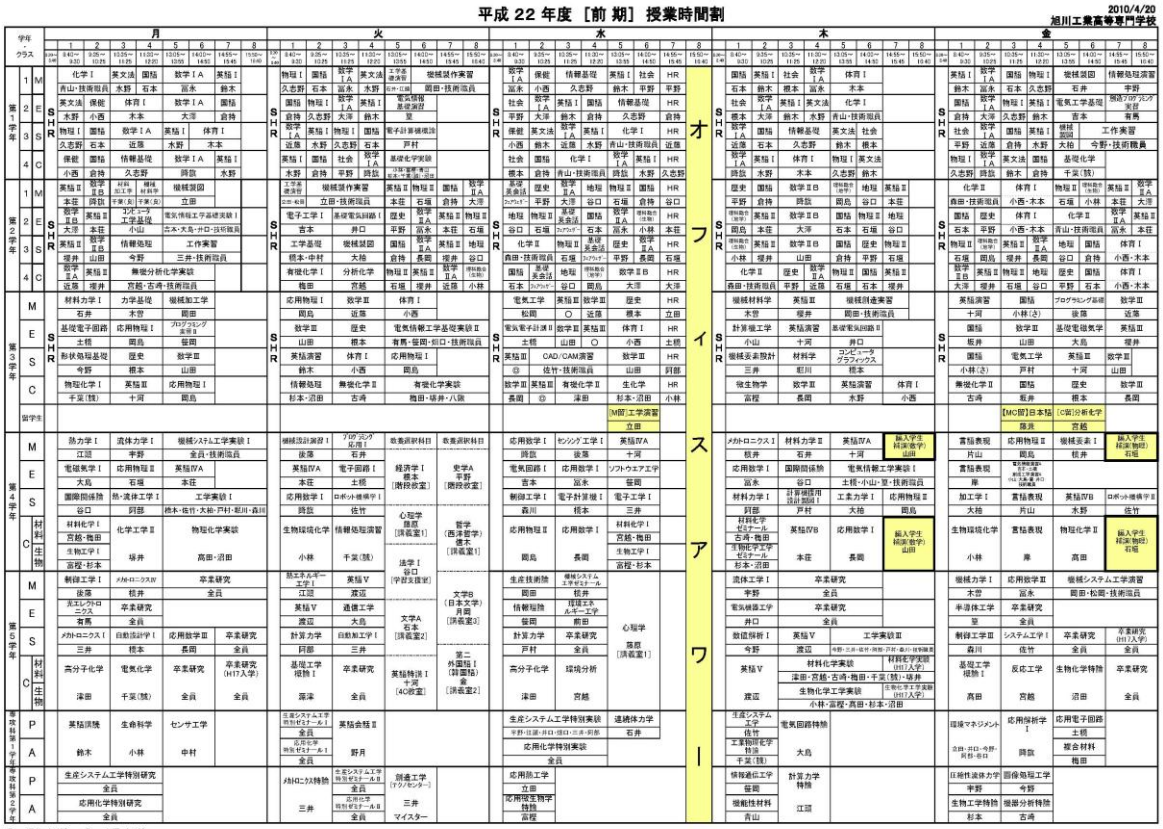
授業項目	時間	内　容
5. web ページの作成	4	HTML を用いてホームページを作成し，情報発信に関する基礎知識を学び，情報発信能力を身につける。また，web ページを利用して口頭発表を行う。
6. 情報の取扱いと個人の責任	2	メールや web 上で情報を取扱う場合(情報の収集・処理・編集・発信)の注意すべき点を具体的な例を挙げて学び，受け手および送り手としての責任を考える。また，情報の保護(知的財産権・個人情報等)についての知識を身につけ，ネットワーク上の基本的ルールを理解する。
7. 情報システムの信頼性	3	社会で利用されている情報システムの概要を学び，システムのもろさと信頼性の工夫を理解する。また，ネットワーク社会における不正行為等について，具体的な例を挙げて学び，情報セキュリティを守る技術について理解する。さらに，暗号化処理やウィルスに関する基礎知識についても学ぶ。
8. プレゼンテーション入門	6	あるテーマ(例えば情報モラルに関わる諸問題等)を決めて，それについての調査(情報の収集)を行い，資料を作成(情報の処理・編集)し，プレゼンテーション(情報の表現・発信)を行う。発表のなかで，意見交換を行うことでコミュニケーション能力を身につける。
(前期末試験)		

F.　関連科目

旭川高専 2011

（出典　平成23年度　機械システム工学科シラバス　P.23-24　）

「オフィスアワー等を利用した補講」　　資料５－２－①－７



（出典　平成22年度　授業時間割（前期））

「外国人留学生に対する補習授業」　　資料５－２－①－８

別表

学則別表第１に定める授業科目名			外国人留学生に対し特別に編成する授業科目名		
区分	授業科目名	単位数	区分	授業科目名	単位数
一般科目	国語	２	一般科目	日本語	２
	歴史	２	機械ｼｽﾃﾑ工学科専門科目	工学演習	２
			電気情報工学科専門科目	電気情報基礎演習	２
			制御情報工学科専門科目	情報処理	２
			物質化学工学科専門科目	分析化学	２

（出典　平成23年度学生生活のしおり　外国人留学生規程　P.131）

「学習支援室を利用した学習支援体制」　　資料５－２－①－９

第1回教務委員会	
H23. 4. 1	資料10

平成 23 年度 学習支援室を利用した学習支援方針（案）

学生が自ら学習することを手助けするために支援することを目的とする

1　オフィスアワー（前期水曜日８時限目、後期木曜日８時限目）による学習支援

学習支援室に教員が待機し，以下の①・②を同時に行う。（待機時間は試験監督回数にカウント）

①　学生の疑問点に回答

・担当教員がテーマを設定して対応（例：因数分解，動名詞等）

・来室学生の疑問に答える

②　成績不振者対策

・担当教員が学生を数名程度呼び出し指導（呼び出す人数は①・②が同時にできる人数を上限とする）

・対象は主に成績不振者（授業に付いて来られない学生等。過年度補習や資格試験指導を除く。）

※　１ヶ月に１回設定されている会議日には、オフィスアワーによる学習支援を行わない。

2　低学年（一般科目）の学力向上の取り組み【旭専演習塾】

学習指導チューター（専攻科学生）による問題演習と採点

①　学年全体の平均学力を上げるため，学生に問題を解かせる機会を作る。

②　学生が数学，英語，理科に触れている時間を増やすのが目的。

・専攻科学生に学習指導チューターを依頼

・担当教員が学習支援室で待機する必要なし（教員の負担減）

・担当教員は，学生の選出，問題選定及び学習指導チューターの出勤管理のみ。

・学生は，教員が作成した課題を学習支援室で自ら解き，学習指導チューターが採点。

・対象学生は以下の学生（例）と希望者（１回 20 名程度）

４月から前期中間試験まで	４月の実力テストの低得点者
前期末試験まで	中間試験の合格点付近の者
後期中間試験まで	前期末評価 60 点付近の者
学年末試験まで	中間試験の合格者付近の者

学習指導チューター１名につき学生５名程度以下

学習支援室のオフィスアワーにおける学生の利用状況（H23前期）（案）

学習支援室 定員 46 ＋ 13（パーテーション）

期	月	日	曜日	担当教員			学生人数											備考 ※1
							①相談学生 ※1						②呼び出し学生 ※1			③自習学生	④学習支援室利用者	
							英語		数学		理科							
				英語	数学	理科	低学年	高学年	低学年	高学年	低学年	高学年	英語	数学	理科	※2	④=①+②+③	
前期	4	13	木															
		20	木															
		27	木															
	5	11	木															
		18	木															
		25	木	教員会議														
	6	1	木															
		8	木															
		15	木	中間試験 教員会議														
		22	木															
		29	木															
	7	6	木															
		13	木															
		20	木															
		27	木	教員会議														
	9	7	木															
		14	木															
		21	木															

※1　学習支援担当教員は、学習支援終了後、各教科の利用人数を、学習支援担当の理科教員に報告してください。また、気になる点・引継ぎ事項があれば備考欄に記入してください。

※2　質問・相談目的ではなく、自学自習のため学習支援室を利用している人数を、学習支援担当の理科教員が記入すること。

※　学習支援担当者に変更があった場合は、教務係まで連絡ください。

※　この「学習支援室利用状況」用紙は、学習支援担当の理科教員が管理し、中間・期末試験毎に教務係に届け出てください。

（様式例7）

（出典　平成23年度　第１回教務委員会資料）

「学習指導チューターによる学習支援」　　資料５－２－①－10

第7回教務委員会	
H22.10.21	手持資料

別紙様式（第５条関係）

学習指導チューター計画書

平成２２年１０月　８日

教　務　主　事　　殿

所　属：　一般理数科
職　名：　准教授
氏　名：　大澤　智子

このたび，低学年の学生に対する補習授業等のため，学習指導チューターによる教育補助業務を必要としますので，計画書を下記のとおり提出します。

記

項　　目		計　　画　　内　　容
科　目　名		数学ⅡA・数学ⅡB
学年・組・学科		第２学年全クラス
対　象　学　生		２０１０年度「数学ⅡA」・「数学ⅡB」前期末成績不振学生および補習希望低学力学生
学習指導チューターについて	必要人数	５　名
	業務期間	平成２２年１０月２５日（月）～平成２２年１１月２９日（月） 毎週　月　曜日　１６時００分～１８時００分
	業務内容	対象学生に、該当科目内容の演習問題を配布し解かせ、その採点・指導を行う。また、内容に対する質問や、勉強方法の相談にも応じる。ただし、演習問題は数学教員が作成するものとする。
備　　考		「ベクトル」「行列」「微分・積分」に精通しており、教えることに意欲的なチューターを希望する。

学生課教務係記入欄	学習指導チューター学年・専攻・氏名	
	支給単価及び支給予定額	支給単価　金　860　円 支給予定額(総額)　金　　円
	予　算　科　目	寄付金(後援会)

（出典　平成22年度　第７回教務委員会報告資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育理念である「実践的研究開発型技術者」の養成のため，本校の教育目標に対応した講義，演習・実験・実習科目が各学年にバランス良く配置されている。したがって，教育の目的に沿った適切な授業形態となっている。さらに，各学科及び各教科のそれぞれにおいて工夫された学習指導方法が採られている。

以上のことから，教育の目的に照らして，授業形態のバランスが適切であり，学習指導法の工夫がなされている。

観点５－２－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

本校の教育課程にのっとり，開設されるすべての授業についてシラバスが作成され，毎年更新されている。さらに，シラバスは印刷物として全学生及び各 HR 教室に配布，かつ，本校ウェブサイト上にも掲載している（資料５－２－②－１，２）。

シラバスは「シラバスの書き方」に従い，それぞれの担当教員により作成されている（資料５－２－②－３）。科目の該当ページでは，本校の教育目標と各学科・科の教育目標との対応，JABEE との関連（４・５年生のみ対象），使用教科書及び補助教材・参考図書，科目の教育目標・概要・学習上の留意点・評価方法，授業内容（授業項目，理解すべき内容），関連科目を示している。（資料５－２－②－４）。また，シラバスで紹介している教科書，参考図書は原則として図書館に配置するように努めている。

学修単位科目については，シラバス中に総時間数欄に「講義時間と自学自習時間」を明示し，さらに当該科目の授業内容中に「自学自習の内容」も記している。各教員は授業開始時にシラバスを学生に提示し，そこに掲げた到達目標を達成すべく授業を行っている。

シラバスどおりに授業が展開されているかどうかを，学生が記載する授業進捗度確認票を用いて半期ごとに確認している（資料５－２－②－５）。また，隔年で学生による授業評価を全科目で実施しており，シラバスの内容を評価する項目を設けて有効活用を促し，授業改善に資するような体制をとっている（資料５－２－②－６～８）。さらに，認証評価基準に係るアンケートにおいて，学生及び教員相互からのシラバス活用状況を確認している（資料５－２－②－９）。

「印刷物として配布されるシラバス」　　資料５－２－②－１

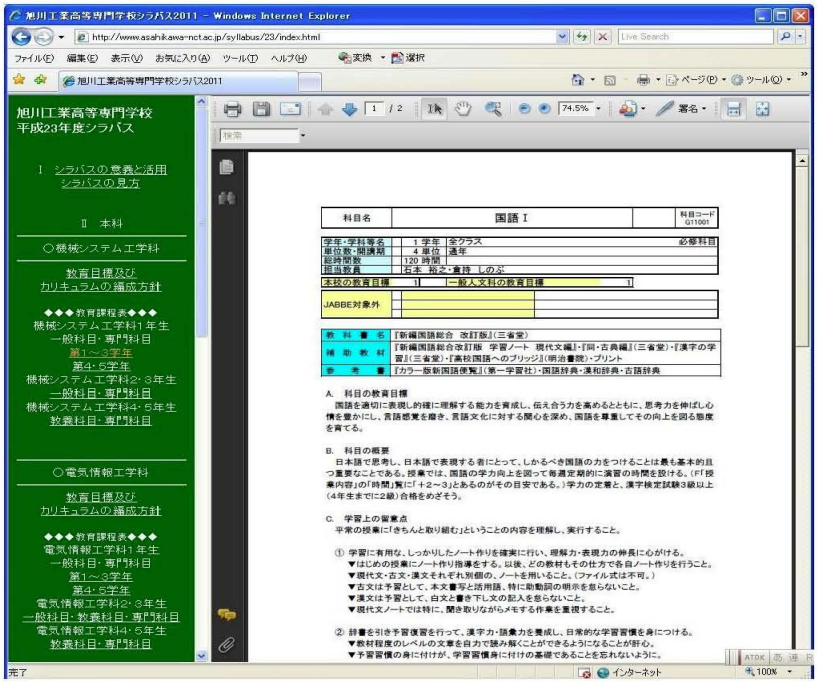
旭川工業高等専門学校
シ ラ バ ス
2011

【機械システム工学科】

注　意：シラバスは大学編入学時に必要となるため，訂正等があれば貼っておき，必ず卒業時まで保管しておくこと。

（出典　平成23年度　旭川工業高等専門学校　機械システム工学科シラバス表紙）

「本校ホームページ上のシラバス」　　資料５－２－②－２



（出典　旭川工業高等専門学校ＨＰ上のシラバス）

「シラバスの作成方法」　　資料５－２－②－３

資料 5-2-②-3

シラバスの書き方

2011.2.18

1. 添付 pdf ファイルの内容を確認する。修正がある場合はメール（※1）で連絡する。

科目名	半導体工学	JABEE科目	科目コード 241

学年・学科等名	5 学年	電気情報工学科	必修科目
単位数・開講期	2 単位	前期	
総時間数	90 時間	講義 30 ＋ 自学自習 60	
担当教員	篁　耕司		

本校の教育目標	3	電気情報工学科の教育目標	1

JABEE関連	教育プログラム科目区分	203基礎工学科目③材料・バイオ系
	教育プログラムの学習・教育目標	A-2(40%) D-1(40%) D-2(20%)
	JABEE基準	d

2. 昨年度のワードファイルの内容を修正する。（新しく科目を担当する教員は、新しく作成する。）修正を要する箇所は以下である。
   (ア)　教科書名、補助教材、参考書
   (イ)　A.　教育目標
   (ウ)　B.　概要
   (エ)　C.　学習上の留意点
   (オ)　D.　評価方法・・・・・*シラバス作成上の注意Ⅰを参考*のこと。
   (カ)　E.　授業内容・・・・・*シラバス作成上の注意Ⅱ*を参考のこと。
   (キ)　F.　関連科目
   ※　体裁を整えるのは印刷業者が担当するので、上部の表（教科書名より上）はそのままにして下さい。

3. 修正したワードファイルをメール（※1）で送る。

※1 送付先メールアドレス　教務係担当（石坂）　yuko@asahikawa-nct.ac.jp

（出典　平成23年度用シラバス作成依頼文書）

「シラバスの書き方に沿ったシラバスの例」　　資料５－２－②－４

科目名	生産技術論	JABEE科目	科目コード 157

学年・学科等名	5 学年	機械システム工学科　　必修科目
単位数・開講期	2 単位	前期
総時間数	90 時間	講義 30 ＋ 自学自習 60
担当教員	岡田　昌樹	

本校の教育目標	3	機械システム工学科の教育目標	5

JABEE関連	教育プログラム科目区分	205基礎工学科目⑤社会技術系
	教育プログラムの学習・教育目標	B-3(20%) D-1(30%) D-2(50%)
	JABEE基準	bd

教　科　書　名	生産管理（日本能率協会コンサルティング　著，日本能率協会マネジメントセンター）
補　助　教　材	ケース文，プリント
参　　考　　書	生産計画（本間峰一・北島貴三夫・葉恒ニ　著，日本能率協会マネジメントセンター）

A.　教育目標

ものづくりの全体像を把握し，生産技術部門の責務となる経済効率（コスト）を中心に，納期と品質の管理技術を身につける。

B.　概要

生産技術に関する学問や技術の範囲は極めて広く，生産管理，品質管理，システム工学，プロセス工学，経営工学など，技術と経営の管理的複合知識から構成される。

また，生産技術の現場では，これらの知識に加えて，多種多様な加工技術の専門知識と実務経験が必要とされるため，実学としての応用能力が要求される。

このため，本科目では生産技術論の導入知識として，コスト分析と納期・品質管理に焦点を当てた基本手法を学び，技術経営における Q（品質）・C（コスト）・D（納期）を理解する。

また，実学としての応用能力を養うため，現企業をケースとした分析や討論を行い，生産技術部門の使命である経済効率を高めるための手法を考える。

C.　学習上の留意点

本科目では，現企業をケースとして分析や討論を行う時間を設けている。従って，ケース文の熟読を予習課題としたり，分析報告書を復習課題として提出させる場合がある。

D.　評価方法

試験（80%），発表内容等（20%）にて評価する。

E.　授業内容

授業項目	時間	内　　容	教育プログラム
1．Cost（コスト）			B-3
（1）生産技術部門の責務	2	日本製造業の実態，良い工場の条件，生産技術部門の責務について理解し，説明できる。	D-1 D-2
（2）企業の財務分析	6	財務諸表の基本的な見方を理解し，企業の実態を開示情報から分析できる。 ※分析事例）自動車メーカー	
（3）生産形態の種類と特徴	6	各種生産形態の種類と特徴を理解し，事例に応じた効果的なコスト削減手法を説明できる。 ※ケースディスカッションを予定	
（前期中間試験）	2		

授業項目	時間	内　　容	教育プログラム
2. Delivery(納期)			B-3
(1)需要予測	2	需要予測と在庫計画を理解し，各種ツールを扱える。	D-1 D-2
(2)生産計画	2	日程，手順，材料，工数の各計画の手法と手順を理解し，説明できる。	
(3)生産統制	2	進度管理，実績把握の手法を理解し，納期順守に利用できる。 ※ケースディスカッションを予定	
3. Quality(品質)			B-3
(1)品質管理とQC7つ道具	6	QC7つ道具の概要を理解し，品質管理に各種ツールを応用できる。 ※演習課題を予定	D-1 D-2
(2)現場改善の進め方	2	現場改善の各手法を理解し，品質管理に各種ツールを応用できる。	
(前期末試験)			
◆自学自習 ・予習課題 ・復習課題 ・情報収集 ・定期試験の準備	60	・予習課題として，ケース文の熟読 ・復習課題として，分析報告書の作成 ・ケース企業及び競合企業の情報収集 ・定期試験の準備 のための勉強時間をまとめて60時間とする。	B-3 D-1 D-2

F.　関連科目

機械加工学，機械創造実習，機械システム工学演習，卒業研究

旭川高専 2011

（出典　平成23年度　機械システム工学科シラバス　P.167-168）

「授業進捗度確認」　　資料５－２－②－５

授業進捗度確認票

科目名　化学工学Ⅲ　　担当教員　津田 勝幸

平成23年 3月 9日実施

4 年　組　物質化学工 学科・専攻　氏名 [redacted]

シラバスどおりに授業が行われたか

Ⓐ行われた　B ほぼ行われた　C 行われなかった

意見，要望等

後期の化学工学実験が始まる前に第7章の流れは学んでおきたかったと感じた。

担当教員意見

化工担当の他の教員とも相談してみますが，時間数と科目の配置から考えて難しい問題です。

（出典　授業進捗度確認票）

「学生による授業評価アンケート用紙」　　資料５－２－②－６

平成２０年度「学生による授業評価」アンケート質問用紙

座学用

Ⅰ　あなた自身のこの授業に対する取り組みの姿勢について

		1	2	3	4	5
1	この科目について，どの程度，自主的に予習や復習をしましたか。	全くしなかった	ほとんどしなかった	少しはした	かなりした	しっかりとした
2	レポートや課題にどの程度取り組みましたか。	全くしなかった	ほとんどしなかった	少しはした	かなりした	しっかりとした
3	レポートや課題などの提出期限をどの程度守りましたか。	全く守らなかった	ほとんど守らなかった	半分くらいは守った	ほとんど守った	すべて守った
4	授業の内容に対して質問や発言をどの程度しましたか。	全くしなかった	ほとんどしなかった	少しはした	かなりした	しっかりとした
5	授業中，私語を交わしたり居眠りをしたりして，集中していないことがどの程度ありましたか。	いつも集中していなかった	ほとんど集中していなかった	少しは集中していた	かなり集中していた	いつも集中していた
6	定期試験や授業中に実施されるテストの準備はどの程度しましたか。	全くしなかった	ほとんどしなかった	少しはした	かなりした	しっかりとした
7	この科目の進度についていくのは，どの程度難しかったですか。	とても難しかった	難しかった	少し難しかった	難しくなかった	全く難しくなかった
8	現在，この科目に対してどの程度興味がありますか。	全くない	ほとんどない	少しはある	かなりある	とてもある
9	この科目の授業を通して，どの程度学べましたか。	全く学べなかった	ほとんど学べなかった	少しは学べた	かなりのことを学べた	とても多くのことを学べた
10	あなたからみて，この科目に対するクラス全体の授業態度はどのように感じましたか。	とても悪かった	悪かった	普通	良かった	とても良かった

Ⅱ　この授業について

		1	2	3	4	5
11	高専においてこの科目を学ぶことの意義についての説明が，どの程度ありましたか。	全くなかった	あまりなかった	少しはあった	かなりあった	十分にあった
12	初回の授業などで，授業予定や学習の仕方，評価方法についてどの程度説明がありましたか。	全くなかった	あまりなかった	少しはあった	かなりあった	十分にあった
13	授業内容は，シラバスの内容とどの程度一致していると思いましたか。	全く一致していない	ほとんど一致していない	ある程度一致している	ほぼ一致している	完全に一致している
14	どの程度，授業の事前準備がされていると思いましたか。	全く準備されていない	ほとんど準備されていない	少しは準備されている	かなり準備されている	十分に準備されている
15	黒板に書かれた文字や図表は，どの程度見やすかったですか。	非常に見にくかった	見にくかった	見にくい時もあった	ある程度見やすかった	とても見やすかった
16	授業中に話す声は，どの程度聞きとりやすかったですか。	とても聞きとりにくかった	聞きとりにくかった	聞きとりにくい時もあった	ある程度聞きとりやすかった	とても聞きとりやすかった
17	授業中の説明はどの程度分かりやすかったですか。	とても分かりにくかった	分かりにくかった	分かりにくい時もあった	ある程度分かりやすかった	とても分かりやすかった
18	質問しやすい雰囲気がどの程度ありましたか。	全くなかった	ほとんどなかった	どちらともいえない	ある程度あった	いつもあった
19	定期試験の範囲や内容は，どの程度，授業内容に合っていましたか。	全く合っていなかった	あまり合っていなかった	どちらともいえない	かなり合っていた	完全に合っていた
20	定期試験，小テスト，レポートなどの結果に対する説明や添削は，どの程度ありましたか。	全くなかった	あまりなかった	少しはあった	かなりあった	十分にあった
21	あなた自身の授業態度や学習量から考えて，前期末（又は学年末）の評価をどのように感じていますか。	低すぎて納得できない	少々不満である	大体このくらいだ	かなり高かった	とても高かった

Ⅲ　資料のための調査項目

		1	2	3	4	5
22	前期末(又は学年末)における，あなたのクラス順位を答えてください。	３３位以下	２５～３２位	１７～２４位	９～１６位	１～８位
23	前期末(又は学年末)における，この科目の評価点を答えてください。	３９点以下	４０～５９点	６０～６９点	７０～７９点	８０～１００点
24	この科目で授業時間はきちんと確保されていましたか。	全く確保されていなかった	ほとんど確保されていなかった	確保されていないときもあった	ほぼ確保されていた	十分に確保されていた
25	この科目について，補習・追試等を含め，学習内容を理解してほしいとする教員の熱意は，どの程度ありましたか。	全くなかった	あまりなかった	少しはあった	かなりあった	十分にあった

Ⅳ 自由記述欄：マークカードの裏面に，この授業に対する意見や要望を、次の項目に分けて書いて下さい。

上段：良かった点
下段：改善してほしい点

以上

ANCT2008-2009

（出典　平成20年度　「学生による授業評価」報告書　P. 4）

「学生による授業評価報告書の見方」　　資料５－２－②－７

～「グラフ」シートの見方～

ページの構成は以下のようになっています。

１．表題

(ア) 各科目の科目コード（データ整理に用いた整理番号）

(イ) クラス：学年(1-5)＋学科（M：機械システム、E：電気情報、S：制御情報、C：物質化学、P：生産システム工学専攻、A：応用化学専攻）※一般選択科目には記載されていません。

(ウ) 授業科目名

(エ) 開講期：前期、後期　または　通年

２．百分率棒グラフ：学習取組度

学習取組度の結果は、以下の各項目からなります。

・ 自学自習に関する項目　　：予習復習、レポート、提出期限、試験準備
・ 授業時間中の姿勢に関する項目　　：質問、集中度、授業態度
・ 進度や習熟度についての意識に関する項目　：学習満足、興味、進度追随

学習取組度の結果は、アンケート項目１～１０の回答に基づいています。学習取組度は、学生が当該授業に取り組む意識・姿勢を、自ら評価した結果といえます。このグラフでは、各項目についての回答の割合を、全回答に対するパーセントで表しています。青い色の部分が多いほど、その項目については高い意識・姿勢をもって学習に取り組んでいる学生が多いということがいえます。

３．百分率棒グラフ：授業評価

授業評価の結果は、以下の各項目からなります。

・ 授業設計とその説明に関する項目　　：意義、計画、シラバス
・ 実際の授業時の授業方法に関する項目　　：事前準備、黒板、話し方、説明、雰囲気
・ 試験・評価に関する項目　　：試験内容、結果説明

授業評価の結果は、アンケート項目１１～２０の回答に基づいています。授業評価は、学生が当該授業の内容や方法をどのように見ているかを示す結果といえます。このグラフでは、各項目についての回答の割合を全回答に対するパーセントで表しています。 青い色の部分が多いほど、その項目については多くの学生から高い評価を得ているということがいえます。

４．レーダーチャート：学習取組度

上記２の百分率棒グラフに示されている回答を平均し、レーダーチャート上に図示したグラフです。囲まれている面積が大きいほど、クラス全体として高い意識・姿勢で学習に取り組んでいるといえます。これに対し、グラフの広がりに偏りがある場合には、特定の項目については良く取り組んでいるが他の項目についてはそうではないということになり、改善の余地があるということがいえます。例えば、自学自習に関する項目のポイントが高いにも関わらず、興味や進度追随といった項目のポイントが低い場合には、とりあえず与えられた課題はこなしているものの、真の意味での理解を得ることはできていないという見方ができ、今後さらに興味を持たせ理解を促すという改善の余地があることがわかります。

５．レーダーチャート：授業評価

上記３の百分率棒グラフに示されている回答を平均し、レーダーチャート上に図示したグラフです。囲まれている面積が大きいほど、クラス全体としての当該授業への評価が高いといえます。これに対し、

グラフの広がりに偏りがある場合には、特定の項目については高く評価されているが他の項目についてはそうではないということになります。例えば、事前準備や黒板の項目のポイントが高いにも関わらず、説明や話し方の項目のポイントが低い場合には、配布資料・講義ノートなどの準備や授業時の板書は万全な形で行なわれているものの、口頭での説明内容やその技術が十分ではないために、学生には内容がよく伝わっていないということが考えられます。

６．円グラフ：成績評価適切度

当該授業の成績評価が適切なものとして学生に受け入れられているかを示したグラフです。アンケート項目２１の回答に基づき、円グラフで表しています。このグラフでは、３が「成績評価が適切である」という評価を意味します。３よりも小さい数値は、学生からみて成績評価が低いと受け止められていることを示し、逆に３より大きい数値は、成績評価が高いと受け止められていることを示します。全体的な評価が３から著しく逸脱している場合には、成績評価の基準設定や評価方法に何らかの偏りがあることが考えられます。

７．成績評価別平均値

学生の当該授業の成績と、学習取組度及び授業評価に関する項目全体の回答の平均値との関係を示します。学生の学業成績と学習取組状況の関係（どの水準の学生が、どれほど高い意識・姿勢をもってその科目に取り組んでいるか）または授業評価の関係（どの水準の学生に合った授業となっているか）が推測できます。

８．成績評価別人数分布

当該授業の成績の人数分布を示します（通年科目の場合は前期末の時点での人数分布）。どのあたりの成績評価の学生が多いかがわかるので、授業方法の改善や成績評価基準の見直しの基礎とすることができます。例えば、低い成績評価に偏っているということであれば、実際の授業内容・方法・目的に沿った評価基準であるかを見直すことが必要であると判断できます。他方、高い成績評価に偏っているということであれば、授業内容の程度を見直し、より高度な内容も授業に含める余地があるという判断ができます。さらに、上記７の成績評価別平均値と併せて検討することによって、学生の学習取組状況と成績分布の関係を知ることもできます。

※　第５学年および専攻科２年の後期開講科目については、学年末成績関係のグラフ（項目６～８）は表示されません。

９．学生コメント

「良かった点」と「改善してほしい点」に分けて、学生に自由に記述させたコメントです。

１０．教員コメント

アンケート結果に対する、意見、改善点、前回比較を含めたコメントです。

１１．在籍数・有効回答数

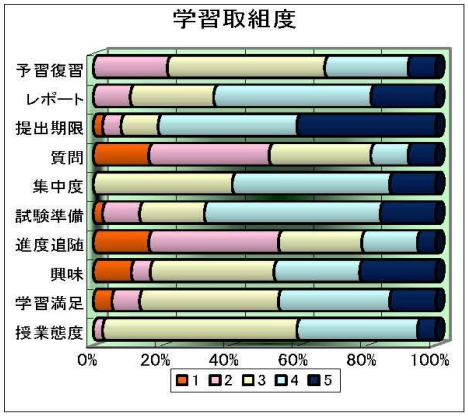
「在籍」は、当該クラスに在籍する学生数です。「有効回答」は、実際にデータとして反映させた回答者数です。明らかに無効な回答と思われる記述や欠席者の分については、有効回答の数に含まれていません。

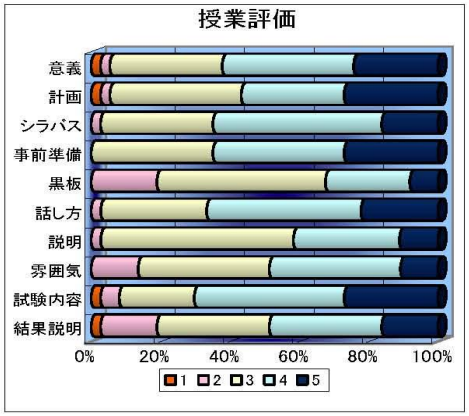
（出典　　平成20年度　「学生による授業評価」報告書　P.9-10）

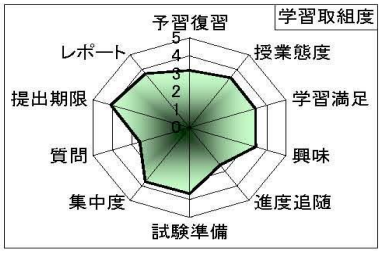
「学生による授業評価報告書　記載例」　　資料５－２－②－８

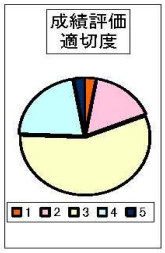
ANCT2008

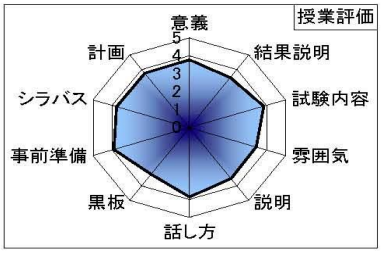
3187　5C　高分子化学(Ⅰ・Ⅱ)　通年

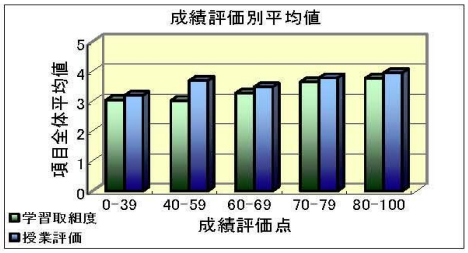


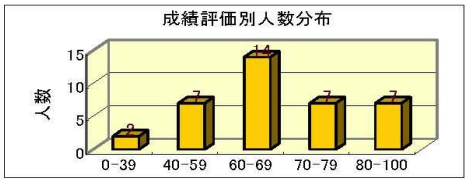












学生コメント(自由記述欄より抜粋)

○良かった点○　・巧みな話術で面白いと思えたこと・復習、宿題プリントのファイルのシステムはとても良かった。・説明がていねいだった・どの授業もクラスメートは自分から発言することはほとんどないので、教員からの質問をしたことはよかった・先生自身、忙しくても色々なことを考慮して下さった点・反応とかの説明で実際の例とかあげてもらえてわかりやすかった。

△改善してほしい点△　・小テストの解答をもっとしてほしい丸つけをもう少し正確にやってほしい。・まとまりなく黒板に書くとくがあり、わかりにくいところ・時々板書の英語が読めません・英字がたまに読めない時がある。

教員コメント(意見・改善点・前回比較など)

○良かった点○ に対して。・課題や復習プリントのファイルチェックと記録は時間が掛かり大変な負荷となっていますが，学生の予習と復習をステップバイステップで行う最良の方法であるとも考えています。そこを理解して前回実施時同様に約8割の学生が何らかの努力をしたことを誇りに思います。

△改善してほしい点△ に対して。・小テストの復習を自学自習点としていますので，当初の説明通り，直接的な解答は出来ません。ヒント等がどうしても必要な場合は，金曜夜に実施していたブートキャンプに参加して欲しかったです。前回実施時以降，板書はかなり気をつけたつもりでしたが今後はさらに気をつけて授業したいと思います。

？成績評価度の4が前回より多いようですが，シラバス通りの評価方法ですので，自学自習をしっかりやった成果と考えて自信を持って下さい。

在籍　37 人　有効回答　37 人

3187.xls

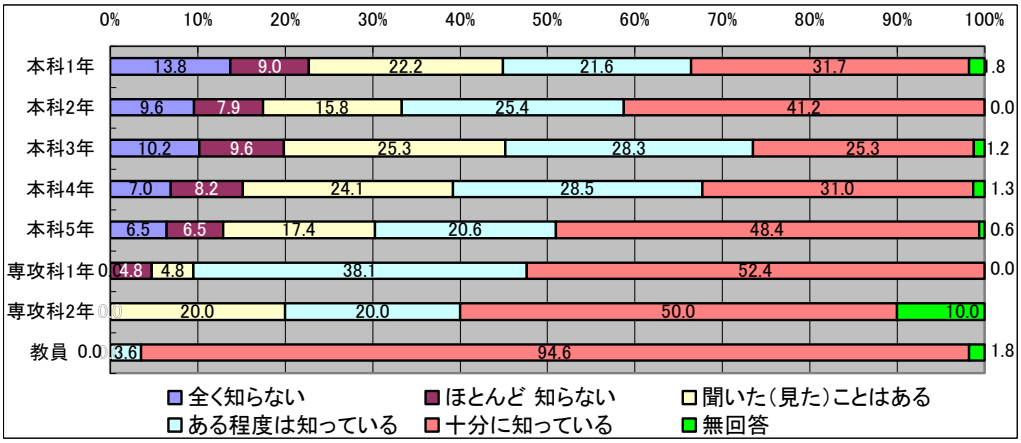
（出典　平成20年度「学生による授業評価」報告書　P.119）

資料５－２－②－９

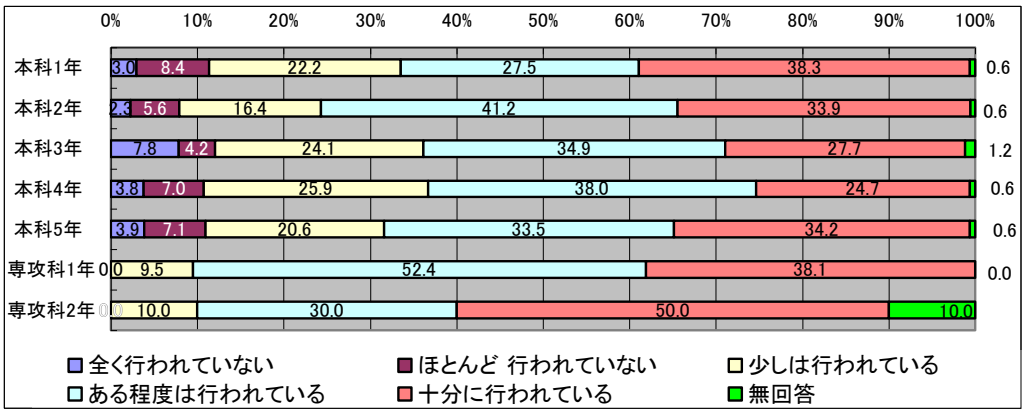
「認証評価基準に係わるアンケート抜粋（シラバスの活用）」

Ⅲ　シラバスの活用について

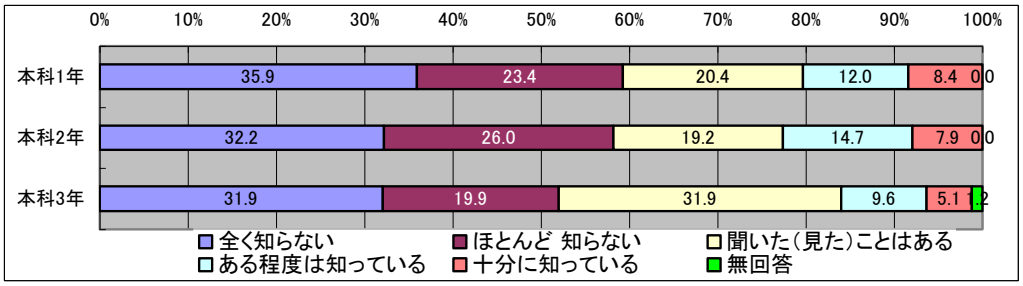
Q13　シラバスが専門学科毎に編纂され、全学生に配布され、また、本校のホームページ上にも公開されることを知っていますか。



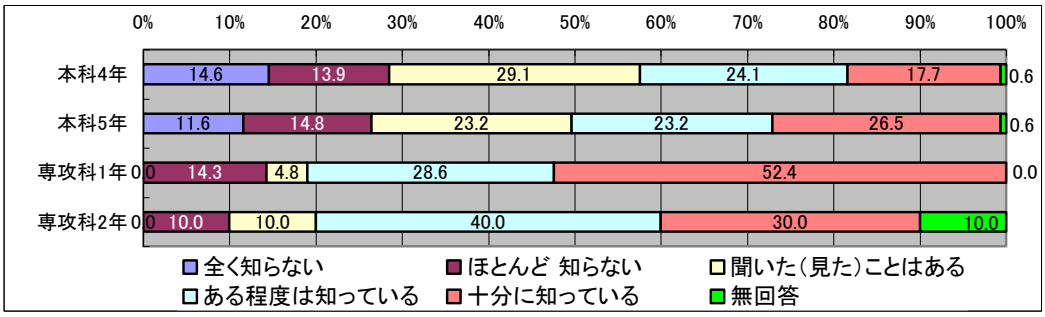
Q14　毎年度（毎期）、授業開始時のガイダンスにおいて、科目担当教員からシラバスを用いて「教育目標」や「概要」、「評価方法」についての説明がなされていますか。



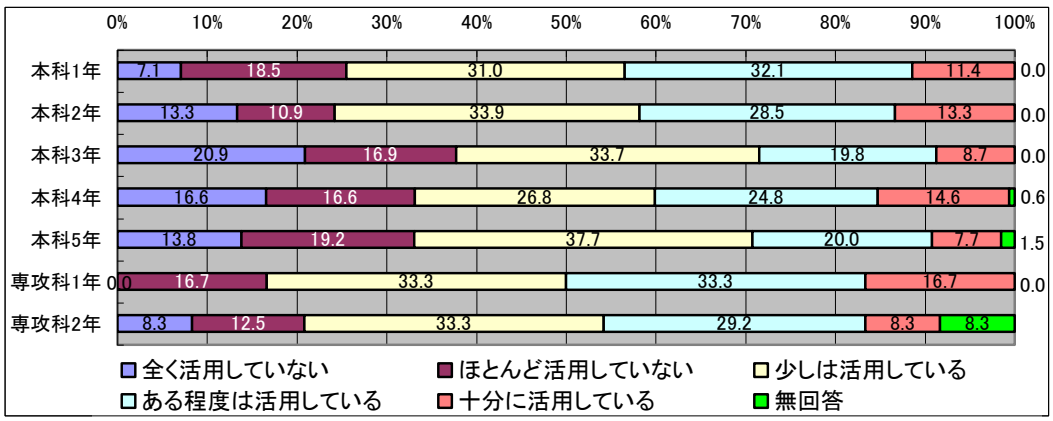
Q15　現在、「学級日誌」によって、シラバス通りの内容・進度で授業が進んでいるか、確認されていることを知っていますか。



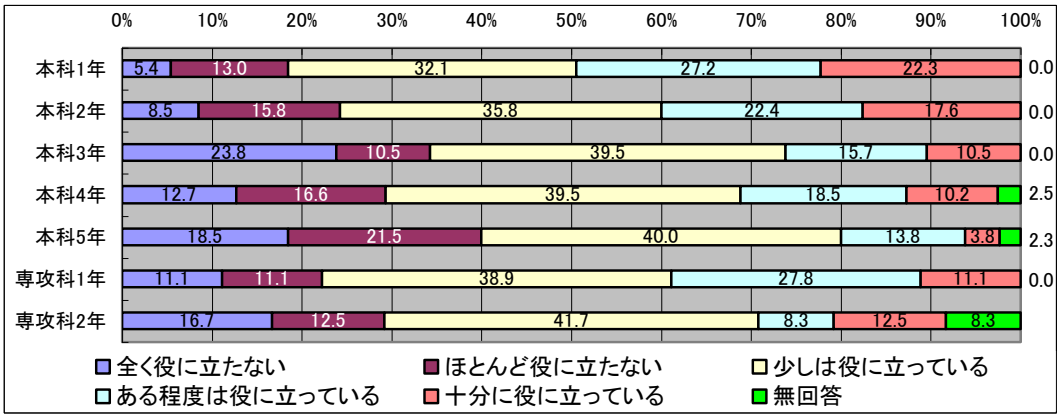
Q16　現在、半期毎に「授業進捗度確認票」によって、シラバス通りの内容・進度で授業が進んでいるか、確認されていることを知っていますか。



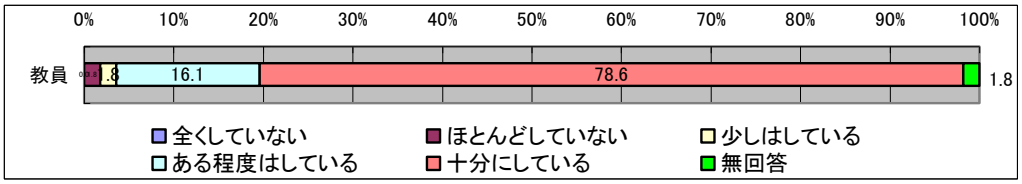
Q17　あなた自身、授業内容や進度、成績評価方法などを確認する際に、シラバスを活用していますか。



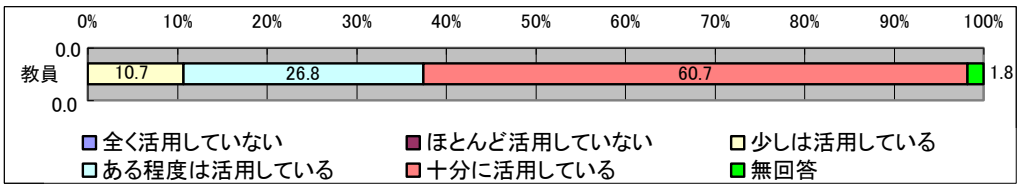
Q18　自己学習を進める上で、現在のシラバスは十分に役に立つものですか。



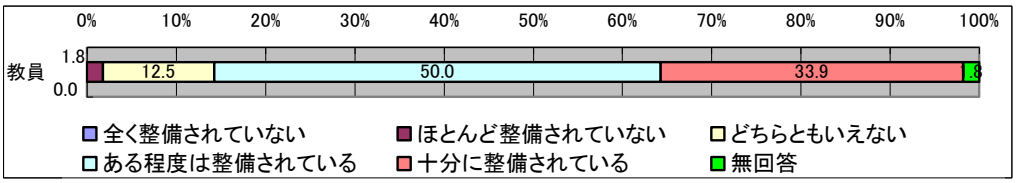
教員 Q14　毎年度（毎期）、授業開始時のガイダンスにおいて、シラバスを用いて「教育目標」や「概要」、「評価方法」などを説明していますか。



教員 Q15　授業内容の決定や進度の確認、成績評価などの際、シラバスを活用していますか。

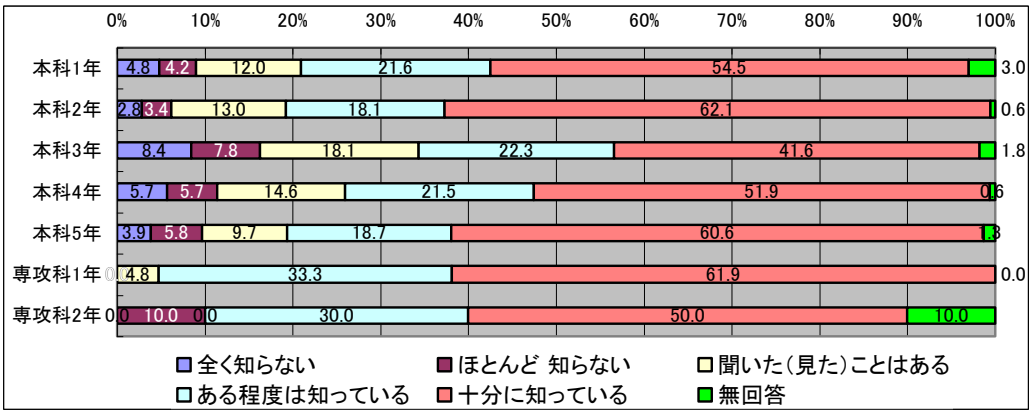


教員 Q16　現在のシラバスの様式は、適切な教育指導を行う上で十分に整備されたものですか。



Ⅳ　成績評価等の規定に対する認知について

Q19　科目毎の評価方法は、全てシラバスに記載されていることを知っていますか。



（出典　平成 22 年度「認証評価基準に係わるアンケート」）

（分析結果とその根拠理由）

シラバスの中には，教育目標，学習内容，評価方法，学修単位等を明示しており，授業科目の受講や学生が自己学習する上での拠り所となっている。学生による授業評価アンケート及び認証評価基準に係るアンケートの結果から，学生及び教員のいずれにおいてもシラバスは有効に利用されており，各教員の更なる授業改善を促すという良い結果に結びついている。

以上のことから，本校の教育課程編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され，専門学科ごとに編纂されて全学生に配布されている。さらに，本校ウェブサイト上でも公開しており，本校に関心のある受験生や一般市民にも閲覧を可能とし，活用されている。

観点５－２－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また，インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

各学科における創造性を育む教育の事例として，「機械創造実習」では課題をグループ単位で与え，限られた条件下でその課題を達成するためのアイデアを創出・計画立案・実現等をチームで遂行させている（資料５－２－③－１）。また，「創造プログラミング実習」では，各自が学んだコンピューター言語とデータ処理の知識を用いてオリジナルのゲーム・プログラムを作成し，学生が主体的に学び・考え・創造することを体験させている（資料５－１－①－11（163 ページに前出））。さらに，「無機分析化学」においては，チームごとに実験課題を一つ選び，それまでに学んだ知識を基に，課題の中身を解き明かすための実験指針の立案・分析・解析・成果報告を行うことで，未知の課題を解明する学習・教育方法を実践している（資料５－２－③－２）。システム制御情報工学科では，新カリキュラムにおいて，発想・創造性を生かした新たな科目「創造工学」を加え，４年次で実施予定である（資料５－２－③－３）。

５年次の「卒業研究」は，準学士課程の集大成として，各教員の指導の下で専門分野の研究課題を学生自らが設定し，これまで修得した知識や技術を応用しながら，研究の過程を通して，課題探求及び解決能力，創造的な実践力の育成を目指している（資料５－２－③－４）。また，自分の研究とその研究分野の状況を把握できるよう，IPDL 教育を行っている（資料５－１－②－15(197 ページに前出)）。

インターンシップは，「企業実習」として準学士課程第４学年に選択科目として開設している（資料５－１－②－７（180 ページに前出））。受入れ企業確保の問題もあり，現在のところ必修化の予定はない。しかしながら，本州企業及び大学のオープンキャンパス等を利用することにより，単位取得学生数は年々増加し，最近では学年の半数以上が参加している状況である（資料５－２－③－５）。単位の認定は，受け入れ先での評価結果と報告書等により行っている（資料５－２－③－６～７）。

「機械創造実習シラバス（機械システム工学科）」　　資料５－２－③－１

科目名	機械創造実習		科目コード 117

学年・学科等名	3 学年	機械システム工学科　必修科目
単位数・開講期	3 単位	通年
総時間数	90 時間	
担当教員	岡田　昌樹・後藤　孝行・宇野　直嗣・技術職員	

本校の教育目標	2	機械システム工学科の教育目標	3

JABBE対象外		

教　科　書　名	機械実習 1，機械実習 2（嵯峨・中西　監修，実教出版）
補　助　教　材	プリント，ビデオ
参　　考　　書	特に使用しない

A.　教育目標
①前期：製品の部品製作・組立・性能評価などの実務を総合的に学習することで，最適な作業や生産方法を企画し，実行する能力を身につける。
②後期：与えられた課題の作品を製作することで，機械を創造するさいの考案，設計，試作，改良，性能評価までの流れを理解する。

B.　概要
①前期：4 軸クレーンの構造や機構を理解したうえで，部品の製作，組立，性能検査に至る一連の作業を行う。
②後期（1）：課題規定に従い，指定の材料・部品を用いて作品を製作する。
③後期（2）：三次元 CAD による歯車機構,リンク機構およびカム機構などの基本的な機構モデルのアセンブリを行うことでその基礎を理解し，さらに，身近な機械の機構を三次元 CAD により再現することで，機構の応用例を理解する。

C.　学習上の留意点
①危険予知と安全意識を身につけ，自己規律と安全に対する意識の向上をはかる。
②全体と個の関係を常に掌握し，共同作業の重要性を身につける。
③作業の経過と結果を記録し，考察と感想を加えた報告書を期限内に提出する。
④定期試験は行わない。
⑤評価配分の取組度には，授業内容「3. 後期（1）」の競技成績も含む。
⑥評価配分のレポート・課題内容には，授業内容「3. 後期（1）」の報告会も含む。

D.　評価方法
取組度（60%），レポート・課題内容(30%)，レポート・課題提出期限(10%)である。

E.　授業内容

授業項目	時間	内　　容
1. 講義	3	機械創造実習の内容が理解でき，安全作業に対する心構えが身につく。
2. 前期 （1）部品加工 （2）組立および性能評価	 27 15	4 軸クレーンの構造や機構が理解できる。各種工作機械を用いて，部品を加工することができる。製品を組み立て，試運転により性能を検査できる。
3. 後期 （1）競技課題ロボットの製作	 30	与えられた材料や部品を用いて，グループごとに規定の機能を持つ作品を考案・設計・製作できる。完成後に競技会・報告会を実施し，作品の性能を評価できる。
（2）三次元 CAD による各種機構モデルの再現	15	三次元 CAD により各種機構モデルを完成させ，それらについての基礎と応用例を理解することができる。

F.　関連科目
機械製作実習，機械製図，CAD／CAM，材料加工学，機械加工学，機械材料学，機械設計演習

旭川高専 2011

（出典　平成23年度　機械システム工学科シラバス　P．84）

「無機分析化学実験シラバス（物質化学工学科）」　　資料５－２－③－２

科目名	無機分析化学実験		科目コード 407

学年・学科等名	2 学年	物質化学工学科	必修科目
単位数・開講期	4 単位	通年	
総時間数	120 時間		
担当教員	宮越　昭彦・古崎　睦		

本校の教育目標	3	物質化学工学科の教育目標	1

JABBE対象外			

教　科　書　名	新版　分析化学実験（本水昌二ら著、東京教学社）
補　助　教　材	プリント
参　　考　　書	増補　化学実験レポートの書き方（泉　美治著、小川雅彌　他監修、化学同人）など

A.　教育目標

基本的な定量分析操作を身につけ、化学反応における定量的（平衡論的）考え方を体得する。また、実験報告書（レポート）の作成能力を習得する。

B.　概要

重量分析、容量分析（中和滴定・キレート滴定・沈殿滴定・酸化還元滴定）、機器分析・分離分析、および自由研究の順に展開する。最終の自由研究では、提示された複数の実験課題の中から一つを選択し、それまでに学んだ分析法を基に、実験指針の立案・分析・解析・成果報告を行う。

C.　学習上の留意点

提出されたレポートについては、添削を行った上で返却し、再提出を求める。指摘された事項の書き直しを通して、レポート作成能力の向上に努める姿勢が大切である。また、実験内容の理解を促すため、定期的に章末テストを実施する。

D.　評価方法

・レポート（担当教員で分担評価）70%
・試験 20%
・学習の取り組み（器具の取り扱い、後片づけ等）10%

E.　授業内容

授業項目	時間	内　　容
1. ガイダンス、実験安全講習、実験準備	4	本科目の目標、内容、予定、評価法およびレポートの書き方などがわかる。また、実験遂行における注意事項、使用器具の名称や目的がわかる。
2. 重量分析		
(1)重量分析座学、恒量操作、試薬調製	4	重量分析の原理、特徴がわかる。秤量ビンおよびガラスフィルターの恒量操作ができる。また、各種溶液を正しく調製することができる。
(2)重量分析-1、試薬の調製	4	間接法により、硫酸銅 5 水和物結晶中の結晶水を定量できる。
(3)重量分析-2	4	ジメチルグリオキシムを沈殿剤として用い、硫酸ニッケルアンモニウム中のニッケルを定量できる。
(4)章末テスト、レポート検討	4	重量分析に関わる基礎理論を理解し、計算問題を解くことができる。
3. 中和滴定		
(1)容量測定器具の使用法、溶液調製	4	ホールピペットの正しい使用法がわかり、繰り返し誤差や使用法の違いによる採取量の差異について理解できる。

授業項目	時間	内　　容
		濃度計算を基に、各種溶液を正しく調製することができる。
(2)中和滴定座学、中和滴定-1	8	中和滴定の原理・特徴がわかり、強酸、強塩基の濃度とpH の関係が理解できる。 強酸標準溶液の標定ができ、それを用いて強酸-強塩基の滴定曲線を作成できる。
(3)中和滴定-2	4	乳酸菌飲料中の乳酸濃度を求め、併せて弱酸-強塩基の滴定曲線を作成できる。
(4)章末テスト、キレート滴定座学	4	中和滴定に関する基礎理論を理解し、計算問題を解くことができる。 キレート滴定の原理や特徴がわかる。
4. キレート滴定と沈殿滴定		
(1)標準溶液の調製と標定	4	EDTA 標準溶液を正しく調製し、標定することができる。
(2)キレート滴定	4	EDTA 標準溶液を用いて、検水の硬度を求めることができる。
(3)沈殿滴定座学、沈殿滴定	4	沈殿滴定の原理や特徴がわかる。 硝酸銀標準溶液を用いて、食塩中に含まれる塩化物イオンを定量し、塩化ナトリウムの含有率を求めることができる。
(4)章末テスト、レポート検討	4	キレート滴定および沈殿滴定に関する基礎理論を理解し、計算問題が解ける。
5. 酸化還元滴定		
(1)酸化還元滴定座学、溶液調製	4	酸化還元滴定の原理や特徴がわかる。また、各種溶液を正しく調製することができる。
(2)酸化還元滴定-1	4	過マンガン酸カリウム標準溶液を標定し、それを用いてモール塩中の鉄を定量できる。
(3)酸化還元滴定-2	4	過マンガン酸塩滴定法を用いて、検水中の COD を求めることができる。
(4)章末テスト、吸光光度法・分離分析座学	4	酸化還元滴定に関する基礎理論を理解し、計算問題が解ける。 吸光光度法およびクロマトグラフィーの原理や特徴を理解することができる。
6. 機器分析と分離分析		
(1)吸光光度法-1	4	吸光光度法により、検水中の鉄を定量することができる。
(2)吸光光度法-2	4	モル比法の原理を理解し、鉄-フェナントロリン錯体の結合比を求めることができる。
(3)ペーパークロマトグラフィー	4	溶液中の金属イオンを分離分析できる。
(4)イオン交換クロマトグラフィー	4	イオン交換樹脂の交換容量を求め、また、銅イオンの溶離曲線を作成することができる。
(5)章末テスト、自由研究の説明	4	吸光光度法やクロマトグラフィーの原理や特徴について説明できる。 自由研究の概要を理解することができる。
7. 自由研究	28	選択した実験課題について、班員と協力しながら実験指針を立案し、分析を行い、結果を解析し、成果を報告することができる。

F.　関連科目

分析化学、無機化学Ⅰ・Ⅱ、機器分析、環境分析

旭川高専 2011

（出典　平成23年度　物質化学工学科シラバス　P.59-60）

「システム制御情報工学科カリキュラム」　　資料５－２－③－３

システム制御情報工学科

〔第1～3学年の授業科目及び開設単位数〕

区分		授業科目		単位数	学年別配当			備考
					1年	2年	3年	
一般科目	必修科目		国語Ⅰ	4	4			
			国語Ⅱ	3		3		
			国語Ⅲ	2			2	
		社会	現代社会	2	2			
			日本史	2		2		
			世界史	2			2	
			地理	2		2		
		数学	数学ⅠA	3	3			
			数学ⅠB	3	3			
			数学ⅡA	3		3		
			数学ⅡB	3		3		
			数学ⅢA	4			4	
			数学ⅢB	1			1	
		理科	物理Ⅰ	2	2			
			物理Ⅱ	3		3		
			化学Ⅰ	2	2			
			化学Ⅱ	2		2		
			生物	1		1		
			地学	1		1		
		保体	保健	1	1			
			体育Ⅰ	2	2			
			体育Ⅱ	2		2		
			体育Ⅲ	2			2	
		外国語	英語Ⅰ	4	4			
			英語Ⅱ	4		4		
			英語Ⅲ	3			3	
			英文法	2	2			
			基礎英会話	1		1		
			英語演習	2			2	
		芸術	美術	1	1			
		情報	情報基礎	1	1			
		小計		70	27	27	16	
専門科目	必修科目	応用物理Ⅰ		2			2	
		電子計算機概論		2	2			
		情報処理		2		2		
		CAD／CAM演習		4			4	
		コンピュータグラフィックス		2			2	
		アルゴリズムとデータ構造		2			2	
		工業力学		2			2	
		材料工学		2			2	
		機械要素設計		2			2	
		電気工学		2			2	
		工学基礎演習Ⅰ		2	2			
		工学基礎演習Ⅱ		1		1		
		製図		2	2			
		CADⅠ		1		1		
		CADⅡ		1			1	
		工作実習		3		3		
		小計		32	6	7	19	
修得単位合計				102	33	34	35	

〔第4・5学年の授業科目及び開設単位数〕

区分			授業科目	単位数	学年別配当 4年	学年別配当 5年	備考
一般科目	必修科目	人文系	言語表現	1	1		
			日本文化論	1		1	
		社会系	知的財産権論	1		1	
			経済学	1	1		
		保体	体育Ⅳ	1	1		
		外国語	英語Ⅳ A	2	2		
			英語Ⅳ B	1	1		
			英語Ⅴ	1		1	
		小計		9	6	3	
	選択科目	人文系	文学	1	1		3単位以上修得
			哲学	1	1		
			心理学	1	1		
			史学	1	1		
		社会系	法学	1	1		
			政治学	1	1		
		外国語	英語特講 A	1	1		
			英語特講 B	1	1		
			第二外国語 A	1	1		
			第二外国語 B	1	1		
		理数系	数学特講	1	1		
			物理特講	1	1		
		一般教養総合	一般教養特別講義 A	1	1		
			一般教養特別講義 B	1	1		
		小計		14	14		
	修得単位合計				12 以上		
専門科目	必修科目		応用数学Ⅰ	2	2		
			応用数学Ⅱ	2	2		
			応用物理Ⅱ	1	1		
			応用物理実験	1	1		
			数値計算Ⅰ	1	1		
			数値計算Ⅱ	1	1		
			デジタル形状設計Ⅰ	1	1		
			デジタル形状設計Ⅱ	1	1		
			材料力学Ⅰ	1	1		
			材料力学Ⅱ	1	1		
			熱・流体工学Ⅰ	1		1	
			熱・流体工学Ⅱ	1		1	
			加工学Ⅰ	1	1		
			加工学Ⅱ	1	1		
			ロボティクスⅠ	1	1		
			ロボティクスⅡ	1	1		
			計測工学Ⅰ	1		1	
			計測工学Ⅱ	1		1	
			制御工学Ⅰ	1	1		
			制御工学Ⅱ	1	1		
			制御工学Ⅲ	1		1	
			制御工学Ⅳ	1		1	
			電子工学Ⅰ	1	1		
			電子工学Ⅱ	1	1		
			工業英語	1		1	
			システム工学Ⅰ	1		1	
			システム工学Ⅱ	1		1	
			メカトロニクスⅠ	1		1	
			メカトロニクスⅡ	1		1	
			ゼミナール	1		1	
			画像・信号処理Ⅰ	1		1	
			画像・信号処理Ⅱ	1		1	
			創造工学	2	2		
			工学実験Ⅰ	2	2		
			工学実験Ⅱ	2		2	
			卒業研究	8		8	
			小計	48	24	24	
	選択科目		企業実習	1	1		5単位以上修得
			システムダイナミクス	1		1	
			CAD／CAM システム	1		1	
			計算力学	1		1	
			通信ネットワーク工学	1		1	
			応用電子工学	1		1	
			情報理論	1		1	
		小計		7	1	6	
	修得単位合計				53以上		
修得単位合計					65以上		
一般科目修得単位合計				82以上			
専門科目修得単位合計				85以上			

（出典　平成23年度学生生活のしおりP.70-72）

「卒業研究シラバス」　　資料５－２－③－４

科目名	卒業研究	JABEE科目	科目コード 359

学年・学科等名	5 学年	制御情報工学科	必修科目
単位数・開講期	7 単位	通年	
総時間数	210 時間		
担当教員	システム制御情報工学科全教員		

本校の教育目標	2	制御情報工学科の教育目標	4

JABEE関連	教育プログラム科目区分	303専門工学科目③課題解決系
	教育プログラムの学習・教育目標	C-1(20%) D-3(40%) E-1(15%) E-2(5%) E-3(20%)
	JABEE基準	defgh

教　科　書　名	各研究テーマに必要なものを選択
補　助　教　材	各研究テーマに必要なものを選択
参　　考　　書	各研究テーマに必要なものを選択

A.　教育目標

研究計画の立案，文献の調査や理論的考察，実験装置やプログラムの作成，実験，解析，数値計算など研究遂行に必要な能力を獲得する。また研究報告書の作成および発表能力を獲得する。

B.　概要

卒業研究テーマは学生各人が選択する。各担当教員の指導のもとで課題に取り組み，企画・実行力，設計・創造力，発表能力など研究遂行に必要な能力を養う。期限までに，研究論文と卒業研究論文審査会用の前刷りを提出する。

C.　学習上の留意点

高専教育の総仕上げとして，5年間学んできた基礎的な知識・技術をもとにして，自ら進んで問題を解決する姿勢が大事である。時間割に定められた卒業研究の時間以外に，調査や，研究に必要な理論や基礎技術の修得のために，自宅学習が必須である。

D.　評価方法

卒業研究発表会(審査会)での状況を含め，下表の項目・指針に基づいて担当指導教員が評価し，学科会議において審議の後，最終的に決定する。

評価項目	学習・教育目標	指針	評価割合
企画・実行力	D-3	・どの様に研究を進めて目標に到達できるかを考え実行したか。 ・デザイン対象をもとに，その能力を育成できたか。	20%
計画性	D-3	・自ら積極的に行ったか。 ・自ら段取りを付け，時間配分を考えながら研究を行ったか。	10%
発表能力	C-1	・論文の内容を正確に表していたか。 ・発表会におけるスライド・発表状況・質疑応答等	20%
達成度	E-1	・研究成果の達成度，論文の内容および体裁等 ・関連分野の工学知識を習得し，自主的，継続的に身につけることができたか。	15%
協調性	E-2	・研究メンバー間で協調・討議等を行い，進められたか。 ・共同実験者と協力し合いながら行うことができたか。	5%
創造性	E-3	・自らが考えて進めた研究内容・方法があったか。	20%
提出期限	D-3	・期限内:10 点(以降:時間・日数により減点)	10%

E.　授業内容

授業項目	時間	内　　容	教育プログラム
1.　ガイダンスとテーマの選択	6	学生は全教員が提示したテーマ一覧の中から各自のテーマを決定する。 各教員の指導の基、各テーマに応じた理論の学習，実験装置製作及び実験や，プログラム開発と実行等を行う。 所定の様式に従って作成した卒業研究論文、前刷りを期限までに提出する。	C-1, D-3, E-1, E-2, E-3
2.　研究（昨年度卒研テーマ一覧） • 拡張現実感を用いたキャラクター誘導ゲームの開発 • カメラ画像からの３次元モデルの復元 • モノクロ地図画像におけるライン・シンボルのベクトル化 • CNT-FET デバイスの基本特性評価 • 高機能化を目指した走査型プローブ顕微鏡システムの構築 算システム －ロボット構造モデリングのためのユーザインターフェース－ • マルチエージェントシステム概念に基づく超冗長ロボットの運動学計算システム －運動学計算の効率化－ • 生物ロボットの動作生成に関する研究 －物理シミュレータとの連携－ • モミガライトボイラーの開発と評価 • 大根収穫機の移動の自動化に関する研究 • Web カメラによる組込み Linux マイコンカーの制御 • 大根収穫機の大根積み込み装置の自動化の研究 • 近接センサを用いたキャタピラ式台車の速度検出 • 服地裁断機カッターの制御ソフトウェア • 服地裁断機カッターの制御ハードウェア • 服地裁断機ヘッド部の製作 • 振り子駆動カートポールシステムに関する研究 • RBFNs とファジィ制御を用いたクレーンの知的制御 • 2 自由度フレキシブルマニピュレータの省エネルギー軌道計画 • タッチ・パネルによるロボットインターフェースの開発 • 水浸探傷法を用いた材料の非破壊検査 • 渦電流法を用いた非破壊での材質の判定 • 球状黒鉛鋳鉄の組織・硬さの分布に対する鋳造法案および厚さの影響 • Java Applet 等を利用した制御工学ｅラーニング・コンテンツの拡充 • 臼歯の有限要素モデルの構築 • 歯列模型のための汎用三次元 CAD データ編集プログラムの開発 • 5 軸制御加工機の干渉チェックシステムの開発－PhysX を用いた干渉チェックの試み－ • ZigBee を用いた遠隔操作型 SBO 表示システムの製作 • AR を用いた機上マニュアル計測システムの開発－機上マニュアル計測の基礎実験－ • 人体モーション解析システムの製作 －加速度センサの特性実験－ • RP を用いた立体地球儀造型システムの開発 • 自律型無人ヘリコプターを使用した空撮システムの開発－空撮シミュレーションシステム APSS Ver.2 の開発－ • 自律型無人ヘリコプターを使用した空撮システムの開発－SkySynthesizer Ver2.1 の開発－ • 超音波センサによる積雪感知システムの製作 • 風力発電機の製作	196		
3.　卒業研究発表会 各自が与えられた時間内で，自分の研究内容について発表する。	8	パワーポイントを使用する。	

F.　関連科目

制御情報工学科全科目

旭川高専 2011

（出典　平成23年度　システム制御情報工学科シラバス　P.172-173　）

「インターンシップ参加学生数」　　資料５－２－③－５

第4学年　企業実習参加学生数

年度	学　科	参加人数	在学者数	参加率(%)
14	機械工学科	4	38	14.2
	電気工学科	11	35	
	制御情報工学科	2	38	
	物質化学工学科	3	30	
15	機械工学科	2	37	18.5
	電気工学科	12	35	
	制御情報工学科	4	36	
	物質化学工学科	9	38	
16	機械工学科	4	40	21.4
	電気工学科	14	39	
	制御情報工学科	6	37	
	物質化学工学科	9	38	
17	機械工学科	13	35	36.0
	電気工学科	13	31	
	制御情報工学科	6	39	
	物質化学工学科	22	45	
18	機械工学科	8	43	29.0
	電気情報工学科	15	39	
	制御情報工学科	3	41	
	物質化学工学科	21	39	
19	機械システム工学科	16	37	50.0
	電気情報工学科	19	34	
	制御情報工学科	10	35	
	物質化学工学科	29	42	
20	機械システム工学科	25	38	53.8
	電気情報工学科	23	38	
	制御情報工学科	13	42	
	物質化学工学科	23	38	
21	機械システム工学科	31	41	59.0
	電気情報工学科	26	40	
	制御情報工学科	11	39	
	物質化学工学科	30	46	
22	機械システム工学科	23	37	57.5
	電気情報工学科	29	39	
	制御情報工学科	10	43	
	物質化学工学科	34	48	
	総　計	533	1390	38.3

（出典　教務関係資料）

「相手先企業からのインターンシップ証明書」　　資料５－２－③－６

インターンシップ（企業実習）証明書

平成 22 年 9 月 3 日

旭川工業高等専門学校長　殿

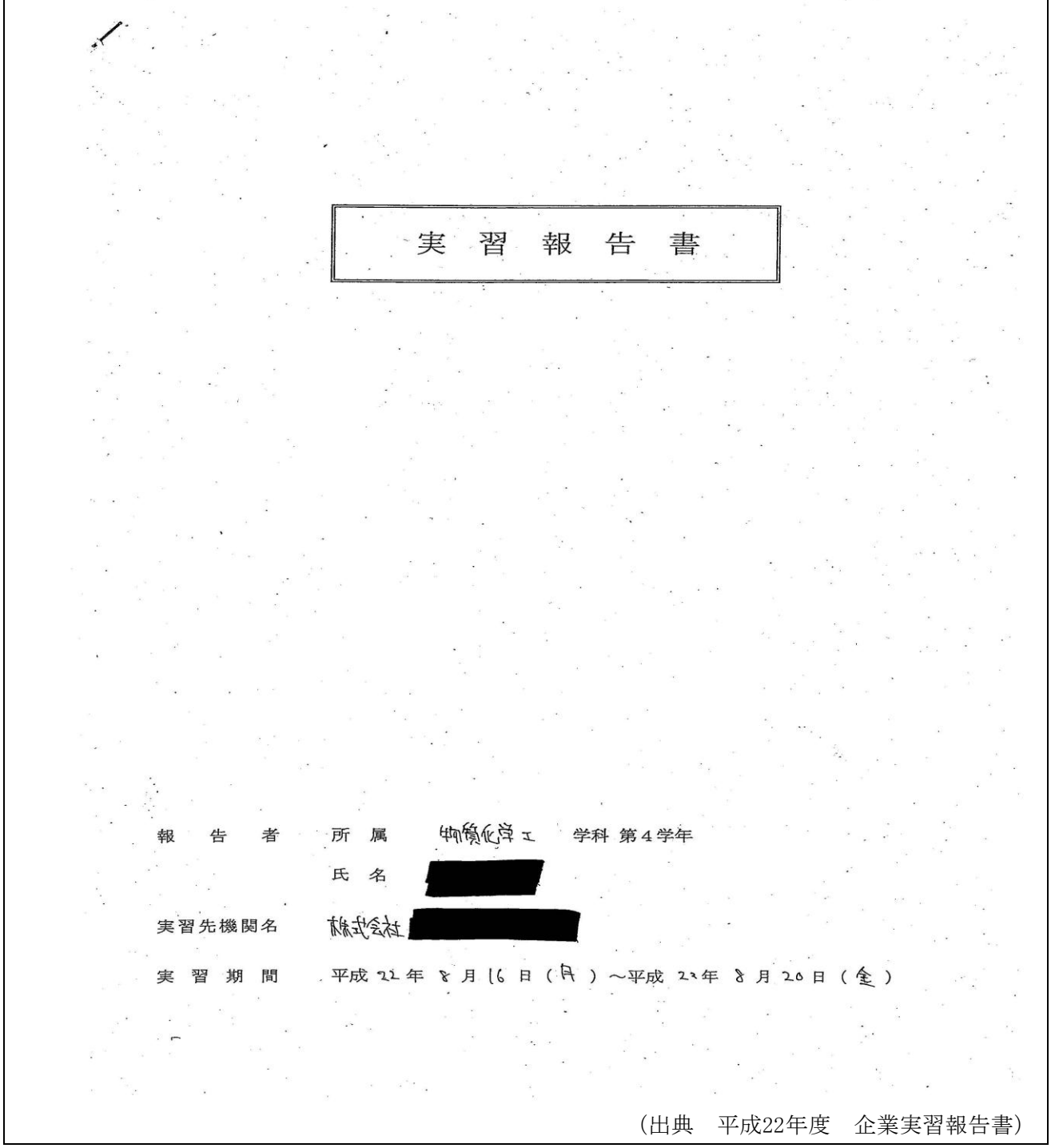
機関名 [redacted]

責任者氏名 [redacted]

学生氏名	旭川工業高等専門学校　学科 第４学年 氏名 [redacted]				
実習先	[redacted] 発泡樹脂課				
実習期間	平成22年 8月23日（月）～平成22年 9月 3日（金）				
実習状況	出勤	欠勤	遅刻	早退	
	10 日	0 日	0 日	0 日	
実習テーマ	原料切替に伴うカネパールレギュレードの物性評価				
実習成績評定	５優れている	４良好	３普通	２やや劣る	１劣る
実習の取組み姿勢	5	④	3	2	1
理解力	5	④	3	2	1
内容のまとめ方	5	4	③	2	1
協調性	⑤	4	3	2	1
総合所見	あいさつ、および工場内でのルール遵守については10日間しっかりと守られており、安心して実習をさせる事ができた。準備、作業、後片付けに検査担当者と共に積極的に取り組み、不明な点は都度質問する等、組織の中で十分やっていける協調性を備えている。 説明に対する理解力はあるので、まとめ方については数をこなす事で上達が十分に見込まれると考える。				

（出典　平成22年度　企業実習参加学生の会社からの証明書）

「インターンシップ報告書」　　資料５－２－③－７



実　習　報　告　書

報　告　者　　所　属　物質化学工　学科 第４学年

氏　名　[redacted]

実習先機関名　株式会社[redacted]

実　習　期　間　　平成 22 年 8 月 16 日（月）～平成 22 年 8 月 20 日（金）

（出典　平成22年度　企業実習報告書）

（分析結果とその根拠理由）

本校においては，「機械創造実習」，「創造プログラミング実習」，「無機分析実験」，「卒業研究」等において，創造性を育む教育が展開され実施されている。また，半数以上の学生が参加するインターンシップにおいて，実習報告書等の作成を通して企業や会社について考えさせ，創造性や実践生を育む教育を行っている。

以上のことから，創造性を育む教育方法の工夫やインターンシップの活用が図られている。

観点５－３－①：　教育課程の編成において，一般教育の充実や特別活動の実施等，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また，教育の目的に照らして，課外活動等において，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。

（観点に係る状況）

本校では，教育理念である「将来性のある人間性豊かな実践的研究開発型技術者」を養成するために，教育課程の編成においては，環境・倫理・安全教育を含む科目を配置して一般教育を行っている（資料５－３－①－１～４）。また，第１～３学年は授業時間割に「特別活動(HR)」を週１時間設定し，年間指導計画の下で，学校の教育方針の指導・徹底，学校行事の趣旨の理解，環境美化意識の向上等により，豊かな人間性の涵養を図っている（資料５－３－①－２及び５～７）。さらに，毎朝８時 30 分から８時 40 分までのショートホームルームが実施され，学生と学級担任との良好なコミュニケーションの構築及び学級運営の円滑化に寄与している。ほかに，外部講師による講演会，合宿研修，校外清掃等，種々の特別活動を通して，豊かな人間性の涵養を図っている（資料５－３－①－８及び５～14）。

学生の厚生補導は，学生に対する「学生生活のしおり」と「申し合わせ」に従い行われている（資料５－３－①－15，16）。学生主事の下，学生主事補は学生会活動，校内・校外指導，学生会会計の主担当となり，各学科・科及び学級担任と連携をとりながら適切な指導を行っている（資料５－３－①－17）。約半数の学生が，文化系や運動系のクラブ活動及び同好会活動に参加し,その活動を通して責任感・自主性・指導性・協調性を育んでいる。すべてのクラブ団体に顧問教員を配置し,指導・助言を与えている（資料５－３－①－18，19）。また，活動結果はＥメール等により適宜学内に報告されている(資料５－３－①－20，21)。さらに，実践指導が必要なクラブ団体においては，外部コーチ等を依頼・配置し，クラブ活動に対する円滑かつ効率的な指導体制を整えている(資料５－３－①－22)。その他の課外活動として，ロボットコンテスト，プログラミングコンテスト等の大会に参加している（資料５－３－①－23）。

「環境･倫理・安全教育に係わる一般教育科目」　　資料５－３－①－１

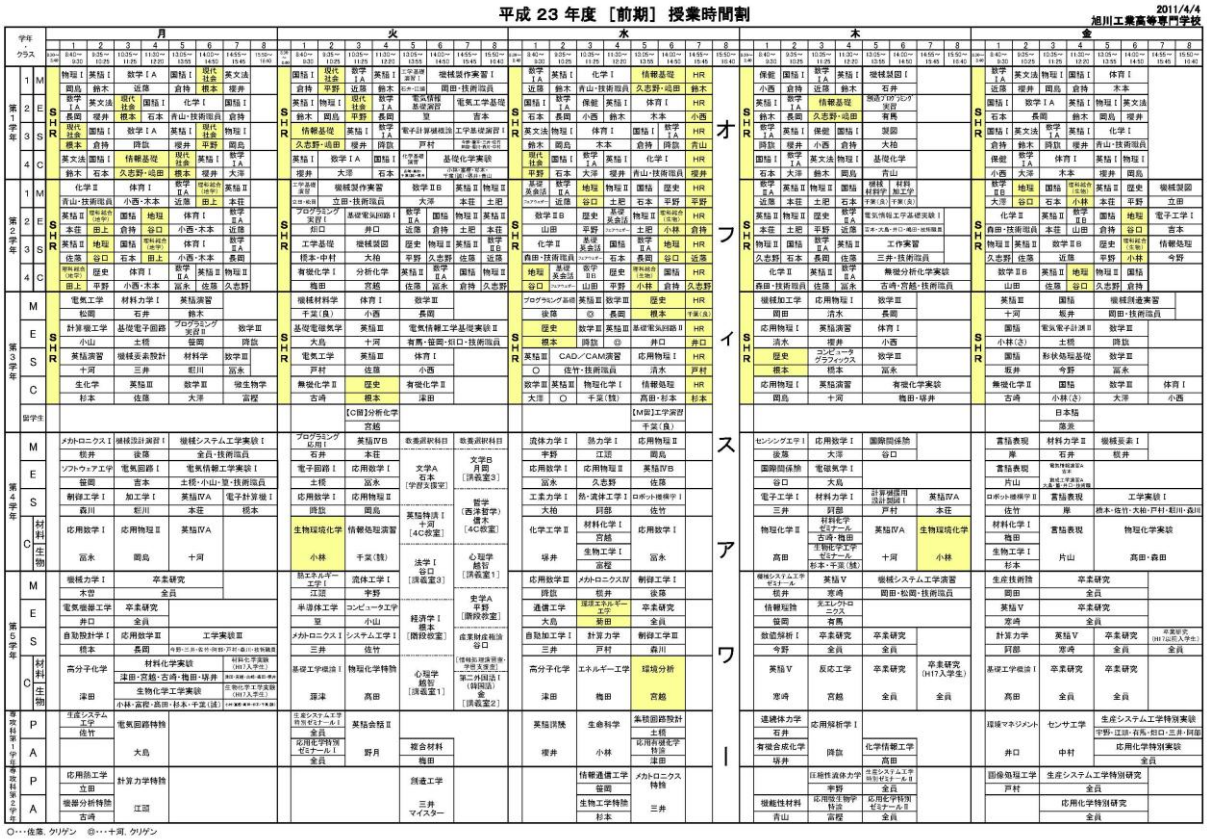
一般教育科目

教育内容	科目名	学科等	
環境教育	社会:【現代社会】	全学科１年	必修
	地理	全学科2年	必修
	理科総合(生物分野):【生物】	全学科2年	必修
	理科総合(地学分野):【地学】	全学科2年	必修
	歴史:【世界史】	全学科3年	必修
	熱エネルギー工学Ⅱ	機械5年	必修
	環境エネルギー工学	電気5年	選択:【必修】
	生物環境科学	化学3年	必修
	環境分析	化学5年	選択
倫理教育	社会:【現代社会】	全学科１年	必修
	情報基礎	全学科１年	必修
安全教育	基礎工学概論Ⅱ	化学5年	必修
	応用微生物学	化学5年	選択
	実験･実習における安全教育	全学科	

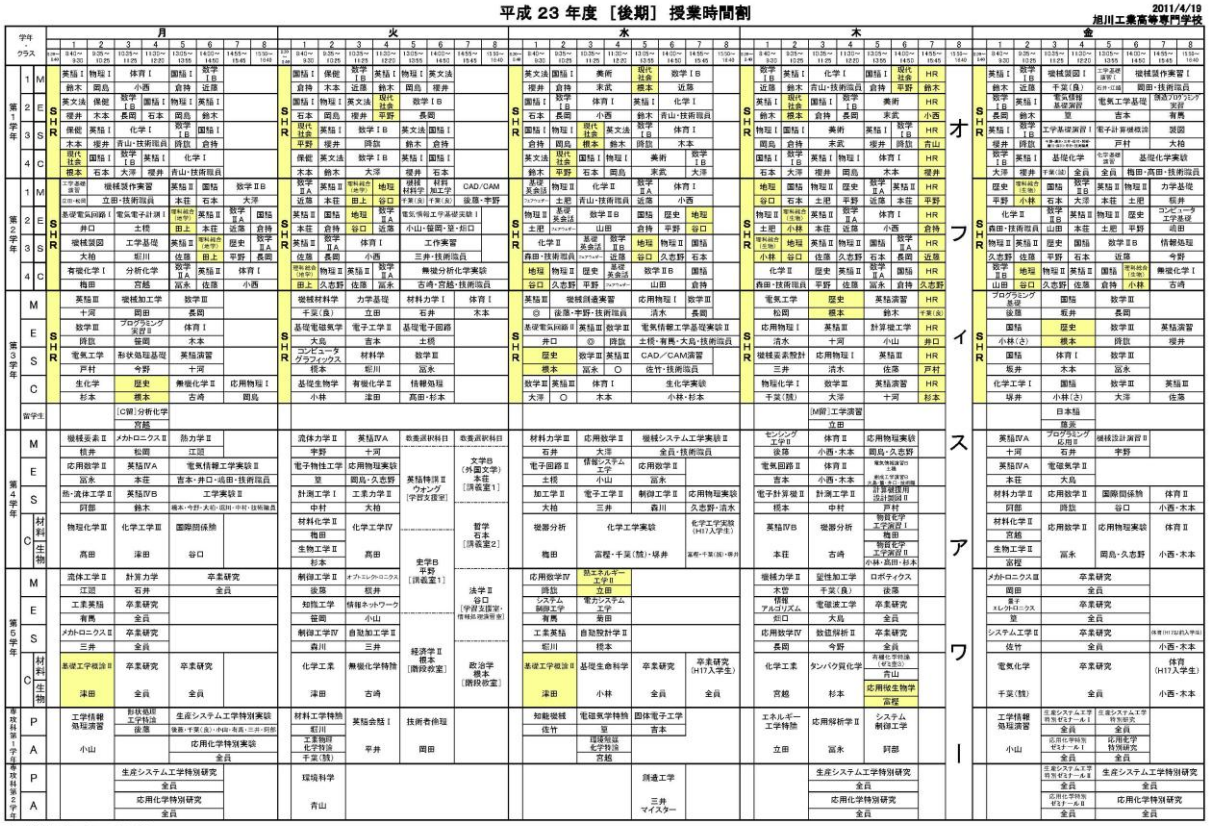
＊【　】内は新カリキュラムから実施

（出典　教務関係資料）

「環境･倫理・安全教育に係わる一般教育科目時間割配置」　　資料５－３－①－２



（出典　平成23年度　授業時間割　前期）



（出典　平成23年度　授業時間割　後期）

資料５－３－①－３

科目名	現代社会		科目コード G11002

学年・学科等名	1 学年	全クラス	必修科目
単位数・開講期	2 単位	通年	
総時間数	60 時間		
担当教員	平野　友彦・根本　聡		

本校の教育目標	1	一般人文科の教育目標	2

JABBE対象外			

教　科　書　名	現代社会(東京書籍)
補　助　教　材	図版、大型地図、CD、DVD、ビデオ、新聞、プリント等
参　　考　　書	

A.　教育目標

戦後史のあらましや現代社会とそこで生活する人間についての基本的な問題を取り扱いながら、諸問題解決に向けての判断力や社会的責任を自覚できる倫理観の基礎を養い、国際社会や地域の中で生活する人間として必要なより善い生き方について自ら考える力を育むことを目標としている。

B.　概要

平野教員と根本教員が分野を分けて授業を担当する。『現代社会』の教科書を中心に授業を進め、現代社会の諸問題、日本社会の特徴、日本と世界との関わりなどについて分かり易く説明するとともに、テレビや新聞、インターネットなどで取り上げられる問題についてもできるだけ紹介する。

C.　学習上の留意点

テレビ、新聞、インターネット等が伝える国内外のニュースをできるだけ見るように心がけ、常に世の中の出来事に関心を持つこと。授業では話をよく聞き、ノートをしっかり取り、分からないところがあれば質問すること。またレポート等の課題についてはよく調べて取り組むこと。

D.　評価方法

試験(90%)、レポート等の課題(10%)

E.　授業内容

①平野担当分･･･週 1 時間、通年 30 時間

授業項目	時間	内　　容
第 2 部　現代の社会と人間 第 1 章　現代の社会生活と青年 1.現代社会の特質と私たちの生活	6	日本現代社会の成り立ちや特質を理解することができる 特に、日本の情報化社会における現状を理解するとともに、知的財産権の保護と活用の問題についても学ぶことができる
(前期中間試験)	1	
第 2 部　現代の社会と人間 2 現代社会と青年の生き方	4	青年期の特質について理解することができる
3.よりよく生きることを求めて ①近代科学の考え方 ②日本人のものの考え方 4.スキル･･･レポートのまとめ方	4	近代科学の考え方について学ぶことができる 日本文化の特性について学ぶことができる わからないことの調べ方や、レポートの書き方を学ぶことができる
(前期末試験)		
第 3 章　日本国憲法と民主政治 1.民主政治とは	3	民主政治のしくみについて理解できる

授業項目	時間	内　　容
2.日本国憲法と基本的人権	4	日本国憲法の成り立ちやその特徴を理解することができる
（後期中間試験）	1	
3.日本の政治のしくみ	4	日本の政治・行政・司法制度のあらましについて理解できる
4.日常生活に関わる最近の法令や制度について	4	最近制定された法律や運用された制度のあらましについて理解できる
（学年末試験）		

②根本担当分･･･週1時間、通年30時間

授業項目	時間	内　　容
テーマ学習１　地球環境問題	2	地球環境問題の現状を理解し、その解決策について考えることができる。
テーマ学習２　資源･エネルギー問題	1	資源と食料問題の現状を理解し、その解決策について考えることができる
テーマ学習３　科学技術と生命	1	バイオテクノロジーを中心とした科学技術の進歩に伴う倫理の問題を理解し、その解決策について考えることができる。
テーマ学習４　宗教･芸術	2	現代世界の紛争や衝突の背景にある文化や習慣について理解し、その解決策について考えることができる。
（前期中間試験）	1	
1. 経済のしくみと日本の経済 （1）経済のしくみ	4	市場経済、金融制度、財政、国際経済のしくみと現状や政府の役割について考えることができる。
（2）日本経済の現状と課題	4	日本経済、労働問題、社会保障、環境問題、食料事情、農業問題、消費者問題などについて理解できる。
（前期末試験）		
2. 福祉と社会保障 （1)社会保障	2	社会保障の役割について理解し、豊かな社会とは何かについて考えることができる。
（2)雇用･労働問題	2	現代の雇用･労働問題について理解することができる。
3. 国際社会と人類の課題 （1)グローバル化	2	グローバル化と国際経済の関係について理解することができる。
（後期中間試験）	1	
（2)ボーダーレス化	2	地域経済統合の進展について理解することができる。
（3)国際社会の成立と戦後の動き	3	国際紛争の解決策を考察することをつうじて、国際連合の現状と課題について理解することができる。
（4)国際社会の課題	3	国際社会の現状と民族問題や人権について考察することをつうじて、日本が果たす役割について理解することができる。
（学年末試験）		

F.　関連科目

歴史、地理、法学、経済学、政治学、史学、哲学、産業財産権論

旭川高専 2011

（出典　平成23年度　物質化学工学科シラバス　P.3-4）

資料５－３－①－４

科目名	基礎工学概論Ⅱ	JABEE科目	科目コード 445

学年・学科等名	5 学年	物質化学工学科	必修科目
単位数・開講期	2 単位	後期	
総時間数	90 時間	講義＋教室内自学自習 60 ＋ 自学自習 30	
担当教員	津田　勝幸		

本校の教育目標	3	物質化学工学科の教育目標	2

JABEE関連	教育プログラム科目区分	205基礎工学科目⑤社会技術系
	教育プログラムの学習・教育目標	A-1(20%) B-3(50%) D-1(20%) D-2(10%)
	JABEE基準	bcd

教科書名	津田担当 A:高分子材料の化学(井上祥平著　丸善) 津田担当 B:使用しない
補助教材	津田担当 B:プリントを配布する
参考書	津田担当 A:高分子の化学(北野博巳ら　三共出版) 津田担当 B:化学安全ノート(日本化学会編, 丸善), これだけ！甲種危険物試験合格大作戦！！(奥吉新平編著, 弘文社)

A.　教育目標

津田担当 A:金属やセラミックス材料とは大きく異なる特徴を持つ高分子材料について, その熱および力学的性質に関する基礎知識を学ぶ。

津田担当 B:化学物質に対する安全の基本, 安全の基礎知識を学び, 安全な実験環境・操作で実験を行う知識と意識を身につける。

B.　概要

津田担当 A:高分子材料の特徴の一つである熱的性質(融点とガラス転移点)について学び, それらと力学的性質(ゴム弾性や粘弾性)の関係について理解する。

津田担当 B:化学安全に関する考え方と既成の安全技術を学ぶ。また, これまでに学んだ知識をいかし, 甲種危険物取扱者資格取得のための知識(科目「物理学および化学」,「危険物の性質並びにその火災予防及び消化の方法」)を習得する。

C.　学習上の留意点

津田担当 A:身の回りで観察される現象を可能な限り例示しながら解説するが, 本校図書館常備のビデオ教材「高分子物性」(全3巻)の閲覧を勧める。

津田担当 B:自分が実験・研究で用いている化学物質の性質・危険性に関心をもって学習すること。ワークショップ形式で授業をすすめることがある。

D.　評価方法

試験(60%), 小テスト・課題・レポート等(40%)

E.　授業内容

授業項目	時間	内　　容	教育プログラム
1A.高分子の熱的性質(A)	8	高分子の融点とガラス転移点について説明できる。	A-1 D-1 D-2
1A.高分子の力学的性質(A) (1)ゴム弾性	5	ゴム弾性の熱力学と分子論について説明できる。	A-1 D-1 D-2
1B. 化学安全	2	安全, 危険とはどのようなことか説明できる。	B-3

授業項目	時間	内　　容	教育プログラム
(1)安全の基本(沼田)			D-1 D-2
1B. 化学安全 (2)化学物質の危険と安全な取り扱い(B)	4	化学物質の危険性評価を説明できる。	B-3 D-1 D-2
1B. 化学安全 (3)化学物質の毒性と予防・救急(B)	3	安全な実験環境および実験装置・操作の安全が理解できる。	B-3 D-1 D-2
1B. 化学安全 (4)廃棄物の安全処理(B)	2	学校における環境問題について理解できる。	B-3 D-1 D-2
1B. 化学安全 (5)ヒヤリハットの作成(B)	2	実際に体験した事象でヒヤリハットの作成をすることで，身近に起こりうる事故や本校における問題点を説明できる。	B-3 D-1 D-2
(後期中間試験)	4		
2A.高分子の力学的性質(A) (2)粘弾性	15	粘弾性について説明できる。	A-1 D-1 D-2
2B. 危険物取扱 (1)危険物取扱者資格と危険物の定義および分類(B)	2	甲種危険物取扱者の役割がわかる。危険物の定義がわかる。危険物の法別表における分類がわかる。	B-3 D-1 D-2
2B. 危険物取扱 (2)基礎的な物理学および基礎的な化学(B)	2	基礎的な物理学および基礎的な化学の問題が解ける。	B-3 D-1 D-2
2B. 危険物取扱 (3)燃焼及び消火(B)	3	燃焼及び消火に関する基礎的な理論がわかる。これらに関する問題が解ける。	B-3 D-1 D-2
2B. 危険物取扱 (4)危険物の性質ならびに，その火災予防および消火方法(B)	8	危険物の性質・火災予防・消火方法がわかる。これらに関する問題が解ける。	B-3 D-1 D-2
(学年末試験)			
◆自学自習 (1) 予習 (2) 復習 (3) レポート (4) 定期試験の準備	30	自学自習時間として，自宅での予習・復習，レポート作成および定期試験の準備のための時間を総合して 30 時間と考えている。	A-1 B-3 D-1 D-2

F.　関連科目
無機化学I・II，無機分析化学実験，有機化学 I・II，有機化学実験，物理化学 I・II・III，物理化学実験，高分子化学，化学 I・II

旭川高専 2011

（出典　平成23年度　物質化学工学科シラバス　P.153-154）

「授業時間」　　資料５－３－①－５

授　業　時　間

時限	時　　間
	通　常　授　業
SHR	８：３０～　８：４０
1	８：４０～　９：３０
2	９：３５～１０：２５
3	１０：３５～１１：２５
4	１１：３０～１２：２０
5	１３：０５～１３：５５
6	１４：００～１４：５０
7	１４：５５～１５：４５
8	１５：５０～１６：４０

（出典　平成23年度　学生生活のしおり P.40）

「ホームルーム年間指導計画」　　資料５－３－①－６

平成22年度ホームルーム年間指導計画

クラス 1-1　担任 平野友彦

月	学校行事	HR内容	実施チェック(✓)
4	春期休業 入学式 始業式・対面式 健康診断 交通安全講演会 学生総会	○ クラス役員及び日直・掃除当番を編成し，日直・清掃手順を決める。	レ
		○ 学級日誌・掲示板・連絡網について説明する。	レ
		○ 新年度の学習目標・計画について考えさせる。	レ
		○ 学生総会に出席する様指導する。(4/28)	レ
		○ 連休の過ごし方について指導する。	レ
		○ 新入生合宿研修(4/20-21)に関する指導	レ
5	校内体育大会 薬物防止講演会	○ 体育大会の趣旨を説明し，出場者エントリー等について助言する。	レ
		○ 前期中間試験に向けての準備の仕方について助言する。	レ
		○ 校内清掃を行う。	レ
		○ 体育大会の反省，高専生活の再確認	レ
6	前期中間試験	○ 試験の受け方についての諸注意を行う。	レ
		○ 試験終了後に，今後の学習について考えさせる。(アンケート実施)	レ
		○ 次年度宿泊研修について，席替え	レ
7	高専体育大会壮行会 道内高専体育大会 夏期休業	○ 夏期休業中の過ごし方と課題提出について指導する。	レ
		○ テーマに沿った講演会又は討論会を行う。	レ
		○ 専体連地区大会への対応，校内清掃(7/14)	レ
8	全国高専体育大会		
9	前期末試験	○ 前期末試験に向けての準備の仕方について助言する。	レ
		○ 特別指導期間の説明を行う。	レ
		○ 夏休みの過ごし方に関するアンケート，前期末試験の反省 (席替え 後期役員決め)	レ
10	高専祭 保護者懇談会	○ 前期末成績確定後に，今後の学習について考えさせる。	レ
		○ 高専祭の役割分担，準備・計画等を行う。	レ
		○ 保護者懇談会の説明を行う。	レ
		○ 高専祭の反省，高専卒業生の進路について	レ
11	学生会役員選挙	○ 後期中間試験に向けての学習のあり方について助言する。	レ
		○ テーマに沿った講演会又は討論会を行う。(今年のIOTニュースについてグループ討論)	レ
		○ DVD(プロジェクトX)鑑賞	レ
12	後期中間試験 冬期休業	○ 試験終了後に，今後の学習について考えさせる。	レ
		○ 冬期休業中の過ごし方と課題提出の厳守について指導する。	レ
		○ 学科別5年生進路状況説明会(12/9)，席替え	レ
1	学生総会	○ 学年末試験に向けての学習のあり方について助言する。	レ
		○ 学生総会に出席する様指導する。	レ
		○冬休みの過ごし方に関するアンケート	レ
2	学年末試験	○ 学年末休業中の過ごし方と，課題提出の厳守について指導する。	レ
		○ 達成度評価アンケートを行う。	レ
		○	
3	学年末休業 卒業式	○ 春季休業中の過ごし方と次学年について指導する。	レ
		○ 特別指導期間における対応	レ

※○印の後ろの空欄には学年毎の行事，進路支援委員会関係行事，担任毎に行った事など適宜記載してください。
※ＬＨＲで実施された内容に対して，右側にチェックマーク（✓）を書いてください。

（出典　平成22年度　ホームルーム年間指導計画・実施結果）

「ホームルーム日誌」　　資料５－３－①－７

平成 22年 4月 14日 水曜日 天候 雪	日直	[redacted]		
SHORT HOME ROOM(連絡・注意等) 明日健康診断	掃除	2 班		
	欠席	病欠	特欠	忌引など

時限	科目名	内容	欠課	遅刻・早退
1	数学IA	方程式と不等式		
2	保健	オリエンテーション		
3	情報基礎	オリエンテーション		
4	〃	パソコンの使い方		
5	英語I	オリエンテーション		
6	社会	オリエンテーション		
7	H-R	係決め		
8	オフィスアワー			

(記事)今日の出来事、感想、意見、クラスの人、先生、学校への要望等

まだ授業になれないので。
早くなれたいです。ガンバリましょう。

担任所見

今日は一日荒れた天気でした。春らしくなってきたと思ったのにね。
オリエンテーションも明日には終わると思います。これから本格的な授業になると思いますのでがんばりましょう。

(日直の主な仕事)
1. 朝、日誌を受け取り、その日の授業内容等必要事項を記載する。
2. 毎時間授業終了後に黒板を消す。
3. 黒板消しをクリーニングする。
4. 放課後、日誌を担任に渡す。など

○欠席者、遅刻者等は名前を書いて下さい。

（出典　平成22年度　ホームルーム日誌抜粋）

「豊かな人間性涵養のための教育活動」　資料５－３－①－８

豊かな人間性の涵養のための活動等の一覧

活動の名称等	関係委員会等
始業式（4月）	教務委員会
対面式（4月）	学生委員会・学生会
新入生オリエンテーション（4月）	教務委員会
駐輪指導（4月―9月）	学生委員会
新入生合同合宿研修（4月）	学生委員会・学生会
学生総会（4月）	学生委員会・学生会
交通安全講演会（4月）	学生委員会
授業参観日（4月）	教務委員会
校内体育大会（5月）	学生委員会・学生会
薬物防止講演会（5月）	学生委員会
校外清掃（5月から9月）	学生委員会
2年生宿泊研修（6月）	教務委員会
4年生企業実習説明会（7月）	教務委員会
体育大会壮行会（7月）	学生委員会・学生会
2年生思春期講演会（7月）	学生委員会
3年生ものづくり企業見学ツアー参加（8月）	教務委員会
防火訓練（10月）	施設・防災委員会
高専祭（10月）	学生委員会・学生会
保護者懇談会（10月）	教務委員会
4年生生見学旅行（10月）	教務委員会
立ち会い演説会・学生会役員選挙（12月）	学生委員会・学生会
クラブリーダー研修会（1月）	学生委員会・学生会
学生総会（1月）	学生委員会・学生会
ボランティア活動（献血・フラワーロード事業・除雪手伝）	学生委員会
高体連・高野連等への参加	学生委員会

（出典　教務関係資料）

「豊かな人間性涵養に係わる外部講師による講演会」　　資料５－３－①－９

外部講師による講演会

年度	交通安全講演会（1-3年）	交通安全講演会（4・5年）	薬物防止講演会（1-5年）	思春期講演会（2年）
18	4/27 旭川警察署 交通第一課企画係長 [redacted]		5/29 旭川市中央警察署 生活安全課生活安全第一係 [redacted]	7/19 セントラルウイミンズクリニック [redacted]
19	4/25 旭川警察署 交通第一課企画係長 [redacted]	5/9 北海道クミアイ自動車学校 [redacted]	5/30 旭川市中央警察署 生活安全課生活安全第一係 [redacted]	7/25 旭川市保健所 健康推進課保健予防係 [redacted]
20	4/23 旭川警察署 交通第一課企画係長 [redacted]	4/30 北海道クミアイ自動車学校 [redacted]	6/16 旭川市中央警察署 生活安全課生活安全第一係 [redacted]	7/24 旭川市保健所 健康推進課保健予防係 [redacted]
21	4/24 旭川警察署 交通第一課企画係長 [redacted]	4/30 北海道クミアイ自動車学校 [redacted]	6/16 旭川市中央警察署 生活安全課少年係 [redacted] [redacted] [redacted]	7/23 旭川市保健所 健康推進課保健予防係 [redacted]
22	4/26 旭川警察署 交通第一課企画係長 [redacted]	4/26 北海道クミアイ自動車学校 [redacted]	6/16 旭川市中央警察署 生活安全課少年係 [redacted]	7/21 旭川市保健所 健康推進課保健予防係 [redacted]
	※ 自転車乗車のマナー・注意事項	※ 自動車乗車のマナー・注意事項	※ 薬物及び窃盗防止について（1～3年） ※ 薬物による人体への影響・社会的制裁について（4・5年）	※ 性に関する思春期教育

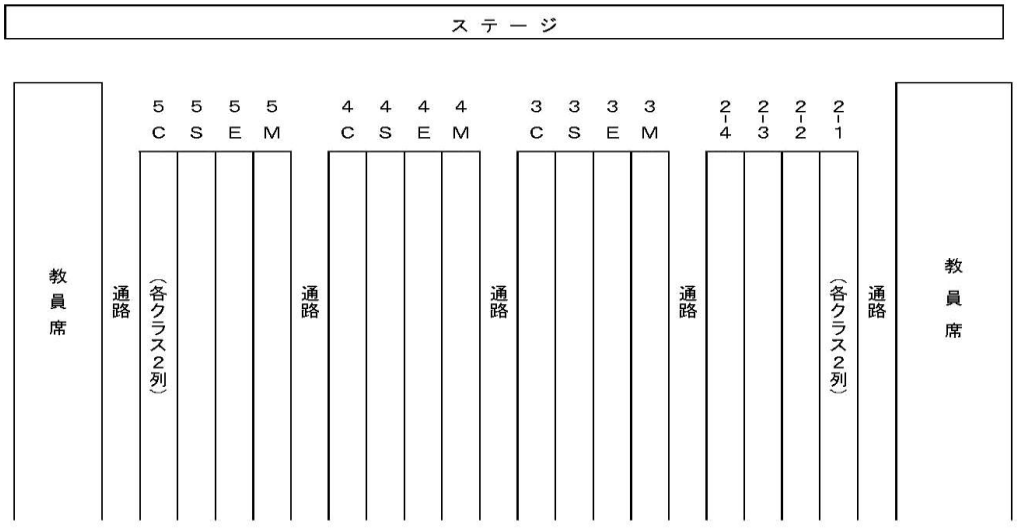
（出典　学生委員会資料）

「平成23年度始業式実施案内」　　資料５－３－①－10

平成23年度始業式実施要領

日　　時	平成23年４月７日(木)　９：10～10：15	
場　　所	第２体育館	
次　　第	校長講話	(10分)
	教務主事講話	(15分)
	学生主事講話	(15分)
	寮務主事講話	(10分)
	新任教員紹介 新任カウンセラー紹介 外国人留学生紹介 学生表彰	(15分)
進　　行	学生課長 学生主事（学生表彰）	
そ の 他	①学級担任（第１学年を除く）は，ホームルーム（８：30～８：40）の後，学生に椅子を持たせて第２体育館へ誘導し，下図のとおり縦２列で着席させ，整列及び態度について指導する。 ②ＨＲ教室出発時刻（校内放送で案内する） ２年　８：40，３年～５年は順次案内	

《第２体育館》



（出典　平成23年度　始業式の実施案内）

「平成23年度新入生合同合宿研修　実施要項」　　資料５－３－①－11

平成２３年度新入生合宿研修概要

●期日　平成２３年４月１９日（火）ー２０日（水）

●場所　北海道立青年の家　ゆーすくる おとえ
　　深川市音江町２丁目７番１号

●日程
・１日目（４月１９日）
　８：３０　学校集合、出発
　９：４０　北海道立青年の家　到着
　　入所式、引率団講話，施設オリエンテーション、
　　学生会オリエンテーション、卒業生講話（C堺井先生、専攻科荒井航）
　１２：１０　昼食
　１３：２０　校歌練習
　１３：４０　スポーツ活動（ミニバレー、玉入れ、綱引き）
　１７：４０　夕食
　１８：４５　講演会（C古崎先生による南極に関する内容）
　２０：００ー２１：４５　入浴時間
　２２：３０　就寝
・２日目（４月２１日）
　６：３０　起床、清掃、片付け
　７：３０　体操
　７：４５　朝食、荷物移動、清掃・確認、朝会（連絡）
　９：００　創作活動（竹トンボ作り）
　　学科別交流（学生会に依頼）（依頼中）
　　※２クラスずつ交代で行う。
　１２：００　昼食
　１３：２０　退所式（スポーツ活動表彰含）
　１３：５０　北海道立青年の家　出発
　１４：４０　学校到着、解散

●引率者

団長	学生主事	石本　裕之
研修リーダー	学生主事補	佐竹　利文
スポーツ担当	体育教員	木本　理可
学級担任	（１－１）	鈴木　智己
	（１－２）	小西　卓哉
	（１－３）	青山　陽子
	（１－４）	櫻井　靖子
学生係職員		廣岡　裕介

※上級生が８名（各学科２名ずつ）同行する。（依頼中）

（出典　学生委員会資料）

「近隣の清掃活動」　　資料５－３－①－12

平成 22 年 4 月 2 日

担任各位

学生主事

学生による構内・構外（春光台地区）清掃について

本年度も昨年度に同様、地域住民に対する「思いやり」および「奉仕」の精神を育むために、学生による構内・構外の清掃（紙くず、空き缶などの塵埃の除去）を下記により実施します。下記期間内で割り当ての構内・構外区域の清掃を行ってください。構内・構外を同時または分けて行うなどは各クラスで選択してください。担任の先生はクラス学生の指導を宜しくお願い致します。

記

１．清掃範囲および分担

別紙のとおり

２．清掃期間

・各クラスは下記の期間内で適宜行ってください。

5 年生	4/19 日（月）～ 5/14 日（金）
3･4 年生	5/17 日（月）～ 7/9 日（金）
1･2 年生	7/12 日（月）～ 10/22 日（金）

清掃期間は目安とし期間内に実施できない場合は、適宜実施願います。

３．ゴミ袋、用具等

・学生係に用意してあります。
・実施後は、必ず確認表にクラス名を記入してください。

４．ゴミの処理

・ゴミは指定の分別方法に従って分別して回収してください。
・回収したゴミは、第１体育館前のゴミ・ステーションにゴミをおさめてください。

以　上

（出典　学生委員会資料）

「平成22年度２年生宿泊研修実施要項」　　資料５－３－①－13

第3回教務委員会	
H22. 5. 31	資料2

平成 22 年度宿泊研修実施要項（案）

研修目的　北海道の豊かな自然と文化に触れ知識と見聞を深める。また，集団旅行によってお互いの健康や安全に気を配り，思い遣りの心を育む。更に団体生活を通し，学生同士や学生と教師との結びつきを深め，楽しい学生生活の思い出をつくる。

研修期日　平成２２年６月２４日（木）～２５日（金）

研 修 先　北海道開拓の村，札幌市青少年科学館，サンピアザ水族館，札幌ドーム，アサヒビール工場，コカコーラボトリング，北海道グリーンランド

宿 泊 地　ルネッサンスサッポロホテル（札幌市豊平区豊平４条１丁目１の１）

研修対象　第２学年　学生全員

実施要領　クラスごとにバスに分乗，１泊し上記研修先を見学
（別紙行程表参照）

研修費用　個人負担

引率教員　第２学年各クラス学級担任及び副担任　計８名

平成２２年度　宿泊研修行程表

研修期間：平成２２年６月２４日（木）～６月２５日（金）
参加人員：学生１８６名（男１６２名、女２４名）、教員８名（男４名、女４名）　計１９４名

行　　程

期 日	スケジュール	宿泊地	食　事	
6/24 （木）	8:40　10:40　12:20　12:30 学校発 － 北海道開拓の村 － 札幌市青少年科学館 － （昼食） 14:15　15:00　16:40　17:00 サンピアザ水族館 － 札幌ドーム － ホテル着（札幌）	札幌		
			昼	北海道開拓の村
			夜	ホテル
6/25 （金）	9:00　9:30　11:00　11:20　12:45 ホテル発 － ※工場見学 － ラマダホテル － （昼食） 13:45　15:30　17:00 北海道グリーンランド － 学校着	－	朝	ホテル
			昼	ラマダホテル

○行程中，数回の休憩あり。
※工場見学は２クラスに分けて行う。
①アサヒビール工場　　９：３０ ～ １０：４５
②コカコーラボトリング　９：４０ ～ １０：５０

（出典　平成22年度　第３回教務委員会資料）

「平成22年度宿泊研修実施結果」　　資料５－３－①－14

第8回教務委員会	
H22.11.30	資料8

平成２２年度　第２学年宿泊研修小委員会

日時：平成 22 年７月 13 日(火)、１１：３０～１２：２０
場所：ミーティングルーム(専攻科棟１階)

出席者：本荘、石垣、大澤、岡島、青山、櫻井、谷口
欠席者：山田（敬称略）
議題：宿泊研修の反省

２年宿泊研修の反省

① 実施日について

今年度の実施日は、６月２４日～２５日であったが、夏至前後の北海道は、気候も良いため、今後も同様の日程であれば、少ない時間を有効に利用できると思われる。

② 学生への事前指導

前期中間試験（最終日翌日の英語テスト日程も含む）終了から、宿泊研修実施日までが７日間ほどしかなかったため、英語テストの関係で LHR の時間が無くなったこともあり、中間試験の反省を、研修に出かける前に行うことができなかった。また、研修の事前指導を行うに当たっても、中間試験直前であったため、十分な時間を確保できなかった。

理想としては、前期中間試験終了日から研修実施日まで、２週間ほどの時間があるほうが良い。そのような日程にすることで、中間試験の反省と研修の事前指導を行うための最低のＬＨＲ時間（２時間）を確保することが必要である。次年度以降は、この点を十分に考慮して、研修日程を決めていただきたい。

③ 学生への事後指導

研修終了後、２年生全員に対してアンケート調査等も実施でき、学生に十分な反省時間を与えることができたと判断している。

④研修の行程について

・　研修の行程としては、昨年３月に卒業した学年の行程を参考にした。これまでに何度か実施している洞爺での宿泊は、長時間バスに乗車することに対して、学生から不満がでていたので、その不満解消と、体力的に心配な学生に配慮して行程を決めた。
・　このような形式の宿泊研修が始まって以来、初めての試みとして、札幌市近郊の工場見学を実施し、かつ、宿泊先を札幌市内としたので、短時間ではあるが、札幌駅周辺におけるグループ単位での自主研修を認めた。
・工場見学と札幌駅周辺における自主研修は、概ね好評であった。

④研修全般について

・　バスガイドの説明を、大部分の学生が聞いていない。（最近の学生の傾向である）
・　宿泊日の夜半に、サッカーワールドカップ大会で日本が出場する試合があり、徹夜してテレビを見ていた学生や、早々と就寝し、試合開始時間に起床して、そのまま朝まで起きていた学生もいた。
・　とても施設の良いホテルで、ワールドカップのテレビ観戦をしながら、友人たちと過ごせたことについては、概ね好評だったようである。
・　ホテルに大浴場が無かったことを、残念に思った学生がかなりいた。（大浴場のあるホテルを予約するには、次年度の日程を、今年度中に決めてホテルを予約する必要がある）
・　札幌近郊の研修旅行となったため、実家が札幌周辺の学生たちの中には、物足りなさを感じている者もいた。
・　２日目の札幌市内ラマダホテルにおけるバイキング形式の昼食は、学生たちに大好評であった。

（出典　平成22年度　第８回教務委員会資料）

「学生生活のしおり　抜粋（学生生活について）」　　資料５－３－①－15

Ⅱ　学生生活

1　基本的生活習慣

(1)　礼儀は人間関係の基本です。お互いに敬愛の情をもって常に言葉づかい，態度に気をつけ，会釈を交すように心がけましょう。
　また，来訪者に対しても失礼がないよう礼儀正しく会釈しましょう。
(2)　校内（登下校時を含む）における服装は，華美なものをつつしみ，かつ，学校生活に適したものを着用するように心がけましょう。
(3)　校舎内では，床を傷つけたり，騒音をたてる履物は履かないようにしましょう。
(4)　体育館，実験室等，土足厳禁箇所は運動靴などを使用するとともに体育，実験，実習等における服装は，それぞれ定められたものを着用しましょう。
(5)　式典，行事，見学等の場合は，その場にふさわしい服装を着用しましょう。
(6)　校内では，サンダル，スリッパ類を避け行動性のある靴を使用しましょう。
(7)　頭髪は，特異な髪型・着色は避けましょう。
(8)　男女交際については，修学の身であることをわきまえ良識ある行動をとりましょう。

学生番号って？

みなさんが入学する時もらう番号は，卒業まで変わりません。
この番号は，６けたで，左から以下のようになっています。



入学年度…２けた（平成23年度入学は11）
所属学科…２けた（入学学科・専攻によって）
　機械システム工学科…11
　電気情報工学科…21
　システム制御情報工学科…30
　物質化学工学科…41
　生産システム工学専攻…80
　応用化学専攻…90
固有番号…２けた（入学クラスの出席番号）

11 11 01

2　通　　学

(1)　自転車による通学
　自転車通学をする場合には，学級担任から自転車登録シールをもらい，自転車の後ろの見やすい場所に貼り付けてください。

－8－

なお，構内に自転車を置くときは通学生・寮生ごと，学年ごとに定められた自転車置場に整頓して置くとともに必ず施錠するようにしましょう。錠は本来備えつけの錠に加えてU字型など頑丈なものをつけ，さらに，自転車防犯登録をしましょう。また，自転車通学が許可される期間については学校の指示に従ってください。

(2) 列車やバスによる通学

列車やバスを利用して通学する学生は，車内におけるエチケットを守り，先を争って乗車したり，大声で話して他の乗客に迷惑をかけたりすることのないように心がけましょう。

(3) 車・バイクによる通学

本科学生の車両通学は禁止しています。

(4) 交通安全について

交通規則を守りましょう。違反すると，道路交通法の適用を受けることにもなります。

①歩行者は歩道を歩き，歩道のない道路は右側を歩くこと。

②自転車は車道が原則で左側を通行すること。歩道は歩行者優先なので，歩行者に注意して歩道の車道よりを徐行すること。

③交差点などで車道を横断するときは，一時停止と左右の安全を確認すること。

④自転車の２人乗り・並進は禁止です。

⑤夜間の自転車走行では，必ずライトを点灯すること。

なお，交通安全に関する講演会を４月に１～３年生，４・５年生に分けて行っています。

3　学生生活の決まり

本校の学生は，入学時に必ず学則及び諸規則を守ることを約束することにより，入学を許可されています。守るべき基本的な事項を以下に挙げておきます。（原則として全学生に適用されます。）

(1) 「窃盗，万引きなど」及び「暴力行為」は，原則として「退学処分」となります。いじめ行為，電話・メールによる嫌がらせ行為，インターネットによる誹謗中傷行為等に対しても，精神的暴力として学校は厳しく対応しています。

(2) 「飲酒・喫煙」は，たとえ20才になっても，本科学生は校内（登下校時を含む）・寮内及び学校周辺では禁止されています。違反し

た場合は，学生主事説諭，訓告，場合によっては停学などの厳しい処分を受けることにもなります。（寮生については寮務主事説諭，退寮措置もあります。）

(3) 「試験中の不正行為」は，「7日間の停学」となり，当該期間中の全科目が0点となります。

(4) 本科学生の「車両通学」は，禁止しています。休日・長期休暇中も同じです。また，友人の送り迎えも認めていません。同乗者も指導としては同じ扱いになります。

(5) 「交通違反」は，軽度の反則行為・速度違反は，原則として学生主事説諭（速度違反は保護者召喚）となります。なお，自己申告の場合は，処分が軽減されることもあります。無免許運転及び支援行為は7日間の停学となります。

それぞれ再度の違反あるいはその他の違反については，その都度審議されます。

(6) 公共物を破損した場合は，その内容によって弁済を含む厳しい指導を受けることがあります。

(7) パチンコ店等年齢制限があり禁止されている場所に立ち入った場合は，学校でも厳しく指導されます。（高学年の場合も同様です。）

(8) 通学生が寮内に立ち入ることは禁止しています。

(9) 校舎内での携帯電話等の充電は盗電となりますので禁止します。

(10) クラブ活動は，19時まで，最終下校時間は20時です。

(11) 停学以上の処分をうけた学生は，処分申し渡しの同日から3ケ月間一切の対外活動への参加を禁止します。

（出典　平成23年度　学生生活のしおり　P.8-10）

「学生指導に関する申し合わせ」　　資料５－３－①－16

平成２３年度

Ⅰ　学生生活指導に関する申し合わせ事項

Ⅱ　課外指導に関する申し合わせ事項

Ⅲ　課外指導に伴う経費に関する申し合わせ事項

註：「平成２２年度版」からの変更分は無し
「平成２１年度版」からの変更分はゴシック体・太字で表示

旭川工業高等専門学校
学生委員会

目　　次

頁

Ⅰ　学生生活指導に関する申し合わせ事項

１．基本的な指導方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １
２．学生生活心得 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２
　Ａ　校内生活
　Ｂ　校外生活
３．表彰および懲戒処分に関する申し合わせ・・・・・・・・・・・・・・・ ３
　Ａ　学生の表彰について
　Ｂ　処分を伴う学生指導に関する申し合わせ・・・・・・・・・・・・・ ６
４．特別欠席について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８

Ⅱ　課外指導に関する申し合わせ事項・・・・・・・・・・・・・・・・・ １０

（１）「課外指導」の対象
（２）課外活動の教育的意義
（３）クラブ顧問の役割について
（４）クラブ顧問依頼に関する申し合わせについて
（５）試験期間の活動について
（６）合宿指導
（７）高専祭のパート顧問について

Ⅲ　課外指導に伴う経費に関する申し合わせ事項・・・・・・・・・・・・ １２

（１）課外指導等の種類
（２）指導手続き
（３）　指導手当（課外活動，Ｈ・Ｒ学生指導を含む）
（４）交通費
（５）支給手続き
（６）クラブ顧問に対する物品の貸与について
（７）その他

【別記１】クラブ顧問依頼に関する申し合わせ（平成１９年度版）・・・・・・１３
【別記２】合宿心得 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
【別記３】学生指導(生活指導,課外指導)における指導手続等について・・・・１５

（出典　平成23年度　学生生活指導に関する申し合わせ事項）

「学生生活のしおり　抜粋（課外活動について）」　　資料５－３－①－17

Ⅲ　課外活動

１　学生会活動

学生が正課以外の時間を積極的に活用し，課外活動を通じて心身ともに自らを鍛えることは，人間形成の面からきわめて大切なことです。本校には，学生全員（専攻科学生は除く）を会員として構成される「学生会」が設けられています。学生会の目的は「本校の教育方針に基づき学生の健全な自主活動を図り，よき公民としての資質を向上させること」であり，学校の助言・指導を受けて各種の学生会行事，クラブ活動，同好会活動などを運営しています。

(1)　学生総会・代議員会・執行委員会

学生会での最高の議決機関は，全学生の参加による学生総会であり，原則として年２回（４月・１月）定期的に開かれます。学生総会では，学生会の活動全体に関わる様々な事柄について審議されます。また，学生総会に代わる議決機関として，各クラスの級長・副級長を代議員として構成される代議員会があります。

学生会の代表者は学生会長です。実際の学生会活動を運営する中心となる組織として，学生会副会長（執行委員長）を代表とする執行委員会がおかれています。執行委員会は副会長と執行委員から構成されており，体育大会や高専祭などの学校行事をはじめとする，学生会活動全般にかかわる業務を行います。執行委員は全学生から募集されていますので，希望する人は所定の手続きにより執行委員となることができます。

(2)　学級会

学級会は各学級の学生により構成される組織であり，学生会活動の基盤となるものです。学級会では，以下に示す役員が学生の中から選ばれます。

・級長，副級長（各１名）：学級会を代表する役員であり，学級会の活動全体を統括します。また，代議員として代議員会などの各種委員会の指示を受け，各学級にそれを伝え実行します。

・書記（１名）：学級会に関する記録の作成と，学級間で必要な連絡を行います。

・会計（１名）：学級会での金銭の管理を行います。

上記以外に，各学級で必要な役員を選ぶこともあります。また，上記の役員の他，高専祭実行委員（２名以上），体育大会実行委員（１名以上），選挙管理委員（１・２年の各学級から１名），監査委員（１・２年の各学級から２名）が選ばれ，それぞれの委員会で必要な業務を行います。

(3) クラブ・同好会

学生会には，さまざまなスポーツや文化活動を通じて趣味や教養を養い，相互協力の態度を身につけることを目的とする「クラブ」があります（多くの場合は，ロボット・ラボラトリもクラブと同一に扱われます）。参加するクラブの選択，入部，退部は自由です。

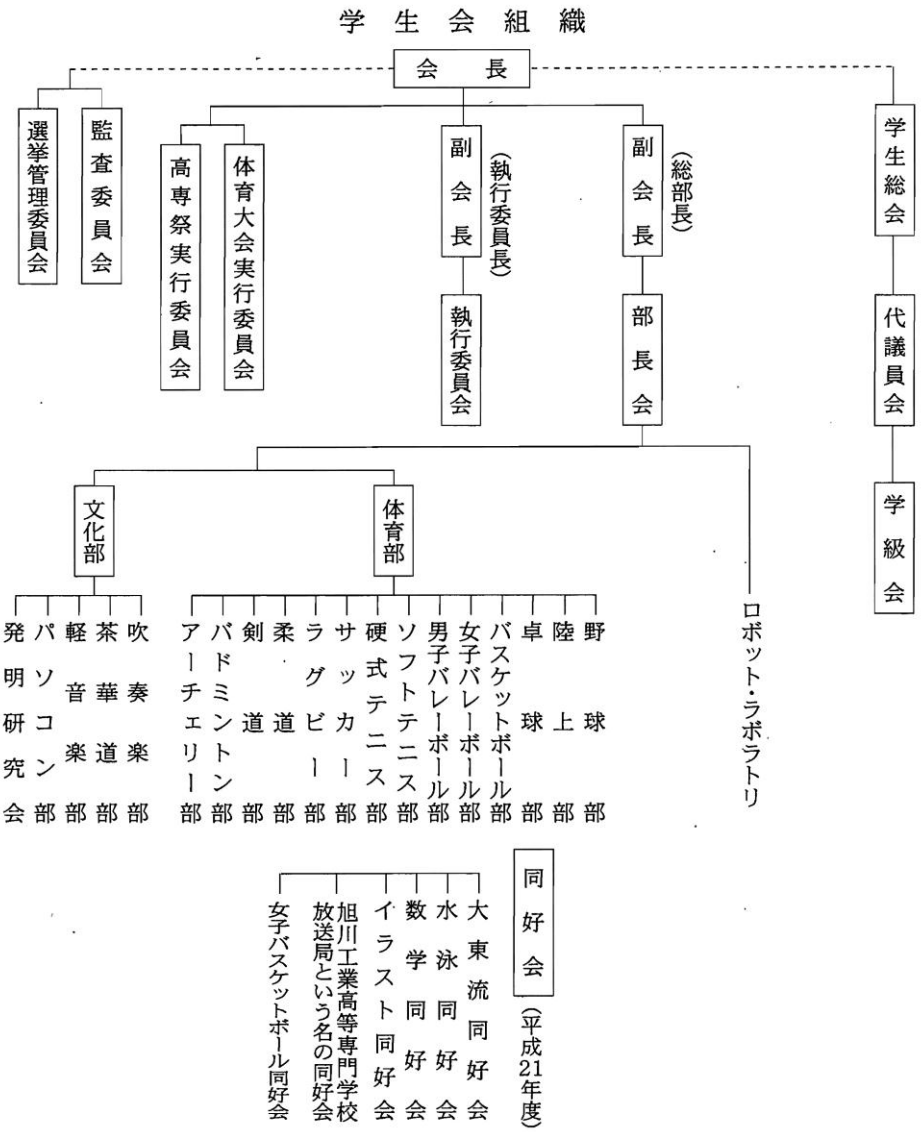
「クラブ」とは，文化部，体育部およびロボット・ラボラトリの総称です。

各部の部長は，学生会副会長（総部長）を代表する部長会に所属しており，部長会では活動場所の割り当てなど部の活動全体に関わることを審議し決定します。

また，学生会に属するものではありませんが，部に準ずる団体として「同好会」があります。同好会は，共通の趣味や関心をもつ学生により構成され，教員の助言を受けて目的とする活動を行います。

（出典　平成23年度　学生生活のしおり　P. 16-17）

「学生会組織とクラブ一覧」　　資料５－３－①－18



－18－

（出典　平成23年度　学生生活のしおり　P. 18）

「クラブ・同好会　顧問一覧」　　資料５－３－①－19

平成２２年度　　クラブ・同好会　顧問教員・部長学生　一覧

2010/5/13現在

No.	部名(五十音順)	顧問教員名 (◎印：チーフ顧問，五十音順)	部長名	クラス	活動場所	結成時学生数
1	アーチェリー部	◎佐竹　堺井		３Ｃ	ｱｰﾁｪﾘｰﾚﾝｼﾞ	17
2	剣道部	◎岡島　久志野		２Ｅ	武道場	6
3	サッカー部	◎小山　青山　石垣　堀川		３Ｅ	ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ・第2体育館	36
4	柔道部	◎宇野　大柏　松岡		３Ｃ	武道場	7
5	ソフトテニス部	◎大島　畑口　吉本		４Ｅ	ｸﾚｲﾃﾆｽｺｰﾄ・体育館	24
6	卓球部	◎高田　梅田　立田		３Ｓ	第2体育館	36
7	テニス部	◎近藤　石井　櫻井　鈴木		４Ｍ	ﾃﾆｽｺｰﾄ	22
8	バスケットボール部	◎杉本　木本　小林　千葉(誠)　津田		４Ｍ	第1体育館	12
9	バドミントン部	◎宮越　木曽　沼田　降旗		４Ｓ	第2体育館	21
10	男子バレーボール部	◎小西　石本		３Ｓ	第1体育館	10
11	女子バレーボール部	◎土橋　十河		５Ｓ	第1体育館	9
12	野球部	◎古崎　富樫　戸村　中村　水野		３Ｓ	野球場	37
13	ラグビー部	◎根本　江頭　本荘　横井		３Ｃ	ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ・体育館	12
14	陸上部	◎井口　篁　山田		３Ｅ	ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ	19
15	軽音楽部	◎橋本　今野		４Ｍ	音楽室(秀峰会館2F)	13
16	茶華道部	◎平野　大澤		３Ｃ	和室(秀峰会館2F)	8
17	吹奏楽部	◎倉持　冨永　長岡		３Ｓ	課外共用施設	41
18	パソコン部	◎有馬　笹岡　森川		４Ｓ	ﾊﾟｿｺﾝ部室(秀峰会館２階)	21
19	発明研究会	◎千葉(良)　谷口		３Ｓ	秀峰会館２階	11

No.	同好会名(五十音順)	顧問教員名 (◎印：チーフ顧問，五十音順)	部長名	クラス	活動場所	結成時学生数
1	旭川工業高等専門学校放送局という名の同好会	◎本荘　降旗		２Ｓ	旧新聞局室	6
2	イラスト同好会	◎畑口		２Ｍ	電子工学実験室Ⅲ	8
3	水泳同好会	◎平野　久志野		１Ｃ	教室等	2
4	数学同好会	◎降旗　長岡		４Ｍ	ﾐｰﾃｨﾝｸﾞﾙｰﾑ2	9
5	大東流同好会	◎大柏		４Ｃ	武道場	6

No.	その他部名	顧問教員名 (◎印：チーフ顧問，五十音順)	部長名	クラス	活動場所	結成時学生数
1	ロボット・ラボラトリー	◎三井　阿部　岡田　後藤		４Ｍ	N13号教室	34

（出典　学生主事補資料）

「休日のクラブ指導報告書例」　　資料５－３－①－20

指導報告書（課外活動）

平成23年1月17日

旭川工業高等専門学校長　殿

部名等　茶華道部
指導教員　平野友彦　㊞

部活動等の指導を下記のとおり実施しましたので報告します。

記

1　指導内容　☑学内での練習　□ロボット製作
□練習試合（対　）□その他（　）
□大会等（演奏会）の引率

2　行事名等　茶道，華道の練習

3　参加人数　8　名

4　指導時間　1月15日（土）曜日　9時00分～12時00分

5　場　所　□グラウンド　□武道場　□旭川総合体育館
□ビニールハウス　☑課外共用施設　□スタルヒン球場
□テニスコート　□N－13　□花咲陸上競技場
□第1体育館　□マシニングセンター　□その他
□第2体育館　□実習工場　（秀峰2F和室）

6　指導教員等　[redacted]先生，平野

7　その他　（参加成績，事故等の有無およびその処置）
怪我，事故等はありませんでした。

学生係処置欄（未記入のこと）

指　導　報　告　書（課外活動）

平成２３年２月１５日

旭川工業高等専門学校長　殿

部名等　　卓球部
指導教員　高田　知哉

部活動等の指導を下記のとおり実施しましたので報告します。

記

1　指導内容　□ 学内での練習　□ ロボット製作
■ 練習試合（対　富良野緑峰高校　）□ その他（　　）
□ 大会等（演奏会）の引率

2　行事名等　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

3　参加人数　＿＿＿＿１２＿＿＿＿　名

4　指導時間　２月１３日（日）曜日　９時００分ー１５時００分

5　場　所　□ グラウンド　□ 武道場　□ 旭川総合体育館
□ ビニールハウス　□ 課外共用施設　□ スタルヒン球場
□ テニスコート　□ N－１３　□ 花咲陸上競技場
□ 第１体育館　□ マシニングセンター　■ その他
□ 第２体育館　□ 実習工場　（富良野緑峰高校）

6　指導教員等　高田知哉

7　そ　の　他　（参加成績，事故等の有無およびその処置）
事故等は特になし。

学生係処置欄（未記入のこと）

（出典　学生関係資料）

「クラブ対外試合報告例」　　資料５－３－①－21

2011年 5月 10日 (火) 8:46 AM

件名: サッカー部　春季大会および市民大会の結果について
送信日時: 2011年 5月 2日 月曜日 9:56 AM
差出人: Noritaka HORIKAWA/ 堀川紀孝 <horikawa@asahikawa-nct.ac.jp>
宛先:<kyokan@asahikawa-nct.ac.jp>, <takahasi@asahikawa-nct.ac.jp>, <g_gakusei@asahikawa-nct.ac.jp>

教員各位：
(CC:学生係)

サッカー部顧問　青山，小山，嶋田，堀川

日頃よりサッカー部の活動にご理解とご協力を頂きましてありがとうございます．
先日行われました１～３年生が参加した春季大会，および４～５年生が参加した
市民大会の結果をお知らせいたします．

◎春季大会（予選リーグ@凌雲高校グラウンド）
4/23 対　旭川北高校　　2－3で敗北
4/24 対　富良野高校　　2－0で勝利
4/29 対　凌雲高校　　0－9で敗北
リーグで１勝２敗となり，決勝トーナメントには進めませんでした．
１年生を加えた今期初の試合で，まだポジションや連携も十分にできあがって
おりません．それでも試合中に修正をしながら少しずつ改善しております．
３戦目の凌雲高校はシード校で旭川市内でも屈指の強豪であった上，このチーム
の正ＧＫが不在であったこともあり，大差をつけられてしまいました．

◎市民大会(4/29@旭川高専グラウンド)
１回戦　対　ジュピター　1－0で勝利
２回戦　対　旭蹴会　　1－2で敗北
５年生が就職や進学のため練習時間が取れないなかでの今季初戦でしたが，
さすがに４年間築いてきた連携で初戦を取りました．２試合目も試合終了１０分前
までは0－0で均衡していましたが元フットサル日本代表に得点され，惜しくも
２回戦敗退となりました．

以上です

堀川　紀孝　　horikawa@asahikawa-nct.ac.jp
旭川工業高等専門学校　システム制御情報工学科　准教授
071-8142 旭川市春光台2条2丁目1-6
TEL/FAX : 0166-55-8025

※制御情報工学科は平成23年度よりシステム制御情報工学科になりました

ページ 1/1

（出典　クラブ顧問対外試合活動報告　学内メール）

「外部講師による課外活動指導」　　資料５－３－①－22

外部コーチによる課外活動指導状況

年度	茶華道部	指導時間（時間）	サッカー部	指導時間（時間）	ラグビー部	指導時間（時間）	剣道部	指導時間（時間）	野球部	指導時間（時間）
18	[redacted]	75 75 75	[redacted]	60	[redacted]	490	[redacted]	6	[redacted]	270
19		66 66 66		86		459				
20		45 44 12 45 4		141		419				
21		52 44 4 44 12		140		377				
22		68 68 11 68		180		476				

（出典　学生関係資料）

資料５－３－①－23

「ロボットコンテスト・プログラミングコンテスト参加状況」

高専ロボットコンテスト参加状況

年度	テーマ	北海道大会結果	全国大会結果
18	ふるさと自慢特急便	優勝・準優勝	－
19	風林火山　ロボット騎馬戦	優勝・準優勝	特別賞
20	ROBO-EVOLUTION 生命大進化	アイデア賞，特別賞	－
21	ダンシングカップル	推薦	－
22	激走！　ロボ力車	優勝・準優勝	ベスト4

高専プログラミングコンテスト参加状況

年度	テーマ	競技部門
18	広がる思い水平線を越えて	特別賞
19	天守閣　めざすアイデア　愛いっぱい	一回戦敗退
20	掘り起こせ！未知なる能力（パワー）	—
21	集まれ手作りの未来たち―海を越え！翔けろ！橋になれ！	—
22	集えプロコン！　IT維新の志士たち	一回戦敗退

（出典　学生関係資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，教育理念に掲げた技術者の育成を図るため，一般教育や特別活動を実施している。第１～３学年に設けられた「特別活動（HR）」は，高等専門学校設置基準に基づき，３年間で３単位（計90時間）実施している。また，毎朝行われる授業前のショートホームルーム，各種委員会の企画による研修，集会，講演会及び行事等を通じて，人間の素養の涵養と人間力の育成に努めている。

さらに，学生委員会や学級担任等が中心となり行っている，学生の生活指導や種々の課外活動及び全教員による各クラブの指導体制等を通じて，人間力の育成に努めている。また，学生が参加する献血やフラワーロード事業等のボランティア活動による地域貢献，ロボットコンテストやプログラミングコンテスト等への参加や活動を通して，人間の素養の涵養を図っている。

以上のことから，特別活動の実施等，教育課程の編成，生活指導面や課外活動等において，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されている。

観点５－４－①：　成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

新入生本人及び保護者に対しては，履修時間・試験・成績評価・単位認定及び進級・卒業認定規程等の教務関係規則（資料５－４－①－１～４）を掲載した「学生生活のしおり」を配布し，入学当初に説明を行っている（資料５－４－①－５）。さらに，学生本人へは機会あるごとに各学級担任から説明を行い（資料５－３－①－６（254 ページに前出）），保護者に対しては保護者懇談会（資料５－４－①－６）や家庭への連絡等を通じて周知徹底を図っている。各科目の具体的な評価方法・学習時間はシラバスに記載され，学生にも周知されている（資料５－４－①－７～９）。

成績評価・単位認定及び進級・卒業認定は，前期末及び学年末に全教員が出席して開催される教員会議において，教務関係規則にのっとり適切に行われた後，校長が認定している（資料５－４－①－10～12）。教員により評価された成績は，課程修了認定会議後速やかに学生の保護者に郵送される。もし，この成績に異議申し立てがある場合には，担当教員を通じて教務委員会に連絡され，証拠資料を基に再検討することとしている（資料５－４－①－13）。

「学生生活のしおり抜粋（履修時間について）」　　資料５－４－①－１

≡本　　科≡
Ⅰ学　習

１　教育課程

本校は，学年制を採用しています。各学科において修得しなければならない授業科目及び単位数は，学則別表第１「教育課程表」（Ｐ61～Ｐ72）を参照してください。

１単位の修得に必要な学修の計算方法は，以下のとおりです。

〔第１～３学年〕

・１単位時間（１時限）当たり50分とし，30単位時間の授業をもって１単位とします。

〔第４・５学年〕

・１単位当たり，次の計算により45時間の授業及び自学自習を合わせて１単位とします。ただし，体育Ⅱ，企業実習，卒業研究は第１～３学年と同様の計算方法となります。

①講義は，15時間の授業時間と30時間の自学自習で45時間の学修（ただし，外国語の授業科目は30時間の授業時間と15時間の自学自習で45時間の学修とします。）

②演習，実験及び実習は30時間の授業時間と15時間の自学自習で45時間の学修

２　履　　修

受講する科目には，必修科目と選択科目があります。選択科目を受講するためには履修の申請が必要です。申請の方法等については，事前に説明会を行い説明します。

(1) 必修科目
　履修の申請は不要

(2) 選択科目
　履修の申請が必要
　① 一般選択科目（第4･5学年において３単位以上修得）
　② 専門選択科目　機械システム工学科　３単位以上修得
　　電気情報工学科　10単位以上修得
　　システム制御情報工学科　５単位以上修得
　　物質化学工学科　８単位以上修得

－1－

（出典　平成23年度　学生生活のしおり　P. 1）

「学生生活のしおり抜粋（履修認定について）」　　資料５－４－①－２

(3) 履修認定要件

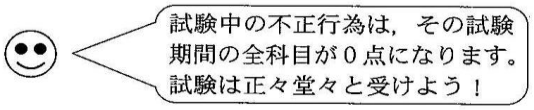
各科目を履修したかどうかの認定は，科目ごとに総授業時間数の４／５以上を出席していることが必要です。４／５未満の場合は，その科目の履修は不認定となり，評価は０点となります。

総授業時間数の２／３以上出席していない科目が１科目でもあると，その科目ばかりでなくその学年のすべての科目の履修が不認定となって評価が０点となり，進級ができなくなるので十分注意してください。

また，各科目の履修記録（出席，欠席・欠課，遅刻，早退，特別欠席，忌引など）は，科目担当教員による確認と学生による欠席願の提出などに基づき電算処理し，出席簿に記録されます。

出席簿は，定期的にホームルーム教室に掲示しますので，欠課時数などに誤りがないか必ず確認してください。確認後の履修記録は，前期末と学年末の学業成績通知表にそれぞれ記載し，保護者へ通知します。

なお，この時点で欠課時数などに誤りが見つかった場合でも，翌月の末日までに科目担当教員へ申し出れば，確認の上，履修記録を訂正します。これ以後に申し出ても訂正はできませんので注意してください。



３　試　　験

試験は，定期試験・追試験・その他の試験の３種類があります。

(1) 定期試験

前期末及び学年末に一定の期間を定めて行います。

(2) 追 試 験

病気その他やむを得ない理由により，試験を欠席した者に対して，科目担当教員が必要と認めた場合に行います。

(3) その他の試験

科目担当教員が必要と認めた場合に随時行うもので，一定の期間を定めて行う中間試験などがあります。

－2－

（出典　平成23年度　学生生活のしおり　P. 2）

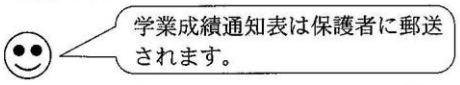
「学生生活のしおり抜粋（成績評価について）」　　資料５－４－①－３

4 修　　得

(1) 科目の修得

① 認定時期　学年末に認定します。

② 認定要件　その科目を履修し，かつ，その評価が60点以上であることが必要です。



(2) 成績の評価

各科目の評価は，前期末及び学年末に，学習の成績と平素の成績（レポート，小テストなど）によって，次のように５段階に評価します。

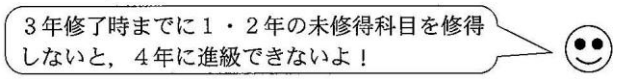
100点法評価	評定	内　　容
100～90	秀	特に高い程度に学習目標を達成し，平素の成績が特に優秀なもの
89～80	優	高い程度に学習目標を達成し，平素の成績が優秀なもの
79～70	良	学習目標を達成し，平素の成績が優良なもの
69～60	可	おおむね学習目標を達成し，平素の成績が良好なもの
59～0	不可	学習目標の達成の度合いが不十分で，平素の成績が良好とは認められないもの

(3) 特別学修

本校では，日本漢字能力検定，実用英語技能検定及び工業英語能力検定に合格した者に，申請により単位を認定し，本校の授業科目を修得したものとみなしています。

申請方法については，別途お知らせします。

5 進級・卒業



(1) 進級要件

進級するためには，その学年で修得しなければならない科目をすべて修得することが原則ですが，未修得科目が２科目以内で，かつ，その単位数が６単位以内の場合は進級できる場合があります。引き続き２回留年することはできません（休学による場合を除く）。

（出典　平成23年度　学生生活のしおり　P. 3）

「学生生活のしおり抜粋（進級・卒業認定について）」　　資料５－４－①－４

５　進級・卒業

３年修了時までに１・２年の未修得科目を修得しないと，４年に進級できないよ！



（1）進級要件

進級するためには，その学年で修得しなければならない科目をすべて修得することが原則ですが，未修得科目が２科目以内で，かつ，その単位数が６単位以内の場合は進級できる場合があります。引き続き２回留年することはできません（休学による場合を除く）。

－3－

（2）卒業要件

卒業するためには，５年以上在籍し，必修科目及び必要単位以上の選択科目（一般科目82単位以上，専門科目85単位以上）を修得するとともに，特別活動（HR）を履修することが必要です。

（出典　平成23年度　学生生活のしおり　P. 3-4）

「新入生オリエンテーションにおける説明」　　資料５－４－①－５

平成23年度新入生オリエンテーション（留学生含む）
実　施　要　領

日　時　　平成23年４月７日(木)　オリエンテーションⅠ　8：45～ 9：35
　　オリエンテーションⅡ　13：00～14：00
場　所　　オリエンテーションⅠ　階段教室（１組・２組），講義室１（３組・４組）
　　オリエンテーションⅡ　第２体育館

１　オリエンテーションⅠ

時　　間　　8：45～ 9：35
場　　所　　階段教室（１組・２組），講義室１（３組・４組）
出 席 者　　一般人文科長，一般理数科長，第１学年学級担任
次　　第　　一般人文科長・一般理数科長講話・説明
　　※一般人文科長　階段教室→講義室１
　　※一般理数科長　講義室１→階段教室
進　　行　　学年主任（鈴木）（１組・２組）
　　学級担任（青山）（３組・４組）
説明内容　　本校及び一般人文科・一般理数科の教育目標
　　主に学習面について
持参させるもの　　平成23年度学生生活のしおり
　　筆記用具
そ の 他　　①学科長講話については，後日，専門科目の授業時に行う（20分程度）。
　　日時は学年主任が学科長に確認する。
　　②オリエンテーション終了後，学級担任は，学生を引率してＨＲ教室へ戻り，学生に椅子を持たせて第１体育館へ誘導する。（クラス写真撮影，対面式）

２　オリエンテーションⅡ

時　　間　　13：00～14：00
場　　所　　第２体育館
出 席 者　　教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，学生相談室長，
　　ｾｸｼｭｱﾙ･ﾊﾗｽﾒﾝﾄ相談室長，第１学年学級担任，学生課長，教務係長
次　　第　　教務主事講話　(20分)
　　学生主事講話　(15分)
　　寮務主事講話　(10分)
　　専攻科長講話　(5分)
　　学生相談室長講話　(5分)
　　ｾｸｼｭｱﾙ･ﾊﾗｽﾒﾝﾄ相談室長講話　(5分)
進　　行　　学生課長
持参させるもの　　平成23年度学生生活のしおり
　　筆記用具
そ の 他　　①学級担任は，学生に椅子を持たせて第２体育館へ誘導する。
　　※移動開始 12：50
　　②３年留学生も受講させる。当該学級担任は，開始時刻までに学生に椅子を持たせて第２体育館へ誘導し，列の最後尾に着席させる。

（出典　平成22年度　第12回教務委員会資料）

「保護者への説明」　　資料５－４－①－６

平成23年度新入生保護者オリエンテーション
実　施　要　領

日　時　　平成23年４月６日(水)　13：00～14：30
場　所　　全体オリエンテーション　　第２体育館
　　クラス別オリエンテーション　各ＨＲ教室

１　全体オリエンテーション

時　間　　13：00～13：50
場　所　　第２体育館
出席者　　教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，一般人文科長，一般理数科長，第１学年学級担任，学生課長，課長補佐，教務係長，学生係長，寮務係長
次　第　　教務主事あいさつ（15分）
　　学生主事あいさつ（10分）
　　寮務主事あいさつ（10分）
　　専攻科長あいさつ（ 5分）
　　質疑応答　　（10分）
進　行　　学生課長
配付物　　次第
　　平成23年度学生生活のしおり
　　平成24年度専攻科案内
　　学生相談室案内
着席順

ステージ										
一般理数科長	一般人文科長	専攻科長	寮務主事	学生主事	教務主事	１組学級担任	２組学級担任	３組学級担任	４組学級担任	学生課職員

２　クラス別オリエンテーション

時　間　　14：00～14：30
場　所　　各ＨＲ教室
次　第　　学級担任あいさつ・説明

（出典　平成22年度　第12回教務委員会資料）

「シラバスにおける評価方法・学習時間の記述」　　資料５－４－①－７

科目名	電気機器工学	JABEE科目	科目コード 239

学年・学科等名	5 学年	電気情報工学科　必修科目
単位数・開講期	2 単位	前期
総時間数	90 時間	講義 30 ＋ 自学自習 60
担当教員	井口　傑	

本校の教育目標	3	電気情報工学科の教育目標	1

JABEE関連	教育プログラム科目区分	204基礎工学科目④力学系
	教育プログラムの学習・教育目標	A-2(60%) D-1(30%) D-2(10%)
	JABEE基準	d

教　科　書　名	基礎シリーズ電気機器入門（深尾正，実教出版（株））
補　助　教　材	プリント
参　　考　　書	例えば，電気機器（藤田宏，森北出版（株）），エネルギー変換工学（柴田岩夫，三澤茂，森北出版（株））

A.　教育目標

電気基礎工学の知識をもとに，社会に多く使われている電磁誘導を応用した電気機器（直流機，同期機および誘導機などの回転機械，交流電圧の変換装置である変圧器）の動作原理の理解，特性の算定方法の習得を目的とする．

B.　概要

- 直流機では，発電機・電動機の原理・構造を学び，各種励磁方式の違いによる特性を学ぶ．
- 変圧器では，構造と等価回路を学び，変圧器の特性を学ぶ．また，結線方法による各種利用方法について学ぶ．
- 誘導機では，動作原理および等価回路を学び，速度・トルク特性について学ぶ．
- 同期機では，発電機を中心に，原理・構造・運転法を学ぶ．

C.　学習上の留意点

電気機器の動作原理を理解するために，電気磁気学（アンペアの法則，ファラデーの法則等）が，特性および等価回路の理解するために，電気回路（直流，交流，三相交流における回路計算およびベクトル図の概念）が重要である．

授業では理論の説明が中心となるため，演習等に関しては学生各自の自主的な学習態度を望む．なお，本授業は電気主任技術者試験の一科目にも位置付けられている．

D.　評価方法

試験（70%），レポートおよび確認テスト（30%）

E.　授業内容

授業項目	時間	内　　容	教育プログラム
1. 直流発電機の原理，構造，理論，特性	2	・直流発電機の発電原理と構造・種類・特性・用途を説明することができる．	A-2 D-1 D-2
2. 直流電動機の理論，特性と始動と速度制御	2	・直流電動機の回転原理と理論・特性・始動特性・速度制御を説明することができる．	
3. 直流機の定格	2	・直流発電機や直流電動機の定格・電圧変動率・速度変動率・効率について計算することができる．	
4. 変圧器の構造と理論	2	・変圧器の原理や構造について説明することができる． ・等価回路を用いて電気的特性を説明することができる．	

授業項目	時間	内　　容	教育プログラム
5. 変圧器の特性	2	・変圧器の損失，電圧変動率，効率，温度上昇について説明することができる.	
6. 変圧器の結線	2	・変圧器の増設について説明することができる. ・三相結線の方法について説明することができる.	
7. 各種変圧器	2	・三相変圧器，単巻変圧器，計器用変成器の原理，構造や利用について説明することができる.	
8.（中間試験）	2		
9. 三相誘導電動機の原理と構造	2	・誘導電動機の原理と構造を説明することができる.	A-2 D-1 D-2
10. 三相誘導電動機の理論と等価回路	2	・誘導電動機の理論を説明することができ，等価回路を示すことができる.	
11. 三相誘導電動機の特性と運転	2	・誘導電動機の速度特性，トルク特性，始動法と速度制御法を説明できる.	
12. 三相同期発電機の原理と等価回路	2	・同期発電機の動作原理を説明でき，等価回路を示すことができる.	
13. 三相同期発電機の特性，出力と並行運転	2	・同期発電機の特性，並行運転法を説明できる.	
14. 三相同期電動機の原理と特性	2	・同期電動機の回転原理，位相特性を説明できる.	
15. インバータとその応用	2	・インバータの原理と利用例について説明することができる.	
（期末試験）			
◆自学自習 ・　予習復習 ・　演習課題 ・　小テスト・定期試験・の準備	60	自学自習時間として，日常の授業のための予習復習時間，理解を深めるための演習課題の考察・解法の時間および小テストや定期試験の準備のための勉強時間を総合して 60 時間と考えている.	A-2 D-1 D-2

F.　関連科目

- 電気磁気学（電気情報工学科第 3，4 学年），
- 電気回路（電気情報工学科第 1，2，3，4 学年），
- 電力システム（電気情報工学科第 5 学年）

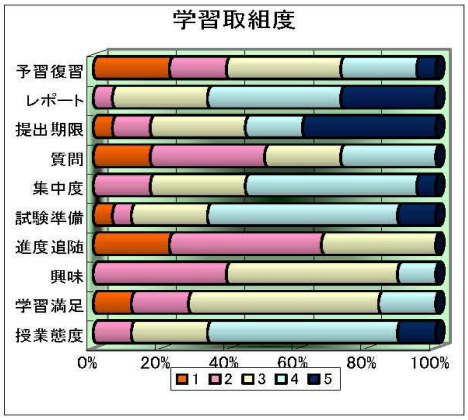
旭川高専 2010

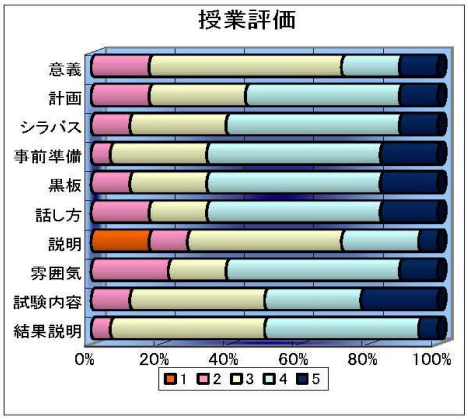
（出典　平成22年度　電気情報工学科シラバス P. 170-171）

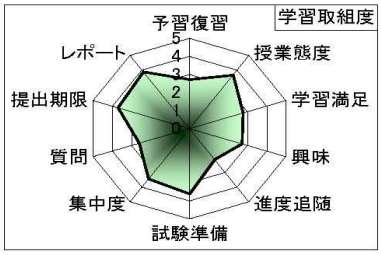
「学生による授業評価（が癖卯への説明に対する評価）」　　資料５－４－①－８

ANCT2010

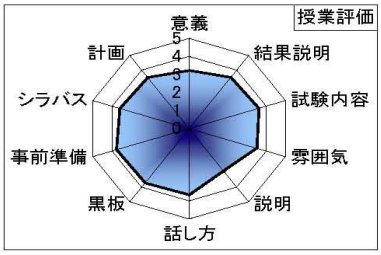
3194　5E　**電気機器工学**　前期

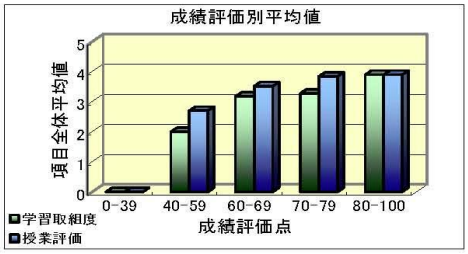


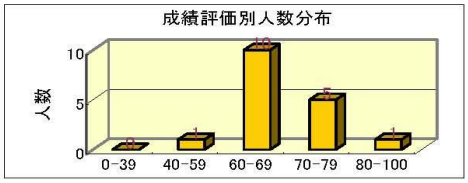












学生コメント（自由記述欄より抜粋）

○良かった点○　・黒板の字が小さくないか、見にくくないか、学生に聞いてくれるとこ
△改善してほしい点△　・演習もテスト範囲に入れて欲しいと思いました。

教員コメント（意見・改善点・前回比較など）

本科目はこれまでに30週に展開して講義した内容を，平成22年度からセメスター制による15週用に合わせて，授業内容及び演習の内容を精査した．
学習取り組み度の「進度追随」及び「予習復習」，そして，授業評価の「意義」及び「説明」の評価が他の項目と比べ相対的に低い．理由として，30週用の内容が15週用の授業に合わせて，まだ授業内容が精査されていないと考えられ，次年度に向けて，授業内容および復習となる演習の精査を図る．

3194認証評価用.xls

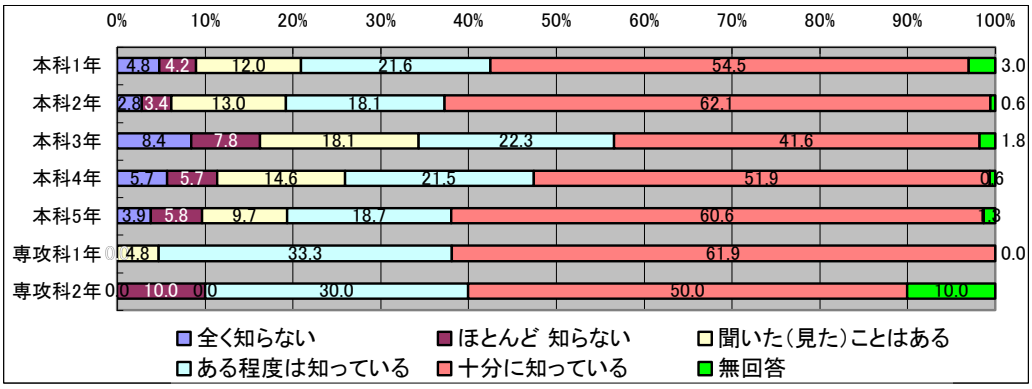
（出典　平成20年度「学生による授業評価」資料）

資料５－４－①－９

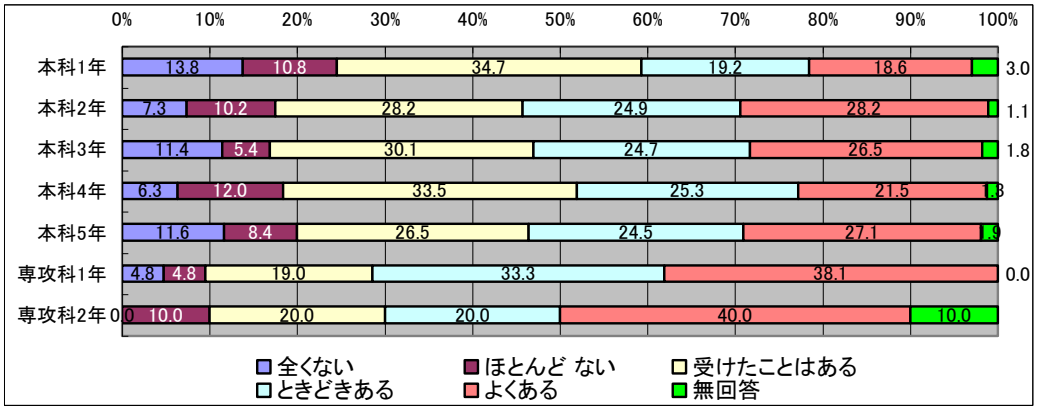
「認証評価基準に係わるアンケート調査結果（成績評価・卒業認定の認知度）」

Ⅳ　成績評価等の規定に対する認知について

Q19　科目毎の評価方法は、全てシラバスに記載されていることを知っていますか。



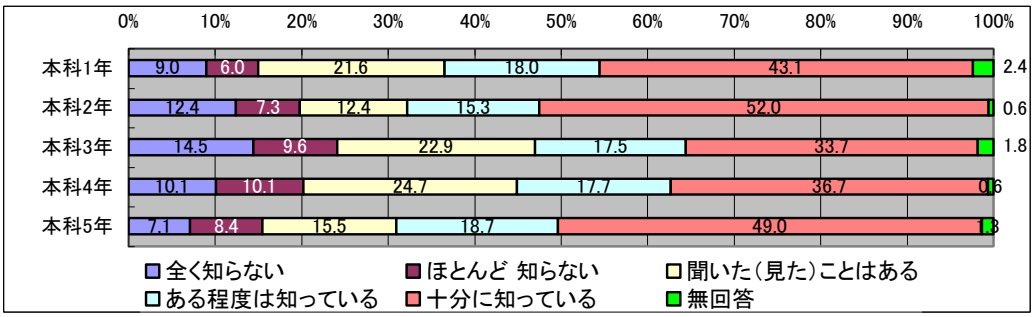
Q20　追試験や再試験を受けた際、科目担当教員から、それらの結果が成績にどのように反映されるかについて、説明を受けましたか。



Q21　準学士課程における単位認定の要件が、次のように定められていることを知っていますか。

□

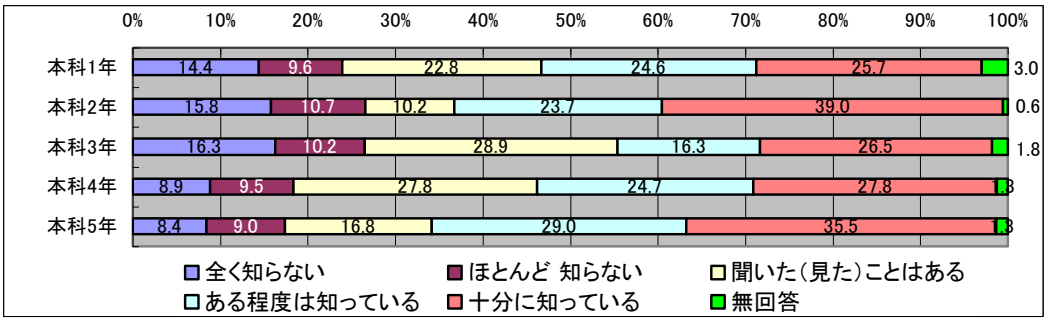
「修得とは、科目を履修し、かつ、学年（半期のみ開設の科目にあっては半期）の学業成績の評価が、60点以上に認定されることをいう。」（学生生活のしおり、教務規則第13条）



Q22　準学士課程における進級認定の要件が、次のように定められていることを知っていますか。

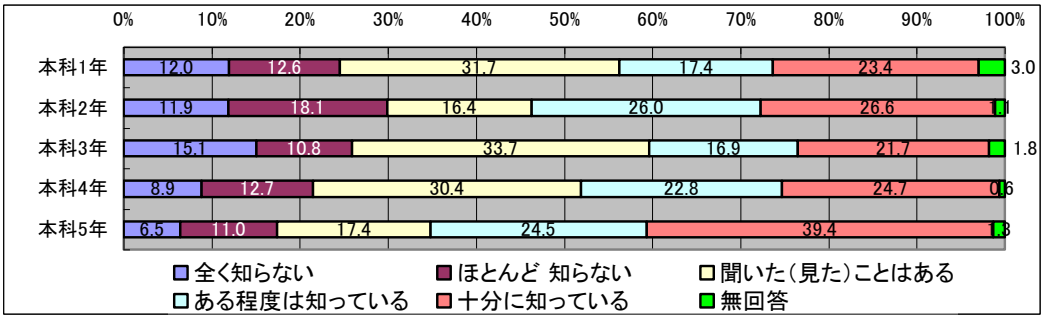
□

1　進級に認定を受けるには、学年末において、次の各号の全てを満たしていなければならない。
(1)各学年において修得すべき科目をすべて修得していること。ただし、未修得科目が2科目以内であり、かつ、その単位数が6単位以内である場合にはこの限りでない。
(2)その学年の特別教育活動の履修が認定されていること。
(3)理由の如何を問わず、その学年の出席すべき日数の3分の2以上出席していること。
2　第3学年にあっては、第1、第2学年における未修得科目を学年末までにすべて修得していること。(学生生活のしおり、教務規則第16条)

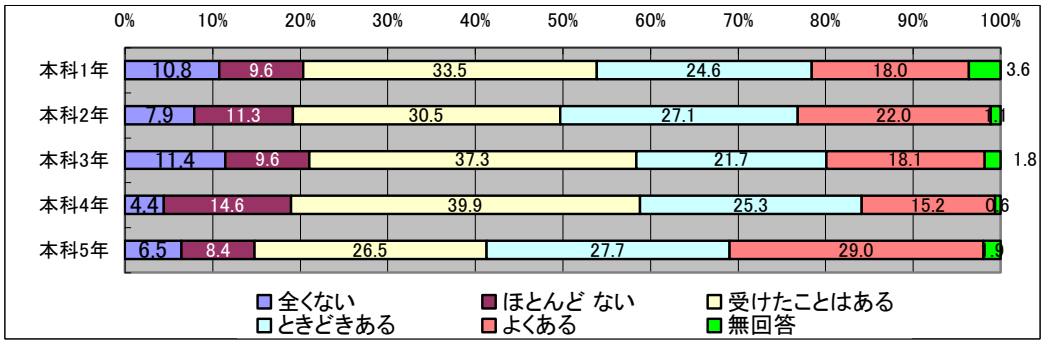


Q23　準学士課程における卒業認定の要件が、次のように定められていることを知っていますか。

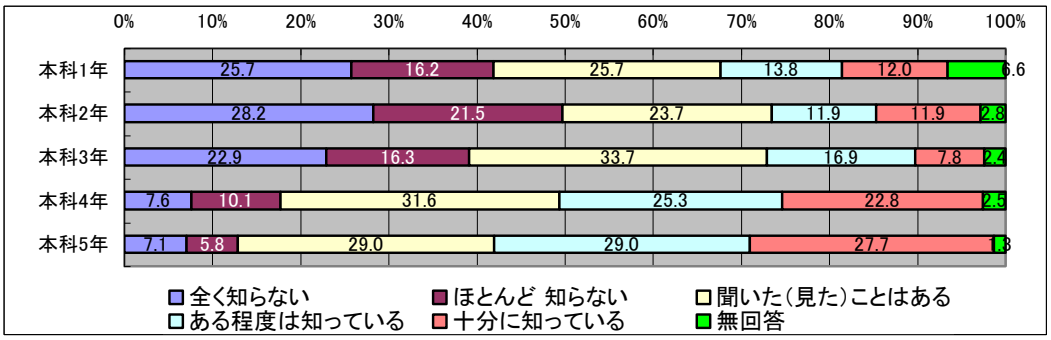
「卒業の認定を受けるには、5年以上在籍し、必修科目及び必要単位以上の選択科目を習得していなければならない。」(学生生活のしおり、教務規則第17条)



Q24　単位認定、進級認定、および卒業認定の要件について、これまでに学級担任や科目担当教員等から説明(口頭・文書含む)を受けましたか。



Q25　準学士課程においては、1単位の履修時間を授業時間30時間としていますが、4・5学年の科目においては一部、1単位を授業時間15時間+授業時間以外の学修30時間の計45時間（演習・実験・実習の場合、授業時間30時間+授業時間以外の学修15時間の計45時間）となっていることを知っていますか。



（出典　平成22年度「認証評価基準に係わるアンケート」）

「教員会議における卒業認定・履修認定」　　資料５－４－①－10

平成２２年度第１１回教員会議議事録

日　　時　平成２３年３月４日（金）１４：００～１５：１５
場　　所　大会議室

議事に先立ち，平成２２年度第１０回教員会議（３月１日開催）議事録（案）の確認が行われ，原案のとおり了承された。

議　　事

協議事項

１．平成２２年度卒業認定について

教務主事から，教務規則及び教務関係規則申合せによる卒業要件について説明があった後，各学級担任から，配付資料「平成２２年度卒業認定会議資料」に基づき，学業成績等について説明があり，続いて，各学科長から補足説明が行われた後，校長から，平成２２年度卒業認定について諮られ，協議の結果，次のとおり認定した。

【機械システム工学科】　在籍者４１名全員の卒業を認定した。

【電気情報工学科】　在籍者４０名中，出席番号[redacted]番，[redacted]番，[redacted]番を除く３７名の卒業を認定した。

【制御情報工学科】　在籍者３６名全員の卒業を認定した。

【物質化学工学科】　在籍者４２名中，出席番号[redacted]番，[redacted]番，[redacted]番，[redacted]番を除く３８名の卒業を認定した。

なお，卒業が認定されなかった７名の学生のうち，休学中である電気情報工学科出席番号[redacted]番を除く６名については，課題提出等を課し，３月１８日（金）開催の教員会議において，卒業認定を協議することとなった。

２．平成２２年度学年末履修認定（第１～４学年）について

教務主事から，履修認定に係る教務規則及び教務関係規則申合せについて説明があった後，各学級担任から，配付資料「平成２２年度学年末履修認定会議資料」に基づき，欠課時数等について説明があり，続いて，各学科（科）長から補足説明が行われた。

次に，４年機械システム工学科出席番号[redacted]番及び４年制御情報工学科出席番号[redacted]番の履修について，各学級担任及び各学科長から説明があった後，教務主事から，各学科（科）長及び教員から意見を伺いたい旨の説明があり，学生にとって不利益にならないように取扱いたい等種々意見が述べられた。

次いで，校長から，本件について諮られ，協議の結果，次のとおり了承された。

制御情報工学科　在籍者４３名中，休学中の出席番号[redacted]番及び出席番号[redacted]番の「英語ⅣＡ　２単位」を除く全科目の履修を認定した。
なお，出席番号[redacted]番について，総授業時間数の５分の１を超えて欠席した「体育Ⅱ　１単位」，「応用物理実験　１単位」，「加工学Ⅱ　１単位」，「計測工学Ⅱ　１単位」，「電子工学Ⅱ　１単位」は，教務関係規則申合せ１－（３）－①に基づき，履修を認定することとした。
また，出席番号[redacted]番について，総授業時間数の５分の１を超えて欠席した「英語ⅣＡ　２単位」，「史学Ｂ　１単位」，「応用数学Ⅱ　１単位」，「材料力学Ⅱ　１単位」，「工業力学Ⅱ　１単位」，「加工学Ⅱ　１単位」，「計測工学Ⅱ　１単位」，「制御工学Ⅱ　１単位」，「電子工学Ⅱ　１単位」は，病気等の理由により，教務関係規則申合せ１－（３）－④に基づき，履修を認定することとした。

物質化学工学科　在籍者４８名中，休学中の出席番号[redacted]番，休学中の出席番号[redacted]番，休学中の出席番号[redacted]番及び休学中の出席番号[redacted]番を除く４４名の全科目の履修を認定した。

報告事項

１．教務主事報告

教務主事から，第１～４学年の成績については，３月１４日（月）９：００までに学生総合情報システムへ入力願いたい旨の依頼があった。

２．学生主事報告

学生主事から，クラブ顧問の調整に係る教員からの意見聞き取りについて，スムーズに調査が進むよう協力願いたい旨の依頼があった。

３．寮務主事報告

寮務主事から，本科１～４年生の居室の移動について，３月７日（月）～９日（水）で実施する旨の報告があった。

次いで，寮務主事から，明誠寮の閉寮は，３月１１日（金）である旨の報告があった。

４．地域共同テクノセンター長報告

地域共同テクノセンター長から，３月９日（水）１４：００～１５：３０に開催する知的財産に関する講習会について，すでにメールにて周知しているところだが，多数の教員に出席願いたい旨の依頼があった。

次いで，地域共同テクノセンター長から，研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）について，学内締切りが決まり次第，研究協力係を通じて連絡するが，積極的に応募願いたい旨の依頼があった。

以　上

（出典　平成22年度　第11回教員会議議事録）

「教員会議における進級認定」　　資料５－４－①－11

平成２２年度第１２回教員会議議事録

日　　時　平成２３年3月１８日（金）１６：００～１８：４８
場　　所　大会議室

議事に先立ち，平成２２年度第１１回教員会議（３月４日開催）議事録（案）の確認が行われ，原案のとおり了承された。

議　　事
協議事項
１．平成２２年度卒業認定（追加）について
教務主事から，教務規則及び教務関係規則申合せによる卒業要件について説明があった後，３月４日開催の第１１回教員会議において卒業が認定されなかった６名の学生について，学級担任から，配付資料「平成２２年度卒業認定会議資料」に基づき，その後の指導状況等について説明があり，続いて，各学科長から補足説明が行われた後，校長から，卒業の可否について諮られ，協議の結果，当該学生６名の卒業を認定した。
なお，校長から，この後卒業証書授与式（卒業延期者分）を実施するため，１５分程度会議を中断し，式が終わり次第再開する旨の説明があった。

２．平成２２年度進級認定について
教務主事から，教務規則及び教務関係規則申合せによる進級認定基準について説明があった後，第１学年から第４学年までの各学級担任から，配付資料「平成２２年度進級認定会議資料」に基づき，当該学級の学業成績等について説明があり，続いて，各学科（科）長から補足説明が行われ，また，各教員から種々意見が述べられた。
次いで，校長から，本件について諮られ，協議の結果，次のとおり進級を認定した。

【第１学年】
１組　在籍者４２名中，出席番号[redacted]番，[redacted]番及び[redacted]番を除く３９名の進級を認定した。
２組　在籍者４４名中，出席番号[redacted]番，[redacted]番及び[redacted]番を除く４１名の進級を認定した。
３組　在籍者４４名中，出席番号[redacted]番，[redacted]番，[redacted]番及び[redacted]番を除く４０名の進級を認定した。
４組　在籍者４４名中，出席番号[redacted]番，[redacted]番，[redacted]番，[redacted]番及び[redacted]番（休学中）を除く３９名の進級を認定した。

【第２学年】

１組　在籍者４７名中，出席番号[redacted]番及び[redacted]番を除く４５名の進級を認定した。

２組　在籍者４５名中，出席番号[redacted]番，[redacted]番及び[redacted]番を除く４２名の進級を認定した。

３組　在籍者４４名中，出席番号[redacted]番（休学中），[redacted]番（休学中），[redacted]番，[redacted]番，[redacted]番，[redacted]番及び[redacted]番を除く３７名の進級を認定した。

４組　在籍者４８名中，出席番号[redacted]番，[redacted]番，[redacted]番，[redacted]番，[redacted]番及び[redacted]番を除く４２名の進級を認定した。

【第３学年】

機械ｼｽﾃﾑ工学科　在籍者３７名全員の進級を認定した。

電気情報工学科　在籍者４０名中，出席番号[redacted]番及び[redacted]番を除く３８名の進級を認定した。

制御情報工学科　在籍者４４名全員の進級を認定した。

物質化学工学科　在籍者４７名中，出席番号[redacted]番を除く４６名の進級を認定した。

【第４学年】

機械ｼｽﾃﾑ工学科　在籍者３７名全員の進級を認定した。

電気情報工学科　在籍者３８名中，出席番号[redacted]番（休学中）及び[redacted]番（休学中）を除く３６名の進級を認定した。

制御情報工学科　在籍者４３名中，出席番号[redacted]番，[redacted]番（休学中），[redacted]番，[redacted]番，[redacted]番を除く３８名の進級を認定した。

物質化学工学科　在籍者４８名中，出席番号[redacted]番，[redacted]番（休学中），[redacted]番（休学中），[redacted]番，[redacted]番（休学中）及び[redacted]番（休学中）を除く４２名の進級を認定した。

報告事項

１．平成２２年度専攻科後期末成績認定について

専攻科長から，３月１７日（木）開催の専攻科委員会において認定された後期末成績について，配付資料「平成２２年度後期末専攻科成績認定資料」に基づき報告があった。

２．教務主事報告

教務主事から，機関別認証評価に係り，エビデンスが必要であるため，試験答案については学生課事務室で必ずスキャンを行い，成績評価一覧表は学生課教務係へ提出すること，また，小テスト・レポート等については必ず各自又は学科（科）で保管するよう依頼があった。

３．学生主事報告

学生主事から，クラブ顧問の調整に係る教員からの意見聞き取りについて，協力の依頼をしているところだが，調整が進むようより一層の理解と協力願いたい旨の依頼があった。

４．寮務主事報告

寮務主事から，明誠寮の閉寮に伴い寮生は全員帰省しており，現在は留学生のみ残っている旨の報告があった。

次に，寮務主事から，平成２３年度に入寮予定の新１年生ついて，今現在男子５５名，女子３名，留学生（男子）２名の予定である旨の報告があった。

次いで，寮務主事から，３月２４日１３：３０～寮務委員会を開催し，終了後引き続き新旧合同の寮務委員会を開催する予定である旨の報告があった。

最後に，寮務主事から，今年度をもって寮務主事の任が終わり，２３年度から岡島教員へ交代するにあたり，寮務主事補・寮務委員会委員及び各学級担任等へ謝辞及び挨拶があった。

５．情報処理センター長報告

情報処理センター長から，新教育システムの稼働が始まったが，来週中に導入したソフトウェアの動作確認を行い，不具合等があった場合には，新学期までに解消したい旨の報告があった。

６．校長報告

（１）教員の人事異動について

校長から，３月３１日付け退職者の紹介があり，次いで，各教員から挨拶があった。

（２）事務部職員の人事異動について

校長から，３月３１日付け退職者及び転出者の紹介があり，次いで，各職員から挨拶があった。

以　　上

（出典　平成22年度　第12回教員会議議事録）

資料５－４－①－12

「進級認定資料」

[redacted]

[redacted]年度　学業成績一覧（学年末）　学級担任 [redacted]　[redacted]3/18

番号	教科名	学級順位	総点	科目数	平均点	推薦入学	前年度留年	国語	社会	○数学IA	数学IB	物理I	化学I	保健	体育I	英語I	英文法	美術	○情報基礎	工学基礎演習	電気工学基礎	電子計算機概論	基礎化学	化学基礎演習	機械製図	機械製作実習	機械製図	情報処理演習	工作実習	電気情報基礎演習	創造プログラミング実習	基礎化学実験	総欠課時数	備考
	担当教官名							[redacted]																										
	単位数							4	2	3	3	2	2	1	2	4	2	1	1	1	2	2	2	1	2	3	1	2	3	2	2	3		
1	[redacted]	36	863	12	71.9			71	80	74	60	70	65	74	74	64	65	75	91		60									69	62		3	
2		24	924	12	77.0	○		68	74	80	79	81	92	69	72	70	69	78	92				81	68								84	7	
3		43	809	12	67.4			60	72	66	57	60	69	64	73	69	58	73	88			82					62		81				0	
4		13	987	12	82.3	○		80	84	85	77	83	88	76	75	88	74	80	97			87					86		83				0	
5		26	919	12	76.6	○		72	77	81	80	71	74	67	69	81	76	79	92	88					72	81		78					18	
6		45	788	12	65.7	○		62	76	60	66	75	63	67	77	46	44	76	76		60									65	66		14	
7		8	1020	12	85.0			81	89	88	80	83	84	95	84	80	78	81	97	84					85	79		92					7	
8		5	1039	12	86.6	○		89	92	89	91	84	75	92	82	85	83	79	98	96					80	82		89					0	
9		22	930	12	77.5			73	73	82	76	71	79	63	69	87	86	75	96		75									81	90		0	
10		3	1062	12	88.5	○		92	92	90	85	93	89	83	83	95	85	76	99			95					94		83				0	
11		28	911	12	75.9			66	73	80	69	71	73	84	81	77	66	82	89	85					77	81		60					0	
12		31	897	12	74.8			65	84	70	64	69	91	93	69	66	63	77	86				83	75								83	8	
13		39	858	12	71.5			62	83	64	60	70	72	70	74	69	62	76	96				67	60								80	12	
14		2	1072	12	89.3	○		85	94	88	91	90	92	93	80	89	89	83	98		90									90	96		0	
15		35	870	12	72.5			63	77	74	65	68	74	65	78	66	71	81	88		66									66	70		1	
16		41	827	12	68.9			68	70	74	53	66	68	61	69	70	61	79	88		60									63	61		0	
17		40	857	12	71.4	○		74	83	67	58	65	75	78	68	62	60	77	90			67					85		81				4	
18		30	902	12	75.2			65	77	73	81	79	69	60	77	78	68	78	97		76									80	88		0	
19		27	917	12	76.4	○		70	81	71	66	72	75	81	82	79	70	76	94		60									69	63		6	
20		1	1111	12	92.6	○		92	97	93	95	91	97	100	74	100	94	80	98	97					90	83		97					0	
21		29	907	12	75.6			72	77	78	57	72	82	83	86	68	64	80	88				68	60								80	0	
22		42	812	12	67.7	○		60	77	73	53	60	79	61	82	61	60	83	63				69	60								81	31	
23		21	938	12	78.2			72	82	78	68	73	79	85	79	70	78	78	96		69									72	78		14	
24		17	954	12	79.5	○		70	81	82	72	75	79	85	90	68	71	83	98	90					79	83		79					0	
25		44	792	12	66.0			60	68	61	54	60	60	65	82	71	72	76	63	71					68	81		60					1	
26		7	1027	12	85.6			84	85	88	85	75	89	91	81	89	87	77	96			97					100		82				1	
27		36	863	12	71.9			70	77	77	74	70	66	72	70	70	69	82	66	74					69	77		80					19	
28		32	894	12	74.5			66	78	80	63	67	78	83	77	69	63	77	93				63	60								81	6	
29		15	958	12	79.8			85	90	73	66	74	79	89	64	81	80	77	100			92					90		84				0	
30		14	980	12	81.7	○		83	79	84	84	81	86	79	70	78	78	83	95			84					97		83				0	
31		16	957	12	79.8			81	78	84	80	73	87	68	82	80	72	77	95	88					80	82		80					8	
32		33	884	12	73.7			64	78	63	60	68	80	67	81	80	71	80	92				65	60								81	8	
33		9	1009	12	84.1			86	93	83	80	84	90	89	73	77	76	79	99		79									86	91		0	
34		23	927	12	77.3			78	85	77	62	66	77	88	71	78	72	79	94				77	60								82	28	
35		25	923	12	76.9	○		83	81	74	66	68	83	72	80	72	71	75	98			81					76		77				8	
36		34	880	12	73.3			62	73	81	67	60	79	74	81	62	66	83	92			76					80		77				21	
37		4	1040	12	86.7	○		80	93	89	89	89	93	90	73	87	84	77	96		96									88	91		7	
38		6	1032	12	86.0	○		85	92	84	81	81	86	92	75	96	82	81	97		79									83	90		0	
39		10	1007	12	83.9	○		81	91	80	77	80	84	92	83	79	83	81	96			94					91		83				5	
40		18	952	12	79.3			77	84	86	69	76	81	66	70	92	83	79	89			87					82		82				0	
41		19	945	12	78.8	○		82	88	77	63	75	86	81	76	77	74	74	92				76	60								81	0	
42		38	861	12	71.8			60	71	73	60	77	76	74	70	71	60	77	92	75					72	81		77					0	
43		11	994	12	82.8	○		80	90	78	74	78	87	98	82	80	71	79	97	83					83	83		92					0	
44		20	942	12	78.5	○		78	89	73	64	81	87	82	77	71	60	85	95				78	80								85	4	
45		12	989	12	82.4	○		73	87	85	73	79	91	94	76	82	72	78	99				83	68								85	8	
学級合計			42030		77.8			3330	3695	3510	3194	3354	3608	3555	3441	3430	3241	3541	4131	931	870	942	810	711	855	893	943	884	896	912	946	903	249	
科目平均点								74.0	82.1	78.0	71.0	74.5	80.2	79.0	76.5	76.2	72.0	78.7	91.8	84.6	72.5	85.6	73.6	64.6	77.7	81.2	85.7	80.4	81.5	76.0	78.8	82.1		

（出典　進級認定会議資料）

「学業成績の訂正」　　資料５－４－①－13

第1回教務委員会	
H22. 4. 2	資料4

平成２２年　３月３０日

教　務　主　事
専　攻　科　長　　殿

所　属　一般人文科
職　名　[redacted]
氏　名　[redacted]

学業成績の訂正について（依頼）

このことについて，下記のとおり誤りがありましたので，訂正方お願いいたします。

記

１　訂正を要する科目
英語 III　（平成２１年度　前期・後期　成績認定科目）
（専攻科のみ○を付ける）

２　訂正内容
・学生氏名　[redacted]（第３学年　組　制御情報工学　学科・専攻）他４名
・内　容　[redacted]点 を [redacted]点 に訂正する

３　訂正を要する理由
シラバスに謳っている、英検合格等による加点を行っていなかったため。

４　学生の身分への影響（科目の合否，学年修了の可否等）
有・(無)　内容（有の場合）

（注）訂正を要する学生が複数名の場合は，「○○○○他○名」として別紙を添付する等適宜記入願います。

（出典　平成22年度　第1回教務委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

履修時間・試験・成績評価・単位認定及び進級・卒業認定規定が明確に定められている。また，シラバス，学生による授業評価及び認証評価基準に係るアンケート集計結果から，成績評価に関する規則等が学生によく周知されている。さらに，成績評価・単位認定は全教員出席の教員会議において確認している。

以上のことから，成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され，学生に周知されている。また，これらの規定にしたがって，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されている。

＜専攻科課程＞

観点５－５－①：　教育の目的に照らして，準学士課程の教育との連携，及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程は，生産システム工学専攻と応用化学専攻の２専攻で構成されている。前者は準学士課程の機械システム工学科，電気情報工学科，システム制御情報工学科の３学科の教育内容を基礎とし，境界領域分野の諸問題にも対応できるよう教育課程を編成している。後者は準学士課程の物質化学工学科をベースとし，さらに広範な専門分野の諸問題にも対応できるよう教育課程を編成している。（資料５－５－①－１）。専攻科の専門科目（資料５－５－①－２）は，準学士課程の専門科目（資料５－５－①－３）を更に深めた教育課程になっている。また，専攻科の開設科目は準学士課程の開設科目と密に関連した構成になっている（資料５－５－①－４）。

資料５－５－①－１

「専攻科」



（出典　平成22年度学校要覧　P.22-23）

資料５－５－①－２

「授業科目及び開設単位数」専攻科

（生産システム工学専攻）

区分		授業科目	開設単位数	学年別配当		備考
				第１学年	第２学年	
教養科目	必修科目	英語講読	2	2		
		英語会話Ⅰ	2	2		
		英語会話Ⅱ	2	2		
		技術者倫理	2	2		
	小計		8	8		
専門関連科目	必修科目	環境マネジメント	2	2		
		工学情報処理演習	2	2		
		応用解析学Ⅰ	2	2		
		応用解析学Ⅱ	2	2		
		環境科学	2		2	
	選択科目	エネルギー工学特論	2	2		
		電気回路特論	2	2		
		生命科学	2	2		
		メカトロニクス特論	2		2	
		システム制御工学	2	2		
		センサ工学	2	2		
		計算力学特論	2		2	
	小計		24	18	6	
専門的科目	必修科目	生産システム工学	2	2		
		生産システム工学特別研究	10	2	8	
		生産システム工学特別実験	4	4		
		エンジニアリングデザイン	2		2	
		生産システム工学特別ゼミナールⅠ	2	2		
		生産システム工学特別ゼミナールⅡ	2		2	
		材料工学特論	2	2		
		インターンシップ	4	4		
	選択科目	連続体力学	2	2		
		圧縮性流体力学	2		2	
		電磁気学特論	2	2		
		集積回路設計	2	2		
		固体電子工学	2	2		
		情報セキュリティ概論	2		2	
		画像処理工学	2		2	
		知能機械	2	2		
		形状処理工学特論	2	2		
		レーザー分光	2		2	
	小計		48	24	20	
開設単位数合計			80	50	26	
修得単位数合計			62以上	62以上		選択科目から16単位以上修得

※学年別配当欄の専門的科目小計の項及び開設単位数合計の項には，インターンシップの単位数は含んでいない。

（応用化学専攻）

区分		授業科目	開設単位数	学年別配当		備考
				第１学年	第２学年	
教養科目	必修科目	英語講読	2	2		
		英語会話Ⅰ	2	2		
		英語会話Ⅱ	2	2		
		技術者倫理	2	2		
	小計		8	8		
専門関連科目	必修科目	環境マネジメント	2	2		
		工学情報処理演習	2	2		
		応用解析学Ⅰ	2	2		
		応用解析学Ⅱ	2	2		
		環境科学	2		2	
	選択科目	エネルギー工学特論	2	2		
		電気回路特論	2	2		
		生命科学	2	2		
		メカトロニクス特論	2		2	
		システム制御工学	2	2		
		センサ工学	2	2		
		計算力学特論	2		2	
	小計		24	18	6	
専門的科目	必修科目	工業物理化学特論	2	2		
		応用化学特別研究	10	2	8	
		応用化学特別実験	4	4		
		エンジニアリングデザイン	2		2	
		応用化学特別ゼミナールⅠ	2	2		
		応用化学特別ゼミナールⅡ	2		2	
		化学情報工学	2	2		
		インターンシップ	4	4		
	選択科目	応用有機化学特論	2	2		
		生物工学特論	2		2	
		機能性材料	2		2	
		機器分析特論	2		2	
		複合材料	2	2		
		応用微生物学特論	2		2	
		環境触媒化学特論	2	2		
		有機合成化学	2	2		
		生物資源化学特論	2		2	
	小計		46	20	22	
開設単位数合計			78	46	28	
修得単位数合計			62以上	62以上		選択科目から16単位以上修得

※学年別配当欄の専門的科目小計の項及び開設単位数合計の項には，インターンシップの単位数は含んでいない。

（出典　平成23年度学生生活のしおり　P.76-77）

資料５－５－①－３

「授業科目及び開設単位数」

機械システム工学科

〔第4・5学年の授業科目及び開設単位数〕

区分		授業科目		単位数	学年別配当 4年	学年別配当 5年	備考
一般科目	必修科目	人文系	言語表現	1	1		
			日本文化論	1		1	
		社会系	知的財産権論	1		1	
			経済学	1	1		
		保体	体育Ⅳ	1	1		
		外国語	英語Ⅳ A	2	2		
			英語Ⅳ B	1	1		
			英語Ⅴ	1		1	
		小計		9	6	3	
	選択科目	人文系	文学	1	1		3単位以上修得
			哲学	1	1		
			心理学	1	1		
			史学	1	1		
		社会系	法学	1	1		
			政治学	1	1		
		外国語	英語特講 A	1	1		
			英語特講 B	1	1		
			第二外国語 A	1	1		
			第二外国語 B	1	1		
		理数系	数学特講	1	1		
			物理特講	1	1		
		一般教養総合	一般教養特別講義 A	1	1		
			一般教養特別講義 B	1	1		
		小計		14	14		
	修得単位合計				12 以上		
専門科目	必修科目	応用数学Ⅰ		1	1		
		応用数学Ⅱ		1	1		
		応用数学Ⅲ		1		1	
		応用数学Ⅳ		1		1	
		応用物理Ⅱ		1	1		
		応用物理実験		1	1		
		機械システム工学ゼミナール		1		1	
		熱力学Ⅰ		1	1		
		熱力学Ⅱ		1	1		
		熱エネルギー工学Ⅰ		1		1	
		熱エネルギー工学Ⅱ		1		1	
		流体力学Ⅰ		1	1		
		流体力学Ⅱ		1	1		
		流体工学Ⅰ		1		1	
		流体工学Ⅱ		1		1	
		材料力学Ⅱ		1	1		
		材料力学Ⅲ		1	1		
		機械力学Ⅰ		1	1		
		機械力学Ⅱ		1		1	
		機械要素Ⅱ		1	1		
		メカトロニクスⅠ		1	1		
		メカトロニクスⅡ		1	1		
		創造実習		2	2		
		機械設計演習Ⅰ		1	1		
		機械設計演習Ⅱ		1	1		
		プログラミング応用Ⅰ		1	1		
		プログラミング応用Ⅱ		1	1		
		CAD／CAE		2		2	
		センシング工学Ⅰ		1	1		
		センシング工学Ⅱ		1	1		
		制御工学Ⅰ		1		1	
		制御工学Ⅱ		1		1	
		システム工学		2		2	
		生産技術論		2	2		
		機械システム工学実験Ⅰ		2	2		
		機械システム工学実験Ⅱ		2		2	
		卒業研究		8		8	
		小計		50	26	24	
	選択科目	企業実習		1	1		3単位以上修得
		計算力学		2		2	
		塑性加工学		2		2	
		オプトエレクトロニクス		2		2	
		小計		7	1	6	
	修得単位合計				53 以上		
修得単位合計					65 以上		
一般科目修得単位合計				82以上			
専門科目修得単位合計				85以上			

電気情報工学科

〔第4・5学年の授業科目及び開設単位数〕

区分		授業科目		単位数	学年別配当 4年	学年別配当 5年	備考
一般科目	必修科目	人文系	言語表現	1	1		
			日本文化論	1		1	
		社会系	知的財産権論	1		1	
			経済学	1	1		
		保体	体育Ⅳ	1	1		
		外国語	英語Ⅳ A	2	2		
			英語Ⅳ B	1	1		
			英語Ⅴ	1		1	
		小計		9	6	3	
	選択科目	人文系	文学	1	1		3単位以上修得
			哲学	1	1		
			心理学	1	1		
			史学	1	1		
		社会系	法学	1	1		
			政治学	1	1		
		外国語	英語特講 A	1	1		
			英語特講 B	1	1		
			第二外国語 A	1	1		
			第二外国語 B	1	1		
		理数系	数学特講	1	1		
			物理特講	1	1		
		一般教養総合	一般教養特別講義 A	1	1		
			一般教養特別講義 B	1	1		
		小計		14	14		
	修得単位合計				12以上		
専門科目	必修科目	応用数学Ⅰ		2	2		
		応用数学Ⅱ		2	2		
		応用物理Ⅱ		1	1		
		応用物理実験		1	1		
		電気回路Ⅰ		2	2		
		電気回路Ⅱ		1	1		
		電子回路Ⅰ		2	2		
		電子回路Ⅱ		1	1		
		電磁気学Ⅰ		2	2		
		電磁気学Ⅱ		1	1		
		電気電子計測Ⅱ		1	1		
		電気機器工学		2		2	
		環境エネルギー工学		2		2	
		電子物性工学		2	2		
		半導体工学		2		2	
		情報システム工学		2	2		
		ソフトウェア工学		2	2		
		情報理論		2		2	
		工業英語		1		1	
		電気情報工学実験Ⅰ		2	2		
		電気情報工学実験Ⅱ		2	2		
		卒業研究		8		8	
		小計		43	26	17	
	選択科目	電気情報演習 A		1	1		2単位以上修得
		電気情報演習 B		1	1		
		創成工学演習 A		1	1		
		創成工学演習 B		1	1		
		企業実習		1	1		
		コンピュータ工学		2		2	2単位以上修得
		光エレクトロニクス		2		2	
		通信工学		2		2	
		電子回路Ⅲ		2		2	
		情報ネットワーク		2		2	
		知識工学		2		2	
		量子工学		2		2	6単位以上修得
		システム制御工学		2		2	
		電磁波工学		2		2	
		情報アルゴリズム		2		2	
		電力システム工学		2		2	
		小計		27	5	22	
	修得単位合計				53以上		
修得単位合計					65以上		
一般科目修得単位合計				82以上			
専門科目修得単位合計				85以上			

制御情報工学科

〔第4・5学年の授業科目及び開設単位数〕

区分		授業科目		単位数	学年別配当 4年	学年別配当 5年	備考
一般科目	必修科目	人文系	言語表現	1	1		
			日本文化論	1		1	
		社会系	知的財産権論	1		1	
			経済学	1	1		
		保体	体育Ⅳ	1	1		
		外国語	英語Ⅳ A	2	2		
			英語Ⅳ B	1	1		
			英語Ⅴ	1		1	
		小計		9	6	3	
	選択科目	人文系	文学	1	1		3単位以上修得
			哲学	1	1		
			心理学	1	1		
			史学	1	1		
		社会系	法学	1	1		
			政治学	1	1		
		外国語	英語特講 A	1	1		
			英語特講 B	1	1		
			第二外国語 A	1	1		
			第二外国語 B	1	1		
		理数系	数学特講	1	1		
			物理特講	1	1		
		一般教養総合	一般教養特別講義 A	1	1		
			一般教養特別講義 B	1	1		
		小計		14	14		
	修得単位合計				12 以上		
専門科目	必修科目	応用数学Ⅰ		2	2		
		応用数学Ⅱ		2	2		
		応用物理Ⅱ		1	1		
		応用物理実験		1	1		
		数値計算Ⅰ		1	1		
		数値計算Ⅱ		1	1		
		デジタル形状設計Ⅰ		1	1		
		デジタル形状設計Ⅱ		1	1		
		材料力学Ⅰ		1	1		
		材料力学Ⅱ		1	1		
		熱・流体工学Ⅰ		1		1	
		熱・流体工学Ⅱ		1		1	
		加工学Ⅰ		1	1		
		加工学Ⅱ		1	1		
		ロボティクスⅠ		1	1		
		ロボティクスⅡ		1	1		
		計測工学Ⅰ		1		1	
		計測工学Ⅱ		1		1	
		制御工学Ⅰ		1	1		
		制御工学Ⅱ		1	1		
		制御工学Ⅲ		1		1	
		制御工学Ⅳ		1		1	
		電子工学Ⅰ		1	1		
		電子工学Ⅱ		1	1		
		工業英語		1		1	
		システム工学Ⅰ		1		1	
		システム工学Ⅱ		1		1	
		メカトロニクスⅠ		1		1	
		メカトロニクスⅡ		1		1	
		ゼミナール		1		1	
		画像・信号処理Ⅰ		1		1	
		画像・信号処理Ⅱ		1		1	
		創造工学		2	2		
		工学実験Ⅰ		2	2		
		工学実験Ⅱ		2		2	
		卒業研究		8		8	
		小計		48	24	24	
	選択科目	企業実習		1	1		5単位以上修得
		システムダイナミクス		1		1	
		CAD／CAM システム		1		1	
		計算力学		1		1	
		通信ネットワーク工学		1		1	
		応用電子工学		1		1	
		情報理論		1		1	
		小計		7	1	6	
	修得単位合計				53以上		
修得単位合計					65以上		
一般科目修得単位合計				82以上			
専門科目修得単位合計				85以上			

物質化学工学科

〔第4　5学年の授業科目及び開設単位数〕

区分			授業科目	単位数	学年別配当 4年	学年別配当 5年	備考
一般科目	必修科目	文	言語表現	1	1		
			日本文化論	1		1	
		社会	論	1		1	
			学	1	1		
		保体	体育Ⅳ	1	1		
		外国語	英語Ⅳ A	2	2		
			英語Ⅳ B	1	1		
			英語Ⅴ	1		1	
		小計		9	6	3	
	科目	文	文学	1	1		3単位以上修得
			学	1	1		
			理学	1	1		
			史学	1	1		
		社会	法学	1	1		
			政治学	1	1		
		外国語	英語特講 A	1	1		
			英語特講 B	1	1		
			第二外国語 A	1	1		
			第三外国語 B	1	1		
		理数	数学特講	1	1		
			物理特講	1	1		
		一般教養合	一般教養特別講義 A	1	1		
			一般教養特別講義 B	1	1		
		小計		14	14		
	修得単位合計				12以上		
専門科目	必修科目	応用数学Ⅰ		2	2		
		応用数学Ⅱ		1	1		
		応用物理Ⅱ		1	1		
		応用物理実験		1	1		
		情報処理演習		1	1		
		物理化学Ⅱ		1	1		
		物理化学Ⅲ		1	1		
		化学工学Ⅱ		1	1		
		化学工学Ⅲ		1	1		
		化学工学Ⅳ		1	1		
		機器分析		2	2		
		生物環境化学		2	2		
		無機化学Ⅲ		1	1		
		有機化学Ⅲ		1	1		
		化学工業		2		2	
		高分子化学		2		2	
		基礎工学概論Ⅰ		2		2	
		基礎工学概論Ⅱ		2		2	
		物理化学実験		2	2		
		化学工学実験		2	2		
		卒業研究		8		8	
		小計		37	21	16	
		材料化学コース	材料化学Ⅰ	2	2		
			材料化学Ⅱ	2		2	
			材料化学ー	1	1		
			材料化学実験	3		3	
			小計	8	3	5	
		生物化学コース	生物工学Ⅰ	2	2		
			生物工学Ⅱ	2		2	
			生物化学工学ー	1	1		
			生物化学工学実験	3		3	
			小計	8	3	5	
		小計		45	24	21	
	科目	実習		1	1		8単位以上修得
		物質化学工学演習 A		1	1		
		物質化学工学演習 B		1	1		
		基礎化学		2		2	2単位以上修得
		化学		2		2	
		工学		2		2	
		環境分析		2		2	
		工学		2		2	
		基礎生科学		2		2	
		固体化学		2		2	材料化学コースは2単位以上修得
		応用有機化学		2		2	
		反応工学		2		2	
		応用微生物学		2		2	生物化学コースは2単位以上修得
		質科学		2		2	
		生物資源化学		2		2	
		小計		27	3	24	
	修得単位合計				53以上		
修得単位合計					65以上		
一般科目修得単位合計				82以上			
専門科目修得単位合計				85以上			

（出典　平成23年度学生生活のしおり　P.65-75）

資料５－５－①－４

「授業科目系統図」

「環境・生産システム工学」教育プログラムにおける一般基礎科目・基礎工学科目・専門工学科目の分類表

【平成23年度専攻科入学生用】

分類	学科	本科科目 必修 学年	本科科目 必修 科目名	本科科目 選択 学年	本科科目 選択 科目名	本科科目 選択 取得基準	専攻	専攻科科目 必修 学年	専攻科科目 必修 科目名	専攻科科目 選択 学年	専攻科科目 選択 科目名	専攻科科目 選択 取得基準
0. 一般基礎科目												
数学系	M	4	応用数学Ⅰ				P	1	応用解析学Ⅰ			
		4	応用数学Ⅱ					1	応用解析学Ⅱ			
		5	応用数学Ⅲ									
		5	応用数学Ⅳ									
	E	4	応用数学Ⅰ									
		4	応用数学Ⅱ									
	S	4	応用数学Ⅰ									
		4	応用数学Ⅱ									
		5	応用数学Ⅲ									
		5	応用数学Ⅳ									
	C	4	応用数学Ⅰ				A	1	応用解析学Ⅰ			
		4	応用数学Ⅱ					1	応用解析学Ⅱ			
自然科学系	全	4	応用物理Ⅱ									
		4	応用物理実験									
	M						P	1	環境マネジメント			
	E							2	環境科学			
	S											
	C						A	1	環境マネジメント			
								2	環境科学			
情報技術系	全											
	M						P	1	工学情報処理演習			
	E	4	ソフトウェア工学									
	S	4	電子計算機Ⅰ									
		4	電子計算機Ⅱ									
	C	4	情報処理演習				A	1	工学情報処理演習			
人文系・社会系	全	4	言語表現	4・5	文学A							
		4	国際関係論	4・5	文学B							
				4・5	哲学							
				4・5	心理学							
				4・5	史学A	（必修）						
				4・5	史学B	外国語コミュニケーション系科目も含めて5単位以上取得						
				4・5	法学Ⅰ							
				4・5	法学Ⅱ							
				4・5	経済学Ⅰ							
				4・5	経済学Ⅱ							
				4・5	政治学							
				4・5	産業財産権論							
外国語講読系	全	4	英語ⅣA	4・5	英語特講Ⅰ							
		4	英語ⅣB	4・5	英語特講Ⅱ							
		5	英語Ⅴ	4・5	第二外国語Ⅰ							
				4・5	第二外国語Ⅱ							
	M	5	機械システム工学ゼミナール				P	1	英語講読			
	E	5	工業英語									
	S	5	工業英語Ⅰ									
		5	工業英語Ⅱ									
	C	4	材料化学ゼミナール	4	物質化学工学演習Ⅰ		A	1	英語講読			
		4	生物化学工学ゼミナール									
外国語コミュニケーション系	全			4・5	英会話Ⅰ		P	1	英語会話Ⅰ			
				4・5	英会話Ⅱ			1	英語会話Ⅱ			
							A	1	英語会話Ⅰ			
								1	英語会話Ⅱ			
1. 基礎工学科目												
①設計・システム系	M	4	機械要素Ⅰ	5	計算力学		P			1	エネルギー工学特論	
		4	機械要素Ⅱ							1	電気回路特論	
		4	メカトロニクスⅠ							1	システム制御工学	
		4	メカトロニクスⅡ							1	センサ工学	
		4	機械設計演習Ⅰ									
		4	機械設計演習Ⅱ									
		4	センシング工学Ⅰ									
		4	センシング工学Ⅱ									
		5	機械システム工学演習									
		5	制御工学Ⅰ									
		5	制御工学Ⅱ									
		5	メカトロニクスⅢ									
		5	メカトロニクスⅣ									
	E	4	電気回路Ⅰ	4	電気情報演習A							
		4	電気回路Ⅱ	4	電気情報演習B							
		4	電子回路Ⅰ									
		4	電子回路Ⅱ									
		4	電磁気学Ⅰ									
		4	電磁気学Ⅱ									
		4	情報システム工学									
		4	ロボット機構学Ⅰ									
		4	ロボット機構学Ⅱ									
		4	計測工学Ⅰ									
		4	計測工学Ⅱ									
		4	制御工学Ⅰ									
		4	制御工学Ⅱ									
		4	計算機援用設計製図Ⅰ									
		4	計算機援用設計製図Ⅱ									
		5	制御工学Ⅲ									
		5	制御工学Ⅳ									
		5	自動加工学Ⅰ									
		5	自動加工学Ⅱ									
		5	自動設計学Ⅰ									
		5	自動設計学Ⅱ									
	C	4	化学工学Ⅳ	5	エネルギー工学		A			1	エネルギー工学特論	
		5	基礎工学概論Ⅰ	5	プロセス工学					1	電気回路特論	
										1	システム制御工学	
										1	センサ工学	
②情報・論理系	M	4	プログラミング応用Ⅰ				P					
		4	プログラミング応用Ⅱ									
	E	5	情報理論									
	S	4	電子工学Ⅰ									
		4	電子工学Ⅱ									
		5	数値解析Ⅰ									
		5	数値解析Ⅱ									
	C			4	物質化学工学演習Ⅱ		A	1	化学情報工学			

「環境・生産システム工学」教育プログラムにおける一般基礎科目・基礎工学科目・専門工学科目の分類表

【平成23年度専攻科入学生用】

分類	本科科目						専攻科科目					
	学科	必修		選択			専攻	必修		選択		
		学年	科目名	学年	科目名	取得基準		学年	科目名	学年	科目名	取得基準
③材料・バイオ系	M			5	塑性加工学		P	1	材料工学特論	1	生命科学	
	E	4	電子物性工学									
		5	半導体工学									
	S	4	加工学Ⅰ									
		4	加工学Ⅱ									
	C	4	材料化学Ⅰ	5	電気化学		A			1	生命科学	
		4	材料化学Ⅱ	5	環境分析							
		4	生物工学Ⅰ	5	基礎生命科学							
		4	生物工学Ⅱ	5	無機化学特論							
		5	化学工業	5	有機化学特論							
		5	高分子化学	5	応用微生物学							
				5	タンパク質化学							
				5	反応工学							
				5	生物化学特論							
④力学系	M	4	熱力学Ⅰ	5	計算力学		P			2	計算力学特論	
		4	熱力学Ⅱ	5	ロボティクス							
		4	流体力学Ⅰ									
		4	流体力学Ⅱ									
		4	材料力学Ⅱ									
		4	材料力学Ⅲ									
		5	機械力学Ⅰ									
		5	機械力学Ⅱ									
	E	4	電気機器工学									
	S	4	工業力学Ⅰ									
		4	工業力学Ⅱ									
		4	材料力学Ⅰ									
		4	材料力学Ⅱ									
		4	熱・流体工学Ⅰ									
		4	熱・流体工学Ⅱ									
		5	計算力学Ⅰ									
		5	計算力学Ⅱ									
	C	4	物理化学Ⅱ	5	物理化学特論		A			2	計算力学特論	
		4	物理化学Ⅲ									
		4	化学工学Ⅱ									
		4	化学工学Ⅲ									
⑤社会技術系	M	5	生産技術論				P	1	技術者倫理			
	E	5	電力システム工学									
	S	5	システム工学Ⅰ									
		5	システム工学Ⅱ									
	C	4	生物環境化学				A	1	技術者倫理			
		5	基礎工学概論Ⅱ									

2. 専門工学科目

①専門応用系	M	5	熱エネルギー工学Ⅰ	5	オプトエレクトロニクス		P	1	生産システム工学	1	連続体力学	
		5	熱エネルギー工学Ⅱ							1	電磁気学特論	
		5	流体工学Ⅰ							1	集積回路設計	
		5	流体工学Ⅱ							1	固体電子工学	
										1	知能機械	
				5	量子エレクトロニクス					1	形状処理工学特論	
				5	環境エネルギー工学					2	圧縮性流体力学	
	E			5	光エレクトロニクス					2	情報セキュリティ概論	
				5	システム制御工学					2	画像処理工学	
				5	コンピュータ工学					2	メカトロニクス特論	
				5	通信工学					2	レーザー分光	
				5	情報ネットワーク							
				5	知識工学							
				5	電磁波工学							
				5	情報アルゴリズム							
	S	5	メカトロニクスⅠ									
		5	メカトロニクスⅡ									
	C	4	機器分析				A	1	工業物理化学特論	1	応用有機化学特論	
										1	環境触媒化学特論	
										1	有機合成化学	
										1	複合材料	
										2	応用微生物学特論	
										2	生物工学特論	
										2	機能性材料	
										2	機器分析特論	
										2	生物資源化学特論	
										2	メカトロニクス特論	
②工学実験系	M	4	機械システム工学実験Ⅰ				P	1	生産システム工学特別実験			
		4	機械システム工学実験Ⅱ									
		5	機械システム工学演習									
	E	4	電気情報工学実験Ⅰ									
		4	電気情報工学実験Ⅱ									
	S	4	工学実験Ⅰ									
		4	工学実験Ⅱ									
		5	工学実験Ⅲ									
	C	4	物理化学実験				A	1	応用化学特別実験			
		4	化学工学実験									
		5	材料化学実験									
		5	生物化学工学実験									
③課題解決系	M	5	卒業研究				P	1	生産システム工学特別研究			
	E	5	卒業研究					1	生産システム工学特別ゼミナールⅠ			
				4	創成工学演習A			2	生産システム工学特別研究			
				4	創成工学演習B			2	エンジニアリングデザイン			
	S	5	卒業研究					2	生産システム工学特別ゼミナールⅡ			
	C	5	卒業研究				A	1	応用化学特別研究			
								1	応用化学工学特別ゼミナールⅠ			
								2	応用化学特別研究			
								2	エンジニアリングデザイン			
								2	応用化学特別ゼミナールⅡ			
④実務対応系	M			4	企業実習		P	1･2	インターンシップ			
	E			4	企業実習							
	S			4	企業実習							
	C			4	企業実習		A	1･2	インターンシップ			

は、学則上は選択科目であっても、教育プログラムでは取得が必要な科目または単位

（出典　平成23年度学生生活のしおり　P.123-124）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科課程は，準学士課程の学科が基盤となって構成されている。また，専攻科課程は準学士課程で学習した授業をより深め，更には密に関連した教育課程を編成している。

以上のことから，専攻科課程の教育課程は準学士課程の教育との連携を十分に考慮したものとなっている。

観点５－５－②：　教育の目的に照らして，授業科目が適切に配置され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程の授業科目は，教養科目，専門関連科目，専門的科目の三つに分類されている（資料５－５－②－１）。教養科目は，すべて必修科目である。専門関連科目は，自然科学等に関する必修科目と専門分野に関する選択科目とに分けられる。専門的科目は，実験，演習，特別研究等の必修科目と各専攻の専門知識を深める選択科目から構成されている。このうち，教養科目と専門関連科目の多くが第１学年に配置されている。第２学年には，専攻科課程の集大成といえる特別研究の配分が大きく，他に専門的科目が配置されている。なお，専攻科課程の修了に必要な単位数（資料５－５－②－２）のうち選択科目は 16 単位以上を修得する必要がある。これは，修了認定単位のほぼ 1/4 で，適正な配分といえる。実践的な能力を育成するための科目として特別実験，創造工学，インターンシップが，研究開発能力を育成するための科目として特別ゼミナール，特別実験，創造工学，特別研究等が，それぞれ行われている（資料５－５－②－１，３，４）。教育の目的を達成するために，科目ごとの教育目標，授業内容，評価方法を明示したシラバスが用意されている（資料５－５－②－５）。

学位の取得は，大学評価・学位授与機構の学位申請区分ごとに定められた基準を満足できるように授業科目が編成されている（資料５－５－②－６，７）。

資料５－５－②－１

「授業科目及び開設単位数」専攻科

（生産システム工学専攻）

区分		授業科目	開設単位数	学年別配当		備考
				第１学年	第２学年	
教養科目	必修科目	英語講読	2	2		
		英語会話Ⅰ	2	2		
		英語会話Ⅱ	2	2		
		技術者倫理	2	2		
	小計		8	8		
専門関連科目	必修科目	環境マネジメント	2	2		
		工学情報処理演習	2	2		
		応用解析学Ⅰ	2	2		
		応用解析学Ⅱ	2	2		
		環境科学	2		2	
	選択科目	エネルギー工学特論	2	2		
		電気回路特論	2	2		
		生命科学	2	2		
		メカトロニクス特論	2		2	
		システム制御工学	2	2		
		センサ工学	2	2		
		計算力学特論	2		2	
	小計		24	18	6	
専門的科目	必修科目	生産システム工学	2	2		
		生産システム工学特別研究	10	2	8	
		生産システム工学特別実験	4	4		
		エンジニアリングデザイン	2		2	
		生産システム工学特別ゼミナールⅠ	2	2		
		生産システム工学特別ゼミナールⅡ	2		2	
		材料工学特論	2	2		
		インターンシップ	4	4		
	選択科目	連続体力学	2	2		
		圧縮性流体力学	2		2	
		電磁気学特論	2	2		
		集積回路設計	2	2		
		固体電子工学	2	2		
		情報セキュリティ概論	2		2	
		画像処理工学	2		2	
		知能機械	2	2		
		形状処理工学特論	2	2		
		レーザー分光	2		2	
	小計		48	24	20	
開設単位数合計			80	50	26	
修得単位数合計			62以上	62以上		選択科目から16単位以上修得

※学年別配当欄の専門的科目小計の項及び開設単位数合計の項には，インターンシップの単位数は含んでいない。

（応用化学専攻）

区分		授業科目	開設単位数	学年別配当		備考
				第１学年	第２学年	
教養科目	必修科目	英語講読	2	2		
		英語会話Ⅰ	2	2		
		英語会話Ⅱ	2	2		
		技術者倫理	2	2		
	小計		8	8		
専門関連科目	必修科目	環境マネジメント	2	2		
		工学情報処理演習	2	2		
		応用解析学Ⅰ	2	2		
		応用解析学Ⅱ	2	2		
		環境科学	2		2	
	選択科目	エネルギー工学特論	2	2		
		電気回路特論	2	2		
		生命科学	2	2		
		メカトロニクス特論	2		2	
		システム制御工学	2	2		
		センサ工学	2	2		
		計算力学特論	2		2	
	小計		24	18	6	
専門的科目	必修科目	工業物理化学特論	2	2		
		応用化学特別研究	10	2	8	
		応用化学特別実験	4	4		
		エンジニアリングデザイン	2		2	
		応用化学特別ゼミナールⅠ	2	2		
		応用化学特別ゼミナールⅡ	2		2	
		化学情報工学	2	2		
		インターンシップ	4	4		
	選択科目	応用有機化学特論	2	2		
		生物工学特論	2		2	
		機能性材料	2		2	
		機器分析特論	2		2	
		複合材料	2	2		
		応用微生物学特論	2		2	
		環境触媒化学特論	2	2		
		有機合成化学	2	2		
		生物資源化学特論	2		2	
	小計		46	20	22	
開設単位数合計			78	46	28	
修得単位数合計			62以上	62以上		選択科目から16単位以上修得

※学年別配当欄の専門的科目小計の項及び開設単位数合計の項には，インターンシップの単位数は含んでいない。

（出典　平成23年度学生生活のしおり　P.76-77）

資料５－５－②－２

「修得単位数」

第４９条　専攻科に２年以上在学し，所定の授業科目を履修し，６２単位以上を修得した者については，修了を認定する。

２　校長は，修了を認定した者に対し，所定の修了証書を授与する。

（出典　平成23年度学生生活のしおり　P.57）

資料５－５－②－３

「授業科目系統図」

「環境・生産システム工学」教育プログラムにおける一般基礎科目・基礎工学科目・専門工学科目の分類表

【平成23年度専攻科入学生用】

分類	本科目						専攻科科目					
	学科	必修		選択			専攻	必修		選択		
		学年	科目名	学年	科目名	取得基準		学年	科目名	学年	科目名	取得基準
0. 一般基礎科目												
数学系	M	4	応用数学Ⅰ					1	応用解析学Ⅰ			
		4	応用数学Ⅱ					1	応用解析学Ⅱ			
		5	応用数学Ⅲ									
		5	応用数学Ⅳ									
	E	4	応用数学Ⅰ				P					
		4	応用数学Ⅱ									
	S	4	応用数学Ⅰ									
		4	応用数学Ⅱ									
		5	応用数学Ⅲ									
		5	応用数学Ⅳ									
	C	4	応用数学Ⅰ				A	1	応用解析学Ⅰ			
		4	応用数学Ⅱ					1	応用解析学Ⅱ			
自然科学系	全	4	応用物理Ⅱ									
		4	応用物理実験									
	M											
	E						P	1	環境マネジメント			
	S							2	環境科学			
	C						A	1	環境マネジメント			
								2	環境科学			
情報技術系	全											
	M											
	E	4	ソフト・ウェア工学				P	1	工学情報処理演習			
	S	4	電子計算機Ⅰ									
		4	電子計算機Ⅱ									
	C	4	情報処理演習				A	1	工学情報処理演習			
人文系・社会系	全	4	言語表現	4・5	文学A							
		4	国際関係論	4・5	文学B							
				4・5	哲学							
				4・5	心理学							
				4・5	史学A	（必修）						
				4・5	史学B							
				4・5	法学Ⅰ							
				4・5	法学Ⅱ							
				4・5	経済学Ⅰ	外国語コミュニケーション系科目も含めて6単位以上取得						
				4・5	経済学Ⅱ							
				4・5	政治学							
				4・5	産業財産権論							
外国語講読系	全	4	英語ⅣA	4・5	英語特講Ⅰ							
		4	英語ⅣB	4・5	英語特講Ⅱ							
		5	英語Ⅴ	4・5	第二外国語Ⅰ							
				4・5	第二外国語Ⅱ							
	M	5	機械システム工学ゼミナール					1	英語講読			
	E	5	工業英語Ⅰ				P					
	S	5	工業英語Ⅰ									
		5	工業英語Ⅱ									
	C	4	材料化学ゼミナール	4	物質化学工学演習Ⅰ		A	1	英語講読			
		4	生物化学工学ゼミナール									
外国語コミュニケーション系	全			4・5	英会話Ⅰ		P	1	英語会話Ⅰ			
				4・5	英会話Ⅱ			1	英語会話Ⅱ			
							A	1	英語会話Ⅰ			
								1	英語会話Ⅱ			
1. 基礎工学科目												
①設計・システム系	M	4	機械要素Ⅰ	5	計算力学					1	エネルギー工学特論	
		4	機械要素Ⅱ							1	電気回路特論	
		4	メカトロニクスⅠ							1	システム制御工学	
		4	メカトロニクスⅡ							1	センサ工学	
		4	機械設計演習Ⅰ									
		4	機械設計演習Ⅱ									
		4	センシング工学Ⅰ									
		4	センシング工学Ⅱ									
		5	機械システム工学演習									
		5	制御工学Ⅰ									
		5	制御工学Ⅱ									
		5	メカトロニクスⅢ									
		5	メカトロニクスⅣ									
	E	4	電気回路Ⅰ	4	電気情報演習A							
		4	電気回路Ⅱ	4	電気情報演習B							
		4	電子回路Ⅰ				P					
		4	電子回路Ⅱ									
		4	電磁気学Ⅰ									
		4	電磁気学Ⅱ									
		4	情報システム工学									
		4	ロボット機構学Ⅰ									
		4	ロボット機構学Ⅱ									
		4	計測工学Ⅰ									
		4	計測工学Ⅱ									
		4	制御工学Ⅰ									
		4	制御工学Ⅱ									
		4	計算機援用設計製図Ⅰ									
		4	計算機援用設計製図Ⅱ									
		5	制御工学Ⅲ									
		5	制御工学Ⅳ									
		5	自動加工学Ⅰ									
		5	自動加工学Ⅱ									
		5	自動設計学Ⅰ									
		5	自動設計学Ⅱ									
	C	4	化学工学Ⅳ	5	エネルギー工学		A			1	エネルギー工学特論	
		5	基礎工学概論Ⅰ	5	プロセス工学					1	電気回路特論	
										1	システム制御工学	
										1	センサ工学	
②情報・論理系	M	4	プログラミング応用Ⅰ									
		4	プログラミング応用Ⅱ									
	E	5	情報理論				P					
	S	4	電子工学Ⅰ									
		4	電子工学Ⅱ									
		5	数値解析Ⅰ									
		5	数値解析Ⅱ									
	C			4	物質化学工学演習Ⅱ		A	1	化学情報工学			

（出典　平成23年度学生生活のしおり　P.123-124）

資料５－５－②－４

「授業時間割」

平成 23 年度 ［前期］ 授業時間割

2011/4/4
旭川工業高等専門学校

月

学年・クラス	1 (8:40〜9:30)	2 (9:35〜10:25)	3 (10:35〜11:25)	4 (11:30〜12:20)	5 (13:05〜13:55)	6 (14:00〜14:50)	7 (14:55〜15:45)	8 (15:50〜16:40)
専攻科第1学年 P	生産システム工学 佐竹（1〜2限）		電気回路特論 大島（3〜4限、P・A共通）					
専攻科第1学年 A								
専攻科第2学年 P	応用熱工学 立田（1〜2限）		計算力学特論 江頭（3〜4限、P・A共通）					
専攻科第2学年 A	機器分析特論 古崎（1〜2限）							

火

学年・クラス	1	2	3	4	5	6	7	8
専攻科第1学年 P	生産システム工学特別ゼミナールⅠ 全員（1〜2限）		英語会話Ⅱ 野月（3〜4限、P・A共通）					
専攻科第1学年 A	応用化学特別ゼミナールⅠ 全員（1〜2限）				複合材料 梅田（5〜6限）			
専攻科第2学年 P					創造工学 三井 マイスター（5〜6限、P・A共通）			
専攻科第2学年 A								

水

学年・クラス	1	2	3	4	5	6	7	8
専攻科第1学年 P	英語講読 櫻井（1〜2限、P・A共通）		生命科学 小林（3〜4限、P・A共通）		集積回路設計 土橋（5〜6限）			オフィスアワー（全学年共通）
専攻科第1学年 A					応用有機化学特論 津田（5〜6限）			
専攻科第2学年 P			情報通信工学 笹岡（3〜4限）		メカトロニクス特論 三井（5〜6限、P・A共通）			
専攻科第2学年 A			生物工学特論 杉本（3〜4限）					

木

学年・クラス	1	2	3	4	5	6	7	8
専攻科第1学年 P	連続体力学 石井（1〜2限）		応用解析学Ⅰ 降旗（3〜4限、P・A共通）					
専攻科第1学年 A	有機合成化学 堺井（1〜2限）				化学情報工学 髙田（5〜6限）			
専攻科第2学年 P			圧縮性流体力学 宇野（3〜4限）		生産システム工学特別ゼミナールⅡ 全員（5〜6限）			
専攻科第2学年 A	機能性材料 青山（1〜2限）		応用微生物学特論 富樫（3〜4限）		応用化学特別ゼミナールⅡ 全員（5〜6限）			

金

学年・クラス	1	2	3	4	5	6	7	8
専攻科第1学年 P	環境マネジメント 井口（1〜2限、P・A共通）		センサ工学 中村（3〜4限、P・A共通）		生産システム工学特別実験 宇野・江頭・有馬・畑口・三井・阿部（5〜8限）			
専攻科第1学年 A					応用化学特別実験 全員（5〜8限）			
専攻科第2学年 P	画像処理工学 戸村（1〜2限）		生産システム工学特別研究 全員（3〜6限）					
専攻科第2学年 A			応用化学特別研究 全員（3〜6限）					

平成 23 年度 ［後期］ 授業時間割

2011/4/19
旭川工業高等専門学校

月

学年・クラス	1 (8:40〜9:30)	2 (9:35〜10:25)	3 (10:35〜11:25)	4 (11:30〜12:20)	5 (13:05〜13:55)	6 (14:00〜14:50)	7 (14:55〜15:45)	8 (15:50〜16:40)
専攻科第1学年 P	工学情報処理演習 小山（1〜2限、P・A共通）		形状処理工学特論 後藤（3〜4限）		生産システム工学特別実験 後藤・千葉(良)・小山・布施・三井・阿部（5〜8限）			
専攻科第1学年 A					応用化学特別実験 全員（5〜8限）			
専攻科第2学年 P			生産システム工学特別研究 全員（3〜6限）					
専攻科第2学年 A			応用化学特別研究 全員（3〜6限）					

火

学年・クラス	1	2	3	4	5	6	7	8
専攻科第1学年 P	材料工学特論 堀川（1〜2限）		英語会話Ⅰ 平井（3〜4限、P・A共通）		技術者倫理 岡田（5〜6限、P・A共通）			
専攻科第1学年 A	工業物理化学特論 千葉(誠)（1〜2限）							
専攻科第2学年 P	環境科学 青山（1〜2限、P・A共通）							
専攻科第2学年 A								

水

学年・クラス	1	2	3	4	5	6	7	8
専攻科第1学年 P	知能機械 佐竹（1〜2限）		電磁気学特論 笠（3〜4限）		固体電子工学 吉本（5〜6限）			
専攻科第1学年 A			環境触媒化学特論 宮越（3〜4限）					
専攻科第2学年 P					創造工学 三井 マイスター（5〜6限、P・A共通）			
専攻科第2学年 A								

木

学年・クラス	1	2	3	4	5	6	7	8
専攻科第1学年 P	エネルギー工学特論 立田（1〜2限、P・A共通）		応用解析学Ⅱ 冨永（3〜4限、P・A共通）		システム制御工学 阿部（5〜6限、P・A共通）			オフィスアワー（全学年共通）
専攻科第1学年 A								
専攻科第2学年 P			生産システム工学特別研究 全員（3〜6限）					
専攻科第2学年 A			応用化学特別研究 全員（3〜6限）					

金

学年・クラス	1	2	3	4	5	6	7	8
専攻科第1学年 P	工学情報処理演習 小山（1〜2限、P・A共通）		生産システム工学特別ゼミナールⅠ 全員（3〜4限）		生産システム工学特別研究 全員（5〜6限）			
専攻科第1学年 A			応用化学特別ゼミナールⅠ 全員（3〜4限）		応用化学特別研究 全員（5〜6限）			
専攻科第2学年 P			生産システム工学特別ゼミナールⅡ 全員（3〜4限）		生産システム工学特別研究 全員（5〜6限）			
専攻科第2学年 A			応用化学特別ゼミナールⅡ 全員（3〜4限）		応用化学特別研究 全員（5〜6限）			

（出典　教務関係資料）

資料５－５－②－５

「シラバス（例）」

科目名	電磁気学特論	JABEE科目	科目コード P11007

学年・学科等名	1 学年	生産システム工学専攻　専門的・選択
単位数・開講期	2 単位	後期
総時間数	90 時間	講義 30 ＋ 自学自習 60
担当教員	篁　耕司	

JABEE関連	教育プログラム科目区分	301専門工学科目①専門応用系
	教育プログラムの学習・教育目標	D-1(50%) D-2(50%)
	JABEE基準	d

教科書名	Electromagnetism (Gerald L. Pollack & Daniel R. Stump, Addison Wesley)
補助教材	プリント
参考書	基礎からの電磁気学（小柴正則，培風館），電磁気学を学ぶためのベクトル解析（関根松夫/佐野元昭，コロナ社），よくわかる電磁気学(宮崎照宜/加藤宏明,日刊工業新聞社)

A.　教育目標

電気磁気学は，4本の Maxwell 方程式で体系づけられた学問である。Maxwell 方程式を理解し，各法則を使って電磁気現象について説明できることが到達目標である。

B.　概要

電磁気現象は，静電気，磁石など昔からとても身近に存在する。一方で，携帯電話，パソコン，テレビなど現代の科学技術に欠かすことのできないものである。ここでは，これらの電磁気現象が，Maxwell 方程式から説明できることを学ぶ。

これまでも電磁気学について学んできたが，ここでは，さらに理解を深めるために，これまでに学んだ数学の知識を活用して，数式を使って現象を説明することに重点を置く。

C.　学習上の留意点

電気磁気学を学ぶ上で，微分・積分やベクトルといった数学的知識を良く理解していなければならない。また，英語の教科書を使うので，指示した箇所を授業の前に予習（日本語訳）することが必要不可欠である。

D.　評価方法

試験（60%），課題・レポート・日本語訳等（40%）

E.　授業内容

授業項目	時間	内　容	教育プログラム
1. History and Perspective	2	電磁気学の全体像を概観する。	D-1 D-2
2. Vector Calculus	2	電磁気学の基礎となるベクトル解析について理解できる。	
3. Basic Principles of Electrostatics	4	真空中の電磁気現象を説明できる。	D-1 D-2
4. Electrostatics and Conductors	3	Maxwell 方程式を使って，電磁気現象の本質の各法則を理解することができる。	
5. Electrostatics and Dielectrics	3		
6. Electric Currents	2		
7. Magnetostatics	2		
8. Magnetic Fields and Matter	4	物質中の電磁気現象を説明できる。	D-1

授業項目	時間	内　　容	教育プログラム
9. Electromagnetic Induction	2	真空中の場合とどのように違うのか理解することができる。	D-2
10. The Maxwell Equation	4	Maxwell 方程式の意味を理解することができる。	
11. Electromagnetism and Optics	2	電気磁気学の集大成として電磁波の基本的な性質を理解することができる。	D-1 D-2
（後期末試験）			
◆自学自習 • 英語教科書の予習 • 課題演習 • 試験の準備	60	自学自習時間として，日常の授業のための英語教科書の予習時間，理解を深めるための演習課題の考察時間，および試験準備のための勉強時間を総合して 60 時間と考えている。	D-1 D-2

F.　関連科目

電磁気学，電磁波工学，電気通信工学

（出典　専攻科シラバス2011　P.47-48）

資料５－５－②－６

「表紙」

新しい学士への途

学位授与申請案内

平成 23 年度版

独立行政法人
大学評価・学位授与機構

（出典　新しい学士への途）

資料５－５－②－７

「学位申請区分」

生産システム工学の専攻区分

専攻の区分　　専攻分野の名称

43　機械工学　　工　学

機械工学は，有用な機械を開発，設計，製造，運用，保守，廃却するために必要な技術の基礎となる広範な学問体系である。工学の分野で最も広い領域をカバーしており，最近ではコンピュータ，ソフトウェア，人間を含む生体の機能や心理的反応に関する知見を包摂し，地球環境保全対応も視野に入れつつ拡張されている。このため，学士レベルでは基礎をできるだけ幅広く学ぶことが求められる。また，実験・実習により，講義で得た知識を実際に確認することも必須である。

● 修得すべき専門科目と関連科目の単位（62 単位以上）

専攻に係る授業科目の区分		
	専門科目（40 単位以上）	
	【A群（講義・演習科目）】（30 単位以上） ○機械材料・材料力学に関する科目 ○機械工作・生産工学に関する科目 ○設計工学・機械要素・トライボロジーに関する科目 ○流体工学に関する科目 ○熱工学に関する科目 ○機械力学・制御に関する科目 ○知能機械学・機械システムに関する科目 【B群（実験・実習科目）】（６単位以上） ○機械工学に関する実験・実習科目	左のA群の区分のうちから４区分以上にわたること
	関連科目（４単位以上）	
	◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目	

専攻の区分　　専攻分野の名称

44　電気電子工学　　工　学

エネルギー，情報，通信など人間社会に必要なシステムのために，主として電磁気，光及び電子現象を利用した技術を創出し，利用する学問体系が電気電子工学であり，材料・物性・素子からシステムまでの広範囲な領域に及ぶ。電気電子工学は，社会におけるパラダイムの変化をもたらす分野であり，その変化に対応した関連技術・分野も電気電子工学分野として進展している。このため，学士レベルでは基礎を広く，また，特定の分野を深く学ぶことが要求される。さらに，実験・実習により講義で得られた知識を実際に確認することが必須である。

● 修得すべき専門科目と関連科目の単位（62 単位以上）

専攻に係る授業科目の区分		
	専門科目（40 単位以上）	
	【A群（講義・演習科目）】（30 単位以上） ○電気電子工学の基礎となる科目（４単位以上） ○電気工学に関する科目 ○電子工学に関する科目 ○情報通信工学に関する科目 【B群（実験・実習科目）】（６単位以上） ○電気電子工学に関する実験・実習科目	
	関連科目（４単位以上）	
	◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目	

専攻の区分　　専攻分野の名称

45　情報工学　　工　学

情報の処理，蓄積，伝達などに関する技術は広範囲の学問分野で扱われているが，情報工学では特定の分野に依存しない情報技術そのものに主眼を置いている。情報工学の領域で学修されるべき事項は，情報に関する基礎理論，計算機システム，情報処理の方法，およびそれを支えるハードウエアを含んでいる。学士レベルでは，これらの事項をバランスよく学ぶことが求められる。

● 修得すべき専門科目と関連科目の単位（62 単位以上）

専攻に係る授業科目の区分		
	専門科目（40 単位以上）	
	【A群（講義科目）】（30 単位以上） ○情報工学基礎に関する科目（４単位以上） ○計算機システムに関する科目（４単位以上） ○情報処理に関する科目（４単位以上） ○電気電子・通信・システムに関する科目 【B群（演習・実験・実習科目）】（６単位以上） ○情報工学に関する演習・実験・実習科目	
	関連科目（４単位以上）	
	◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目	

応用化学専攻の専攻区分

専攻の区分　　専攻分野の名称

46　応用化学　　工　学

応用化学は物質の構造を原子や分子レベルで解明し，それを物質の性質と関連させる基礎化学を基本とする。解明された基礎事実を基に，有機および無機の天然および人工化合物を作ったり，種々の人工の高分子化合物を分子設計し合成する応用化学は，広範囲の化学産業の基盤である。更に，近年急発展を遂げているバイオテクノロジーやナノテクノロジーも応用化学の一分野を形成している。

● 修得すべき専門科目と関連科目の単位（62 単位以上）

専攻に係る授業科目の区分		
	専門科目（40 単位以上）	
	【A－１群（講義・演習科目）】（20 単位以上） ○物理化学に関する科目 ○無機化学に関する科目 ○有機化学に関する科目 ○分析化学に関する科目 ○生物化学に関する科目 ○化学工学に関する科目 【A－２群（講義・演習科目）】（10 単位以上） ○工業化学・化学プロセスに関する科目 ○生命・生物工学に関する科目 ○材料化学に関する科目 【B群（実験・実習科目）】（６単位以上） ○応用化学に関する実験・実習科目	
	関連科目（４単位以上）	
	◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目	

専攻の区分　　専攻分野の名称

47　生物工学　　工　学

生物のもつ高度な機能を解明し，それを工学的に応用するための基礎となる学問体系が「生物工学」である。生物工学はバイオテクノロジーともよばれ，食品・医療から環境・エネルギーに至るまでを広くカバーする。学士としては，生物学・化学・生化学（生物化学）・生物物理学・化学工学などに関する基礎科目，さらには生物工学に関する基礎および応用に関する科目を幅広く履修することが求められる。また，同時に実験・実習を履修することにより，学んだ知識を確実に定着させることも必要である。

● 修得すべき専門科目と関連科目の単位（62 単位以上）

専攻に係る授業科目の区分	専門科目（40 単位以上）	
	【Ａ－１群（講義・演習科目）】（20 単位以上） ○生物学に関する科目 ○化学に関する科目 ○生化学に関する科目 ○生物物理学に関する科目 ○化学工学に関する科目 【Ａ－２群（講義・演習科目）】（10 単位以上） ○生物工学に関する基本的科目 ○生物工学の応用に関する科目 【Ｂ群（実験・実習科目）】（６単位以上） ○生物工学に関する実験・実習科目	
	関連科目（４単位以上）	
	◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目	

（出典　新しい学士への途　P.92-96）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科課程修了時の到達目標が明確に定められている。これを達成するため，授業内容がシラバスによって決められ，各学年に適切に配置されている。また，学士の学位取得が可能な授業科目編成が行われている。

以上のことから，授業科目が適切に配置され，教育課程の体系性が確保されている。また，授業の内容が，教育の目的を達成するために適切なものになっている。

観点５－５－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程では，他大学（放送大学，旭川ウェルビーイング・コンソーシアムを含む）等で修得した単位については，20単位を限度として認定される（資料５－５－③－１～３）。インターンシップは必修科目で，基本的には夏休みの４週間を旭川近郊の企業で実務体験するもので，学校では経験し得ない実際の課題に取組み，問題解決能力を養うことを目的としている（資料５－５－③－４～７）。インターンシップ終了後は，報告書の提出と実習先の担当者を交えた場での発表会が行われている（資料５－５－③－８，９）。

本校は，国際的に活躍できる技術者の養成を目的に掲げている。そこで専攻科では，外国語の伝達と読解の基礎能力育成のため，英語（外国人講師）による専門授業を６時間，特別ゼミナールの中で行っている（資料５－５－③－10）。また，高専機構が主催する海外インターンシップ，ノースカロライナ州立大学へのインターンシップへ積極的に参加し，その支援を行っている（資料５－５－③－11）。

資料５－５－③－１

「他大学等での修得単位」

〔他の教育施設において履修した単位の認定〕
第８条　大学及び他の教育施設において開設する授業科目の履修を希望する者は，事前に別に定める「受講届」を提出しなければならない。
２　前項の規定により授業科目を履修し修得した単位については，２０単位を超えない範囲で専攻科における授業科目の履修とみなし，単位の修得を認定することができる。

（出典　平成23年度学生生活のしおり　P.119）

資料５－５－③－２

「旭川ウェルビーイング・コンソーシアムにおける趣意書」

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム
における単位互換に関する協定書

この協定に参加する高等教育機関（以下「学校」という。）は、各学校の規則に定めるところにより、各学校の学生がそれぞれ他の学校が指定する授業科目（多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる授業科目を含む。）を相互に履修の上、単位を修得することを認めることとし、次のとおり協定を締結する。

(受入れ)
第１条　この協定に参加する学校に在学する学生が、他の学校が指定する授業科目を履修し、単位の修得を希望するときは、当該学生を受け入れるものとする。

(単位互換履修生(特別聴講学生))
第２条　各学校は、前条により受け入れた学生を「単位互換履修生(特別聴講学生)」（以下「聴講学生」という。）として取り扱う。

(履修期間)
第３条　聴講学生の履修期間は、各学校の定めるところによる。

(授業科目の範囲及び単位数)
第４条　履修できる授業科目の範囲及び修得できる単位数は、各学校の定めるところによる。

(受入学生数)
第５条　各学校の受け入れる学生数は、各学校の定めるところによる。

(受入手続)
第６条　聴講学生の受け入れ手続は、各学校の定めるところによる。

(単位の認定)
第７条　聴講学生の履修方法、単位の認定については、科目開設学校の学生の場合と同様とする。

(授業料等)
第８条　聴講学生の検定料、入学料及び授業料等は、各学校において徴収しない。

(有効期間)
第９条　この協定の有効期間は、平成 22 年４月１日から効力を生ずるものとし、第 10 条の規定に定めるところによって終了されるまで効力を有する。

（出典　旭川ウェルビーイング・コンソーシアム　ホームページ）

資料５－５－③－３

「旭川ウェルビーイング・コンソーシアム単位互換授業科目一覧」

旭川ウェルビーイング・コンソーシアムにおける単位互換授業科目一覧(案)

開講大学	科目名	担当教員	備考
旭川医科大学	教養論	藤尾　均	
	医系文学	藤尾　均	
	医療のラテン語	藤尾　均	
	世相史	藤尾　均	
	青少年文化論	池上　将永	
	科学論文の読み方・書き方	林　要喜知　他	
北海道教育大学旭川校	社会調査法	須田　康之	
	近代小説を読む	片山　晴夫	
	子どもと情報メディア	村田　育也	
旭川大学	コミュニティ福祉への招待	山内　亮史	
	北海道経済論	竹中　英泰	
	地域経済論Ⅰ・地域経済論Ⅱ	吉地　望	
	あさひかわ学	竹中　英泰　他	
	哲学的人間論	信木　晴雄	
	障害者福祉論Ⅰ	永井　順子	
	食と健康	豊島、吉原、若杉、金澤	
	北海道学	吉地、菅野、片山	
東海大学芸術工学部	テクノロジーと社会(文理融合科目)	小川　博	
	自然の科学(理系科目)	山岸　宏一	
	生命と環境(文理融合科目)	小河　幸次	
	社会・文化史(文系科目)	川島　洋一	
	文化と自然(文理融合科目)	石田　秀樹、小河　幸次、立原　祥弘	
	知識とコミュニケーション(文理融合科目)	渡辺　宏二	
旭川工業高等専門学校	情報ネットワーク	小山　貴夫	
	環境科学(旭川医大開講。非常勤講師)	青山　陽子	
	機器分析	古崎　睦、梅田　哲	
	数値解析Ⅰ	今野　廣	
	技術者倫理	岡田　昌樹	

(出典　旭川ウェルビーイング・コンソーシアム　教育センター会議　議題４資料)

資料５－５－③－４

「シラバス（インターンシップ）」

科目名	インターンシップ	JABEE科目	科目コード 617

学年・学科等名	1 学年	専攻共通　専門的・必修
単位数・開講期	4 単位	
総時間数	180 時間	実習 120 ＋ 自学自習 60
担当教員	三井　聡・宇野　直嗣・有馬　達也・戸村　豊明・沼田　ゆかり	

JABEE関連	教育プログラム科目区分	304専門工学科目④実務対応系
	教育プログラムの学習・教育目標	E-3(100%)
	JABEE基準	dh

教科書名	
補助教材	
参考書	

A.　教育目標

企業・研究機関等で4週間の就業体験を通し，企業の技術者の指導のもとで，学校では経験しない実際の課題に取り組み，実務体験する。さらに，高専5年間に得られた知識，能力をさらに発展し，問題解決能力を養うことを目的とし，技術者が社会に負っている責任を自覚し，技術者としての心構えについて学習する。

B.　概要

本科目は4単位としているが，インターンシップ先の都合で単位が満たせない場合は，他の実習先で単位を補う。また，専攻主任が実習先に期間中訪問し，企業等の対応責任者と業務内容，就業の様子を聞く。インターンシップ終了後，実習証明書，報告書を提出する。さらに，報告会において成果を発表する。

C.　学習上の留意点

受入企業等の中から，学生の希望，企業等の要望を勘案し，インターンシップ先（民間企業，国，地方公共団体等）を決める。ただし，インターンシップ先については本人の希望を考慮するが，インターンシップ先の都合により希望に沿えない場合もある。課題はインターンシップ先から与えられ，与えられた制約の下で，自主的，積極的に仕事を進める。インターンシップ目的，心構え，社会のルール等について理解し，行動すること。

D.　評価方法

評価項目	指針	評価割合
企業の評価	・複眼的な思考能力をもとに，創造的に課題探求・解決を行ったか。	30 点
学生の報告書	・複眼的な思考能力をもとに，創造的に課題探求・解決を行ったか。	30 点
報告会	・資料等のわかりやすさ，発表のわかりやすさ，時間配分，質疑応答の的確さ。	20 点
インターンシップへの取組み	・自らが考えて課題解決を進めたか。	20 点

E.　授業内容

授業項目	時間	内容	教育プログラム
インターンシップ事前準備 1. インターンシップ期間 2. インターンシップ先となる企業等 3.課題	120	原則として，4週間（120時間）とする。 旭川高専産業技術振興会会員企業を中心とし，その他受け入れ可能な国，地方公共団体，教育委員会，大学等で補う。 インターンシップ先からのテーマを学生と企業等の間で協議し決定する。	E-3
インターンシップ期間		与えられたテーマについて問題解決できるよう企画，方策が提案でき，担当者との討論ができる。 作業を進める上でPDCAを考えながら，継続的に実行できる。 グループ内での責任を理解し，自主的な行動ができる。 地域・企業・研究機関との連携を通じて，社会貢献の意義を理解し，行動できる。	
インターンシップ後 1.報告書の作成 2.インターンシップ先からの評価 3.報告会		学生はインターンシップ終了時に報告書を作成し，実習先と学校に提出する。 得られた成果を論理的な文章にまとめ，分かりやすい表現ができる。 インターンシップ先から学生の実習状況について，評価書を学校に提出していただく。 旭川高専産業振興会会員企業等が参加し，インターンシップ報告会を行う。 成果の整理と分かりやすいプレゼンテーション資料が作成できる。 質疑に対して考えをまとめ，適切に答えることができる。	
◆自学自習	60	インターンシップの事前準備，報告書作成，報告会の発表準備（要旨集，プレゼンテーション資料）のための時間を総合して60時間と考える。	

F.　関連科目

卒業研究，実験，実習

旭川高専 2010

（出典　専攻科シラバス2011　P.27-28）

資料５－５－③－５

「インターンシップ実施要項」

平成２２年度

専攻科インターンシップの手引

旭川工業高等専門学校

目　　次

１　インターンシップとは

（１）インターンシップのメリット　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

２　インターンシップに臨むに当たっての心構え及び留意事項

（１）インターンシップで持参するもの　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

（２）インターンシップの前にすること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

（３）インターンシップ初日に注意すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

（４）インターンシップ中に注意すること

①　全般について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

②　指導責任者との関係　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

③　職場との関係　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

④　他のインターンシップ学生との関係　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

⑤　健康・衛生面での注意事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

⑥　事故が起こった場合の対応　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

⑦　守秘義務について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

⑧　最終日に注意すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

（５）インターンシップの終了後について

①　終了報告と礼状の送付　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

②　インターンシップ報告書の提出　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

３　インターンシップ報告会について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

４　インターンシップの成績評価及び単位認定について　・・・・・・・・・・・・・・・・　４

５　損害賠償保険について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

６　学校への連絡先　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

巻末
・シラバス
・「インターンシップ報告書」様式
・「平成２２年度インターンシップ報告会要旨集」作成要領

（出典　専攻科インターンシップの手引　）

資料５－５－③－６

「インターンシップ受入企業」

平成22年度専攻科インターンシップ実習先・結果

専攻	氏名	機関名	単位数
P	[redacted]	株式会社アサヒ建設コンサルタント	4
		有限会社COM泉屋	4
		株式会社電業社機械製作所	2
		株式会社カンディハウス	3.5
		株式会社檜山鉄工所	4
		株式会社コンピュータービジネス	4
		高砂酒造株式会社	4
		株式会社コンピュータービジネス	4
		北海道電力株式会社旭川支店	4
		北海道電力株式会社旭川支店	4
		株式会社カンディハウス	4
		株式会社総北海	4
		豊橋技術科学大学	1
		株式会社総北海	3
		山梨大学工学部	2
		株式会社檜山鐵工所	2
		株式会社コンピュータービジネス	4
		株式会社コンピュータービジネス	4
		北海道立総合研究機構 農業研究本部　上川農業試験場	2

専攻	氏名	機関名	単位数
A	[redacted]	北海道立総合研究機構 森林研究本部　林産試験場	4
		高畑精工株式会社(公募)	1
		北海道立総合研究機構 森林研究本部　林産試験場	3
		北海道大学環境科学院 （坂入信夫先生）	2
		北海道大学 大学院工学研究院 有機プロセス工学部門 大学院総合化学院 総合化学専攻分子化学コース 反応有機化学研究室	2
		独立行政法人北海道立総合研究機構 農業研究本部　上川農業試験場	2
		東燃ゼネラル株式会社 (公募)	2
		北海道大学大学院歯学研究科 口腔医学専攻 口腔健康科学講座 生体理工学教室	4
		北海道立総合研究機構 森林研究本部　林産試験場	4
		高砂酒造株式会社	4

2A	[redacted]	ノースカロライナ州立大学	既修得

事故等情報 [redacted]（電業社機械製作所） 8月3日　午後から体調不良のため，先方会社対応にて病院へ→軽度の熱中症。
8月4日は会社指示により欠勤

（出典　学生課資料）

資料５－５－③－７

「インターンシップ単位認定実績」

インターンシップ証明書

平成 22 年 10 月 1 日

旭川工業高等専門学校長　殿

受入企業等名

責任者氏名

学生氏名	旭川工業高等専門学校 生産システム　工学科・専攻　第 1 学年 氏　名
インターンシップ期間	平成 22 年 8 月 19 日（木）～平成 22 年 9 月 15 日（水） 勤務時間：8 時 00 分 ～ 17 時 00 分
勤務状況	出勤　欠勤　遅刻　早退 20 日　日　日　日
テーマ	・如床生能系維持回復業務における仕切柵に関連する（オーバーパス，マンパス等）設計案の2次元図面化 ・留頭管内農業水利施設機能診断調査業務における用水路，排水路の現地踏査模式図の作成
インターンシップ成績評定	5優れている　4良好　3普通　2やや劣る　1劣る
取組姿勢	5　4　3　2　1
理解力	5　4　3　2　1
内容のまとめ方	5　4　3　2　1
協調性	5　4　3　2　1
総合所見	・留頭管内機能診断調査業務に関して ・はじめに，本人へ本地区全体図及び現地写真を基に業務の概略を説明． ・農業水利施設機能診断に携わるのは，はじめてにもかかわらず本業務の目的趣旨を直ぐに正しく理解し，方針も把握し，理解力の早さに優れていると思います． ・4週間程度の期間にもかかわらず，機能診断調査の手順を正しく理解し，BVCADを用いて現場写真や水利施設状況を分かりやすく現地踏査図に反映させるなど技術者としての能力の高さを感じます． ・どの様な職種に就こうが，企業にとって貴重な人材として育つことは間違いありません．

（出典　学生課資料）

資料５－５－③－８

「平成２２年度インターンシップ発表会要旨集」

平成 22 年度

旭川工業高等専門学校専攻科
インターンシップ報告会要旨集

独立行政法人国立高等専門学校機構

旭川工業高等専門学校

平成 22 年度　旭川工業高等専門学校専攻科
インターンシップ報告会

１．日　　時　　平成 22 年度 12 月 8 日（水）14：00～17：50

２．会　　場　　ロワジールホテル旭川　2 階　「ザ・イーストルーム」

（旭川市 7 条 6 丁目　℡0166-25-8811）

３．主　　催　　旭川工業高等専門学校

４．次　　第　　１　開会挨拶

２　学生報告

３　企業等と学校・学生との意見交換

４　閉会挨拶（専攻科長）

資　　料　　平成 22 年度インターンシップ実施結果
専攻科教育課程表
インターンシップシラバス

（出典　平成22年度インターンシップ発表会要旨集）

資料５－５－③－９

「平成２２年度インターンシップ発表会要旨集プログラム」

プ　ロ　グ　ラ　ム

				ページ
14:00	開会挨拶	旭川工業高等専門学校長	高橋　英明	
14:05	株式会社コンピューター・ビジネス	生産システム工学専攻 生産システム工学専攻 生産システム工学専攻 生産システム工学専攻	[redacted]	1
14:21	株式会社檜山鐵工所	生産システム工学専攻 生産システム工学専攻		3
14:33	株式会社カンディハウス	生産システム工学専攻 生産システム工学専攻		5
14:45	株式会社総北海	生産システム工学専攻 生産システム工学専攻		7
14:57	北海道電力株式会社旭川支店	生産システム工学専攻 生産システム工学専攻		9
15:09	高砂酒造株式会社	生産システム工学専攻 応用化学専攻		11
15:21	北海道立総合研究機構 農業研究本部　上川農業試験場	生産システム工学専攻 応用化学専攻		13
15:33		休憩		
15:48	北海道立総合研究機構	応用化学専攻	[redacted]	15
15:54	森林研究本部　林産試験場	応用化学専攻		17
16:00		応用化学専攻		19
16:08	株式会社アサヒ建設コンサルタント	生産システム工学専攻		21
16:16	有限会社 COM 泉歴	生産システム工学専攻		23
16:24	株式会社電業社機械製作所	生産システム工学専攻		25
16:32	東燃ゼネラル株式会社	応用化学専攻		27
16:40	タカハタプレシジョン株式会社	応用化学専攻		29
16:48	豊橋技術科学大学	生産システム工学専攻		31
16:56	山梨大学工学部	生産システム工学専攻		33
17:04	北海道大学大学院環境科学院	応用化学専攻		35
17:12	北海道大学大学院工学院	応用化学専攻		37
17:20	北海道大学大学院歯学研究科	応用化学専攻		39
17:28	企業等との学校・学生との意見交換			
17:43	閉会挨拶	旭川工業高等専門学校専攻科長	三井　聡	

（出典　平成２２年度インターンシップ発表会要旨集）

資料５－５－③－10

「英語（外国人講師）による専門授業」

平成 22 年 11 月 26 日

教員各位

専攻科長　三井

専攻科１年生を対象にした英語（外国人講師）による専門授業を下記要領で実施します。６時間という短い時間ですが，専攻科 1 年生（強制）に限らず，２年生，教員の方々にも出席していただければありがたいです。

記

【応用化学専攻】
＜講師＞　カートハウス教授　Dr. Olaf Karthaus（千歳科学技術大学）
＜内容＞　「科学の専門用語」，「論文の読み方」，「実験を英語で説明する」
　　「学会発表にパワポイントスライドの作製」
＜場所＞　専攻科講義室２
＜日時＞
　　１２月１０日（金）１０：３５～１２：２０（３，４時間目）
　　１２月１３日（月）１０：３５～１２：２０（３，４時間目）
　　１２月１７日（金）１０：３５～１２：２０（３，４時間目）

【生産システム工学専攻】
＜講師＞　ジェプカ助教　Dr. Rafal RZEPKA　（北海道大学）
＜内容＞　「人工知能の最先端の話題」
＜場所＞　制御棟２階ＣＡＤ/ＣＡＭ演習室
＜日時＞
　　１２月１０日（金）１０：３５～１２：２０（３，４時間目）
　　１２月１３日（月）１０：３５～１２：２０（３，４時間目）
　　１２月２０日（月）１０：３５～１２：２０（３，４時間目）

月曜日は応用化学特別ゼミナールⅠ，生産システム工学特別ゼミナールⅠの時間ですが，講師の都合でこのような日程にさせていただきました。指導学生のいる先生方には大事な時間と重ねてしまい，申し訳ありません。
また，授業と重なっている先生には，大変申し訳ありませんが，授業を振替ていただきたいと思います。
貴重な体験ができると思いますので，学生への指導よろしくお願いします。

以上です。

（出典　専攻科長Eメール）

資料５－５－③－11

「ノースカロライナ州立大学成績表」

Student Internship Evaluation Form

Date: August 13, 2010

To: Dr. Hideaki Takahashi
President
Asahikawa National College of Technology

Student Name [redacted]

Program period: July 26 ~ August 13, 2010

Advisor's Name/ Organization:
Dr. Gracious Ngaile, North Carolina State University, Raleigh NC, USA

	Excellent	Good	Fair	Average	Poor	N/A
Comprehension and Communication						
Listens to and understands assignments		✓				
Asks appropriate questions/seeks clarification		✓				
Effective written and oral communication		✓				
Works well as a team player/with others	✓					
Attitude/Work Habits						
Seeks out and uses constructive criticism		✓				
Adaptable and flexible	✓					
Punctual and reliable	✓					
Shows initiative	✓					
Enthusiastic/willing to learn	✓					

Describe the assignments, projects, and tasks of the student.

(1) Prepared a two page write-up on tube hydroforming technology
(2) Learned how to use a Rapid Prototype Machine(3D printing), fabricated a part and prepared a report on how to run this machine
(3) Participated in conducting tube hydroforming experiments with graduate students
(4) Gave a PPT presentation covering all tasks that were carried out during this training.

Overall Comments:
Kawabata is a very good student with good work ethics. I had asked them to give a presentation in Japanese so that I can gauge how much he understood. I was very impressed on how they presented all the activities. They were confident and showed great understanding of the materials. The training period was shorter but the students seemed to have grasped a lot of materials.

Ngaile
Signature of Advisor

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

放送大学の単位認定，旭川ウェルビーイング・コンソーシアムの単位互換科目認定の仕組みが整備されている。企業や学生のニーズへの対応として，インターンシップが行われている。

また，国際的に活躍できる技術者の養成のため，海外インターンシップへの積極的な参加を支援する目的で，英語（外国人講師）による専門授業も実施している。

以上のことから，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程を編成し，継続している。

観点５－６－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程は，教育目標を達成するため講義，演習，実験及び実習の授業形態がとられている。これらのほぼすべてが第１学年で行われ，講義の一部と特別研究や創造工学が主に第２学年に配当されている（資料５－６－①－１）。専攻科課程の定員は，生産システム工学専攻が12名，応用化学専攻が４名であり，少人数での授業が行われ，学生個々人に対するきめ細かな指導が可能となっている。「工学情報処理演習」は，情報機器を活用した授業となっている（資料５－６－①－２）。また，創造工学はPBL(Problem Based Learning)を実施する演習科目で，地元企業から与えられた課題を解決するため積極的に調査等を実施しており，フィールド型授業を展開している（資料５－６－①－３，４）。

資料５－６－①－１

「授業科目及び開設単位数」専攻科

（生産システム工学専攻）

区分		授業科目	開設単位数	学年別配当		備考
				第１学年	第２学年	
教養科目	必修科目	英語講読	2	2		
		英語会話Ⅰ	2	2		
		英語会話Ⅱ	2	2		
		技術者倫理	2	2		
	小計		8	8		
専門関連科目	必修科目	環境マネジメント	2	2		
		工学情報処理演習	2	2		
		応用解析学Ⅰ	2	2		
		応用解析学Ⅱ	2	2		
		環境科学	2		2	
	選択科目	エネルギー工学特論	2	2		
		電気回路特論	2	2		
		生命科学	2	2		
		メカトロニクス特論	2		2	
		システム制御工学	2	2		
		センサ工学	2	2		
		計算力学特論	2		2	
	小計		24	18	6	
専門的科目	必修科目	生産システム工学	2	2		
		生産システム工学特別研究	10	2	8	
		生産システム工学特別実験	4	4		
		エンジニアリングデザイン	2		2	
		生産システム工学特別ゼミナールⅠ	2	2		
		生産システム工学特別ゼミナールⅡ	2		2	
		材料工学特論	2	2		
		インターンシップ	4	4		
	選択科目	連続体力学	2	2		
		圧縮性流体力学	2		2	
		電磁気学特論	2	2		
		集積回路設計	2	2		
		固体電子工学	2	2		
		情報セキュリティ概論	2		2	
		画像処理工学	2		2	
		知能機械	2	2		
		形状処理工学特論	2	2		
		レーザー分光	2		2	
	小計		48	24	20	
開設単位数合計			80	50	26	
修得単位数合計			62以上	62以上		選択科目から16単位以上修得

※学年別配当欄の専門的科目小計の項及び開設単位数合計の項には，インターンシップの単位数は含んでいない。

（応用化学専攻）

区分		授業科目	開設単位数	学年別配当		備考
				第１学年	第２学年	
教養科目	必修科目	英語講読	2	2		
		英語会話Ⅰ	2	2		
		英語会話Ⅱ	2	2		
		技術者倫理	2	2		
	小計		8	8		
専門関連科目	必修科目	環境マネジメント	2	2		
		工学情報処理演習	2	2		
		応用解析学Ⅰ	2	2		
		応用解析学Ⅱ	2	2		
		環境科学	2		2	
	選択科目	エネルギー工学特論	2	2		
		電気回路特論	2	2		
		生命科学	2	2		
		メカトロニクス特論	2		2	
		システム制御工学	2	2		
		センサ工学	2	2		
		計算力学特論	2		2	
	小計		24	18	6	
専門的科目	必修科目	工業物理化学特論	2	2		
		応用化学特別研究	10	2	8	
		応用化学特別実験	4	4		
		エンジニアリングデザイン	2		2	
		応用化学特別ゼミナールⅠ	2	2		
		応用化学特別ゼミナールⅡ	2		2	
		化学情報工学	2	2		
		インターンシップ	4	4		
	選択科目	応用有機化学特論	2	2		
		生物工学特論	2		2	
		機能性材料	2		2	
		機器分析特論	2		2	
		複合材料	2	2		
		応用微生物学特論	2		2	
		環境触媒化学特論	2	2		
		有機合成化学	2	2		
		生物資源化学特論	2		2	
	小計		46	20	22	
開設単位数合計			78	46	28	
修得単位数合計			62以上	62以上		選択科目から16単位以上修得

※学年別配当欄の専門的科目小計の項及び開設単位数合計の項には，インターンシップの単位数は含んでいない。

（出典　平成23年度学生生活のしおり　P.76-77）

資料５－６－①－２

「シラバス（工学情報処理演習）」

科目名	工学情報処理演習	JABEE科目	科目コード Z11006

学年・学科等名	1 学年	専攻共通	専門関連・必修
単位数・開講期	2 単位	後期	
総時間数	90 時間	演習 60 ＋ 自学自習 30	
担当教員	小山　貴夫		

JABEE関連	教育プログラム科目区分	103一般基礎科目情報技術系
	教育プログラムの学習・教育目標	A-1(90%) D-2(10%)
	JABEE基準	cd

A.　教育目標

- 本授業は、基礎的な統計処理および情報処理技術の基礎知識の習得を目的とする。
- Excel の Visual Basic for Application(VBA)を用いたマクロの作成・実行方法を習得することを目的とする。
- 研究計画策定のための特許情報収集と分類処理の効率化を行う。

B.　概要

- Excel（スプレッドシート）は一般企業においてもデータの分析・整理に広く用いられているソフトウェアである。
- 本演習を通して、情報処理および Excel の利用方法を習得する。
- 特に、本演習の前半においては、Excel を用いた大量データ整理、統計方法を習得する。
- 後半部分において、Excel のマクロおよび VBA を用いて、複雑な処理を簡単に行うことができるアプリケーション作成方法を習得する。
- 研究計画を立案する際の先行研究情報の収集と整理を効率的に行う方法論について習得する。パテントマップ作成の基礎を習得する。

C.　学習上の留意点

統計処理等について Excel の使い方だけでなく、統計値が表す意味を論理的に説明できる能力を身に付けることを期待する。

演習時に作成した課題は必ず期限内に計画的に作成し、提出する。また、課題等の説明する発表用資料を作成し、プレゼンテーションを行う。

D.　評価方法

課題および報告書の内容（70%）、プレゼンテーションの資料および発表能力（30%）の成績にて評価する。

E.　授業内容

授業項目	時間	内　　容	教育プログラム
1.ガイダンスと Excel 基本操作と表計算	4	• 本演習について、説明を行う。 • Excel の基本的機能、セルを参照した計算式について使用することができる。	A-1
2.グラフ作成と大量のデータ入力	4	• データ種類および説明事項に応じたグラフが作成できる。 • 大量データの入力が効率的に処理できる。	A-1
3.データのフィルタリング（並び替えと抽出）	4	• 条件に従ったデータの並べ替えができる。 • 任意の条件に基づく、データの抽出ができる。 • ピボットテーブル機能を利用できる。	A-1

授業項目	時間	内　　容	教育プログラム
4.度数分布表による一次元のデータの整理と分析	4	• 一次元のデータ整理・分析として、度数分布表・ヒストグラムを用いることができる。	A-1
5.代表値・散らばりの尺度の算定	4	• データの代表値（算術平均、加重平均、中央値、分位点）を計算し、分析することができる。 • データの散らばりの尺度（範囲、四分位偏差、分散、標準偏差）を計算し、分析することができる。	A-1
6.二次元のデータの整理と分析	8	• 二次元から構成されるデータから、散布図、分割表を作成し、データの分析ができる。 • 二次元から構成されるデータから、相関係数と共分散を計算し、データの分析ができる。	A-1
7.実データの解析	8	• 現実のデータに対して、これまでに行った統計処理を利用することができる。 • 解析結果のプレゼンテーションを行う。	A-1
8.実験計画法	8	• 実験計画法の原理を理解し、利用できる。 • 実験結果の検定・推定をExcelの機能を用いて行うことができる。	A-1
9.Excel マクロおよび VBA の基礎の習得	4	• ワークシートからの入出力方法をマクロによって実現できる。 • ユーザー定義関数を作成することができる。 • 指定した範囲からの入力方法をマクロにて実現できる。 • 任意の位置からのセルの値の入力方法をマクロにて実現できる。 • 繰り返し処理を行う VBA を作成することができる。	A-1
10. 配列の利用	4	• 配列を用いた VBA を作成することできる。	A-1
11. IPDL（特許電子図書館）の利用と特許情報の整理	8	• IPDL の利用方法を理解し、情報収集できる。 • パテントマップ作成方法の基本を習得し、自ら作成することができる。 • EXCEL の機能を用いて、キーワードによる分類を行うことができる。 • 自分の研究テーマに関する特許情報を収集し、分類・整理した内容をプレゼンテーションすることができる。	A-1、D-2
◆自学自習 ・予習復習 ・演習課題 ・プレゼンテーションの準備	30	自学自習時間として、日常の演習の理解を深めるための演習課題の考察・解法の時間、プレゼンテーションの資料作成および発表内容をまとめる時間を総合して 30 時間と考える。	A-1

F.　関連科目

（出典　専攻科シラバス2011　P.11-12）

資料５－６－①－３

「シラバス（創造工学）」

科目名	創造工学	JABEE科目	科目コード 618

学年・学科等名	2 学年	生産システム工学専攻　専門的・必修
単位数・開講期	2 単位	通年
総時間数	90 時間	演習 60 ＋ 自学自習 30
担当教員	三井　聡・宇野　直嗣・有馬　達也・戸村　豊明・沼田　ゆかり・非常勤講師	

JABEE関連	教育プログラム科目区分	303専門工学科目③課題解決系
	教育プログラムの学習・教育目標	D-3(60%) E-2(20%) E-3(20%)
	JABEE基準	deh

教科書名	
補助教材	
参考書	

A.　教育目標

工学基礎科目と専門基礎関連科目で展開し，学生の自発的学習，論理的思考，グループ活動，プレゼンテーションなどの能力を養成し，技術者・研究者として指導できる能力を育成することを目標とする。さらに，チームで協力しながら総合的なエンジニアリング・デザインを体験する。

B.　概要

豊富な知識と経験を持つ企業経験者（マイスター）による技術者教育を導入する。マイスターの指導のもとでチームごとに異なる課題を解決していくエンジニアリング・デザイン教育を実施する。

与えられた課題について，チームで様々な角度から取り組み方や具体化の方法を調査・検討し，発表する。次に，実際に具体化し，その結果を検証し，成果を発表する。

C.　学習上の留意点

チームごとに配置されたマイスターの指導のもとで，地域企業等のニーズを調査し，課題を探す。課題解決のため，調査に基づいて企画，立案し，進捗状況に応じて計画等の修正を行ないながら，具体化していき，その成果を発表する。毎週進捗レポートを提出し，2回のプレゼンテーションを行う。積極的に参加すること。

D.　評価方法

評価項目	学習・教育目標	指針	評価割合
企画・デザイン力（内容理解度）	D-3	・課題に対して，どのように実験，調査を進め，目標に到達できるかを考え，企画したか。 ・課題の内容を理解し，地域貢献，環境等に配慮した考え方ができるようになったか。 ・積極的に課題設定，調査方法，課題探求，実験方法等について検討，実行したか。	60 点
チームワーク	E-2	・チームメンバー間で強調し，討議を行いながら課題解決を進めたか。	20 点
創造性	E-3	・課題に関連する分野の知識，情報等を理解し，自ら考えて進めた内容・方法があったか。	20 点

E.　授業内容

授業項目	時間	内　　容	教　育 プログラム
オリエンテーション	2	マイスター，チーム編成を行い，教育プログラムの説明を受ける。 目的，心構え，社会のルール等について理解し，行動できる。	
課題設定，企画	4	チームで協力しながら課題を設定し解決する方策を考える。 与えられた課題について解決できるよう企画，方策が提案でき，担当者との討論ができる。 チーム内での責任を理解し，自主的な行動ができる。 作業を進める上で PDCA を考えながら，継続的に実行できる。	D-3 E-2
プレゼンテーション	2	企業経験者（アドバザー，マイスター，コーディネータ），学生間でチームごとの課題，解決方法について発表し，討論を行う。 課題設定，調査方法，課題の探求，実験方法，器具，条件について調査したことを説明することができる。 成果の整理と分かりやすいプレゼンテーション資料が作成できる。質疑に対して考えをまとめ，適切に答えることができる。	D-3 E-2 E-3
企画立案，修正	2	課題，解決方法，計画等の修正を行なう。 作業を進める上で PDCA を考えながら，継続的に実行できる。	D-3 E-3
実践	18	課題解決のため，進捗状況に応じて計画等の修正を行ないながら作業を進める。 作業を進める上で PDCA を考えながら，継続的に実行できる。 各自が問題を設定し，課題を解決することができる。	D-3 E-3
プレゼンテーション	2	各自成果の発表を行い，討論する。 成果の整理と分かりやすいプレゼンテーション資料が作成できる。質疑に対して考えをまとめ，適切に答えることができる。	D-3 E-3
◆自学自習 調査,準備	30	課題や実験方法に関する調査，実験・討論・発表のための準備等を総合して 30 時間と考えている。	D-3 E-2

F.　関連科目

専門科目

（出典　専攻科シラバス2011　P.34-35）

資料５－６－①－４

「創造工学成果報告会」

平成２２年度　旭川高等専門学校専攻科
創造工学成果報告会

１．日　　時　　平成２２年２月９日（水）　１０：３５～

２．会　　場　　階段教室

３．次　　第　　１　開会挨拶（校長）

２　成果報告

① ビートハーベスタの改良
② 簡易型ドライブレコーダの開発
③ 近赤外分光法を利用したイモ選別機の開発
④ 車いす座面上下機構の開発

３　アドバイザーによる評価

４　閉会挨拶（専攻科長）

（出典　創造工学報告会資料）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科課程の教育目的を達成するために，講義，演習，実習及び実験の授業形態がバランスよく配置され，教育内容に応じた適切な学習指導方法の工夫もなされている。

以上のことから，専攻科課程では，教育目標を達成するため，適切な学習指導が行われている。

観点５－６－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

「環境・生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標（資料５－６－②－１）が定められ，この目標に基づき専攻科課程のシラバスが作成されている（資料５－６－②－２）。この中で，科目の概要と到達目標，教育プログラムによる学習・教育目標との対比がなされ，学習上の留意点，評価方法，授業内容，関連科目が示され，教育課程の編成の趣旨に沿ったものとなっている。シラバスの活用については，シラバスどおりに教育が実施されたかの確認として，隔年で授業評価アンケートを実施し，その活用を確認しているが，その結果，シラバスが学生と教員にとって教育課程の展開上有効であることがわかった（資料５－６－②－３）。

資料５－６－②－１

「「環境・生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標」

「環境・生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標

根拠：「環境・生産システム工学」教育プログラム履修規程第２条

A　地域社会，産業社会の様々な要求に応える情報機器・分析機器を使いこなし，新しい技術に対応できる能力を持った技術者の育成
- A－１　数学・自然科学・情報技術に関する知識を有し，それを活用することができる。
- A－２　基礎工学の知識・能力をもとに，地域，社会の要求を理解し分析することができる。
- A－３　基礎的実験・実習技術を習得し，必要とされるスキルと知識を活用することができる。

B　つねに日本及び世界の歴史，文化を視野に収め，科学技術が社会や自然環境に及ぼす影響を考察し，その社会的責任を自覚する技術者倫理を持った技術者の育成
- B－１　文化の多様性を認識するとともに，日本の文化について理解し，説明することができる。
- B－２　地球的視点から多面的に考え，教養を高めるための努力を継続することができる。
- B－３　専門分野の立場から職業的倫理を持ち，自己の技術行為が及ぼす影響について考察することができる。

C　論理的思考に支えられた明晰な日本語によって記述し，発表する能力，学会等において討議できるコミュニケーション能力及び国際的な場でのプレゼンテーション等の基礎的コミュニケーション能力を持った技術者の育成
- C－１　適切な日本語を用いて，記述・発表・討議することができる。
- C－２　外国語による基礎的コミュニケーションができる。
- C－３　英語による技術論文，取扱説明書等を理解することができる。

D　多様な工業技術システムを理解し，地球環境にやさしい技術や研究開発を企画，設計，デザインする能力を持った技術者の育成
- D－１　基礎工学及び専門工学に関する知識・能力を有し，それを活用することができる。
- D－２　データを分析・解釈し，結論を導き出すことができる。
- D－３　工学全般の知識・技術をもとに，環境に配慮した技術や研究を企画し，デザインすることができる。

E　多角的視点で自ら考え，新たな価値を創造・開発でき，それをシステム化し，あるいは再構築する能力を持った技術者の育成
- E－１　共通的工学関連分野の知識を有し，自主的・継続的に学習することができる。
- E－２　チーム活動を通して，メンバーの同意形成を図り，協調しながら一つの目的を成し遂げることができる。
- E－３　複眼的な思考能力をもとに，創造性を発揮して課題を探求・解決することができる。

（出典　平成23年度学生生活のしおり　P.120-121）

資料５－６－②－２

「シラバス（例）」

科目名	工業物理化学特論	JABEE科目	科目コード A11001

学年・学科等名	1 学年	応用化学専攻　専門的・必修
単位数・開講期	2 単位	後期
総時間数	90 時間	講義 30 ＋ 自学自習 60
担当教員	千葉　誠	

JABEE関連	教育プログラム科目区分	301専門工学科目①専門応用系
	教育プログラムの学習・教育目標	D-1(50%) D-2(50%)
	JABEE基準	d

教 科 書 名	
補 助 教 材	プリント
参 考 書	Chemistry : Principles and Applications（M. J. Sieko, R. A. Plane 著）

A.　教育目標

「熱力学」,「電気化学」,「反応速度論」等の物理化学について学ぶ。授業は英語で書かれた教材を輪講形式で行うため、物理化学に関する知識を深めると同時に英語読解力、プレゼンテーション能力も高める。

B.　概要

「熱力学」,「電気化学」,「反応速度論」等の物理化学に関する英語教材を輪講形式で読み、その内容について学生自身が説明を行う。説明に対し、教員、学生による質問等を行い、理解の向上を図る。また、各発表者の説明に対する評価を聴講学生により行い、より質の高いプレゼンテーションを目指す。

C.　学習上の留意点

英語教材の内容について、他の学生に説明することが本講義の目的である。このため、発表担当者は担当の文章を日本語に訳すのみにとどまらず、文中に出てきた数式や図の意味を理解しておく必要がある。このため、予習は絶対に欠かさないこと。

D.　評価方法

プレゼンテーション内容[教員（80%），学生による相互評価（20%）]にて評価する。

E.　授業内容

授業項目	時間	内　容・到達目標	教育プログラム
ガイダンス	2	本講義の趣旨、成績評価法を理解する。	D-1 D-2
Chapter 10 Chemical Thermodynamics	8	熱力学について理解し、説明できる。	D-1 D-2
Chapter 11 Electrochemistry	12	電気化学について理解し、説明できる。	D-1 D-2
Chapter 12 Chemical Kinetics	8	反応速度論について理解し、説明できる。	D-1 D-2
◆自学自習 ・授業内容の予習	60	授業内容の予習のための時間、60 時間を自学自習時間とする。	D-1 D-2

F.　関連科目

物理化学Ⅰ～Ⅲ，電気化学

旭川高専 2011

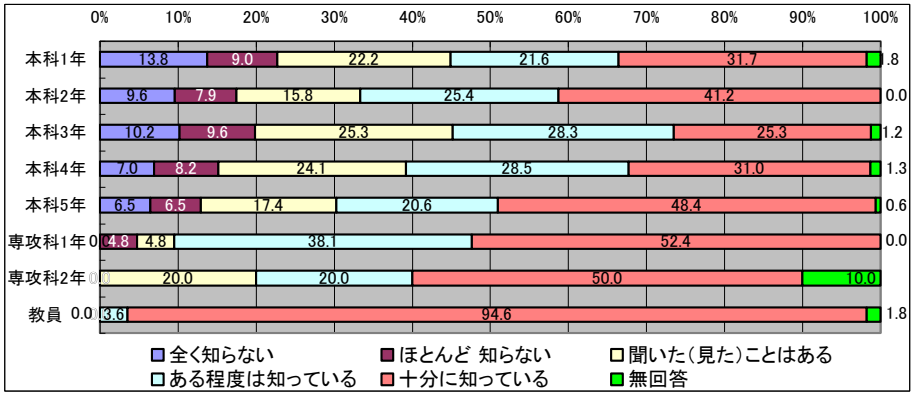
（出典　専攻科シラバス2011　P.65）

資料５－６－②－３

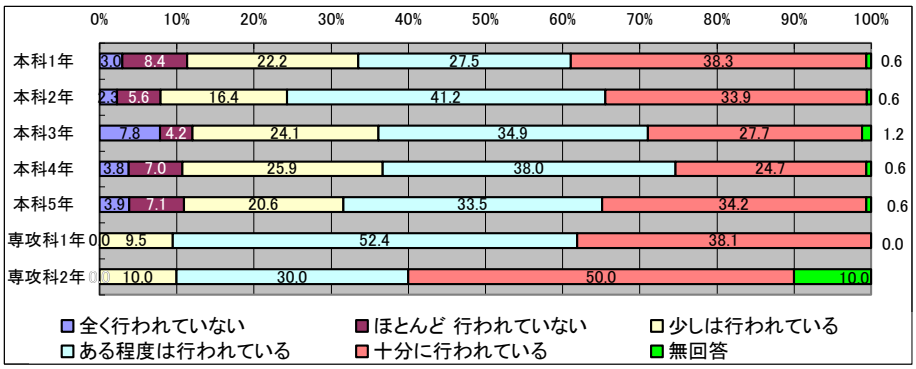
「学生による授業評価アンケート　シラバスに関する質問と結果」

Ⅲ　シラバスの活用について

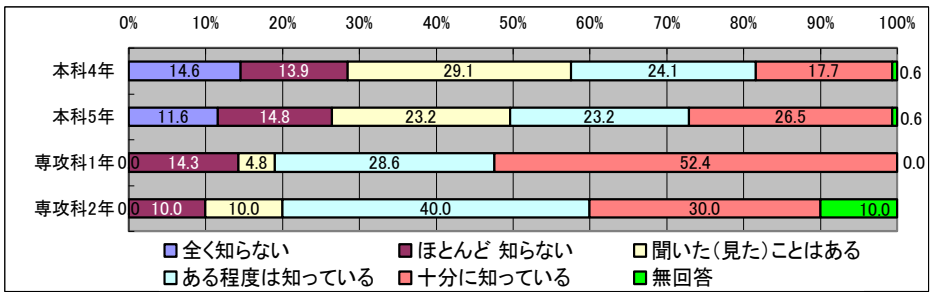
Q13　シラバスが専門学科毎に編纂され、全学生に配布され、また、本校のホームページ上にも公開されることを知っていますか。



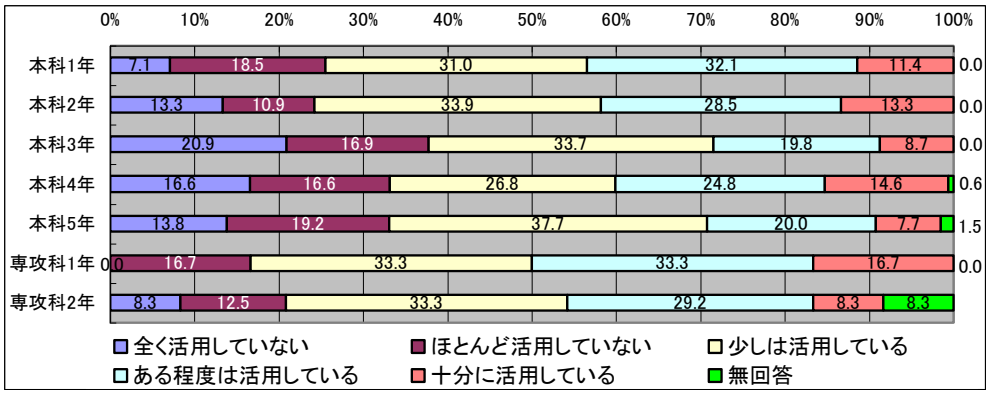
Q14　毎年度（毎期）、授業開始時のガイダンスにおいて、科目担当教員からシラバスを用いて「教育目標」や「概要」、「評価方法」についての説明がなされていますか。



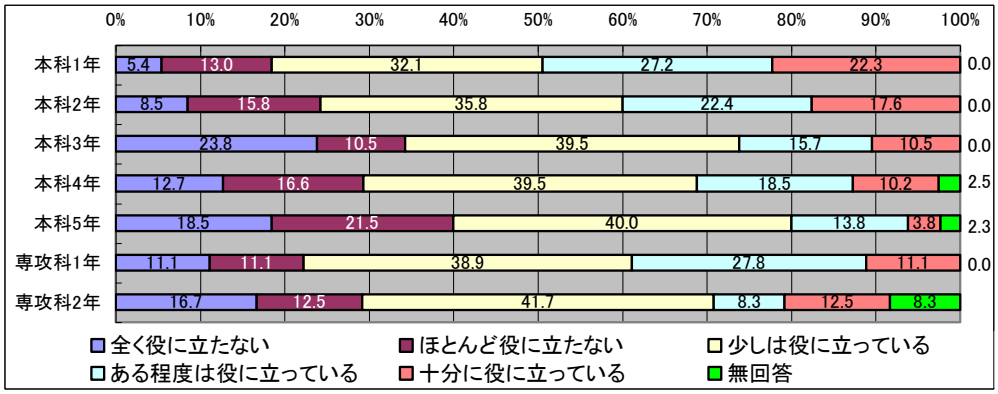
Q16　現在、半期毎に「授業進捗度確認票」によって、シラバス通りの内容・進度で授業が進んでいるか、確認されていることを知っていますか。



Q17　あなた自身、授業内容や進度、成績評価方法などを確認する際に、シラバスを活用していますか。

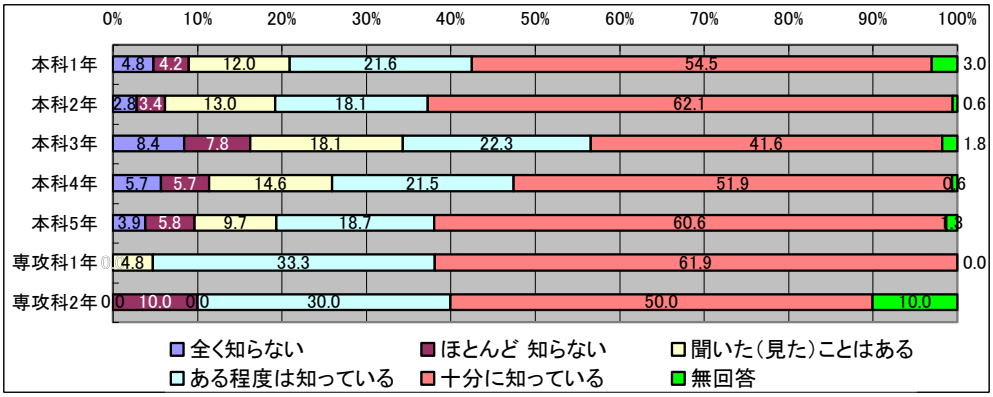


Q18　自己学習を進める上で、現在のシラバスは十分に役に立つものですか。



Ⅳ　成績評価等の規定に対する認知について

Q19　科目毎の評価方法は、全てシラバスに記載されていることを知っていますか。



（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科課程のシラバスは，科目ごとの達成目標等が示され，授業内容や評価方法についても明確に定められている。また，シラバスについての学生アンケートも行われている。

以上のことから，専攻科課程では，教育課程の趣旨に沿ってシラバスが作成され，活用されている。

観点５－６－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また，インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

創造性を育む演習として，創造工学が第２学年の２単位の必修科目として行われている（資料５－６－③－１）。本校卒業生で，退職あるいは現役の企業技術者の指導の下で，製品技術開発プロセスを体験する。地元企業から提示されたテーマを解決するため，チームを組み，PDCAを実践しながら，企画・調査・立案・試作・検証作業を行う（資料５－６－③－２～４）。特別研究は，研究計画の立案から試作・実験を通じて問題解決手法を開発し，研究活動に必要な総合的な能力を養うものとして設けられている（観点５－７－①で述べる）。

また，インターンシップ（資料５－６－③－５）については，４単位の必修科目として行われている。夏期休業中のインターンシップとしての企業実習終了後，報告書の提出と実習先の担当者を交えた場での発表会を行っている（資料５－６－③－６，７）。

資料５－６－③－１

「シラバス（創造工学)」

科目名	創造工学	JABEE科目	科目コード 618

学年・学科等名	2 学年	生産システム工学専攻　専門的・必修
単位数・開講期	2 単位	通年
総時間数	90 時間	演習 60 ＋ 自学自習 30
担当教員	三井　聡・宇野　直嗣・有馬　達也・戸村　豊明・沼田　ゆかり・非常勤講師	

JABEE関連	教育プログラム科目区分	303専門工学科目③課題解決系
	教育プログラムの学習・教育目標	D-3(60%) E-2(20%) E-3(20%)
	JABEE基準	deh

教科書名	
補助教材	
参考書	

A.　教育目標

工学基礎科目と専門基礎関連科目で展開し，学生の自発的学習，論理的思考，グループ活動，プレゼンテーションなどの能力を養成し，技術者・研究者として指導できる能力を育成することを目標とする。さらに，チームで協力しながら総合的なエンジニアリング・デザインを体験する。

B.　概要

豊富な知識と経験を持つ企業経験者（マイスター）による技術者教育を導入する。マイスターの指導のもとでチームごとに異なる課題を解決していくエンジニアリング・デザイン教育を実施する。

与えられた課題について，チームで様々な角度から取り組み方や具体化の方法を調査・検討し，発表する。次に，実際に具体化し，その結果を検証し，成果を発表する。

C.　学習上の留意点

チームごとに配置されたマイスターの指導のもとで，地域企業等のニーズを調査し，課題を探す。課題解決のため，調査に基づいて企画，立案し，進捗状況に応じて計画等の修正を行ないながら，具体化していき，その成果を発表する。毎週進捗レポートを提出し，2回のプレゼンテーションを行う。積極的に参加すること。

D.　評価方法

評価項目	学習・教育目標	指針	評価割合
企画・デザイン力（内容理解度）	D-3	・課題に対して，どのように実験，調査を進め，目標に到達できるかを考え，企画したか。 ・課題の内容を理解し，地域貢献，環境等に配慮した考え方ができるようになったか。 ・積極的に課題設定，調査方法，課題探求，実験方法等について検討，実行したか。	60 点
チームワーク	E-2	・チームメンバー間で強調し，討議を行いながら課題解決を進めたか。	20 点
創造性	E-3	・課題に関連する分野の知識，情報等を理解し，自ら考えて進めた内容・方法があったか。	20 点

E.　授業内容

授業項目	時間	内　　容	教　育 プログラム
オリエンテーション	2	マイスター，チーム編成を行い，教育プログラムの説明を受ける。 目的，心構え，社会のルール等について理解し，行動できる。	
課題設定，企画	4	チームで協力しながら課題を設定し解決する方策を考える。 与えられた課題について解決できるよう企画，方策が提案でき，担当者との討論ができる。 チーム内での責任を理解し，自主的な行動ができる。 作業を進める上で PDCA を考えながら，継続的に実行できる。	D-3 E-2
プレゼンテーション	2	企業経験者（アドバザー，マイスター，コーディネータ），学生間でチームごとの課題，解決方法について発表し，討論を行う。 課題設定，調査方法，課題の探求，実験方法，器具，条件について調査したことを説明することができる。 成果の整理と分かりやすいプレゼンテーション資料が作成できる。質疑に対して考えをまとめ，適切に答えることができる。	D-3 E-2 E-3
企画立案，修正	2	課題，解決方法，計画等の修正を行なう。 作業を進める上で PDCA を考えながら，継続的に実行できる。	D-3 E-3
実践	18	課題解決のため，進捗状況に応じて計画等の修正を行ないながら作業を進める。 作業を進める上で PDCA を考えながら，継続的に実行できる。 各自が問題を設定し，課題を解決することができる。	D-3 E-3
プレゼンテーション	2	各自成果の発表を行い，討論する。 成果の整理と分かりやすいプレゼンテーション資料が作成できる。質疑に対して考えをまとめ，適切に答えることができる。	D-3 E-3
◆自学自習 調査,準備	30	課題や実験方法に関する調査，実験・討論・発表のための準備等を総合して 30 時間と考えている。	D-3 E-2

F.　関連科目

専門科目

（出典　専攻科シラバス 2011　P.34-35）

資料５－６－③－２

「創造工学成果報告会」

平成２２年度　旭川高等専門学校専攻科
創造工学成果報告会

１．日　　時　　平成２２年２月９日（水）　１０：３５～

２．会　　場　　階段教室

３．次　　第　　１　開会挨拶（校長）

２　成果報告

① ビートハーベスタの改良
② 簡易型ドライブレコーダの開発
③ 近赤外分光法を利用したイモ選別機の開発
④ 車いす座面上下機構の開発

３　アドバイザーによる評価

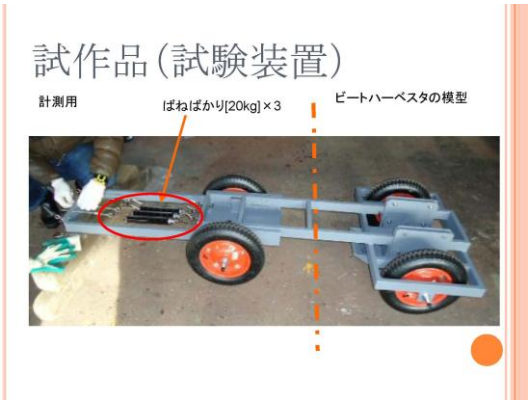
４　閉会挨拶（専攻科長）

（出典　創造工学報告会資料）

資料５－６－③－３

「創造工学　成果報告会（一部）」





（出典　創造工学報告会資料）

資料５－６－③－４

「創造工学　報告書」「創造工学　個人レポート」

創造工学　期末個人レポート　提出期限 2/11	
チーム名	ドライブレコーダチーム
氏　名	

４月から２月までの授業（講義、グループ会議など）を通じて、あなたが得たと思うことや感想について、できるだけ具体的に記述してください。（字数制限なし）
今までの研究などではチーム単位での行動がなかったので，役割分担をしてこの項目は誰がやるなどを決めていき，物事を進めていくことに最初は違和感を覚えていましたが，最終的にはチームの行動とはそういうものだということが分かりました． 今後，社会人になってからはチーム行動が基本となると思うので，チーム行動の経験ができて良かったと思います．
コーディネーターやマイスターとの交流で、あなたが得たと思うことや感想について、できるだけ具体的に記述してください。（字数制限なし）
マイスターは外部からの先生ということで，高専の先生よりも学校の外の流れや考え方というものを沢山教えてもらいました．特に会社にはどんな人がいて，どんな人が一番活躍しているなどを雑談の中で話しているときに私は一番集中して聞いていたように思います．
外部の企業などとの交流で、あなたが得たと思うことや感想について、できるだけ具体的に記述してください。（字数制限なし）
テーマをいただいた会社に直接訪問するということを考えていなかったので，初めて訪問するときは正直緊張しました．どのように話を進めたらいいのか，どのように本当の要望を聞き出すことができるのだろうかと色々考えました．実際には話を進めていく上で，どのような製品がほしいかなどが聞きとれたので，そういう経験は今後も生きていくと思います．
新しい授業を受けた最初の学生の視点から、今後の授業で改善すべき点について指摘してください。授業内容・期間、テーマ設定、グループ編成、マイスターと学生の関係、情報の共有化、予算など、できるだけ幅広い観点から考えてください。（字数制限なし）
一番最初に感じたのが，創造工学におけるウエイトがマイスターと学生とでは違っていたということです．学生の視点から言うと，研究が一番先に来てしまうので創造工学は授業の一つでしかないです．また，チームでの行動となると，専攻科の学生は滅多に顔を合わせることがないので，連絡手段も確保しなくてはいけないし，Gsession を使っているとしても，なかなか使えこなせませんでした． また，予算の決定時期をもっと早くしたほうがいいような気がします．実験をしたくても年前にものが届いていてはしたい実験もできないのではないでしょうか．

（出典　創造工学報告会資料）

資料５－６－③－５

「シラバス（インターンシップ）」

科目名	インターンシップ	JABEE科目	科目コード 617

学年・学科等名	1 学年	専攻共通　専門的・必修
単位数・開講期	4 単位	
総時間数	180 時間	実習 120 ＋ 自学自習 60
担当教員	三井　聡・宇野　直嗣・有馬　達也・戸村　豊明・沼田　ゆかり	

JABEE関連	教育プログラム科目区分	304専門工学科目④実務対応系
	教育プログラムの学習・教育目標	E-3(100%)
	JABEE基準	dh

教科書名	
補助教材	
参考書	

A.　教育目標

企業・研究機関等で4週間の就業体験を通し，企業の技術者の指導のもとで，学校では経験しない実際の課題に取り組み，実務体験する。さらに，高専5年間に得られた知識，能力をさらに発展し，問題解決能力を養うことを目的とし，技術者が社会に負っている責任を自覚し，技術者としての心構えについて学習する。

B.　概要

本科目は4単位としているが，インターンシップ先の都合で単位が満たせない場合は，他の実習先で単位を補う。また，専攻主任が実習先に期間中訪問し，企業等の対応責任者と業務内容，就業の様子を聞く。インターンシップ終了後，実習証明書，報告書を提出する。さらに，報告会において成果を発表する。

C.　学習上の留意点

受入企業等の中から，学生の希望，企業等の要望を勘案し，インターンシップ先（民間企業，国，地方公共団体等）を決める。ただし，インターンシップ先については本人の希望を考慮するが，インターンシップ先の都合により希望に沿えない場合もある。課題はインターンシップ先から与えられ，与えられた制約の下で，自主的，積極的に仕事を進める。インターンシップ目的，心構え，社会のルール等について理解し，行動すること。

D.　評価方法

評価項目	指針	評価割合
企業の評価	・複眼的な思考能力をもとに，創造的に課題探求・解決を行ったか。	30 点
学生の報告書	・複眼的な思考能力をもとに，創造的に課題探求・解決を行ったか。	30 点
報告会	・資料等のわかりやすさ，発表のわかりやすさ，時間配分，質疑応答の的確さ。	20 点
インターンシップへの取組み	・自らが考えて課題解決を進めたか。	20 点

E.　授業内容

授業項目	時間	内容	教育プログラム
インターンシップ事前準備 1. インターンシップ期間 2. インターンシップ先となる企業等 3.課題	120	原則として，４週間（120時間）とする。 旭川高専産業技術振興会会員企業を中心とし，その他受け入れ可能な国，地方公共団体，教育委員会，大学等で補う。 インターンシップ先からのテーマを学生と企業等の間で協議し決定する。	E-3
インターンシップ期間		与えられたテーマについて問題解決できるよう企画，方策が提案でき，担当者との討論ができる。 作業を進める上でPDCAを考えながら，継続的に実行できる。 グループ内での責任を理解し，自主的な行動ができる。 地域・企業・研究機関との連携を通じて，社会貢献の意義を理解し，行動できる。	
インターンシップ後 1.報告書の作成 2.インターンシップ先からの評価 3.報告会		学生はインターンシップ終了時に報告書を作成し，実習先と学校に提出する。 得られた成果を論理的な文章にまとめ，分かりやすい表現ができる。 インターンシップ先から学生の実習状況について，評価書を学校に提出していただく。 旭川高専産業振興会会員企業等が参加し，インターンシップ報告会を行う。 成果の整理と分かりやすいプレゼンテーション資料が作成できる。 質疑に対して考えをまとめ，適切に答えることができる。	
◆自学自習	60	インターンシップの事前準備，報告書作成，報告会の発表準備（要旨集，プレゼンテーション資料）のための時間を総合して60時間と考える。	

F.　関連科目

卒業研究，実験，実習

旭川高専 2010

（出典　専攻科シラバス 2011　P.27-28）

資料５－６－③－６

「平成２２年度インターンシップ発表会要旨集」

平成 22 年度

旭川工業高等専門学校専攻科
インターンシップ報告会要旨集

独立行政法人国立高等専門学校機構

旭川工業高等専門学校

平成 22 年度　旭川工業高等専門学校専攻科
インターンシップ報告会

１．日　　時　　平成 22 年度 12 月 8 日（水）14：00～17：50

２．会　　場　　ロワジールホテル旭川　2 階　「ザ・イーストルーム」

（旭川市 7 条 6 丁目　℡0166-25-8811）

３．主　　催　　旭川工業高等専門学校

４．次　　第　　１　開会挨拶

２　学生報告

３　企業等と学校・学生との意見交換

４　閉会挨拶（専攻科長）

資　　料　　平成 22 年度インターンシップ実施結果
専攻科教育課程表
インターンシップシラバス

（出典　平成 22 年度インターンシップ発表会要旨集）

資料５－６－③－７

「平成２２年度インターンシップ発表会要旨集プログラム」

プ　ロ　グ　ラ　ム

				ページ
14:00	開会挨拶	旭川工業高等専門学校長	高橋　英明	
14:05	株式会社コンピューター・ビジネス	生産システム工学専攻 生産システム工学専攻 生産システム工学専攻 生産システム工学専攻		1
14:21	株式会社檜山鐵工所	生産システム工学専攻 生産システム工学専攻		3
14:33	株式会社カンディハウス	生産システム工学専攻 生産システム工学専攻		5
14:45	株式会社総北海	生産システム工学専攻 生産システム工学専攻		7
14:57	北海道電力株式会社旭川支店	生産システム工学専攻 生産システム工学専攻		9
15:09	高砂酒造株式会社	生産システム工学専攻 応用化学専攻		11
15:21	北海道立総合研究機構 農業研究本部　上川農業試験場	生産システム工学専攻 応用化学専攻		13
15:33		休憩		
15:48	北海道立総合研究機構	応用化学専攻		15
15:54	森林研究本部　林産試験場	応用化学専攻		17
16:00		応用化学専攻		19
16:08	株式会社アサヒ建設コンサルタント	生産システム工学専攻		21
16:16	有限会社 COM 泉歴	生産システム工学専攻		23
16:24	株式会社電業社機械製作所	生産システム工学専攻		25
16:32	東燃ゼネラル株式会社	応用化学専攻		27
16:40	タカハタプレシジョン株式会社	応用化学専攻		29
16:48	豊橋技術科学大学	生産システム工学専攻		31
16:56	山梨大学工学部	生産システム工学専攻		33
17:04	北海道大学大学院環境科学院	応用化学専攻		35
17:12	北海道大学大学院工学院	応用化学専攻		37
17:20	北海道大学大学院歯学研究科	応用化学専攻		39
17:28	企業等との学校・学生との意見交換			
17:43	閉会挨拶	旭川工業高等専門学校専攻科長	三井　聡	

（出典　平成 22 年度インターンシップ発表会要旨集）

（分析結果とその根拠理由）

創造性を育成することを目的とした必修科目として，創造工学及び特別研究が設けられている。創造工学は，企業技術者指導の下で，技術者教育を行うのが特徴である。また，実務能力の育成することを目的とした必修科目として，インターンシップが設けられ，発表会の開催により，プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力育成の場としても活用されている。

以上のことから，専攻科課程では創造性を育む教育の工夫がなされ，インターンシップの活用も十分に行われている。

観点５－７－①：　教育の目的に照らして，教養教育や研究指導が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

専攻科の教養科目は，専攻科生にふさわしい教養を身に付けるため開設されており，英語講読，英会話Ⅰ・II 及び技術者倫理が用意されている(資料５－５－①－２（300 ページに前出））。

専攻科における特別研究は課題解決型の科目であり，研究活動に必要な能力を養う（資料５－７－①－１，２)。特別研究は入学後のガイダンスで研究テーマの提示を受け，各自が希望する研究テーマと指導教員を選択する（資料５－７－①－３)。専攻科生は，各テーマに基づき研究計画の立案から実験装置の試作・実験，研究成果の取りまとめまでの方法を学ぶ。特別研究の指導は，基本的には個々の指導教員に任されているが，応用化学専攻で行われている無機化学系３研究室合同卒論・特別研究中間検討会のような研究集団指導が取られているところもある（資料５－７－①－４)。特別研究を行うに当たり，技術職員による支援体制も整備されている（観点３－３－①参照)。専攻科生は，道内 4 高専専攻科研究発表・交流会において発表することが義務付けられている（資料５－７－①－５）と同時に，それぞれの専門分野における学会での発表が，勧められている（資料５－７－①－６)。また，学外において特別研究発表会を行い，研究成果を一般に公表している（資料５－７－①－７)。

資料５－７－①－１

「シラバス　（生産システム工学特別研究）」

科目名	生産システム工学特別研究	JABEE科目	科目コード P11002

学年・学科等名	1 学年	生産システム工学専攻　専門的・必修
単位数・開講期	2 単位	後期
総時間数	90 時間	研究 60 ＋ 自学自習 30
担当教員	機械システム・電気情報・システム制御情報工学科各指導教員	

JABEE関連	教育プログラム科目区分	303専門工学科目③課題解決系
	教育プログラムの学習・教育目標	C-1(20%) D-3(35%) E-1(20%) E-3(25%)
	JABEE基準	defgh

教科書名	
補助教材	
参考書	

A.　教育目標

生産システム工学特別研究では，最終的には 1 つの研究テーマに取り込み，研究計画の立案，実験装置の試作・実験，解析手法の開発，アルゴリズムの開発，研究成果の取りまとめなど，目標設定から達成までの研究活動に必要な能力を養う。そこで，1 年生後期の時期にはそのための必要となる基礎知識を身につけることを目標とする。

B.　概要

教員から示された特別研究テーマおよびそれに関連するデザイン対象をもとに，学生が選択し，各担当教員の指導のもとで取り組み，企画・実行力，設計・創造力，発表能力など研究遂行に必要な能力を養う。文献購読や関連分野の調査等を積極的に行うことにより，生産システム特別研究を行う上で必要となる基礎知識を身につけていく。

C.　学習上の留意点

これまでに学んだ知識，また本科における卒業研究の経験や成果をもとにして，さらに高いレベルの研究テーマに挑戦して問題点を見つけ出し，解決していく積極的な取り組みが必要である。

D.　評価方法

評価は 2 年次の生産システム工学特別研究と合わせて下記の項目に対して行う。

評価項目	学習・教育目標	指針	評価割合
発表能力	C-1	・論文の内容を正確に表していたか。 ・発表会におけるスライド・発表状況・質疑応答等。	20%
企画・デザイン力	D-3	・どのように研究を進めたら目標に到達できるかを 考えて実行したか。 ・自ら積極的に行ったか。 ・デザイン対象をもとに，その能力を育成できたか。	25%
提出期限	D-3	・期限内 10 点（以降，時間・日数により減点）	10%
達成度	E-1	・研究成果の達成度，論文の内容および体裁等。 ・関連分野の工学知識を習得し，自主的，継続的に 身に付けることができたか。	20%
創意工夫	E-3	・自らが考えて進めた研究内容・方法があったか。	25%

E.　授業内容

前年度特別研究テーマ(2010 年度)	指導教員 (2010 年度)	教　育 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ
フレキシブルマニピュレータの省エネルギー軌道計画	阿部	C-1 D-3 E-1 E-3
グリーン関数の重ね合せ法による応力解析	石井	
マイクロ水力発電用装置の設計・開発	宇野	
新しい二流体モデル方程式の数学的適切性について	江頭	
近傍界における到来方向推定に関する研究	大島	
積雪自動報知システムの開発	今野	
生物型ロボットの動作生成に関する研究	佐竹	
層流拡散火炎の輝炎領域における火炎色と輝度の定量化	立田	
不輝炎の可視発光特性と可視炎性の評価		
カメラ画像からの3次元モデルの構築	戸村	
拡張現実感を用いたNUIアプリケーションの開発		
電磁気特性の変化を利用したステンレス鋼の非破壊ひずみ測定	堀川	
鋳造シミュレーションを用いた薄肉球状黒鉛鋳鉄の強度分布予測		
磁気浮上装置の製作	松岡	
予測歯列模型CADシステムの開発	森川	
スパッタ法によるTi系酸化物薄膜の作製とその膜質評価	吉本	

F.　関連科目
　全科目

旭川高専 2011

（出典　専攻科シラバス 2011　P.54-55）

資料５－７－①－２

「シラバス　（応用化学特別研究）」

科目名	応用化学特別研究	JABEE科目	科目コード A11002

学年・学科等名	1 学年	応用化学専攻　専門的・必修
単位数・開講期	2 単位	後期
総時間数	90 時間	研究 60 ＋ 自学自習 30
担当教員	物質化学工学科各指導教員	

JABEE関連	教育プログラム科目区分	303専門工学科目③課題解決系
	教育プログラムの学習・教育目標	C-1(20%) D-3(35%) E-1(20%) E-3(25%)
	JABEE基準	defgh

教科書名	
補助教材	配付プリントなど
参考書	

A.　教育目標

今まで学んできた工学全般の知識・技術をもとに、地球環境に配慮しつつ、研究計画の立案から試作・実験を通じて問題解決手法を開発し、さらに目標達成に向けて研究成果を考察する能力を身につけることで、目標設定から達成までの研究活動に必要な総合力やデザイン能力を養う。

B.　概要

教員から示された特別研究テーマ、およびそれに関連するデザイン対象をもとに学生が選択し、各担当教員の指導のもとで取り組む。

C.　学習上の留意点

参考文献の講読・検索、実験の実施、データ解析、成果発表などあらゆる場面において、積極的且つ自立的な取り組みを必要とする。

D.　評価方法

評価は２年次の応用化学特別研究と合わせて、下記の項目に対して行う。

評価項目	学習・教育目標	指針	評価割合
発表能力	C-1	・論文の内容を正確に表していたか。 ・発表会におけるスライド・発表状況・質疑応答等。	20%
企画・デザイン力	D-3	・どのように研究を進めたら目標に到達できるかを考えて実行したか。 ・自ら積極的に行ったか。 ・デザイン対象をもとに、その能力を育成できたか。	25%
提出期限	D-3	・期限内 10 点（以降、時間・日数により減点）	10%
達成度	E-1	・研究成果の達成度、論文の内容および体裁等。 ・関連分野の工学知識を習得し、自主的、継続的に身に付けることができたか。	20%
創意工夫	E-3	・自らが考えて進めた研究内容・方法があったか。	25%

E.　授業内容

特別研究テーマ（2011 年度）	指導教員（2010 年度）	教育プログラム
高温・低温化における鉄表面不動態皮膜の安定性について	千葉	C-1, D-3, E-1, E-3
高性能ガスセンサを目的とした酸化物半導体の調製	古崎	
ローズ油の防カビ性能の評価	富樫	
CO_2 導入によるエトリンガイト由来結晶化物の多孔質化とフッ素吸着特性	宮越	

特別研究テーマ（2011 年度）	指導教員 （2010 年度）	教育 プログラム
刺激応答性を有する共役高分子の精密合成	堺井	
高温水溶液中におけるアルミニウム合金の腐食挙動について	千葉	
高温流水中における鉄の腐食におけるインヒビターの影響	千葉	
エトリンガイト由来結晶化物の調製条件とフッ素吸着特性	宮越	

F.　関連科目

応用化学特別ゼミナールⅠ･Ⅱ、応用化学特別実験

旭川高専 2011

（出典　専攻科シラバス 2011　P.66-67）

資料５－７－①－３

平成23年度　生産システム工学特別研究テーマ一覧

平成23年4月20日作成

				2P
1	[redacted]	制御情報	能川	電磁気特性の変化を利用したステンレス鋼の非破壊ひずみ測定
2		制御情報	中村	CNTを用いたヘテロ型pn接合太陽電池の基礎特性評価
3		制御情報		単位取得済み
4		電気情報	葉	SrTiO3系酸化物半導体の熱電特性の評価
5		電気情報	大島	近接界における到来方向推定に関する研究
6		機械システム	中野	マイクロ水力発電用装置の設計・開発
7		制御情報	能川	鋳造シミュレーションを用いた凝固球状黒鉛鋳鉄の強度分布予測
8		制御情報	阿部	フレキシブルマニピュレータの省エネルギー軌道計画
9		機械システム	立田	水素拡散火炎およびメタノール火炎の可視発光特性
10		制御情報	今野	積雪自動感知システムの開発
11		制御情報	阿部	進化計算による非線形機械システムのニューロ制御
12		電気情報	吉本	スパッタ法による酸化物薄膜の作製とその膜質評価
13		機械システム	立田	一酸化炭素層流拡散火炎の火炎色と可視発光スペクトル
14		制御情報	佐竹	生物型ロボットの動作生成に関する研究
15		制御情報	戸村	カメラ画像からの3次元モデルの構築
16		機械システム	石井	グリーン関数の重ね合せ法による応力解析
17		機械システム	江頭	新しい二流体モデル方程式の数学的適切性について
18		制御情報	戸村	拡張現実感を用いたNUIアプリケーションの開発
19		制御情報	森川	予測能力搭載型CADシステムの開発
20		機械システム	松岡	磁気浮上装置の製作

				2A
1	[redacted]	物質化学	杉本	二原子酸素添加酵素PraA酵素の精製条件の確立
2		物質化学	宮越	酸化モリブデン系ゼオライト触媒の複合化改質とメタン反応活性
3		物質化学	梅田	高強度化したバクテリアセルロースゲルの物性評価
4		物質化学	梅田	ポリアスパラギン酸ゲルの刺激応答性の評価
5		物質化学	杉本	二原子酸素添加酵素DesB酵素の酵素学的研究
6		物質化学	古崎	物用カルシウム強化麺としてのホタテ貝殻利用の試み
7		物質化学	高田	多層カーボンナノチューブの表面修飾と導電体作製への応用
8		物質化学	古崎	ホタテ貝殻を活用した簡易型浄水装置の作製と性能評価
9		物質化学	高野	野菜の高湿凍結保存における糖類の効果
10		物質化学	小林	魚類および無脊椎動物の生殖関連タンパク質成分の基礎的研究

				1P
1	[redacted]	制御情報	三井	5軸制御加工機械の干渉チェックシステムの開発
2		制御情報	阿部	柔軟マニピュレータの制御に関する研究
3		制御情報	大柏	根菜類の収穫機の自動化に関する研究
4		電気情報	小山	音声合成の韻律制御に関する研究
5		制御情報	三井	ARを用いた5軸制御加工機制御システムの開発
6		機械システム	石井	グリーン関数の重ね合せ法による応力解析（ねじり問題）
7		機械システム	江頭	気泡流中の波動伝播の解析
8		電気情報	小山	IPアドレス管理システムに関する研究
9		電気情報	笹岡	拡張現実感を用いたヒューマンインターフェイスに関する研究
10		電気情報	大島	メタヒューリスティックスを用いた到来方向推定に関する研究
11		電気情報	井口	PSOを用いた火力発電機起動停止計画に関する研究
12		電気情報	小山	マイコンによる情報収集システムに関する研究
13		機械システム	岡田	エアシステムによる除雪ロボットの研究
14		機械システム	江頭	水中ウォータージェットの高性能ノズルの開発

				1A
1	[redacted]	物質化学	千葉	高温・高湿化における鉄表面不動態皮膜の安定性について
2		物質化学	古崎	高性能ガスセンサを目的とした酸化物半導体の調製
3		物質化学	高野	ロース油の防カビ性能の評価
4		物質化学	宮越	CO_2導入によるエトリンガイト由来結晶化物の多孔質化とフッ素吸着特性
5		物質化学	堀井	刺激応答性を有する架橋高分子の精密合成
6		物質化学	千葉	高温水溶液中におけるアルミニウム合金の腐食挙動について
7		物質化学	千葉	高温純水中における鉄の腐食におけるインヒビターの影響
8		物質化学	宮越	エトリンガイト由来結晶化物の調製条件とフッ素吸着特性

（出典　専攻科資料）

資料５－７－①－４

「研究集団による指導例」

件名：無機系研究室合同中間研究発表会について

XX 先生

物質化学工学科　XX です.
今年度も無機系の3研究室で5年生の卒業研究及び専攻科生の特別研究の中間研究発表会を合同で行います.

なお，今回の報告会では私の研究室からは「熱交換器のエロージョンコロージョン発生メカニズム（XXXX との共同研究）」と「高温水中におけるアルミニウム合金の腐食挙動におよぼす合金元素の影響（XXXX との共同研究）」の2テーマについて発表する予定です.

連絡が直前になってしまい申し訳ございません. お忙しいのは重々承知しておりますが，お手すきの際は顔を出して頂けますと幸いです.
また，参考までに今年度の中間報告の日程（予定）を下記に載せますのでご参照ください.

前期（基本的に第一金曜日）
5/27（準備期間不足のため3週繰り下げ），6/3，7/1，9/16（専攻科夏期休業期間のため2週繰り下げ）

後期（基本的に第一月曜日）
10/3，11/7，12/12（後期中間試験のため1週繰り下げ），1/16（冬期休業のため2週繰り下げ）

（出典　校長宛 E メール）

資料５－７－①－５

「平成22年度　道内４高専　特別研究発表会交流会　予稿集」

平成22年度
道内国立高専専攻科研究発表・交流会

研究発表前刷集

日時：平成22年11月20日（土）9:00～

会場：花びしホテル（函館市湯川町1丁目16番18号）

○第1分科会　会場:2F　高砂

A１：９：００～１０：３０　【座長】[redacted]（函館）

講演番号	発表テーマ	氏名	所属	頁
A1-1	はばたき水車の研究	[redacted]	函　館【生産システム工学専攻】	1
A1-2	レーシングカートを用いた自動車のモデル化とシミュレーション		苫小牧【電子・生産システム工学専攻】	3
A1-3	レーザースペックルを利用した生体や植物の活性度計測における画質改善法に関する検討		旭　川【生産システム工学専攻】	5
A1-4	3次元加工モデルの最適化処理システムの構築		函　館【生産システム工学専攻】	7
A1-5	CUDAによる直交格子を用いた円柱周りの流動解析とその分解能に関する研究		苫小牧【電子・生産システム工学専攻】	9
A1-6	二自由度系振動実験装置の製作		旭　川【生産システム工学専攻】	11

A２：１１：００～１２：００　【座長】[redacted]（苫小牧）

講演番号	発表テーマ	氏名	所属	頁
A2-1	CO_2排出・コストミニマムを目指したエネルギーシステム最適化に関する研究（石油備蓄基地をモデルケースとした場合）	[redacted]	苫小牧【電子・生産システム工学専攻】	13
A2-2	階段昇降機構の開発		旭　川【生産システム工学専攻】	15
A2-3	自操式車いす用採拾自助システムの開発に関する研究		函　館【生産システム工学専攻】	17
A2-4	混合燃料のデトネーション特性取得のための実験装置の製作と性能評価		釧　路【建設・生産システム工学専攻】	19

A３：１３：００～１４：３０　【座長】[redacted]（釧路）

講演番号	発表テーマ	氏名	所属	頁
A3-1	FW円筒殻の製作と実験モード解析を用いた固有振動数の測定	[redacted]	釧　路【建設・生産システム工学専攻】	21
A3-2	大根引き抜き装置自動化に関する研究		旭　川【生産システム工学専攻】	23
A3-3	ポイントクラスター法を用いた動作解析の精度		函　館【生産システム工学専攻】	25
A3-4	T字継手の応力集中と応力勾配に及ぼす継手形状の影響		苫小牧【電子・生産システム工学専攻】	27
A3-5	多数の微細気泡を含む静止液体中の線形波動の理論解析		旭　川【生産システム工学専攻】	29
A3-6	NC旋盤における最適経路導出処理に関する研究 ～加工時間、工具寿命を考慮した工具経路探索～		函　館【生産システム工学専攻】	31

A４：１５：００～１６：００　【座長】[redacted]（旭川）

講演番号	発表テーマ	氏名	所属	頁
A4-1	垂直軸小型風車用無段変速機構の検討	[redacted]	旭　川【生産システム工学専攻】	33
A4-2	ピストンポンプの摺動抵抗低減と流量特性		函　館【生産システム工学専攻】	35
A4-3	水中ウォータージェットにおけるキャビテーション壊食特性の実験的研究		旭　川【生産システム工学専攻】	37
A4-4	FEMによる応力勾配の解析方法の検討		苫小牧【電子・生産システム工学専攻】	39

○第2分科会　会場:2F　あかしやB

B１：９：００～１０：１５　【座長】[redacted]（函館）

講演番号	発表テーマ	氏名	所属	頁
B1-1	マスタースレーブ型ロボットハンドの開発	[redacted]	函　館【生産システム工学専攻】	41
B1-2	住環境評価ロボットの設計と試作		釧　路【建設･生産システム工学専攻】	43
B1-3	救助ロボット群の開発		函　館【生産システム工学専攻】	45
B1-4	映像解析による群ロボットの自動整列システム		釧　路【電子情報システム工学専攻】	47
B1-5	倒立二輪ロボットを用いた制御実験システムの構築		苫小牧【電子･生産システム工学専攻】	49

B２：１０：４５～１２：００　【座長】[redacted]（苫小牧）

講演番号	発表テーマ	氏名	所属	頁
B2-1	Web型気象データ監視システムの開発	[redacted]	釧　路【電子情報システム工学専攻】	51
B2-2	近傍波源における到来方向推定に関する研究		旭　川【生産システム工学専攻】	53
B2-3	電気車の速度微分帰還を用いたアンチスリップ制御方式の提案		函　館【生産システム工学専攻】	55
B2-4	ACサーボモータの高速高精度位置・速度制御		釧　路【電子情報システム工学専攻】	57
B2-5	再生可能エネルギーと民生用電気自動車の普及に伴う電源構成への影響に関する研究		函　館【生産システム工学専攻】	59

B３：１３：００～１４：３０　【座長】[redacted]（釧路）

講演番号	発表テーマ	氏名	所属	頁
B3-1	下半身強化を目的としたリハビリ機器の開発	[redacted]	釧　路【電子情報システム工学専攻】	61
B3-2	ニワトリ初期胚の体動解析		函　館【生産システム工学専攻】	63
B3-3	頭外音像定位における距離定位の評価法に関する研究		苫小牧【電子･生産システム工学専攻】	65
B3-4	微小磁気計測を目的とした導体シールドの作製		釧　路【電子情報システム工学専攻】	67
B3-5	電磁波曝露のニワトリ胚への影響調査		函　館【生産システム工学専攻】	69
B3-6	PSOを用いた発電機経済負荷配分に関する一考察		旭　川【生産システム工学専攻】	71

B４：１５：００～１６：００　【座長】[redacted]（旭川）

講演番号	発表テーマ	氏名	所属	頁
B4-1	市街地における円偏波の伝搬特性に関する研究	[redacted]	旭　川【生産システム工学専攻】	73
B4-2	ANNによる函館高専設置PVシステムの出力予測に関する研究		函　館【生産システム工学専攻】	75
B4-3	ひずみ波交流電源で駆動される誘導電動機の伝達関数によるトルク脈動の演算		函　館【生産システム工学専攻】	77
B4-4	指静脈を用いた個人認証－撮像系と指画像の前処理について－		釧　路【電子情報システム工学専攻】	79

○第3分科会　会場:2F　あかしやC

C１：９：００～１０：３０　【座長】[redacted]（旭川）

講演番号	発表テーマ	氏名	所属	頁
C1-1	進化計算による巻き上げ機構を有する天井クレーンの振れ止め制御	[redacted]	旭　川【生産システム工学専攻】	81
C1-2	学生の視力データを用いたデータマイニング		苫小牧【電子・生産システム工学専攻】	83
C1-3	センサネットワークを用いた自然環境情報取得・提供に関する基礎研究		釧　路【電子情報システム工学専攻】	85
C1-4	SVMを用いた注視方向の識別に関する研究		苫小牧【電子・生産システム工学専攻】	87
C1-5	粘菌アルゴリズムを用いた粒子追跡流速計測法		釧　路【電子情報システム工学専攻】	89
C1-6	身体障がい者向け運転技術在宅訓練システムの開発		函　館【生産システム工学専攻】	91

C２：１１：００～１２：００　【座長】[redacted]（函館）

講演番号	発表テーマ	氏名	所属	頁
C2-1	手話電子辞書システムの開発	[redacted]	苫小牧【電子・生産システム工学専攻】	93
C2-2	デフォルメ画像の自動生成		釧　路【電子情報システム工学専攻】	95
C2-3	組込みシステムにおけるファイルシステムの研究		苫小牧【電子・生産システム工学専攻】	97
C2-4	簡易裸眼立体視ディスプレイ装置の検討		釧　路【電子情報システム工学専攻】	99

C３：１３：００～１４：３０　【座長】[redacted]（苫小牧）

講演番号	発表テーマ	氏名	所属	頁
C3-1	GPGPUによる有限要素法解析	[redacted]	函　館【生産システム工学専攻】	101
C3-2	背景の模様に影響されないプロジェクタ映像の補正システム		釧　路【電子情報システム工学専攻】	103
C3-3	Google Maps APIを用いた苫小牧市営バス時刻検索システム		苫小牧【電子・生産システム工学専攻】	105
C3-4	リアルタイムレンダリングにおける薄レンズ特性の表現		釧　路【電子情報システム工学専攻】	107
C3-5	Circular Permutation Graphにおける関節点，要節点導出のための最適並列アルゴリズム		釧　路【電子情報システム工学専攻】	109
C3-6	Scilab/ScicosへのMotor代数の導入		苫小牧【電子・生産システム工学専攻】	111

C４：１５：００～１６：１５　【座長】[redacted]（釧路）

講演番号	発表テーマ	氏名	所属	頁
C4-1	PDGAにおける移住方法の検討	[redacted]	釧　路【電子情報システム工学専攻】	113
C4-2	Scilab/Scicosによる組込みシステムのモデルベース開発に関する研究		苫小牧【電子・生産システム工学専攻】	115
C4-3	RSAによる雑音除去における音質に関する研究		釧　路【電子情報システム工学専攻】	117
C4-4	拡張現実感のユーザビリティ向上のためのキューブマーカ		釧　路【電子情報システム工学専攻】	119
C4-5	生物型ロボットの運動学計算		旭　川【生産システム工学専攻】	121

○第4分科会　会場:1F　ポプラの間

D１：９：００～１０：３０　【座長】[redacted]（旭川）

講演番号	発表テーマ	氏名	所属	頁
D1-1	柔軟性の長鎖を有する新規エチニルスチレン誘導体の合成及び重合に関する研究	[redacted]	旭　川【応用化学専攻】	123
D1-2	スギ葉抽出物の抗酸化能力の評価		函　館【環境システム工学専攻】	125
D1-3	複合酸化物固体酸触媒　シリカチタニアゲルの調製とその触媒特性		苫小牧【環境システム工学専攻】	127
D1-4	エステル結合を有する新規エチニルスチレンの合成と重合特性に関する研究		旭　川【応用化学専攻】	129
D1-5	水溶性及び低刺激性を併せ持つ非イオン型高分子抗菌剤の開発		函　館【環境システム工学専攻】	131
D1-6	長い共役系を有する新規エチニルスチレン誘導体の合成と重合および熱特性の検討		旭　川【応用化学専攻】	133

D２：１１：００～１２：００　【座長】[redacted]（函館）

講演番号	発表テーマ	氏名	所属	頁
D2-1	ヒトデ抽出物によるじゃがいもそうか病防除の検討	[redacted]	函　館【環境システム工学専攻】	135
D2-2	セルロースを活用した環境調和型高吸水性材料の開発		苫小牧【環境システム工学専攻】	137
D2-3	旭川と留萌・増毛地方の空中浮遊糸状菌調査 ―環境微生物と農業用殺菌剤の関わり―		旭　川【応用化学専攻】	139
D2-4	混合培養によるフルーツ缶詰シロップ廃液とホエーからのL-乳酸生産		函　館【環境システム工学専攻】	141

D３：１３：００～１４：１５　【座長】[redacted]（釧路）

講演番号	発表テーマ	氏名	所属	頁
D3-1	C_6H_6と$C_6H_5CH_3$の電子移動速度の測定	[redacted]	苫小牧【電子・生産システム工学専攻】	143
D3-2	Van-Genuchtenの式を用いて定式化した$LaNi_5$合金のPCT曲線による水素吸放出性能評価		函　館【生産システム工学専攻】	145
D3-3	真空蒸着法による有機EL素子の作製と評価		苫小牧【電子・生産システム工学専攻】	147
D3-4	通電加熱法によるTiワイヤー表面に作製したTiO_2結晶の太陽電池用電極への応用		函　館【生産システム工学専攻】	149
D3-5	1次元フォトニック結晶による平面波の透過，反射特性解析		釧　路【電子情報システム工学専攻】	151

D４：１５：００～１６：００　【座長】[redacted]（苫小牧）

講演番号	発表テーマ	氏名	所属	頁
D4-1	マグネシウム合金の加工熱処理に関する研究	[redacted]	釧　路【建設・生産システム工学専攻】	153
D4-2	チタン合金の切削における有機極性物質の影響		苫小牧【電子・生産システム工学専攻】	155
D4-3	Cu-Zn-Al合金の応力誘起マルテンサイト変態による電気抵抗率の変化		函　館【生産システム工学専攻】	157
D4-4	純アルミニウム及びアルミニウム合金旋削に及ぼすオレイン酸の影響		苫小牧【電子・生産システム工学専攻】	159

○第5分科会　会場:1F　琴

E１：９：００～１０：３０　【座長】[redacted]（釧路）

講演番号	発表テーマ	氏名	所属	頁
E1-1	木造住宅の建築構造解析と耐震補強工法の検証	[redacted]	釧　路【建設･生産システム工学専攻】	161
E1-2	乗用車専用の木製高架橋による交差点の渋滞緩和		函　館【環境システム工学専攻】	163
E1-3	車椅子走行における振動特性と乗り心地の関係についての考察ー体圧分布と乗車姿勢、人体(内臓)の固有振動数との関係に着目してー		苫小牧【環境システム工学専攻】	165
E1-4	北海道における新築戸建住宅居住者の住宅選択意識に関する調査		釧　路【建設･生産システム工学専攻】	167
E1-5	塩分濃度の違いが土の強度やせん断弾性係数に与える影響		函　館【環境システム工学専攻】	169
E1-6	三軸圧縮試験装置を用いた不織布の面内方向通水試験について		苫小牧【環境システム工学専攻】	171

E２：１１：００～１２：００　【座長】[redacted]（函館）

講演番号	発表テーマ	氏名	所属	頁
E2-1	前浜浸透流を考慮した波打ち帯の鉛直2次元波浪変形モデルの構築	[redacted]	函　館【環境システム工学専攻】	173
E2-2	液状化による地盤変形の抑制に関する研究		苫小牧【環境システム工学専攻】	175
E2-3	単一植生に作用する流体力に関する実験的研究		苫小牧【環境システム工学専攻】	177
E2-4	膜分離活性汚泥法のメンブレンモジュール表面近傍におけるマイクロ流れ計測の問題点と考察		函　館【環境システム工学専攻】	179

E３：１３：００～１４：１５　【座長】[redacted]（苫小牧）

講演番号	発表テーマ	氏名	所属	頁
E3-1	アスファルト混合物の締固め温度が力学性状に及ぼす影響	[redacted]	苫小牧【環境システム工学専攻】	181
E3-2	耐力比から見た建物のライフサイクルアセスメント		釧　路【建設･生産システム工学専攻】	183
E3-3	単位粗骨材量が若材齢時のコンクリートの超音波速度に及ぼす影響		函　館【環境システム工学専攻】	185
E3-4	RCラーメンの線材置換解析における床剛性評価について		釧　路【建設･生産システム工学専攻】	187
E3-5	凍害劣化を受けたコンクリートと鉄筋の付着に関する基礎的研究		釧　路【建設･生産システム工学専攻】	189

（出典　平成 22 年度道内国立高専専攻科特別研究発表会・交流会研究発表前刷集）

資料５－７－①－６

「平成 23 年度　専攻科特別研究テーマ一覧」

発表者	発表テーマ	発表機関名	年月
[redacted]	誘電加熱を利用するメタンの高度転換プロセスの開発	日本化学会北海道支部 2010 年夏季研究発表会	H22.7
	タンの直接芳香族化のための触媒開発　－触媒の水素処理と表面炭素析出種の関係について－	日本化学会北海道支部 2010 年夏季研究発表会	H22.7
	エステル基を有する新規エチニルスチレン誘導体の合成とラジカルに関する研究	第 45 回（2010 年度）高分子学会北海道支部研究発表会	H23.2
	長い共役系を有する新規エチニルスチレン誘導体の合成とラジカルの検討	第 45 回（2010 年度）高分子学会北海道支部研究発表会	H23.2
	旭川と留萌・増毛地域の空中浮遊糸状菌調査 －環境微生物と農業用殺菌剤の関わり－	日本化学会北海道支部 2010 年夏季研究発表会	H22.7
	酵母の凍結殺菌における糖類の影響	化学系学協会北海道支部 2011 年冬季研究発表会	H23.2
	ラジカル反応によるカルボキシル化多層カーボンナノチューブの作製と透明導電体作製への応用	化学系学協会北海道支部 2011 年冬季研究発表会	H23.2
	高強度化機能性バクテリアセルロースゲルの調製と物性評価	セルロース学会第 17 回年次大会	H22.7
	GA を用いた近傍波源における到来方向推定に関する一検討	平成 22 年度電気・情報関係学会北海道支部連合大会	H22.10
	生物型ロボットの運動学計算システム	ロボティクス・メカトロニクス講演会１０講演論文集	H22.6
	局所運動学によるヒューマノイドモデルの運動学計算	精密工学会北海道支部学術講演会講演論文集	H22.10
	収穫ロボットが日本の農業を救う～技術立国日本における農業：韓国の事情を参考に	旭川ウェルビーイング・ コンソーシアム 2010 年度連携公開講座「市民のための公開講座」	H22.6
	渦電流法によるオーステナイト系ステンレス鋼のひずみ検出	日本機械学会北海道学生会第 40 回卒業研究発表講演会	H22.3
	MUSIC 法を用いた近傍波源における到来方向推定に関する一検討	平成 22 年度電気・情報関係学会北海道支部連合大会	H22.10
	薄肉の球状黒鉛鋳鉄の組織・強度と鋳造シミュレーションによる冷却速度との相関	日本鋳造工学会北海道支部	H22.4
	薄肉の球状黒鉛鋳鉄の肉厚および鋳造方案による組織の変化とシミュレーションによる冷却速度との相関	日本鋳造工学会第 157 回全国講演大会	H22.10
	拡張現実感を用いた NUI アプリケーションの開発	2010 年度精密工学会春季大会学術講演会	H22.3
	NUI への拡張現実感の応用	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会	H22.6
	拡張現実感と手の形状モデルを用いた NUI アプリケーションの開発	2010 年度精密工学会秋季大会学術講演会	H23.3
	マイコンを用いた吸引型磁気浮上装置の製作	電気学会全国大会	H23.3

（出典　学生課資料）

資料５－７－①－７

「平成 22 年度専攻科特別研究発表会　案内」

平成22年度専攻科特別研究発表会のご案内

このたび，専攻科学生の学習成果を広く皆様に知っていただくため，標記研究発表会を下記のとおり開催いたしますので，ご案内申し上げます。
ついては，ぜひご来場いただき，専攻科学生の研究内容についてご意見等をいただければ幸甚に存じます。

旭川工業高等専門学校専攻科長
三　井　　聡

日　　時：平成23年 2月16日（水）15：00～17：00

会　　場：ロワジールホテル旭川　2階「ウエストルーム」
旭川市7条通6丁目　℡0166-25-8811

発表者等：下記のとおり

内　　容：ポスターセッション（パネル展示）

そ の 他：入場は無料です。お気軽にお越しください。



<発表者及び特別研究テーマ>

専　攻	発表者	特別研究テーマ	指導教員
生産システム工学専攻	[redacted]	近傍波源における到来方向推定に関する研究	大島　功三
		レーザースペックルを利用した生体や植物の活性度計測における画質改善法に関する検討	横井　直倫
		進化計算による巻き上げ機構を有する天井クレーンの振れ止め制御	阿部　昌
		階段昇降機構の開発	岡田　昌樹
		二自由度系振動実験装置の製作	木曽　直古
		PSOを用いた発電機経済負荷配分に関する一考察	井口　傑
		市街地における円偏波の伝搬特性に関する研究	大島　功三
		大根引き抜き装置自動化に関する研究	大柏　哲治
		多数の微細気泡を含む静止液体中の縦形波動の理論解析	江頭　竜
		生物型ロボットの運動学計算	佐竹　和文
		垂直軸小型風車用無段変速機の検討	岡田　昌樹
		水中ウォータージェットにおけるキャビテーション壊食特性の実験的研究	江頭　竜
応用化学専攻		柔軟性の長鎖を有する新規エチニルスチレン誘導体の合成及び重合に関する研究	津田　勝幸
		エステル結合を有する新規エチニルスチレンの合成と重合特性に関する研究	津田　勝幸
		長い共役系を有する新規エチニルスチレン誘導体の合成と重合および熱特性の検討	津田　勝幸
		旭川と留萌・増毛地域における空中浮遊糸状菌調査　―環境微生物と農業用殺菌剤の関わり―	富樫　巌

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

教養科目は，専攻科の教育目的である国際的な技術者を育成するために、英語関連科目及び技術者倫理を必修としている。特別研究は課題解決型の科目として位置付けられ，最終的な研究成果の報告は，学外での発表が義務付けられている。

以上のことから，本校専攻科課程では，修学にふさわしい教養教育や研究指導が行われている。

観点５－８－①：　成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，修了認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程では，授業時間，成績評価，単位認定及び修了認定が規程（資料５－８－①－１）で定められ，試験の成績，レポート，課題の取組状況等から，秀・優・良・可・不可の５段階で評価される。成績評価基準については，シラバスに明示されている。また，これらは学生生活のしおり，シラバス（資料５－８－①－２）及びウェブサイトに掲載することにより，学生に周知されている（資料５－８－①－３）。さらには，これらの規定に基づき，教務委員会（平成23年度から専攻科委員会を教務委員会に統合）において成績評価，単位認定及び修了認定が適正かつ厳正に行われている（資料５－８－①－４）。

資料５－８－①－１

「授業時間・成績評価・単位認定規程・修了認定規程」

旭川工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程

（目的）
第１条　この規程は，旭川工業高等専門学校学則（昭和37年制定。以下「学則」という。）第４８条第２項の規定に基づき，専攻科の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定等について定めることを目的とする。
（授業）
第２条　授業の１単位時間は，標準５０分とする。
２　授業は，講義，演習，実験及び実習のいずれか，又はこれらの併用により行うものとする。
３　授業科目の単位の計算方法は，１単位の履修時間を授業時間及び授業時間外に必要な学修をあわせて４５時間とし，次の基準により単位数を計算するものとする。
(1) 講義については，１５時間の授業をもって１単位とする。
(2) 演習，実験及び実習については，３０時間の授業をもって１単位とする。
（履修方法）
第３条　授業科目の履修に当たっては，年度当初に，別に定める「履修届」を提出しなければならない。
（試験）
第４条　試験は，定期試験，追試験及びその他の試験とする。
２　定期試験は，各学期末に一定の期間を定めて実施する。
３　追試験は，病気その他やむを得ない理由により，定期試験を受けられなかった者に対して実施する。
４　その他の試験は，授業科目の担当教員が必要と認めたとき実施することがある。
（成績の評価）
第５条　成績は，授業科目ごとに第４条に規定する試験の成績及び平素の学習状況等を総合して評価する。
２　成績の評価は，次の区分による。

評定	秀	優	良	可	不可
評点	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0

（単位の認定）
第６条　前条第２項の規定に基づき，秀，優，良及び可に評価された授業科目については，当該授業科目の単位を修得したものとして認定する。
（再履修）
第７条　単位を認定されなかった授業科目は，別に定める「再履修願」を提出し，次年度において再履修することができる。
（他の教育施設において履修した単位の認定）
第８条　大学及び他の教育施設において開設する授業科目の履修を希望する者は，事前に別に定める「受講届」を提出しなければならない。
２　前項の規定により授業科目を履修し修得した単位については，２０単位を超えない範囲で専攻科における授業科目の履修とみなし，単位の修得を認定することができる。
（修了に必要な要件）
第９条　専攻科の修了にあたっては，学則第４９条第１項に定めるもののほか，次の区分による単位を修得しなければならない。

専攻名	教養科目	専門関連科目・専門的科目		合計
	必修科目	必修科目	選択科目	
生産システム工学専攻	8単位	38単位	16単位以上	62単位以上
応用化学専攻	8単位	38単位	16単位以上	62単位以上

（出典　平成23年度学生生活のしおり　P.118-119）

資料５－８－①－２

「シラバス（例）」

科目名	システム制御工学	JABEE科目	科目コード Z11012

学年・学科等名	1 学年	専攻共通	専門関連・選択
単位数・開講期	2 単位	後期	
総時間数	90 時間	講義 30 ＋ 自学自習 60	
担当教員	阿部　晶		

JABEE関連	教育プログラム科目区分	201基礎工学科目①設計・システム系
	教育プログラムの学習・教育目標	A-2(50%) D-1(25%) D-2(25%)
	JABEE基準	d

教科書名	使用しない
補助教材	配布プリント
参考書	森泰親: 演習で学ぶ現代制御理論, 森北出版, 2004

A. 教育目標
線形微分方程式としてモデル化できるシステムを状態方程式と出力方程式で表して，そのシステムの分析や制御法を修得することが目標である．

B. 概要
前半では，機械系・電気系を具体例として，その動作を線形微分方程式としてモデル化した後に，古典制御理論の伝達関数や現代制御理論の状態方程式・出力方程式として表現する方法を学ぶ．後半では，状態方程式・出力方程式を使ってシステムの可制御性，可観測性を調べたり，良好な応答が得られるように制御系を設計する方法を学ぶ．

C. 学習上の留意点
機械系（減衰振動系，歯車系など），電気系（RLC の直列・並列回路など）を線形微分方程式としてモデル化し，それを伝達関数や状態方程式・出力方程式として正しく表現できる事がポイントである．また，同値変換や極配置法による制御系の設計には，固有値解析等の線形代数の知識が不可欠である．

D. 評価方法
試験（80%），課題提出状況（20%）により評価する．

E. 授業内容

授業項目	時間	内　　容	教育プログラム
状態方程式と出力方程式	4	状態方程式・出力方程式の意味を理解する．微分方程式あるいは伝達関数で記述されるブロック線図から，状態方程式・出力方程式が導出できる．	A-2 D-1 D-2
状態方程式の解法	6	状態遷移行列から状態方程式の解を求めることができる．	A-2 D-1 D-2
同値変換	4	状態変数の正則変換である同値変換の概念を学習し，システムを対角正準系に変換できる．	A-2 D-1 D-2
中間試験	2		
可制御性と可観測性	4	システムの可制御性と可観測性の意味を理解し，その判定ができる．	A-2 D-1 D-2
直接法による極配置	6	システムの固有値を所望の点へ配置する直接的な方法を学び，フィードバックゲインが計算できる．	A-2 D-1 D-2
可制御正準系による極配置	4	可制御正準系を利用した極配置法を学習し，フィードバックゲインの計算ができる．	A-2 D-1 D-2
（学年末試験）			

授業項目	時間	内　　容	教　育 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ
◆自学自習 ・予習復習 ・演習課題 ・試験の準備	60	自学自習時間として，日常の授業のための予習復習時間，理解を深めるための演習課題の考察･解法の時間および試験の準備のための勉強時間を総合して 60 時間と考えている.	A-2 D-1 D-2

F.　関連科目
応用数学，応用物理，制御工学，電気工学，機械力学

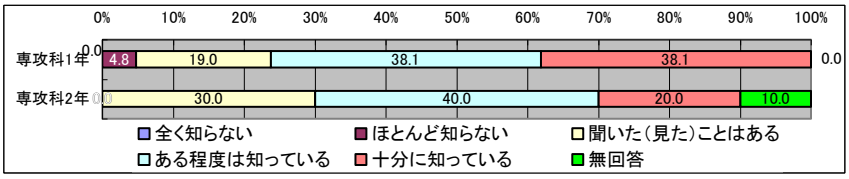
（出典　専攻科シラバス2011　P.23-24）

資料５－８－①－３

「認証評価基準に係わるアンケート調査結果（単位認定）」

Ⅳ　成績評価の規定に対する認知について

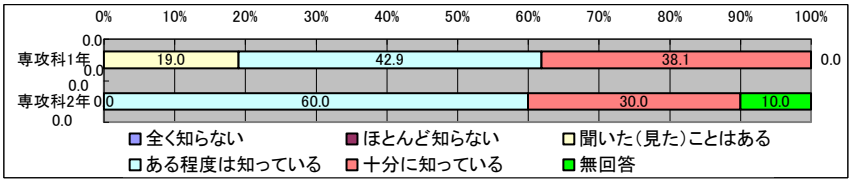
Q18　専攻科課程における単位認定の要件が、次のように定められていることを知っていますか。
□
「前条第2項の規定に基づき、優、良及び可に評価された授業科目については、当該授業科目の単位を修得したものとして認定する。」（学生生活のしおり、専攻科の授業科目の履修等に関する規定第6条）



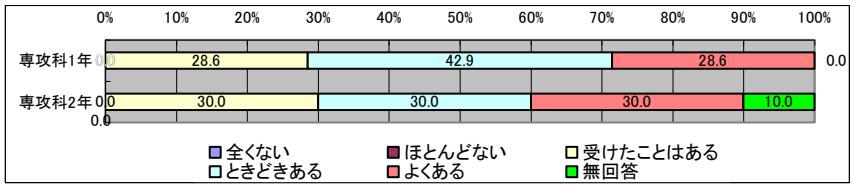
Q19　専攻科課程における修了認定の要件が、次のように定められていることを知っていますか。

「専攻科に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、62単位以上を修得した者については、修了を認定する。」（学生生活のしおり、学則第49条第1項）
「専攻科の修了にあたっては、学則第49条第1項に定めるもののほか、次の区分による単位を修得しなければならない。」（学生生活のしおり、専攻科の授業科目の履修等に関する規定第9条）

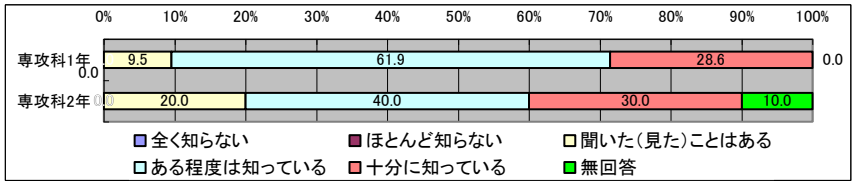
専攻名	教養科目 必修科目	専門関連科目・専門的科目 必修科目	 選択科目	合計
生産システム 工学専攻	8単位	38単位	16単位以上	62単位以上
応用化学専攻	8単位	38単位	16単位以上	62単位以上



Q20　単位および修了認定の要件について、これまでに専攻主任や科目担当教員等から説明（口頭・文書含む）を受けましたか。



Q21　専攻科課程においては、1単位の履修時間が、「講義」では授業時間15時間+授業時間以外の学修30時間の計45時間、「演習・実験・実習」でが授業時間30時間+授業時間以外の学修15時間の計45時間、と定められていることを知っていますか。



（出典　総務課資料）

資料５－８－①－４

「単位認定，進級認定，修了認定に係る会議資料」

専攻科委員会（平成22年度第14回）議事要旨

日　時　　平成23年２月22日(火)　16:45～17:10
場　所　　中会議室
出席者　　三井委員長，今野委員，宇野委員，有馬委員，戸村委員，沼田委員，本荘委員，冨永委員，髙見委員
欠席者　　津田委員
事務部　　教務係長

【審議事項】
1　平成22年度修了認定について
委員長から，資料１に基づき，平成22年度第２学年後期末学業成績について説明があり，審議の結果，資料１のとおり成績が認定され，次いで，専攻科の修了要件を満たす者について，次のとおり認定され，次回の教員会議に諮ることにした。

生産ｼｽﾃﾑ工学専攻　11名（認定対象在籍者14名中，[redacted]番，[redacted]番及び[redacted]番の者を除く）
※[redacted]番の者は休学中のため，認定対象外。
応用化学専攻　3名（認定対象在籍者7名中，[redacted]番，[redacted]番，[redacted]番及び[redacted]番の者を除く）

なお，委員長から，応用化学専攻[redacted]番の者については，現在履修中の１年次科目の成績が認定されれば修了要件を満たすため，２月28日に実施予定の後期末試験の結果を受けて修了認定を行うこととしたい旨の説明があった。

2　平成22年度「環境・生産システム工学」教育プログラム修了認定について
委員長から，資料２に基づき，平成22年度第２学年学生21名（休学中の者を除く）に係る「環境・生産システム工学」教育プログラムの履修状況等について説明があり，審議の結果，修了要件を満たす者について，次のとおり認定され，次回の教員会議に諮ることにした。

生産ｼｽﾃﾑ工学専攻　9名（認定対象在籍者14名中，[redacted]番，[redacted]番，[redacted]番，[redacted]番及び[redacted]番の者を除く）※[redacted]番の者は休学中のため，認定対象外。
応用化学専攻　2名（認定対象在籍者7名中，[redacted]番，[redacted]番，[redacted]番，[redacted]番及び[redacted]番の者を除く）

なお，委員長から，応用化学専攻[redacted]番の者については，専攻科修了が認定されれば修了要件を満たすため，後日行う専攻科修了認定後に修了認定を行うこととしたい旨の説明があった。

3　平成23年度授業計画の一部変更(案)について
委員長から，資料３に基づき，平成23年度授業計画の一部変更(案)について説明があり，審議の結果，原案どおり了承された。

【報告事項】
1　平成22年度第５回TOEIC IPテスト等の実施結果について
　委員長から，資料４に基づき，第５回TOEIC IPテスト及びTOEICスコア400相当試験の実施結果について報告があり，次いで，英語担当の本荘委員から補足説明があった。
　なお，委員長から，この結果により，専攻科修了を認定された者のうち３名がTOEICスコア400相当に達しなかった旨の報告があった。

2　平成 22 年度特別研究発表会の実施結果について
　委員長から，２月 16 日に実施した平成 22 年度特別研究発表会の関係業務について謝辞が述べられた。
　次いで，委員長から，資料５に基づき，特別研究発表会の出席者に対して実施したアンケート調査の集計結果等について報告があった。

3　その他
（１）次回の開催について
　委員長から，次回の専攻科委員会を次のとおり予定している旨の報告があった。
　期　　日　３月 17 日（木）
　審議事項　①平成 22 年度後期末成績認定について
　　②平成 24 年度専攻科学生募集要項（案）について
　　③平成 24 年度専攻科案内（案）及び平成 24 年度専攻科学生募集ポスター（案）について

以上

（出典　平成22年度第14回専攻科委員会議事録）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科課程についての成績評価，単位認定及び修了認定の規定が学則により定められているとともに，学生生活のしおりやシラバスに掲載され，学生に周知されている。また，これらの規定にしたがって，成績評価，単位認定及び修了認定が適切にかつ厳正に実施されている。

以上のことから，規定が策定され，それが学生に周知されて適切に実施されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

＜準学士課程＞

・　留学生及び編入学生に対する特別時間割の設定やオフィスアワー・学習支援室・学習指導チューターを利用し，学生に対するきめ細かな学習指導を実施している。また，英語教育内容の充実と一斉英語試験日の実施を通じ，外国語能力の向上を図っている。さらに，４年次の企業実習(選択科目)に半数以上の学生を参加させ，インターンシップの活用を行っている。

＜専攻科課程＞

・　学生に４週間の長期インターンシップを必修科目として行わせている。また，道内４高専合同の専攻科研究発表・交流会での発表を義務付けている。さらに，英語による専門科目の授業を通じた外国語教育の充実や，本校OB企業技術者の協力を得て，「創造工学」にてPBL授業を実施し，総合能力の育成を図っている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準５の自己評価の概要

本校の教育目標に基づき，準学士課程及び専攻科課程を通じて授業科目が各学年・各専攻にわたって適切に配置され，それらが考慮された教育課程が編成されている。

授業科目の設定についても，教育課程の趣旨に沿った体系的なものとなっており，シラバスには授業内容，到達目標，評価方法等が適切に記載されている。また，社会からの要請に応えるためにインターンシップがあり，創造性を育成することを目的として設定された実験・実習，創造工学，卒業研究などの授業科目が展開されている。授業方法・授業形態については講義，演習・実験・実習がバランス良く配置され，実験・実習科目を中心に少人数教育が効果的に実施されている。

特に，専攻科課程の特別研究指導においては，学生に対して学外における研究発表を義務付けており，本校の教育研究内容を広く公開している。

成績評価基準，卒業及び修了認定基準は学則に明確に定められ，学生生活のしおりやウェブサイト等を通して，学生に十分に周知されており，これらの基準にしたがって，適切かつ厳正に成績評価，単位認定及び卒業・修了認定が行われている。

基準６　教育の成果

（１）観点ごとの分析

観点６－１－①：　高等専門学校として，その教育の目的に沿った形で，課程に応じて，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成しようとする人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

本校では，観点１－１－①で述べた教育上の目的に対応して授業科目を配置しており（資料６－１－①－１），各科目が本校の教育目標のいずれに該当するか，シラバスに記載されている。卒業（修了）達成状況の把握については，教務委員会（資料２－２－①－５（56ページに前出））にて行っている。各科目の到達目標や評価方法はシラバスに明記されており，各教員はこれに沿って授業や評価を行っている。準学士課程においては，各教科が，本校の教育目標①～④及び各学科（科）の教育目標のどの項目を達成することを目的としているかが，シラバスに記載されている（資料６－１－①－２）。また，本校では，準学士課程第４学年から専攻科課程第２学年までの４年間のカリキュラムから構成される「環境・生産システム工学」教育プログラムを設けており，この教育プログラムはJABEE認定を受けている。このプログラムに含まれる科目については，各科目がこの教育プログラムのどの目標達成を目指す科目であるかが，シラバスに記載されている（資料６－１－①－３）。これらの記述より，学生が卒業（修了）するまでに修得すべき学力や資質・能力を明確にしている。準学士課程の学生が行う学習達成度評価（観点６－１－④で述べる）では，アンケート用紙に各科目が対応する教育目標が記述されており，学生が教育目標の達成度を自覚することができるよう配慮されている。

また，準学士課程の卒業研究と専攻科課程の特別研究は，各課程における総合力を最終的に見極める科目であり，評価においては，企画・実行力，計画性，発表能力，達成度，創意工夫（創造性）といった項目が設けられ（資料６－１－①－４，５），本校において養成すべき人材像について，達成状況を把握する取組が行われている。

卒業（修了）の認定に当たっては，年度末の教員会議において，卒業（修了）に必要な科目や単位（観点５－４－①，観点５－８－①）の取得状況の一覧が，学科（専攻）ごとに示され（資料６－１－①－６，７），卒業（修了）認定が行われている。

資料６－１－①－１

「新カリキュラム　本校教育目標に対応する科目」

新カリキュラム（1年生）　本校の教育目標に対応する科目

① 人間形成に必要な一般教育科目をできるだけ幅広く展開し，豊かな教養と幅広い思考力を養う。
また，外国語を鍛え，外国文化に対する理解力を養う。

学科（科）	設定科目
一般科目	国語Ⅰ－Ⅱ，言語表現，日本文化論，哲学，文学，英語Ⅰ－Ⅴ，基礎英会話，英文法，英語演習，英語特講A･B，現代社会，日本史，地理，世界史，経済学，知的財産権論，史学，法学，政治学，第二外国語A･B，数学ⅠA-ⅢB，情報基礎，物理Ⅰ－Ⅱ，化学Ⅰ－Ⅱ，生物，地学
機械システム工学科	機械システム工学ゼミナール
電気情報工学科	工業英語
システム制御情報工学科	工業英語
物質化学工学科	材料化学ゼミナール，生物化学工学ゼミナール，物質化学工学演習A

② 若く新鮮な感性と実験･実習等を重視した体験学習により，豊かな創造力と行動力を養う。

学科（科）	設定科目
一般科目	
機械システム工学科	応用物理実験，機械製図Ⅰ，機械製作実習Ⅰ，機械製図Ⅱ，機械製作実習Ⅱ，機械総合実習，創造実習，機械システム工学実験Ⅰ，企業実習，機械システム工学実験Ⅱ，卒業研究
電気情報工学科	応用物理実験，創造プログラミング実習，プログラミング実習Ⅰ－Ⅱ，電気情報工学基礎実験Ⅰ－Ⅱ，電気情報工学実験Ⅰ－Ⅱ，企業実習，情報アルゴリズム，卒業研究
システム制御情報工学科	応用物理実験，工作実習，CAD／CAM演習，創造工学，工学実験Ⅰ，企業実習，ゼミナール，工学実験Ⅱ，卒業研究
物質化学工学科	応用物理実験，基礎化学実験，情報処理，生化学実験，情報処理演習，物理化学実験，化学工学実験，企業実習，卒業研究，材料化学実験，生物化学工学実験，電気化学

③ 工学基礎及び専門基礎をしっかり身に付けさせ，広い専門的視野と総合的判断力を持たせる。

学科（科）	設定科目
一般科目	数学特講，物理特講
機械システム工学科	応用数学Ⅰ-Ⅳ，応用物理Ⅰ－Ⅱ，工学基礎演習Ⅰ－Ⅱ，機械加工学Ⅰ－Ⅱ，CAD／CAM　Ⅰ－Ⅱ，力学基礎，機械材料学，材料力学Ⅰ－Ⅲ，機構学，機械要素Ⅰ－Ⅱ，プログラミング基礎，電気工学，熱力学Ⅰ－Ⅱ，材料力学Ⅰ－Ⅲ等
電気情報工学科	応用数学Ⅰ－Ⅱ，応用物理Ⅰ－Ⅱ，電気工学基礎，電気情報基礎演習，基礎電気回路Ⅰ－Ⅱ，コンピュータ工学基礎，基礎電子回路，基礎電磁気学，電子工学，電気電子計測Ⅰ－Ⅱ，計算機工学，電気回路Ⅰ－Ⅱ，電子回路Ⅰ－Ⅲ等
システム制御情報工学科	応用数学Ⅰ－Ⅱ，応用物理Ⅰ－Ⅱ，電子計算機概論，工学基礎演習Ⅰ－Ⅱ，製図，情報処理，CADⅠ－Ⅱ，コンピュータグラフィックス，アルゴリズムとデータ構造，工業力学，材料工学，機械要素設計，電気工学，数値計算Ⅰ－Ⅱ　等
物質化学工学科	応用数学Ⅰ－Ⅱ，応用物理Ⅰ－Ⅱ，基礎化学，化学基礎演習，分析化学，無機化学Ⅰ-Ⅲ，有機化学Ⅰ-Ⅲ，分析化学実験，基礎生物学，微生物学，生化学，物理化学Ⅰ-Ⅲ，化学工学Ⅰ-Ⅳ，有機化学実験，機器分析　等

④ 自主的に思考し，学習し，行動する習慣を身に付けさせ，心身の健康維持，増進に努めさせる。

学科（科）	設定科目
一般科目	美術，保健，体育Ⅰ-Ⅳ，心理学
機械システム工学科	
電気情報工学科	創成工学演習A-B
システム制御情報工学科	
物質化学工学科	

（出典　教務係資料）

資料６－１－①－２

「シラバス（抜粋）」

科目名	数学ＩＡ		科目コード G11003

学年・学科等名	1 学年	全クラス	必修科目
単位数・開講期	3 単位	前期	
総時間数	90 時間		
担当教員	近藤　真一・長岡　耕一・降旗　康彦・大澤　智子		

本校の教育目標	1	一般理数科の教育目標	1

JABBE対象外		

教科書名	新編 数学Ⅰ、新編 数学Ⅱ[数研出版]
補助教材	Study-Upノート数学Ⅰ＋A
参考書	

A.　教育目標

数学における新しい概念や原理・法則の理解を深め、計算力の向上を目指す。さらに、事象を数学的に考察し処理する能力を高めることを目標とする。

B.　概要

数学は工学の専門科目を学ぶ際の基礎科目である。それらのうち、式の計算、方程式と不等式、2関数と2次不等式、複素数、三角比を扱う。

C.　学習上の留意点

新たな内容に対して、その定義をしっかりと身に付けること、および論理的な筋道を理解することを心掛ける。したがって疑問点は早期に解決するよう努力すべきである。また、専門科目で活用できるためには、「わかる」だけではなく「できる」ことが求められるので、その力を養うためには、授業の他にも自分で問題演習を数多くこなすことが必要である。

D.　評価方法

定期試験等の各種試験(80%)、学習への取り組み(小テスト、レポート、課題等)(20%)にて評価する。

E.　授業内容

＊＊以下省略

（出典　本校ウェブサイト平成 23 年度シラバス）

資料６－１－①－３

「シラバス（抜粋）」

科目名	熱エネルギー工学Ⅰ	JABEE科目	科目コード 146

学年・学科等名	5 学年	機械システム工学科	必修科目
単位数・開講期	1 単位	前期	
総時間数	45 時間	講義＋教室内自学自習 30 ＋ 自学自習 15	
担当教員	江頭　竜		

本校の教育目標	3	機械システム工学科の教育目標	1

JABEE関連	教育プログラム科目区分	301専門工学科目①専門応用系
	教育プログラムの学習・教育目標	A-2(10%) D-1(50%) D-2(40%)
	JABEE基準	d

＊＊以下省略

（出典　本校ウェブサイト平成 23 年度シラバス）

資料６－１－①－４

「シラバス（抜粋）」

科目名	卒業研究	JABEE科目	科目コード 359

学年・学科等名	5 学年	制御情報工学科	必修科目
単位数・開講期	7 単位	通年	
総時間数	210 時間		
担当教員	システム制御情報工学科全教員		

本校の教育目標	2	制御情報工学科の教育目標	4

JABEE関連	教育プログラム科目区分	303専門工学科目③課題解決系
	教育プログラムの学習・教育目標	C-1(20%) D-3(40%) E-1(15%) E-2(5%) E-3(20%)
	JABEE基準	defgh

＊＊省略

D.　評価方法

卒業研究発表会(審査会)での状況を含め，下表の項目・指針に基づいて担当指導教員が評価し，学科会議において審議の後，最終的に決定する。

評価項目	学習・教育目標	指針	評価割合
企画・実行力	D-3	・どの様に研究を進めて目標に到達できるかを考え実行したか。 ・デザイン対象をもとに，その能力を育成できたか。	20%
計画性	D-3	・自ら積極的に行ったか。 ・自ら段取りを付け，時間配分を考えながら研究を行ったか。	10%
発表能力	C-1	・論文の内容を正確に表していたか。 ・発表会におけるスライド・発表状況・質疑応答等	20%
達成度	E-1	・研究成果の達成度，論文の内容および体裁等 ・関連分野の工学知識を習得し，自主的，継続的に身につけることができたか。	15%
協調性	E-2	・研究メンバー間で協調・討議等を行い，進められたか。 ・共同実験者と協力し合いながら行うことができたか。	5%
創造性	E-3	・自らが考えて進めた研究内容・方法があったか。	20%
提出期限	D-3	・期限内：10 点（以降：時間・日数により減点）	10%

＊＊以下省略

（出典　本校ウェブサイト平成 23 年度シラバス）

資料６－１－①－５

「シラバス（抜粋）」

科目名	生産システム工学特別研究	JABEE科目	科目コード 712

学年・学科等名	2 学年	専攻共通	専門的・必修
単位数・開講期	8 単位	通年	
総時間数	360 時間	研究 240 ＋ 自学自習 120	
担当教員	機械システム・電気情報・システム制御情報工学科各指導教員		

JABEE関連	教育プログラム科目区分	303専門工学科目③課題解決系
	教育プログラムの学習・教育目標	C-1(20%) D-3(35%) E-1(20%) E-3(25%)
	JABEE基準	defgh

教　科　書　名	
補　助　教　材	
参　　考　　書	

A.　教育目標

各指導教員のもとで 1 つの研究テーマに取り込み，研究計画の立案，実験装置の試作・実験，解析手法の開発，アルゴリズムの開発，研究成果の取りまとめなど，目標設定から達成までの研究活動に必要な能力を養う。

B.　概要

第1学年の特別研究を継続し，各担当教員の指導のもとで取り組み，企画・実行力，設計・創造力，発表能力など研究遂行に必要な能力を養う。文献購読や関連分野の調査・研究等を積極的に行うことにより，生産システム特別研究を行う上で必要となる基礎知識を身につけていく。

C.　学習上の留意点

これまでに学んだ知識，また本科における卒業研究の経験や成果をもとにして，さらに高いレベルの研究テーマに挑戦して問題点を見つけ出し，解決していく積極的な取り組みが必要である。

D.　評価方法

下記の項目に対して行う。

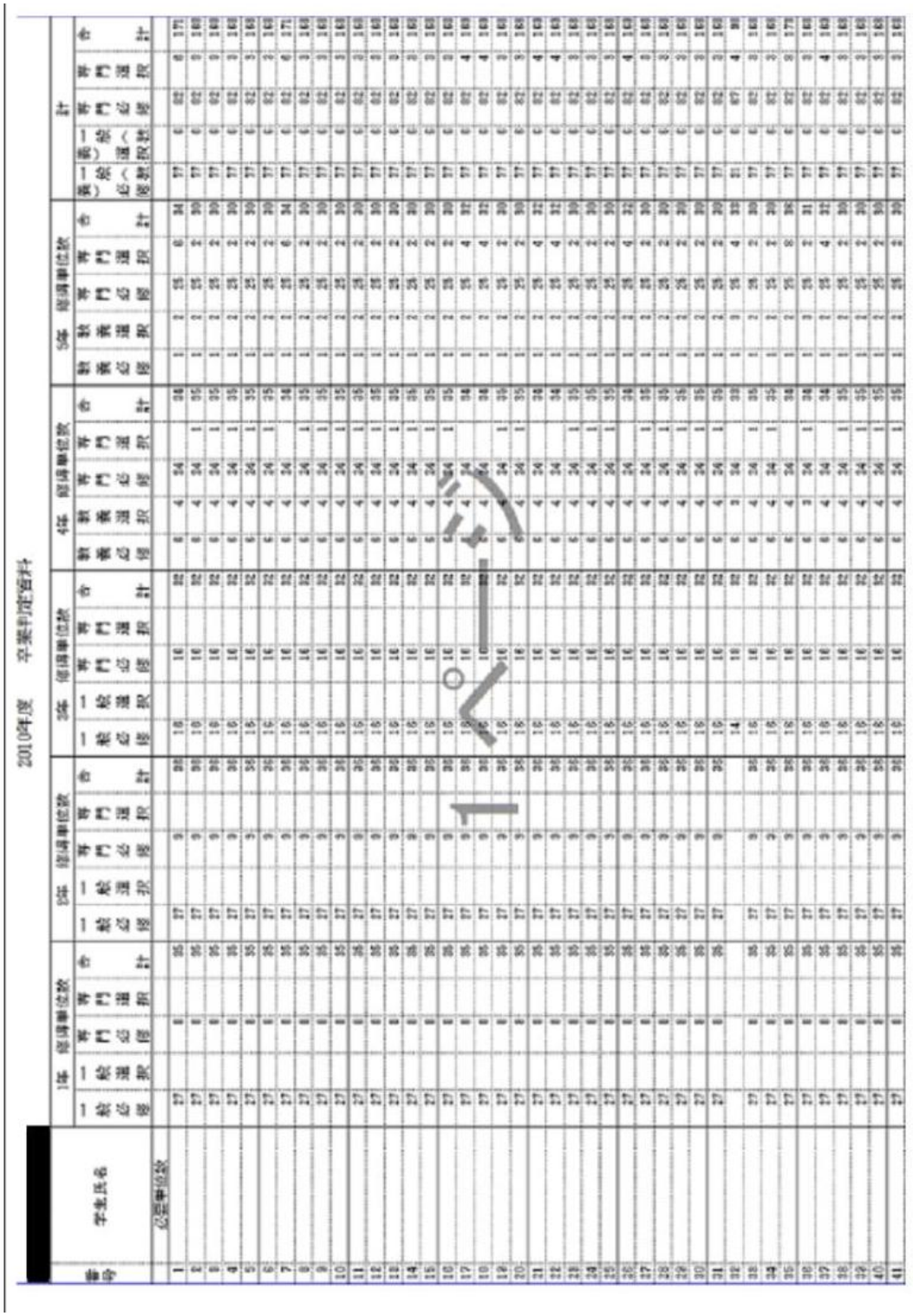
評価項目	学習・教育目標	指　　針	評価割合
発表能力	C-1	・論文の内容を正確に表していたか。 ・発表会におけるスライド・発表状況・質疑応答等。	20%
企画・デザイン力	D-3	・どのように研究を進めたら目標に到達できるかを 考えて実行したか。 ・自ら積極的に行ったか。 ・デザイン対象をもとに，その能力を育成できたか。	25%
提出期限	D-3	・期限内 10 点（以降，時間・日数により減点）	10%
達成度	E-1	・研究成果の達成度，論文の内容および体裁等。 ・関連分野の工学知識を習得し，自主的，継続的に 身に付けることができたか。	20%
創意工夫	E-3	・自らが考えて進めた研究内容・方法があったか。	25%

＊＊以下省略

（出典　本校ウェブサイト平成 23 年度シラバス）

資料６－１－①－６

「教員会議資料（学業成績一覧）」



2010年度　学業判定資料

（出典　平成 23 年３月　教員会議資料）

資料６－１－①－７

「教員会議資料（専攻科単位修了状況一覧）」

2007年度　修了予定者修得単位数一覧

2年

専攻名	氏名	必修科目			選択科目（16 単位以上）					修了要件修得	修了要件外	修得単位数	備考
					本校修得単位数			他大学修得単位数					
		教養科目	専門関連科目	専門的科目	教養科目	専門関連科目	専門的科目	教養科目	専門関連科目	専門的科目	小計	単位数合計	他大学	総合計	
		8単位	10単位	28単位								62 単位以上	修得単位数		
生産システム工学専攻		8	10	28		12	14				26	72		72	
生産システム工学専攻		8	10	28		10	12				22	68		68	
生産システム工学専攻		8	10	28		10	8				18	64		64	
生産システム工学専攻		8	10	28		10	8				18	64		64	
生産システム工学専攻		8	10	28		8	10				18	64		64	
生産システム工学専攻		8	10	28		14	18				32	78		78	
生産システム工学専攻		8	10	28		8	12				20	66		66	
生産システム工学専攻		8	10	28		10	12				22	68		68	
生産システム工学専攻		8	10	28		8	12				20	66		66	
生産システム工学専攻		8	10	28		8	10				18	64		64	
応用化学専攻		8	10	28		6	10				16	62		62	
応用化学専攻		8	10	28		6	10				16	62		62	
応用化学専攻		8	10	28		6	10				16	62		62	
応用化学専攻		8	10	28		6	10				16	62		62	
応用化学専攻		8	10	28		6	10				16	62		62	
応用化学専攻		8	10	28		6	12				18	64		64	

（出典　平成20年３月　教員会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，科目ごとに，本校の教育目標に沿った形で，学生が卒業（修了）までに修得すべき学力や資質・能力を明確にしている。さらに，卒業（修了）に必要な科目が定められており，それに基づき卒業（修了）認定が行われている。

以上のことから，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成しようとする人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われている。

観点６－１－②：　各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について，学校としてその達成状況を評価した結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

平成 15 年度から平成 22 年度においては，年度平均で全学生数の 3.7％にあたる 31 名の学生が退学し，休学者の平均は８名，留年者の平均は 26 名であった。入学から卒業までの学年ごとの進級率は，第３学年で最も低いことがわかる（資料６－１－②－１）。平成 15 年度から平成 22 年度までの間で，標準年限で卒業した学生の割合は，４学科の平均ではほぼ 78％であった（資料６－１－②－２）。

本校学生の各種コンペティションにおける受賞状況を示す（資料６－１－②－３）。特にロボコンでは，平成 22 年度に，全国大会においてベスト４入りという優れた成績を上げている。

本校では，教育目標に「外国語を鍛え，外国文化に対する理解を養う」ことが定められ，準学士及び専攻科課程修了時点で，それぞれ TOEIC スコア 350 点及び 400 点取得を目標としている。平成 23 年に実施した本科生の TOEIC IP 試験の結果を示す（資料６－１－②－４）。また，第１～３年生に対しては，工業英語能力検定試験の受験を推奨している（資料６－１－②－５）。

本科卒業研究と専攻科特別研究の内容・水準については，シラバスに明示された評価基準（前述資料６－１－①－３）により，研究への取組状況，研究内容，報告書の完成度・発表状況等を総合的に判断して行われており，これらの成果を学生が学会等で発表することを推奨している。平成 22 年度の準学士課程学生の発表実績（資料６－１－②－６）及び専攻科課程学生の発表実績を示す（資料６－１－②－７）。

資料６－１－②－１

学生移動一覧(単位:名)

在籍者		退学者						休学者						原級留置者					
年度		1年	2年	3年	4年	5年	計	1年	2年	3年	4年	5年	計	1年	2年	3年	4年	5年	計
15	785	1	3	20	8		32	1	1	1	1		4		3	5	5		13
16	795	5	4	21	10	1	41	3	1	1	1		6	6	5	6	8		25
17	798	4	10	9	6		29	2			4	1	7	3	8	11	7	2	31
18	822	9	9	13	6		37	2	3	1	1	1	8		3	6	7	3	19
19	830	4	5	14	5	1	29	1	4	2	1		8		6	10	7		23
20	833	4	4	14	3	1	26	2		3	3	1	9	10	6	5	5		26
21	859	5	6	10	2		23	1	1	1	6		9	9	8	9	8		34
22	857	5	7	9	8		29	1	2		7	1	11	12	13	2	6	1	34
平均	822.4	4.6	6.0	13.8	6.0	1.0	30.8	1.6	2.0	1.5	3.0	1.0	7.8	8.0	6.5	6.8	6.6	2.0	25.6

（出典　学生課資料）

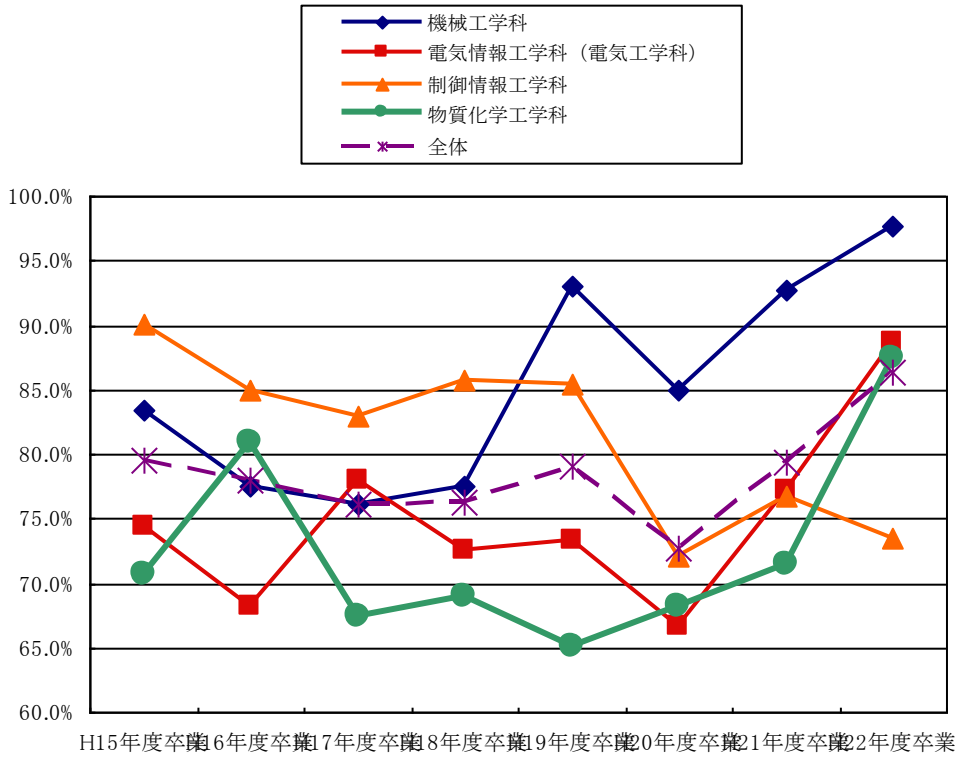
資料６－１－②－２

卒業率の推移

卒業年度	卒業年度(入学年度)	機械工学科			電気情報工学科(電気工学科)			制御情報工学科			物質化学工学科			全体		
		卒業者	入学者	卒業率	卒業者	入学者	卒業率	卒業者	入学者	卒業率	卒業者	入学者	卒業率	卒業者	入学者	卒業率
H15年度卒業	平成15年度卒業(平成11年度入学)	35	42	83.3%	32	43	74.4%	36	40	90.0%	29	41	70.7%	132	166	79.5%
H16年度卒業	平成16年度卒業(平成12年度入学)	31	40	77.5%	28	41	68.3%	34	40	85.0%	34	42	81.0%	127	163	77.9%
H17年度卒業	平成17年度卒業(平成13年度入学)	32	42	76.2%	32	41	78.0%	34	41	82.9%	29	43	67.4%	127	167	76.0%
H18年度卒業	平成18年度卒業(平成14年度入学)	31	40	77.5%	29	40	72.5%	36	42	85.7%	29	42	69.0%	125	164	76.2%
H19年度卒業	平成19年度卒業(平成15年度入学)	40	43	93.0%	33	45	73.3%	35	41	85.4%	28	43	65.1%	136	172	79.1%
H20年度卒業	平成20年度卒業(平成16年度入学)	34	40	85.0%	28	42	66.7%	31	43	72.1%	30	44	68.2%	123	169	72.8%
H21年度卒業	平成21年度卒業(平成17年度入学)	38	41	92.7%	34	44	77.3%	33	43	76.7%	30	42	71.4%	135	170	79.4%
H22年度卒業	平成22年度卒業(平成18年度入学)	41	42	97.6%	39	44	88.6%	36	49	73.5%	42	48	87.5%	158	183	86.3%
卒業率平均				85.4%			74.9%			81.4%			72.6%			78.4%

（出典　学生課資料）

標準年限卒業率



（出典　学生課資料）

資料６－１－②－３

【各種コンペティション結果】

	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度
アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト	地区大会 優勝・準優勝 全国大会 １回戦敗退	地区大会 優勝・準優勝 全国大会 ２回戦敗退（特別賞 電気事業連合会）	地区大会 アイデア賞・技術賞 全国大会 未出場	地区大会 アイデア賞・技術賞 全国大会 ファーストステージ 敗退	地区大会 優勝・準優勝 全国大会 準決勝敗退
全国高等専門学校プログラミングコンテスト	未選出場	未選出場	未出場	未出場	未選出場
全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト		未出場	地区大会：１名のため関連されず 全国大会出場（順位が付くのは３位まで）	地区大会：１位，２位 全国大会出場（順位が付くのは３位まで）	地区大会：２位 全国大会出場（順位が付くのは３位まで）
パテントコンテスト他	テクノアイデアコンテスト：アイデア賞，奨励賞			パテントコンテスト：入賞（特許出願支援対象者）＊1	デザインパテントコンテスト：入賞（意匠登録出願支援対象者）
学生による特許取得	＊1　移乗介護補助具（H23.5.10）				

（出典　学生係資料）

資料６－１－②－４

「本科 TOEIC IP テスト実施結果」

平成23年5月18日実施　本科第4学年・第5学年
TOEICIPテスト試験結果（統計資料）

H23.5.18 実施	平均点	最低点	最高点	留学生を除く最高点	受験者数	欠席者数	（休学）
4M	316.3	220	920	405	36	0	
4E	306.3	190	480		35	0	1
4S	337.1	225	530		45	0	1
4C	325.4	215	455		45	0	1
5M	331.2	195	575		37	0	
5E	354.0	245	600		31	6	
5S	349.2	205	725		33	5	
5C	342.9	195	870	760	41	1	
4年	322.5	190	920	530	161	0	3
5年	343.8	195	870	760	142	12	0
全対象	332.5	190	920	760	303	12	3

H22.6.16 実施	平均点	最低点	最高点	留学生を除く最高点	受験者数	欠席者数	（休学）
4M	326.4	230	525		36	1	
4E	340.5	230	825	470	38	1	
4S	320.1	195	640		43	0	
4C	319.6	170	830	665	46	0	1
5M	307.4	35	510		34	7	
5E	329.0	165	895	670	30	10	
5S	326.0	180	515		30	6	
5C	324.5	185	520		42	0	
4年	326.6	170	830	665	163	2	1
5年	321.7	35	895	670	136	23	0
全対象	324.2	35	895	670	299	25	1

平成21年度 実施 第4学年	平均点	最低点	最高点	留学生を除く最高点
4M	324.8	185	435	
4E	296.8	180	885	505
4S	324.6	200	495	
4C	312.0	220	410	
4年	314.5	180	885	505

平成20年度 実施 第4学年	平均点	最低点	最高点	留学生を除く最高点
4年	322.0	145	865	775

（出典　学生課資料）

資料６－１－②－５

「英検合格者数」

英検合格者数

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
準１級	1	1	0	0
２　級	3	4	5	1
準２級	26	26	24	32
３　級	47	40	36	48

（出典　学生課資料）

資料６－１－②－６

「平成 22 年度　準学士課程学生による学会等発表」

学生	指導教員	発表テーマ	発表機関名	発表日
[redacted]	戸村　豊明	拡張現実感を用いた NUI アプリケーションの開発	2010 年度精密工学会春季大会学術講演会	H22．3
	宮越　昭彦	誘電加熱を利用するメタンの高度転換プロセスの開発	日本化学会北海道支部 2010 年夏季研究発表会	H22．7
	宮越　昭彦	タンの直接芳香族化のための触媒開発 −触媒の水素処理と表面炭素析出種の関係について	日本化学会北海道支部 2010 年夏季研究発表会	H22．7
	宮越　昭彦	マイクロ波加熱を利用する木質素材由来活性炭の調製と吸着特性	日本化学会北海道支部 2010 年夏季研究発表会	H22．7
	宮越　昭彦	エトリンガイト由来結晶化物の調製条件とフッ素吸着特性	化学系学協会北海道支部 2011 年冬季研究発表会	H23．2
	宮越　昭彦	マイクロ波加熱を利用するエトリンガイト由来結晶化物の多孔質化とフッ素吸着特性	化学系学協会北海道支部 2011 年冬季研究発表会	H23．2
	大柏　哲治	収穫ロボットが日本の農業を救う～技術立国日本における農業:韓国の事情を参考に	旭川ウェルビーイング・コンソーシアム2010年度連携公開講座	H22．6
	大柏　哲治	大根収穫機の移動の自動化に関する研究	日本機械学会北海道学生会第４０回学生員卒業研究発表講演会	H23．3
	沼田ゆかり	熱機械分析による機能性バクテリアセルロースゲルの評価	第 45 回高分子学会北海道支部研究発表会	H23．1
	千葉　誠	$Cu2^{+}$ 及び Cl^{-} イオンを含む高温水溶液中におけるアルミニウム合金の腐食挙動	表面技術協会	H22．9
	千葉　誠	多肉植物の光合成メカニズムを利用した発電システムの開発	日本化学会北海道支部	H23．2
	千葉　誠	Cl^{-}, $Cu2^{+}$ を含む高温水溶液中におけるアルミニウム合金の腐食について	日本化学会北海道支部	H23．2
	千葉　誠	高温流水中における鉄の腐食形態におよぼすリン酸塩インヒビターの影響	日本化学会北海道支部	H23．2
	千葉　誠	応力による銅表面のホウ酸塩水溶液中における酸化挙動の影響	日本化学会北海道支部	H23．2
	千葉　誠	高温流水中における鉄の腐食に対するインヒビターの影響	表面技術協会	H23．3
	富樫　巌	生活環境にみられるカビの防除－精油の防カビ性能－	化学会系北海道支部 2011 年冬季研究発表会	H23．2
	富樫　巌	酵母に対する有機酸水溶液の殺菌性能	化学会系北海道支部 2011 年冬季研究発表会	H23．2
	富樫　巌	木炭を用いた固定化トリコデルマの木材腐朽阻害活性	化学会系北海道支部 2011 年冬季研究発表会	H23．2
	森川　一	歯列模型 STL データ編集プログラムの開発	日本機械学会北海道学生会第 40 回学生員卒業研究発表講演会	H23．3
	森川　一	Java Applet 等を利用した制御工学 e ラーニング・コンテンツの拡充	日本機械学会北海道学生会第 40 回学生員卒業研究発表講演会	H23．3

（出典　学生課資料）

資料６－１－②－７

「平成 22 年度　専攻課程学生による学会等発表」

発表者	発表テーマ	発表機関名	年月
[redacted]	誘電加熱を利用するメタンの高度転換プロセスの開発	日本化学会北海道支部 2010 年夏季研究発表会	H22.7
	タンの直接芳香族化のための触媒開発　－触媒の水素処理と表面炭素析出種の関係について－	日本化学会北海道支部 2010 年夏季研究発表会	H22.7
	エステル基を有する新規エチニルスチレン誘導体の合成とラジカルに関する研究	第 45 回（2010 年度）高分子学会北海道支部研究発表会	H23.2
	長い共役系を有する新規エチニルスチレン誘導体の合成とラジカルの検討	第 45 回（2010 年度）高分子学会北海道支部研究発表会	H23.2
	旭川と留萌・増毛地域の空中浮遊糸状菌調査 －環境微生物と農業用殺菌剤の関わり－	日本化学会北海道支部 2010 年夏季研究発表会	H22.7
	酵母の凍結殺菌における糖類の影響	化学系学協会北海道支部 2011 年冬季研究発表会	H23.2
	ラジカル反応によるカルボキシル化多層カーボンナノチューブの作製と透明導電体作製への応用	化学系学協会北海道支部 2011 年冬季研究発表会	H23.2
	高強度化機能性バクテリアセルロースゲルの調製と物性評価	セルロース学会第 17 回年次大会	H22.7
	GA を用いた近傍波源における到来方向推定に関する一検討	平成 22 年度電気・情報関係学会北海道支部連合大会	H22.10
	生物型ロボットの運動学計算システム	ロボティクス・メカトロニクス講演会１０講演論文集	H22.6
	局所運動学によるヒューマノイドモデルの運動学計算	精密工学会北海道支部学術講演会講演論文集	H22.10
	収穫ロボットが日本の農業を救う～技術立国日本における農業：韓国の事情を参考に	旭川ウェルビーイング・ コンソーシアム 2010 年度連携公開講座「市民のための公開講座」	H22.6
	渦電流法によるオーステナイト系ステンレス鋼のひずみ検出	日本機械学会北海道学生会第 40 回卒業研究発表講演会	H22.3
	MUSIC 法を用いた近傍波源における到来方向推定に関する一検討	平成 22 年度電気・情報関係学会北海道支部連合大会	H22.10
	薄肉の球状黒鉛鋳鉄の組織・強度と鋳造シミュレーションによる冷却速度との相関	日本鋳造工学会北海道支部	H22.4
	薄肉の球状黒鉛鋳鉄の肉厚および鋳造方案による組織の変化とシミュレーションによる冷却速度との相関	日本鋳造工学会第 157 回全国講演大会	H22.10
	拡張現実感を用いた NUI アプリケーションの開発	2010 年度精密工学会春季大会学術講演会	H22.3
	NUI への拡張現実感の応用	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会	H22.6
	拡張現実感と手の形状モデルを用いた NUI アプリケーションの開発	2010 年度精密工学会秋季大会学術講演会	H23.3
	マイコンを用いた吸引型磁気浮上装置の製作	電気学会全国大会	H23.3

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

各学年の進級及び卒業（修了）時等において，学生が身に付けるべき学力や資質・能力が，単位取得状況，卒業（修了）者数，資格取得状況，各種コンペティションでの活動状況，卒業研究及び特別研究等の内容・水準を通して，適切に評価されている。

以上のことから，学生が身に付けるべき学力・資質・能力について，教育の成果や効果が上がっている。

観点６－１－③：　教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

平成22年度における準学士課程の卒業生は158名で，この進路内訳は，就職が81名（51％），進学は75名（47％）であった（専攻科21名，大学等54名）。なお，進路未定学生は２名（２％）であった。また，専攻科修了生は15名で，この内就職が９名（60％），大学院等への進学が６名（40％）であった（資料６－１－③－１）。就職に関しては，準学士課程の，その他の学生の中に就職を希望する学生は含まれていないため，就職希望者の就職率は100%である。

また，就職先を見ると，各学科とも製造業が多くを占めており，その業種は様々である。製造業以外では電気・ガス事業，情報通信業が多い（資料６－１－③－２）。卒業生の編入先は，本校の専攻科，両技術科学大学，北海道大学，室蘭工業大学の他，全国にわたっている。専攻科生の大学院進学率は，平成22年度では40％となっている（資料６－１－③－３）。

資料６－１－③－１

平成２２年度

進路状況（本科）

学科名	卒業者数			就職者数			進学者数			その他		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
機械システム工学科	40	1	41	24	1	25	14	0	14	2	0	2
電気情報工学科	37	2	39	18	2	20	19	0	19	0	0	0
制御情報工学科	32	4	36	19	3	22	13	1	14	0	0	0
物質化学工学科	32	10	42	8	6	14	24	4	28	0	0	0
合計	141	17	158	69	12	81	70	5	75	2	0	2

進路状況（専攻科）

専攻名	卒業者数			就職者数			進学者数			その他		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
生産システム工学専攻	10	1	11	8	0	8	2	1	3	0	0	0
応用化学専攻	4	0	4	1	0	1	3	0	3	0	0	0
合計	14	1	15	9	0	9	5	1	6	0	0	0

（出典　平成23年度学校要覧）

【平成２２年度就職状況】　　資料６－１－③－２

区分			本科生					専攻科生			計
			機械システム工学科	電気情報工学科	制御情報工学科	物質化学工学科	小計	生産システム工学専攻	応用化学専攻	小計	
規模別	500人以上		21	15	11	11	58	3		3	61
	500人未満		3	5	11	3	22	5	1	6	28
	官公庁		1				1			0	1
産業別	農業，林業，漁業						0			0	0
	鉱業，採石業，砂利採取業						0			0	0
	建設業		2	3	1		6			0	6
	製造業	食料品，飲料・たばこ・飼料	1		2	4	7		1	1	8
		繊維工業					0			0	0
		木材・木製品，家具・装備品					0			0	0
		パルプ・紙・紙加工品	1		1		2			0	2
		印刷・同関連					0			0	0
		化学工業，石油・石炭製品，プラスチック製品	2	1		7	10			0	10
		ゴム製品，なめし革・同製品・毛皮					0			0	0
		窯業・土石製品					0			0	0
		鉄鋼業，非鉄金属，金属製品	2		2	1	5			0	5
		はん用・生産用・業務用機械器具					0			0	0
		電子部品・デバイス・電子回路			1		1			0	1
		電気・情報通信機械器具	2	1	4		7	1		1	8
		輸送用機械器具	5	1	4	1	11	1		1	12
		その他	5	3		1	9	4		4	13
	電気・ガス・熱供給・水道業		2	6	1		9	1		1	10
	情報通信業		1	4	4		9	1		1	10
	運輸業，郵便業		1	1	1		3			0	3
	卸売業，小売業						0			0	0
	金融業，保険業						0			0	0
	不動産業，物品賃貸業						0			0	0
	学術研究，専門・技術サービス業						0			0	0
	宿泊業，飲食サービス業						0			0	0
	生活関連サービス業，娯楽業						0			0	0
	教育，学習支援業						0			0	0
	医療，福祉						0			0	0
	複合サービス事業						0			0	0
	サービス業				1		1			0	1
	公務		1				1			0	1
	計		25	20	22	14	81	8	1	9	90

道　内	3	5	6	2	16	4	0	4	20
道　外	22	15	16	12	65	4	1	5	70

日本標準産業分類第12回改定を採用

（出典　平成 23 年度学校要覧）

資料６－１－③－３

【平成２２年度編入状況】

大学編入学等状況

大学等	機械システム工学科	電気情報工学科	制御情報工学科	物質化学工学科	合計
本校専攻科	3	6	4	8	21
苫小牧高専専攻科				1	1
北海道大学	3	3	1	2	9
室蘭工業大学		1	3	2	6
山形大学				1	1
筑波大学		1	1		2
長岡技術科学大学	2	3	2	8	15
信州大学				1	1
名古屋大学	1				1
豊橋技術科学大学	5	2	1	5	13
広島大学		1			1
公立はこだて未来大学		1	1		2
東京工科大学		1			1
専門学校等			1		1
計	14	19	14	28	75

大学院等入学状況

	生産	応用	計
北海道大学大学院	1	3	4
東北大学大学院	1		1
長岡技術科学大学大学院	1		1
計	3	3	6

（出典　平成23年度学校要覧）

（分析結果とその根拠理由）

就職に関しては，本校の準学士課程及び専攻科課程とも，就職希望者の就職率は，ほぼ100％を維持するとともに，就職先業種も非常に多岐にわたっているが，いずれも本校の専門性を活かした業種である。また，準学士課程卒業生の高学歴志向は高く，大学への編入学や専攻科への進学率は，50％近くに達している。

以上のことから，教育の目的において意図している人材の育成について，教育の成果や効果が十分に上がっている。

観点６－１－④：　学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程では，各科目に対して，各学科（科）が定めた教育目標の中の１項目が割り当てられており，それに対する達成度のアンケートを全学年で実施している（資料６－１－④－１）。また専攻科課程では，各専攻の教育目標に対する達成度のアンケートを実施している（資料６－１－④－２）。達成度はいずれのアンケートも４段階で評価している。

アンケートの結果（資料６－１－④－３，４）から，いずれの課程においても，一部の科目を除いて「十分達成できた」と「ふつう」を合わせて80～90％と高い数値を示している。

資料６－１－④－１

【準学士課程アンケート用紙】

□

3E

平成22年度　学習達成度評価アンケート質問用紙

Ⅰ　一般科目

マークカード番号	科目名	各科の主たる教育目標		学習達成度			
【人文系科目】							
1	国語	1	日本語や外国語によるコミュニケーション能力を高め，異文化を理解する力を育成する。	1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
2	歴史	3	自律性・創造性に富み，地球的視野で物事を考え，地域社会に貢献し得る能力を育成する。	1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
3	体育Ⅰ	4	自主的に思考し，学習し，行動する習慣を身に付け，社会人として必要な心身の健康維持，増進に努める態度を育成する。	1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
4	英語Ⅲ	1	日本語や外国語によるコミュニケーション能力を高め，異文化を理解する力を育成する。	1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
5	英語演習	1	日本語や外国語によるコミュニケーション能力を高め，異文化を理解する力を育成する。	1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
【理数系科目】							
6	数学Ⅲ	3	数学・自然科学の原理や法則を理解し，科学的で論理的な思考能力を育成する。	1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない

Ⅱ　専門科目

マークカード番号	科目名	電気情報工学科の主たる教育目標		学習達成度			
7	応用物理Ⅰ	1	電気電子工学の基礎科目である電磁気学，電気回路，電子回路等の知識を習得させ，その上に半導体工学や電力工学等の専門的能力を持たせる。	1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
8	基礎電気回路Ⅱ	1	電気電子工学の基礎科目である電磁気学，電気回路，電子回路等の知識を習得させ，その上に半導体工学や電力工学等の専門的能力を持たせる。	1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
9	基礎電子回路	1	電気電子工学の基礎科目である電磁気学，電気回路，電子回路等の知識を習得させ，その上に半導体工学や電力工学等の専門的能力を持たせる。	1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
10	基礎電磁気学	1	電気電子工学の基礎科目である電磁気学，電気回路，電子回路等の知識を習得させ，その上に半導体工学や電力工学等の専門的能力を持たせる。	1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
11	電子工学Ⅱ	1	電気電子工学の基礎科目である電磁気学，電気回路，電子回路等の知識を習得させ，その上に半導体工学や電力工学等の専門的能力を持たせる。	1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
12	電気電子計測Ⅱ	1	電気電子工学の基礎科目である電磁気学，電気回路，電子回路等の知識を習得させ，その上に半導体工学や電力工学等の専門的能力を持たせる。	1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
13	計算機工学	2	情報工学，計算機工学等の情報技術を習得させ，ソフトウェアプログラミングやネットワークシステム技術を有する専門的能力を持たせる。	1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
14	プログラミング実習Ⅱ	2	情報工学，計算機工学等の情報技術を習得させ，ソフトウェアプログラミングやネットワークシステム技術を有する専門的能力を持たせる。	1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
15	電気情報工学基礎実験Ⅱ	1	電気電子工学の基礎科目である電磁気学，電気回路，電子回路等の知識を習得させ，その上に半導体工学や電力工学等の専門的能力を持たせる。	1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない

（出典　学生課資料）

資料６－１－④－２

【専攻科課程アンケート用紙】

□

1PA

平成21年度　学習達成度評価アンケート質問用紙

Ⅰ　教養科目（専攻共通）

マークカード番号	科目名	専攻科の教育目標	学習達成度			
1	英語購読	本校専攻科は，社会を支える技術者を育成するため，高等専門学校における5年間の課程で培われた工学に関する知識・技術をより深く教授する。	1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
2	英語会話Ⅰ		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
3	英語会話Ⅱ		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
4	技術者倫理		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない

Ⅱ　専門関連科目（専攻共通）

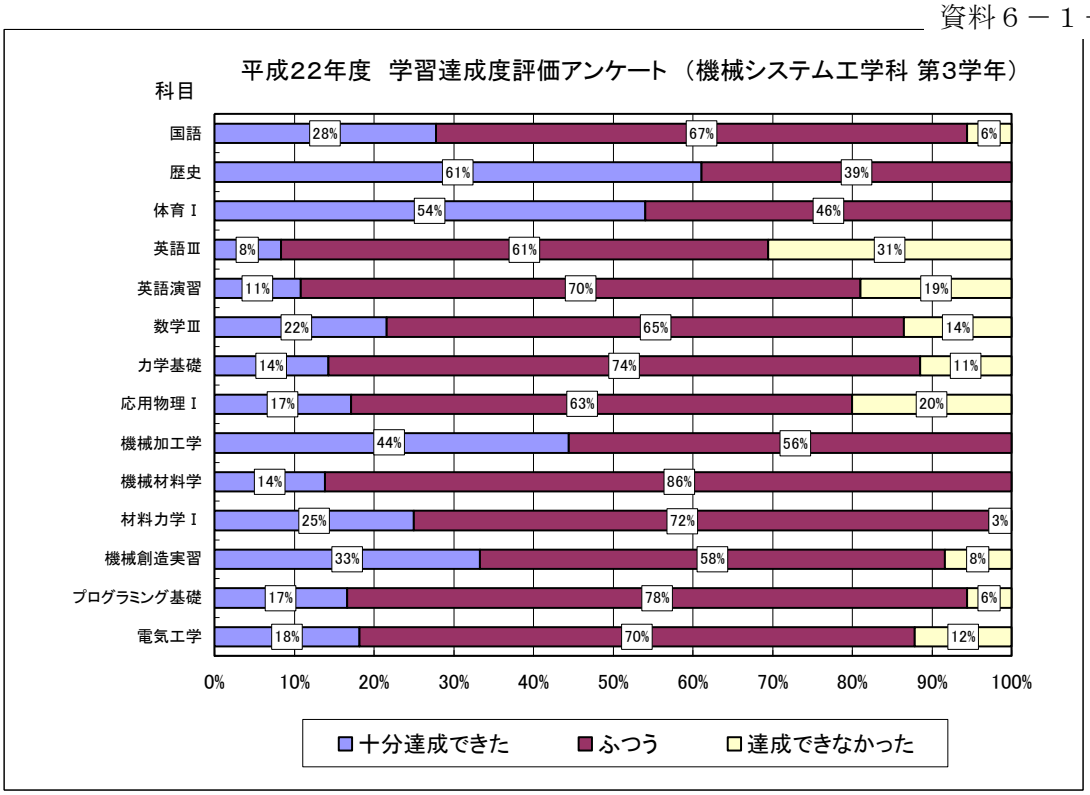
マークカード番号	科目名	専攻科の教育目標	学習達成度			
5	環境マネジメント	本校専攻科は，社会を支える技術者を育成するため，高等専門学校における5年間の課程で培われた工学に関する知識・技術をより深く教授する。	1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
6	情報処理演習		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
7	応用解析学Ⅰ		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
8	応用解析学Ⅱ		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
9	エネルギー工学特論		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
10	電気回路特論		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
11	生命科学		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
12	システム制御工学		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
13	センサ工学		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない

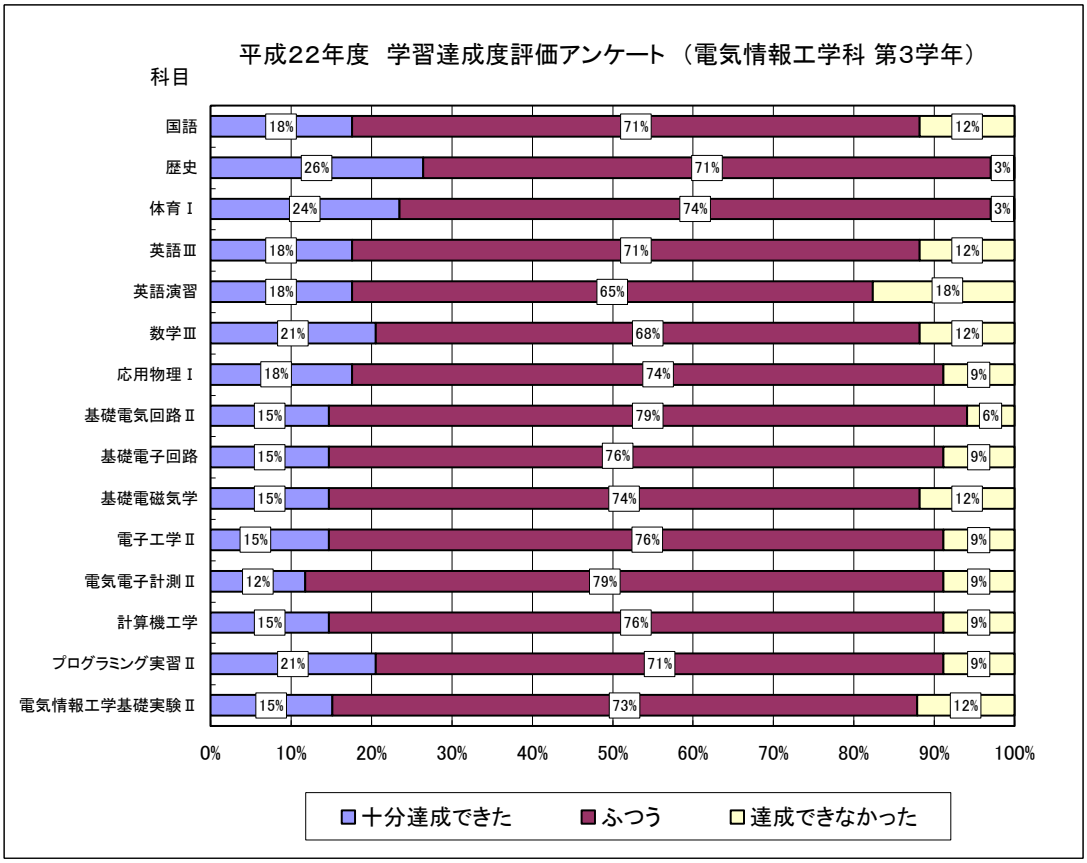
Ⅲ　専門的科目

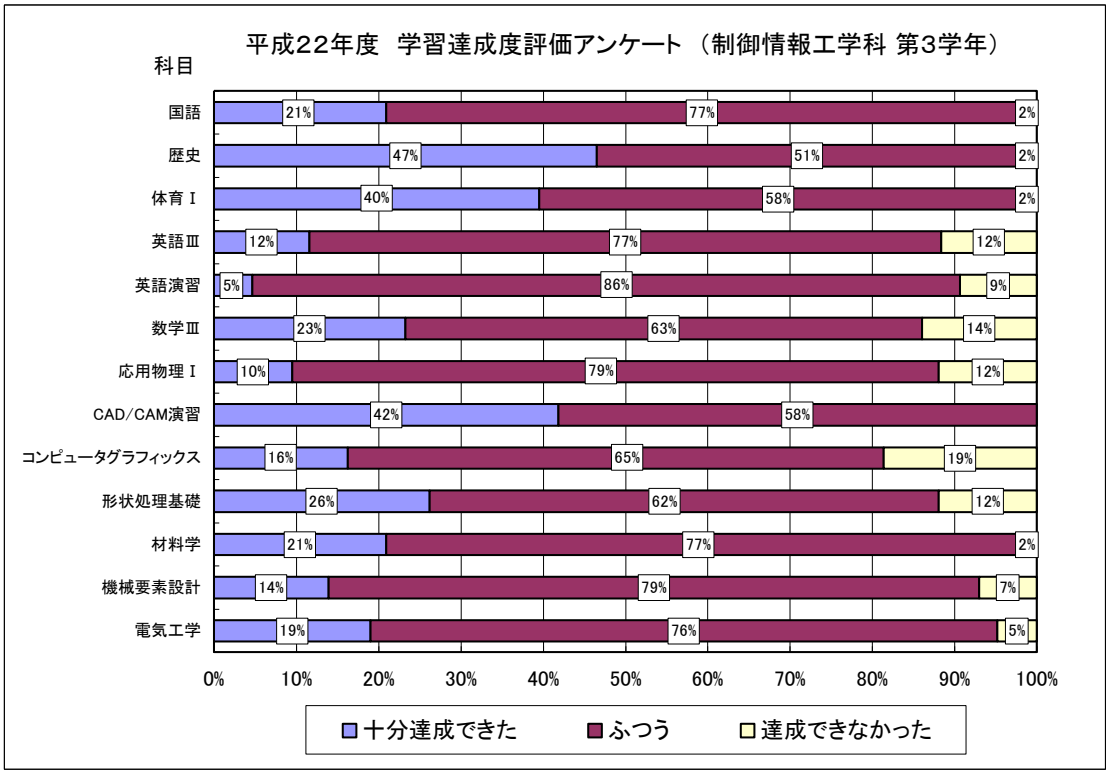
マークカード番号	科目名	各専攻の教育目標	学習達成度			
【生産システム工学専攻】						
25	生産システム工学	機械システム工学科，電気情報工学科及び制御情報工学科で教授した教育内容を基礎とし，それぞれの専門分野の技術が融合した境界領域分野の諸問題にも対応できるように教育課程を編成し，メカトロニクス，エレクトロニクス，コンピュータ応用等の技術が融合した生産システム分野において活躍できる，総合的能力を備えた技術者を育成する。	1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
26	生産システム工学特別研究		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
27	生産システム工学特別実験		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
28	生産システム工学特別ゼミナールⅠ		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
29	材料工学		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
30	インターンシップ		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
31	連続体力学		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
32	電気磁気学特論		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
33	応用電子回路		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
34	固体電子工学		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
35	知能機械		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
36	形状処理工学特論		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
【応用化学専攻】						
37	工業物理化学特論	物質化学工学科で教授した教育内容を基礎とし，化学・バイオ関連産業における専門的な実務に携わることを前提とした教育課程を編成し，製品・技術の開発及びそれに伴う環境や社会への配慮等に柔軟に対応できる，総合的能力を備えた技術者を育成する。	1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
38	応用化学特別研究		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
39	応用化学特別実験		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
40	応用化学特別ゼミナールⅠ		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
41	化学情報工学		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
42	インターンシップ		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
43	応用分析化学		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
44	応用有機化学		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない
45	化学熱力学		1 十分達成できた	2 ふつう	3 達成できなかった	4 履修していない

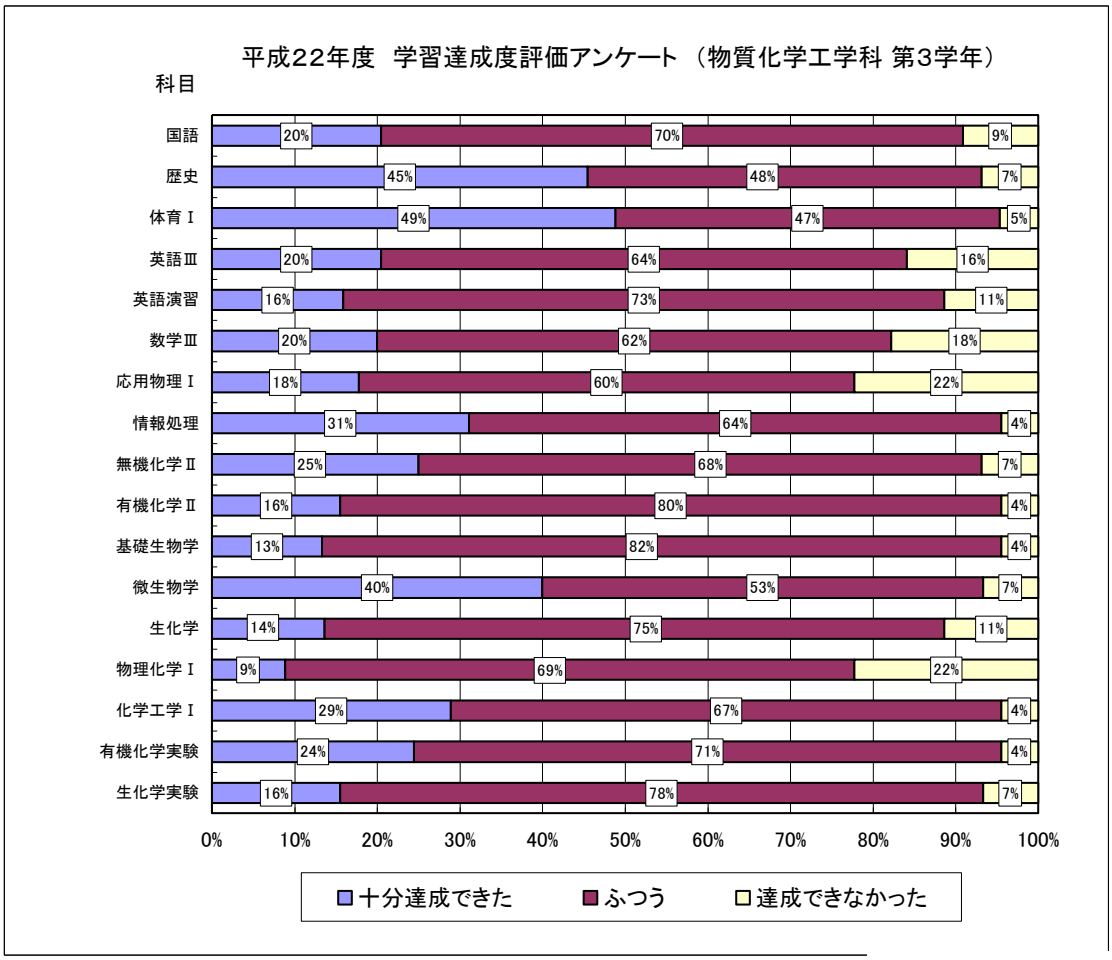
（出典　学生課資料）

資料６－１－④－３


平成22年度　学習達成度評価アンケート（機械システム工学科 第3学年）
科目
国語 28% 67% 6%
歴史 61% 39%
体育Ⅰ 54% 46%
英語Ⅲ 8% 61% 31%
英語演習 11% 70% 19%
数学Ⅲ 22% 65% 14%
力学基礎 14% 74% 11%
応用物理Ⅰ 17% 63% 20%
機械加工学 44% 56%
機械材料学 14% 86%
材料力学Ⅰ 25% 72% 3%
機械創造実習 33% 58% 8%
プログラミング基礎 17% 78% 6%
電気工学 18% 70% 12%
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
十分達成できた
ふつう
達成できなかった

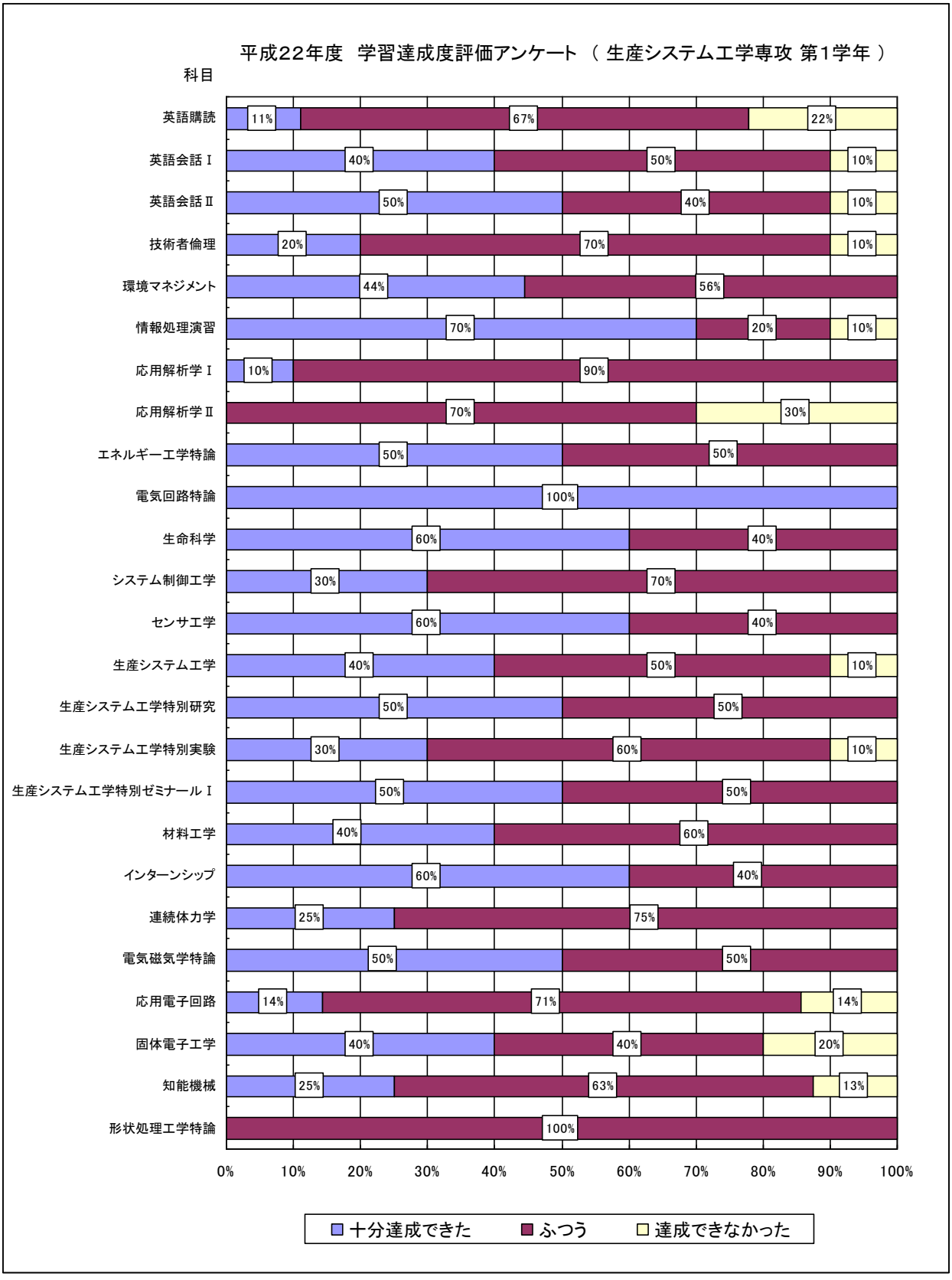

平成22年度　学習達成度評価アンケート（電気情報工学科 第3学年）
科目
国語 18% 71% 12%
歴史 26% 71% 3%
体育Ⅰ 24% 74% 3%
英語Ⅲ 18% 71% 12%
英語演習 18% 65% 18%
数学Ⅲ 21% 68% 12%
応用物理Ⅰ 18% 74% 9%
基礎電気回路Ⅱ 15% 79% 6%
基礎電子回路 15% 76% 9%
基礎電磁気学 15% 74% 12%
電子工学Ⅱ 15% 76% 9%
電気電子計測Ⅱ 12% 79% 9%
計算機工学 15% 76% 9%
プログラミング実習Ⅱ 21% 71% 9%
電気情報工学基礎実験Ⅱ 15% 73% 12%
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
十分達成できた
ふつう
達成できなかった


平成22年度　学習達成度評価アンケート（制御情報工学科 第3学年）
科目
国語 21% 77% 2%
歴史 47% 51% 2%
体育Ⅰ 40% 58% 2%
英語Ⅲ 12% 77% 12%
英語演習 5% 86% 9%
数学Ⅲ 23% 63% 14%
応用物理Ⅰ 10% 79% 12%
CAD/CAM演習 42% 58%
コンピュータグラフィックス 16% 65% 19%
形状処理基礎 26% 62% 12%
材料学 21% 77% 2%
機械要素設計 14% 79% 7%
電気工学 19% 76% 5%
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
十分達成できた
ふつう
達成できなかった


平成22年度　学習達成度評価アンケート（物質化学工学科 第3学年）
科目
国語 20% 70% 9%
歴史 45% 48% 7%
体育Ⅰ 49% 47% 5%
英語Ⅲ 20% 64% 16%
英語演習 16% 73% 11%
数学Ⅲ 20% 62% 18%
応用物理Ⅰ 18% 60% 22%
情報処理 31% 64% 4%
無機化学Ⅱ 25% 68% 7%
有機化学Ⅱ 16% 80% 4%
基礎生物学 13% 82% 4%
微生物学 40% 53% 7%
生化学 14% 75% 11%
物理化学Ⅰ 9% 69% 22%
化学工学Ⅰ 29% 67% 4%
有機化学実験 24% 71% 4%
生化学実験 16% 78% 7%
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
十分達成できた
ふつう
達成できなかった

（出典　学生課資料）

資料６－１－④－４



（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，準学士課程と専攻科課程において，教務委員会（平成23年度からFD委員会を教務委員会に統合）による学習・教育目標の達成度評価を毎年実施している。この結果をみると，科目によるばらつきはあるものの，学生の学習・教育目標の達成度はおおむね良好であるといえる。

以上のことから，本校の意図する教育の成果や効果が上がっていると考えられる。

観点６－１－⑤：　卒業（修了）生や進路先等の関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や，卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

平成23年４月には，卒業後３年以上（平成19年度卒以降）の卒業生・修了生を対象として，本校で受けた教育が本校の教育目的別に現行の業務遂行に役に立っているかについてアンケート調査を行い，71名から回答を得ている。同時に，過去５年間に３名以上の就職実績のある企業を対象として，卒業生・修了生の社会人としての資質に関するアンケートを実施し，45社から回答を得ている。

卒業生・修了生は，様々な職種に就いているが，高専で受けた教育のレベルとしては，全般的にはほぼ十分であるという評価となっている。自然科学・専門分野，体験学習については，内容的に十分であるが，創造力・総合力育成に関しては若干劣り，国際性の育成（英語）の関しては不十分との評価となっている（資料６－１－⑤－１）。

就職先企業のほぼ 90%から卒業生・修了生に対して「満足」という評価を得ており，社会的評価は良好といえる。技術者としての資質の評価としては，全般的には優れているといえるが，コミュニケーション力をはじめとする総合力が十分とはいえず，国際性（語学力）に関してはかなり不足となっている（資料６－１－⑤－２）。

卒業生・修了生が「技術者の資質にとって重要」と考えている事柄と，企業から見て「卒業生・修了生に不足している」と指摘している事柄には共通性があり，双方とも「コミュニケーション能力」と「国際性（語学力）」を挙げている（資料６－１－⑤－３）。

資料６－１－⑤－１

旭川高専の教育に関するアンケート調査【卒業（修了）生用】

※以下の事項について、該当する数字を○で囲むか、（　）内に文章等をご記入願います。

１）卒業学科名、修了専攻名

１．機械（機械システム）　２．電気（電気情報）　３．制御情報　４．物質化学
５．生産システム工学専攻　６．応用化学専攻

２）就職先企業名・進学大学名〔＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿〕

３）現在の職種

１．製造・生産技術　２．企画・設計　３．研究開発　４．システム開発・サービス
５.施工管理　６.営業販売　７.教育　８.学生　９.その他（　　）

４）旭川高専で受けた教育に関して、以下の点に関してお答えください。
①旭川高専で受けた教育の内容全般は、社会に出て活躍するうえで十分なレベルでしたか。

１．十分なレベル　２．ほぼ十分なレベル　３．やや低いレベル　４．低いレベル

②旭川高専で受けた以下の教育の内容が、現在の業務を遂行するための基礎として十分な内容であったと思いますか。5 段階で評価してください。（科目の例は、別紙2 をご参照ください。）

	十分		普通		不十分
(A) 人文科学、社会科学系の講義 ・・・・・・・	5	4	3	2	1
(B) 数学・自然科学系、専門科目の講義・・・・・	5	4	3	2	1
(C) 実験・実習等の体験学習 ・・・・・・・・・	5	4	3	2	1
(D) 創造力や総合力の育成に関する科目・・・・・	5	4	3	2	1
(E) 国際性の育成に関する科目 ・・・・・・・・	5	4	3	2	1

５）自分が卒業（修了）した学科（専攻）において、今後強化してほしい教育内容がありましたら、科目名、分野等をご記入ください。（自由回答）

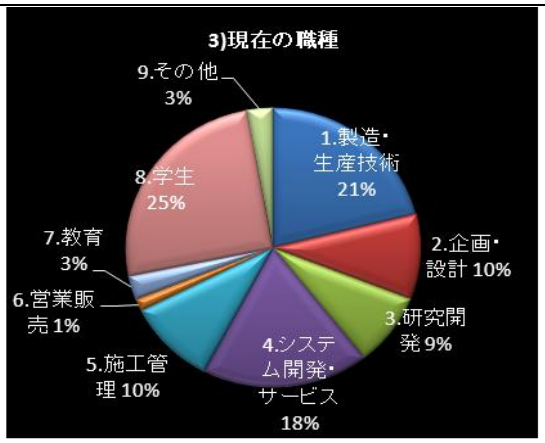
〔　　〕

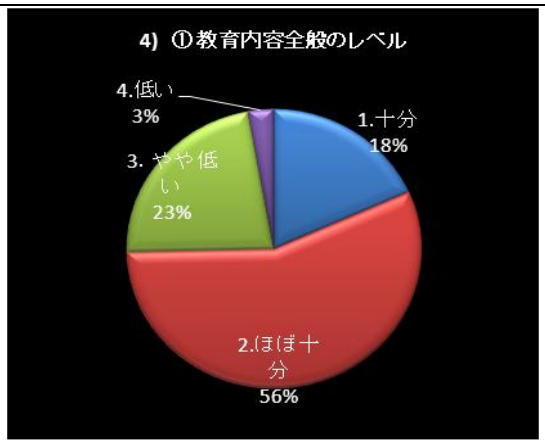
６）現在、本校は別紙1 のような教育目標を掲げておりますが、どう思いますか。

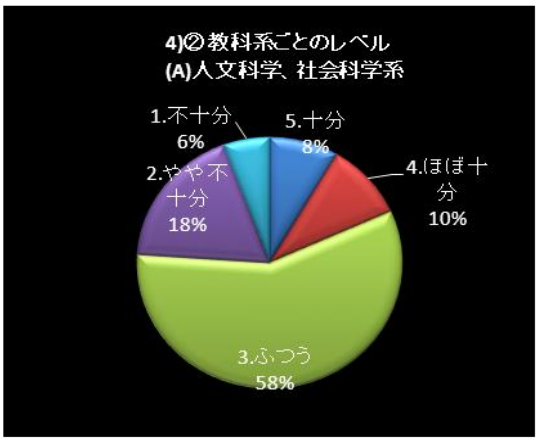
１．非常によい　２．よい　３．ふつう　４．やや適切でない　５．適切でない

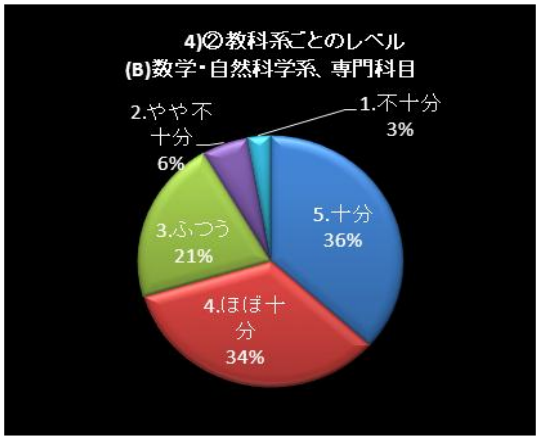
７）これからの技術者の資質にとっていずれの内容が重要と考えますか。重要と思われる項目を選んで下さい。（複数回答可）

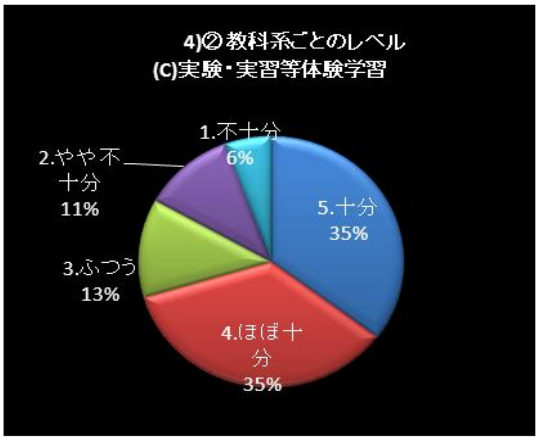
１．社会常識　２．行動力　３．協調性　４．責任感　５．統率力　６．専門知識
７．創造力　８．企画開発力　９．ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力　10．国際性(語学力)

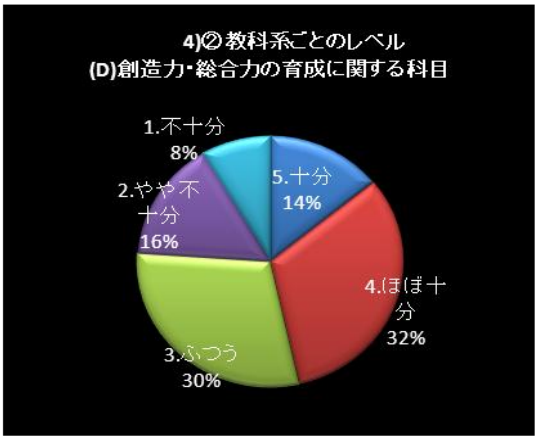


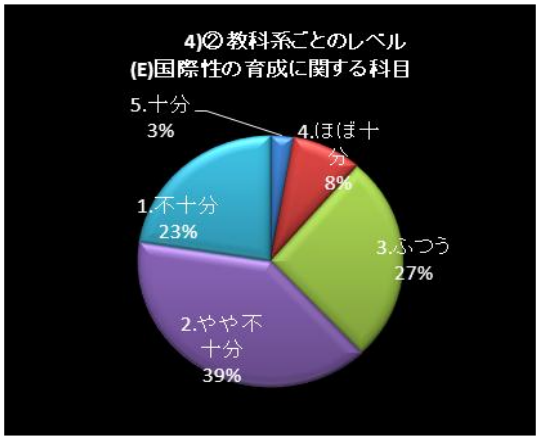


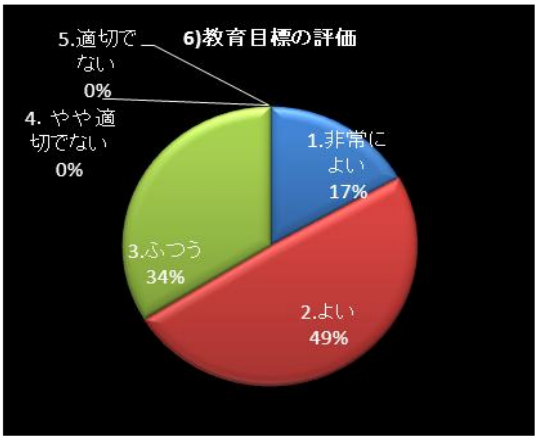












（出典：旭川高専の教育に関するアンケート調査【卒業（修了）生用】集計表）

資料６－１－⑤－２

旭川高専の教育に関するアンケート調査【企業用】

※以下の事項について、該当する数字を○で囲むか、（　）内や空欄に文章等でご記入願います。

１）貴社名（　　）

２）貴社は産業別ではどの分野に属しますか。

１．建設業　２．製造業　３．電気・ガス・熱供給・水道　４．情報通信業
５．運輸業・郵便業　６．卸売業・小売業　７．金融業・保険業
８．専門・技術サービス業　９．その他のサービス業　10．その他（　　）

３）貴社の求める人材レベルに対して、本校卒業（修了）生のレベルをどう考えられますか。

１．非常に満足　２．ほぼ満足　３．普通
４．やや不満　５．不満

４）本校卒業（修了）生の優れていると思われる点を挙げてください。（複数回答可）

１．社会常識　２．行動力　３．協調性　４．責任感　５．統率力
６．専門知識　７．創造力　８．企画開発力　９．ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力　10．国際性（語学力）

５）本校卒業（修了）生に不足していると思われる点を挙げてください。（複数回答可）

１．社会常識　２．行動力　３．協調性　４．責任感　５．統率力
６．専門知識　７．創造力　８．企画開発力　９．ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力　10．国際性（語学力）

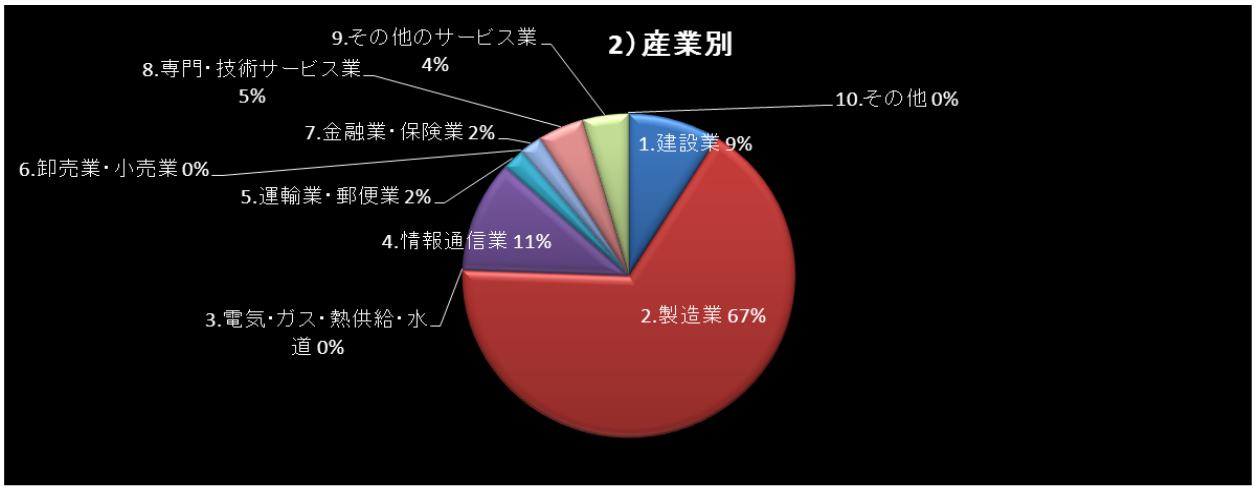
６）本校に、今後強化してほしい教育内容がありましたら、科目名、分野等をご記入ください。（自由回答）

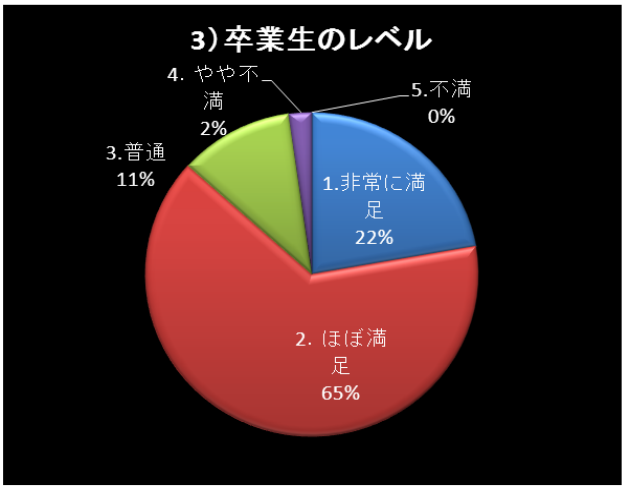
７）現在、本校は別紙１のような教育目標を掲げておりますが、どう思いますか。

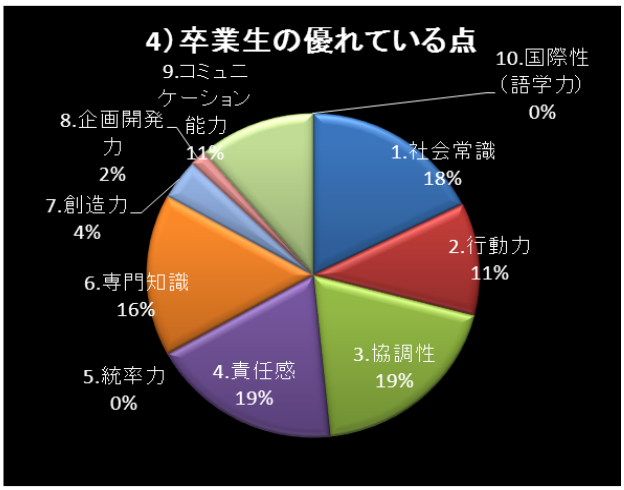
１．非常によい　２．よい　３．ふつう　４．やや適切でない　５．適切でない

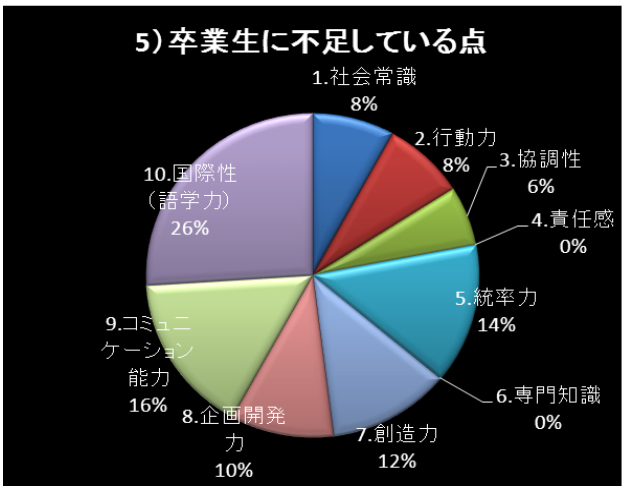
８）その他本校の教育に対するご意見がありましたらご記入ください。（自由記述）

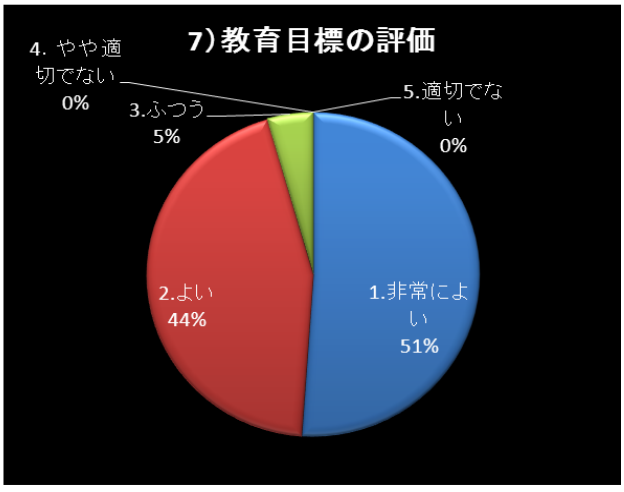
（ＦＡＸ送信先　０１６６－５５－８０８２）







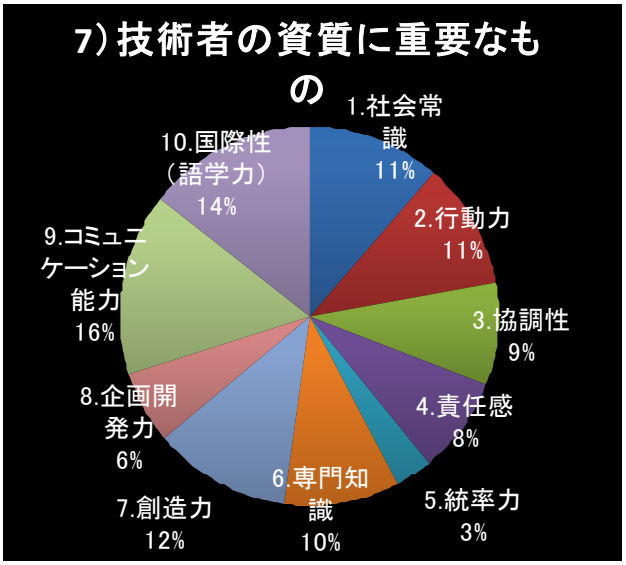




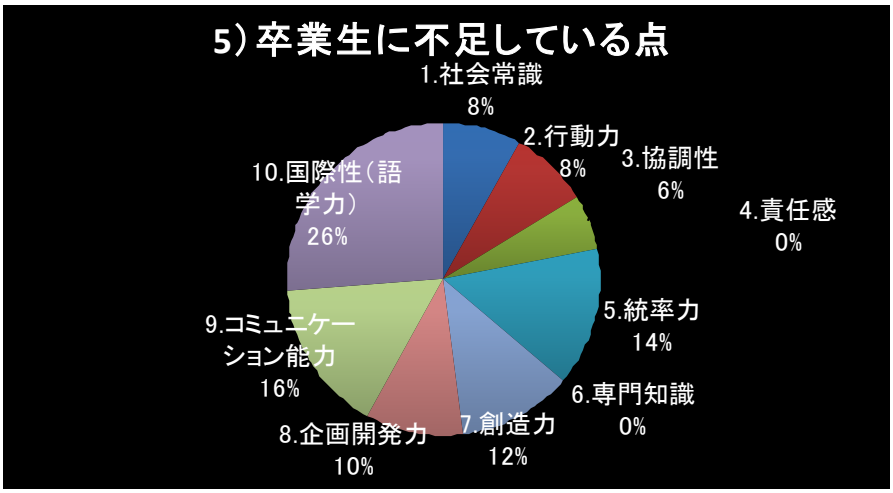
（出典：旭川高専の教育に関するアンケート調査【企業用】集計表）

資料６－１－⑤－３

【卒業生・修了生の意識と企業の評価の比較】



卒業生・修了生の意識



企業からの評価

（出典：旭川高専の教育に関するアンケート調査集計表）

（分析結果とその根拠理由）

卒業生・修了生を対象として，本校で受けた教育が本校の教育目的別に現行の業務遂行に役に立っているかどうかアンケート調査を行うと同時に，就職先企業を対象として，卒業生・修了生の社会人としての資質に関するアンケートを実施している。その結果では，多くの卒業生・修了生から「本校の教育内容は十分」と回答があった。また，多くの企業関係者からも，卒業生・修了生に対して「満足している」との評価を得ており，教育の成果や効果は上がっているといえる。一方，コミュニケーション力と国際性（英語力）については「不十分である」という状況も明らかになっている。

以上のことから，一部の能力の不足が指摘されているものの，教育の成果や効果がおおむね上がっている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- 準学士課程の卒業生及び専攻科課程の修了生は，毎年ほぼ100％の就職率・進学率を達成している。特に就職希望者の就職率は，経済状況の浮沈に関係なく100％が維持されている。
- 準学士課程及び専攻科課程においては，自己評価のため，毎年学習達成度アンケートを実施している。また，卒業生・修了生及び就職先企業に対して，本校の教育が社会人としての業務遂行に役立っているかどうかについて意見を聴取し，いずれにおいても満足できる評価を得ている。

（改善を要する点）

- コミュニケーション力と国際性（英語力）の向上を目指す教育が必要である。

（３）基準６の自己評価の概要

各科目の教育目標（到達目標）や評価方法はシラバスに明記されており，各教員はそれに沿って評価を行っている。卒業研究及び特別研究については，より達成状況が細かく把握できるようになっている。各種コンペティションへの参加，外部試験の受験，研究成果の学会等への発表も盛んに行われている。

本校では，準学士課程及び専攻科課程で達成が求められる学習・教育目標に対して，毎年，全学年において，学習達成度評価アンケートを実施している。

卒業生・修了生の就職率・進学率は，ほぼ100％を維持している。卒業生・修了生及び企業へのアンケートの結果では，卒業生・修了生に対する就職先企業からの評価は高い一方で，本校教育の不充分な部分も指摘されている。

基準７　学生支援等

（１）観点ごとの分析

観点７－ １－①：　学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施されているか。また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

準学士課程入学者に対して新入生オリエンテーションを実施し，修学上必要な事項の説明を行っている（資料７－１－①－１）。加えて第１学年に対しては，専門学科に関する説明を行い（資料７－１－①－２），さらに新入生合宿研修において，先輩や卒業生からの助言を傾聴する機会を設けている（資料７－１－①－３）。各クラスには学級担任（１～２年生のクラスには担任・副担任）を配置し，ホームルーム及び個別指導を通して勉強方法などを助言する体制を整えている（資料７－１－①－４）。

資料７－１－①－１

「新入生オリエンテーション実施要領」

平成23年度新入生オリエンテーション（留学生含む）
実　施　要　領

日　時　　平成23年４月７日(木)　オリエンテーションⅠ　8：45～ 9：35
　　オリエンテーションⅡ　13：00～14：00
場　所　　オリエンテーションⅠ　階段教室（１組・２組），講義室１（３組・４組）
　　オリエンテーションⅡ　第２体育館

１　オリエンテーションⅠ
時　間　　8：45～ 9：35
場　所　　階段教室（１組・２組），講義室１（３組・４組）
出 席 者　　一般人文科長，一般理数科長，第１学年学級担任
次　第　　一般人文科長・一般理数科長講話・説明
　　※一般人文科長　階段教室→講義室１
　　※一般理数科長　講義室１→階段教室
進　行　　学年主任（鈴木）（１組・２組）
　　学級担任（青山）（３組・４組）
説明内容　　本校及び一般人文科・一般理数科の教育目標
　　主に学習面について
持参させるもの　　平成23年度学生生活のしおり
　　筆記用具
そ の 他　　①学科長講話については，後日，専門科目の授業時に行う（20分程度）。
　　日時は学年主任が学科長に確認する。
　　②オリエンテーション終了後，学級担任は，学生を引率してＨＲ教室へ戻り，学生に椅子を持たせて第１体育館へ誘導する。（クラス写真撮影，対面式）

２　オリエンテーションⅡ
時　間　　13：00～14：00
場　所　　第２体育館
出 席 者　　教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，学生相談室長，
　　ｾｸｼｭｱﾙ・ﾊﾗｽﾒﾝﾄ相談室長，第１学年学級担任，学生課長，教務係長
次　第　　教務主事講話　(20分)
　　学生主事講話　(15分)
　　寮務主事講話　(10分)
　　専攻科長講話　(5分)
　　学生相談室長講話　(5分)
　　ｾｸｼｭｱﾙ・ﾊﾗｽﾒﾝﾄ相談室長講話　(5分)
進　行　　学生課長
持参させるもの　　平成23年度学生生活のしおり
　　筆記用具
そ の 他　　①学級担任は，学生に椅子を持たせて第２体育館へ誘導する。
　　※移動開始 12：50
　　②３年留学生も受講させる。当該学級担任は，開始時刻までに学生に椅子を持たせて第２体育館へ誘導し，列の最後尾に着席させる。

（出典　学生課資料）

資料７－１－①－２

「周知用掲示物」

各学科ごとのガイダンスが
次の通り実施されます

各学科の特徴、注意事項などについて
説明が行われます

機械　１２日（火）１６：００～：
機械の先生方と学生との顔合わせ（自己紹介）
１４日（木）機械製図の時間（５限）：
石井先生から学科のガイダンス

電気　１２日（火）７・８限に時限に　吉本先生より

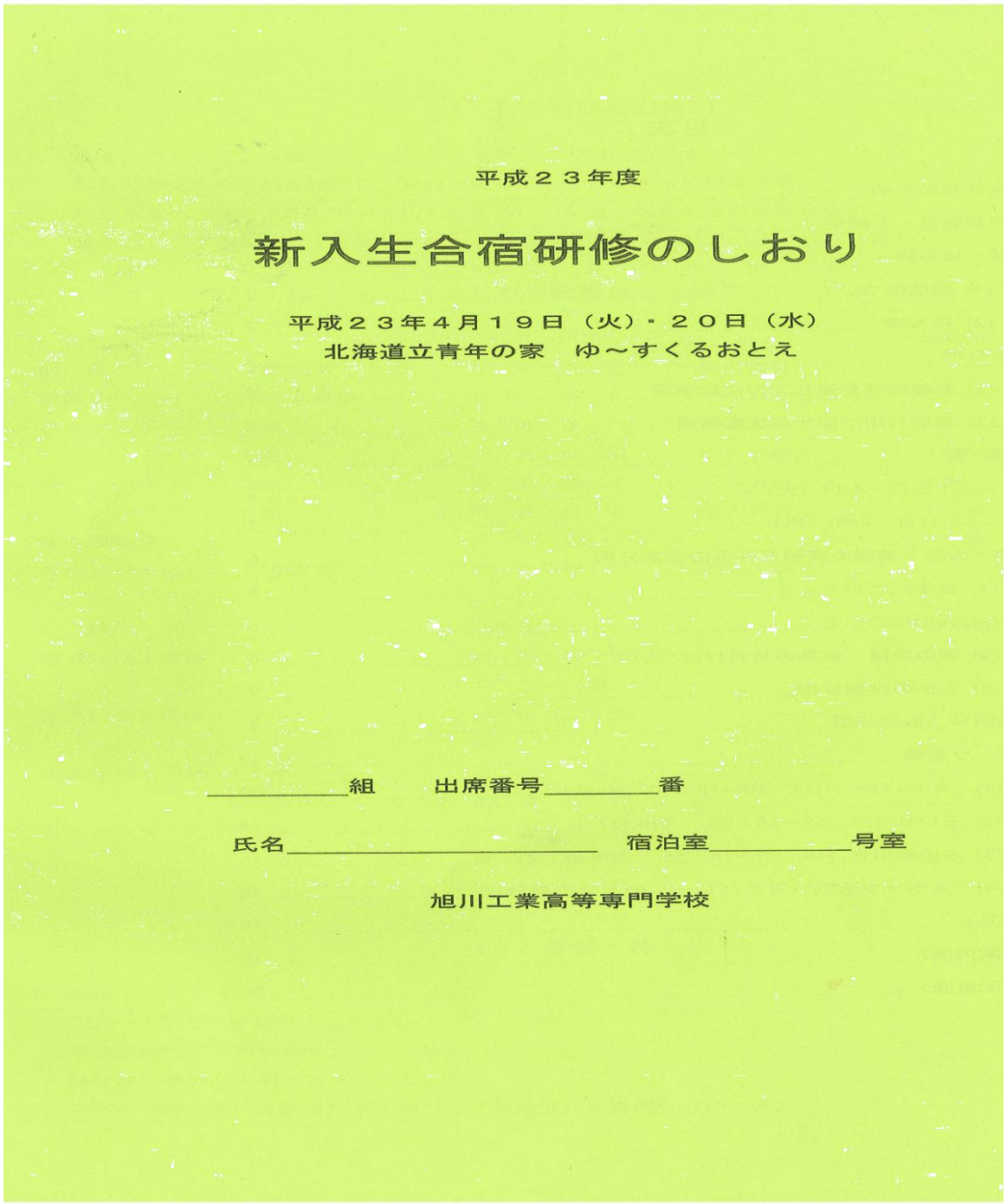
制御　１２日（火）７・８限に　橋本先生より

化学　１２日（火）５限「化学基礎演習」で古崎先生より

（出典　学生課資料）

資料７－１－①－３

「新入生合宿研修のしおり」



平成２３年度

新入生合宿研修のしおり

平成２３年４月１９日（火）・２０日（水）
北海道立青年の家　ゆ～すくるおとえ

＿＿＿＿＿組　　出席番号＿＿＿＿＿番

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　宿泊室＿＿＿＿＿号室

旭川工業高等専門学校

（出典　学生課資料）

資料７－１－①－４

「学級担任・副担任一覧」

平成23年度学級担任・学級副担任一覧

学年	学科・組	学級担任	学級副担任	備　考
1	1	○鈴木智己	木本理可	
	2	小西卓哉	根本　聡	
	3	青山陽子	降旗康彦	
	4	櫻井靖子	大澤智子	
2	1	○平野友彦	本荘忠大	
	2	倉持しのぶ	谷口牧子	
	3	近藤真一	石本裕之	
	4	久志野彰寛	冨永徳雄	
3	M	千葉良一		
	E	井口　傑		
	S	戸村豊明		
	C	杉本敬祐		
4	M	立田節雄		
	E	土橋　剛		
	S	阿部　晶		
	C	小林　渡		
5	M	江頭　竜		
	E	大島功三		
	S	堀川紀孝		
	C	高田知哉		

○：学年主任

（出典　学生課資料）

一方，専攻科課程の入学者に対しては専攻科オリエンテーションを実施し（資料７－１－①－５），専攻科長と専攻主任が随時，相談・助言に当たっている（資料７－１－①－６）。

また，週１回，全校的に 15 時 50 分～16 時 40 分をオフィスアワーとし，特別支援室の開設など学習面を含む様々な相談に対応しているほか（資料７－１－①－７，８），学生相談室においても随時相談を受けている（資料７－１－①－９）。

資料７－１－①－５

「専攻科オリエンテーション実施要領」

平成 23 年度「専攻科オリエンテーション」実施要領

日　時　　平成 23 年４月７日(木)　9：30～10：30（写真撮影終了後）

場　所　　専攻科講義室１

対象者　　平成 23 年度入学生 22 名

参加者　　専攻科長，専攻主任，学生課教務係職員１名

説明者　　専攻科長

配付物　　平成 23 年度専攻科長・専攻主任一覧
学生生活のしおり
シラバス
履修届
「環境・生産システム工学」教育プログラム上修得が必要な科目について　**※該当者のみ**
新しい学士への途(学位授与申請案内)(平成 23 年度版)
学位授与申請書類(平成 23 年度版)
「学士」をめざす方へ
大学評価・学位授与機構から授与される学位を広く理解して頂くために
健康診断表，採尿セット
通学定期乗車券購入申込書（あさでん)，通学証明書（ＪＲ）　**※希望者のみ**

（出典　学生課資料）

資料７－１－①－６

「専攻科長・専攻主任一覧」

平成23年度専攻科長・専攻主任一覧

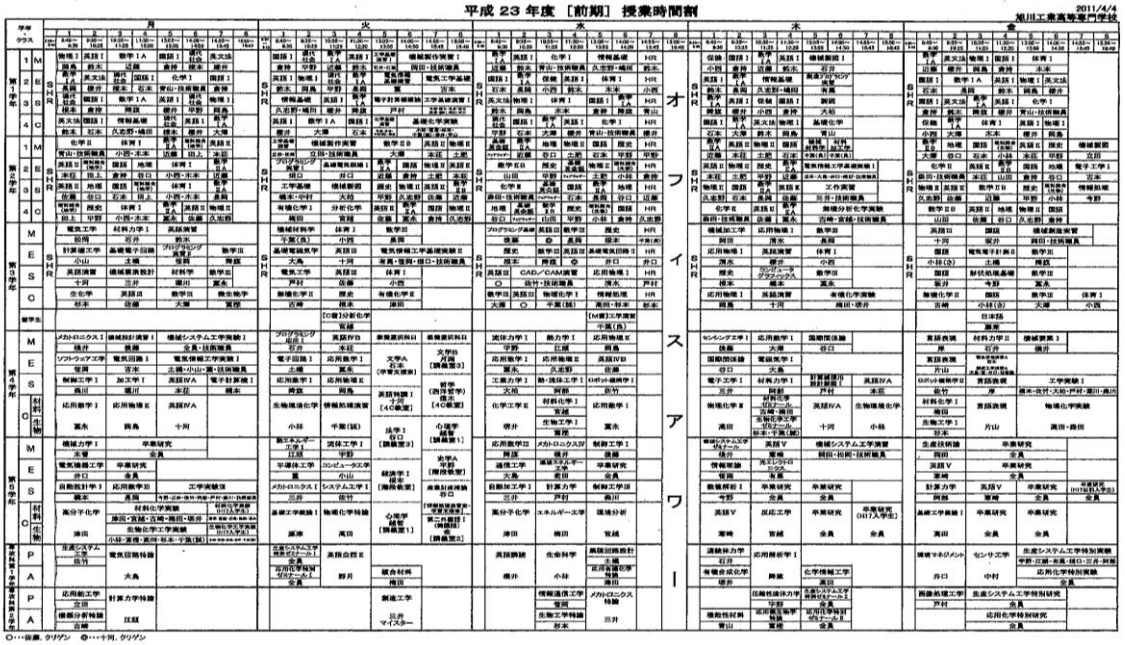
役職	教員名	教員室
専攻科長	三　井　　聡	制御棟２階（突き当り） （CAD/CAM計算機室向かい）

役職	学科	教員名	教員室
専攻主任	M	宇　野　直　嗣	専攻科棟４階
	E	笹　岡　久　行	専攻科棟２階
	S	大　柏　哲　治	制御棟２階（化学棟側） （材料工学実験室Ｉ隣り）
	C	千　葉　　誠	専攻科棟３階

（出典　学生課資料）

資料７－１－①－７

「授業時間割」





（出典　学生課資料）

資料７－１－①－８

「周知用掲示物」

学習支援室を利用しよう

教務主事

時間がある時こそ、

分からなかった事を勉強する

チャンス！



自己の成長は、日々の積み重ねから・・・

下の水曜日８時限目（オフィスアワー）に
英語・数学・理科（物理 or 化学）
担当の先生が学習支援室に必ずいます
5/11、18、6/1、8、22、29、7/6、
7/13、20、9/7、14、21

気軽に行って聞いてみよう



分からない
もやもやが
晴れるかも



（出典　学生課資料）

資料７－１－①－９

［学生相談室案内-１］

平成 23 年度

学　生　相　談　室　案　内

＝こころ健やかに
学生生活をすごすために＝



旭 川 工 業 高 等 専 門 学 校

［学生相談室案内−２］

新入学生のみなさんへ

困ったときには学生相談室へ：誰かに話せば楽になる！

学生相談室には皆さんの悩みや問題を解決するお手伝いをするため、カウンセリングの専門家（臨床心理士）や校内相談員（教員・看護師）が所属して、いつでも相談に応じる体制をとっています。

たとえばこんな事に悩んでいるとき

☆ 対人関係（友人・先輩・後輩・異性・先生など）
☆ クラブ活動について
☆ 勉強の仕方が分からない
☆ 学校がつまらない
☆ 教室に入りづらい
☆ 進級・留年について
☆ 経済上のことについて（奨学金・授業料免除）
☆ 自分の性格について（カウンセラーによる簡単な性格検査もしています）
☆ やる気が出ない
☆ 将来（進学・就職）について
☆ 進路変更について
☆ 心身の健康について

身のまわりの人に話せない悩みでも、気軽に相談してください。

プライバシーは厳守します。（相談室メンバー間でも、相談者本人の了承なしに情報交換を行うことはありません。）

［学生相談室案内-３］

学生相談室のご案内

場所　　秀峰会館　医務室内

＊看護師さんに身体の調子を看てもらったり、身長、体重や体脂肪などの測定を行うために医務室に入室する、という形で相談室に入ることが出来ます。

相談室員の構成

＊教員相談室員（4名），専門カウンセラー（女性２名），看護師，の７名で対応しています。

＊専門カウンセラーの駒井先生と土肥先生は「臨床心理士」の資格を持つカウンセリングの専門家です。心療内科の観点から悩みを持つ人たちの相談にのってくれます。（教員とは全く異なる立場でみなさんの相談相手になってくれます。）

＊看護師さんも健康面ばかりでなく、精神面でもみなさんのよい相談者であり、教員相談室員や専門カウンセラーに橋渡しをしてくれます。

開室曜日・時間と担当者　（休日・長期休暇・試験期間を除く）

曜日	月	火	水	木	金
担当者	中村	宮越	土肥	駒井	松岡
時間	15：00～17：00	15：00～17：00	13：30～17：30	13：30～17：30	15：00～17：00

＊教員相談員は上記の時間に相談室で待機しています。（大澤先生は後期に担当日があります。）

＊室長は上記の時間以外の日時でも、随時対応しますので遠慮なくご連絡下さい。

＊長期休暇・試験期間中は各相談員の教員室に直接訪ねるか、または下記の電話やE-mailを利用してください。

連絡先　学生相談室（医務室内）　　TEL　0166-55-8145/8146

相談室長　宮越　昭彦　TEL 0166-55-**8045**　（物質化学工学科）
E-mail：**miyakosi**@asahikawa-nct. ac. jp

相談室員　松岡　俊佑　TEL 0166-55-**8007**　（機械システム工学科）
E-mail：**matsuoka**@asahikawa-nct. ac. jp

相談室員　中村　基訓　TEL 0166-55-**8032**　（システム制御情報工学科）
E-mail：**nakamura**@asahikawa-nct. ac. jp

相談室員　大澤　智子　TEL 0166-55-**8065**　（一般理数科）
E-mail：**ohsawa**@asahikawa-nct. ac. jp

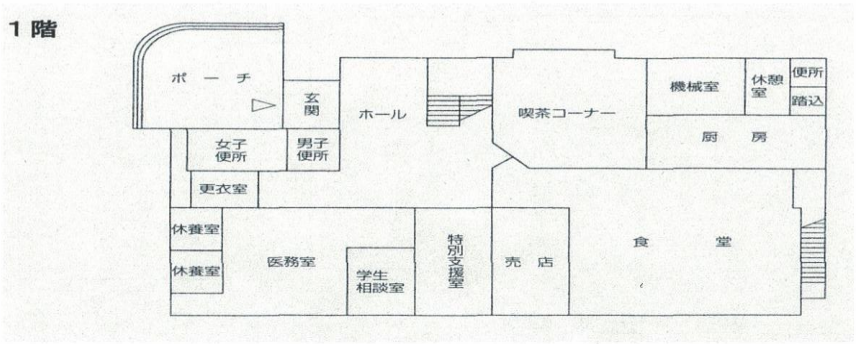
カウンセラー［臨床心理士］　駒井　厚子　TEL 0166-55-**8146**　（六条神経科　**22-8189**）
E-mail：**komai**@asahikawa-nct. ac. jp

カウンセラー［臨床心理士］　土肥　道子　TEL 0166-55-**8146**
E-mail：**doi**@asahikawa-nct. ac. jp

看護師　及川　久美子　TEL 0166-55-**8145**　（医務室）
E-mail：**oikawa**@asahikawa-nct. ac. jp

［学生相談室案内−４］

学　生　相　談　室　見　取　り　図



秀峰会館１階−医務室内



相談室入り口（食堂の扉の横です）



学生相談室

旭川工業高等専門学校　学生相談室

〒071−8142　旭川市春光台２条２丁目 1−6
電話　（0166）55−8145　［医務室］
55−8045　［室長］

平成 23 年 4 月発行

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

入学時，学年全体・混合学級別・専門学科別のオリエンテーションが実施され，履修指導及び学校生活に関する十分な説明が行われている。また，準学士課程には学級担任が，専攻科課程には専攻主任が配置されており，学生相談室・特別支援室と併せて学習・学校生活に関する指導・相談・助言の体制が整備されている。さらに，時間割上にオフィスアワーが設置され，全校的な指導・助言体制が整備されている。

以上のことから，学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施されており，また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能している。

観点７－ １－ ②：　自主的学習環境及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

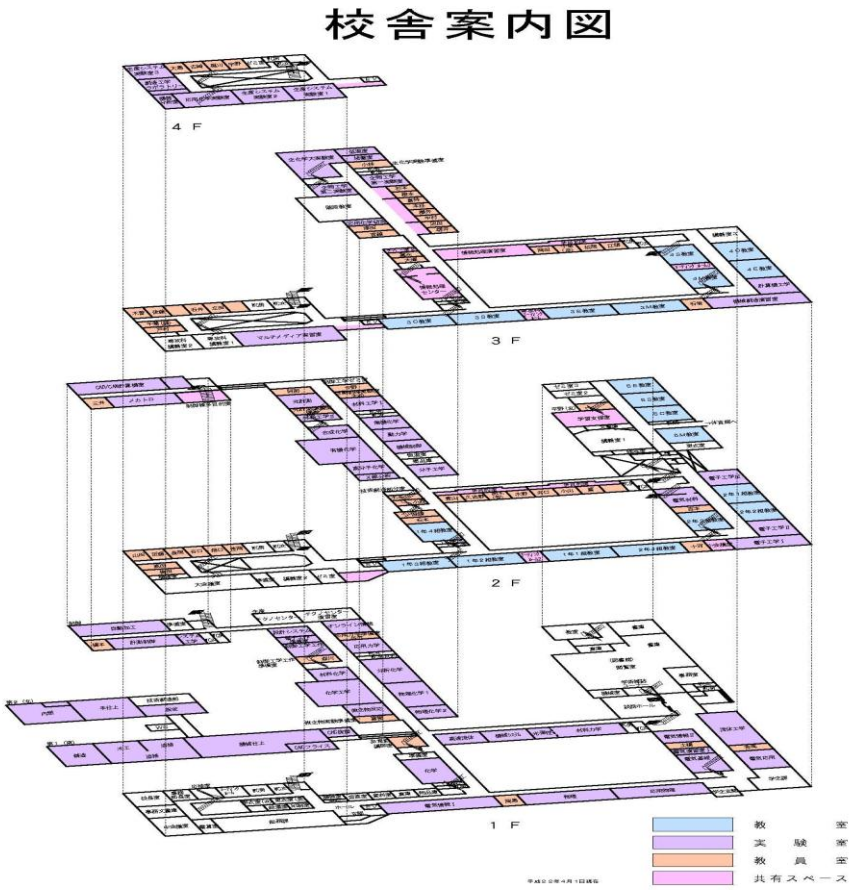
（観点に係る状況）

自主的学習環境として，図書館，情報処理センター及び学習支援室が整備され，複数配置された多目的室も常時開放されている（資料７－１－②－１）。図書館は平日 19 時 45 分まで，土曜日 16 時 30 分まで開館しており，学生の自主学習等に利用されている（資料７－１－②－２）。情報処理センターは，情報処理センター端末室，マルチメディア実習室，情報処理演習室から成り，センター端末室は平日 19 時まで利用可能である。各室とも授業のほか，レポート作成，卒業研究等に利用されている（資料７－１－②－３）。学習支援室は平日 19 時まで利用可能で，主に低学年を対象とした自学自習と補習授業等に利用されている（資料７－１－②－４）。

福利施設である秀峰会館には，医務室，学生相談室，食堂等が整備され（資料７－１－②－５），学生相談室にはカウンセラー又は相談員が，医務室には看護師が待機している。

資料７－１－②－１

〔校舎案内図〕



（出典　総務課資料）

資料７－１－②－２

〔図書館〕

図書館センター
Library Center

図書館センターには，図書室，談話ホールが設けられており，学生の学習や卒業研究，教員の教育研究活動などに活発に利用されています。

Library Center has a library and a lounge. Students use the center for studying, writing reports, and graduation theses, and teachers use it for education and research activities.

施設・設備概要
Facilities and Equipments

図書室，談話ホール
Library, lounge hall



談話ホール　Lounge Hall

図書室 Library



図書館閲覧室　Library Reading Room

書架は全て開架式になっており，利用者が全ての図書を自由に取り出して見ることができます。
また，図書・雑誌のほかにDVD，ビデオ等の視聴覚資料を取り揃えており，視聴覚コーナーにおいて視聴することができます。
なお，図書室は学外者にも生涯学習の場として開放しています。

Our library is an open-shelf one, so users are free to go to any shelf and on their own look for every books they want to read. In addition to books and magazines, we have a great number of audio visual materials such as DVD's and video tapes in stock, and users individually can replay them in the audio visual corner. The library is also open to the public as a place for pursuing their lifelong education.

利用状況（平成21年度）
Using of Library（2009）

利用者数 Number of Users	48,119
開室日数 Number of Days Open	265
1日平均利用者数 Average Number of Users per Day	181.6

貸し出し状況（平成21年度）
Number of Borrowed Books and Borrowers（2009）

区分 Classification	学生 Students	教職員 Faculties	学外者 Public	合計 Total
貸出者数 Borrowers	3,541	504	122	4,167
貸出冊数 Borrowed Books & Magazines	7,117	1,148	232	8,497

蔵書数（平成22年3月31日現在）
Collection of Books (As of March 31, 2010)

区分 Classification		和書 Japanese	洋書 Foreign	合計 Total
単行本冊数 Books		89,092	10,862	99,954
雑誌種類 Magazines		421	148	569
視聴覚資料 Audio visual materials	ビデオ Video tapes	414		414
	DVD DVD's	745		745

時間外利用状況（平成21年度）
Using of Extension Time（2009）

区分 Classification	土曜日 Saturday	平日夜間 Night Time of Weekday
開室日数 Number of Days Open	33	178
利用者数 Number of Users total	2,104	11,373
1日平均利用者数 Average Number of Users per Day	63.8	63.9
貸出冊数 Borrowed books & Magazines	306	2,007
1日平均貸出冊数 Average Number of Books borrowed per Day	9.3	11.3

図書室の開室日・閉室日
Open and Closed Days

開室日 Open	閉室日 Closed
平日：9:00～19:45 Weekday 土曜日：9:00～16:30 Saturday ただし，春期・夏期・冬期及び学年末休業期間の平日は9:00～17:00 Weekdays of spring, summer, winter and terminal vacations.	日曜日，国民の祝日，年末年始の休日及び春期・夏期・冬期及び学年末休業期間の土曜日 Sundays, national holidays, year-end to new-year days, and Saturdays during spring, summer, winter, and terminal vacations

（出典　平成22年度学校要覧P. 24）

資料７－１－②－３

〔情報処理センター〕

情報処理センター
Information Procession Center

情報処理センターには，教育用として，センター端末室，マルチメディア実習室，情報処理演習室の３室があり，WindowsXPとLinuxをOSとするPCがそれぞれほぼ50台設置され，コンピュータ言語，コンピュータ・リテラシー，数値解析，コンピュータ・グラフィックス，CADなどの教育の他，レポート作成，インターネットによる情報収集などに利用されています。一方，センターが管理運営する学内ネットワークシステムは学生の学習環境及び教職員の日常業務のインフラとして不可欠なものであることから，無線LANをもカバーしたギガビットネットワークによる高度に整備されたシステムが導入されています。

Information Processing Center has three rooms for educational purposes : a center terminal room, a multimedia workshop and an information processing workshop. Each room is equipped with 50 personal computers whose OS is Windows XP or Linux. Those computers are used for education on computer language, computer literacy, numerical analysis, computer graphics, and CAD as well as or report writing and information retrieval on Internet. Campus LAN System is under the management and control of the center, and since it forms an essential infrastructure of education and research and business service for teachers and office workers, the system adopts a gigabit network covering wireless LAN.



情報処理センター端末室　Information Processing Center Terminal Room



マルチメディア実習室　Multimedia Workshop

施設・設備概要
Facilities and Equipments

学内LANシステム
Campus LAN System

ネットワーク負荷分散装置　１台
Load Balancer : (×1)

ファイアーウォール装置　１台
Fare wall devices : (×1)

メールサーバ　１台
Mai server : (×1)

DNSサーバ　１台
DNS server : (×1)

ゲートウェイ型ウイルス対策サーバ　１台
Server to counter a gateway type of virus : (×1)

学内ウイルス対策管理サーバ　１台
Server to counter and manage inside virus : (×1)

コンテンツフィルターサーバ　１台
Content filter server : (×1)

ファイルサーバ　１台
File Server : (×1)

ギガビットスイッチ　１式
Giga Bit Switch : (×1)

無線LANシステム　１式
Wireless LAN system : (×1)

プロキシサーバ　１台
Proxy Server : (×1)

CMSサーバ　１台
CMS server : (×1)

教育用システム
Computer System for Education

●情報処理センター端末室
Information Processing Center Terminal Room

パーソナルコンピュータ　56台
Personal computer : (×56)

プロジェクター(170インチリアプロジェクション式)　１台
Projector (170-inch rear projection type) : (×1)

プロジェクター(150インチスクリーン)　２台
Projector (150-inch screen) : (×2)

レーザープリンタ　２台
Laser Printer : (×2)

●マルチメディア実習室
Multimedia Workshop

パーソナルコンピュータ　52台
Personal computer : (×52)

プロジェクター(100インチスクリーン)　２台
Projector (100-inch screen) : (×2)

レーザープリンタ　２台
Laser Printer : (×2)

●情報処理演習室
Information Processing Workshop

パーソナルコンピュータ　42台
Personal computer : (×42)

プロジェクター(100インチスクリーン)　１台
Projector (100-inch screen) : (×1)

レーザープリンタ　２台
Laser Printer : (×2)

●教育用システムサーバ室
Server Room

Windowsサーバ　７台
Windows Server : (×7)

Linuxサーバ　１台
Linux Server : (×1)

ファイルサーバ　１台
File Server : (×1)

パーソナルコンピュータ　１台
Personal computer : (×1)

LMSサーバ　３台
LMS Server : (×3)

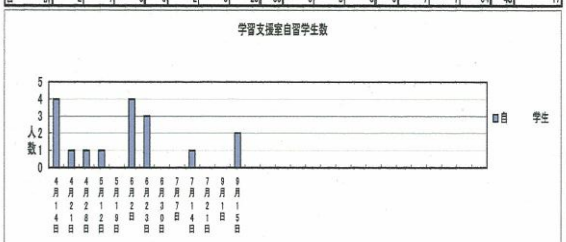
（出典　平成22年度学校要覧P. 25）

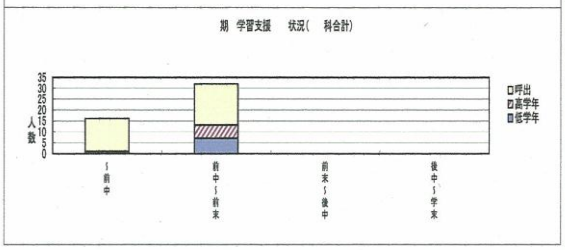
資料７－１－②－４

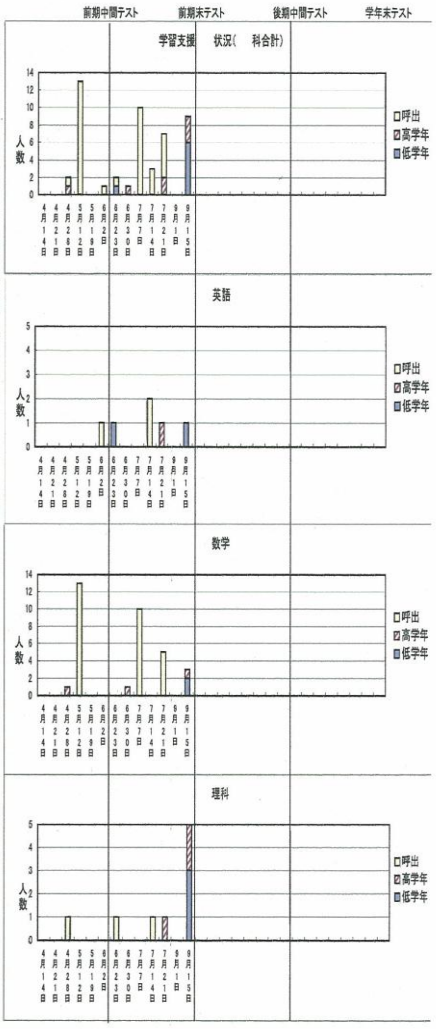
〔オフィスアワー時の学習支援状況〕

平成22年度　学習支援室における学習支援状況(オフィスアワー)

	英語				数学				理科				学習支援合計人数				学習支援室
	低学年	高学年	呼出	合計	低学年	高学年	呼出	合計	低学年	高学年	呼出	合計	低学年	高学年	呼出	合計	自習学生
4月14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
4月21日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
4月28日	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	1	1	2	1
5月12日	0	0	0	0	0	0	13	13	0	0	0	0	0	0	13	13	1
5月19日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月2日	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4
6月23日	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	2	3
6月30日	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0
7月7日	0	0	0	0	0	0	10	10	0	0	0	0	0	0	10	10	0
7月14日	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3	3	1
7月21日	0	1	0	1	0	0	5	5	0	1	0	1	0	2	5	7	0
9月1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月15日	1	0	0	1	2	1	0	3	3	2	0	5	6	3	0	9	2
～前中	0	0	1	1	0	1	13	14	0	0	1	1	0	1	15	16	11
前中～前末	2	1	2	5	2	2	15	19	3	3	2	8	7	6	19	32	6
前末～後中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後中～学末	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	2	1	3	6	2	3	28	33	3	3	3	9	7	7	34	48	17







（出典　学生課資料）

資料７－１－②－５

〔福利施設〕

福利施設/学生相談室/セクシュアル・ハラスメント相談室/特別支援室
Welfare Facilities/Students Counseling Room/Sexual Harassment Counseling Room/Learning-disabled student support room

「秀峰会館」
"Syu-Ho Hall"

秀峰会館は，学生の課外活動やコミュニケーションの場として広く活用されており，学生の健康維持・管理を図ることを目的とした医務室や，学生生活に関する問題の解決を図るための学生相談室のほか，食堂，売店，音楽室，和室などがあります。

Syh-Ho Hall is popularly used by students for their communication and extra-curriculum activities, and it contains an infirmary the chief purpose of which is to make plans for maintenance and management of students' health, a student counseling room which helps them find quick solutions to problems about their school life, a dining hall, a convenience shop, a music hall, and a Japanese-style room.


秀峰会館　Syu-Ho Hall

施設・設備概要
Facilities and Equipments

1階 医務室，学生相談室，食堂，売店 1st Floor : medical room, student counseling room, dining hall, shop.	2階 学生会室，音楽室，和室 2 nd Floor : room' s for students association room, music hall, Japanese-style room.

利用時間　Available Hours

区分 Classification	平日 Weekday	試験期間 During exams	土・日曜日・祝祭日 Saturday·Sunday·Holidays	長期休業期間 During Long Vacations
食堂 Dining Hall	11:30~13:30	11:30~13:30	休　業 (Closed)	休　業 (Closed)
売店 Shop	8:00~17:00	8:00~14:00		

「学生相談室」・「セクシュアル・ハラスメント相談室」・「特別支援室」
"Student Counseling Room" ·"Sexual Harassment Counseling Room" ·"Learning-disabled student support room"

学生相談室，セクシュアル・ハラスメント相談室は，学生の心身の健康，学習や学生生活に関する問題，セクシュアル・ハラスメントに関する問題について早期解決を図るための手助けをしています。カウンセラー及び相談員がどんな小さな悩みや相談にも対応しています。
特別支援室は，発達障害を持つ学生に，状況に応じた適切な支援を図るために設けられています。

Student Counseling Room (SCR) and Sexual Harassment Counseling Room (SHCR) help students and solve problems about the health of their minds and bodies, their studies, their school lives and sexual harassment. The counselor and the other counseling members of the room will talk with students about any kind of problem trouble.
Learning-disabled student support room (LSSR) supports students with learning disability, mental retardation, and Asperger syndrome.

相談室設置場所
Location of SCR, SHCR, and LSSR

「学生相談室」　福利施設(秀峰会館)：1階
"Students Counseling Room" Welfare Facility Building"Syu-Ho Hall" : 1st Floor
「セクシュアル・ハラスメント相談室」　教員室等
"Sexual Harassment Counseling Room" Rooms of teaching and administrative staff

学生相談室相談時間　Counseling Hours

区分 Classification	月曜日 Monday	火曜日 Tuesday	水曜日 Wednesday	木曜日 Thursday	金曜日 Friday
カウンセラー Counselor	———	12:30~16:30	———	13:30~17:30	———
相談員(教員) Counselor(teacher)	15:00~17:00	———	15:00~17:00	———	15:00~17:00

（出典　平成22年度学校要覧P. 29）

（分析結果とその根拠理由）

学生の自主的学習施設として，図書館，情報処理センター，学習支援室が整備され，各所に配置されている多目的室とともに多くの学生に効果的に利用されている。また，福利施設として，医務室，学生相談室，喫茶コーナー，食堂等を有する秀峰会館が設置されており，学生の交流の場として有効に機能している。

以上のことから，キャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されている。

観点７－ １－ ③：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また，資格試験や検定試験の受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

ニーズ汲み上げの手法として，学生による授業評価や相談箱・意見箱がある。隔年実施される授業評価の記述欄には学習支援に関わる下記のような要望も散見され，上記ニーズの把握手段としても機能している。

・１年生（物理）「定期テストの前に，自主参加形式の練習の時間がほしい（放課後）。」
・３年生（有機化学）「遅い時間に補習してくれて，大変助かっています。」
・１年生（物理）「もっと実験があるとわかりやすい。」
・２年生（化学）「実験を増やしてほしい。」

相談箱・意見箱はその性格上，学生生活や学校運営に係わる投書が主であるが，内容に応じて学生相談室や校長連絡会で処理されている（資料７－１－③－１）。

また，準学士課程では特別学修単位認定規則を設けて，指定する検定に合格した場合に単位を認定しており（資料７－１－③－２，３），併せて受験料の助成を行っている（資料７－１－③－４）。専攻科課程に対しても，後援会による助成制度を設けて TOEIC（IP）テストの受験を促している（資料７－１－③－５）。

外国留学に対しては，既に大韓民国「水原ハイテク高等学校」との間で学生の相互派遣を実施しているほか（資料７－１－③－６），ベルギー「ブリュッセル自由大学」及びドイツ「エルランゲン大学」と学術交流協定を締結しており，支援体制を整備している。

資料７－１－③－１

［意見箱設置関係文書-１］

22. 7. 12

旭川高専意見箱等の設置について（案）

１．趣旨

旭川高専における学校運営上の課題、問題点等を早期に把握し、その改善に資することを目的として、教職員、学生、保護者等からの意見、要望、指摘等を直接受け付けることのできる体制を整備する。

２．各意見の受付方法

(1) 教職員からの意見

警備員室前の設置されている教員ポストを教職員意見箱として使用し、投稿を受け付ける。

(2) 学生からの意見

学生掲示板横に学生意見箱を設置し、投稿を受け付ける。

(3) 保護者、一般市民からの意見

郵送又は公式HPからのメール（様式任意）により、投稿を受け付ける。

３．投稿意見等の取扱い

(1) 教職員からの意見

①総務課において、毎週月曜日に投稿を回収し、校長連絡会へ報告する。

②校長は、その内容に応じ関係者（担当委員会、担当課等）へ調査確認、対応策等の検討を指示し、校長が改善すべき事項と判断した場合はその方策を講じる。

③検討結果等は整理のうえ、必要に応じ教員会議または学内専用ＨＰにおいて、周知する。

(2) 学生からの意見

①総務課において、毎週月曜日に投稿を回収し、投稿内容が学生相談室において処理すべき案件と校長が判断したものを除き、校長連絡会へ報告する。

②校長は、その内容に応じ関係者（担当委員会、担当課等）へ調査確認、対応策等の検討を指示し、校長が改善すべき事項と判断した場合はその方策を講じる。

③検討結果等は整理のうえ、必要に応じ学生掲示板等において、周知する。

(3) 保護者、一般市民からの意見

①総務課において、投稿を回収し校長連絡会へ報告する。

②校長は、その内容に応じ関係者（担当委員会、担当課等）へ調査確認、対応策等の検討を指示し、校長が改善すべき事項と判断した場合はその方策を講じる。

③検討結果等は整理のうえ、必要に応じ公式ＨＰ等において、公開する。

４．運用開始時期　　平成22年8月1日～

５．周知方法

(1) 教職員へは7月下旬開催予定の教員会議またはメールにて、趣旨や投稿方法等について通知する。

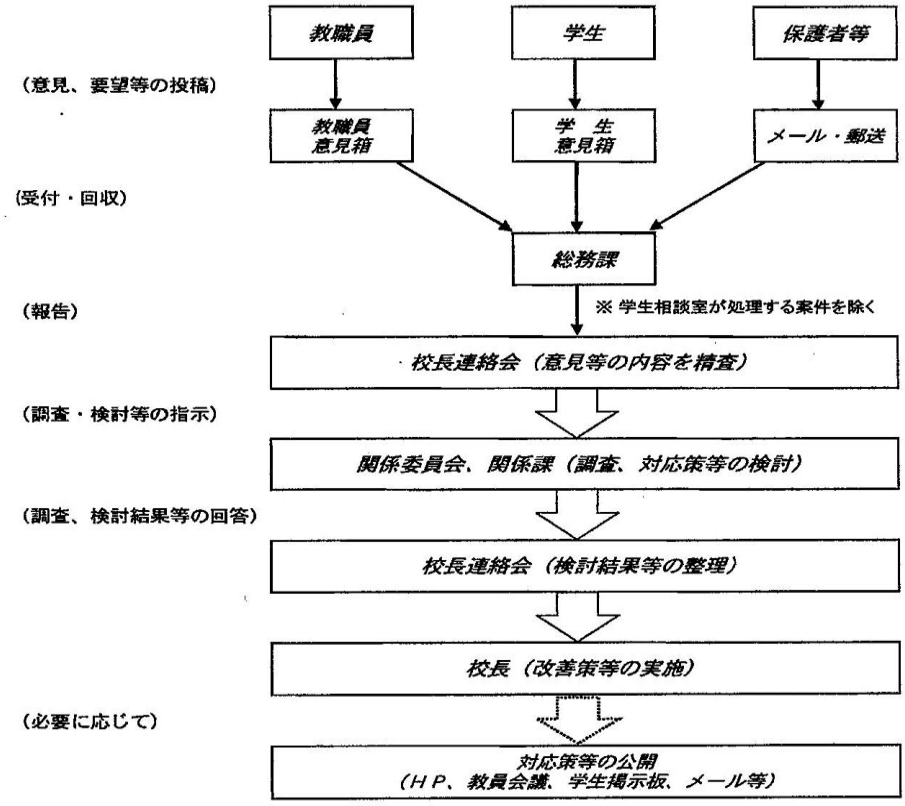
(2) 学生に対しては、7月下旬に学生掲示板において、意見箱の設置について告知する。また、投稿内容については、学校運営にかかる要望、意見等に限定しないで、学校内で生じている様々な問題に対する指摘など、幅広く投稿を受け付けることとする。

(3) 保護者に対しては、7月下旬に発送予定の「学校だより」に併せて、文書により案内するほか、公式ＨＰからもメールにより、保護者・一般市民からも学校への意見等を受け付けている旨の案内文を掲載する。

［意見箱設置関係文書−２］

６．その他留意事項等
①投稿内容が機構の「公益通報の処理等に関する規則」に規定する通報等に該当する場合には、当該規則により取り扱う。
②意見、要望、指摘等を投稿したことを理由に、当該教職員、学生に対し、不利益な取り扱いを行わない。（ただし、虚偽、誹謗中傷等不正を目的とする内容の場合を除く。）
③匿名の投稿も可とする。（ただし、様式には氏名、所属等の欄を設ける）

【処理フロー図】



※ 学生の学業上の悩みや心身の健康相談については、学生相談室で対応

［意見箱設置関係文書−３］

旭川高専意見箱投稿記入用紙

年　　月　　日

区 分	1. 教員　2. 職員　3. 学生　4. 保護者　5. その他（　　）				
所属学科課等		氏 名		連絡先	
ご意見・ご要望など、ご自由にお書き下さい。					

留意事項

1．匿名による投稿も受付けます。
2．投稿内容が機構の「公益通報の処理等に関する規則」に規定する通報に該当する場合には、当該規則により取り扱います。
3．投稿内容により、投稿者に対して不利益な取り扱いは行いません。（ただし、虚偽、誹謗中傷等不正を目的とする内容の場合を除く）

［意見箱設置関係文書−４］

平成２２年７月２３日

学生の皆さんへ

校　　長

「旭川高専意見箱」の設置について

このたび，旭川高専における学校運営上の課題，問題点等を早期に把握し，その改善に資することを目的として，下記のとおり「旭川高専意見箱」を設置することとしましたので，積極的に率直な意見，要望，指摘をお寄せください。

なお，投稿は，学校運営に関することに限らず，学校内で生じている様々な問題に対する指摘など，幅広く受け付けます。

記

１．設置方法

「学生相談箱」の隣に，「学生意見箱」を設置しました。

※「学生相談箱」との違いは，匿名での投稿を受け付ける点です。

２．運用開始日時

平成２２年８月１日から

３．投稿意見等の取り扱い

①投稿内容が学生相談室において対応すべき内容の場合は，学生相談室で対応します。

②投稿内容に応じ，調査確認，対応策等の検討を行い，改善すべき事項と判断した場合はその方策を講じます。

③検討結果等は整理のうえ，必要に応じて学生掲示板等で周知します。

４．留意事項

①投稿内容が高専機構の「公益通報の処理等に関する規則」に規定する通報等に該当する場合には，当該規則により取り扱います。

※「公益通報の処理等に関する規則」に規定する通報とは，犯罪行為及び法令違反行為の通報のことです。

②意見，要望，指摘等を投稿したことを理由に，当該教職員，学生に対し，不利益な取扱いを行いません。（ただし，虚偽，誹謗中傷等不正を目的とする内容の場合を除きます。）

③匿名の投稿も受け付けます。（ただし，様式には氏名，所属等の欄を設けます。）

（出典　学生課資料）

資料７－１－③－２

[特別学修単位認定規則]

旭川工業高等専門学校特別学修単位認定規則

（趣旨）
第１条　この規則は，旭川工業高等専門学校学則第１３条の４第３項の規定に基づき，文部科学大臣の認定を受けた技能審査（以下「技能審査」という。）の合格に係る学修（以下「特別学修」という。）による単位修得の認定に関し，必要な事項を定めるものとする。
（技能審査）
第２条　旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）において，単位の修得を認定することができる技能審査は，次の各号に掲げるものとする。
(1) 日本漢字能力検定
(2) 実用英語技能検定
(3) 工業英語能力検定
（認定の申請）
第３条　特別学修による単位修得を受けようとする者は，あらかじめ別表に掲げる認定授業科目の履修を届け出るものとする。
２　前項による届出をした者が，当該技能審査に合格し，単位の認定を申請する時は，別紙様式１の特別学修単位認定申請書に合格を証明する書類を添付し，当該年度の１月末までに学修担任を経て校長に提出するものとする。ただし，第１学年から第３学年までに別表の検定に合格した場合は，第４学年及び第５学年に単位認定の申請をするものとする。
（単位修得の認定）
第４条　前条の規定により申請のあった特別学修については，別表に掲げる授業科目のうち相当する単位数の修得を認定することができる。
２　前項に規定する単位修得の認定は，資格の種別ごとに行い，本校学則に定める授業科目の単位数を超えない範囲で，卒業認定単位数に含むことができる。
３　前２項により，既に単位修得を認定されている者が，新たに上位の資格を取得した場合は，上位の資格の単位数から下位の資格の単位数を減じて得た単位数を認定することとする。
４　単位修得の認定は，教務委員会の審議に基づき，校長が行う。
５　校長は，前条の申請に基づき単位を認定した場合は，申請者に別紙様式２の特別学修単位認定通知書を交付するものとする。

別表（第３条関係）

技能審査の種別	級		授業科目	認定単位数	認定学年
日本漢字能力検定	1		言語表現	1	4
	準1				
	2				
実用英語技能検定	1		英語学講Ⅰ 英語学講Ⅱ	4以下	4・5
	準1				
工業英語能力検定	1		英会話Ⅰ 英会話Ⅱ		
	2				
実用英語技能検定	2		英語学講Ⅰ 英語学講Ⅱ	2以下	4・5
工業英語能力検定	3		英会話Ⅰ 英会話Ⅱ		

※同位の技能審査に合格した場合は，一方の単位認定申請に限るものとする。

（出典　本校ウェブサイト例規集，平成23年度学生生活のしおり P.84-85）

資料７－１－③－３

［受験者数・単位認定者一覧］

第11回教務委員会	
H23.3.2	資料1

「平成22年度特別学修」単位認定(案)

学年	クラス	氏　名	技能審査の種別	級	合格年月日	授業科目	認定単位数	備考
4	M	[redacted]	日本漢字能力検定	2	平成21年11月30日	言語表現	1	
	E		日本漢字能力検定	2	平成21年 6月23日	言語表現	1	
			日本漢字能力検定	2	平成21年 6月23日	言語表現	1	
	C		日本漢字能力検定	2	平成20年12月 4日	言語表現	1	

平成22年度　資格試験受験人数　一覧(特別学修単位認定資格)

(※教務係集計分)

試験回数 / 資格の名前	第1回	第2回	計
日本漢字能力検定	181名	182名	363名
実用英語技能検定	137名	-	137名
工業英語能力検定	162名	-	162名

(出典　教務委員会資料)

資料７－１－③－４

〔学生会予算関係〕

平成23年度　学生会予算

1. 収入の部

項目	H22年度予算	H22年度決算	H23年度予算	備考
学生会費	6,156,000	6,124,000	6,078,000	
後援会助成金	4,000,000	3,272,200	4,000,000	
雑収入	0	616	250,000	遠征基金より
繰越金	685,964	685,964	780,547	
収入合計	10,841,964	10,082,780	11,108,547	

2. 支出の部

項目	H22年度予算	H22年度決算	H23年度予算	備考
執行委員会	70,000	64,816	70,000	
体育部費	1,305,000	1,303,649	1,415,000	
文化部費	320,000	319,874	370,000	
部基盤費	300,000	300,000	300,000	
加盟金・登録料	700,000	716,790	700,000	
災害補償制度負担金	100,000	69,850	100,000	
参加費	150,000	137,867	150,000	
遠征費補助	6,000,000	4,930,380	6,000,000	
体育大会	210,000	199,970	200,000	
高専祭	1,600,000	1,078,112	1,600,000	
検定料補助	150,000	180,925	180,000	
遠征基金繰入	0	0	0	
予備費	15,000	0	15,000	
繰越金	93,514	780,547	8,547	
支出合計	11,013,514	10,082,780	11,108,547	

3. 遠征基金

平成20年度残額	平成21年度残額	平成22年度残額	平成23年度残額	
4,800,000	5,150,000	5,150,000	4,900,000	

4. 体育部費

項目	H22年度予算	H22年度決算	H23年度予算	備考
アーチェリー	50,000	50,000	70,000	
剣道	10,000	10,000	10,000	
サッカー	130,000	130,000	150,000	
柔道	20,000	20,000	20,000	
ソフトテニス	50,000	50,000	48,000	
卓球	60,000	58,979	57,000	
テニス	100,000	100,000	100,000	
バスケットボール	70,000	70,000	100,000	
バドミントン	270,000	270,000	270,000	
男子バレーボール	65,000	65,000	60,000	
女子バレーボール	40,000	40,000	60,000	
野球	240,000	240,000	270,000	
ラグビー	80,000	80,000	80,000	
陸上	120,000	119,670	120,000	
体育部費合計	1,305,000	1,303,649	1,415,000	

5. 文化部費

項目	H22年度予算	H22年度決算	H23年度予算	備考
軽音楽	20,000	20,000	25,000	
茶華道	35,000	34,784	35,000	
吹奏楽	155,000	155,000	180,000	
パソコン	30,000	30,000	30,000	
発明研究会	80,000	80,000	100,000	
文化部費合計	320,000	319,784	370,000	

（出典　学生課資料）

資料７－１－③－５

［後援会予算関係－１］

平成22年度　旭川工業高等専門学校後援会事業計画

月	実施事項	細目
４月	総会	(1)開催日時　4月8日 11:00～(第二体育館) (2)議　事 ①平成21年度事業報告 ②平成21年度収支決算報告 ③創立50周年記念事業への後援について ④平成22年度事業計画(案)審議 ⑤平成22年度収支予算(案)審議 ⑥平成22年度役員改選(案)審議 ⑦その他
６月	高校体育連盟全道体育大会に対する後援	期　日：未　定 当番校：未　定
	第２学年宿泊研修に対する後援	期　日：6月24日，25日 行き先：道内
７月	道内高専体育大会に対する後援	期　日：7月10日～18日（ﾗｸﾞﾋﾞｰは10月9日） 主管校：函館高専 開催校：函館，苫小牧，釧路，旭川 種　目：全国大会(下欄)の種目にｱｰﾁｪﾘｰを加える。
８月	全国高専体育大会に対する後援	期　日：8月11日～25日 主管校：富山高専 種目 / 開催校 / 期日 ①陸上 / 富山 / 8月11日～12日 ②ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ / 岐阜 / 8月21日～22日 ③ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ / 鳥羽商船 / 8月21日～22日 ④ｿﾌﾄﾃﾆｽ / 富山 / 8月24日～25日 ⑤卓球 / 福井 / 8月21日～22日 ⑥柔道 / 富山 / 8月20日 ⑦剣道 / 福井 / 8月22日 ⑧野球 / 石川 / 8月20日～21日 ⑨ｻｯｶｰ / 豊田 / 8月21日～24日 ⑩ﾗｸﾞﾋﾞｰ / 神戸 / 1月 4日～ 9日 ⑪ﾃﾆｽ / 石川 / 8月20日～22日 ⑫ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ / 鈴鹿 / 8月21日～22日 ⑬水泳 / 沼津 / 8月22日
	北海道吹奏楽コンクールに対する後援	期　日：未　定 開催地：札　幌
10月	アイデア対決ロボットコンテスト北海道地区予選に対する後援	期　日：10月24日 主管校：旭川高専
	全国高専プログラミングコンテストに対する後援	期　日：10月16日～17日 主管校：高知高専
	第４学年工場見学旅行に対する後援	期　日：10月27日～29日 行き先：北海道内企業
11月	アイデア対決ロボットコンテスト全国大会に対する後援	期　日：11月21日 主　催：高等専門学校連合会，ＮＨＫ他

［後援会予算関係－２］

月	実施事項	細目
３月	卒業生・修了生に対する後援	(1)卒業生・修了生壮行会の計画及び実施 (2)卒業・修了記念品の贈呈
	役員会	(1)開催日　3月中旬 (2)議　事 ①平成22年度事業報告 ②平成22年度収支決算(案)審議 ③平成23年度事業計画(案)審議 ④平成23年度収支予算(案)審議 ⑤平成23年度後援会役員の選出について ⑥その他
	進路指導に対する後援	道内，道外の会社訪問(学生の進路先開拓)
年間	学生会に対する後援	クラブ活動補助，学生会活動補助，高専祭補助
	学生の厚生補導に対する後援	クラブ活動指導，合宿指導，家庭訪問
	学生の学習支援に対する後援	学習指導チューターによる補習補助
	その他学生に対する後援	(本科) ・教育研究活動(学会発表)補助　希望者1回 ・英語能力判定テスト受験補助　1～3年生全員 ・インターンシップ保険料補助　参加者全員 ・海外インターンシップ参加補助　1名(アメリカ) (専攻科) ・教育研究活動(学会発表)補助　希望者1回 ・教育研究活動(国際学会発表)補助　1名 ・TOEIC 受験補助　全員１回 ・インターンシップ保険料補助　参加者全員 ・海外インターンシップ参加補助　1名(アメリカ)
	入学者募集に対する後援	中学校訪問，進学説明会
	創立 50 周年記念事業に対する後援	募金による後援（300 万円）

［後援会予算関係－３］

平成22年度　旭川工業高等専門学校後援会収支予算書

（一　般　会　計）

(1)収入の部　　（単位：円）

事　　項	21年度予算額	22年度予算額	差引増減額	備　　考
前年度繰越金	5,694,244	5,694,244	0	
入会金	1,700,000	1,700,000	0	170名×10,000円
会費	13,110,000	12,690,000	12,490,000	新入生(本科)　160名×@15,000円＝　2,400,000円 〃　(専攻科)　16名×@15,000円＝　240,000円 編入生　0名×@15,000円＝　0円 前受分　670名×@15,000円＝　10,050,000円
22年度事業不足分	0	0	0	
口座振替分	200,000	200,000	0	家負担分
雑収入	0	0	0	
計	20,704,244	20,284,244	12,490,000	

(2)支出の部　　（単位：円）

事　　項	21年度予算額	左記内訳		22年度予算額	左記内訳		差引増減額	備　考
		後援会	奨学寄附金		後援会	奨学寄附金		
A．運営費	1,059,260	1,059,260	0	1,290,944	1,290,944	0	231,684	
1．会議費	44,000	44,000	0	44,000	44,000	0	0	
2．通信印刷費	200,000	200,000	0	260,000	260,000	0	60,000	
3．事務費	815,260	815,260	0	986,944	986,944	0	171,684	
B．慶弔費	120,000	120,000	0	120,000	120,000	0	0	
C．学生後援費	17,516,000	13,697,000	3,819,000	17,115,300	12,274,300	4,841,000	△ 400,700	
1．学生会補助	744,000	744,000	0	747,300	747,300	0	3,300	
2．日本スポーツ振興センター共済掛金	1,338,000	1,338,000	0	1,367,000	1,367,000	0	29,000	
3．卒業生祝賀経費	1,542,000	1,542,000	0	1,532,000	1,532,000	0	△ 10,000	
4．厚生補導補助	2,632,000	2,001,000	631,000	2,692,000	1,961,000	731,000	60,000	
5．体育大会等関係経費	9,830,000	8,072,000	1,758,000	9,347,000	6,667,000	2,680,000	△ 483,000	
6．見学旅行引率旅費補助	320,000	0	320,000	320,000	0	320,000	0	
7．進路指導補助	1,110,000	0	1,110,000	1,110,000	0	1,110,000	0	
D．学校後援費	1,224,000	260,000	964,000	1,558,000	406,000	1,152,000	334,000	
1．ＰＲ関係経費	1,098,000	234,000	864,000	1,332,000	280,000	1,052,000	234,000	
2．学校運営費補助	120,000	20,000	100,000	220,000	120,000	100,000	100,000	
3．雑費	6,000	6,000	0	6,000	6,000	0	0	
E．予備費	300,000	300,000	0	200,000	200,000	0	△ 100,000	
合計	20,219,260	15,436,260	4,783,000	20,284,244	14,291,244	5,993,000	64,984	

（出典　総務課資料）

資料７－１－③－６

〔青少年交流関係－１〕

＜平成22年度　旭川市青少年交流参加学生一覧＞

学生番号	学生氏名	ふりがな	学年	性別	所属学科
No.	[redacted]		1	男	物質化学工学科
No.			3	男	電気情報工学科
No.			3	男	電気情報工学科
No.			3	男	電気情報工学科
No.			3	男	電気情報工学科
No.			3	男	電気情報工学科
No.			3	男	物質化学工学科
No.			3	女	物質化学工学科
No.			4	女	電気情報工学科
No.			4	女	制御情報工学科

今回応募学生

〔青少年交流関係－２〕

旭川市・水原市青少年交流事業日程

日次	月 日	時 間	行 程	場 所	移動手段
1	8月19日(木)	9:15	秘書課応接室前ロビー集合(荷物は集合前にバス積込)		
		9:30～9:45	市役所出発挨拶	秘書課第2応接室	
		9:50～10:20	旭川市役所→旭川空港		市マイクロバス
			チェックイン・出国手続	空港ビル2F有料待合室	
		13:10～16:20	旭川空港→仁川空港	仁川空港	OZ153
		17:00～18:30	仁川空港→水原市内	水原市内	水原市バス
		18:30～20:00	夕食		
2	8月20日(金)	*10:30～12:00*	*景福宮観覧*		
		12:00～13:00	*昼食*		
		13:30～16:30	*仁寺洞、明洞等自由時間*		
		18:00～19:30	水原市主催歓迎会		
3	8月21日(土)	*9:30～10:00*	*西水原図書館訪問(日本図書寄贈)*		
		10:30～12:00	*華城視察(弓引き体験、華城列車、行宮観覧)*		
		12:30～13:30	*昼食*		
		14:30～17:30	*韓国民俗村観覧*		
		18:00～	ホームステイ家庭へ(夕食)		
4	8月22日(日)	7:00～ 9:00	水原市庁→臨津閣	抜州市	
		9:40～12:00	臨津閣、DMZ(非武装地帯)、トンネル見学		
		12:30～13:30	昼食		
		14:00～15:00	統一展望台見学		
		15:00～17:00	統一展望台→水原市内		
		18:00～	ホームステイ家庭へ(夕食)		
5	8月23日(月)	8:00～ 8:40	水原ハイテク校長表敬訪問	水原市内	
		8:40～ 9:00	二学期始業式参加、学生代表挨拶	(学校プログラム)	
		9:00～10:30	交流時間(相互の学校紹介及び自己紹介)		
		10:40～12:40	実習授業参加(モバイルロボテックス)		
		12:40～13:40	昼食(校内食堂)		
		14:00～15:00	*三星電子広報館見学*		
		15:30～16:00	*水原市副市長表敬*		
		16:00～16:30	*水原市広報館観覧*		
		18:00～19:00	夕食		
		19:00～21:00	水原ハイテク高校寄宿舎		
6	8月24日(火)	6:00～ 7:00	朝運動	水原市内	
		7:00～ 7:30	朝食(寄宿舎)		
		8:00～ 8:30	English Café(水原ハイテク高の朝の補講)参観		
		8:40～12:30	実習授業参加		
		12:40～13:40	昼食(校内食堂)		
		13:40～15:00	水原ハイテク高校→華城市		
		15:00～17:00	専攻関連事業体の見学[(株)ヒョブジンアイエンシー]	華城市	
		18:00～19:00	夕食		
		19:00～21:00	自由時間及び寄宿舎へ移動		
7	8月25日(水)	6:00～ 7:00	朝運動	水原市内	
		7:30～	朝食(寄宿舎)		
		8:00～ 8:30	English Café(水原ハイテク高の朝の補講)参加		
		8:40～11:30	実習事業参加(PLC)		
		11:40～12:30	相互交流協議、意見交換		
		12:30～13:30	昼食(校内食堂)		
		13:30～15:00	水原ハイテク高校→平澤市		
		15:00～17:00	専攻関連事業体の見学[トンウファインカム]	平澤市	
		18:00～20:00	ハイテク高校主催送別会		
		20:00～	自由時間及び寄宿舎へ移動		
8	8月26日(木)	6:00～ 7:00	水原市内→仁川空港	仁川空港	バス
			チェックイン・出国手続		
		9:00～11:45	仁川空港→旭川空港		OZ154
		12:30～13:00	旭川空港→旭川市内		市マイクロバス

8月18日変更分は、斜字としております。
主な変更点
・8月20日(金)と8月21日(土)の日程入れ替え
・水原市表敬が8月20日(金)から8月23日(月)へ。対応者が市長から副市長へ、それぞれ変更
・日本図書贈呈会場が霊通図書館から西水原図書館へ変更(8月21日(土))

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

学生の要望は，隔年で実施される授業評価や相談箱・意見箱の設置を通して適切に把握されている。資格試験・検定試験への支援としては，指定する資格を取得した場合に単位認定を受け得る特別学修単位認定規則が整備され，また，学生会や後援会による受験料助成の体制が構築されている。外国留学に対しては，１高校２大学との間で締結された学術交流協定に基づいて学生の派遣が実施されている。

以上のことから，学習支援に関する学生のニーズが適切に把握され，また，資格試験や検定試験の受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能している。

観点７－ １－ ④：　特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また，必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

留学生に対しては，日本語と専門科目からなる特別カリキュラムを第３学年に設けている（資料７－１－④－１，７－１－①－７（419 ページに前出））。また，留学生からの相談に応じられるようチューター制度を設け，当該学生が適切に助言を行えるようマニュアルを作成して事前指導を行っている（資料７－１－④－２）。

高等学校から第４学年に編入学した学生に対しては，数学と物理の補習を前期時間割中に組み込み，その後の専門科目の学習が円滑に行われるよう配慮している（資料７－１－①－７（419 ページに前出））。

また，障害を持つ学生から支援の要請があった場合には，必要に応じて特別支援室を通じて，関係者が状況に応じた支援を行えるよう体制を整備している（資料７－１－④－３）ほか，秀峰会館に支援を必要とする学生が静寂な環境で勉強できる空間を設けている。

資料７－１－④－１

〔留学生一覧〕

平成23年度　外国人留学生一覧

学年	学科名	氏名	通称名	生年月日	性別	国籍	区分	指導教員	チューター	留学生室
5年	電気情報工学科	[redacted]			男	ベトナム	国費	大島　功三	[redacted]	
5年	物質化学工学科				男	スリランカ	国費	高田　知哉		
4年	機械システム工学科				男	マレーシア	政府	立田　節雄		
4年	物質化学工学科				女	ラオス	国費	小林　彼		
3年	機械システム工学科				男	マレーシア	政府	千葉　良一		
3年	物質化学工学科				男	モンゴル	国費	杉本　敬祐		

（出典　学生課資料）

資料７－１－④－２

［チューター用マニュアルー１］

チューターのためのマニュアル

よりよいチューターになるために

平成２３年度

旭川工業高等専門学校

目　次

１　チューターの皆さんへ……1
２　チューター制度とその目的……1
（１）案内者として……1
（２）先生（家庭教師）として……1
（３）友人として……2
３　チューターの心構え……2
（１）誠意をもって……2
（２）意思の疎通を正しい日本語で……2
（３）留学生となるべく接触を……3
（４）話題の選択を……3
（５）教員との協力を……3
（６）お互いのプライバシーを大切に……3
４　チューターの日常活動……3
（１）学年，学期始め……4
（２）校内案内を……4
（３）講義理解の援助を……4
（４）レポートの添削を……4
（５）日本語学習の手助けを……4
（６）話題を探す……4
（７）クラスや学校の集まりに……4
（８）試験前に……4
（９）相談に乗る……4
（１０）長期休業の前には十分な話し合いを……4
５　先輩留学生の意見・要望……5
６　チューター報告書……5
（１）指導助言の時間について……5
（２）報告書の提出について……5
（３）チューター謝金の支払いについて……5
７　事務手続き等連絡事項……5
（１）指導内容について……5
（２）報告書の提出について……6
（３）謝金（チューター指導員）の支払いについて……6
参　考　資　料……7
チューターの助言指導の事例　No．１……8
チューターの助言指導の事例　No．２……9
平成２３年度　外国人留学生関係行事参加予定表……10

１　チューターの皆さんへ

はじめに

皆さん，このたびは留学生のチューターをお引き受けいただき，ありがとうございます。

皆さんの中には，チューター活動に大きな関心を抱き，積極的に取り組んでいこうとする方もいるでしょうし，チューターとして何をしたらよいのか，あれこれと思いをめぐらせ，一抹の不安を抱いている方がいるかもしれません。

チューター制度については，文部科学省が推進する制度であり，本校でも要項を定めています。

チューターとなった皆さんが，この制度の目的をよく理解できるように，その役目を不安や迷い，大きな負担を感じることなく果たせるよう，少しでも参考になり，指針となればと思い，「チューターのためのマニュアル」を作成しました。

皆さんが，このマニュアルを活用し，チューター活動が実のあるものになるよう願っています。

ここに記された事項は，あくまでも参考にすぎませんので，これらにとらわれる必要はありません。若い皆さんの情熱・知性・感情と創意工夫をいかした活動を期待します。機会があれば，チューター活動を通じて得た皆さんの貴重なご意見等を，遠慮なくお聞かせください。

２　チューター制度とその目的

外国人留学生（以下「留学生」という。）が，来日後（又は自国において），短期間に日本語を習熟し，日本の習慣に慣れ，学習・研究の効果を上げるためには，学習はいうに及ばず，日常生活にもきめの細かい，長時間にわたる対話・助言・指導等の交流が必要です。このような助言，又は個別指導を行うのは教員だけでは困難な面もあり，これを補助するために，このチューター制度が設けられています。

したがって，本校では留学生が，授業に関する面だけでなく，学生生活，あるいは地域の社会生活に一日も早く慣れるために，積極的に助力したり，悩みごと等の相談にのってあげたりするのが，チューター活動の目的と考えています。

以上述べた制度の目的から明らかなように，チューター活動は，留学生が３年次編入学の場合２年間あります。

（１）案内者として

本校での学習生活が円滑に進められるように手助けをする。カリキュラムにしたがって単位が取得できるように，また種々の校内手続きの書類作成などについて，自らの経験を生かして助言する。

さらに，図書館をはじめとする校内施設の利用方法等を必要に応じて案内する。

（２）先生（家庭教師）として

身近について，同じ専門分野で，同じクラスで，教材を勉強している者として家庭教師的に，あるいは一緒に学習する者として，友人として，留学生が十分に理解できない箇所を説明し教える。

また，実験・実習・レポートの作成の際には助言者として，文章の添削を行い，

日本語能力を向上させる。専門的な学習を効果的に行うために，適当な参考書を紹介する。

（３）友人として

同世代の友人として，日本の文化や社会についてわかりやすく説明し，時には一緒に考える。できれば留学生の出身国の文化，社会と比較し話し合い，相互理解を深めるよう努力する。留学生に日本人を多数紹介し，留学生が様々な日本人を知る機会を設ける。学生生活上の諸問題について相談に乗る。

また，日常生活面では，公共交通機関・電話・買物などについて，機会があれば手助けする。

この制度は留学生，指導教員（他の教職員をきむ）そしてチューターの三者の間に信頼と協力関係が築かれたとき，最もその効果を発揮しますので，お互いの連絡を密にするよう心掛けましょう。

皆さんが留学生の勉強上の問題で困った時には，すぐ留学生の指導教員，あるいは学科の先生に連絡・相談し，指示を仰いでください。

また，留学生の生活上の諸問題解決について，皆さんが迷い，悩んだ場合には学生課の窓口でも結構ですから相談してください。

３　チューターの心構え

（１）誠意をもって

留学生は日本人学生と大きく異なる教育歴，文化的背景，習慣をもっていますので，学習能力並びに物の考え方，対処の仕方が予想とは随分違うこともあります。逆に言えば，日本人の何気ない言動が留学生にとっては奇異に感じられ，時には大きな誤解すら与えかねません。

従って，留学生と日本人との間にあるこの文化的障壁を取り除くためには，相手の立場を尊重し，誠実，かつ，素直な話し合いが最も大切です。

同世代の人間として，同じ目の高さで語り合える，それがチューター諸君の利点であり，また，課せられた大きな役割の一つです。

留学生が入学後，初めて親しくなる日本人はチューターであり，留学生はチューターを通して本校を，大きく言えば，日本と日本人を見るといっても過言ではないでしょう。

しかし，相手の立場を考えるあまり，過度に構える必要はありません。普通の友達付き合いと同じように，力まず心に余裕をもって，この役割を果たしていただきたいと思います。

（２）意思の疎通を正しい日本語で

留学生の留学目的は，日本語の習得，専門分野の学習，更に，大学に編入学して学位を習得することなど様々でしょう。留学生の希望分野，指針，チューターである皆さんに対する希望を聞いて，なるべくそれに応えてあげてください。

留学生が皆さんの真意を正しく理解しているかどうかを，常に確認してください。もし理解していなければ，できるだけ易しく，具体的に言い換えて説明を加えまし

［チューター用マニュアルー２］

ょう。また，留学生の質問など，話の内容が理解できないときも，皆さんが相手の言わんとする内容をはっきりと把握するまで，話し合ってください。いずれの場合も根気よく丁寧に対応してください。

留学生との対話では，正しい日本語の使用を心掛け，英語等の外国語で会話する必要はありません。先に述べたように，チューターの役割の一つは，留学生の日本語能力を鍛練し，向上させることです。

（3）留学生となるべく接触を
留学生と話す機会をなるべく多くもつように心掛けてください。お互いに一日も早く慣れるように，４月，５月には，この点に留意してください。
また，クラスの行事・学校行事にも一緒に出席し，クラスメイトと留学生の橋渡しをするよう配慮してください。
特に，３年に編入学してきたばかりの留学生にとっては，チューターの皆さんは非常に頼りになる，心強い存在です。

（4）話題の選択を
留学生の日本語能力向上のためにも，また，お互いの理解のためにも，様々な会話が交わされるものと思います。
特に，宗教については，それぞれの国で宗教観が異なります。
留学生の中には，一日何回もお祈りを欠かせないという人や酎食をする人，食材料の制約など宗教上，日本と異なった個印があることを認識しておきましょう。
また，お互いに異なる考え方を持っていると思われますが，それぞれの国の文化を尊重する気持ちを持って，コミニケーションを深め，相互に理解し合うことが大切です。
こうしたことを念頭におきながら，皆さん自身が体験し，見聞している現在の日本の政治・教育制度・産業構造など，あるいはまた，話術や文化，人々の暮らし振りなどを積極的に話題として取り上げ，意思の疎通を図るとともに，皆さん自身の国際感覚を身につける良い機会にもしていただきたいと思います。

（5）教員との協力を
皆さんだけでは解決や回答が困難な事態に遭遇するかも知れません。そのような場合には，速やかに留学生の指導教員，又はそれぞれの主事の先生，学生課寮務係まで連絡して指示を仰いでください。
留学生，チューター，そして教職員の意思の疎通を心掛け，この制度の目的が効果的に達成されるようお互いに協力しましょう。

（6）お互いのプライバシーを大切に
留学生の個人的な事柄（プライバシー）には，踏み込まないように配慮しましょう。逆に，皆さんの個人的生活の場に留学生を迎え入れることは必ずしも必要ありません。むしろ，日本人の友人がいるか，あるいは，親しいクラスメイトができたかを，時折，聞いてください。もし親しい友人がいれば，一緒に会って，話をするのもよいでしょう。

4　チューターの日常活動
留学生の苦悩を聞き，お互い良い環境をつくる努力をしましょう。

留学生と時間をかけて話し合い，留学生の入学目的，チューター同士の経・横の連絡も取り，より良い交流（環境）ができるよう意見交換，又は共に参加できる行事の立案等も積極的におこなってください。

（1）学年，学期始め
学年，学期始めには必要書類の提出等が様々ありますが，記入の不備がないかどうか，点検をしてください。
また，「学生生活のしおり」及び「留学生のための生活ガイドブック」の説明に理解できない点，疑問点等があると思は，手助けをしてください。

（2）校内案内を
図書館，その他の施設の案内や利用方法を教えてください。

（3）講義理解の援助を
講義内容・宿題等について，留学生の質問に答えるようにしてください。
必要があれば，図書館にある参考書を教え，自習するように勧めてください。又は共に学んでください。

（4）レポートの添削を
実験・実習のレポートの作成を助け，文章の添削をしてください。この時に，実験・実習の理解が不十分であれば，実験書をもう一度勉強するように勧めてください。

（5）日本語学習の手助けを
留学生の日本語能力が不十分と思われるとき，日本語学習の手助けをしてください。
また，日本語の先生にも相談してください。

（6）話題を探す
留学生の日本語が上達してきたら，新聞や週刊誌，パソコンの利用なども考えてください。これらのマスメディアには，今日的な生きた日本語学習，日本社会についての勉強になる優れた話題・教材が豊富にあります。

（7）クラスや学校の集まりに
クラスや学校の行事には，一緒に参加して留学生も「学生」であることを認識し，また多くの学生と知り合える機会を作ってください。

（8）試験前に
皆さん自身も試験勉強に忙しいでしょうが，時間の都合をつけ，なるべく留学生の相談をしてください。

（9）相談に乗る
学生生活，あるいは日常生活上の相談相手になり，解決に力を貸してください。
この場合，前にも述べたように，一人で解決が困難と思ったら，担当の先生（指導教員，主事の先生）方，又は学生課寮務係に連絡し，問題解決にあたってください。

（10）長期休業の前には十分な話し合いを
夏休み，冬休み，学年末・春休みなどの長期休業に入る前には，留学生と特に十分な

話し合いの機会を持ち，相談に乗るようにしてください。
この期間は，寮生や下宿生は自宅に帰りますが，留学生は学寮や下宿に残って，過ごすことになります。
クラスメイトとも離れて過ごすこの期間は自分の国を思い，また，家族のことを思い孤独になる時期でもあります。休みや中も，可能な限り連絡（電話によってでも）を保つようにしてください。

5　先輩留学生の意見・要望
次の各事項は，先輩留学生等からチューターの指導助言にあたり，意見・要望があったものです。
今後，留学生へ指導助言の参考にしてください。

1　編入学当初は，相談したいことがたくさんあるので，いろいろな話をしたい。

2　日本語での授業，日本の通常の勉学など，また，日本での勉強の体験が少ないので編入学当初は，しっかり教えてほしい。

3　もっとお互いに，いろいろなことについて一緒に話し合いたい。

4　もっと日本語，専門教科等について教えてほしい。

5　気候・風土，教育・文化，生活・習慣等が異なっているので，相互に理解しあい，共に学んでいきたい。

6　チューター報告書
（1）指導助言の時期について
留学生に対するチューターの指導助言は，原則として，週２回，各一回２時間とし，年間実施期間は３５週を基準とします。
実施時間は深夜に及ばないでください。試験期間で遅くまで勉強を教える場合であっても，午前０時（24 時）までには終えてください。
（2）報告書の提出について
毎月の報告書の提出は，指導教員を経て，学生課寮務係へ翌月の５日【提出期限】までに必ず提出してください。
（3）チューター謝金の支払いについて
チューター謝金は，チューター名義の銀行口座（口座がない場合は開設する必要あり）に振込みによって支払われます。
毎月，全員の報告書がそろった時点で支払いの手続きをします。一人の提出が遅れると，他のチューターの謝金支払いもできませんので，期限を守ってください。

7　事務手続き等連絡事項
（1）指導内容について
（ア）指導は，指導教員の指導・助言を受けて適切に行ってください。
（イ）日頃から，留学生とコミュケーションを持つように心掛け指導の習熟・達成度等当初の計画と点の助言ができたかなどを確認しながら，より効果的な助言をするように努めてください。
（ウ）３年次編入学の留学生は，高専生活が始めてなので，出来る限りいろ

いろなことについて，留学生と話をするよう心掛けてください。
（エ）年間的，長期的な指導助言を念頭において，効果的な指導に心掛けてください。

（2）報告書の提出について
（ア）別紙「業務実施確認表」を，指導教員を経て学生課寮務係へ翌月の５日までに提出してください。
（イ）報告書の指導内容は，具体的に記載してください。

（3）　謝金（チューター指導費）の支払いについて
（ア）別紙「業務実施確認表」に基づき，毎月指定の銀行口座に振込みます。
（イ）謝金支払いのための手続きについて
年度当初，謝金支払いのために次の書類を提出してください。
（a）銀行振込み依頼書
（b）本人名義の銀行口座通帳の写し
（c）給与所得者の扶養控除申告書
（ウ）謝金（チューター指導費）の支給額について
例年，業務実施１４０時間で１１２,０００円程度になります。

［チューター用マニュアルー３］

参　考　資　料

7

チューターの助言指導の事例　No．1

本資料は，本校に在学する外国人留学生に対するチューター指導の具体的な指導事例を過去の資料（チューター指導報告書）から抜粋し，今後の留学生への指導助言等が有意義で，適切かつ効果的に行われるよう例示するものです。

1．学校生活に関する事例
（1）学習に関すること
◎年間行事予定
◎年度当初，休業中，学年末
　授業等教科，試験準備等の助言
◎専門科目
・教科書，教科目の助言
・実験・実習レポート作成
◎一般人文・理数科目
・英語の日本語翻訳
・宿題，レポート作成

（2）学校行事・課外活動等に関すること
◎学内体育大会参加等（競技種目等）
◎夏期実習
◎クラブ活動，ロボコン等の活動状況
◎学校祭（高専祭）
◎身体測定（定期検診）
◎緊急避難訓練
◎学生会活動（総会，選挙等）

（3）その他
◎日本語（漢字を含む）の説明

8

チューターの助言指導の事例　No．2

2．日常生活に関する事例
（1）日常生活に関すること
◎寮生活全般（生活日課を含む）
◎コミュニケーション（日常会話）
◎日常生活（趣味，日常出来事等）
◎パソコンの使用方法
◎洗濯の活用方法
（ゴールデンウィーク，日曜日等）
◎環境
◎生活設計（貯金等）
◎ポケコンの活用
◎図書館利用（読書，レポート作成等）
◎悩み事相談
◎健康保険（病気，負傷等）
◎洋画ビデオ等
◎長期休業計画（春，夏，冬，学年末）
◎趣味（スポーツ観戦・野球，ソフト
　スキー，スケート，サッカー等）
◎観光（風山，陶芸，水芭蕉，美瑛の丘
　富良野ラベンダー等）

（2）実地見学旅行に関すること
◎市内見学・案内
・買物補助（電子辞典，衣料品等）
・美術館，博物館等郷土資料館
・カラオケ，ボーリング等
◎工場見学
・札幌，苫小牧，千歳等
◎実地見学旅行（秋季旅行・大学，工場）
・小樽・札幌方面
・室蘭方面（苫小牧，千歳，羽幌湖）
・北見・網走方面（阿寒・摩周湖）

（3）教育文化，美術，工芸に関すること
◎日本の歴史，文化（北海道を含む）
（言葉，生活様式，風土，習慣，食文化，
お正月・お節料理等）
◎工芸
・美術館，博物館等郷土資料館
・陶芸の里，優佳良織工芸館，雪の美術館
・国際染織館
◎講演聴講等
・文化講演
・世界の童話朗読会
・外国青年日本語発表会
・青年の主張コンテスト
◎武道体験（剣道部１日体験入門等）

（4）その他
◎留学生懇談・交流会等参加準備
・母国演舞，民話・民芸等の助言
・ホームスティ，ホームビジット



9

平成23年度　外国人留学生関係行事参加予定表

日　程	行　事　名
4月14日（木）	外国人留学生オリエンテーション チューターオリエンテーション
4月25日（月）	交流会(歓迎会)(中会議室) 【留学生と教職員との交流】
5月28日（土）	華道及び茶道体験学習（秀峰会館和室） 【華道・茶道を通じて日本文化に ふれ，理解を深める】
10月24日（月） ～25日（火）	実地見学旅行(1泊2日) 【教育・文化施設等の見学を通じ，文化・歴史等の理解を深めるとともに，今後の留学生教育に役立てる】
11月下旬	高台小学校遊びランド参加(地域交流)
1月上旬	北海道内国立4高専の外国人留学生交流会(2泊3日) 【道内4高専の留学生が一堂に集まり，情報交換を行うことによりお互いの理解を深める。また，ウインタースポーツを通じて北国の生活・文化を体験し親睦を図る】
2月中旬	交流会(送別会)(中会議室) 【第5学年留学生の送別会】

10

（出典　学生課資料）

資料７－１－④－３

［特別支援室運営要綱］

旭川工業高等専門学校特別支援室運営要綱

第１条　旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，発達障害者支援法（平成１６年１２月１０日法律第１６７号）に基づき，発達障害者に対し障害の状態に応じて適切な支援を図ることを目的として，特別支援室を設ける。

第２条　特別支援室は，次に掲げる業務を行う。

⑴ 支援対象学生の決定に関すること。

⑵ 支援チームの設置又は解散に関すること。

⑶ 支援教育に関する教職員の意識向上に関すること。

⑷ 支援に必要なチューターの決定に関すること。

⑸ その他支援に関し必要と認められること。

第３条　特別支援室に次の室員を置く。

⑴ 室長（教務主事）

⑵ 副室長（学生相談室長）

⑶ 看護師

⑷ その他校長が必要と認めた者

２　室員は，校長が任命する。

３　室員の任期は１年とし，再任を妨げない。ただし，室員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

４　校長は，必要に応じて本校教職員以外の者を室員として委嘱することがある。

第４条　室長は，特別支援室の業務を掌理する。

２　副室長は，業務全般について，室長を補佐し，室長に事故等があるときは，その職務を代行する。

第５条　特別支援室は，支援が必要であると判断された学生毎に支援チームを設置する。

２　支援チームの構成は，次のとおりとする。

⑴ 支援を必要とする学生が第１学年及び第２学年である場合は，当該学生の担任，担任の所属する科の科長及び室長が必要と認める教職員若干名とする。

⑵ 支援を必要とする学生が第３学年から第５学年である場合は，当該学生の担任，当該学生の所属する学科長及び室長が必要と認める教職員若干名とする。

⑶ 支援を必要とする学生が専攻科生である場合は，当該学生の所属する専攻科の専攻主任，専攻科長及び室長が必要と認める教職員若干名とする。

第６条　支援チームは，副室長の指示のもと，次に掲げる業務を行う。

⑴ 学生の障害の状況を把握し，支援計画の立案，実施に関すること。

⑵ 保護者との連携・協力体制を構築すること。

⑶ 学級内での理解の増進を図り学習環境を整えるための援助を行うこと。

⑷ 支援記録簿を作成すること。

⑸ その他発達障害者への支援に関すること。

第７条　特別支援室に関する事務は，学生課が処理する。

第８条　その他，特別支援室の運営に関し，必要な事項は別に定める。　　（出典　本校ウェブサイト例規集）

（分析結果とその根拠理由）

留学生に対しては，日本語と専門科目からなる特別カリキュラムが第３学年で実施され，また，チューターを配置して，学習面のみならず学校生活全般を支援する体制が整備されている。高等学校からの編入生に対しては，数学と物理の補習授業が体系的に実施され，専門科目の学習を進めていく上での配慮がなされている。障害のある学生から支援の申し出があった場合には，特別支援室を通じて状況に応じた全校的な支援が行えるよう体制が整備されている。

以上のことから，特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備され，また，必要に応じて学習支援が行われている。

観点７－ １－ ⑤：　学生の部活動，サークル活動，自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され，適切な責任体制の下に機能しているか。

（観点に係る状況）

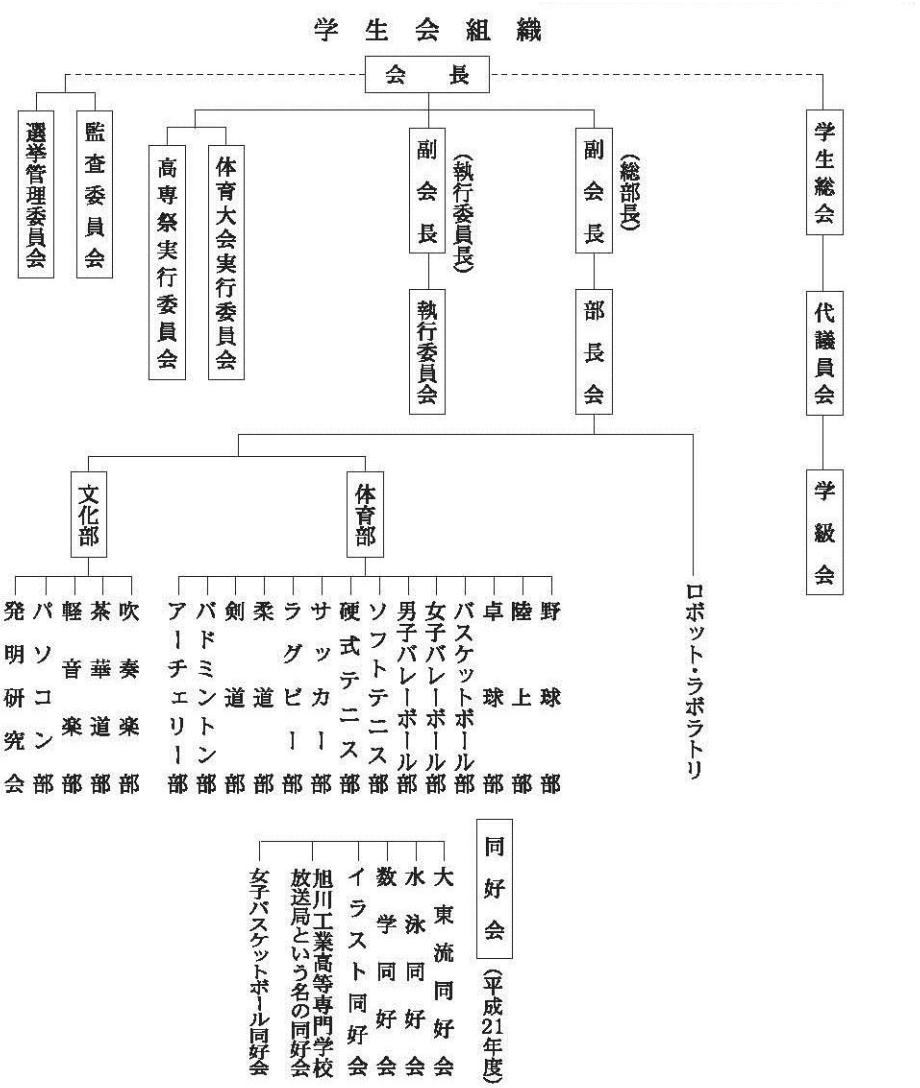
「本校の教育方針に基づき学生の健全な自主活動を図り，よき公民としての資質を向上させること」を目的として学生会が設けられており，２名の学生主事補による適切な指導・助言の下で運営されている。また，学生会に属する団体としてクラブ及び同好会が組織され（資料７－１－⑤－１），全教員がいずれかの顧問を担当している（資料７－１－⑤－２）。技術的指導の困難なクラブにおいては、外部コーチを招聘している。（資料２－２－③－７（72 ページに前出））

クラブが大会等へ参加する場合，特別欠席等教務上の支援を行うとともに（資料７－１－⑤－３），遠征費の助成を行っている（資料７－１－③－５（438 ページに前出））。また，円滑なクラブ運営のため「クラブリーダー研修会」を開催し（資料７－１－⑤－４），併せて顕著な成績を残した団体や個人を表彰する制度を設けている（資料７－１－⑤－５）。

クラブの使用施設としては，野球場，陸上競技場，第１・第２体育館等の他，秀峰会館音楽室や課外共用施設等が整備され，AED（自動体外式除細動器）も設置されている。また合宿用施設として，合宿研修施設・女子合宿研修施設等が整備されている（資料７－１－⑤－６）。

資料７－１－⑤－１

［学生会組織］



（出典　平成23年度学生生活のしおりP. 18）

資料７－１－⑤－２

［クラブ・同好会顧問等一覧］

平成２２年度　クラブ・同好会　顧問教員・部長学生　一覧（案）

2010/5/11現在

No.	部名(五十音順)	顧問教員名 (◎印：チーフ顧問，五十音順)	部長名	クラス	活動場所	結成時学生数
1	アーチェリー部	◎佐竹　堺井		3C	ｱｰﾁｪﾘｰﾚﾝｼﾞ	17
2	剣道部	◎岡島　久志野		2E	武道場	6
3	サッカー部	◎小山　青山　石垣　堀川		3E	ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ・第2体育館	36
4	柔道部	◎宇野　大袖　松岡		3C	武道場	7
5	ソフトテニス部	◎大島　畑口　吉本		4E	ｸﾚｲﾃﾆｽｺｰﾄ・体育館	24
6	卓球部	◎高田　梅田　立田		3S	第2体育館	36
7	テニス部	◎近藤　石井　櫻井　鈴木		4M	ﾃﾆｽｺｰﾄ	22
8	バスケットボール部	◎杉本　木本　小林　千葉(誠)津田		4M	第1体育館	12
9	バドミントン部	◎宮越　木曽　降旗　沼田		4S	第2体育館	21
10	男子バレーボール部	◎小西　石本		3S	第1体育館	10
11	女子バレーボール部	◎土橋　十河		5S	第1体育館	9
12	野球部	◎古崎　富樫　戸村　中村　水野		3S	野球場	37
13	ラグビー部	◎根本　江頭　本荘　横井		3C	ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ・体育館	12
14	陸上部	◎井口　窪　山田		3E	ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ	19
15	軽音楽部	◎橋本　今野		4M	音楽室(秀峰会館2F)	13
16	茶華道部	◎平野　大澤		3C	和室(秀峰会館2F)	8
17	吹奏楽部	◎倉持　富永　長岡		3S	課外共用施設	41
18	パソコン部	◎有馬　笹岡　森川		4S	ﾊﾟｿｺﾝ部室(秀峰会館２階)	21
19	発明研究会	◎千葉(良)谷口		3S	秀峰会館２階	11

No.	同好会名(五十音順)	顧問教員名 (◎印：チーフ顧問，五十音順)	部長名	クラス	活動場所	結成時学生数
1	旭川工業高等専門学校放送局という名の同好会	◎本荘　降旗		2S	旧新聞局室	6
2	イラスト同好会	◎畑口		2M	電子工学実験室Ⅲ	8
3	数学同好会	◎降旗　長岡		4M	ﾐｰﾃｨﾝｸﾞﾙｰﾑ2	9
4	大東流同好会	◎大拍		4C	武道場	6

No.	その他部名	顧問教員名 (◎印：チーフ顧問，五十音順)	部長名	クラス	活動場所	結成時学生数
1	ロボット・ラボラトリー	◎三井　阿部　岡田　後藤		4M	N13号教室	34

（出典　学生課資料）

資料７－１－⑤－３

[特別欠席の取扱い]

10　特別欠席について

（１）次の各項に該当する場合は，特別欠席を認める。なお，認める期間は，試験等に往復の旅行日（時間）を加えたものとする。
　①　各学年共通
　　ア　国の資格取得試験（自動車等の運転免許取得を除く。）受験者については，学級担任が平素から受験を指導している者に限り認める。
　　イ　同じクラスの学生の親が死亡して，クラス代表者が葬儀等に出席する場合は，１人についてのみ認める。ただし，市内及び近郊の場合は，極力通夜に参列するよう指導する。
　　ウ　学会発表
　　エ　忌引
　　オ　その他，教務委員会で特別欠席に相当すると認めたもの。
　②　第５学年
　　ア　大学受験者（編入学試験を含む。）
　　イ　企業説明会，就職試験（当該試験の一環として行われる健康診断等を含む。），内定式及び内定者に行われる健康診断，研修会等（企業等からの連絡文書を添付すること）出席者については，７月１日以降を認める。
　　ウ　公務員採用試験等受験者
（２）次の各項に該当する場合には，学生主事が認めたものを教務委員会が追認し，特別欠席を認める。
　①　学生会関係
　　学校行事の準備及び後始末に必要な人員の最低限の時間。
　②　クラブ関係（同好会もこれに準ずる。）
　　ア　体育部関係
　　　ａ　学校として加盟している団体（専体協・高体連・高野連）の主催する大会参加と，国体の道代表及び地区代表，強化選手として指名され参加する場合。
　　　ｂ　上記団体に種目を持たない部にあっては，それに準じ，その所属する団体の主催する大会に出場する場合。
　　　ｃ　上記２項に関連して，代表者会議，抽選会等に当該部学生の出席を求められた者。
　　　ｄ　本校にクラブ・同好会が存在しない競技等について，当該協会等から，全道大会レベル以上の大会への派遣要請があり，教員の引率を要しない場合には協議する。（それ以前の特別欠席の時間数を考慮する。）
　　イ　文化部関係
　　　ａ　新聞部がア－ａ及びア－ｂについて取材のため参加する場合の最少人数
　　　ｂ　吹奏楽部がア－ａについて参加する最少人員
　　　ｃ　その他文化部が自主的活動（演奏会，発表会等）を行う場合，年１回に限り，その準備等で必要とする最小人員
　③　その他（英語プレゼンテーションコンテスト等）

〈H23．３改正箇所〉
（２）－③　　現行の取り扱いを明記した。

（出典　学生課資料）

資料７－１－⑤－４

［クラブリーダー研修実施要項］

平成２２年度クラブリーダー研修実施要項

目　　的　課外活動における各クラブの活気溢れた活動と運営を目指すため，リーダーの指導力を高めることを目的とする。

日　　時　平成２３年１月２０日（木）　１６：００～１８：００

場　　所　本校講義室１

出 席 者　クラブリーダー学生　（各クラブ１～２名）
学生主事，学生主事補，事務職員

研修内容　クラブリーダーに関する講演

講　　師　北海道教育庁上川教育局　社会教育主事 [redacted] 氏

日　　程　１６：００　開会式・講師紹介
１６：０５　講　演
１８：００　閉会式

参加クラブ	野球部	ラグビー部	サッカー部
	陸上部	テニス部	ソフトテニス部
	アーチェリー部	バスケットボール部	男子バレーボール部
	女子バレーボール部	バドミントン部	卓球部
	柔道部	剣道部	軽音楽部
	パソコン部	茶華道部	吹奏楽部
	学生会	ロボット・ラボラトリ	発明研究会

（出典　学生課資料）

資料７－１－⑤－５

[学生生活指導に関する申し合わせ事項]

（卒業・修了時表彰）
本科

区分	内　容
総合表彰	イ　学業成績優秀で，５年間出席が良好で精勤に該当するもの ロ　全国大会で優勝または新記録を樹立し，かつ，学業成績が優れ出席状況が良好なもの
皆勤表彰	５年間皆勤したもの
精勤表彰	５年間精勤したもの
課外活動功労表彰	イ　５年間クラブ活動に励み，部の育成並びに後輩の指導に貢献，かつ，他の部員の模範となるもの ロ　学生会役員としての指導性を発揮し，学生会活動の発展・育成に貢献したもの
その他	イ　学生委員会で適当と思われるもの ロ　「優良学生表彰」（留学生・編入生を対象とし，総合表彰に準じる）

専攻科

区分	内　容
優秀学生表彰	２年間の学業成績が成績秀のもの

（随時表彰）
本科

区分	内　容
課外活動功労表彰	全国大会で優勝・準優勝または新記録を樹立，および地区大会で特別表彰規程に適用する成績の個人または団体
善行表彰	イ　人命救助，犯人逮捕，消火活動等に協力し，関係機関より表彰されたもの ロ　善行・篤志等で関係機関，施設より表彰された個人または団体
学術振興表彰	学術振興の業績により，関係機関より表彰されたもの
その他	学生委員会で適当と思われる個人または団体

専攻科
本科学生に準じる。

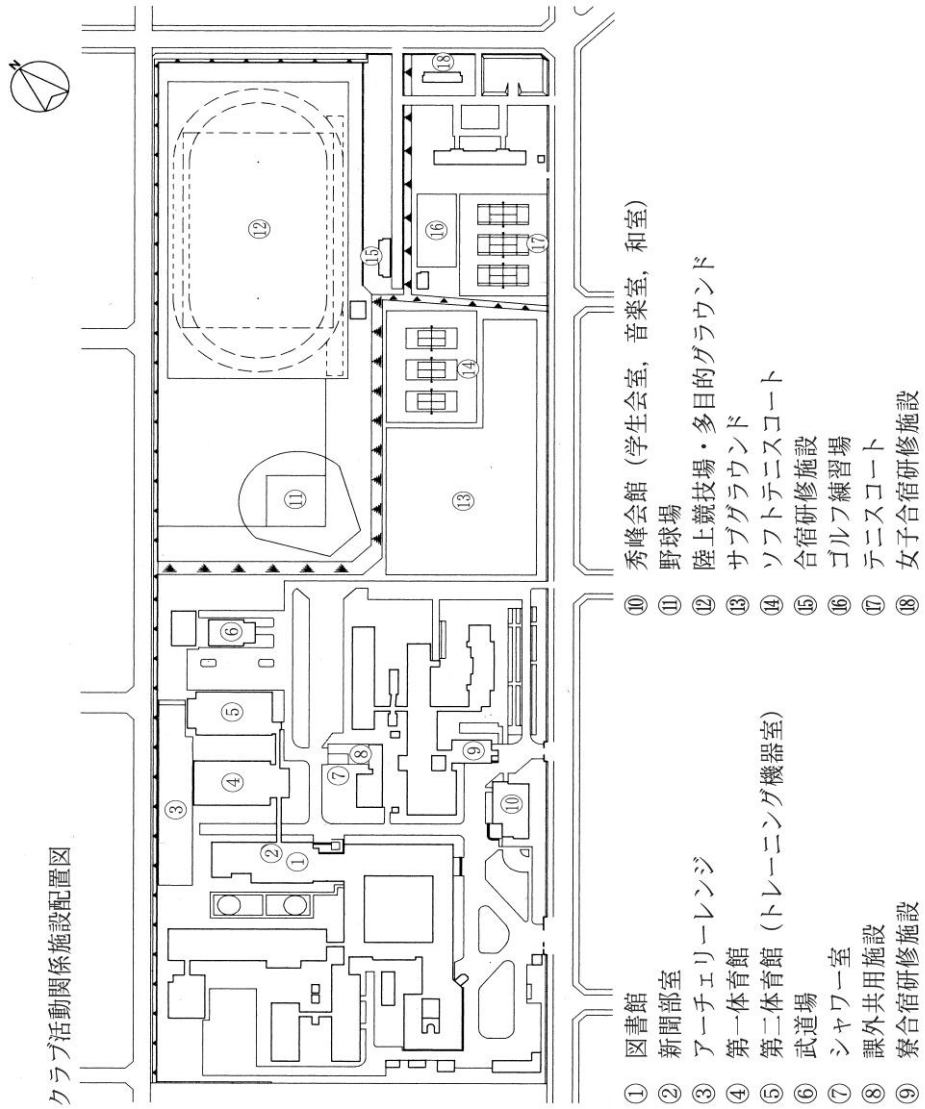
○詳しい条件については，以下のとおりとする。

（１）卒業・修了時表彰
《本科》
<総合表彰>
学業成績・学習態度・出席状況（後業，行事）および生活面等を含め，総合的に本校学生の範となる者を対象とする。従って他の表彰区分のものとは別格の表彰であり，以下の条件を満たすことを原則とする。
イ　１）成績は各学年共学科順位３番以内であること
２）５年間の欠席時数が４０時間以内であること。（注：精勤規定との整合性21.10.19学生委員会）
３）各学年の学年末成績評価に２または１がないこと。
４）主事説諭以上の指導歴がないこと。
ロ　当該クラブ最上級の大会も可とする。
<皆勤表彰>
５年間本校学生としての本分を守り皆勤した者。
１）欠席・欠課・遅刻・早退等皆無。（行事等の出席状況も含む）
ただし，遅刻等が公的交通機関の不測の事態による遅延等，正当な理由によるものについては，本人が書類により届け出ている場合，出席とみなすことがある。なお，入院による欠課および就職に関する欠課は考慮されるべき。*
２）学業成績は不問とするが，平素の生活状況・学習態度等について審議する。
３）主事説諭以上の指導歴がないこと。
<精勤表彰>
５年間本校学生としての本分を守り精勤した者。
１）行事の欠席も含めた欠課時数が各学年１６時間（２日分相当）以内でかつ，５年間の合計欠課時数が４０時間以内。ただし，入院による欠課および就職に関する欠課は考慮される。また，遅刻の回数（２０回を目途とする）を参考にする。
２）学業成績は不問とするが，平素の生活状況・学習態度等について審議する。
３）主事説諭以上の指導歴がないこと。
<課外活動功労表彰>
イ　１）具体的事例を伴う者。
２）学業成績・出席状況が良好な者。（平素の生活状況・態度と指導歴について勘案する。）
ロ　学生会役員として活動し功労のあった者。（年数を考慮する）
<その他>
努力賞的なものについては，該当者がある場合は当区分として審議する。
《専攻科》
<優秀学生表彰>
学業成績及び生活面を含め，総合的に本科学生及び専攻科学生の範となる者を対象とする。したがって，他の表彰区分のものとは別格の表彰であり，以下の条件を満たすことを原則とする。
１）専攻科における学業成績の平均点順位が１位の者
２）主事説諭以上の指導歴がないこと

（２）随時表彰
<課外活動功労表彰>
当該クラブ最上級の大会も可。
<その他>
努力賞的なものについては，該当者がある場合は当区分として審議する。
… … … …

資料７－１－⑤－６

［クラブ活動関係施設配置図］



（出典　平成23年度学生生活のしおりP. 19）

（分析結果とその根拠理由）

学生会には２名の学生主事補が，各クラブには２名以上のクラブ顧問教員が配置されているとともに指導の困難なクラブに対しては外部コーチを招聘している。また，大会等への参加に当たっては教務上の配慮がなされ，学生会・後援会から遠征費の助成を受けられる仕組みが整えられている。施設面でも設備の更新やAEDの設置が適切に行われており，十分な支援がなされている。

以上のことから，課外活動に対する支援体制が整備され，適切な責任体制の下に機能してる。

観点７－ ２－ ①：　学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学生主事及び主事補が学生の生活に関して総括的に指導を行うのに加え，準学士課程においては学級担任が，専攻科課程においては専攻主任が，また寮生に対しては寮務主事・主事補がそれぞれ相談・助言・指導に当たっている（資料７－２－①－１）。学生相談室では，カウンセラーと教員，看護師が連携して相談に対応している（資料７－１－①－９（423 ページに前出），資料７－２－①－２）。さらに，セクハラ等の人権に関わる被害を受けた場合に対処できるよう，セクシュアル・ハラスメント相談室を設けている（資料７－２－①－３）。

第４学年以上で，家庭事情や経済的理由により授業料の納付が困難かつ成績優秀である学生に対しては，授業料減免制度や奨学金制度を用意している（資料７－２－①－４）。

資料７－２－①－１

〔各種委員会委員等名簿〕

平成２３年度　各種委員会委員等名簿

平成23年4月14日現在

副校長
- 今野廣

教務主事（校長補佐）
- 津田勝幸

学生主事（校長補佐）
- 石本裕之

寮務主事（校長補佐）
- 岡島吉俊

専攻科長（校長補佐）
- 三井聡

学科長
- 機械システム　石井悟
- 電気情報　吉本健一
- システム制御情報　橋本直樹
- 物質化学　古崎睦
- 一般人文　十河克彰
- 一般理数　長岡耕一

図書館長
- 今野廣

情報処理センター長
- 小山貴夫

地域共同テクノセンター長
- 富樫巌

主事補
- 教務主事補　篁耕司
- 冨永徳雄
- 学生主事補　佐竹利文
- 梅田哲
- 横井直倫
- 寮務主事補　降旗康彦
- 有馬達也
- 木本理可

専攻主任
- 宇野直嗣
- 笹岡久行
- 大柏哲治
- 千葉誠

学級担任（学級副担任）
- １・１組　鈴木智己
- （副）木本理可
- １・２組　小西卓哉
- （副）根本聡
- １・３組　青山陽子
- （副）降旗康彦
- １・４組　櫻井靖子
- （副）大澤智子
- ２・１組　平野友彦
- （副）本荘忠大
- ２・２組　倉持しのぶ
- （副）谷口牧子
- ２・３組　近藤真一
- （副）石本裕之
- ２・４組　久志野彰寛
- （副）冨永徳雄
- ３機械　千葉良一
- ３電気　井口傑
- ３制御　戸村豊明
- ３物化　杉本敬祐
- ４機械　立田節雄
- ４電気　土橋剛
- ４制御　阿部晶
- ４物化　小林渡
- ５機械　江頭竜
- ５電気　大島功三
- ５制御　堀川紀孝
- ５物化　高田知哉

運営委員会
- 委員長　高橋英明
- 今野廣
- 津田勝幸
- 石本裕之
- 岡島吉俊
- 三井聡
- 石井悟
- 吉本健一
- 橋本直樹
- 古崎睦
- 十河克彰
- 長岡耕一
- 事務部長

企画委員会
- 委員長　高橋英明
- 今野廣
- 津田勝幸
- 石本裕之
- 岡島吉俊
- 三井聡
- 事務部長

教育点検改善委員会
- 委員長　今野廣
- 石井悟
- 篁耕司
- 佐竹利文
- 宮越昭彦
- 平野友彦
- 久志野彰寛

教務委員会
- 委員長　津田勝幸
- 三井聡
- 篁耕司
- 冨永徳雄
- 石井悟
- 吉本健一
- 橋本直樹
- 古崎睦
- 十河克彰
- 長岡耕一
- 学生課長

教務委員会教育課程等検討部会
- 部会長　冨永徳雄
- 江頭竜
- 大島功三
- 中村基訓
- 堺井亮介
- 谷口牧子
- 近藤真一

学生委員会
- 委員長　石本裕之
- 岡島吉俊
- 佐竹利文
- 梅田哲
- 横井直倫
- 立田節雄
- 土橋剛
- 阿部晶
- 小林渡
- 櫻井靖子
- 青山陽子
- 学生課長

寮務委員会
- 委員長　岡島吉俊
- 降旗康彦
- 有馬達也
- 木本理可
- 千葉良一
- 井口傑
- 戸村豊明
- 杉本敬祐
- 本荘忠大
- 近藤真一
- 学生課長

ＪＡＢＥＥ対応委員会
- 委員長　三井聡
- 今野廣
- 津田勝幸
- 江頭竜
- 横井直倫
- 篁耕司
- 井口傑
- 佐竹利文
- 古崎睦
- 谷口牧子
- 冨永徳雄
- 事務部長
- 学生課長

入学者選抜委員会
- 委員長　高橋英明
- 副委員長　津田勝幸
- 今野廣
- 石本裕之
- 岡島吉俊
- 篁耕司
- 冨永徳雄
- 石井悟
- 吉本健一
- 橋本直樹
- 古崎睦
- 十河克彰
- 長岡耕一
- 平野友彦
- 倉持しのぶ
- 本荘忠大
- 青山陽子
- 事務部長
- 学生課長

専攻科入学者選抜委員会
- 委員長　高橋英明
- 三井聡
- 宇野直嗣
- 笹岡久行
- 大柏哲治
- 千葉誠
- 倉持しのぶ
- 降旗康彦
- 学生課長

進路支援委員会
- 委員長　吉本健一
- 津田勝幸
- 笹岡久行
- 鈴木智己
- 近藤真一
- 戸村豊明
- 立田節雄
- 土橋剛
- 阿部晶
- 小林渡
- 学生課長

国際交流委員会
- 委員長　高橋英明
- 今野廣
- 津田勝幸
- 石本裕之
- 岡島吉俊
- 三井聡
- 立田節雄
- 大島功三
- 戸村豊明
- 杉本敬祐
- 十河克彰
- 青山陽子
- 事務部長
- 総務課長
- 学生課長

知的財産委員会
- 委員長　今野廣
- 石井悟
- 吉本健一
- 橋本直樹
- 古崎睦
- 十河克彰
- 長岡耕一
- 事務部長

組換えＤＮＡ実験に関する安全委員会
- 委員長　小林渡
- 今野廣
- 富樫巌
- 杉本敬祐
- 総務課長

危機管理委員会
- 委員長　高橋英明
- 今野廣
- 津田勝幸
- 石本裕之
- 岡島吉俊
- 三井聡
- 事務部長

危機管理室
- 室長　事務部長
- 総務課長
- 学生課長
- 技術長

安全衛生委員会
- 委員長　今野廣
- 総務課長
- 山内広也
- 課長補佐（財務担当）
- 人事・労務係長
- 施設係長
- 産業医
- 立田節雄
- 畑口雅人
- 堀川紀孝
- 高田知哉
- 小西卓哉
- 久志野彰寛
- 及川久美子

施設・防災委員会
- 委員長　高橋英明
- 今野廣
- 津田勝幸
- 石本裕之
- 岡島吉俊
- 三井聡
- 石井悟
- 吉本健一
- 橋本直樹
- 古崎睦
- 十河克彰
- 長岡耕一
- 小山貴夫
- 富樫巌
- 事務部長
- 総務課長
- 学生課長

情報セキュリティ管理委員会
- 委員長　高橋英明
- 今野廣
- 事務部長
- 石井悟
- 吉本健一
- 橋本直樹
- 古崎睦
- 十河克彰
- 長岡耕一
- 総務課長
- 学生課長
- 小山貴夫
- 戸村豊明

情報セキュリティ推進委員会
- 委員長　小山貴夫
- 戸村豊明
- 岡田昌樹
- 嶋田鉄兵
- 森川一
- 梅田哲
- 木本理可
- 大澤智子
- 原祐二
- 板倉あかね
- 須藤淳一
- 江口篤史

教員選考委員会
- 委員長　高橋英明
- 今野廣
- 津田勝幸
- 石本裕之
- 岡島吉俊
- 三井聡
- 石井悟
- 吉本健一
- 橋本直樹
- 古崎睦
- 十河克彰
- 長岡耕一

非常勤講師選考委員会
- 委員長　高橋英明
- 今野廣
- 津田勝幸
- 三井聡
- 石井悟
- 吉本健一
- 橋本直樹
- 古崎睦
- 十河克彰
- 長岡耕一

広報委員会
- 委員長　今野廣
- 大柏哲治
- 千葉良一
- 土橋剛
- 森川一
- 千葉誠
- 谷口牧子
- 大澤智子
- 総務課長
- 学生課長

研究紀要委員会
- 委員長　今野廣
- 石井悟
- 吉本健一
- 橋本直樹
- 古崎睦
- 十河克彰
- 長岡耕一

教職員のレクリエーション運営委員会
- 後藤孝行
- 畑口雅人
- 中村基訓
- 杉本敬祐
- 小西卓哉
- 久志野彰寛
- 上平裕也
- 澤谷真実
- 廣岡佑介
- 鈴木利結樹

創立５０周年記念事業実行委員会
- 委員長　高橋英明
- 今野廣
- 津田勝幸
- 石本裕之
- 岡島吉俊
- 三井聡
- 石井悟
- 吉本健一
- 橋本直樹
- 古崎睦
- 十河克彰
- 長岡耕一
- 事務部長
- 後援会会長
- 明誠寮父母会会長
- 同窓会会長
- 産業技術振興会会長

図書館運営委員会
- 委員長　今野廣
- 宇野直嗣
- 岡田昌樹
- 有馬達也
- 大柏哲治
- 宮越昭彦
- 木本理可
- 降旗康彦
- 総務課長

情報処理センター運営委員会
- 委員長　今野廣
- 事務部長
- 小山貴夫

情報処理センター会議
- センター長　小山貴夫
- 副センター長　井口傑
- 副センター長　千葉誠
- センター員　松岡俊佑
- センター員　堀川紀孝
- センター員　鈴木智己
- センター員　久志野彰寛

地域共同テクノセンター運営委員会
- 委員長　高橋英明
- 今野廣
- 富樫巌
- 岡田昌樹
- 古崎睦
- 石井悟
- 吉本健一
- 橋本直樹
- 十河克彰
- 長岡耕一
- 事務部長

地域共同テクノセンター会議
- センター長　富樫巌
- 副センター長　岡田昌樹
- 副センター長　古崎睦
- センター員　笹岡久行
- センター員　佐竹利文
- センター員　根本聡
- センター員　久志野彰寛
- 技術長
- 総務課長

技術創造部運営委員会
- 委員長　今野廣
- 津田勝幸
- 三井聡
- 岡田昌樹
- 篁耕司
- 佐竹利文
- 富樫巌
- 根本聡
- 青山陽子
- 事務部長
- 技術長

セクシュアル・ハラスメント対策室
- 室長　高橋英明
- 今野廣
- 佐竹利文
- 事務部長
- 総務課長
- （学生主事）
- （寮務主事）
- （学生課長）

セクシュアル・ハラスメント相談室
- 室長　佐竹利文
- 平野友彦
- 倉持しのぶ
- 青山陽子
- 石坂裕子
- 佐藤陽亮

学生相談室
- 室長　宮越昭彦
- 松岡俊佑
- 中村基訓
- 大澤智子
- 及川久美子
- 藤井厚子
- 土肥道子

特別支援室
- 室長　津田勝幸
- 宮越昭彦
- 及川久美子

（出典　総務課資料）

資料７－２－①－２

[学生相談室便り(抜粋)]

∞∞∞∞∞∞∞　平成２２年度　　学生相談室利用状況　∞∞∞∞∞∞∞

平成 22 年度の学生相談室利用状況をお知らせします．相談件数 205 件と，ここ数年は 200 件以上で推移しています．本年も昨年同様に相談件数は多いものの，重篤な内容が比較的少なく穏やかであった印象です．しかし，教員が利用したケースの多くは，特別支援に関わる学生指導の在り方についてのもの（右表ではその他に分類）で，こういった相談はますます増えるものと思われます．

※　相談内容の健康面の中には，怪我や病気で医務室に来室した人はカウントせず，悩み事や精神面が関係していると思われる健康上の相談のみを集計しています．

相談内容別相談件数

相談内容	H19	H20	H21	H22
修学上の悩み	10	44	46	24
進路上の悩み	16	15	15	4
対人関係の悩み	40	57	62	48
精神面	47	43	31	20
身体面(心因性)	9	13	14	27
その他	60	34	53	82
合計	182	206	221	205

学年別利用件数

年度	１年	２年	３年	４年	５年	専攻科	家族	教員	職員	合計
H19	9	10	19	22	18	35	3	51	15	182
H20	29	23	19	27	19	46	7	34	2	206
H21	11	70	18	42	28	29	6	26	1	221
H22	12	8	88	19	18	9	3	31	15	203

※ H22 年度は上記のほかにも卒業生からの相談（2 件）あり。

月別利用件数

年度	４月	５月	６月	７月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	合計
H19	12	38	21	9	22	34	27	4	7	8		182
H20	12	36	27	9	17	24	15	25	9	29	3	206
H21	20	13	29	19	19	19	22	7	19	47	7	221
H22	16	17	23	26	40	17	15	8	13	23	7	205

✦ 編集後記

まず，ここ数年間は年に２度発行してきた相談室便りでしたが，本年度は室長の力不足により１度になりましたことをお詫び致します．今回寄稿して下さった駒井先生，石黒先生，中村先生，及川さんにはご心配をおかけする形となりました．巻頭言の駒井先生には，一昨年頃より大学や一部高専で実被害が報告されている「デート DV」について取り上げて頂きました．内容的に本校高学年の学生にも通じる内容であり，チェックリストや相談窓口を具体的に提示して頂きました．新年度には同様の内容で学生向けの掲示もしくは紙面配布をしたいと考えています．続く石

（出典　学生相談室便り）

資料７－２－①－３

［相談室案内］

セクシュアル・ハラスメントのない学校にするために

セクシュアル・ハラスメントとは？

相手を不快にさせる性的な言動を言います。

身体的な特徴を話題にする。卑猥な冗談や性的なからかい・卑猥な写真、画像を見せる等の性的な関心、欲求による言動・性別により差別しようとする意識による言動このような言動はセクシュアル・ハラスメントになりうる言動です。

セクシュアル・ハラスメントに該当するかどうかは、基本的には言動の受け手がそれを不快に感じるかどうかによって決まります。

受け手が嫌がっている事がわかったら決して繰り返さないことが大切です。

セクシュアル・ハラスメントの被害を深刻にしないためには、

・いやなことは相手に対してはっきり拒否の意思を伝える。
・まず身近で信頼できる人に相談を！それでも解決困難な場合には相談室員に連絡を！

どこに相談したらよいでしょうか？

本校では，セクシュアル・ハラスメントに関する相談に対応するため、相談室員を置いています。相談者のプライバシーは守られますので、安心して相談してください。

セクシュアル・ハラスメント相談室員

氏　名	所属・職名	教員室等	電話番号・メールアドレス
青山 陽子	一般理数科・准教授	校舎2階 青山教員室	0166-55-8069 yaoyama@asahikawa-nct.ac.jp
石坂 裕子	学生課・教務係長	適　宜	0166-55-8123 yuko@asahikawa-nct.ac.jp
倉持 しのぶ	一般人文科・准教授	校舎3階 倉持教員室	0166-55-8057 shinobu@asahikawa-nct.ac.jp
佐竹 利文	システム制御情報工学科・教授	校舎1階 佐竹教員室	0166-55-8030 satake@asahikawa-nct.ac.jp
佐藤 陽亮	技術創造部・技術専門職員	適　宜	0166-55-8128 y_satoh@asahikawa-nct.ac.jp
平野 友彦	一般人文科・教授	校舎2階 平野教員室	0166-55-8058 hirano@asahikawa-nct.ac.jp

（出典　学生課資料）

資料７－２－①－４

［授業料減免制度等記載箇所－１］

5　授業料免除

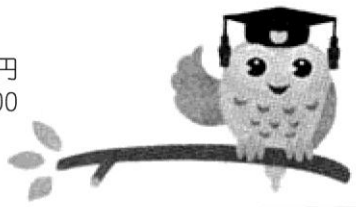
次のような事情がある学生に対して，授業料の全額又は半額を免除することができます。申請の時期は前期は４月，後期は10月です。

(1)　経済的理由により授業料の納付が困難であり，かつ，学業優秀である場合。

(2)　授業料納期前６ヶ月以内において，学資負担者が死亡したり，風水害などの災害を受けた場合又はこれに準ずる場合。

昔の授業料って・・どのくらい？？

旭川高専設立当時の授業料は，年額7,200円
そして今年入学したあなたたちは年額234,600円です。
昔は，ずいぶんと安かったんですね！



6　就学支援金

平成22年4月から公立高等学校に係る授業料の不徴収及び高等学校等就学支援金の支給に関する制度が始まりました。

国立高等専門学校（第１学年～第３学年）も就学支援金制度の対象となっており、月額9,900円（年額118,800円）の就学支援金が支給されます。支給期間は、原則として通算36月です。また、保護者の所得に応じて一定額が加算されます。

申請の時期は、４月中旬及び６月中旬です。

7　奨学金・保険等

(1)　日本学生支援機構奨学金

本校に在学する学生で，人物・学業ともに優れ，健康であり経済

［授業料減免制度等記載箇所－２］

的理由により就学が困難な者に学資を貸与する制度で，４～５月頃に募集を行います。
主な概要は次のとおりです。

① 種　類

第一種奨学金
無利息（全学生対象）

第二種奨学金
年３％を上限とする利息付（在学中は無利息）（4,5年,専攻科生対象）

※　第一種奨学金と第二種奨学金の併用貸与を受けることも可能。

② 貸与月額（平成20年度採用の場合）

第一種奨学金

１～３年	自宅	21,000円	自宅外	22,500円
４～５年	〃	44,000円	〃	50,000円

専攻科

１～２年	〃	45,000円	〃	51,000円

第二種奨学金
３万円，５万円，８万円，10万円の中から自由に選択する。

③ 貸与期間
貸与期間は採用時から最短在学年数と定められており，休学期間，卒業延期になった期間，原級に留まった場合の貸与は認められません。また，学業成績不振などの場合，奨学金の交付が廃止又は停止されることもあります。

④ 返還方法
卒業から6ケ月を経た後，月賦，または月賦・半年賦の併用により，返還することとなります。
なお，卒業後大学・大学院に進学する場合などは，所定の手続きをとることにより，在学中は返還が猶予されます。

(2) その他の奨学制度
地方公共団体，民間団体などの育英事業，会社などの奨学制度がありますが，これらはその団体の所在地の出身学生を対象とするものが多く，その多くは本人が直接手続きをする必要があります。
学校の推薦が必要なときや，その他の問い合わせについては学生係へ申し出てください。

（出典　平成23年度学生生活のしおりP.11～12）

（分析結果とその根拠理由）

学生主事及び主事補の総括的な指導に加え，準学士課程には学級担任が，専攻科課程には専攻主任が，また寮においては寮務主事・主事補が配置され，学生生活に関する相談・助言・指導体制が整えられている。また，学生相談室やセクシュアル・ハラスメント相談室が設置され，有効に利用されている。経済的な支援を要する学生に対しては，授業料減免制度や奨学金制度を活用した支援が行われている。

以上のことから，学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能している。

観点７－ ２－ ②：　特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また，必要に応じて生活支援等が行われているか。

（観点に係る状況）

留学生にはガイドブックを配付して，学級担任とチューターが寮務関係教職員と連携しながら支援を行っている（資料７－２－②－１）。また，国際交流委員会を中心に，親睦を深めるための交流会や見聞を広めるための見学旅行，さらに道内高専留学生の交流会等を実施している（資料７－２－②－２）。

一方，心身に障害を持つ学生に対応するため，ハード面として玄関スロープやエレベーター，身障者用トイレ，特別支援室等を整備するとともに，学習障害やメンタルヘルスに関する講演会・研修会の開催を通して，ソフト面の充実を図っている（資料７－２－②－３）。

資料７－２－②－１

［留学生のための生活ガイドブック（抜粋）］

目　次

1　来日後の手続き　1
(1) 外国人登録　3
(2) 国民健康保険

2　在留・再入国の諸手続き　5
(1) 在留期間の更新　7
(2) 一時出国・再入国

3　学校生活　9
(1) 指導・支援体制　11
(2) 図書館センターの利用方法　13
(3) カウンセリング　15
(4) 奨学金など　17
(5) 課外活動（クラブ活動など）

4　日常生活　19
(1) 宿舎・住居　21
(2) 健康管理　25
(3) 郵便・電話

5　旭 川 市　27

※　付　表
Ⅰ　旭川工業高等専門学校の位置　32
Ⅱ　キャンパス案内図　33
Ⅲ　学校付近地図　34
Ⅳ　学校行事と休業日　35
Ⅴ　旭川市役所・銀行・郵便局の位置　41

A GUIDEBOOK
FOR FOREIGN STUDENTS

留学生のための生活ガイドブック

旭川工業高等専門学校

Asahikawa National College
of Technology

（出典　留学生のための生活ガイドブック）

資料７－２－②－２

［留学生関係行事等予定－１］

平成２２年度外国人留学生関係行事等予定

日　　程	行　　事　　名	担当者
４月　９日（金）	外国人留学生オリエンテーション	委員長
４月　９日（金）	チューターオリエンテーション	委員長
４月２１日（水）	外国人留学生との交流会(中会議室) ［３年次に編入する留学生の交流会（歓迎会)。 留学生と教職員との交流を図る］	全員 （司会：委員長）
５月２２日（土）	華道及び茶道体験学習（秀峰会館和室） ［華道・茶道を通じて日本文化にふれ，理解を深める］	委員長
１０月１８日（月） ～１９日（火）	実地見学旅行(１泊２日) ［教育・文化施設等の見学を通じ，文化・歴史等の理解を深めるとともに，今後の留学生教育に役立てる］	委員長 学生課寮務係
１１月下旬	高台小学校遊びランド参加(地域交流)	―――
１月上旬	北海道内国立４高専の外国人留学生交流会 (２泊３日) ［道内４高専の留学生が一堂に集まり，情報交換を行うことによりお互いの理解を深める。 また，ウインタースポーツを通じて北国の生活及び文化を体験し親睦を図る］	校長 委員長 学生課寮務係
２月中旬	外国人留学生との交流会(中会議室) ［卒業する留学生の交流会（送別会)。 留学生と教職員(場合によっては、地域住民等についても考慮)との交流を図る］	全員 （司会：委員長）

［留学生関係行事等予定－２］

平成２２年度留学生との交流会実施要項

１　目　的

今年度，３年生に編入した留学生が，本校の学校生活に慣れてもらい有意義な高専生活を送れることを目的とし，交流会を開催する。

また，３年生に編入した留学生と４年生・５年生の留学生及びチューター，学生会及び寮生会の学生と本校教職員のより一層の理解を深めることも併せて目的とする。

２　日　時

平成２２年４月２１日（水）　１７：００～１８：００

３　場　所

中会議室

４　企画内容

軽食による立食パーティ

５　出席予定者

(1)　留学生
(2)　チューター
(3)　学生会会長及び副会長
(4)　男子寮寮生会会長及び副会長
(5)　女子寮寮生会会長及び副会長
(6)　校長
(7)　副校長
(8)　教務主事
(9)　学生主事
(10)　寮務主事
(11)　外国人留学生委員会委員
(12)　その他教職員

［留学生関係行事等予定－３］

平成２２年度留学生との華道及び茶道体験学習実施要項

１　目　的

外国人留学生が華道及び茶道を通じて日本文化にふれることで，今後益々の理解を深めてもらうことを目的として，本校茶華道部の協力のもと華道及び茶道体験学習を実施する。

２　日　時

平成２２年５月２２日（土）　１０：００～１２：００

３　場　所

秀峰会館「和室」

４　企画内容

外国人留学生が，本校茶華道部の学生やチューター学生と一緒に，講師から華道及び茶道の指導を受ける。

５　出席予定者

(1)　留学生
(2)　チューター
(3)　茶華道部学生
(4)　茶華道部顧問
(5)　外国人留学生委員会委員長
(6)　寮務係

［留学生関係行事等予定－４］

平成２２年度外国人留学生実地見学旅行実施要項

１　目　　的

本校の外国人留学生が，北見方面の企業及び教育施設並びに自然及び文化施設等の見学を通じ，文化・歴史・自然等に触れ理解を深めるとともに，今後の留学生教育に役立てることを目的として実施する。

２　期　　日

平成２２年１０月１８日（月）～１０月１９日（火）　１泊２日

３　場　　所

［大学施設見学］

北見工業大学　国際交流センター（北見市）　（担当：研究協力課　村井副課長）

［企業見学］

京セラ株式会社　北海道北見工場（北見市）　（担当：総務部　川口労務課長）

ホクレン農業協同組合連合会　中斜里製糖工場（斜里町）　（担当：舟田工場長）

［宿泊］

ホテル知床（斜里町）

４　日　　程

別紙のとおり

５　参 加 者

１２名（留学生６名，チューター４名，引率教職員２名）

［留学生関係行事等予定－５］

平成２２年度外国人留学生実地見学旅行日程

日　　時	行　　程
１０月１８日（月）	
８：００	高専出発
	（途中，「レストハウス上川」で小休止）
１１：００	［大学施設見学］北見工業大学　国際交流センター　着
１２：００	［大学施設見学］北見工業大学　国際交流センター　発
１２：１５～１３：００	レストラン　ヴァクッテで昼食
１３：３０	［企業見学］京セラ北海道北見工場　着
１５：００	［企業見学］京セラ北海道北見工場　発
１６：００	博物館網走監獄　着
１７：００	博物館網走監獄　発
１８：３０	ホテル知床　着
１９：００	夕食
	ミーティング（終了後自由時間）
１０月１９日（火）	
６：３０	起床
７：００	朝食
７：４５	ホテル知床　発
８：００～９：４５	自然散策（「知床観光船おーろら」に乗船　硫黄山往復）
１０：３０	［企業見学］ホクレン農業協同組合連合会 中斜里製糖工場　着
１２：００	［企業見学］ホクレン農業協同組合連合会 中斜里製糖工場　発
１２：２０～１２：５０	ガーデンハウス藤苑で昼食
１２：５０	出発
１７：３０	高専到着

留学生	機械ｼｽﾃﾑ工学科	５年	（ﾗｵｽ・男）
留学生	電気情報工学科	５年	（ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ・男）
留学生	電気情報工学科	４年	（ﾍﾞﾄﾅﾑ・男）
留学生	物質化学工学科	４年	（ｽﾘﾗﾝｶ・男）
留学生	機械ｼｽﾃﾑ工学科	３年	（ﾏﾚｰｼｱ・男）
留学生	物質化学工学科	３年	（ﾗｵｽ・女）
チューター	電気情報工学科	４年	
チューター	物質化学工学科	４年	
チューター	機械ｼｽﾃﾑ工学科	３年	
チューター	物質化学工学科	３年	
引率者	外国人留学生委員会委員長（一般理数科）	冨永　徳雄	
引率者	学生課寮務係長	須藤　淳一	

以上　１２名

［留学生関係行事等予定－６］

北海道内高専外国人留学生交流会実施要項（案）

１ 目　　的

北海道内の各高専に在学中の外国人留学生が一堂に集まり，それぞれの自国の状況，在留中の勉学・生活状況等について情報交換を行い，お互いの理解を深めて今後の留学生活に役立てるとともに，体験学習やウィンタースポーツなどを通じて北海道の文化を体験し，留学生及び指導教員等との親睦を図る。

２ 開催期日

平成23年 1月 6日（木） ～ 1月 8日（土） 2泊3日

３ 開催内容及び場所

ウィンタースポーツ体験 ： ルスツスキー場（留寿都村）
体験学習 ： 未定
感想発表会 ： ルスツリゾートホテル（留寿都村）

４ 宿　　泊

ルスツリゾートホテル（留寿都村）
〒048-1711 虻田郡留寿都村字泉川13番地　　TEL0136－46－3111

５ 行　　程

北海道内高専外国人留学生交流会「日程」のとおり

６ 参 加 者

苫小牧高専	13名	（留学生 11名，	引率教職員 2名）
旭 川 高 専	8名	（留学生 6名，	引率教職員 2名）
釧 路 高 専	9名	（留学生 7名，	引率教職員 2名）
函 館 高 専	12名	（留学生 9名，	引率教職員 3名）

合計 42 名

７ 経費

函館工業高等専門学校が負担する。

［留学生関係行事等予定－７］

北海道内高専外国人留学生交流会「日程」（案）

日　　時	行　　程
1月　6日（木）	
	各高専出発
	昼食（各自）
14:00	ホテル到着
14:00～15:00	休憩
15:00～	体験学習へ移動
	体験学習（内容未定）
～17:00	ホテルへ移動
17:00～18:00	休憩
18:00～20:00	懇親会（夕食）、体験発表会（自己紹介を含む）
20:00～	入浴、フリータイム
1月　7日（金）	
～ 8:30	朝　食
8:35～ 8:45	ミーティング
8:45～ 9:30	スキー・スノーボード準備（着替え等）
9:30～12:00	スキー・スノーボード等レッスン
12:00～13:00	昼食（各自）
13:00～16:00	スキー・スノーボード（フリー・レッスン）
16:00～17:00	スキー後片付け等
17:30～18:30	夕　食
18:30～19:30	感想発表会（教職員のみ、その後ミーティング20:30まで）
19:30～	入浴、フリータイム
1月　8日（土）	
～ 9:00	朝食
～10:00	チェックアウト
10:00	解散、ホテル発
	昼食（各自）
	各高専到着

※往復とも各校から貸切バスを利用することを検討しています。

［留学生関係行事等予定－８］

平成２２年度留学生送別会実施要項

１　目　的

今年度卒業する５年生の留学生２名における，新たなる旅立ちを激励することを目的とした送別会を実施する。

併せて，３年生，４年生の留学生及びチューター，学生会及び寮生会の学生と本校教職員のより一層の理解を深めることも併せて目的とする。

２　日　時

平成２３年２月７日（月）　１７：００～１８：００

３　場　所

中会議室

４　企画内容

軽食による立食パーティ

５　出席予定者

(1)　留学生
(2)　チューター及び当該留学生の元チューター
(3)　学生会会長及び副会長
(4)　男子寮寮生会会長及び副会長
(5)　女子寮寮生会会長及び副会長
(6)　校長
(7)　副校長
(8)　教務主事
(9)　学生主事
(10)　寮務主事
(11)　外国人留学生委員会委員
(12)　その他教職員

６　経　費

国際交流事業補助制度助成金（寄附金）

（出典　学生課資料）

資料７－２－②－３

〔厚生補導研究集会実施要領等－１〕

平成２０年度　厚生補導研究集会　実施要領

日時：平成２０年１月９日（金）９：００～１２：００

場所：大会議室

次第：
1．開会のことば
2．校長あいさつ
3．日程説明
4．講演　「発達障害の理解と支援　～青年期の課題への対応～」
　…講師　村田昌俊　氏（旭川市桜岡中学校教頭）
5．発達障害に関する意見交換
6．閉会のことば

平成２１年度厚生補導研究集会　式次第

日時：平成２１年１月８日（金）９：００～１２：００

場所：大会議室

次第：
1．開会のことば
2．校長あいさつ
3．日程説明
4．講演　「障害学生の支援に関する講演（仮称）」
　…講師　松崎俊明　氏（創価高等一般教育推進教授）
5．学生支援に関する意見交換等
6．閉会のことば

〔厚生補導研究集会実施要領等－２〕

平成２２年度　厚生補導研究集会　式次第

日時：平成２２年１月７日（金）９：００～１２：００
場所：大会議室

次第：
１．開会のことば

２．校長あいさつ

３．日程説明

４．講演　「高専における学生のメンタルヘルス支援方策について及び教職員のためのストレス対策」
…講師　介護老人保健施設　ラ・フォーレ天童　施設長　佐々木　大　輔　氏

５．学生支援に関する意見交換等

６．閉会のことば

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

留学生に対しては，学業や生活全般についての相談・助言が行えるようチューターが配置されている。また，親睦を深めるための交流会や見聞を広めるための見学旅行等，留学生関連の行事が毎年開催されており，適切な支援がなされている。一方，障害のある学生に対しては，施設面の整備・改善，特別支援室による対応，各種講演会・研修会が行われており，ソフト面での充実も図られている。

以上のことから，特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあり，また，必要に応じて生活支援等が行われている。

観点７－ ２－ ③：　学生寮が整備されている場合には，学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

（観点に係る状況）

遠隔地出身の学生のために「明誠寮」を設置している（資料７－２－③－１）。寮は，男子寮低学年棟，同高学年棟，女子寮棟及び管理棟から成り，居室以外の学習・談話スペースとして各棟各階に談話室が，管理棟に学習用パソコンを設置した多目的スペースが設けられている。

運営は寮務主事を中心とした寮務委員会が担っており（資料７－２－③－２），指導が必要な寮生に対しては，主事らが担任と連携しながら対応している。また，教員が交代で宿日直を行って日課表に基づいた生活を指導し，さらに女子寮については，非常勤の女子寮指導員を配置して指導・支援を行っている（資料７－２－③－３，４，５）。

寮内には自治運営のための寮生会が組織されており（資料７－２－③－６），これらとの定期的な意見交換を通して，学生寮環境の改善を図っている（資料７－２－③－７）。

資料７－２－③－１

［寄宿舎］



寄宿舎
Dormitory

明誠寮
"Meisei Dormitory"

明誠寮は，団体生活を通して協調精神，同窓との友情，先輩・後輩間の親和感とれ節，自主自立の精神を養い，規則の遵守を励行し個人の欲望にうちかつ克己心を育てることを目的とした学寮です。

Meisei Dormitory
Through living a group life in Meisei Dormitory, the residents are trained on a spirit of cooperation, friendship with their fellow students, association with their senior and junior members and its manners, a spirit of self-independence, respect for rules, and self-control over their own individual desires.

明誠寮　Meisei Dormitory

施設・設備概要
Facilities and Equipments

管理棟
Management Building
留学生室(9室)，食堂，ラウンジ，売店，浴室
事務室，多目的スペース，インターナショナルルーム
Residence rooms for Foreign students (9 rooms), dining room, lounge hall, shop, bathroom, office, multipurpose room, international room.

寮棟(男子)
Residence Building (male)
定員　259名
Capacity
居室，補食室，談話室，洗濯室
(ベッド，机，椅子，ロッカー)
Residence room, cooking room, lounge hall, laundry room
(bed, desk, chair, locker)

寮棟(女子)
Residence Building (female)
定員　35名
Capacity
居室，食堂，浴室，補食室，談話室，洗濯室，指導員室
(ベッド，机，椅子，ロッカー)
Residence room, dining room, bathroom, cooking room, lounge hall, laundry room
matron's room
(bed, desk, chair, locker)

食堂　Dining room

居室(個室)　Residence room

入寮者数　Number of Dormitory Students

(平成22年5月1日現在) (As of May 1,2010)

学年 School year	人員 Number of dormitory students		
1学年 1st	50	(4)	
2学年 2nd	57	(5)	
3学年 3rd	62	(9)	[2]
4学年 4th	45	(7)	[2]
5学年 5th	45	(3)	[2]
専攻科 Advanced Courses	4	(0)	
計 total	283	(28)	[6]

※(　)は女子の数で内数である。[　]は留学生数で内数である。
(　):Female students,[　]: Foreign students

28

（出典　平成22年度学校要覧P. 28）

資料７－２－③－２

[寮務委員会規程]

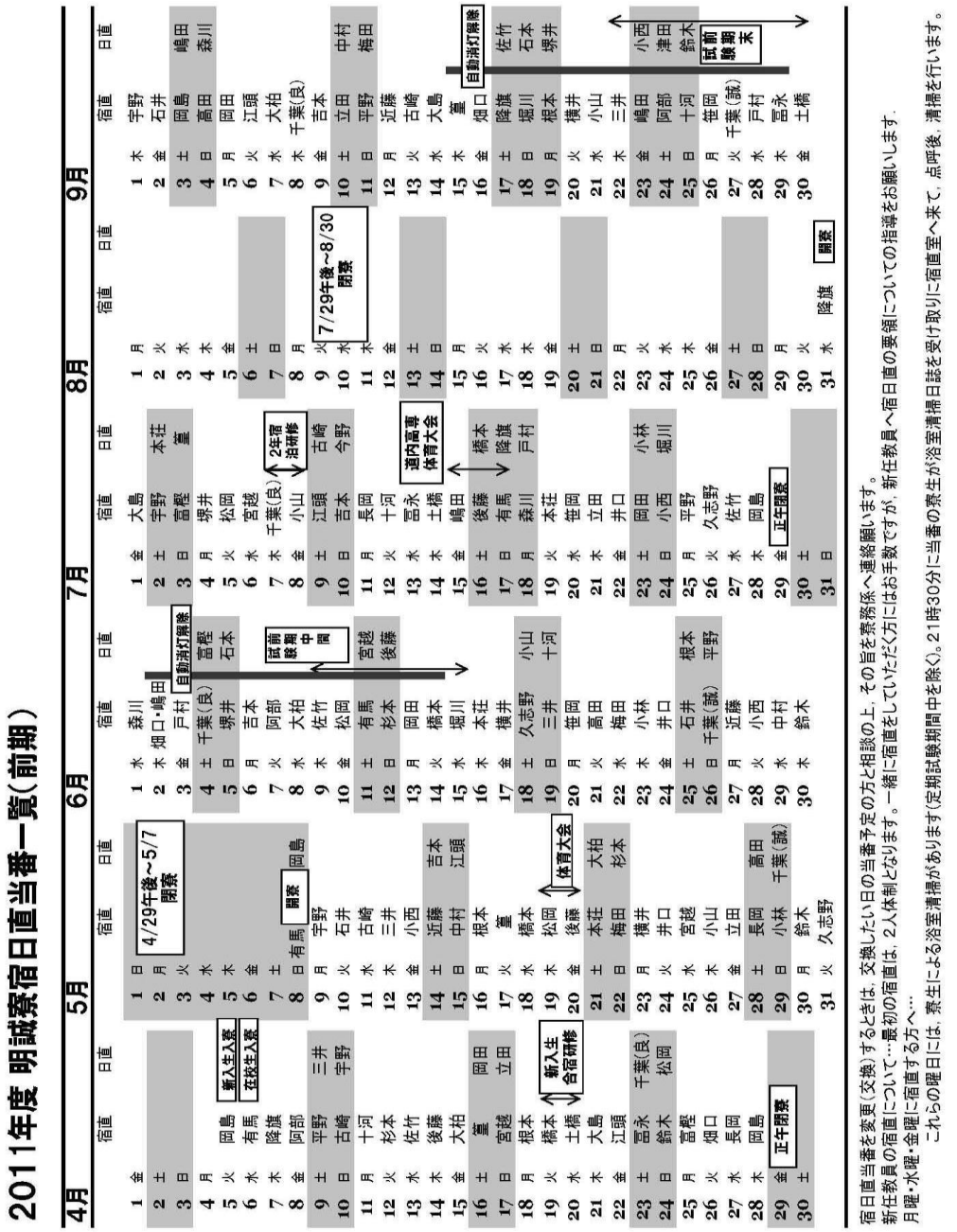
旭川工業高等専門学校寮務委員会規程

（設置）
第１条　旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，本校寄宿舎（明誠寮）の寮務に関する重要事項について審議するため，寮務委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（任務）
第２条　委員会は，次の事項について審議する。
(1) 寮生の入退寮に関すること。
(2) 寮生の各室の人員配置に関すること。
(3) 寮生の生活指導に関すること。
(4) 寮生の厚生福祉に関すること。
(5) 寮生会に関すること。
(6) その他寮務に関すること。
（構成）
第３条　委員会は，次の委員をもって構成する。
(1) 寮務主事
(2) 寮務主事補
(3) 各学科及び科の教員のうちから各１名
(4) 委員長が必要と認めた教員　若干名
(5) 学生課長
（任命及び任期）
第４条　前条第３号に規定する委員は，校長が任命し，任期は１年とする。ただし，補欠による委員の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第５条　委員会に委員長を置き，寮務主事をもって充てる。
２　委員長は，委員会を招集して議長となる。
３　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
（議事）
第６条　委員会は，委員の３分の２以上の出席をもって成立する。
２　議事は，出席者の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。
（代理出席）
第７条　委員長は，第３条第３号の委員が委員会に出席できないときは，代理の者を出席させることができる。
２　代理の者には，議決権を与える。
（委員以外の者の出席）
第８条　委員長は，必要に応じて委員以外の者を出席させることができる。
（報告）
第９条　委員長は，委員会で審議した事項を総括し，校長に報告する。
（庶務）
第１０条　委員会の庶務に関することは，学生課が処理する。

（出典　本校ウェブサイト例規集）

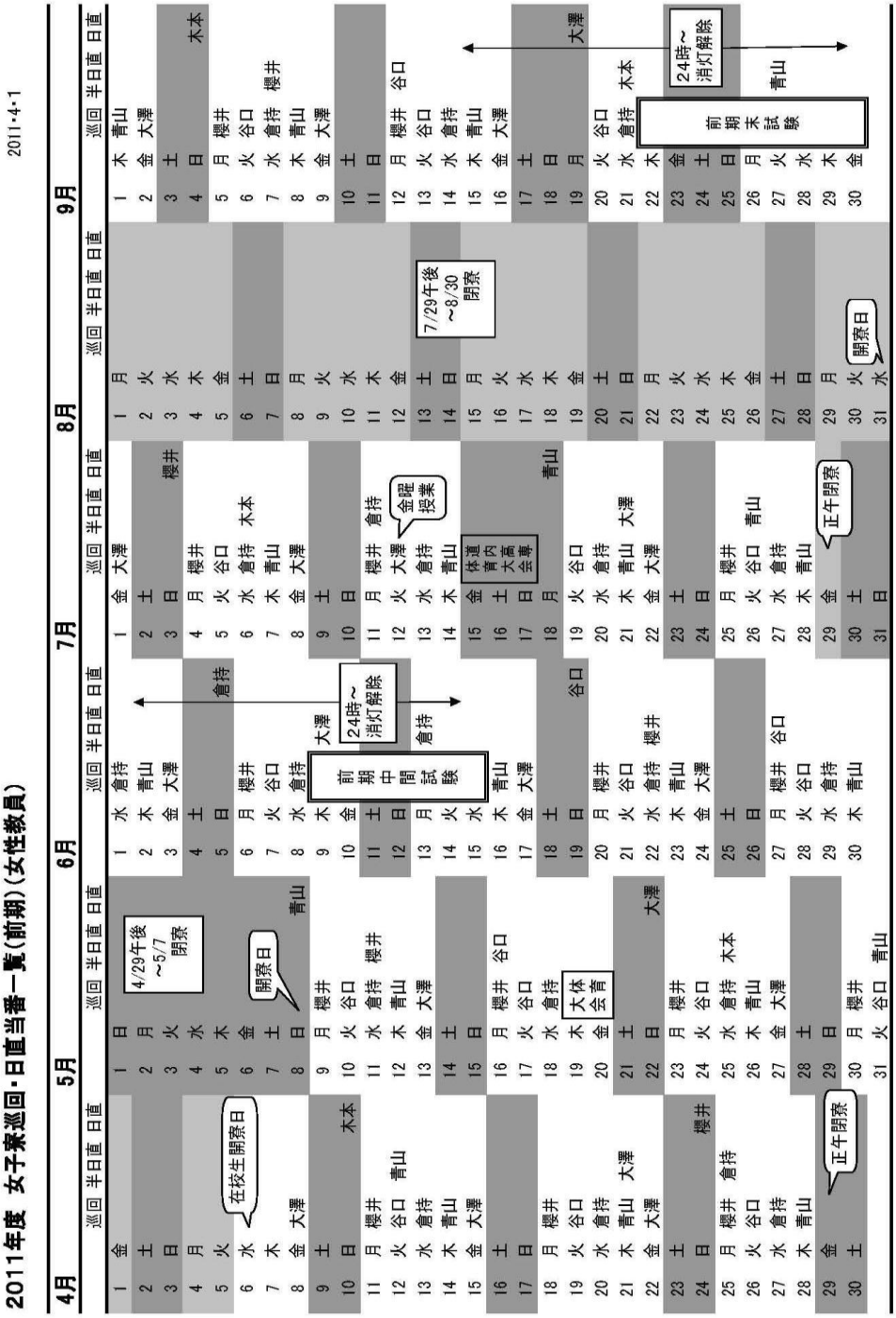
資料７－２－③－３

[宿日直当番表－１]



宿日直当番を変更(交換)するときは，交換したい日の当番予定の方と相談の上，その旨を寮務係へ連絡願います。
新任教員の宿直について…最初の宿直は，2人体制となります。一緒に宿直をしていただく方にはお手数ですが，新任教員へ宿日直の要領についての指導をお願いします．
月曜・水曜・金曜に宿直する方へ…
これらの曜日には，寮生による浴室清掃がありますが定期試験期間中を除く)。21時30分に当番の寮生が浴室清掃日誌を受け取りに宿直室へ来て，点呼後，清掃を行います。

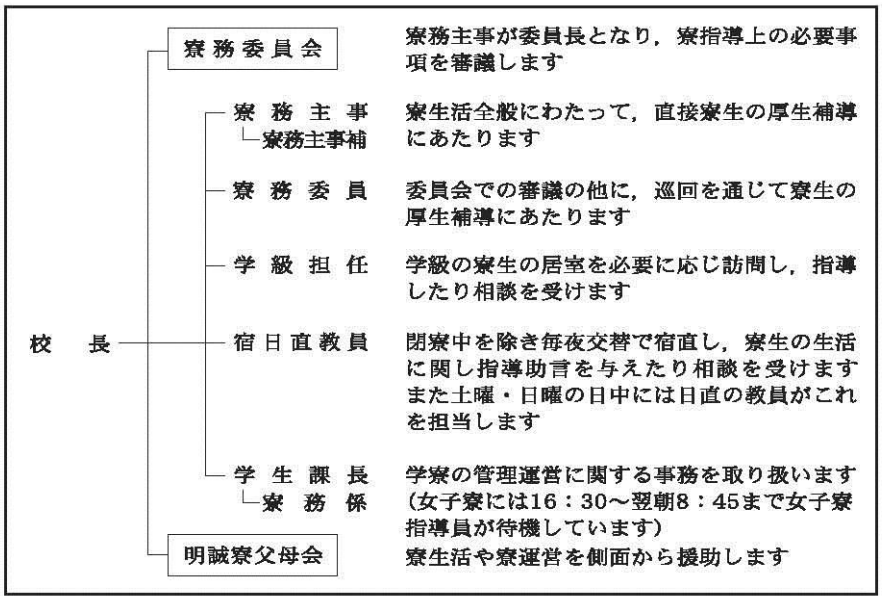
［宿日直当番表－２］



（出典　学生課資料）

資料７－２－③－４

［日課表－１］



3　生活上の注意について

(1) 日 課 表

寮生は規則正しい生活が身に付くよう日課表に従って生活するよう心がけてください。

明誠寮の日課表

時刻	日課	事　　項
7：00	起床	
7：30～40	玄関掃除	
7：40～8：20	朝食	各部屋の整理・整頓，洗面等
8：25	登校	照明その他のスイッチを切り，ドア・窓に施錠し，午前のすべての授業の準備をして登校する。午前中は寮生の帰寮は禁止。
12：10～13：00	昼食	
13：00	登校	照明その他のスイッチを切り，ドア・窓に施錠して登校する。

［日課表－２］

17：30～19：30　夕食

入浴　学年ごとに決められた時間に入浴する。
女子（17：00～21：15）
男子（17：15～21：30）日曜日はシャワーのみ。

21：00　勉学　他室訪問をさけ，騒音をつつしむ。

22：00　門限　低学年(第１～３学年)は宿直教員が,第４・５年
点呼　は寮生が輪番で各室に行って点呼をとる。
(女子寮の門限･点呼は21:40で宿直教員が行う。)

24：00　消灯　ただし定期試験１週間前から試験終了前日まで
自主消灯とする。

(2) 居　室

（イ）居室の整理整頓に心がけましょう。

（ロ）貴重品は必ず鍵のかかるロッカーなどに入れましょう。

（ハ）部屋を空ける時は必ず施錠しましょう。鍵をなくしたときはすぐに寮務係に届けてください。セキュリティ上，ドアノブごと交換します(紛失者実費負担)。

（ニ）居室内備品は動かしたり，壊したりしないでください。
備品を壊したり無くしたときは，弁償してもらう場合があります。

（ホ）居室内持ち込み禁止品は電熱・暖房器具類，電気冷蔵庫や電気調理器具などです。第１～３学年まではテレビやゲームモニターの持ち込みは禁止です。

（ヘ）電気容量に制限がありますので電気器具はできるだけ持ち込まないようにしてください。

（ト）その他，入寮の際に配付する「寮生活のしおり」で確認してください。

(3) 食　事

（イ）時間が決められています。衛生に注意し必ず食事をとりましょう。

（ロ）食堂の食器の持ち出し（食堂以外での食事）は禁止です。

（ハ）食事で気の付いたことがあれば寮務係に連絡してください。

（出典　平成23年度学生生活のしおり P.23-24）

資料７－２－③－５

［女子寮運営指導マニュアルー１］

2011/04/01

寄宿舎指導員（夜間女性指導員 [redacted] ）の勤務内容

1．定時勤務：巡回の際は非常時の呼び出しに備えて電話の子機を携帯する．

時　刻	業　務　内　容
[redacted]	出勤 ・管理棟事務室に赴き，寮務係（土・日曜日の場合は宿日直教員室の日直教員）から引き継ぎ事項を確認し，業務日誌＆マスターキーを受け取り，女子寮通用口から女子寮に入り，女性指導員室で業務を開始する． ・寮内を一巡して，風呂の給湯，廊下窓の施錠確認，談話室・補食室の利用状況等を確認する． ・寮外周りを一巡して，異常の有無を確認する． ・風呂の給湯状況を確認する．
	食事準備開始の確認（準備開始を確認し，その後は指導員室で執務する）
	夕食（食堂，学生と歓談等）
	休憩
	寮内巡回 ・施錠(廊下の窓，明かりが消えている居室等)，防災，寮生の健康状況を確認する．
	風呂掃除の確認（月・水・金）
	女子寮生点呼の放送
	点呼（女子寮生全員食堂集合） ・宿直教員(男性)による点呼に立ち会う． ・この時，引き継ぎ事項があれば宿直教員に伝える． ・点呼時不在学生の所在確認については，本人と直接連絡が取れるようであれば確認をする．（当直教員と相談可）
	宿直女性指導員との引継ぎ ・宿直女性指導員との引き継ぎを行なう． ・業務日誌＆マスターキー等を宿直女性指導員に渡す．
	退出 ・宿直女性指導員が使用した女子寮通用口鍵を受け取り，通用口を通り，宿直教員に勤務を引き継いだ旨の連絡および女子寮通用口鍵を渡し，管理棟玄関から退出する．

［女子寮運営指導マニュアルー２］

2．一般業務

(1)業務日誌の記帳

(2)学生との対応：学生の呼び出し，病気・怪我等健康状況の確認，学生からの相談，諸届の受け取り，郵便・荷物等の配付，担任・関係教員および関係職員との連絡調整．

(3)病気･怪我等への対応

(3-1)症状が軽い場合：救急箱の薬で対応する．洗面所の冷蔵庫内のアイスノン等を利用する．

(3-2)症状が重い場合：

①17:00 までなら医務室（内線[redacted]）に連絡する．

②17:00 以後は救急病院に搬送する．

・宿直教員（男性：内線[redacted]）に連絡してタクシーの手配を依頼する．寮生会役員に連絡して引率を依頼し，タクシー（タクシーチケット利用：宿直教員室保管）で病院に行かせる．この間の経過を宿直教員に連絡する．

・試験期間等で学生に引率を依頼できない場合は，宿直教員に連絡してタクシーを呼び，宿直教員に引率を依頼する．

③緊急を要する場合：

・宿直教員に連絡して救急車の手配を依頼する．到着した救急車に寮生を引き渡し，宿直教員に引率を依頼する．

④宿直教員は，タクシー・救急車を原則として女子寮側へ誘導する．

(3-3)上記の②・③において，正門の解錠・開門は宿直教員に依頼して，宿直教員から校舎警備員（男性：内線[redacted]）に連絡して対応してもらう．

(4)災害等非常時の対応：宿直教員や校舎警備員と協力して寮生の安全，避難に努める．

(5)防犯ブザー作動時の対応

・指導員室のパネルで部屋を確認し，「○階で鳴っています」と２回放送してから現場に向かい，他の女子寮生とともに状況を確認する．

・確認した状況について，宿直教員に連絡する．

(6)防犯用モニターのチェックをする

(7)宿直教員，寮務係との連絡調整をする．

(8)担任，関係教員および関係職員との連絡調整をする．

平成 23 年 4 月 1 日改正

［女子寮運営指導マニュアルー３］

2011/04/01

寄宿舎指導員（宿直女性指導員[redacted]）の勤務内容

1．定時勤務：巡回の際は非常時の呼び出しに備えて電話の子機を携帯する．

時　刻	業　務　内　容
[redacted]	出勤および宿直女性指導員との引継ぎ ・管理棟宿日直教員室に赴き，宿直教員から女子寮通用口鍵を受け取り，女子寮通用口から女子寮に入る． ・夜間女性指導員と引き継ぎを行なう． ・出勤時使用した女子寮通用口鍵を夜間女性指導員に渡した後，女性指導員室で業務を開始する．
	寮内巡回 ・玄関の施錠を確認する． ・共同利用施設の利用状況を確認する．
	寮内巡回（居室灯の自動消灯） ・マスターキーを持ち，食堂，浴室，補食室・談話室，洗濯室の消灯等と施錠（食堂を除く）の確認，玄関の施錠を確認する． 註１）試験期間（定期試験１週間前から）： ①自主消灯．②風呂・玄関当番はない．③補食室・談話室は施錠しない． 註２）保護者等からの電話への対応： ①外からの連絡用として女子寮指導員室の電話番号（[redacted]）を保護者に伝えてあります．保護者等から電話がありましたらアナウンスして学生を呼び出してください．
	（巡回後，仮眠可）
	寮内巡回 ・マスターキーを持ち，食堂，浴室，補食室・談話室，洗濯室，玄関を開錠する．
	玄関掃除の確認（火・木）
	朝食（食堂，学生と歓談等）
	寮内巡回 ・残留者の確認をする．（土・日曜日，祝日を除く） ・マスターキーと巡回連絡票を持ち，各階の居室のドアをノックして施錠および残留者の有無を確認する． ・無施錠の場合は，巡回連絡票にその旨を記録し施錠する． ・残留者がいた場合は，理由を聞き，健康状況を確認し，その状況を巡回連絡票に記入し，必要に応じて関係教職員（主に寮務係）に連絡する．
	退出 ・マスターキー・巡回連絡票・日誌等を持って指導員室を施錠し，女子寮通用口から退出し，管理棟事務室に立ち寄り，寮務係にマスターキー・巡回連絡票・日誌等を返却し，引き継ぎ事項があれば伝えて退出する． ・土・日曜日，祝日等で退出時に寮務係がいない場合は，宿日直室の男性教員にマスターキー・巡回連絡票・日誌等を返却する．

［女子寮運営指導マニュアルー４］

2．一般業務

(1)業務日誌の記帳

(2)学生との対応：学生の病気・怪我等の健康状況の確認，学生からの相談対応，秩序の維持，非常時における宿直教員(男性)の女子寮立入および対応の補佐．

(3)病気･怪我等への対応：必要に応じて宿直教員(男性：内線[redacted])と連絡を取り合って対応する．

(3-1)症状が軽い場合：救急箱の薬(女性教員執務室)，冷蔵庫内(洗面室)のアイスノン等で対応する．

(3-2)症状が重い場合：救急病院に搬送する．

①宿直教員(男性)に連絡して，タクシーの手配を依頼する．

・寮生会役員に連絡して引率を依頼し，タクシー（タクシーチケット利用：宿直教員室保管）で病院に行かせる．

・試験期間等で学生に引率を依頼できない場合は，宿直教員に連絡してタクシーを手配し，宿直教員に引率を依頼する．

②緊急を要する場合：

・宿直教員に連絡して救急車を手配し，到着した救急車に寮生を引き渡し，宿直教員に引率を依頼する．

③タクシー，救急車は原則として宿直教員が女子寮側に誘導する．

④上記の①･②において，正門の解錠･開門は宿直教員に依頼して，宿直教員から校舎警備員(男性：内線[redacted])に連絡して対応してもらう．

(4)災害等非常時の対応：宿直教員や校舎警備員と協力して寮生の安全，避難に努める．

(5)防犯ブザー作動時の対応

・指導員室のパネルで部屋を確認し，「○階で鳴っています」と２回放送してから現場に向かい，他の女子寮生とともに状況を確認する．

・確認した状況について，宿直教員に連絡する．

(6)防犯用モニターのチェックをする

(7)宿直教員，寮務係との連絡調整をする．

(8)担任，関係教員および関係職員との連絡調整をする．

平成 23 年 4 月 1 日改正

（出典　学生課資料）

資料７－２－③－６

［寮生会会則－１］

旭川工業高等専門学校男子寮寮生会会則

第１章　総則

第１条　旭川工業高等専門学校明誠寮に旭川工業高等専門学校男子寮寮生会（以下「男子寮寮生会」という。）を置く。

第２条　男子寮寮生会は旭川工業高等専門学校の教育方針にのっとり，寮生の共同生活を自主的に運営し，その活動を円滑に行うことを目的とする。

第３条　男子寮寮生会は旭川工業高等専門学校の全男子寮生をもって組織する。

第２章　機関

第４条　男子寮寮生会に第２条の目的を達成するため次に機関を置く。
(1)　寮生総会
(2)　寮生役員会
(3)　選挙管理委員会

第３章　役員

第５条　男子寮寮生会に次の役員を置く。
(1)　会長　　1名
(2)　副会長　　2名
(3)　議長　　1名
(4)　副議長　　1名
(5)　代表委員　　8名
(6)　選挙管理委員長　　1名
(7)　選挙管理副委員長　1名
2　前項第５号の役員のうち４名は第１学年学生とする。
3　第２学年学生から第５学年学生については，２名以上が役員として在籍するものとする。

第６条　会長は男子寮寮生会を代表して会務を行うとともに，議決執行の最高の責任を持つ。
2　副会長は会長を補佐するとともに，会長に事故あるときにはその任務を代行する。
3　議長は寮生総会における議事進行に関して一切の責任を負う。
4　副議長は議長を補佐するとともに，議長に事故あるときはその任務を代行する。
5　代表委員は寮生を代表し，その総意を男子寮寮生会に反映する。
6　選挙管理副委員長は，寮生会役員の選挙を管理する。
7　選挙管理副委員長は，選挙管理委員長を補佐するとともに，選挙管理委員長に事故あるときはその任務を代行する。

第７条　役員の選出方法は寮生の投票によるものとし，有効投票総数の過半数の得票をもって当選とする。ただし，第５条第２項に規定する役員は，会長が指名し，選挙管理委員長の承認を得るものとする。
2　役員に欠員が生じた場合は，前項の方法によりすみやかに補充するものとする。

第８条　役員の任期は１年とし，期間は４月から翌年３月までとする。
2　役員は再任することができる。

第４章　寮生総会

第９条　寮生総会は男子寮寮生会の最高議決機関であり，男子寮寮生によって構成される。
2　議長は年２回以上寮生総会を招集する。
3　寮生の３分の１以上の要求がある場合には，議長は臨時にこれを招集する。

第１０条　寮生総会は次の事項を審議する。
(1)　会則の変更
(2)　役員の不信任の決定
(3)　その他の重要事項
2　男子寮寮生会は，寮生総会の審議事項のうち，一部の審議事項を寮生役員会に付託し，議決させることができる。

第１１条　寮生総会の招集及び議題の告示は，開催日の５日前までに行わなければならない。ただし，緊急を要する場合についてはこの限りではない。

第１２条　寮生総会は男子寮寮生の４分の３以上の出席をもって成立し，その議決には出席者の過半数の同意を必要とする。ただし，第１０条第１号及び第２号の議決は出席者の３分　の２以上の同意を必要とする。

第５章　寮生役員会

第１３条　寮生役員会は寮生総会に次ぐ議決機関であり，役員をもって構成する。

第１４条　会長は必要に応じて寮生役員会を招集する。
2　前項の規定にかかわらず役員の３分の１以上の要求がある場合には，会長は臨時にこれを召集する。
3　寮生役員会は役員の４分の３以上の出席をもって成立し，その議決には出席者の３分の２以上の同意を必要とする。

第１５条　寮生役員会は次の事項を審議する。
(1)　男子寮寮生会の事業計画
(2)　細則の制定及び改廃
(3)　その他重要なもの
2　寮生役員会は，決定した事項を速やかに寮生に通知する。

第６章　選挙管理委員会

第１６条　選挙管理委員会は，選挙管理委員長，選挙管理副委員長及び選挙管理委員をもって構成する。
2　選挙管理委員長は，前項の選挙管理委員を，第５条に規定する役員以外の者から若干名指名する。

第１７条　選挙管理委員長は，選挙の都度選挙管理委員会を招集する。

第１８条　選挙管理委員会は次の事項を審議し実施する。
(1)　選挙の公告と選挙日程の通知
(2)　投票及び開票
(3)　開票結果の通知
(4)　その他選挙に関する事項

第７章　顧問及び寮務主事補

第１９条　男子寮寮生会に顧問を置き，寮生指導にあたる寮務主事及び寮務主事補をもって充てる。

第２０条　顧問は第４条に規定する機関に指導と助言を与えることができる。ただし，構成員とはならない。

［寮生会会則－２］

○旭川工業高等専門学校女子寮寮生会会則

第１章　総則

第１条　旭川工業高等専門学校明成寮に旭川工業高等専門学校女子寮寮生会（以下「女子寮寮生会」という。）を置く。
第２条　女子寮寮生会は旭川工業高等専門学校の教育方針にのっとり，寮生の共同生活を自主的に運営し，その活動を円滑に行うことを目的とする。
第３条　女子寮寮生会は旭川工業高等専門学校の全女子寮生をもって組織する。

第２章　機関

第４条　女子寮寮生会に第２条の目的を達成するため次の機関を置く。
(1) 寮生総会
(2) 寮生役員会
(3) 選挙管理委員会

第３章　役員

第５条　女子寮寮生会に次の役員を置く。
(1) 会長　1名
(2) 副会長　1名
(3) 書記　1名
(4) 副書記　1名
(5) 代表委員　各学年から1名以上。ただし，前4号及び次号の役員が属する学年を除く。
(6) 選挙管理委員長　1名
第６条　会長は女子寮寮生会を代表して会務を行うとともに，執決執行の最高の責任を持つ。
2　副会長は会長を補佐するとともに，会長に事故あるときはその任務を代行する。
3　書記は寮生総会における審事進行に関して一切の責任を負う。
4　副書記は書記を補佐するとともに，書記に事故あるときはその任務を代行する。
5　代表委員は寮生を代表し，その総意を女子寮寮生会に反映する。
6　選挙管理委員長は，寮生会役員の選挙を管理する。
7　選挙管理委員長に事故あるときはその任務を代行する者を会長が指名する。
第７条　役員の選出方法は寮生の投票によるものとし，有効投票総数の過半数の得票をもって当選とする。ただし，第５条第５号の役員のうち第１学年については，会長が指名し，選挙管理委員長の承認を得るものとする。
2　役員に欠員が生じた場合は，前項の方法により速やかに補充するものとする。
第８条　役員の任期は１年とし，期間は４月から翌年３月までとする。
2　役員は再任することができる。

第４章　寮生総会

第９条　寮生総会は女子寮寮生会の最高執決機関であり，女子寮寮生によって構成される。
2　書記は年２回以上寮生総会を招集する。
3　寮生の３分の１以上の要求がある場合には，書記は臨時にこれを招集する。
第１０条　寮生総会は次の事項を審議する。

第２１条　第４条に定める機関の招集及び開催に関する事項並びに執決された事項は，すべて寮務主事を経て学校長に届け出，その承認を得てから発効する。
第２２条　男子寮寮生会の最高顧問は，学校長をもって充てる。

［寮生会会則－３］

(1) 会則の変更
(2) 役員の不信任の決定
(3) その他の重要事項
2　女子寮寮生会は，寮生総会の審議事項のうち，一部の審議事項を寮生役員会に付託し，議決させることができる。
第11条　寮生総会の招集及び議題の告知は，開催日の５日前までに行われなければならない。ただし，緊急を要する場合についてはこの限りではない。
第12条　寮生総会は女子寮寮生の４分の３以上の出席をもって成立し，その議決には出席者の過半数の同意を必要とする。ただし，第10条第１号及び第２号の議決は出席者の３分の２以上の同意を必要とする。

第５章　寮生役員会

第13条　寮生役員会は寮生総会に次ぐ議決機関であり，役員をもって構成する。
第14条　会長は必要に応じて寮生役員会を招集する。
2　前項の規定にかかわらず役員の３分の１以上の要求がある場合には，会長は臨時にこれを招集する。
3　寮生役員会は役員の４分の３以上の出席をもって成立し，その議決には出席者の３分の２以上の同意を必要とする。
第15条　寮生役員会は次の事項を審議する。
(1) 女子寮寮生会の事業計画
(2) 細則の制定及び改廃
(3) その他重要なもの
2　寮生役員会は，次定した事項を速やかに寮生に通知する。

第６章　選挙管理委員会

第16条　選挙管理委員会は，選挙管理委員長及び選挙監理委員をもって構成する。
2　選挙管理委員長は，前項の選挙監理委員を，第５条に規定する役員以外の者から若干名指名する。
第17条　選挙管理委員長は，選挙の部署選挙管理委員会を招集する。
第18条　選挙管理委員会は次の事項を審議し実施する。
(1) 選挙の公示と選挙日程の通知
(2) 投票及び開票
(3) 開票結果の通知
(4) その他選挙に関する事項

第７章　顧問及び最高顧問

第19条　女子寮寮生会に顧問を置き，寮生指導にあたる寮務主事及び寮務主事補をもって充てる。
第20条　顧問は第４条に規定する機関に指導と助言を与えることができる。ただし，構成員にはならない。
第21条　第４条に定める機関の招集及び開催に関する事項並びに議決された事項は，すべて寮務主事を経て学校長に届け出，その承認を得てから実行する。
第22条　女子寮寮生会の最高顧問は，学校長をもって充てる。

（出典　本校ウェブサイト例規集）

資料７－２－③－７

［連絡会内規］

旭川工業高等専門学校明誠寮連絡会内規

制　　定　昭和42年12月９日
最終改正　平成20年２月19日

（名称）

第１条　本会は旭川工業高等専門学校明誠寮連絡会と称する。

（目的）

第２条　本会は校長の命により旭川工業高等専門学校明誠寮において学校と寮生の連絡を密にし，教育効果をあげることを目的とする。

（構成員）

第３条　本会は，次の構成員をもって組織する。

(1) 寮務主事
(2) 寮務主事補
(3) 寮務委員会委員
(4) 寮生会長及び副会長
(5) 寮生会議長及び副議長
(6) 寮生会代表委員
(7) 寮生会選挙管理委員長及び副委員長

（会議）

第４条　寮務主事は，この会議の座長となる。寮務主事に事故あるときは，寮務主事補がこれを代行する。

第５条　座長が必要あると認めたときは，構成員以外の者を出席させることができる。

第６条　座長は，会議の結果をとりまとめ，校長に報告するものとする。

第７条　本会は，原則として，毎年４月，５月，10月及び12月に開催し，校長が招集する。ただし，校長が必要と認めたときは，臨時に招集することができる。

（庶務）

第８条　この連絡会の庶務に関することは，学生課寮務係長が，これを処理する。

（出典　平成 23 年度学生生活のしおり P. 115）

（分析結果とその根拠理由）

寮生の生活指導は寮務委員会を中心にきめ細かく行われており，併せて教員の宿日直による指導体制や非常勤指導員による支援体制が整備されている。寮生会との意見交換も定期的・継続的に実施され，寮環境の改善に役立てられている。

以上のことから，学生寮が学生の生活及び勉学の場として有効に機能している。

観点７－２－④：　就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

進路支援委員会を設置して，学生の進路に関する支援並びに就職先の開拓・調査等を行っている（資料７－２－④－１，２）。

その他，準学士課程第４学年及び専攻科課程第１学年を対象に就職適性検査や大学説明会を実施し，また，低学年の学生に対しても，第５学年学級担任による進路状況の説明や OB による講話等を通して，進路に関する情報提供に努めている（資料７－２－④－３）。また，大学編入学試験の要項や過去問題をファイリングして公開しているほか，企業からの求人票を電子化し，学内 LAN により閲覧できる体制を整備している（資料７－２－④－４）。

個々の学生に対する具体的な進路指導については，準学士課程では学級担任と学科長が，専攻科課程では専攻科長と専攻主任が，それぞれ学生との面談や企業応対等を通じて実施している（資料７－２－④－５）。

資料７－２－④－１

［進路支援委員会規程］

（雑則）

第１０条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，委員会が別に定める。

○旭川工業高等専門学校進路支援委員会規程

（設置）

第１条　旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，本校の学生の進路決定を支援するため，旭川工業高等専門学校進路支援委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は，次に掲げる事項を審議する。

(1) 学生の就職支援に関すること。

(2) 学生の進学支援に関すること。

(3) 学生の就職先の開拓に関すること。

(4) その他学生の進路支援に関すること。

（組織）

第３条　委員会は，次に掲げる者をもって組織する。

(1) 教務主事

(2) 学科長のうちから１名

(3) 専攻主任のうちから１名

(4) 第１学年学級担任のうちから１名

(5) 第２学年学級担任のうちから１名

(6) 第３学年学級担任のうちから１名

(7) 第４学年各学級担任

(8) 学生課長

(9) 委員長が必要と認めた者

（任命及び任期）

第４条　前条第３号から第６号に規定する委員は，校長が任命し，任期は１年とする。ただし，補欠による委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）

第５条　委員会に委員長を置き，第３条第２号に規定する，学科長のうちから選出された委員とする。

２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

３　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長の指名した委員がその職務を代行する。

（議事）

第６条　委員会は，委員の３分の２以上の出席をもって成立する。

２　議事は，出席者の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。

（代理出席）

第７条　委員長は，第３条第３号から第７号の委員が委員会に出席できないときは，代理の者を出席させることができる。

２　代理の者には，議決権を与える。

（委員以外の者の出席）

第８条　委員会が必要と認めたときは，委員会に委員以外の者の出席を求め，説明又は意見を聴くことができる。

（庶務）

第９条　委員会の庶務に関することは，学生課において処理する。

（出典　本校ウェブサイト例規集）

資料７－２－④－２

［会社訪問報告書―１］

平成２３年度会社訪問報告書

訪問者　　石井　悟

会社名・工場名・部課・面接者	事業内容	平成22年度採用状況	平成23年度採用予定	訪問内容等 ターンシップの受け入れ及び専攻科のPR等を含む）	新規開拓の会社にOO印
[redacted]	旅客鉄道事業、旅客鉄道事業に附帯する事業、その他関連事業	[redacted]	[redacted]	インターンシップの受入不可。 専攻科生の採用は大学卒と同じ自由応募。 月下旬に追加応募。	
	貨物鉄道事業、倉庫業、駐車場業、その他付帯関連事業			インターンシップの受入可能。 専攻科生の採用は大学卒と同じ自由応募。	
	ロータリー除雪車、凍結防止散布車、ゲレンデ整備車、軌道除雪車などの製作			インターンシップの受入可能。 大卒、専攻科卒、本科卒の区別なく採用。	
	ガス事業、熱供給事業、電気供給事業など			インターンシップの受入不可。 専攻科生の採用は大学卒と同じ自由応募。	
	灯油ホームタンクの製造、ビート移植機・農業機械・防雪柵などの製造			インターンシップの受入可能。 大卒、専攻科卒、本科卒の区別なく採用。	
	液化石油ガス(LPガス)および石油製品の製造ならびに販売			インターンシップの受入可能。 専攻科生の採用は可能。	
	建築設備工事業			インターンシップの受入可能。 専攻科生の採用は可能。	
	段ボール原紙、板紙の製造			インターンシップの受入不可。 専攻科生の採用は大学卒と同じ自由応募。 工場見学も可能。	

［会社訪問報告書―２］

平成２３年度会社訪問報告書

訪問者　吉本　健一

会社名・工場名・部課・面接者	事業内容	平成22年度採用状況	平成23年度採用予定	訪問内容等（インターンシップの受け入れ及び専攻科のPR等を含む）	新規開拓の会社に○印
[redacted]	システムインテグレーション，パッケージソフトウェア開発，システムコンサルティング等	[redacted]	[redacted]	4月中に採用試験を行う予定。希望者がいれば，要連絡，専攻科も推薦有で，苫小牧高専の採用実績有。インターンシップは計画あり（プログラミングのできる学生対象）。	
[redacted]	組み込みソフトウェア開発，ソリューション事業，アプリケーションソフトウェア開発等	[redacted]	[redacted]	4月末に採用試験を行う予定。希望者がいれば，要連絡，専攻科も推薦有で，採用実績有。インターンシップは行っていない。	
[redacted]	医療用機器および周辺機器の販売・メンテナンス等	[redacted]	[redacted]	本科のみ推薦で，専攻科は自由応募（本科は地区ごとに1次試験を実施）。本科のインターンシップは計画有，専攻科（大卒）のインターンシップは実施していない。今年度，釧路高専で会社説明会を実施したこともあり，釧路から希望者が出れば，次年度は推薦枠を釧路にしたいようであった（平成22年度は旭川から採用したため）。採用日程の詳細は，これから連絡あり。	
[redacted]	電力量計の整備・製造・販売ならびに検定，電気計器・継電器等施設に関する工事・試験等	[redacted]	[redacted]	こちらの会社は，毎年採用をしておらず，定年退職等で欠員が出たときに，採用を行っている（高専・大卒）。高卒は例年若干取っている。次年度，早期退職希望者等が出たときには，連絡をくれるとのことであった。インターンシップは行っていない。	
[redacted]	高速道路の安全保全，施工管理，データ整備等	[redacted]	[redacted]	例年，求人が遅く，5～6月ごろに行っていたが，今年は早めに4月中に求人票を出したいとのことであった。旭川高専は採用実績がない。大卒は今まで道内工学系大学に推薦枠を設けてきたため，専攻科の採用は考えていなかった。専攻科については今後検討するとのことであった。インターンシップは行っていない。	
[redacted]	牛乳の処理・加工，乳製品の製造および販売，果汁飲料その他関連食品の製造および販売等	[redacted]	[redacted]	大卒については，3/末にて一度締め切り，4月から高専の採用を行いたいとのことであった。専攻科の採用実績もある。化学系の学生は結構受験するらしいが，機械・電気系の学生は，あまり受験してくれないとのこと。インターンシップは，酪農学園大学に対して実施しているだけで，他校には行っていない。	
[redacted]	三にオムロン製品（電気・電子各種機器）の据え付け工事・メンテナンス	[redacted]	[redacted]	ここのところ，本校の電気より続けて，入っている。例年，電気系の学科から採用しているが，そろそろ機械系の高専卒の学生も1名採用したいとのことであった。専攻科も推薦有。4月に入ってから，求人票を送ってくれるとのことである。インターンシップはこれから計画予定。	
[redacted]	電力供給事業およびその関連サービス	[redacted]	[redacted]	例年より多めに採用予定。本科は推薦，専攻科は自由応募。本科の電気系では，道内の各高専6名程度推薦してほしいとのこと。専攻科（大卒）は，HPにエントリーすることで応募できるが，昨年度も専攻科の採用実績はない（大卒は受験者多く，かなり難関である）。本科のインターンシップは，例年どおり各支店にて実施予定。	

［会社訪問報告書―３］

平成２２年度会社訪問報告書

訪問者　橋本直樹

日時	会社名・工場名・部課・面接者	事業内容	平成22年度採用状況	平成23年度採用予定	訪問内容等（インターシップの受け入れ及び専攻科のPR等を含む）	新規開拓の会社に○印
3月22日	[redacted]	缶詰、レトルト食品ならびに冷凍食品等の製造加工及び販売	[redacted]	[redacted]	工場見学。インターシップ検討中。求人はシステムエンジニアになれる人。	○
3月23日	[redacted]	菓子・食品の製造・販売	[redacted]	[redacted]	工場見学。インターシップを受け入れている(交通費支給)。就職は6月までを予定している。	
3月23日	[redacted]	高温ポリシリコンTFT液晶パネルの製造	[redacted]	[redacted]	インターシップ検討中。	
3月23日	[redacted]	石油製品・石油化学製品の製造・加工	[redacted]	[redacted]	インターシップはやらない。その代わり夏休みに1泊2日の見学会を実施予定。卒業生の学校訪問を検討中。	
3月24日	[redacted]	計測制御システム等の設計・製作・販売およびメンテナンス	[redacted]	[redacted]	インターシップは平成22年度は3名、8月のお盆後に実施予定。交通費、寮支給、対象学生は就職希望学生を望む。就職試験は4/22、5/20、6/17の3回	
3月24日	[redacted]	発電用ローターシャフト等の大型部材製造、風力発電用風車の生産	[redacted]	[redacted]	インターシップは実施予定。就職に関して、推薦は4月末まで、就職希望学生の会社見学は是非来て欲しい。旭川高専、苫小牧高専から見学者各1名あり。日鋼機械センターの工場見学は祝日でも可能。	
3月25日	[redacted]	船の建造、艦艇・一般船の修繕、機装および産業機械製作	[redacted]	[redacted]	工場見学。インターシップは実施予定。就職に関しては4月末まで。	○

（出典　学生課資料）

資料７－２－④－３

［進路支援行事一覧］

平成22年度　進路支援行事一覧

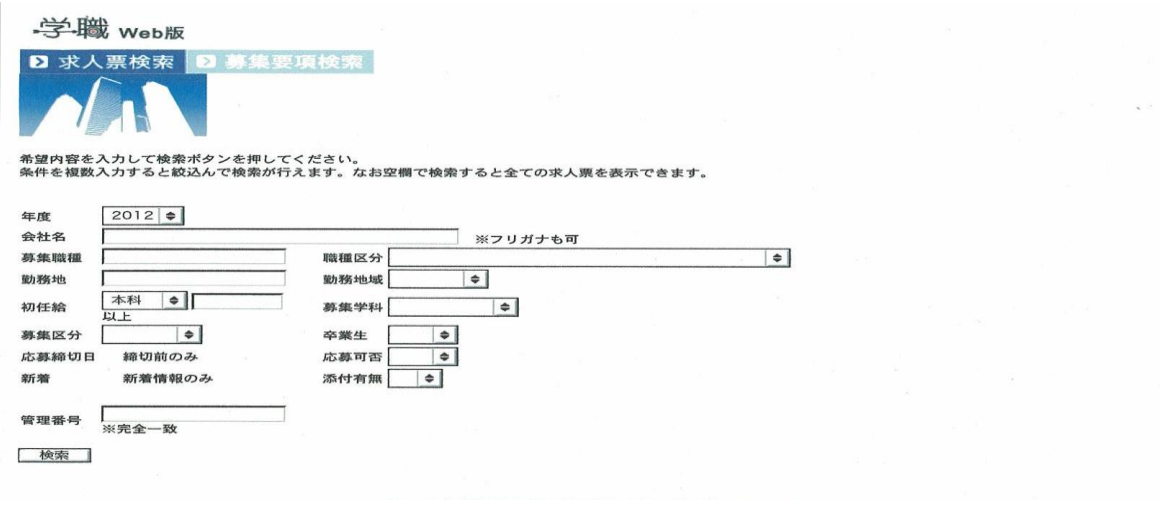
行事名	実施年月日	行事の内容	参加者数				備考
			教員	職員	学生	合計	
就職・進学に関する講演会	平成22年6月22日	学生の就職に対する社会の現状及び就職への心構え，注意点等を講演と通して認識させた。	5	2	190	197	
就職適性検査	平成22年11月11日	学生に対する進路支援の一環として，就職適性検査を実施し，就職の指針となるように認識させた。	1	2	109	112	
就職実践模試	平成22年12月16日	学生に対する進路支援の一環として，就職実践模試を実施し，就職の心構えをつけさせた。	1	2	87	90	
自己PRの実践およびグループ模擬面接	平成23年1月27日	社会人としての自覚を促すとともに，グループ模擬面接を実体験させることで面接等への心構えをつけさせた。	5	2	190	197	

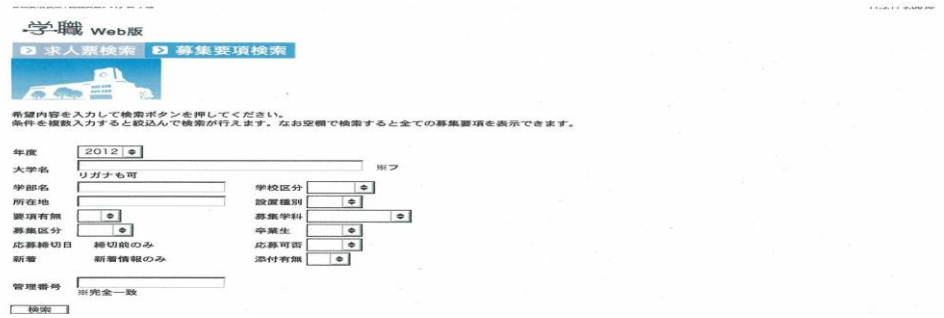
（出典　学生課資料）

資料７－２－④－４

［就職等情報システム］



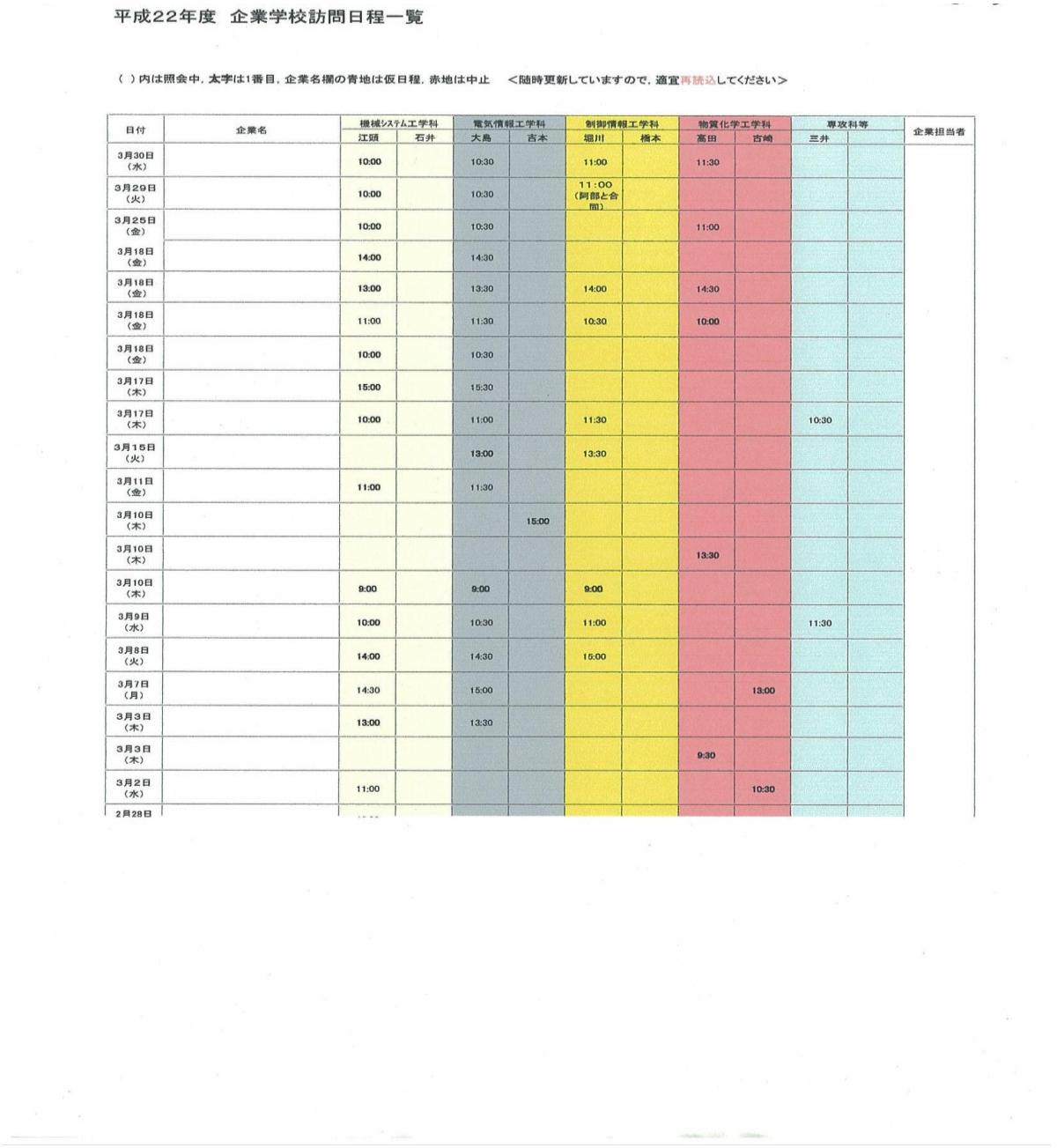




（出典　学内ＬＡＮシステム）

資料７－２－④－５

［企業学校訪問日程一覧］



平成22年度　企業学校訪問日程一覧

（ ）内は照会中，太字は1番目，企業名欄の青地は仮日程，赤地は中止　＜随時更新していますので，適宜再読込してください＞

日付	企業名	機械システム工学科		電気情報工学科		制御情報工学科		物質化学工学科		専攻科等		企業担当者
		江頭	石井	大島	吉本	堀川	橋本	高田	古崎	三井		
3月30日（水）		10:00		10:30		11:00		11:30				
3月29日（火）		10:00		10:30		11：00（阿部と合同）						
3月25日（金）		10:00		10:30				11:00				
3月18日（金）		14:00		14:30								
3月18日（金）		13:00		13:30		14:00		14:30				
3月18日（金）		11:00		11:30		10:30		10:00				
3月18日（金）		10:00		10:30								
3月17日（木）		15:00		15:30								
3月17日（木）		10:00		11:00		11:30				10:30		
3月15日（火）				13:00		13:30						
3月11日（金）		11:00		11:30								
3月10日（木）					15:00							
3月10日（木）								13:30				
3月10日（木）		9:00		9:00		9:00						
3月9日（水）		10:00		10:30		11:00				11:30		
3月8日（火）		14:00		14:30		15:00						
3月7日（月）		14:30		15:00					13:00			
3月3日（木）		13:00		13:30								
3月3日（木）								9:30				
3月2日（水）		11:00							10:30			
2月28日												

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

個々の学生に対しては，学級担任，学科長，専攻科長及び専攻主任によるきめ細かな進路指導が行われている。また，全校的に就職適性検査や模擬面接，大学説明会等が体系的に実施されているとともに，会社訪問を通じて，採用状況の集約やインターンシップ受け入れ先の開拓等がなされている。また，編入試験問題や求人票が適切に整理され，常時閲覧できる体制が整備されている。

以上のことから，就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され，機能している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・　オフィスアワーにおける学習支援室でのサポート体制が整えられ，多目的室の有効利用と併せて自主的学習環境が整備されている。海外１高校２大学との学術交流協定に基づいて，留学に対する支援がなされ，学生の相互派遣が実施されている。教員の宿日直による指導体制や非常勤指導員による支援体制が整備され，学生寮の管理運営，寮生指導がきめ細やかに行われている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準７の自己評価の概要

入学時に多岐にわたるオリエンテーションが実施され，修学上の指導・助言が適切に行われている。日常的な学生の学習・生活支援者として，準学士課程においては学級担任が，専攻科課程においては専攻主任が配置され，きめ細かな指導・相談・助言体制が整備されている。また，時間割に組み込まれたオフィスアワーを利用して，全学的な学習相談等の体制が整えられている。学生の自主学習施設として，図書館や情報処理センター，学習支援室が整備され，さらに，校内に配置された多くの多目的室が有効に活用されている。学生の要望を汲み取る制度として，学生による授業評価が実施され，相談箱や意見箱が設置されている。資格・検定試験受験に関する支援として，学生会及び後援会からの検定料助成制度が整えられ，多くの学生に利用されている。学校が定めた資格試験に合格した場合には，単位が認められる特別学修単位認定規則が定められている。留学生に対しては日本語を含む特別カリキュラム，高等学校からの編入学生に対しては数学・物理の補講が実施され，修学が円滑に行われるよう配慮されている。留学生にはチューターが配置され，勉学及び学校生活に関して相談・助言を行える体制が整備されている。課外活動においては，学生会には学生主事補，各クラブには２名以上の顧問教員が配置され，運営等に関する適切な支援が行われている。クラブ活動に必要な施設・設備は十分に有効利用できるよう整備されている。

学生の生活上の指導・助言は主として学級担任が行っているほか，学生相談室，セクシュアル・ハラスメント相談室及び特別支援室が設置され，適切な支援が行われている。経済面においては，授業料減免制度及び奨学金制度が整備されている。障害をもつ学生に対応し得るよう，障害者用トイレ及び傾斜スロープが設置され，バリアフリー化が図られている。全校的な進路支援としては，進路支援委員会を中心に就職適性検査，大学説明会等が実施され，学生の意識向上に役立てられている。実務的な進路指導は，準学士課程の学生に対しては主に学級担任が，専攻科課程の学生に対しては主に専攻主任が担う体制が整えられている。

基準８ 施設・設備

（１）観点ごとの分析

観点８－１－①：　学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され，適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また，施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。

（観点に関わる状況）

１）整備状況

資料８－１－①－１に本校施設の概要を示す。また，資料８－１－①－２に校地全体の配置図を示す。

本校は，４学科４学級で構成され，高専設置基準で必要とされる校地及び校舎面積が確保されている。また，高専設置基準第 23 条で定める講義室，演習室，研究室，図書館，医務室等を備えている。また，学生のメンタルな面などをフォローするための学生相談室や特別な配慮を必要とする学生のための専用スペース（特別支援室）を設置している。

また，情報処理センター，図書館，実習工場は授業時間外の利用を可能としており，利便性を図っている。（資料８－１－①－３～５）

施設の利用状況に関しては，施設点検評価チェックシート（資料８－１－①－６）により実験室等の単位で稼働率を定量的に分析（資料８－１－①－７）している。また，講義室やゼミ室などの特別室に関しては，年度単位に授業での利用状況等（資料８－１－①－８）を管理し，有効利用が図られるよう管理を行っている。

資料８－１－①－１

「施設の概要」

1　敷地　Site（総面積　Total Area　102,670㎡）

(1)春光台 Syunkohchou					(2)春光町 Syunkohchou
校舎 School Buildings	寄宿舎 Dormitory	屋外運動場 Outdoor Sports Grounds	職員宿舎 Employees' Apartment	その他 Others	職員宿舎 Employees' Accommodations
44,053㎡	10,942㎡	38,849㎡	4,886㎡	3,480㎡	460㎡

2　建物　Buildings（総面積　Total Area　29,617㎡）

校舎 School buildings

管理・講義棟等 Office & Classroom Buildings	第一実習工場 First Workshop	第二実習工場 Second Workshop	図書館センター Library Center
15,305㎡	681㎡	458㎡	864㎡

寄宿舎 Dormitory
6,166㎡

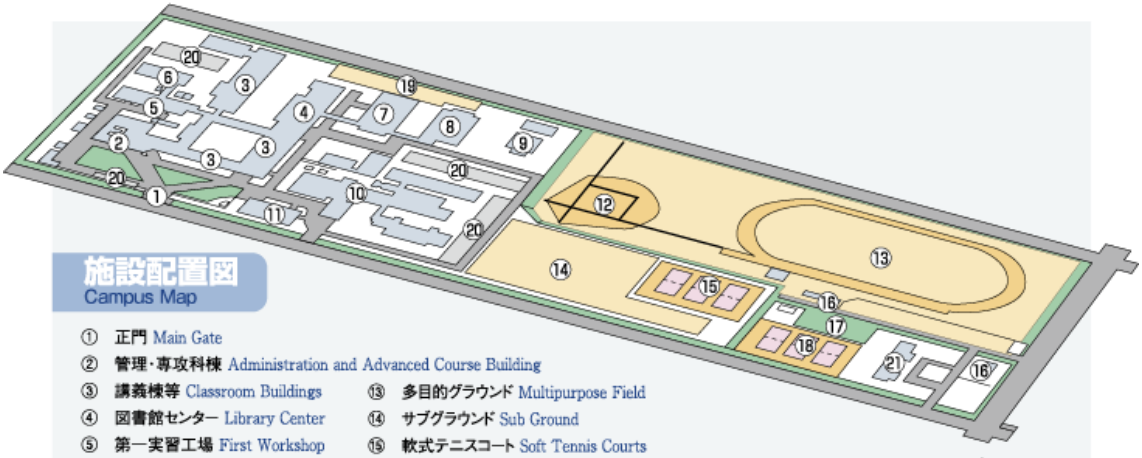
屋内運動場 Indoor sports buildings

第一体育館 First Gym	第二体育館 Second Gym	武道場 Material Arts Gym	合宿所 Training Camp House	渡り廊下・他 Connecting Corridor・Others	福利施設 Welfare Facilities	車庫・倉庫・その他 Garage・others
996㎡	880㎡	289㎡	412㎡	147㎡	908㎡	1,283㎡

職員宿舎 Employees' Accommodations
1,228㎡

3　屋外運動場　Outdoor Sports Grounds

野球場（9,800㎡）1面　On Baseball Ground (9,800㎡)
多目的グラウンド（15,615㎡）350mトラック　Multipurpose Field (15,615㎡) 350m Track
テニスコート（4,771㎡）軟式3面，硬式3面　Tennis Court (4,771㎡), 3 for Soft Tennis and 3 for Tennis.
アーチェリーコート（1,116㎡）4的　Archery Court (1,116㎡), 4 Marks.
ゴルフ練習場（745㎡）7打席　Golf Practice Ground (745㎡), 7 plates.
サブグラウンド（6,802㎡）1面　Sub Ground (6,802㎡)



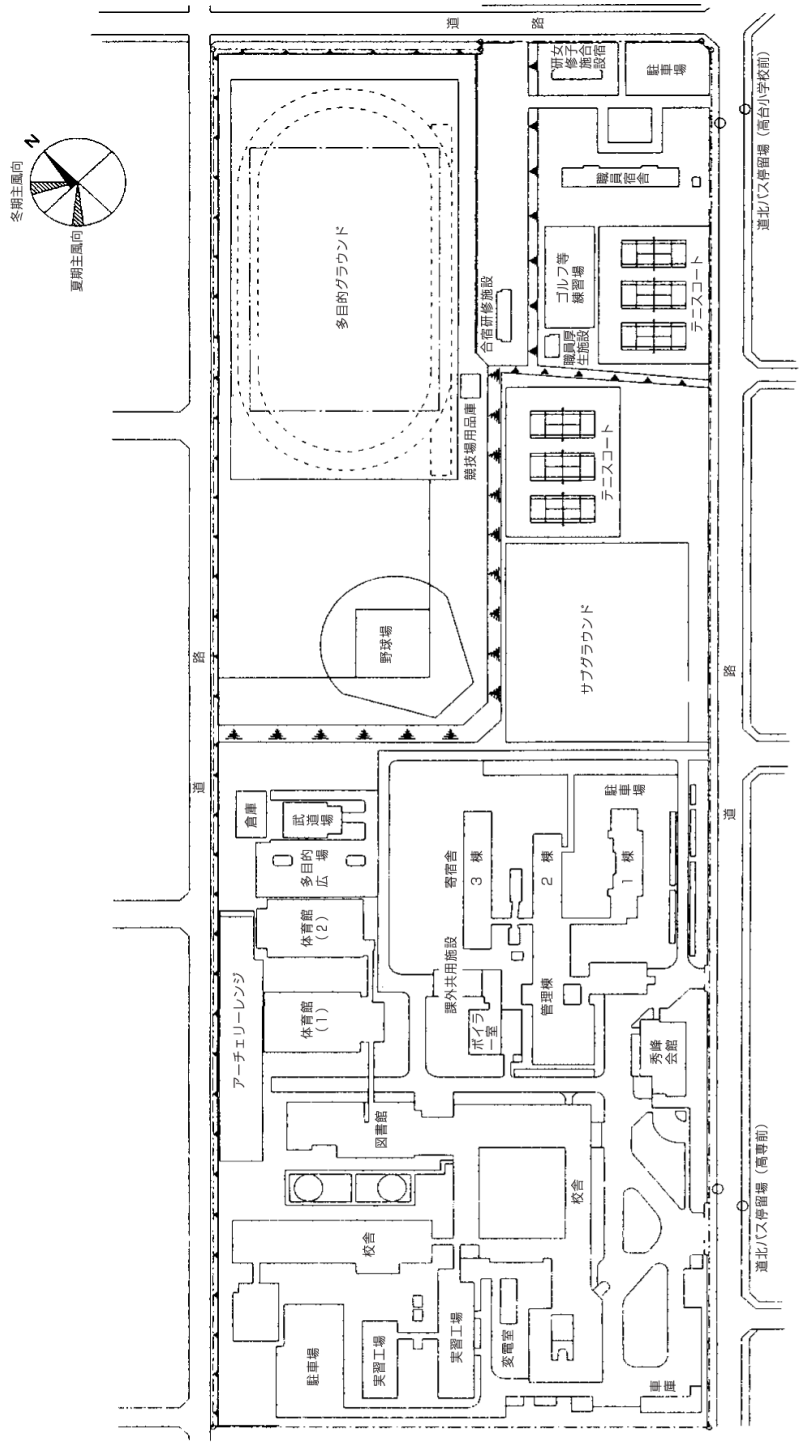
施設配置図 Campus Map

① 正門 Main Gate
② 管理・専攻科棟 Administration and Advanced Course Building
③ 講義棟等 Classroom Buildings
④ 図書館センター Library Center
⑤ 第一実習工場 First Workshop
⑥ 第二実習工場 Second Workshop
⑦ 第一体育館 First Gym
⑧ 第二体育館 Second Gym
⑨ 武道場 Martial Arts Gym
⑩ 寄宿舎 Dormitory
⑪ 福利施設 Welfare Facilities
⑫ 野球場 Baseball Ground
⑬ 多目的グラウンド Multipurpose Field
⑭ サブグラウンド Sub Ground
⑮ 軟式テニスコート Soft Tennis Courts
⑯ 合宿所 Training Camp House
⑰ ゴルフ練習場 Golf Practice Ground
⑱ 硬式テニスコート Tennis Courts
⑲ アーチェリーコート Archery Court
⑳ 駐車場 Parking Lot
㉑ 職員宿舎 Employees' Accommodations

（出典　平成 22 年度学校要覧 P. 35）

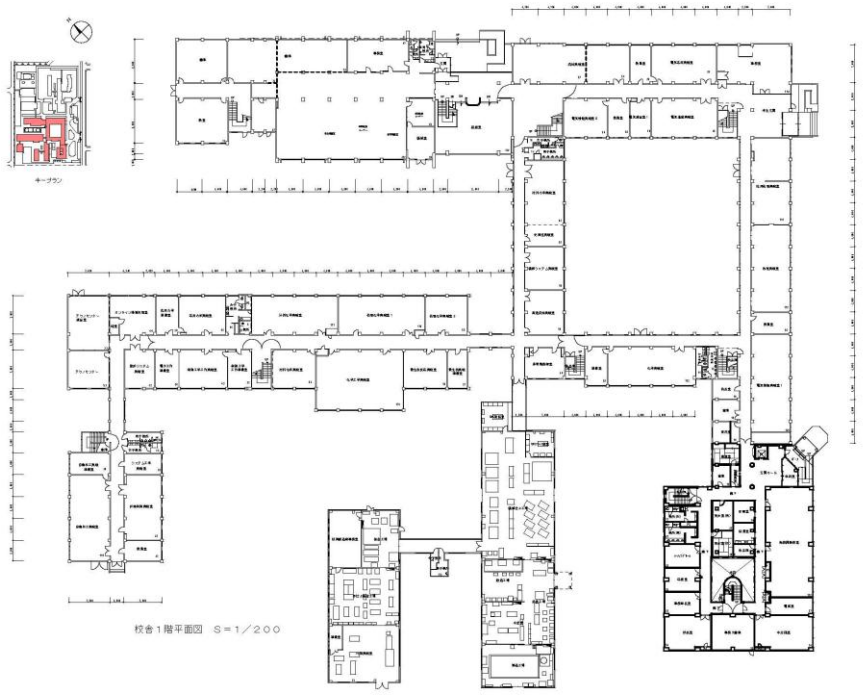
資料８－１－①－２

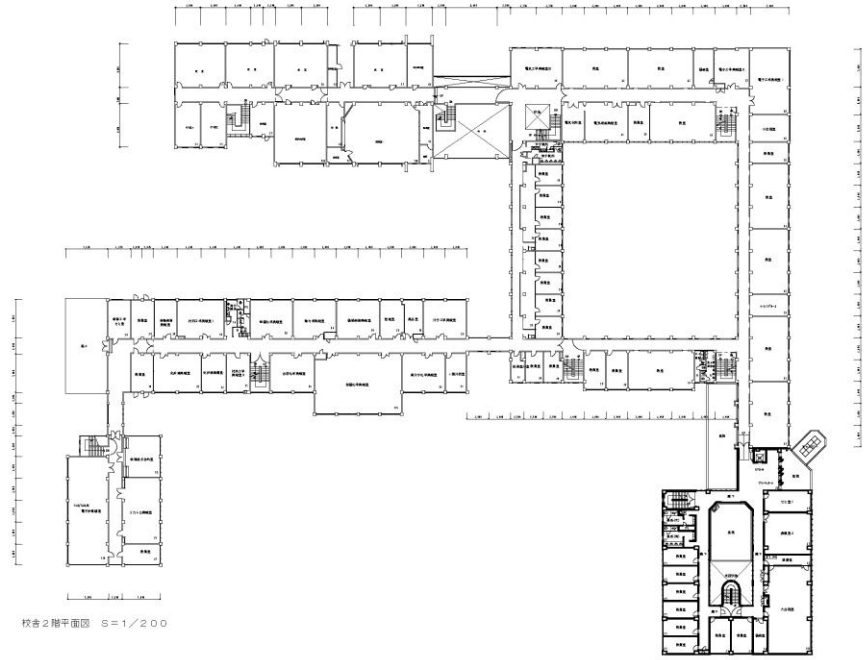
「施設の配置図」



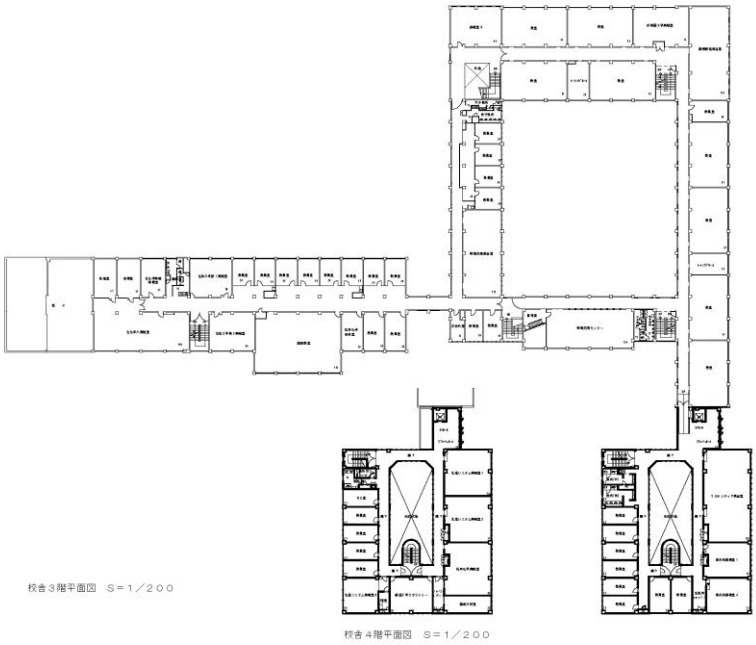
（出典　平成 23 年度学生生活のしおり P.33）

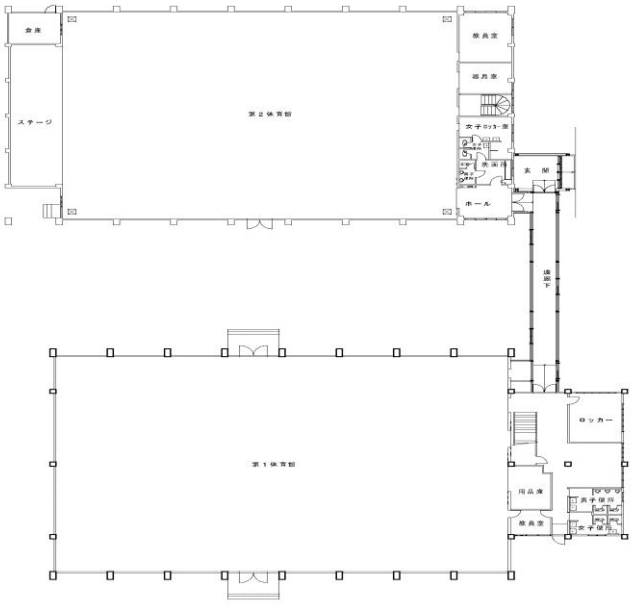
平面図：校舎１，２階



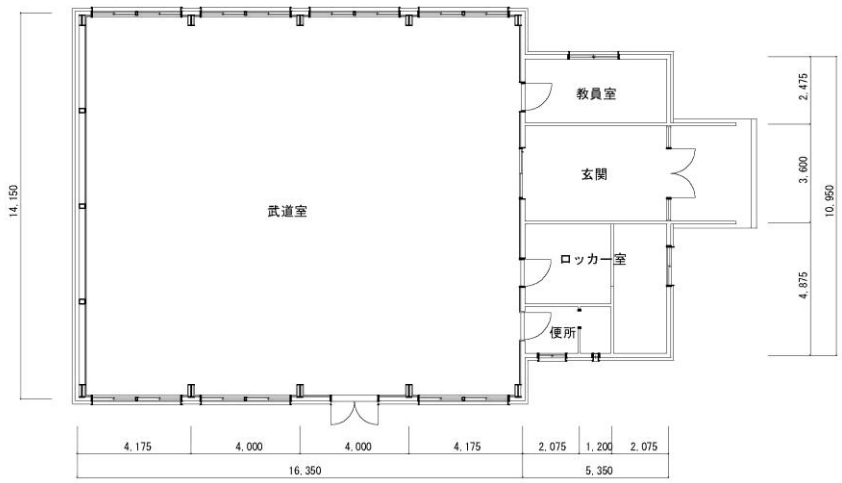


平面図：校舎３，４階，体育館

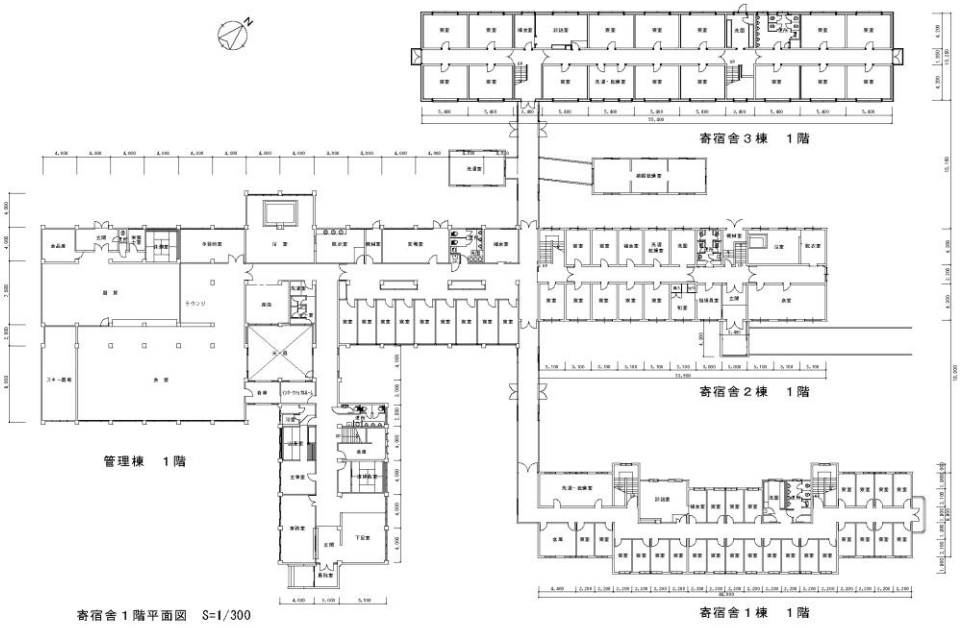




平面図：武道場，寄宿舎１階

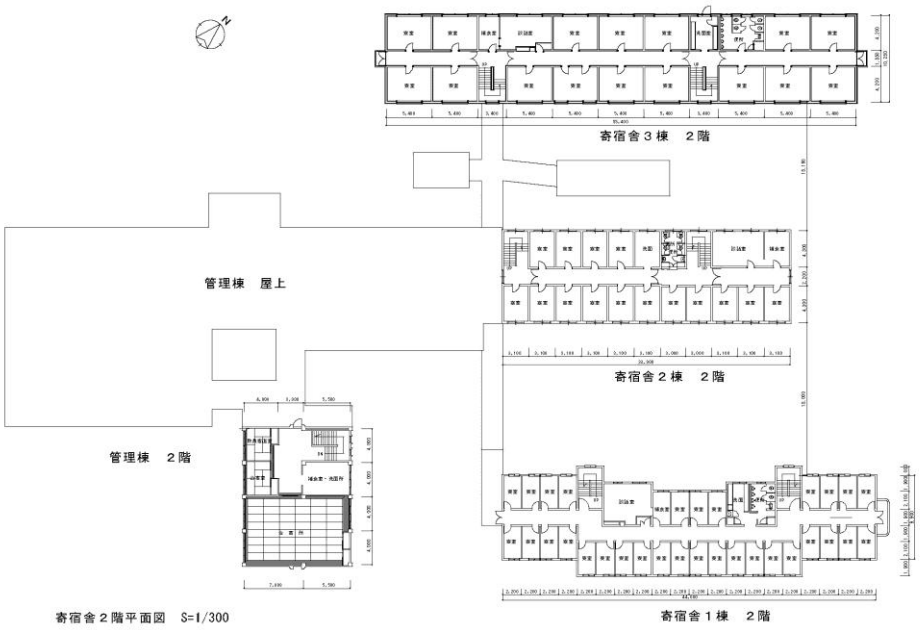


武道場平面図　Ｓ＝１／２００

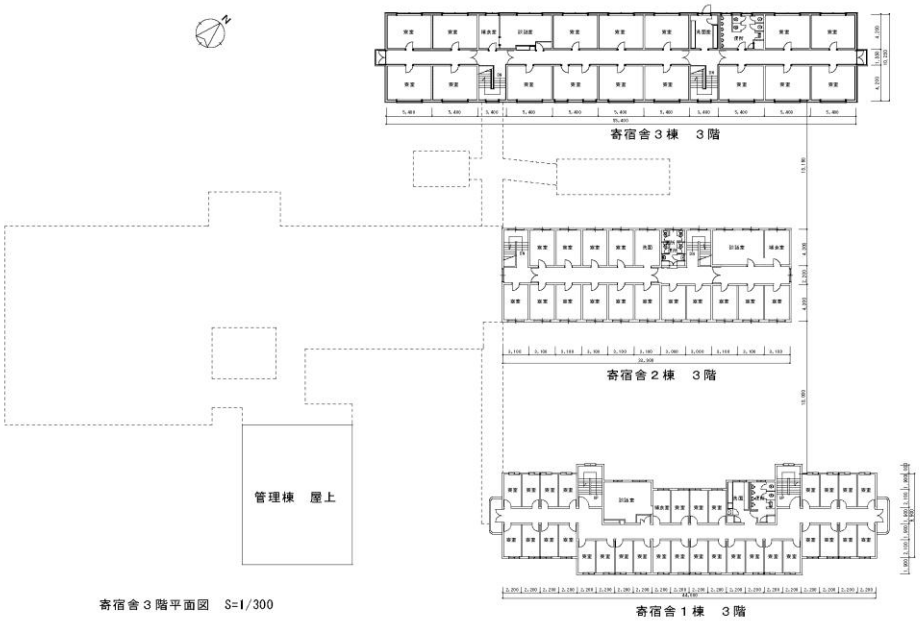


寄宿舎１階平面図　S=1/300

平面図寄宿舎２，３階

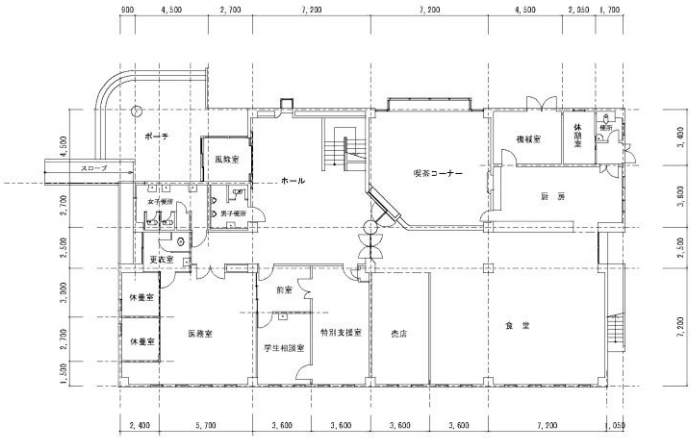


寄宿舎２階平面図　S=1/300

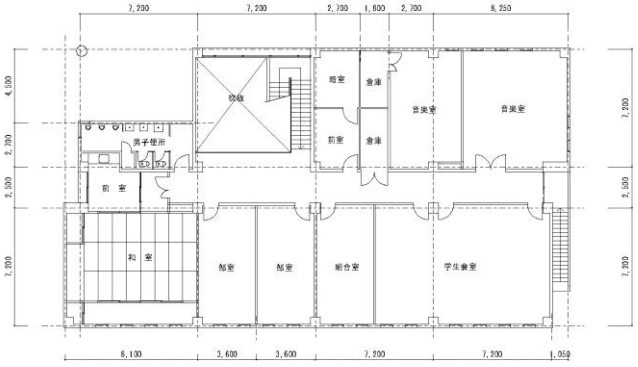


寄宿舎３階平面図　S=1/300

平面図：福利施設



福利施設　１階平面図　　S=1/200



福利施設　２階平面図　　S=1/200

（出典　総務課資料）

資料８－１－①－３

「旭川工業高等専門学校情報処理センター利用内規」

（目的）

第１条　この内規は，旭川工業高等専門学校情報処理センター（以下「センター」という。）運営規則（平成９年旭高専達第１号）第１８条の規定に基づき，センターの利用について　定めることを目的とする。

（利用者の範囲）

第２条　センターを利用できる者は，次のとおりとする。

(1) 教職員及び非常勤教職員

(2) 学生

(3) 特に校長の許可を得た者

（利用の目的）

第３条　センターは，次の目的に利用することができる。

(1) 学生の教育課程に基づく教育（正課教育）及び正課外教育

(2) 学術研究

(3) ネットワークによる情報処理

(4) 教務事務処理

(5) 事務管理

(6) その他校長が必要と認めたもの

（利用日）

第４条　センターは，次に掲げる日を除き利用することができる。ただし，校内ＬＡＮシステムについては，これにかかわらず２４時間利用することができる。

(1) 国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日

(2) 土曜日

(3) 日曜日

(4) 年末年始（１２月２９日から翌年の１月３日まで）

（利用時間）

第５条　センターのうち，マルチメディア実習室及び情報処理演習室の開室時間は８時３０分から１７時まで，情報処理センター端末室の開室時間は８時３０分から１９時までとする。なお，長期休業中は，マルチメディア実習室及び情報処理演習室は閉室とする。

2　利用時間外に利用しようとする場合は，あらかじめ，情報処理センター長（以下「センター長」という。）の承認を得るものとする。

3　前条及び第１項の規定にかかわらず，センター長が必要と認めたときは，臨時的に開室及び閉室することができる。

（利用方法）

第６条　センターを利用する場合は，別に定める利用の手引によるものとする。

２　学生の正課外利用については，別に定める。

（利用の停止）

第７条　センター長は，利用者がこの内規に違反し，センターの運営に支障を生じさせたとき，又はそのおそれがあるときは，利用を停止させることができる。

（出典　本校ウェブサイト：例規集）

資料８－１－①－４

「図書館利用案内（抜粋）」



（出典　総務課資料）

資料８－１－①－５

「実習工場利用の手引き」

実習工場利用の手引き

旭川工業高等専門学校　技術創造部

平成２３年３月改訂

（出典　技術創造部資料）

１．実習工場の使用に対する技術創造部の考え方

技術創造部では、より多くの方に利用して頂くために、以下に示す優先順位をつけています。実習・演習等を展開する上で、日によって使用しない設備（場所）もあります。その場合は、使用希望に対して当該実習・演習等に支障のない限り応じたいと考えます。但し、授業の冒頭で行う説明等に支障をきたす場合には、使用を一時的に中止して頂く場合があります。使用を希望する方は、事前に技術創造部と打ち合わせをして下さい。※安全確保のため基本的に学生の単独使用は認めていません。

☆実習工場設備の使用における優先順位

①事前に技術業務（教育・研究分野）依頼書の提出があり、技術創造部員が技術支援を行う実験・実習・演習等での使用。

②事前に技術業務（教育・研究分野）依頼書の提出があり、教職員もしくは、担当教員の指導のもとで学生が行う卒業研究等。

③事前に技術業務（製作・他分野）依頼書の提出があり、①②以外の時間帯で技術創造部員が行う依頼品の製作。

④上記以外で事前に使用を申し出て技術創造部が必要と認め、使用日時等を打合せをしている加工。

※学校公式行事による使用については、これを最優先する。また、学校訪問等での実習工場見学は、学生もしくは見学者の安全が確保できない場合を除き、常時受け付けています。工場案内等を希望する場合には、技術創造部まで気軽に申し出て下さい。

２．使用手続きと使用者責任について

実習工場で機械加工等を行うには、次の手続きが必要です。安全に正しく使用して下さい。使用中に機械等を破損した場合、基本的に使用者の責任となります。

☆平日の場合

勝手に使用せず、必ず技術創造部事務室まで使用したい旨を申し出て下さい。

☆時間外及び休日等の場合

事前に技術創造部事務室まで使用したい旨を申し出て必ず実習工場使用願を提出して下さい。実習工場入口の鍵を貸し出します。使用後は、使用した機械と周辺の清掃をして下さい。また、NC フライス盤端末室通路側壁面にかけてある実習工場使用簿に使用状況などを記入して下さい。作業終了後は、機械工場西側にある動力用分電盤の電源を切り、実習工場入口の施錠をして下さい。

※鍵は、そのまま保管して、翌朝速やかに返却して下さい。

３．実習工場における安全確保

技術創造部では、事故防止のため当部編纂の「安全な作業（工作）を行うために」という安全マニュアルを作成しています。これは、安全な作業を行う上で、最低限守って頂かなければならないことが記載されています。従ってこれを守らない方には、機械の使用を許可しません。NC フライス盤端末室通路側壁面にかけてありますので使用の前に一読し安全に作業して下さい。

安全確保のため作業に適した服装で使用すること。作業帽子については貸し出すことが可能です。技術創造部事務室まで申し出て下さい。

スケヤシャーを使用する場合は、技術創造部事務室まで申し出て下さい。鍵を

貸し出します。切断の際には必ず板厚を確認し、機械の板厚調整をして 1㎜ 以下の薄物は、機械に向かって左側で、それ以外の厚板（最大で６㎜ まで）は、右側で切断して下さい。使用後は、電源を切り、切屑を掃除し速やかに鍵を事務室に返却して下さい。

※実習等の科目で当該機械を使用したことのない方には、使用の許可はできません。技術創造部員に使用方法の指導を受けるか、加工を技術創造部職員に依頼して下さい。

４．実習工場の使用について

平日における実習工場の使用時間は、次の通りです。（１２時２０分から１３時０５分は、技術職員も休憩を取りますので、原則的に使用不可とします。）

午前　：８時４５分～１２時２０分　　午後　：１３時０５分～１６時４５分

但し、事前に実習工場使用願を提出し、承認を受けた方については、実習工場使用願に記載された時間帯（夜間も含む）に限り使用することができます。この場合は、使用者の責任において使用して頂きます。事故防止のため、単独使用は絶対にしないで下さい。機械使用前は、NC フライス盤端末室通路側壁面にかけてある「安全な作業（工作）を行うために」を一読し、適度な間隔で休憩をとりながら安全に十分注意して使用して下さい。

５．使用後について

機械本体および設備周辺に飛散した切屑・油を掃除機・箒を使って掃除すること。切屑は、鉄・アルミ・プラスチック樹脂・銅に分別処理して下さい。

旋盤・NC 旋盤については使用後、必ず往復台・心押台を右側に寄せておくこと。

フライス盤・NC フライス盤については、テーブルを中央に寄せておくこと。

3

最後に機械をウエスで奇麗に拭きあげること。使用した工具・測定機具等は奇麗なウエスで拭き、所定の位置へ返却すること。

次に使用する誰もが、気持ち良く実習工場を利用できるように御協力をお願いします。

６．機械等を損傷した場合の連絡について

機械は、毎日の実習・演習等で使用します。機械等を損傷した場合には、実習・演習・実験等の技術支援に支障が出ます。

速い対応を行い、永く機械の精度を保つためにも、速やかに申し出て下さい。また、機械を正しく使用していて異音等が発生した場合には、直ちに使用を中止して下さい。その際、技術創造部まで連絡して下さい。

【※平成21年5月21日技術創造部運営委員会にて了承され学内に周知済み】

時間外及び休日における実習工場の使用について

原　則

教育・研究・課外活動のための実習工場の施設・設備の使用については制約を設けるものではないが，当該施設・設備の管理上の観点から技術創造部の許可を得ることとする。

1　時間外及び休日における実習工場の施設・設備の使用に当たっては，教員・学生の教育・研究・課外活動の利便性を考慮し，以下の使用形態とする。

① 使用計画がある場合は，事前に「実習工場使用願」を技術創造部に提出し，技術長の許可を得たうえで鍵を借り，使用後に鍵を確実に返却する。

② 上記の使用期間を超えて使用することが明らかな場合は，あらためて「実習工場使用願」を提出する。

2　実習工場の管理上の問題，事故発生時の緊急対応等の理由により，実習工場の施設・設備は学生には単独で使用させない。

3　機械設備等の使用については，担当教職員の指導の下に行う。

4　実習工場の使用後は，日常業務等（授業等を含む。）に支障を来さないようにする。

5　実習工場の使用後は，必ず備え付けの「実習工場使用簿」に必要事項を記入する。

（別添）　「実習工場使用願」，「実習工場使用簿」

5

（出典　技術創造部資料）

資料８－１－①－６

「施設点検評価チェックシート」

施設点検評価チェックシート

調査年月日　平成　年　月　日

室　名		記 入 者	

質　問	回答
1. 室名と使用用途が合致しているか。 NOの場合：どのような室名が適切であるか。	
2. 部屋の狭隘状況について。	
3. 部屋の利用状況について。 a）週何日程度使用しているか。（月○日との記入でも可） b）一日の使用時間はどの程度か。（週○時間との記入でも可） c）勤務時間終了後の使用状況について。 （例：○○の時期は週○日○時頃まで使用） d）夏期休業、冬期休業等の使用状況について。 （例：夏期休業期間は○日、1日○時間程度使用）	日 時間
4. この部屋を他の教員や他の学科の実験等に使用させることはあるか。 YESの場合：その頻度はどの程度か。（例：月○回程度）	
5. 過去5年間において、公開講座等で使用したことがあるか。	平成　年　月
6. 補助暖房を使用しているか。 YESの場合：電気ストーブ○○w ○台、ガスストーブ○○kcal ○台	ガスストーブ　kcal　台 電気ストーブ　w　台
7. その他（施設に関する意見等）	

※この調査は旭川工業高等専門学校施設・設備委員会規程第2条(4)及び旭川工業高等専門学校における施設等の点検・評価に関する取扱要領に基づく調査である。

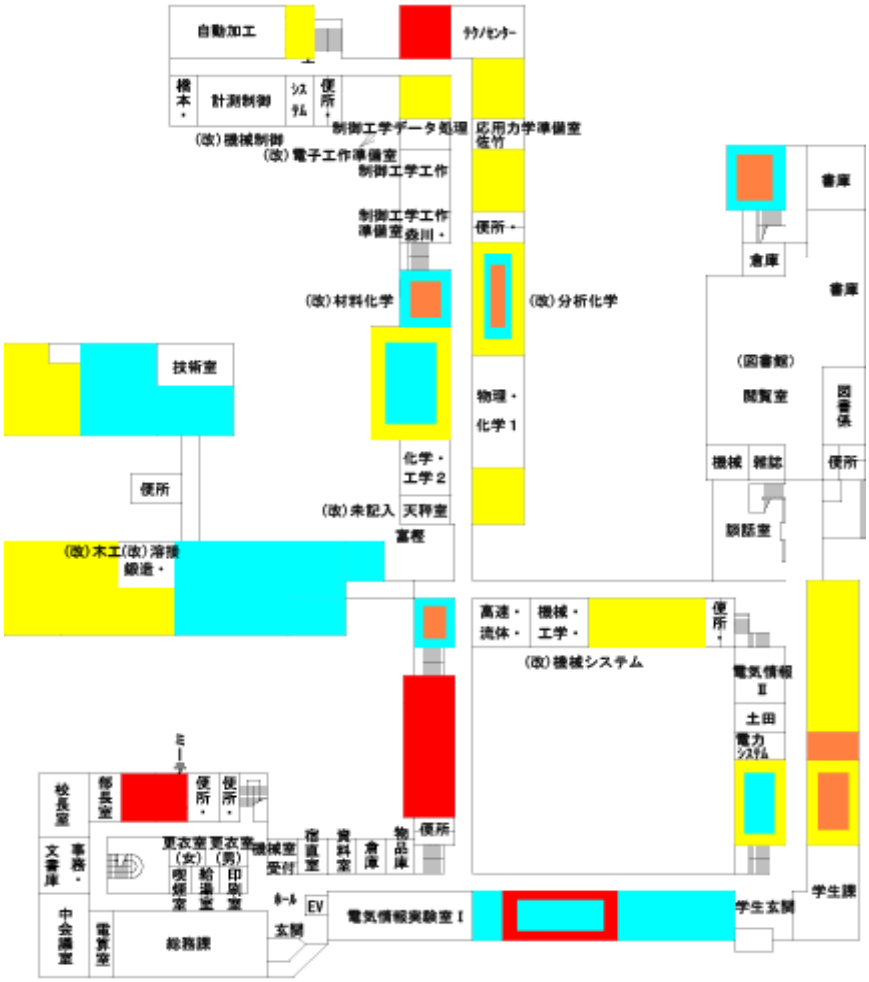
提出先　総務課施設係

（出典　総務課資料）

資料８－１－①－７

「施設利用状況　抜粋」

稼働率20%未満
稼働率20%以上40%未満
部屋の狭隘
施設に関する意見あり

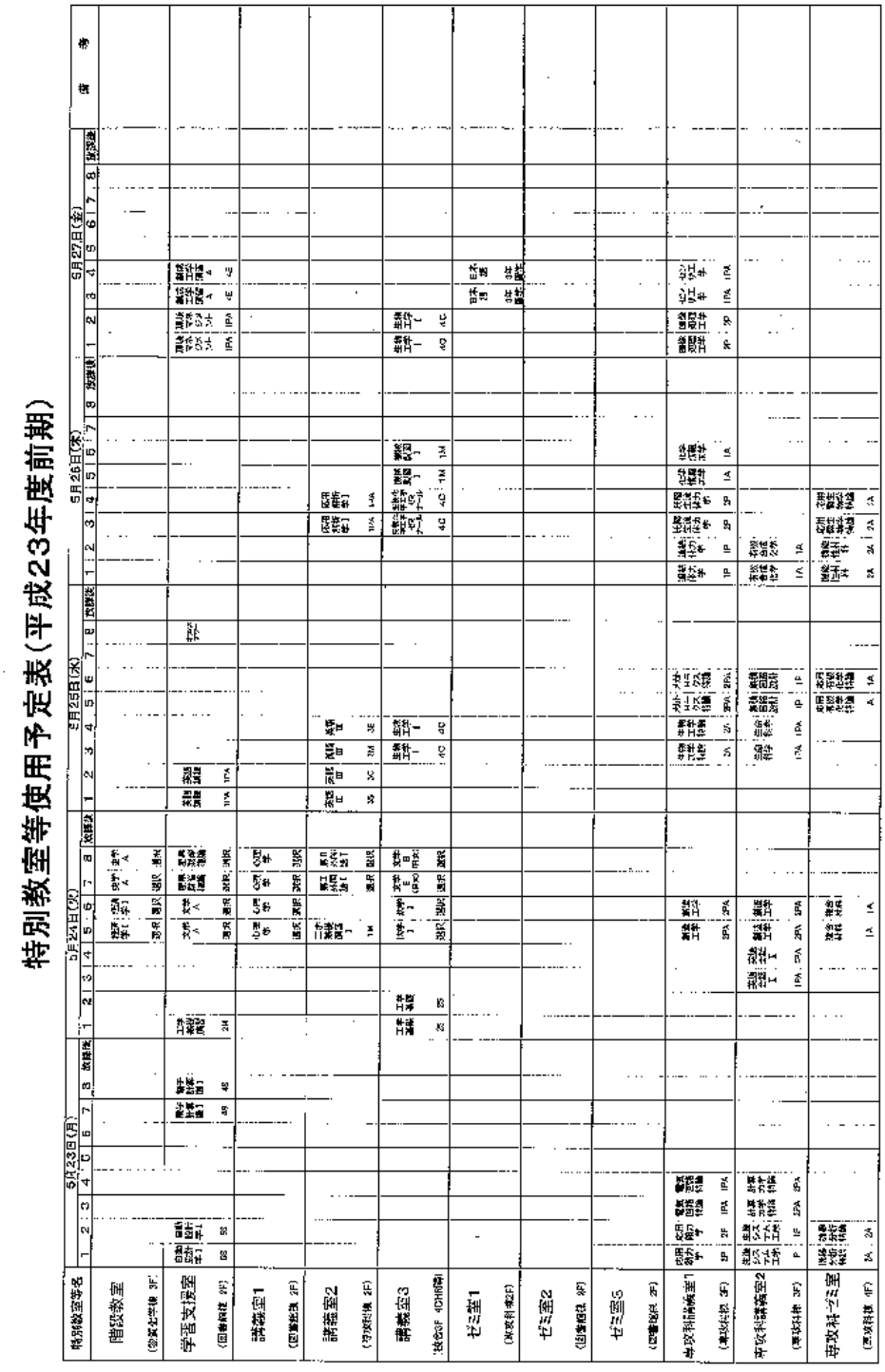


校舎１階平面図

（出典　総務課資料）

資料８－１－①－８

「特別教室利用予定表」



（出典　学生課資料）

２）安全管理

安全管理に関しては，教室をはじめとする施設に管理責任者（資料８－１－①－９）を任命し，管理責任を明確にしており，本校の安全衛生マニュアルに則った管理が行われている。また，安全衛生委員会を組織し，実査担当者が月に１度のペースで学内の施設を点検（資料８－１－①－10）している。点検により問題点が発見された場合には，必要に応じて問題点を管理責任者に通知する。責任者は改善策を策定し，当該委員会に報告するとともに、その改善を行う。具体的な例としては，什器類が地震による転倒防止措置がとられていない場合には，転倒防止の固定処理を義務づけて実施させるなどの施策を実施している（資料８－１－①－11)。また，実習工場等では，前出の安全衛生マニュアルに加えて個別の管理マニュアル（資料８－１－①－12）を制定し，安全管理の徹底に努めている。

資料８－１－①－９

「管理責任者に係わる資料　抜粋」

財産監守計画の監守者及び補助監守者について

No.1

監守区域	監守者 （ 防火責任者）	補助監守者 （ 火元責任者）	備考
専攻科１ 階			
校長室	総務課長	総務係長	
事務部長室	総務課長	総務係長	
応接室	総務課長	総務係長	
ミーティングルーム	総務課長	総務係長	
男子便所	総務課長	施設係長	
女子便所	総務課長	施設係長	
文書庫	総務課長	総務係長	
中会議室	総務課長	総務係長	
電算機室（ 事務）	総務課長	総務係長	
総務課事務室	総務課長	総務係長・ 財務係長	
女子更衣室	総務課長	施設係長	
男子更衣室	総務課長	施設係長	
物品庫	総務課長	契約係長	
給湯室	総務課長	総務係長	
印刷室	総務課長	契約係長	
機械室	総務課長	施設係長	
宿直室・ 休憩室	総務課長	施設係長	
廊下・ 階段・ ホール・ 玄関	総務課長	施設係長	
専攻科２ 階			
教員室（ ●●）	一般理数科長	●● ●●	
教員室（ ●●）	一般理数科長	●● ●●	
教員室（ ●●）	一般理数科長	●● ●●	
教員室（ ●●）	一般人文科長	●● ●●	
教員室（ ●●）	電気情報工学科長	●● ●●	
教員室（ ●●）	電気情報工学科長	●● ●●	
教員室（ ●●）	物質化学工学科長	●● ●●	
教員室（ ●●）	物質化学工学科長	●● ●●	
男子便所	総務課長	施設係長	
女子便所	総務課長	施設係長	
機械室	総務課長	施設係長	
大会議室・ 準備室	総務課長	総務係長	
講義室２	学生課長	教務係長	
ゼミ 室１	学生課長	教務係長	
廊下・ 階段	総務課長	施設係長	
専攻科３ 階			
教員室（ ●●）	物質化学工学科長	●● ●●	
教員室（ ●●）	制御情報工学科長	●● ●●	
教員室（ ●●）	機械ｼｽﾃﾑ工学科長	●● ●●	
教員室（ ●●）	機械ｼｽﾃﾑ工学科長	●● ●●	
教員室（ － ）	総務課長	●● ●●	
教員室（ ●●）	機械ｼｽﾃﾑ工学科長	●● ●●	
教員室（ ●●）	機械ｼｽﾃﾑ工学科長	●● ●●	
教員室（ － ）→（ ●●）	総務課長→一般人文科長	施設係長→●● ●●	入室、指定変更
男子便所	総務課長	施設係長	
女子便所	総務課長	施設係長	
ロッカー室	専攻科長	専攻科長	
専攻科講義室２	学生課長	教務係長	
専攻科講義室１	学生課長	教務係長	
マルチメディア実習室	情報処理ｾﾝﾀｰ長	情報処理ｾﾝﾀｰ長	
廊下・ 階段	総務課長	施設係長	
専攻科４ 階			
教員室（ ●●）	電気情報工学科長	●● ●●	
教員室（ ●●）	物質化学工学科長	●● ●●	
教員室（ ●●）	制御情報工学科長	●● ●●	
教員室（ ●●）	機械ｼｽﾃﾑ工学科長	●● ●●	
専攻科ゼミ 室	学生課長	教務係長	
創造工学ラボラトリー	専攻科長	専攻科長	
男子便所	総務課長	施設係長	
女子便所	総務課長	施設係長	
生産システム実験室１	機械ｼｽﾃﾑ工学科長	●● ●●	
生産システム実験室２	制御情報工学科長	●● ●●	
生産システム実験室３	電気情報工学科長	●● ●●	
機器分析室	物質化学工学科長	●● ●●	
応用化学実験室	物質化学工学科長	●● ●●	
廊下・ 階段	総務課長	施設係長	

（出典　総務課資料）

資料８－１－①－10

「安全衛生管理計画書抜粋」

平成２３年度　安全衛生管理計画書

１．安全衛生の基本方針
　本校の快適な教育環境の形成を目指し，労働安全衛生法及び関係法令下における法的水準を確保し，労働環境保全にも配慮した職場環境の在り方の検討を行うとともに，
職場環境状況の調査，問題点の分析，改善等を行い安全衛生管理の充実に努める。

２．本年度の目標
　（１）安全衛生教育及び安全衛生管理意識の啓発活動の実施
　（２）安全衛生関係有資格者の拡大（リーダー育成，適正配置）
　（３）職員の健康診断受診率及び再検査率の向上　（受診率　１００％・再受診率　５０％目標）
　（４）安全な作業環境確保

３．安全衛生計画

実施項目		内容	関係法令，記録様等	対象，決定回数等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A 安全衛生管理体制	安全衛生委員会の開催	毎月第４　木曜日	労働安全衛生法第17条 安全衛生委員会規程第5条		←→											
	職場による職場内巡視	毎月第４　木曜日	労働安全衛生規則第10条		←→											
	衛生管理者による職場内巡視	毎週１回	労働安全衛生規則第11条 旭川高専安全衛生管理規程第8条		←→											
	安全衛生委員会による職場内巡視	全国安全週間（「国民安全の日」含む（7/1-7/7），全国労働衛生週間(10/1~10/7)の期間内）						←→			←→					
	安全衛生計画（前年度評価）の策定		労働安全衛生規則第2条		←→									←→		
	安全衛生計画評価（前年度計画評価）の実施				←→									←→		
	外部講師による安全参加の受参						←→									
	衛生管理者免許講習会						←→									
B 安全衛生教育	雇用時安全衛生教育	「安全管理マニュアル」等の周知徹底		今年度新規雇用教職員	←→											
	全国安全週間（「国民安全の日」含む（7/1-7/7），全国労働衛生週間(10/1~10/7)	安全広報資料等の作成，広報を行う。		全教職員・学生				←→		←→						
	救命講習会（AED講習含む）			職員，新規雇用教職員					←→							
	安全衛生委員会			全教職員									←→			
	ヒヤリハット調査アンケート実施			教員				←→								
	５Ｓ（整理，整頓，清掃，清潔，しつけ）の実行	「５ＳＯＢ（整理大掃除）」の周知徹底，掲示物の作成		全教職員				←→								
C 訪問等の受講	安全診断実施後の改善箇所の検討							←→								
D 健康管理	学生の健康診断 （学校保健安全法第6条第1項） （同施行規則第5条各号，第6条各号）	尿検査（蛋白，糖，潜血，ウロビリノーゲン）	学校保健安全法施行規則第5条	本科全学年，専攻科全学年	←→											
		心電図検査	第４号検尿	本科第１学年，編入生，留学生，専攻科第１学年	←→											
		歯科検診		本科１～３年	←→											
		身体測定（体重，身長，座高）		本科全学年，専攻科全学年	←→											
		視力検査		本科全学年，専攻科全学年	←→											
		胸部撮影		本科第１・５学年，編入学生，留学生，専攻科全学年	←→											
		聴力検査		本科第１・３・５学年，専攻科第２学年	←→											
		内科行動診		本科全学年，専攻科全学年	←→											
	教職員の健康診断 （労働安全衛生法第66条第1項第1項第18条）	胸部エックス線検査 （一般定期）	労働安全衛生規則第44条	全教職員					←→							
		心電図検査 （一般定期）	労働安全衛生規則第45条	全教職員					←→							
		聴力検査（1000Hz，4000Hz） （一般定期）	労働安全衛生規則第51条，第5号	３５歳及び４０歳以上（年度末現在，以下同じ）					←→							
		視力検査 （一般定期）		全教職員					←→							
		内科検診（問診，身長，体重，血圧測定） （一般定期）		全教職員					←→							

（出典　平成 22 年度第 12 回安全衛生委員会資料）

資料８－１－①－11

「安全衛生委員会議事要旨抜粋」

平成２２年度第４回　安全衛生委員会　議事要旨

日　時　　平成２２年７月２２日（木）１６：４５～１８：１５
場　所　　中会議室
出席者　　今野，横道，山内，大関，芳川，馬場，立田，畑口，堀川，高田，小西，　石垣，及川　各委員
（計１３名）
欠席者　　栗林委員　（計　１名）
報告事項

１．一般定期健康診断・特別定期健康診断・ＶＤＴ健康診断の実施について　・・・資料１

審議に先立ち委員長から開催案内では議題として掲げたが，内容を確認したところ既に４月の本委員会で了承された安全衛生管理計画に盛り込まれている事項でもあり，報告事項が妥当であると判断して変更した旨，説明があり，別紙資料１のとおり実施する旨の報告があった。

ＶＤＴ健康診断については，昨年度の安全衛生委員会において，本来，全員受診することが望ましいが，予算的な問題もあり，該当者を含め４時間以上日常的に作業を行っている者に対して当面は事務系職員と教員が隔年で実施することとし，平成２１年度は教員に限定して実施した。

本年度は，事務系職員が対象で事前に実態調査を行ったところ２６名が受診対象となった旨の補足説明があった。

２．職場内巡視の結果について　・・・資料２

委員長から，６月第１週から７月第２週までの衛生管理資格者による職場内巡視の結果について，資料２のとおり報告があり，「やや不良」，「不良」としてチェックが付いている箇所について順に検討を行い，該当する各室監守者，室補助監守者に対しては委員長又は関係委員から改善の依頼をし，次回の委員会までに報告することが確認された。

また，前回の指摘事項である●●●●演習室，●●●●●実験室のロッカーの未固定等の件については，既に固定金具の設置要求がなされていることを確認した旨の報告があった。

（出典　平成 22 年度第４回　安全衛生委員会　議事要旨）

資料８－１－①－12

「実習工場マニュアル抜粋」

はじめに

・危険と安全は、背中合わせです。文明の利器である機械(道具)は、使い方次第で安全なものにも危険なものにもなります。

・どんな場合でも自分の身(安全)を守れるのは、あなた自身です。自らの行動に責任と自覚を持ってください。

・我が身を危険から守るために、保護具を正しく使用しなければなりません。

・後で「危険だと知らなかったから」とか「このくらいは大丈夫だと思った」とか「恥ずかしくて言えなかった」などと、いくら弁解しても、結局怪我をして「痛い」のは、自分自身です。だから「思い立った今」やらなくてはなりません。「今」は、すぐに「過去」になってしまいます。

・そのために「やらなければならないこと」「やってはいけないこと」の知識を正しく持たないといけません。

・「ハッとした」「ヒヤッとした」などの経験は、しない方が良いかもしれませんが、見方を変えれば、それが今後自分の安全を守るために役立つはずです。でも、同じ過ちを繰り返していたら、いつか大きな事故に遭うかもしれません。二度と過ちを繰り返さないように行動しなくてはなりません。

・「あの時やっておけば良かった」などと、後で後悔しないようにしましょう。

保護具について

安全帽　上から落ちてくる危険な場所で使用。頭部の損傷を防ぎます。

保護メガネ　切削の際に飛散する切屑などから眼を保護します。

遮光眼鏡（ﾊﾝﾄﾞｼｰﾙﾄﾞ）　遮光眼鏡は、溶接作業や金属溶解作業で有害光線から目を保護します。また、飛散する火花やスパッタから顔を保護します。



革手袋　溶接などで手の火傷防止に使います。※**切削加工では、切屑で機械に巻き込まれるのを防ぐため使用が禁止されています**。

足カバー　溶接作業などで足の火傷を防ぎます。

防毒マスク　有害ガスを防いでくれます。

耳栓　騒音のはげしい場所で耳を守ってくれます。

3

（出典　実習工場マニュアル「安全な作業（工作）を行うために」）

３）バリアフリー化への対応

バリアフリー化への対応（資料８－１－①－13）として，身障者が利用できる多目的トイレ（校舎１階）や学生玄関と図書館入り口等にスロープが設置されている。また，校舎内の同一フロアは段差を無くし，各階へはエレベーターを利用して移動が可能となっている。

資料８－１－①－13

「バリアフリーへの取り組み」

○　学内におけるバリアフリーに関する取り組み（年度ごとの工事実績など）

・　平成１３年度の管理・専攻科棟及び校舎改修工事の際に想定できる範囲で玄関にスロープを作るなどバリアフリー化を実施

・　平成２２年度に第２体育館の外部出入口の扉を車椅子でも出入りしやすいように，引き戸に交換した。

・　平成２２年度に第１体育館アリーナ出入口，第２体育館の外部出入口及び第１体育館と第２体育館を繋ぐ渡り廊下の段差等にスロープを設置した。

（出典　総務課資料）

４）施設・設備の環境面への配慮

本校は、最も寒冷な地域に位置することから，暖房設備が不可欠であるが，現在の暖房用重油ボイラーは老朽化が激しくきわめて効率の低い設備である。本設備を，効率が高く CO_2 排出量の少ない，ガスを用いたボイラーへの交換を計画している。また，重油を用いる実習用溶解炉を，電気を用いる高周波溶解炉に置き換えるなど，CO_2 排出削減効果が大きく、エネルギー効率の高い機器の導入及び更新を推進している。

（分析結果とその根拠理由）

本校の校地・校舎及び施設・設備は，高専設置基準で必要とされる基準を満たしている。また，部屋単位の利用状況を施設点検評価チェックシートを用いて定量的に把握するとともに，設備の状況や利用者からの要望も集約する仕組みが整えられている。また，その内容を施設・防災委員会において検討し，稼働率の向上等に努めている。安全管理の観点に関しては，各種マニュアルの整備とともに，安全衛生委員会による実査を積極的に実施している。バリアフリー化に関しては，スロープ等の導入により校舎内に関してはほぼ全ての場所に車椅子で移動が可能となっている。

以上のことから，教育研究組織の運営及び教育の実現にふさわしい施設・設備が整備され，適切な安全管理の下に有効に活用されている。

観点８－１－②：　教育内容，方法や学生のニーズを満たすＩＣＴ環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

（観点に係わる状況）

本校では，ICT を用いた教育を推進するため，情報処理センター（資料８－１－ ②－１）を設置している。情報処理センターは，学内ネットワーク（資料８－１－②－２）及び３つの演習用端末室（資料８－１－②－３）の管理運営を行っている。情報処理センターが管理する演習用端末室（情報処理センター端末室，マルチメディア実習室，情報処理演習室）には，それぞれ 50 台前後のユーザー用クライアントを配置し，同時に３つの ICT 関連授業を展開できるよう管理運用を行っている。各端末では，平成 23 年度４月に教育用電算システムを更新し，Windows 7 及び Linux(CentOS)等が利用可能である。また，低学年が学ぶ ICT リテラシーに係わるメール，レポート作成のソフトウェアから，高学年が利用する CAD/CAM や数式処理ソフトウェアなど，各科・学科の授業で必要なソフトウェアを十分に網羅している。また，学習面でのサポートのみでなく，就職の求人に関する情報を Web ベースで提供する学内システム（資料８－１－②－４）により就職支援に係わるサービスも提供している。

上記システムは，シンクライアントシステムを採用しており、管理者権限がないユーザーが勝手に不必要なソフトウェアを導入し，ウィルスを感染させることなどが困難なシステム構成とし，セキュリティを確保している。また，インターネットアクセスにおいてはコンテンツフィルタを配置して教育目的以外での利用を排除する仕組みを導入し，悪意のあるソフトウェア等のダウンロードを防いでいる。また，学内ネットワークにおいては，本校で制定した情報セキュリティポリシー（資料８－１－②－５）に基づき，すべての PC にウィルス対策ソフトウェアの導入を義務づけている。また，Windows 及び Mac の環境においては，ウィルスの発生管理を行い，ウィルス対策の強化を図っている。

学内から，外部ネットワークへの接続は２回線用意している。平成 22 年度に SINET への接続を 5Mbps の専用線から 100Mbps の公衆回線網に変更し，トータルで最大 200Mbps の回線容量を確保している。当該回線は，マルチホーミングとなっており，ネットワークシステムの可用性向上に寄与している。また，学内ネットワークから学外に接続する際には，最低２系統のファイヤーウォールアプライアンス機器を通過させることで，学内ネットワークの高いセキュリティレベルを保っている。

平成 23 年度前期の各演習室等の授業による利用状況は、情報処理センター端末室 78%，

マルチメディア実習室 80%，情報処理演習室 63%であり，授業のみで平均 74%の利用率である(資料８－１－②－６)。このほか,臨時使用や授業で利用していない教室の開放により，非常に高い利用率を保っている。また，授業時間外の利用に関しての利用統計（資料８－１－②－７）も継続的に取得し，利用状況の把握に努めている。

休業期間以外は情報処理センター端末室を 19 時まで学生に開放している。他の演習室は原則 17 時までの開放であるが，利用者が多い場合には 19 時まで利用可能とし，最大 150 名まで対応できる体制をとっている。17 時から 19 時まで開室している日（資料８－１－①－３(505 ページ前出)）における１日あたりの平均利用者数（2010/4～12 の統計データ）は 55 名であり，情報処理センター端末室の端末１台あたり１名以上が利用していることになる。

平成 23 年度の教育システムの更改に当たっては，各科及び学科からの代表者に加え，先進的な ICT 技術を活用している教員を仕様策定の委員とし，委員からの要望を最大限取り入れるようにした。学内ネットワークに関しては，平成 24 年度に更改を控えているが，現状においても学内基幹網はギガビットネットワークが提供され，最先端の ICT 環境との乖離が生じないように最大限の対応を行っている。平成 24 年度のネットワークシステム更改においても，世の中の最新動向を見極めつつ，学内意見を最大限反映したシステムの構築を図る予定である。

資料８－１－②－１

「情報処理センター概要」

情報処理センター
Information Procession Center

情報処理センターには，教育用として，センター端末室，マルチメディア実習室，情報処理演習室の３室があり，WindowsXPとLinuxをOSとするPCがそれぞれほぼ50台設置され，コンピュータ言語，コンピュータ・リテラシー，数値解析，コンピュータ・グラフィックス，CADなどの教育の他，レポート作成，インターネットによる情報収集などに利用されています。一方，センターが管理運営する学内ネットワークシステムは学生の学習環境及び教職員の日常業務のインフラとして不可欠なものであることから，無線LANをもカバーしたギガビットネットワークによる高度に整備されたシステムが導入されています。

Information Processing Center has three rooms for educational purposes : a center terminal room, a multimedia workshop and an information processing workshop. Each room is equipped with 50 personal computers whose OS is Windows XP or Linux. Those computers are used for education on computer language, computer literacy, numerical analysis, computer graphics, and CAD as well as or report writing and information retrieval on Internet. Campus LAN System is under the management and control of the center, and since it forms an essential infrastructure of education and research and business service for teachers and office workers, the system adopts a gigabit network covering wireless LAN.



情報処理センター端末室　Information Processing Center Terminal Room



マルチメディア実習室　Multimedia Workshop

施設・設備概要
Facilities and Equipments

学内LANシステム
Campus LAN System

ネットワーク負荷分散装置　1台
Load Balancer : (×1)

ファイアーウォール装置　1台
Fare wall devices : (×1)

メールサーバ　1台
Mai server : (×1)

DNSサーバ　1台
DNS server : (×1)

ゲートウェイ型ウイルス対策サーバ　1台
Server to counter a gateway type of virus : (×1)

学内ウイルス対策管理サーバ　1台
Server to counter and manage inside virus : (×1)

コンテンツフィルターサーバ　1台
Content filter server : (×1)

ファイルサーバ　1台
File Server : (×1)

ギガビットスイッチ　1式
Giga Bit Switch : (×1)

無線LANシステム　1式
Wireless LAN system : (×1)

プロキシサーバ　1台
Proxy Server : (×1)

CMSサーバ　1台
CMS server : (×1)

教育用システム
Computer System for Education

●情報処理センター端末室
Information Processing Center Terminal Room

パーソナルコンピュータ　56台
Personal computer : (×56)

プロジェクター(170インチリアプロジェクション式)　1台
Projector (170-inch rear projection type) : (×1)

プロジェクター(150インチスクリーン)　2台
Projector (150-inch screen) : (×2)

レーザープリンタ　2台
Laser Printer : (×2)

●マルチメディア実習室
Multimedia Workshop

パーソナルコンピュータ　52台
Personal computer : (×52)

プロジェクター(100インチスクリーン)　2台
Projector (100-inch screen) : (×2)

レーザープリンタ　2台
Laser Printer : (×2)

●情報処理演習室
Information Processing Workshop

パーソナルコンピュータ　42台
Personal computer : (×42)

プロジェクター(100インチスクリーン)　1台
Projector (100-inch screen) : (×1)

レーザープリンタ　2台
Laser Printer : (×2)

●教育用システムサーバ室
Server Room

Windowsサーバ　7台
Windows Server : (×7)

Linuxサーバ　1台
Linux Server : (×1)

ファイルサーバ　1台
File Server : (×1)

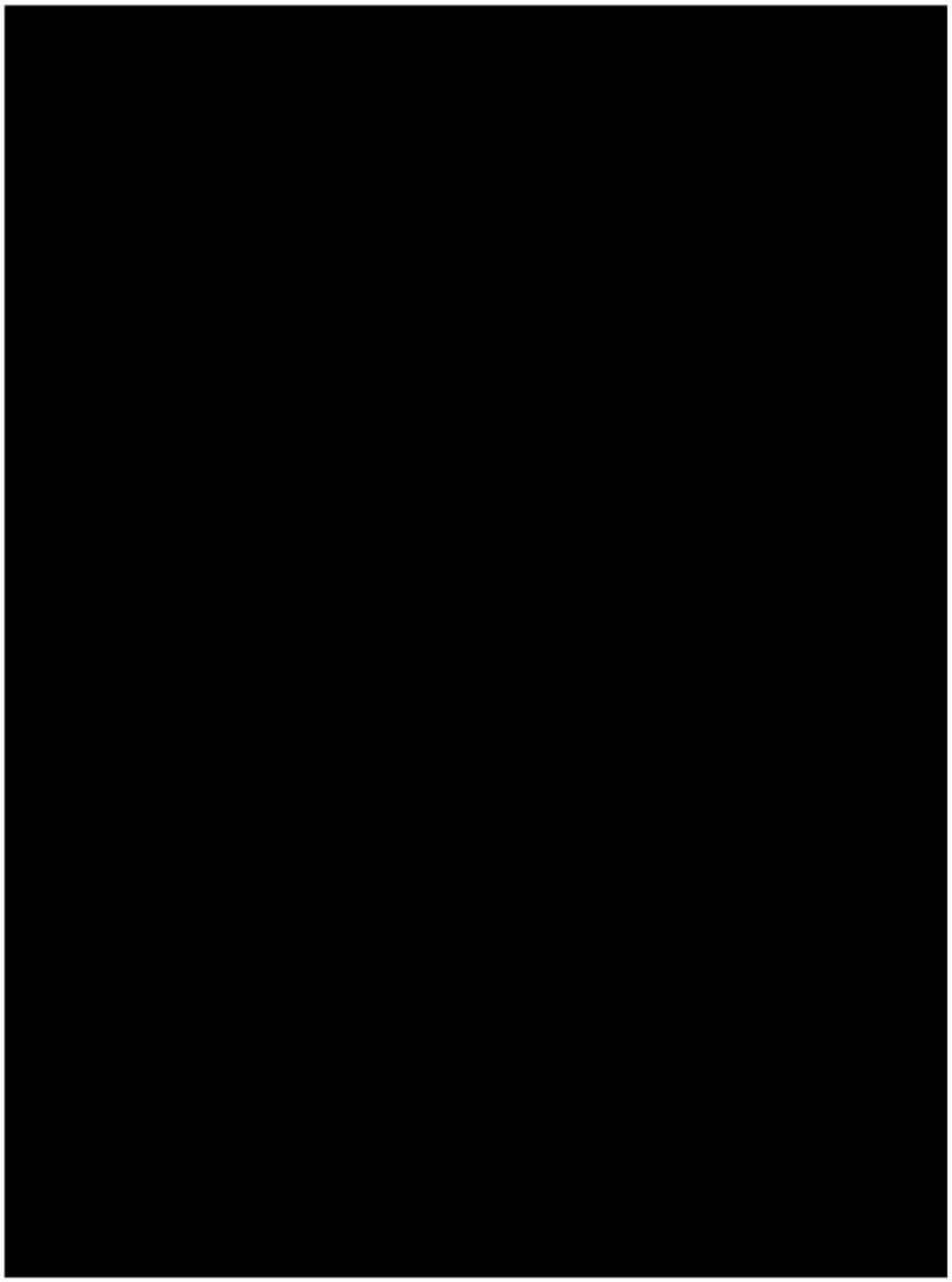
パーソナルコンピュータ　1台
Personal computer : (×1)

LMSサーバ　3台
LMS Server : (×3)

（出典　平成 22 年度学校要覧 P. 25）

資料８－１－②－２

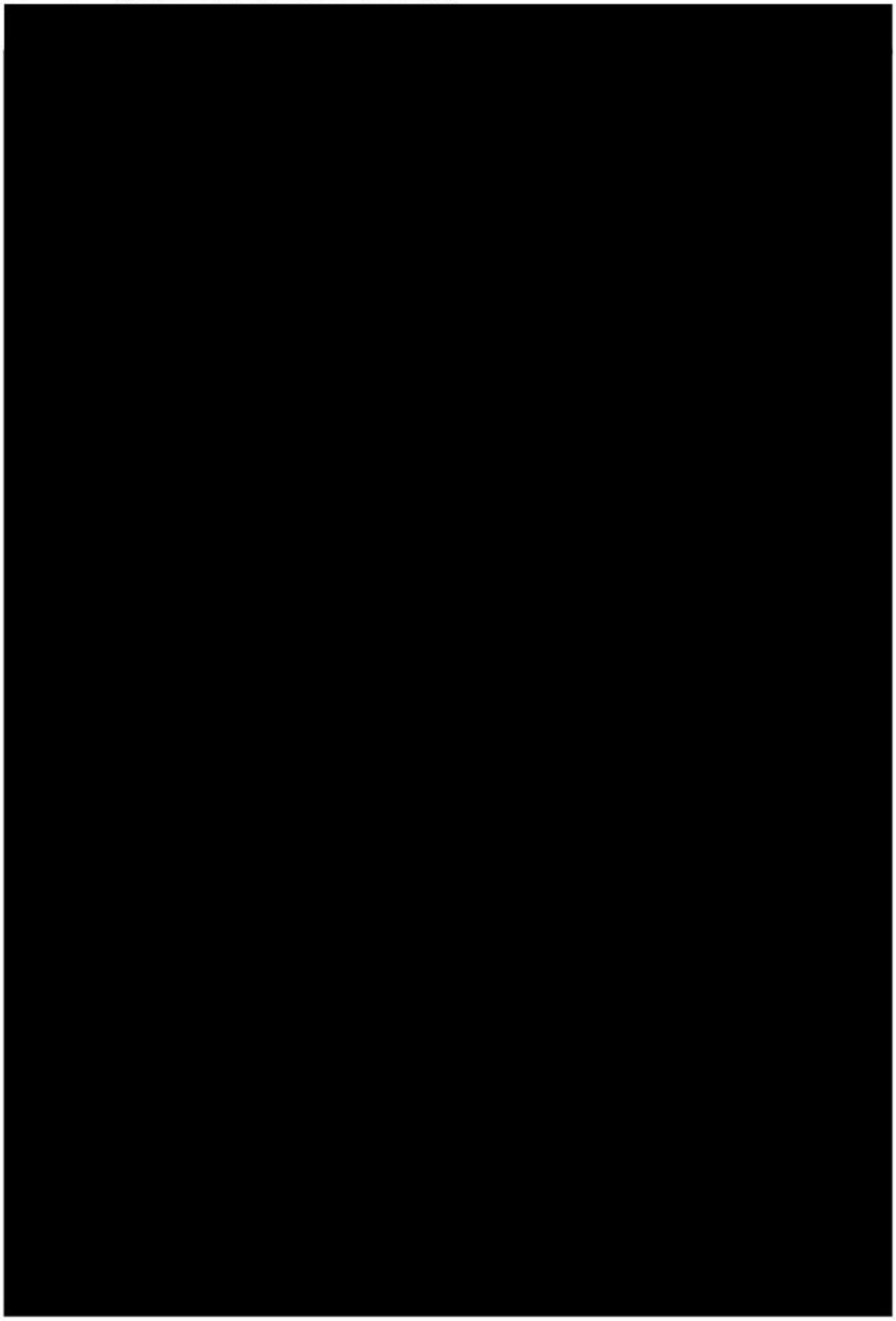
「学内ＬＡＮ及び教育システムＮＷ図（平成 22 年４月）」



（出典　情報処理センター資料）

資料８－１－②－３

「教育システム概略ＮＷ図（平成 22 年４月）」



（出典　情報処理センター資料）

資料８－１－②－４

「就職等情報システム(WEB 画面)」



（出典　就職等情報システム）

資料８－１－②－５

「旭川工業高等専門学校セキュリティ管理規程抜粋」

〇旭川工業高等専門学校情報セキュリティ 管理規程
（ 平成２２.９.２９　達第4 号）

旭川工業高等専門学校情報セキュリティ 管理規程

第1 章　総則

（ 目的）
第1 条　この規程は，独立行政法人国立高等専門学校機構旭川工業高等専門学校（ 以下「 本校」という 。）における情報セキュリティ 対策に関する全般的事項及び管理的事項を定めることにより，情報セキュリティ の維持向上に資することを目的とする。
2　情報セキュリティ 対策に関する専門的及び技術的な事項については，旭川工業高等専門学校情報セキュリティ 推進規程（ 平成22年達第5 号）の定めるところによる。

（ 定義）
第2 条　この規程における用語の定義は，この規程で定めるものを除き，独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティ ポリシー対策規則（ 機構規則第９８号。以下「 対策規則」という 。）別表及び独立行政法人国立高等専門学校機構情報格付規則（ 機構規則第９９号）の定めるところによる。

（ 適用範囲）
第3 条　この規程を適用する情報資産の範囲は，機構が扱う 情報及び本校の情報システムとする。
2　本校の情報システムの範囲は，別表1 のとおりとする。

第4 条　本校の教職員の範囲は，別表2 のとおりとする。
2　本校の学生の範囲は，別表3 のとおりとする。
3　本校の教職員，学生及び第9 条第1 項に基づき情報資産を本校の業務遂行を目的として一定期間にわたり継続的に利用する許可を得て利用する者を「 経常的利用者」と称する。
4　第9 条第2 項に基づき情報資産を臨時に利用する許可を得て利用する者を「 臨時利用者」と称する。
5　本校の教職員及び第9 条第1 項に基づき情報資産を本校の業務遂行を目的として一定期間にわたり継続的に利用する許可を得て利用する者を「 業務従事者」という 。

第5 条　この規程の適用区域は，本校の管理区域とする。
2　本校の管理区域の範囲は，別表4 のとおりとする。

（ 組織体制）

（出典　本校ウェブサイト:例規集）

資料８－１－②－６

「平成 23 年度　前期　情報処理センター授業利用スケジュール」

情報処理センター　利用クラス　H23前期

H23/04/01

H23前期		月	火	水	木	金	土	日
1	8:40～9:30	４Ｅ ソフトウェア工学 笹岡	４Ｍ プログラミング応用Ⅰ 石井	３Ｍ プログラミング基礎 後藤		５Ｓ 計算力学 阿部		
2	9:35～10:25							
3	10:35～11:25		5E コンピュータ工学 小山	５Ｓ 計算力学 戸村	３Ｓ コンピュータグラフィックス 橋本	３Ｓ 形状処理基礎 今野		
4	11:30～12:20							
5	13:05～13:55	３Ｅ プログラミング実習Ⅱ 笹岡		３Ｃ 情報処理 高田･杉本	４Ｓ 計算機援用設計製図Ⅰ 戸村	４Ｓ 工学実験Ⅰ 橋本･佐竹･大柏･戸村･堀川･森川		
6	14:00～14:50		１Ｃ 基礎化学実験 小林･富樫･杉本･千葉（誠）・堺井・青山					
7	14:55～15:45	４Ｓ 電子計算機Ⅰ 橋本						
8	15:50～16:40							

専攻科　5年　4年　3年　2年　1年

マルチメディア室　利用クラス　H23前期

H23/04/01

H23前期		月	火	水	木	金	土	日
1	8:40～9:30	5S 自動設計学Ⅰ 橋本	１Ｓ 情報基礎 久志野・嶋田		５Ｓ 数値解析Ⅰ 今野			
2	9:35～10:25							
3	10:35～11:25	1C 情報基礎 久志野・嶋田	４Ｃ 情報処理演習 千葉（誠）	2P 情報通信工学 笹岡	１Ｅ 情報基礎 久志野・嶋田	4E 創成工学演習A 大島・筆・井口・技術職員		
4	11:30～12:20							
5	13:05～13:55	５Ｓ 工学実験3 今野・三井・佐竹・阿部・戸村・森川・技術職員	３Ｅ 電気情報工学基礎実験Ⅱ 有馬・笹岡・畑口・技術職員	１Ｍ 情報基礎 久志野・嶋田	5M 機械システム工学演習 岡田・松岡・技術職員			
6	14:00～14:50							
7	14:55～15:45					２Ｓ 情報処理 今野		
8	15:50～16:40							

専攻科　5年　4年　3年　2年　1年

「平成 23 年度　前期　情報処理センター授業利用スケジュール（続き）」

情報処理演習室　利用クラス　H23前期

H23/05/09

H23前期		月	火	水	木	金	土	日
1	8:40～9:30		１－４ 英語Ⅰ 櫻井		５Ｅ 情報理論 笹岡	4S ロボット 機構学Ⅱ 佐竹		
2	9:35～10:25			３Ｓ ＣＡＤ／ＣＡＭ演習 佐竹･技術職員				
3	10:35～11:25	４Ｍ 機械設計演習Ⅰ 後藤	１－３ 英語Ⅰ 櫻井					
4	11:30～12:20				１－１ 英語Ⅰ 鈴木	１－２ 英語Ⅰ 鈴木		
5	13:05～13:55		１Ｓ 電子計算機概論 戸村	４Ｓ ロボット 機構学Ⅰ 佐竹	２Ｅ 電気情報工学 基礎実験Ⅰ 吉本・大島・井口・技術職	３Ｍ 機械創造実習 岡田・ 技術職員		
6	14:00～14:50							
7	14:55～15:45		5S 産業財産権論 谷口					
8	15:50～16:40							

専攻科　5年　4年　3年　2年　1年

（出典　情報処理センター　ホームページ）

資料８－１－②－７

「授業外利用者数等一覧（平成 22 年度状況）抜粋」

情報処理演習室

		am8:30		am10:30		pm12:50		pm3:00		合計
		人数	温度	人数	温度	人数	温度	人数	温度	人数
2月01日	火	1	17℃		18℃	7	20℃		20℃	8
2月02日	水		22℃	6	26℃		22℃	30	23℃	36
2月03日	木		24℃	3	25℃	17	23℃	19	24℃	39
2月04日	金		22℃	2	22℃	4	20℃	1	19℃	7
2月05日	土									0
2月06日	日									0
2月07日	月		22℃	5	24℃	7	20℃	32	21℃	44
2月08日	火		22℃	4	20℃	12	22℃	1	24℃	17
2月09日	水	3	27℃	2	24℃	6	23℃	10	22℃	21
2月10日	木		19℃	1	18℃	4	18℃	8	18℃	13
2月11日	金									0
2月12日	土									0
2月13日	日									0
2月14日	月	2	22℃	98	20℃	12	20℃	34	22℃	146
2月15日	火		24℃	5	23℃	16	22℃	1	22℃	22
2月16日	水		22℃	5	20℃	7	21℃	20	24℃	32
2月17日	木		18℃		20℃		20℃		20℃	0
2月18日	金		22℃	21	13℃	20		20		61
2月19日	土									0
2月20日	日									0
2月21日	月		26℃		26℃		20℃		20℃	0
2月22日	火		22℃	3	22℃		22℃	9	20℃	12
2月23日	水		27℃		24℃	7	22℃	21	21℃	28
2月24日	木	1	24℃	7	22℃		22℃	34	24℃	42
2月25日	金		22℃		21℃	5	20℃	11	23℃	16
2月26日	土									0
2月27日	日									0
2月28日	月		26℃		26℃		22℃		22℃	0
										544

（出典　情報処理センター資料）

（分析結果とその根拠理由）

長期休暇を除く平日は，教育システムを 8:30 から 19:00 まで授業または学生が使えるようにサービスを提供し，学生の利用状況に応じて柔軟にシステムを運用して有効利用を図っている。教育システムでは，レポート作成や CAD/CAM などの専門に係わる学習に対応できるアプリケーションが利用できる環境を提供するとともに，ICT リテラシーが向上できる授業のカリキュラムが各学科によって提供されている。セキュリティ面では，二重のファイヤーウォールを設置し，学生がインターネットを利用する際にはコンテンツフィルタを設置するなど，本校のセキュリティポリシーを遵守するためのネットワーク環境を十分に整えている。授業及び学生の教育システムの利用率などから，ICT 環境で提供されている機能は十分であるといえる。また，セキュリティ面に関しても厳格な管理により，これまでにセキュリティに係わるインシデントは発生していないことから，本観点に関して十分な取り組みが行われているといえる。

以上のことから，ICT環境は十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されている。

観点８－２－①: 図書,学術雑誌,視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集,整理されており，有効に活用されているか。

（観点に係わる状況）

本校の図書館（資料８－２－①－１）には，平成 22 年３月１日現在で図書 99,954 冊（和書 89,058 冊，洋書 10,896 冊），雑誌 569 種（和雑誌 421 種，洋雑誌 148 種）が所蔵され,「日本十進分類法」により主題別に閲覧室に配架（資料８－２－①－２）されている。また，年度ごとにカリキュラムに対応した図書の選定を行い，系統的にコンテンツを整備している。また,教員が研究費で購入した,すべての書籍を図書館でデータベース化して管理している。さらに，図書館が提供する Web による蔵書検索により，学内及び学外からも蔵書の検索を可能としている。電子ジャーナルについては，SienceDirect，ACS（関連 38 紙），AIP/APS（関連 13 誌），Sciende AAAS オンライン版などが利用可能になっている。（資料８－２－①－３）

視聴覚資料として，ビデオ 414 本，DVD745 本が用意されており，視聴覚コーナーで視聴することができる。平成 17 年度以降の図書館の利用者数は，平成 18 年度の約５万５千人の利用者をピークとして，平成 22 年度では４万４千人台となり約２割の減少がみられるが（資料８－２－①－４），貸出件数は平成 17 年度から２割弱の増加を示している（資料８－２－①－５）。

図書館の利用促進イベント（資料８－２－①－６）として，新入学生に対するオリエンテーションや,第５学年及び専攻科生に対して JDream 等検索ツール講習会を毎年４月に実施している。また，図書館フェアー（夏休み，冬休み等）を年間４回，学生によるブックハンティングを年１回（資料８－２－①－７～９），その他ボランティアによる活動などを実施し，利用促進を図っている。また，図書館入り口にはリクエストポストを設置し，学生からの意見集約や時代の要請に適した図書の導入が図れるように意見・要望を集約する手段を設けている。

資料８－２－①－１

「図書館センター概要」

図書館センター
Library Center

図書館センターには，図書室，談話ホールが設けられており，学生の学習や卒業研究，教員の教育研究活動などに活発に利用されています。

Library Center has a library and a lounge. Students use the center for studying, writing reports, and graduation theses, and teachers use it for education and research activities.

施設・設備概要
Facilities and Equipments

図書室，談話ホール
Library, lounge hall



談話ホール　Lounge Hall

図書室 Library



図書館閲覧室　Library Reading Room

書架は全て開架式になっており，利用者が全ての図書を自由に取り出して見ることができます。

また，図書・雑誌のほかにDVD，ビデオ等の視聴覚資料を取り揃えており，視聴覚コーナーにおいて視聴することができます。

なお，図書室は学外者にも生涯学習の場として開放しています。

Our library is an open-shelf one, so users are free to go to any shelf and on their own look for every books they want to read. In addition to books and magazines, we have a great number of audio visual materials such as DVD's and video tapes in stock, and users individually can replay them in the audio visual corner. The library is also open to the public as a place for pursuing their lifelong education.

利用状況（平成21年度）
Using of Library (2009)

利用者数 Number of Users	48,119
開室日数 Number of Days Open	265
1日平均利用者数 Average Number of Users per Day	181.6

貸し出し状況（平成21年度）
Number of Borrowed Books and Borrowers (2009)

区分 Classification	学生 Students	教職員 Faculties	学外者 Public	合計 Total
貸出者数 Borrowers	3,541	504	122	4,167
貸出冊数 Borrowed Books & Magazines	7,117	1,148	232	8,497

蔵書数（平成22年3月31日現在）
Collection of Books (As of March 31, 2010)

区分 Classification		和書 Japanese	洋書 Foreign	合計 Total
単行本冊数 Books		89,092	10,862	99,954
雑誌種類 Magazines		421	148	569
視聴覚資料 Audio visual materials	ビデオ Video tapes	414		414
	DVD DVD's	745		745

時間外利用状況（平成21年度）
Using of Extension Time (2009)

区分 Classification	土曜日 Saturday	平日夜間 Night Time of Weekday
開室日数 Number of Days Open	33	178
利用者数 Number of Users total	2,104	11,373
1日平均利用者数 Average Number of Users per Day	63.8	63.9
貸出冊数 Borrowed books & Magazines	306	2,007
1日平均貸出冊数 Average Number of Books borrowed per Day	9.3	11.3

図書室の開室日・閉室日
Open and Closed Days

開室日 Open	閉室日 Closed
平　日：9:00～19:45 Weekday 土曜日：9:00～16:30 Saturday ただし，春期・夏期・冬期及び学年末休業期間の平日は9:00～17:00 Weekdays of spring, summer, winter and terminal vacations.	日曜日，国民の祝日，年末年始の休日及び春期・夏期・冬期及び学年末休業期間の土曜日 Sundays, national holidays, year-end to new-year days, and Saturdays during spring, summer, winter, and terminal vacations

（出典　平成 22 年度学校要覧 P. 24）

資料８－２－①－２

「図書分類概要」

開架書架

1. 002-007:総記
2. 010-120:総記　哲学
3. 120-130:哲学
4. 120-210:哲学　心理学　宗教　歴史
5. 210-289:歴史　伝記
6. 289-320:伝記　地理　紀行　政治　法律
7. 320-370:法律　経済　財政　統計　社会　教育
8. 370-390:教育　風俗習慣　民族学　国防　軍事
9. 410　:数学
10. 410-420:数学　物理学
11. 420-431:物理学　化学
12. 431-450:化学　天文学　宇宙科学　地球科学　地学　地質学
13. 450-490:地球科学　地学　地質学　生物科学　一般生物学　植物学　動物学　医学　薬学
14. 490　:医学　薬学
15. 501-519:建設工学　土木工学
16. 519-533:建設工学　土木工学　建築学　機械工学　原子力工学
17. 534-544:機械工学　電気工学　電子工学
18. 544-549:電気工学　電子工学
19. 549-571:電気工学　電子工学　海洋工学　船舶工学　兵器　金属工学　鉱山工学　化学工業
20. 570-750:化学工業　製造工業　家政学　生活科学　産業　彫刻　絵画　書道　写真　印刷　工芸
21. 760-780:音楽　舞踊　演劇　映画　スポーツ　体育
22. 780-815:スポーツ　体育　日本語
23. 810-830:日本語　中国語　東洋の諸言語　英語
24. 840-910:ドイツ語　フランス語　スペイン語　イタリア語　ロシア語　その他の諸言語　日本文学
25. 911-913:日本文学
26. 913　:日本文学
27. 913-918:日本文学
28. 918　:日本文学
29. 918-980:日本文学　中国文学　東洋文学　英米文学　ドイツ文学　フランス文学　スペイン文学　イタリア文学　ロシア文学
30. 教科書
31. JABEE関連図書
32. 新刊図書

電動書架A

1. 洋雑誌　A-B
2. 洋雑誌　C-I
3. 洋雑誌　I-I
4. 洋雑誌　I-J
5. 洋雑誌　J-J
6. 洋雑誌　J-J
7. 洋雑誌　J-M
8. 洋雑誌　M-S
9. 洋雑誌　T-Z　和雑誌　A-B
10. 和雑誌　B-C
11. 和雑誌　D-D
12. 和雑誌　D-G
13. 和雑誌　G-H
14. 和雑誌　H-H
15. 和雑誌　J-K
16. 和雑誌　J-K
17. 和雑誌　K-K
18. 和雑誌　K-K
19. 和雑誌　K-N
20. 和雑誌　N-N
21. 和雑誌　N-O
22. 和雑誌　O-R
23. 和雑誌　S-S
24. 和雑誌　S-T
25. 和雑誌　T-T
26. 和雑誌　T-Z
27. 洋書　000(総記)-410.7(数学:教育)
28. 洋書　410.7(数学:教育)-431.7(化学:電気化学)
29. 洋書　431.8(化学:コロイド化学)-570-(化学工業)
30. 洋書　571(化学工業)-930(英米文学)
31. 洋書　931(英米文学:詩)-999(その他の諸文学)

電動書架B

1. 研究図書　東洋文庫　000(総記)-081(総記:全集)
2. 研究図書　081(総記:全集)-159(哲学:人生訓)
3. 研究図書　160(宗教)-210.088(歴史:日本史)
4. 研究図書　210.088(歴史:日本史)-218(歴史:四国地方)
5. 研究図書　219(歴史:九州地方)-309(社会科学:社会思想)
6. 研究図書　309.3(社会科学:マルクス主義)-499(医学・薬学)
7. 研究図書　500(技術)-829(言語:東洋の諸言語)
8. 研究図書　830(言語:英語)-910.3(文学:日本文学～参考図書)
9. 研究図書　910.4(文学:日本文学～論文講演集)-913.2(日本文学:小説)
10. 研究図書　913.3(文学:小説)-999(文学:その他の文学)
11. 法令全集　現行法規
12. 保存図書　000(総記)-149(心理学:応用心理学)
13. 保存図書　150(論理学・道徳)-291.03(地理・地誌・紀行:日本)
14. 保存図書　291.03(地理・地誌・紀行:日本)-377.3(教育:短大・高専)
15. 保存図書　377.302(教育:短大・高専・歴史)-410. 2(数学:歴史)
16. 保存図書　410.3(数学:辞典・便覧)-413.1(数学:解析学)
17. 保存図書　413.3(数学:微積分学)-420.72(物理学:実験法)
18. 保存図書　420.8(物理学:全集)-431.9(化学:高分子化学)
19. 保存図書　432(化学:実験化学)-499(医学・薬学)
20. 保存図書　500(技術)-509(工業・工業技術)
21. 保存図書　509(工業・工業経済)-530(機械工学)
22. 保存図書　531(機械工学:機械力学・材料・設計)-539(機械工学:原子力工学)
23. 保存図書　540(電気工学)-547.14(電気工学:通信工学)
24. 保存図書　547.15(電気工学:通信工学)-570.8(化学工業)
25. 保存図書　571(化学工業:化学工学)-798(芸術:室内娯楽)
26. 保存図書　800(言語)-917(文学:日本文学・風刺・ユーモア)
27. 保存図書　918(文学:日本文学作品集)-999(文学:その他の諸言語)
28. 教科書・岩波文庫
29. 年鑑・法規関係
30. 大型本・JISハンドブック
31. 北海道資料　000(総記)-211.2(日本史:釧路・根室)
32. 北海道資料　211.3(日本史:十勝)-211.7(日本史:後志・胆振)
33. 北海道資料　211.8(日本史:渡島・桧山)-357(一般統計書)
34. 北海道資料　358(人口統計)-519(公害・環境工学)
35. 北海道資料　520(建築学)-999(その他の諸文学)
36. 北海道資料　大型本

（出典　図書館センター資料）

資料８－２－①－３

「電子ジャーナル利用状況抜粋」

Group: Asahikawa National College of Technology, G000081891

_JR1 Number of Successful Full-Text Article Requests by Month and Journal (Year 2010)

Journal	Publisher	Platform
Total		
Academic Pediatrics	Elsevier	ScienceDirect
ACC Current Journal Review	Elsevier	ScienceDirect
Accident Analysis & Prevention	Elsevier	ScienceDirect
Accident and Emergency Nursing	Elsevier	ScienceDirect
Accounting Forum	Elsevier	ScienceDirect
Accounting, Management and Information Technologies	Elsevier	ScienceDirect
Accounting, Organizations and Society	Elsevier	ScienceDirect
Acta Agronomica Sinica	Elsevier	ScienceDirect
Acta Anaesthesiologica Taiwanica	Elsevier	ScienceDirect
Acta Astronautica	Elsevier	ScienceDirect
Acta Automatica Sinica	Elsevier	ScienceDirect
Acta Biomaterialia	Elsevier	ScienceDirect
Acta Ecologica Sinica	Elsevier	ScienceDirect
Acta Genetica Sinica	Elsevier	ScienceDirect
Acta Histochemica	Elsevier	ScienceDirect
Acta Materialia	Elsevier	ScienceDirect
Acta Mathematica Scientia	Elsevier	ScienceDirect
Acta Mechanica Solida Sinica	Elsevier	ScienceDirect
Acta Metallurgica	Elsevier	ScienceDirect
Acta Metallurgica et Materialia	Elsevier	ScienceDirect
Acta Oecologica	Elsevier	ScienceDirect
Acta Psychologica	Elsevier	ScienceDirect
Acta Tropica	Elsevier	ScienceDirect
Actas Dermo-Sifiliográficas (English Edition)	Elsevier	ScienceDirect
Actualités Pharmaceutiques	Elsevier	ScienceDirect
Actualités Pharmaceutiques Hospitalières	Elsevier	ScienceDirect
Acute Pain	Elsevier	ScienceDirect
Ad Hoc Networks	Elsevier	ScienceDirect
Addictive Behaviors	Elsevier	ScienceDirect
Additives for Polymers	Elsevier	ScienceDirect
Advanced Cement Based Materials	Elsevier	ScienceDirect
Advanced Drug Delivery Reviews	Elsevier	ScienceDirect
Advanced Energy Conversion	Elsevier	ScienceDirect
Advanced Engineering Informatics	Elsevier	ScienceDirect
Advanced Powder Technology	Elsevier	ScienceDirect
Advances in Accounting	Elsevier	ScienceDirect
Advances in Applied Mathematics	Elsevier	ScienceDirect
Advances in Colloid and Interface Science	Elsevier	ScienceDirect
Advances in Engineering Software	Elsevier	ScienceDirect
Advances in Engineering Software (1978)	Elsevier	ScienceDirect
Advances in Engineering Software and Workstations	Elsevier	ScienceDirect
Advances in Environmental Research	Elsevier	ScienceDirect
Advances in Enzyme Regulation	Elsevier	ScienceDirect

1/165

Journal Report 1 (R3)　Number of Successful Full-Text Article Requests by Month and Journal
ASAHIKAWA NATL COLL OF TECH
Date run:
2011/5/24

	Publisher	Platform	Print ISSN	Online ISSN	Jan-10
Total for all journals		ACS Publications			37
Accounts of Chemical Rese	American C	ACS Pub	0001-4842	1520-4898	1
Organometallics	American C	ACS Pub	0276-7333	1520-6041	0

Journal Report 1b (R3)　Number of Successful Full-Text Article Requests by Month and Journal
ASAHIKAWA NATL COLL OF TECH
Date run:
2011/5/24

	Publisher	Platform	Print ISSN	Online ISSN	Jan-10
Total for all journals		ACS Publications			37
Accounts of Chemical Rese	American C	ACS Pub	0001-4842	1520-4898	1
Organometallics	American C	ACS Pub	0276-7333	1520-6041	0

Journal Report 1a (R3)　Number of Successful Full-Text Article Requests from an Archive by Month
Archive Content

ASAHIKAWA NATL COLL OF TECH
Date run:
2011/5/24

	Publisher	Platform	Print ISSN	Online ISSN	Jan-10
Total for all journals		ACS Publications			0
Accounts of Chemical Rese	American C	ACS Pub	0001-4842	1520-4898	0
Organometallics	American C	ACS Pub	0276-7333	1520-6041	0

Journal Report 2 (R3)　Turnaways by Month and Journal
ASAHIKAWA NATL COLL OF TECH
Date run:
2011/5/24

	Publisher	Platform	Print ISSN	Online ISSN	Page type
Total for all journals		ACS Publications			Full-text turnaways
Accounts of Chemical Rese	American C	ACS Pub	0001-4842	1520-4898	Full-text turnaways
Organometallics	American C	ACS Pub	0276-7333	1520-6041	Full-text turnaways

Journal Report 3 (R3)　Number of Successful Item Requests and Turnaways by Month, Journal and
ASAHIKAWA NATL COLL OF TECH
Date run:
2011/5/24

Journal Name	Publisher	Platform	Print ISSN	Online ISSN	Page Type
Total for all journals		ACS Publications			Table of Contents
Total for all journals		ACS Publications			Abstracts
Total for all journals		ACS Publications			References
Total for all journals		ACS Publications			Full-text Postscript
Total for all journals		ACS Publications			Full-text PDF
Total for all journals		ACS Publications			Full-text HTML
Total for all journals		ACS Publications			Full-text Total
Total for all journals		ACS Publications			Full-text PDF Turnaways
Total for all journals		ACS Publications			Full-text HTML Turnaways
Accounts of Chemical Rese	American C	ACS Pub	0001-4842	1520-4898	Table of Contents
Organometallics	American C	ACS Pub	0276-7333	1520-6041	Full-text HTML Turnaways

Database Report 3 (R3)　Total Searches and Sessions by Month and Service
ASAHIKAWA NATL COLL OF TECH
Date run:

Scitation®
Usage Report Service

Date: 1/5/2011

Asahikawa Natl College of Tech
10269621

JOURNAL REPORT 1

(Number of Successful Full-Text Article Requests by Month and Journal)

	Publisher	Platform	Print ISSN	Online ISSN	Jan-2010	Feb-2010	Mar-2010	Apr-2010	May-2010	Jun-2010	Jul-2010	Aug-2010	Sep-2010	Oct-2010	Nov-2010	Dec-2010	YTD Total	YTD HTML	YTD PDF
Total for all Journals		Scitation			0	3	4	1	1	5	11	26	8	8	2	8	77	0	77
Applied Physics Letters	AIP	Scitation	0003-6951	1077-3118	0	3	3	0	1	2	4	22	7	8	1	3	54	0	54
Journal of Applied Physics	AIP	Scitation	0021-8979	1089-7550	0	0	0	0	0	2	5	3	1	0	0	0	11	0	11
Physics of Fluids	AIP	Scitation	0031-9171	1089-7666	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Physics of Fluids	AIP	Scitation	1070-6631	1089-7666	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Physics of Fluids A - Fluid Dynamics	AIP	Scitation	0899-8213	1089-7666	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Physics of Fluids B - Plasma Physics	AIP	Scitation	0899-8221	1089-7674	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Physics of Plasmas	AIP	Scitation	1070-664X	1089-7674	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Review of Scientific Instruments	AIP	Scitation	0034-6748	1089-7623	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
The Journal of Chemical Physics	AIP	Scitation	0021-9606	1089-7690	0	0	0	1	0	1	2	1	0	0	1	5	11	0	11
Journal of the Society for Information Display	SID	Scitation	1071-0922	n/a	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SID Symposium Digest of Technical Papers	SID	Scitation	0003-966X	n/a	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

APS physics
Usage Report Service

Date: 1/3/2011

Asahikawa Natl College of Tech
10269621

JOURNAL REPORT 1

(Number of Successful Full-Text Article Requests by Month and Journal)

	Publisher	Platform	Print ISSN	Online ISSN	Jan-2010	Feb-2010	Mar-2010	Apr-2010	May-2010	Jun-2010	Jul-2010	Aug-2010	Sep-2010	Oct-2010	Nov-2010	Dec-2010	YTD Total	YTD HTML	YTD PDF
Total for all Journals		APS			8	20	11	122	24	6	9	12	20	63	3	40	338	0	338
Physical Review A	APS	APS	1050-2947	1094-1622	0	1	1	2	4	0	3	0	0	4	0	1	16	0	16
Physical Review B	APS	APS	1098-0121	1550-235X	0	2	0	50	2	1	0	0	2	2	0	0	59	0	59
Physical Review C	APS	APS	0556-2813	1089-490X	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Physical Review D	APS	APS	1550-7998	1550-2368	5	7	8	13	10	0	2	3	8	42	1	34	133	0	133
Physical Review E	APS	APS	1539-3755	1550-2376	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	4	0	4
Physical Review Letters	APS	APS	0031-9007	1079-7114	2	5	2	47	4	0	1	9	8	12	2	4	96	0	96
Physical Review Online Archive (PROLA)	APS	APS	n/a	n/a	1	2	0	3	3	1	2	0	0	1	0	0	13	0	13
Reviews of Modern Physics	APS	APS	0034-6861	1539-0756	0	3	0	5	1	4	1	0	2	0	0	1	17	0	17

Page 1

（出典　図書館センター資料）

資料８－２－①－４

「図書館センター利用者推移」

	開館日数				年度入館者数	日平均入館者数
	平日昼間	平日夜間	土曜日	総日数		
平成１７年度	240	181	32	272	52,011	191.2
（学外者）					(63)	(0.2)
平成１８年度	242	177	31	273	55,242	202.4
（学外者）					(88)	(0.3)
平成１９年度	240	176	30	270	53,208	197.1
（学外者）					(79)	(0.3)
平成２０年度	232	181	32	264	51,547	195.3
（学外者）					(126)	(0.5)
平成２１年度	232	178	33	265	48,119	181.6
（学外者）					(153)	(0.6)
平成２２年度	218	185	36	254	44,696	176.0
（学外者）					(176)	(0.7)
平均	234.0	180.0	32.0	266.0	50,804.0	190.8

（出典　図書館センター資料）

資料８－２－①－５

「図書館センター分類別貸出件数」

		総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	雑誌	計
H17	学生	360	96	85	257	2,192	1,574	24	320	286	1,296	47	6,537
	教職員	62	24	86	92	256	271	13	52	29	189	11	1,085
	学外者	1	0	1	5	19	43	0	1	0	18	21	109
	計	423	120	172	354	2,467	1,888	37	373	315	1,503	79	7,731
H18	学生	405	74	92	288	2,103	1,387	15	596	443	1,269	42	6,714
	教職員	33	41	68	71	395	190	23	65	66	160	7	1,119
	学外者	5	0	1	1	18	99	0	0	2	6	9	141
	計	443	115	161	360	2,516	1,676	38	661	511	1,435	58	7,974
H19	学生	429	78	52	272	1,659	1,329	18	438	695	1,413	43	6,426
	教職員	30	28	53	37	379	261	19	20	66	189	8	1,090
	学外者	5	0	7	6	18	66	0	0	4	19	4	129
	計	464	106	112	315	2,056	1,656	37	458	765	1,621	55	7,645
H20	学生	400	127	52	311	1,630	1,162	20	458	770	1,482	87	6,499
	教職員	47	19	61	73	188	216	18	83	69	289	18	1,081
	学外者	0	7	7	14	28	147	1	21	7	78	11	321
	計	447	153	120	398	1,846	1,525	39	562	846	1,849	116	7,901
H21	学生	513	186	50	250	1,783	1,286	16	359	799	1,805	70	7,117
	教職員	29	28	66	64	249	232	14	65	50	319	32	1,148
	学外者	10	1	0	2	22	129	0	11	31	15	11	232
	計	552	215	116	316	2,054	1,647	30	435	880	2,139	113	8,497
H22	学生	645	234	89	286	1,509	1,320	31	382	898	1,686	54	7,134
	教職員	36	49	75	91	303	255	8	29	49	463	39	1,397
	学外者	2	4	10	9	17	123	3	7	14	38	13	240
	計	683	287	174	386	1,829	1,698	42	418	961	2,187	106	8,771
平均	学生	459	133	70	277	1,813	1,343	21	426	649	1,492	57	6,738
	教職員	40	32	68	71	295	238	16	52	55	268	19	1,153
	学外者	4	2	4	6	20	101	1	7	10	29	12	195
	計	502	166	143	355	2,128	1,682	37	485	713	1,789	88	8,087

（出典　図書館センター資料）

資料８－２－①－６

「平成 22 年度　図書館センター年間イベント実施実績」

オリエンテーション（新入生４月入学式直後）
JDream 等検索ツールの講習会（新学期開始直後５年生・専攻科の希望者）

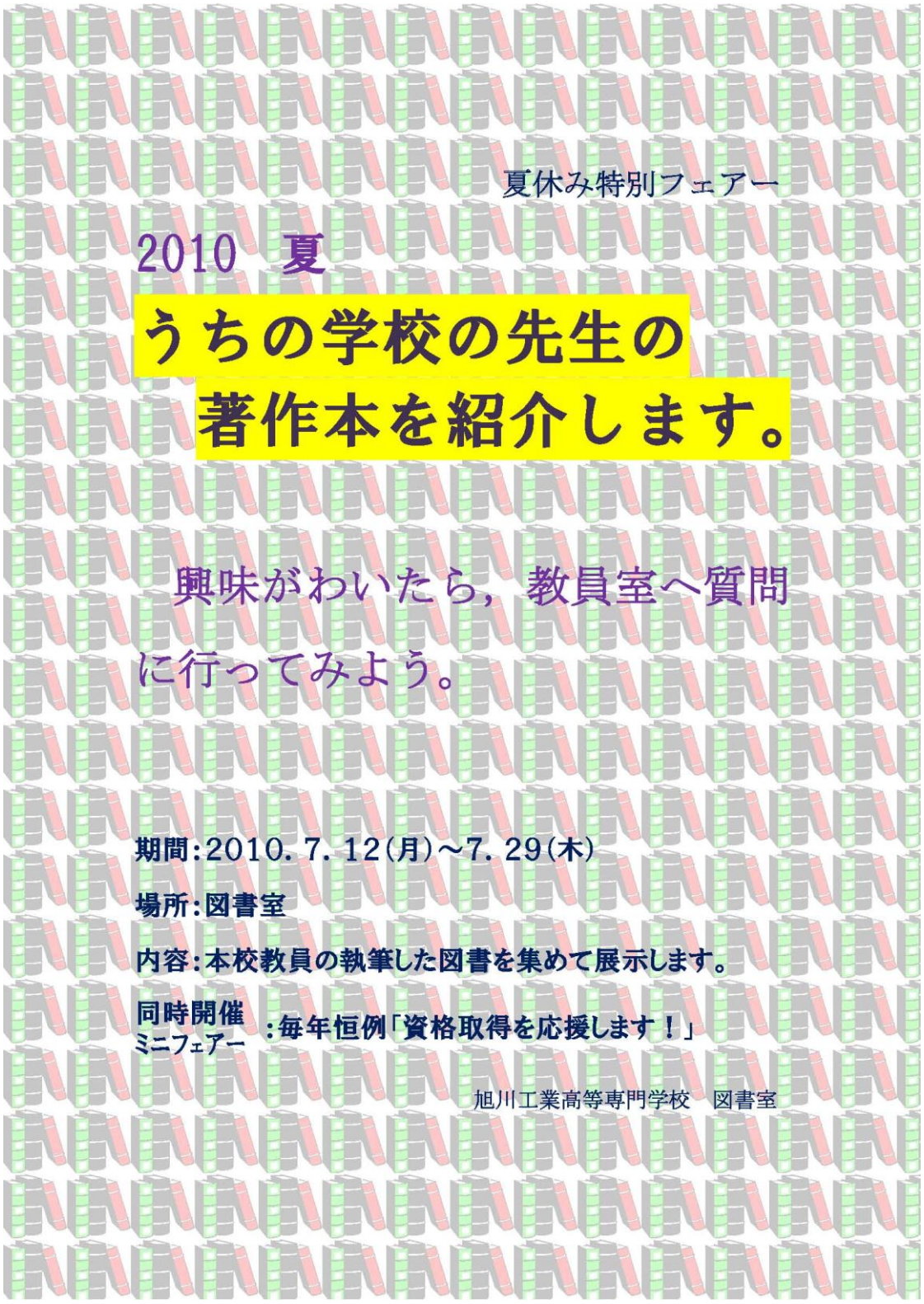
図書館フェアー夏休み（２２年夏：「うちの学校の先生の著作本を紹介します。」）
図書館フェアー冬休み（２２年冬：「旭川高専図書室”秘蔵の書“見せます！」
図書館ミニフェアー（２２年５月：母の日特集）
図書館ミニフェアー（２２年１２月：クリスマス特集）
ボランテイアによるオススメ本１回目
ボランテイアによるオススメ本２回目
鈴木博士ノーベル賞受賞祝フェアー（高橋校長所蔵のサイン入り洋書を展示）

ブックハンティング（年１回）：７月１５日実施，１４名の応募有り１３名が参加
雑誌リサイクル（数年に１回）：延べ人数７３人／６０８冊
学生ボランテイアによる活動（しおり・メルマガ）

（出典　図書館センター資料）

資料８－２－①－７

「図書館フェアー夏休み　ポスター」



（出典　図書館センター資料）

資料８－２－①－８

「図書館フェアー冬休み　ポスター」

‘10 冬休みフェアー

旭川高専図書室　秘蔵の書　見せます！

期間　平成22年12月 9日(木)～ 平成23年 1月14日(金)

【今　回　の テ ー マ】

☆ 図書室に　1 アレッ こんな本があったの？
2 凄いマニアック！
3 おもしろすぎ。
そんな本を集めてみました。

☆ 併せてリクエストで購入した本も展示します。

図書係＆学生ボランテイア共催

（出典　図書館資料）

資料８－２－①－９

「ブックハンティング参加募集　ポスター」



（出典　図書館資料）

(分析結果とその根拠理由)

図書等のコンテンツは，戦略的に収集され，十分な量が確保されているとともに，検索するシステム等の十分なサービスが提供されている。その結果，図書の貸し出し数は着実に増加しており，利用者のニーズを満たしている。

以上のことから，教育研究上必要な資料が系統的に収集・整理され，有効に活用されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- 校舎は十分な広さを有しており,学生がのびのびと学習に取り組むことが可能な環境となっている。また,特別な配慮が必要な学生専用の学習スペースや,システムを提供している。また，教育のための ICT 環境は最新のものを提供しており，社会に出て実践的な仕事を行う際にも大きな乖離を感じないものが提供できている。
- 図書館は，書籍の貸し出し数を着実に伸ばしており，学生及び教員の図書館本来のニーズに十分応えている。

(改善を要する点)

- 一応，校舎のバリアフリー化が実施されているが，比較的広い校舎であることを鑑みると，エレベーターや障害者用トイレのより一層の充実が望まれる。

（３）基準８の自己評価の概要

本校は，設置基準を満たす十分な施設を擁しており，かつ，その有効利用のため委員会を中心として利用状況の定量化と分析を着実に実施している。また，安全対策を確実なものとするため，積極的に実査を行い，改善点の指摘とフォローアップを行う仕組みが整えられている。

ICT 環境に関しては，最新の教育環境を提供し，かつ，学生が利用可能な環境を可能な限り提供している。また，セキュリティに関しては，セキュリティポリシーにのっとり，高いセキュリティレベルを保つことが可能な仕組みを有している。ネットワークシステムに関しては，現状すでに満足なサービスレベルを達成していると考えられるが，平成 24 年度に控えているシステム更改において，最先端技術を取り入れるとともにユーザーの要望を最大限反映したシステムとなるよう設計している。

図書館に関しては，十分な書籍及び DVD/ビデオコンテンツを有している。平成 17 年度以降の書籍の貸し出し数からみられるように，学生及び教職員の教育及び研究のニーズに則した書籍の収集がなされている。

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

（１）観点ごとの分析

観点９－１－①：　教育の状況について，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

本校の教育活動に関する全般的なデータ及び資料（準学士・専攻科課程の定期試験・各種試験の答案，レポート等）については，「試験答案等チェック票」（資料９－１－①－１）を添付して保管されている。試験の答案は電子ファイルとして教務係で保存し，レポートについては，各科目担当教員が保存する体制がとられている。更に全科目について，年度末に「成績評価確認票」（資料９－１－①－２）の作成・提出を義務付けている。

本校の教育研究活動を検証するために，平成４年度に自己評価等に関する規程が制定されている（資料９－１－①－３）。本校は平成５年度以降，５年ごとに教育活動に対する総合的な自己点検・評価を行っている。

平成 17 年４月には，各種認証評価，将来計画，中期目標・計画等への対応のための専門的組織として「企画室」（資料９－１－①－４）が設置されている。

また，本校の教育水準の向上を図り，本校の目的及び社会的使命を達成するため，平成 17 年４月に教育点検改善委員会（資料９－１－①－５）を設置した。

平成 20 年度には，評価体制を強化するために企画室を「企画委員会」（資料９－１－①－６）に改組し，自己点検・評価を行っている（資料９－１－①－７）。点検結果は，『自己点検・評価報告書』としてまとめられている（資料９－１－①－８）。

９－１－①－１

「試験答案等チェック票」

試験答案等チェック表

年　　度	平成　　年度
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年
学　　年	１・２・３・４・５・一般選択
組・学科等	（　　）組・Ｍ・Ｅ・Ｓ・Ｃ・Ｐ・Ａ・一般選択
科　目　名	
担当教員名	

提出区分［学生答案等は出席番号順に並べる。］	□定期試験等（試験問題・模範答案・学生答案の３種類を提出する。） ・□前期中間　□前 期 末　□後期中間　□学年末・後期末 ・□本 試 験　□追 試 験 ［最高点：　点 ・ 合格最低点(60%)：　点 ・ 平均点：　点］ ※ＪＡＢＥＥ対象科目のみ記入する。
	□小テスト（試験問題・模範答案・学生答案の３種類を提出する。）
	□レポート（「課題及びねらいを記入した用紙」を添付して提出する。）
	□プリント（ＪＡＢＥＥ対象科目のみ提出する。）
	□そ の 他（　　）

（注）１　レポートのうち大量になるものについては，担当教員において保管してください。
２　ＪＡＢＥＥ対象科目（本科第４学年以上）においては，補助教材として使用しているプリントについても提出してください。
３　この表の様式は，本校ホームページの［教職員向け・学内専用］－［提出書類］からダウンロードしてください。
４　学生答案は「最高点」・「合格最低点」・「平均点」の順に並べて，スキャンしてください。

（出典　学生課資料）

資料９－１－①－２

「成績評価確認票」

成績評価確認表

年度		シラバスに記載している評価対象項目（素点）									評価割合に基づく換算点				学年末評価点
開講期		前期中間試験	前期末試験	後期中間試験	学年末試験	レポート１	レポート２	小テスト１	小テスト２	発表回数	（４回／４試験）	（２回／２レポート）	（２回／２小テスト）	発表回数	
学科等															
学年															
科目名															
教員名															
出席番号	学生氏名														
1															
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
16															
17															
18															
19															
20															
21															
22															
23															
24															
25															
26															
27															
28															
29															
30															
31															
32															
33															
34															
35															
36															
37															
38															
39															
40															
41															
42															
43															
44															
45															
平均点	－														
満点	－	100点	100点	100点	100点	10点	10点	30点	30点	10点	60%	20%	10%	10%	100点

（注）1 「シラバスに記載している評価対象項目（素点）・評価割合に基づく換算点」欄は，本科の通年科目（講義科目）の場合を想定したもの（例示）です。作成に当たっては，担当科目の内容に合わせて様式を適宜変更の上作成してください。
2 JABEE対象科目（本科第4学年以上）の定期試験等については，最高点・合格最低点(60%)・平均点を色分けする等して表示してください。
3 担当教員が複数の科目については，成績入力担当者が作成してください。
4 この表は，当該年度の3月末日までに，電子媒体により学生課教務係へ提出してください。
5 この表の様式は，本校ホームページの[教職員向け・学内専用]－[提出書類]からダウンロードしてください。

（出典　学生課資料）

資料９－１－①－３

「旭川工業高等専門学校自己評価等に関する規程」

（趣旨）

第１条　旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）が，本校の教育水準の向上を図り，かつ，本校の目的及び社会的使命を達成するため，本校における教育研究活動等の状況について自ら行う点検及び評価（以下「自己評価等」という。）については，この規程の定めるところによる。

（会議）

第２条　旭川工業高等専門学校運営委員会（以下「運営委員会」という。）は，全校的な事項に関しての自己評価等を行うほか，次に掲げる事項を審議する。

(1) 自己評価等の基本方針及び実施基準等の策定に関すること。

(2) 自己評価等の実施に関すること。

(3) 自己評価等の結果の集約及び公表に関すること。

(4) その他自己評価等に関すること。

（実施組織）

第３条　自己評価等を行う組織等は，次のとおりとする。

(1) 学科及び科

(2) 専攻科

(3) 事務部

(4) 運営委員会が指定する委員会等

（実施事項）

第４条　自己評価等は，次に掲げる事項について実施するものとする。

(1) 本校の教育理念・目標に関すること。

(2) 教育活動に関すること。

(3) 研究活動に関すること。

(4) 施設設備に関すること。

(5) 国際交流に関すること。

(6) 生涯学習への対応に関すること。

(7) 社会との連携に関すること。

(8) 自己評価等の体制に関すること。

２　前項各号に係る具体的な点検項目は，別に定める。

（自己評価等の結果の対応）

第５条　校長は，運営委員会等が行った自己評価等の結果に基づき，改善が必要と認められるものについては，自らその改善に努めるものとし，必要がある場合は関係する委員会等にその改善策の検討を付記する。

（出典　本校ウェブサイト例規集）

資料９－１－①－４

「旭川工業高等専門学校企画室規程」

（設置）
第１条　旭川工業高等専門学校に，旭川工業高等専門学校企画室（以下「企画室」という。）を置く。
（審議事項）
第２条　企画室は，次に掲げる事項を審議する。
(1) 将来構想に関する事項
(2) 中期目標・中期計画に関する事項
(3) 外部評価に関する事項
(4) 高等専門学校間の交流に関する事項
(5) その他校長が必要と認める事項
（組織）
第３条　企画室は，次に掲げる者をもって組織する。
(1) 副校長
(2) 校長が指名した者　若干名
(3) 事務部長
(4) 総務課長
(5) 学生課長
（任期）
第４条　前条第２号に掲げる室員の任期は，２年とする。
２　室員の再任は，認めない。ただし，校長が特に必要と認める場合は，再任することができる。
３　室員が欠員となった場合の後任の任期は，前任者の残任期間とする。
（室長）
第５条　企画室に室長を置き，副校長をもって充てる。
（庶務）
第６条　企画室の庶務は，総務課において処理する。
（雑則）
第７条　この規程に定めるもののほか，企画室に関し必要な事項は，校長が別に定める。

（出典　総務課資料）

資料９－１－①－５

「旭川工業高等専門学校教育点検改善委員会規程」

（設置）
第１条　旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）に教育水準の向上を図り，かつ，本校の目的及び社会的使命を達成するため，旭川工業高等専門学校教育点検改善委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（任務）
第２条　委員会は，次に掲げる事項について点検し，教育改善を提案する。
(1) 学習・教育目標の設定及び公開
(2) 学習・教育の量
(3) 教育手段
　ア　入学及び学生受入方法
　イ　教育方法
　ウ　教育組織
(4) 教育環境
　ア　施設，設備
　イ　財源
　ウ　学生への支援体制
(5) 学習・教育目標の達成度
(6) 教育改善
　ア　教育点検
　イ　継続的改善
(7) その他委員会が必要と認めた事項
（組織）
第３条　委員会は，次に掲げる委員をもって構成する。
(1) 副校長
(2) その他校長が必要と認めた者　若干名
２　前項第２号の委員の任期は，１年とし，再任を妨げない。
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，副校長をもって充てる。
２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
３　委員長に事故あるときは，委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
（専門委員会）
第５条　委員会に専門的事項を調査，審議するため，専門委員会を置くことができる。
（庶務）
第６条　委員会の庶務に関することは，学生課において処理する。
（雑則）
第７条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，委員会が別に定める。

（出典　本校ウェブサイト例規集）

資料９－１－①－６

「旭川工業高等専門学校企画委員会規程」

（設置）

第１条　旭川工業高等専門学校に，旭川工業高等専門学校企画委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は，次に掲げる事項を審議し，運営委員会に提案する。

(1) 将来構想に関する事項

(2) 中期目標・中期計画に関する事項

(3) 自己点検及び評価に関する事項

(4) 外部評価に関する事項

(5) 高等専門学校間の交流に関する事項

(6) その他校長が必要と認める事項

（組織）

第３条　委員会は，次に掲げる者をもって組織する。

(1) 校長

(2) 副校長

(3) 教務主事，学生主事及び寮務主事

(4) 専攻科長

(5) 事務部長

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。

２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

３　委員長に事故があるときは，副校長がその職務を代行する。

（専門部会）

第５条　委員会に，専門的事項について調査，検討するため，必要に応じて専門部会を置くことができる。

２　専門部会に関して必要な事項は，別に定める。

（庶務）

第６条　委員会の庶務は，総務課において処理する。

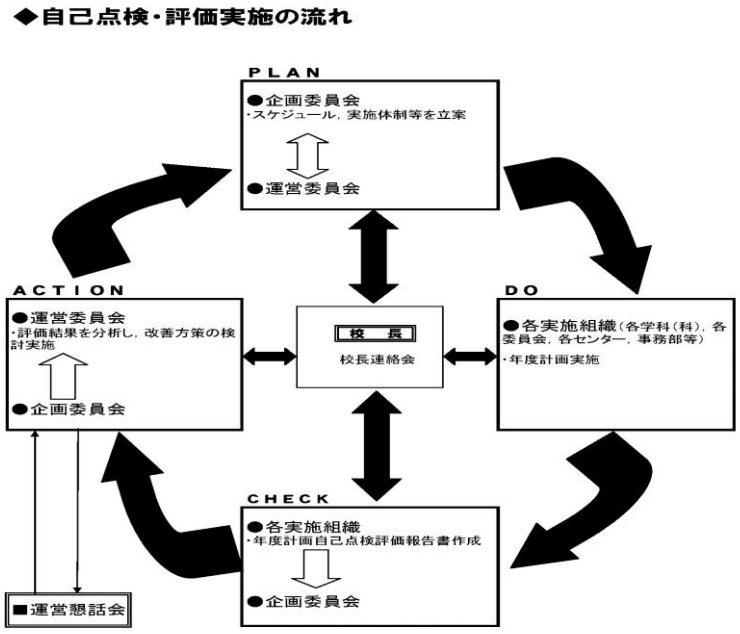
（雑則）

第７条　この規程に定めるもののほか，委員会に関し必要な事項は，委員会が別に定める。

（出典　本校ウェブサイト例規集）

資料９－１－①－７

「自己点検・評価実施の流れ図」

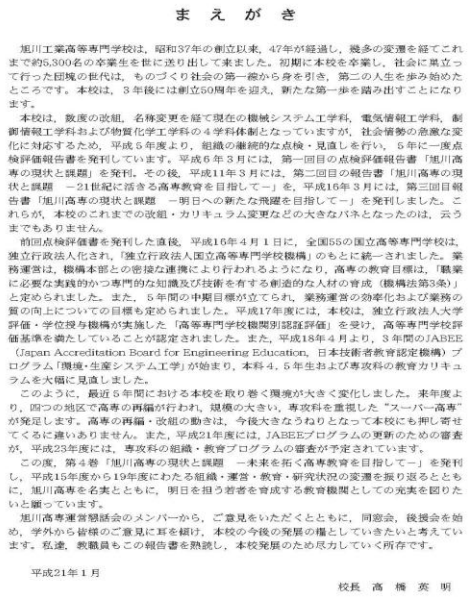


（出典　総務課資料）

資料９－１－①－８

「自己点検・評価報告書（抜粋）」





ま　え　が　き

旭川工業高等専門学校は，昭和37年の創立以来，47年が経過し，幾多の変遷を経てこれまで約5,500名の卒業生を世に送り出して来ました。初期に本校を卒業し，社会に巣立って行った団塊の世代は，ものづくり社会の第一線から身を引き，第二の人生を歩み始めたところです。本校は，３年後には創立50周年を迎え，新たな第一歩を踏み出すことになります。

本校は，数度の改組，名称変更を経て現在の機械システム工学科，電気情報工学科，制御情報工学科および物質化学工学科の４学科体制となっていますが，社会情勢の急激な変化に対応するため，平成５年度より，組織の継続的な点検・見直しを行い，５年に一度点検評価報告書を発刊しています。平成６年３月には，第一回目の点検評価報告書「旭川高専の現状と課題」を発刊。その後，平成11年３月には，第二回目の報告書「旭川高専の現状と課題　－21世紀に活きる高専教育を目指して－」を，平成16年３月には，第三回目報告書「旭川高専の現状と課題　－明日への新たな飛躍を目指して－」を発刊しました。これらが，本校のこれまでの改組・カリキュラム変更などの大きなバネとなったのは，云うまでもありません。

前回点検評価書を発刊した直後，平成16年４月１日に，全国55の国立高等専門学校は，独立行政法人化され，「独立行政法人国立高等専門学校機構」のもとに統一されました。業務運営は，機構本部との密接な連携により行われるようになり，高専の教育目標は，「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材の育成（機構法第３条）」と定められました。また，５年間の中期目標が立てられ，業務運営の効率化および業務の質の向上についての目標も定められました。平成17年度には，本校は，独立行政法人大学評価・学位授与機構が実施した「高等専門学校機関別認証評価」を受け，高等専門学校評価基準を満たしていることが認定されました。また，平成18年４月より，３年間のJABEE（Japan Accreditation Board for Engineering Education，日本技術者教育認定機構）プログラム「環境・生産システム工学」が始まり，本科４，５年生および専攻科の教育カリキュラムを大幅に見直しました。

このように，最近５年間における本校を取り巻く環境が大きく変化しました。来年度より，四つの地区で高専の再編が行われ，規模の大きい，専攻科を重視した“スーパー高専”が発足します。高専の再編・改組の動きは，今後大きなうねりとなって本校にも押し寄せてくるに違いありません。また，平成21年度には，JABEEプログラムの更新のための審査が，平成23年度には，専攻科の組織・教育プログラムの審査が予定されています。

この度，第４巻「旭川高専の現状と課題　－未来を拓く高専教育を目指して－」を発刊し，平成15年度から19年度にわたる組織・運営・教育・研究状況の変遷を振り返るとともに，旭川高専を名実ともに，明日を担う若者を育成する教育機関としての充実を図りたいと願っています。

旭川高専運営懇話会のメンバーから，ご意見をいただくとともに，同窓会，後援会を始め，学外から皆様のご意見に耳を傾け，本校の今後の発展の糧としていきたいと考えています。私達，教職員もこの報告書を熟読し，本校発展のため尽力していく所存です。

平成21年１月

校長　高　橋　英　明

（出典　本校ウェブサイト：自己点検・評価報告書）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，教育活動のデータや資料を収集し保管する体制が整備され，継続されている。また自己点検・評価を行い，平成21年に報告書を発行している。平成17年４月に「教育点検改善委員会」及び「企画室」の規程が定められた。その後，平成20年度には企画委員会に格上げし，教育改善に対する更なる体制が整備された。

以上のことから，教育の実態を示すデータ及び資料が適切に収集・蓄積され，それらに基づいた評価が適切に実施できる体制が整備されている。

観点９－１－②：　学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており，それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が，学校として策定した基準に基づいて，適切に行われているか。

（観点に係る状況）

「学生による授業評価」を平成10年度以降，２年ごとに行っており，「報告書」を作成している（資料９－１－②－１）。　平成18年度から，学生による授業評価は「FD推進委員会」（資料９－１－②－２）が担当している。

平成 20 年度の授業評価アンケートの実施については，FD 推進委員会においてアンケート内容等について詳細な検討が行われ，非常勤講師も含め全教員・全科目についてアンケートが実施された。アンケートは「座学」「実験・実習」「体育」それぞれに対応した設問がなされている（資料９－１－②－３）。設問の中には，例えば「この科目の授業を通して，どの程度学べましたか」等の設問で学習満足度を把握できるように，また，学生が要望・意見等を記述できるように工夫されている。この「報告書（資料９－１－②－１）」には各教員のコメントのほかに，各学科・科及び一般科目の科目群としてのコメントも掲載されており，それぞれの担当範囲での自己評価がなされている。

更に，準学士課程の第４学年以上と専攻科課程では，シラバスに従った授業が行われているか否かの確認をクラスの代表による年４回の「授業進捗度確認票」（資料９－１－②－４）で行っている。これには，学生の意見・要望等も記載されるので，授業評価アンケートとは別に学生の意見・要望を知ることができる。なお，「授業確認票」の名称は，平成 22 年度から「授業進捗度確認票」に変更された。

平成 14 年６月に，「旭川工業高等専門学校産業技術振興会」（資料９－１－②－５）が設立され，会員企業との連携活動を通して必要な要望等を聴取する体制が整えられた。また，この会との共催で行われている産学技術交流会（資料９－１－②－６）を通しても，地域企業等からの要望を聴取する機会を持っている。

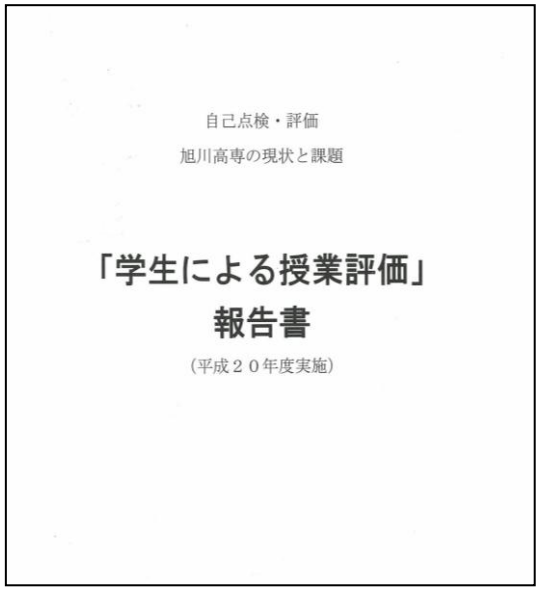
平成15年３月に「運営懇話会」（資料９－１－②－７）が設置され，学外の委員による懇話会が毎年開催されている。（資料９－１－②－８，９）。また，平成21年１月の「自己点検・評価報告書」についての運営懇話会委員の意見をまとめてある（資料９－１－②－10）。

平成 23 年４月に，本校の卒業生及び修了生 425 名及び産業技術振興会の会員企業及び本校卒業生が就職している企業合計 172 社に対して「旭川高専の教育活動に関するアンケート」（資料９－１－②－11）を実施し，その集計結果をコメントとともにまとめている（資料９－１－②－12）。

また，本校同窓会及び後援会との意見交換会が定期的に開催され（資料９－１－②－13），卒業生及び保護者等からの意見･要望を聴取する機会が持たれている。平成 22 年８月より「旭川高専意見箱」を設置し（資料９－１－②－14），本校の教育研究及び管理運営に対する意見を学生・保護者・教職員・その他から聴取するとともに，いただいた意見には，校長連絡会にて検討の上，真摯に回答し，必要に応じて措置をとっている（現地閲覧資料９－１－②－15)。

資料９－１－②－１

「学生による授業評価報告書」平成 20 年度版



（出典　「学生による授業評価報告書」平成 20 年度版）

資料９－１－②－２

「旭川工業高等専門学校 FD 推進委員会規程」

（趣旨）

第１条　旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，本校教員の資質の向上に関する事項について審議するため，ＦＤ推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は，次に掲げる事項を審議する。

(1) 授業内容・方法の改善に関すること。

(2) 教員の資質向上のための研究会及び講演会等の開催に関すること。

(3) 教員の資質向上のための方策に関すること。

(4) 教員の資質向上のための調査研究に関すること。

(5) その他委員会が必要と認めた事項

（構成）

第３条　委員会は，次の委員をもって構成する。

(1) 教務主事

(2) 専攻科長

(3) 各学科及び科の教員のうちから各１名

(4) 学生課長

（任命及び任期）

第４条　前条第３号に規定する委員は，校長が任命し，任期は１年とする。ただし，補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）

第５条　委員会に委員長を置き，教務主事をもって充てる。

２　委員長は，委員会を招集して議長となる。

３　委員長に事故あるときは，委員長があらかじめ指名した者が，その職務を代行する。

（委員以外の者の出席）

第６条　委員会が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，説明又は意見を聴くことができる。

（報告）

第７条　委員長は，委員会において審議された事項を整理し，校長に報告しなければならない。

（庶務）

第８条　委員会の庶務に関することは，学生課において処理する。

（出典　総務課資料）

資料９－１－②－３

「アンケート項目（座学用）」

平成２０年度「学生による授業評価」アンケート質問用紙

座学用

Ⅰ　あなた自身のこの授業に対する取り組みの姿勢について

		1	2	3	4	5
1	この科目について，どの程度，自主的に予習や復習をしましたか。	全くしなかった	ほとんどしなかった	少しはした	かなりした	しっかりとした
2	レポートや課題にどの程度取り組みましたか。	全くしなかった	ほとんどしなかった	少しはした	かなりした	しっかりとした
3	レポートや課題などの提出期限をどの程度守りましたか。	全く守らなかった	ほとんど守らなかった	半分くらいは守った	ほとんど守った	すべて守った
4	授業の内容に対して質問や発言をどの程度しましたか。	全くしなかった	ほとんどしなかった	少しはした	かなりした	しっかりとした
5	授業中，私語を交わしたり居眠りをしたりして，集中していないことがどの程度ありましたか。	いつも集中していなかった	ほとんど集中していなかった	少しは集中していた	かなり集中していた	いつも集中していた
6	定期試験や授業中に実施されるテストの準備はどの程度しましたか。	全くしなかった	ほとんどしなかった	少しはした	かなりした	しっかりとした
7	この科目の進度についていくのは，どの程度難しかったですか。	とても難しかった	難しかった	少し難しかった	難しくなかった	全く難しくなかった
8	現在，この科目に対してどの程度興味がありますか。	全くない	ほとんどない	少しはある	かなりある	とてもある
9	この科目の授業を通して，どの程度学べましたか。	全く学べなかった	ほとんど学べなかった	少しは学べた	かなりのことを学べた	とても多くのことを学べた
10	あなたからみて，この科目に対するクラス全体の授業態度はどのように感じましたか。	とても悪かった	悪かった	普通	良かった	とても良かった

Ⅱ　この授業について

		1	2	3	4	5
11	高専においてこの科目を学ぶことの意義についての説明が，どの程度ありましたか。	全くなかった	あまりなかった	少しはあった	かなりあった	十分にあった
12	初回の授業などで，授業予定や学習の仕方，評価方法についてどの程度説明がありましたか。	全くなかった	あまりなかった	少しはあった	かなりあった	十分にあった
13	授業内容は，シラバスの内容とどの程度一致していると思いましたか。	全く一致していない	ほとんど一致していない	ある程度一致している	ほぼ一致している	完全に一致している
14	どの程度，授業の事前準備がされていると思いましたか。	全く準備されていない	ほとんど準備されていない	少しは準備されている	かなり準備されている	十分に準備されている
15	黒板に書かれた文字や図表は，どの程度見やすかったですか。	非常に見にくかった	見にくかった	見にくい時もあった	ある程度見やすかった	とても見やすかった
16	授業中に話す声は，どの程度聞きとりやすかったですか。	とても聞きとりにくかった	聞きとりにくかった	聞きとりにくい時もあった	ある程度聞きとりやすかった	とても聞きとりやすかった
17	授業中の説明はどの程度分かりやすかったですか。	とても分かりにくかった	分かりにくかった	分かりにくい時もあった	ある程度分かりやすかった	とても分かりやすかった
18	質問しやすい雰囲気がどの程度ありましたか。	全くなかった	ほとんどなかった	どちらともいえない	ある程度あった	いつもあった
19	定期試験の範囲や内容は，どの程度，授業内容に合っていましたか。	全く合っていなかった	あまり合っていなかった	どちらともいえない	かなり合っていた	完全に合っていた
20	定期試験，小テスト，レポートなどの結果に対する説明や添削は，どの程度ありましたか。	全くなかった	あまりなかった	少しはあった	かなりあった	十分にあった
21	あなた自身の授業態度や学習量から考えて，前期末（又は学年末）の評価をどのように感じていますか。	低すぎて納得できない	少々不満である	大体このくらいだ	かなり高かった	とても高かった

Ⅲ　資料のための調査項目

		1	2	3	4	5
22	前期末(又は学年末)における，あなたのクラス順位を答えてください。	３３位以下	２５～３２位	１７～２４位	９～１６位	１～８位
23	前期末(又は学年末)における，この科目の評価点を答えてください。	３９点以下	４０～５９点	６０～６９点	７０～７９点	８０～１００点
24	この科目で授業時間はきちんと確保されていましたか。	全く確保されていなかった	ほとんど確保されていなかった	確保されていないときもあった	ほぼ確保されていた	十分に確保されていた
25	この科目について，補習・追試等を含め，学習内容を理解してほしいとする教員の熱意は，どの程度ありましたか。	全くなかった	あまりなかった	少しはあった	かなりあった	十分にあった

Ⅳ　自由記述欄：マークカードの裏面に，この授業に対する意見や要望を、次の項目に分けて書いて下さい。

上段：良かった点
下段：改善してほしい点

以上

ANCT2008-2009

「アンケート項目（実験・実習用)」

平成２０年度「学生による授業評価」アンケート質問用紙

実験・実習用

Ⅰ　あなた自身のこの授業に対する取り組みの姿勢について

		1	2	3	4	5
1	この科目について，どの程度，自主的に予習や復習をしましたか。	全くしなかった	ほとんどしなかった	少しはした	かなりした	しっかりとした
2	レポートや課題にどの程度取り組みましたか。	全くしなかった	ほとんどしなかった	少しはした	かなりした	しっかりとした
3	レポートや課題などの提出期限をどの程度守りましたか。	全く守らなかった	ほとんど守らなかった	半分くらいは守った	ほとんど守った	すべて守った
4	授業の内容に対して質問や発言をどの程度しましたか。	全くしなかった	ほとんどしなかった	少しはした	かなりした	しっかりとした
5	授業中，私語を交わしたりボーっとしたりして，集中していないことがどの程度ありましたか。	いつも集中していなかった	ほとんど集中していなかった	少しは集中していた	かなり集中していた	いつも集中していた
6	定期試験や授業中に実施されるテストの準備はどの程度しましたか。（指示により無回答）	全くしなかった	ほとんどしなかった	少しはした	かなりした	しっかりとした
7	この科目の進度についていくのは，どの程度難しかったですか。	とても難しかった	難しかった	少し難しかった	難しくなかった	全く難しくなかった
8	現在，この科目に対してどの程度興味がありますか。	全くない	ほとんどない	少しはある	かなりある	とてもある
9	この科目の授業を通して，どの程度学べましたか。	全く学べなかった	ほとんど学べなかった	少しは学べた	かなりのことを学べた	とても多くのことを学べた
10	あなたからみて，この科目に対するクラス全体の授業態度はどのように感じましたか。	とても悪かった	悪かった	普通	良かった	とても良かった

Ⅱ　この授業について

		1	2	3	4	5
11	高専においてこの科目を学ぶことの意義についての説明が，どの程度ありましたか。	全くなかった	あまりなかった	少しはあった	かなりあった	十分にあった
12	初回の授業などで，授業予定や学習の仕方，評価方法についてどの程度説明がありましたか。	全くなかった	あまりなかった	少しはあった	かなりあった	十分にあった
13	授業内容は，シラバスの内容とどの程度一致していると思いましたか。	全く一致していない	ほとんど一致していない	ある程度一致している	ほぼ一致している	完全に一致している
14	どの程度，授業の事前準備がされていると思いましたか。	全く準備されていない	ほとんど準備されていない	少しは準備されている	かなり準備されている	十分に準備されている
15	黒板・ホワイトボードに書かれた文字や図表は，どの程度見やすかったですか。	非常に見にくかった	見にくかった	見にくい時もあった	ある程度見やすかった	とても見やすかった
16	授業中に話す声は，どの程度聞きとりやすかったですか。	とても聞きとりにくかった	聞きとりにくかった	聞きとりにくい時もあった	ある程度聞きとりやすかった	とても聞きとりやすかった
17	授業中の説明はどの程度分かりやすかったですか。	とても分かりにくかった	分かりにくかった	分かりにくい時もあった	ある程度分かりやすかった	とても分かりやすかった
18	質問しやすい雰囲気がどの程度ありましたか。	全くなかった	ほとんどなかった	どちらともいえない	ある程度あった	いつもあった
19	定期試験の範囲や内容は，どの程度，授業内容に合っていましたか。（指示により無回答）	全く合っていなかった	あまり合っていなかった	どちらともいえない	かなり合っていた	完全に合っていた
20	定期試験，小テスト，レポートなどの結果に対する説明や添削は，どの程度ありましたか。	全くなかった	あまりなかった	少しはあった	かなりあった	十分にあった
21	あなた自身の授業態度や学習量から考えて，前期末の評価をどのように感じていますか。	低すぎて納得できない	少々不満である	大体このくらいだ	かなり高かった	とても高かった

Ⅲ　資料のための調査項目

		1	2	3	4	5
22	前期末における，あなたのクラス順位を答えてください。	３３位以下	２５～３２位	１７～２４位	９～１６位	１～８位
23	前期末における，この科目の評価点を答えてください。	３９点以下	４０～５９点	６０～６９点	７０～７９点	８０～１００点
24	この科目で授業時間はきちんと確保されていましたか。	全く確保されていなかった	ほとんど確保されていなかった	確保されていないときもあった	ほぼ確保されていた	十分に確保されていた
25	この科目について，補習・追試等を含め，学習内容を理解してほしいとする教員の熱意は，どの程度ありましたか。	全くなかった	あまりなかった	少しはあった	かなりあった	十分にあった

Ⅳ　自由記述欄：マークカードの裏面に，この授業に対する意見や要望を，次の項目に分けて書いて下さい。

上段：良かった点
下段：改善してほしい点

以上

ANCT2008-2009

「アンケート項目（体育用）」

平成２２年度「学生による授業評価」アンケート質問用紙

体育用

Ⅰ　あなた自身のこの授業に対する取り組みの姿勢について

		1	2	3	4	5
1	この科目について，どの程度，自主的に予習や復習をしましたか。	全くしなかった	ほとんどしなかった	少しはした	かなりした	しっかりとした
2	技術課題にどの程度取り組みましたか。	全くしなかった	ほとんどしなかった	少しはした	かなりした	しっかりとした
3	各種目のルールをどの程度理解できましたか。	全く理解できなかった	ほとんど理解できなかった	少しは理解できた	かなり理解できた	しっかりと理解できた
4	授業の内容に対して質問や発言をどの程度しましたか。	全くしなかった	ほとんどしなかった	少しはした	かなりした	しっかりとした
5	授業中，私語を交わしたりボーっとしたりして，集中していないことがどの程度ありましたか。	いつも集中していなかった	ほとんど集中していなかった	少しは集中していた	かなり集中していた	いつも集中していた
6	実技試験などの準備はどの程度しましたか。	全くしなかった	ほとんどしなかった	少しはした	かなりした	しっかりとした
7	この科目の進度についていくのは，どの程度難しかったですか。	とても難しかった	難しかった	少し難しかった	難しくなかった	全く難しくなかった
8	現在，この科目に対してどの程度興味がありますか。	全くない	ほとんどない	少しはある	かなりある	とてもある
9	この科目の授業を通して，どの程度学べましたか。	全く学べなかった	ほとんど学べなかった	少しは学べた	かなりのことを学べた	とても多くのことを学べた
10	あなたからみて，この科目に対するクラス全体の授業態度はどのように感じましたか。	とても悪かった	悪かった	普通	良かった	とても良かった

Ⅱ　この授業について

		1	2	3	4	5
11	高専においてこの科目を学ぶことの意義についての説明が，どの程度ありましたか。	全くなかった	あまりなかった	少しはあった	かなりあった	十分にあった
12	初回の授業などで，授業予定や学習の仕方，評価方法についてどの程度説明がありましたか。	全くなかった	あまりなかった	少しはあった	かなりあった	十分にあった
13	授業内容は，シラバスの内容とどの程度一致していると思いましたか。	全く一致していない	ほとんど一致していない	ある程度一致している	ほぼ一致している	完全に一致している
14	どの程度，授業の事前準備がされていると思いましたか。	全く準備されていない	ほとんど準備されていない	少しは準備されている	かなり準備されている	十分に準備されている
15	授業中の運動量はどのように感じましたか。	少なすぎた	少なかった	適切であった	多かった	多すぎた
16	授業中に話す声は，どの程度聞きとりやすかったですか。	とても聞きとりにくかった	聞きとりにくかった	聞きとりにくい時もあった	ある程度聞きとりやすかった	とても聞きとりやすかった
17	授業中の説明はどの程度分かりやすかったですか。	とても分かりにくかった	分かりにくかった	分かりにくい時もあった	ある程度分かりやすかった	とても分かりやすかった
18	質問しやすい雰囲気がどの程度ありましたか。	全くなかった	ほとんどなかった	どちらともいえない	ある程度あった	いつもあった
19	実技試験，レポートなどの範囲や内容は，どの程度，授業内容に合っていましたか。	全く合っていなかった	あまり合っていなかった	どちらともいえない	かなり合っていた	完全に合っていた
20	実技試験，レポートなどの結果に対する説明や添削は，どの程度ありましたか。	全くなかった	あまりなかった	少しはあった	かなりあった	十分にあった
21	あなた自身の授業態度や学習量から考えて，前期末（または学年末）の評価をどのように感じていますか。	低すぎて納得できない	少々不満である	大体このくらいだ	かなり高かった	とても高かった

Ⅲ　資料のための調査項目

		1	2	3	4	5
22	前期末(又は学年末)における，あなたのクラス順位を答えてください。	３３位以下	２５～３２位	１７～２４位	９～１６位	１～８位
23	前期末(又は学年末)における，この科目の評価点を答えてください。	３９点以下	４０～５９点	６０～６９点	７０～７９点	８０～１００点
24	この科目で授業が早く終わったり、自習時間になることはありましたか。	頻繁にあった	かなりあった	少しはあった	あまりなかった	全くなかった
25	この科目について，学習内容を理解してほしいとする教員の熱意は，どの程度ありましたか。	全くなかった	あまりなかった	少しはあった	かなりあった	十分にあった

Ⅳ 自由記述欄：マークカードの裏面に，この授業に対する意見や要望を、次の項目に分けて書いて下さい。

上段：良かった点
下段：改善してほしい点

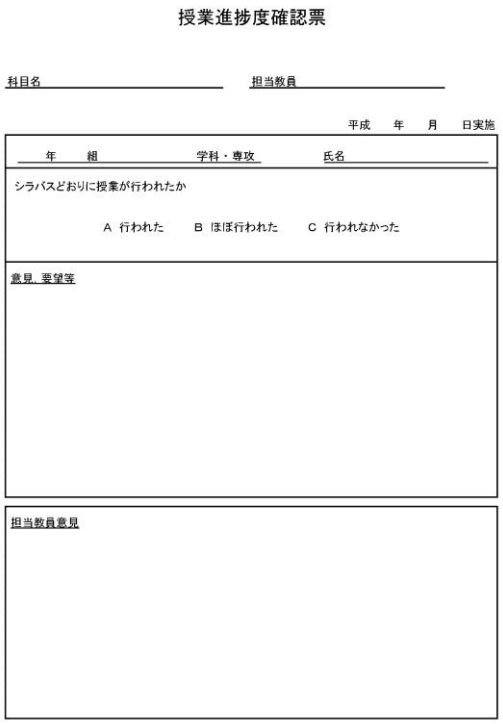
以上

ANCT2010-2011

（出典　学生課資料）

資料９－１－②－４

「授業進捗度確認票（授業確認票)」



授業進捗度確認票

科目名＿＿＿＿＿＿＿＿　担当教員＿＿＿＿＿＿＿＿

平成　年　月　日実施

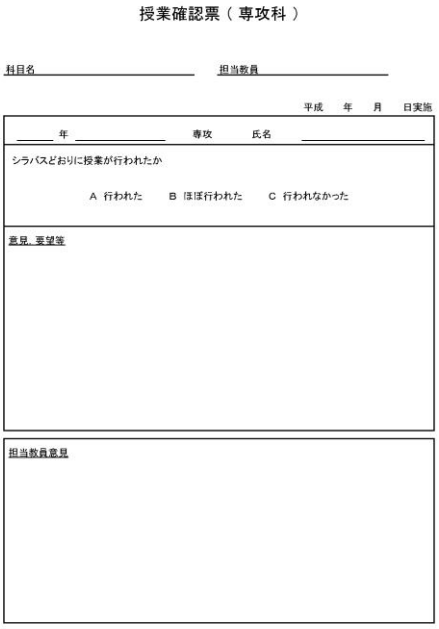
年　組　学科・専攻　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

シラバスどおりに授業が行われたか

A 行われた　B ほぼ行われた　C 行われなかった

意見、要望等

担当教員意見



授業確認票（専攻科）

科目名＿＿＿＿＿＿＿＿　担当教員＿＿＿＿＿＿＿＿

平成　年　月　日実施

＿＿年＿＿＿＿＿＿専攻　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

シラバスどおりに授業が行われたか

A 行われた　B ほぼ行われた　C 行われなかった

意見、要望等

担当教員意見

（出典　学生課資料）

資料９－１－②－５

「旭川工業高等専門学校産業技術振興会規約」

（目的）

第１条　本会は，旭川工業高等専門学校と旭川産業界の連携を密にし，両者の連携による産業技術の振興をもって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

（名称）

第２条　本会は，旭川工業高等専門学校産業技術振興会と称する。

（事業）

第３条　本会は，第１条の目的を達成するため，次の事業を行う。

(1) 産学官の連携及び調整に関する事業

(2) 地域産業の発展に関する事業

(3) 教育研究の充実に関する事業

(4) 旭川工業高等専門学校と地域産業界の交流に関する事業

(5) その他の事業

（会員）

第４条　本会の会員は，本会設立の趣旨に賛同する者をもって組織する。

（役員）

第５条　本会に次の役員を置く。

(1) 会長１名

(2) 副会長若干名

(3) 理事若干名

(4) 監事２名

２　役員の任期は２年とし再任を妨げない。但し，補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（役員の職務）

第６条　前条第１項の役員の職務は次のとおりとする。

(1) 会長は，本会を代表し会務を総括する。

(2) 副会長は，会長を補佐し，会長に事故あるときは，その職務を代行する。

(3) 理事は，本会の運営をつかさどる。

(4) 監事は，本会の会計を監査する。

（役員の選任）

第７条　会長は，会員の中から総会において選出する。

２ 会長は，総会の承認を得て副会長，理事及び監事を委嘱する。

（顧問及び参与）

第８条　第６条１項の他に顧問及び参与を置くことができる。

２　顧問及び参与は，役員会の推薦で会長が委嘱する。
３　顧問及び参与は，会長の要請に応じ，または会議に出席し意見を述べることができる。
（総会）
第９条　総会は，定期総会と臨時総会とし，会長が招集し，議長となる。
２ 定期総会は年１回とし，臨時総会は必要に応じて開催する。
（役員会）
第10条　役員会は，会長，副会長，理事及び監事をもって組織し，必要の都度会長がこれを招集する。
２　役員会は，事業の企画，立案等，事業遂行のために必要な事項，総会に上程する議案及び重要事項を審議する。
３　役員会は，必要に応じて，旭川工業高等専門学校の意見を徴する。
（事務局）
第11条　本会の事務局は，旭川商工会議所に置く。
（経費）
第12条　本会の運営は，会費，寄付金その他の収入をもって充てる。
２　会費は年会費とし，企業が１万円，個人が２千円とする。
（会計年度）
第13条　本会の会計は，毎年４月１日に始まり翌年３月３１日に終わる。
（その他）
第14条　本規約に定めるもののほか，必要な事項は，役員会において定める。

（出典　総務課資料）

資料９－１－②－６

「産学技術交流会案内文書」

旭商産振発第 102 号
平成 22 年 11 月 18 日

旭川工業高等専門学校　教職員各位

旭川工業高等専門学校産業技術振興会
会 長 佐々木 通 彦

旭川高専振興会 産学技術交流会の開催について

謹啓　時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
当振興会の運営につきましては、平素より格別のご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、標記交流会を下記日程にて開催致しますので、ご多用中誠に恐縮とは存じますが誰事お差繰りご出席くださいますようご案内申し上げます。

敬　具

記

日　時　平成 22 年 12 月 6 日(月)
技術交流会　18 時 00 分～19 時 30 分　　懇親会　19 時 30 分～

場　所　ロワジールホテル旭川(旭川市 7 条通 6 丁目)
技術交流会・懇親会　3 階 ボールルーム

内　容　(1)技術交流会[全体発表] ····· 1時間30分

◆創造工学へマイスターによるものづくり教育

創造工学では旭川高専同窓会の有志が、専攻科の学生を対象にものづくりの課題解決力を高める狙いで授業を行っています。開発テーマとしては地元企業などのニーズを掘り起こし、それをテーマとして取組んでいます。今回は、授業の現状、開発事例、今後の展望などについてご説明いたします。

1)じゃがいも選別機の開発
2)ドライブレコーダーシステムの合理化
3)高さ調整可能な車いすの開発
4)ビートハーベスター駆動部の機構開発

(2)懇　親　会····· 1時間30分
参加料　3,000 円(懇親会費)

出欠の有無を、11 月 26 日(金)までに「旭川工業高等専門学校総務課研究協力係」へご連絡願います。

［事務局］ 旭川商工会議所 産業支援部産業振興課　担当：[redacted]
〒070-8540 旭川市常盤通 1 丁目　TEL：22-8413　FAX：22-2600

旭川高専産学技術交流会 参加申込書　【期限】11/26

産学技術交流会に(出席する　・　欠席する)

懇親会に　　(出席する　・　欠席する)

※○印を付けてください

ご芳名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（出典　総務課資料）

資料９－１－②－７

「旭川工業高等専門学校運営懇話会規程」

（趣旨）

第１条　旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，広く学外の有識者から意見を求めるため，旭川工業高等専門学校運営懇話会（以下「運営懇話会」という。）を置く。

（任務）

第２条　運営懇話会は，本校の運営に関し，校長の求めに応じて意見を述べるものとする。

（委嘱）

第３条　運営懇話会の委員は，人格識見が高く，広く社会の実情に通じ，かつ，本校の充実発展に関心と理解のある学外者のうちから，校長が委嘱する。

（組織）

第４条　運営懇話会は，１０名以内の委員で組織する。

（任期）

第５条　運営懇話会の委員の任期は，２年とし，再任を妨げない。

２　欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（会長及び副会長）

第６条　運営懇話会に会長及び副会長１名を置き，それぞれ委員が互選する。

２　会長は，運営懇話会の会務を総理する。

３　副会長は，会長を補佐し，会長に事故あるときはその職務を代理し，会長が欠けたときはその職務を行う。

（事務）

第７条　運営懇話会の事務は，総務課において処理する。

（雑則）

第８条　この規程に定めるもののほか，運営懇話会の運営に関し必要な事項は，校長が別に定める。

（出典　本校ウェブサイト例規集）

資料９－１－②－８

「平成 20 年度外部評価報告書（抜粋）」



目　　次

まえがき
Ⅰ　運営懇話会
1　旭川工業高等専門学校運営懇話会規程 …… 1
2　運営懇話会委員名簿 …… 2
3　運営懇話会日程等 …… 3
4　運営懇話会の概要 …… 5
(1) 開　　会 …… 5
(2) 委員自己紹介 …… 5
(3) 本校関係者紹介 …… 5
(4) 旭川高専概要説明 …… 5
(5) 質疑応答・意見交換 …… 13
(6) 施設視察 …… 24
(7) 懇話会再開 …… 25
(8) 講評まとめ …… 33
(9) 校長謝辞 …… 33
Ⅱ　外部評価意見書
会長　三上　隆 …… 43
副会長　松田忠男 …… 46
委員　大沼克己 …… 48
委員　佐藤和明 …… 50
委員　重野健一 …… 52
委員　辻　敏裕 …… 56
委員　中尾義博 …… 58
あとがき

（出典　本校ウェブサイト外部評価報告書）

資料９－１－②－９

「平成 21 年度運営懇話会報告書（抜粋）」

平成 21 年度

運　営　懇　話　会　報　告　書


独立行政法人国立高等専門学校機構
旭川工業高等専門学校

目　　次

1　運営懇話会委員名簿 …… 2
2　運営懇話会日程等 …… 3
3　運営懇話会の概要
（1）開　　会 …… 5
（2）旭川高専の現況について …… 6
（3）旭川高専における第３期中期計画の基本方針について
（1）国際的に活躍できる人材の育成について …… 12
（2）産業界・地域社会との連携について …… 16
（4）そ の 他 …… 19
（5）閉　　会 …… 20
4　資　料
（資料１）旭川高専の現況 …… 22
（資料２）「我が国のイノベーションを支え、国際的に活躍できる人材の育成」 … 25
（資料３）旭川高専の地域連携 …… 28

（出典　総務課資料）

資料９－１－②－10

「平成 20 年度外部評価意見書（抜粋）」

外部評価意見書

会長　三上　隆
北海道大学大学院工学研究科長

Ⅰ　教育理念・目標等

○旭川高専としての教育理念・教育目標は，受け入れる学生の年齢層を考慮すると，本科と専攻科別々に掲げたほうが良いと思われる。特に本科の場合は，中学生にも容易に理解できるように，教育理念・目標の内容は同じだとしても，表現法等に工夫が必要と思われる。

Ⅱ－Ⅰ　本科の教育・研究活動

○高専教育の広報・啓発活動として，体験入学，中学校訪問，進学説明会等を積極的に開催していることは評価できる。
○入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）を定めているが，一般選抜（学力検査）及び推薦選抜に対して同じものであり，高専が求める学生像の特徴がみえてこない。
○教育カリキュラムの見直しの効果は，例えば，数学及び物理の学習到達度の結果にも現れており評価できる。

Ⅱ－Ⅱ　専攻科の教育・研究活動

○高専教育は，理数離れ等の影響をまだ受けていない学生を受け入れることが最大の特徴・特色です。この点を十分に生かした教育課程の編成を心掛けて頂きたい。
○新しい取組みの一つとして，低学年を対象にした混合学級を導入している。今後は，この学級の教育効果の検証を行い，改善・向上に努めて頂きたい。
○専攻科は，独自の教育理念・教育目標を明確に立てるのが自然と思われる。
○カリキュラム編成には，不断の努力が認められ敬意を表する。引き続き，社会の人材要請に応えられるよう期待する。特に，専攻科は７年間一貫した教育カリキュラムの編成が可能であり，このメリットを最大限生かし，専攻科の充実を目指して頂きたい。

Ⅲ　学生生活

○少ない教職員数の下で，校内生活・校外生活，課外・学外活動等，多岐にわたる指導を行っており敬意を表する。
○学生相談は件数が年々多くなる傾向にあり，また相談内容も対人関係・精神面の悩みに関するものが増加している。その対応は，教員以外では，専門カウンセラー（非常勤，週１回勤務）及び補助相談員（看護師，１名）が担当しているが，早急に相談体制の改善に取り組む必要が

（出典　本校ウェブサイト外部評価報告書）

資料９－１－②－11

「アンケート用紙」（卒業（修了）生用）

旭川高専の教育に関するアンケート調査【卒業（修了）生用】

※以下の事項について、該当する数字を○で囲むか、（　）内に文章等をご記入願います。

１）卒業学科名、修了専攻名

１．機械（機械システム）　２．電気（電気情報）　３．制御情報　４．物質化学
５．生産システム工学専攻　６．応用化学専攻

２）就職先企業名・進学大学名（　　）

３）現在の職種

１．製造・生産技術　２．企画・設計　３．研究開発　４．システム開発・サービス
５.施工管理　６.営業販売　７.教育　８.学生　９.その他（　　）

４）旭川高専で受けた教育に関して、以下の点に関してお答えください。
①旭川高専で受けた教育の内容全般は、社会に出て活躍するうえで十分なレベルでしたか。

１．十分なレベル　２．ほぼ十分なレベル　３．やや低いレベル　４．低いレベル

②旭川高専で受けた以下の教育の内容が、現在の業務を遂行するための基礎として十分な内容であったと思いますか。5 段階で評価してください。（科目の例は、別紙2 をご参照ください。）

	十分		普通		不十分
(A) 人文科学、社会科学系の講義 ・・・・・・・	5	4	3	2	1
(B) 数学・自然科学系、専門科目の講義・・・・・	5	4	3	2	1
(C) 実験・実習等の体験学習 ・・・・・・・・・	5	4	3	2	1
(D) 創造力や総合力の育成に関する科目・・・・・	5	4	3	2	1
(E) 国際性の育成に関する科目 ・・・・・・・・	5	4	3	2	1

５）自分が卒業（修了）した学科（専攻）において、今後強化してほしい教育内容がありましたら、科目名、分野等をご記入ください。（自由回答）

（　　）

６）現在、本校は別紙1 のような教育目標を掲げておりますが、どう思いますか。

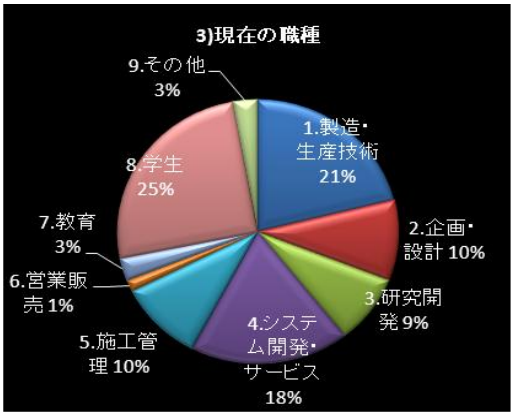
１．非常によい　２．よい　３．ふつう　４．やや適切でない　５．適切でない

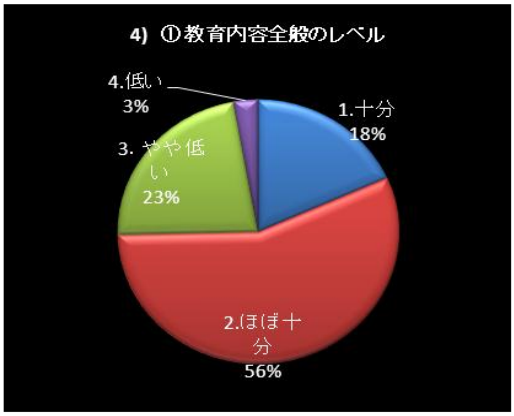
７）これからの技術者の資質にとっていずれの内容が重要と考えますか。重要と思われる項目を選んで下さい。（複数回答可）

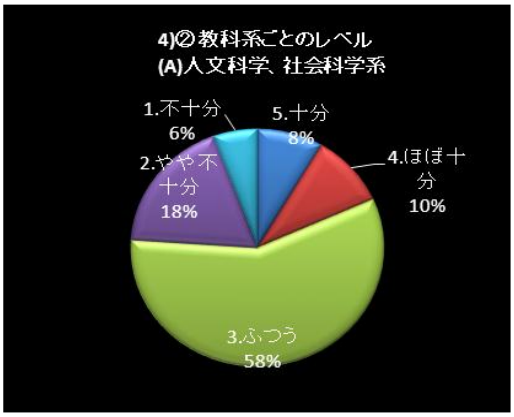
１．社会常識　２．行動力　３．協調性　４．責任感　５．統率力　６．専門知識
７．創造力　８．企画開発力　９．ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力　10．国際性（語学力）

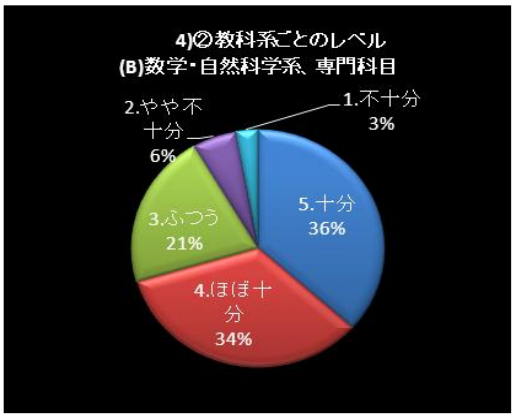
資料９－１－②－12

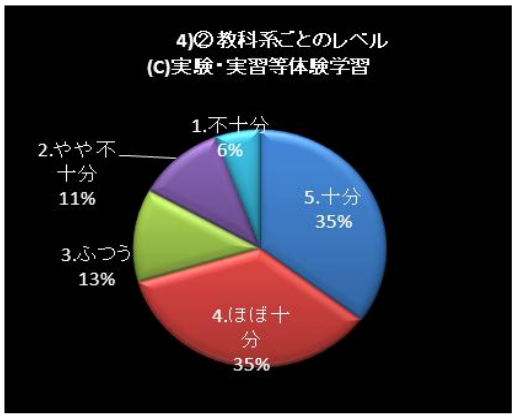
「アンケート集計結果」（１）

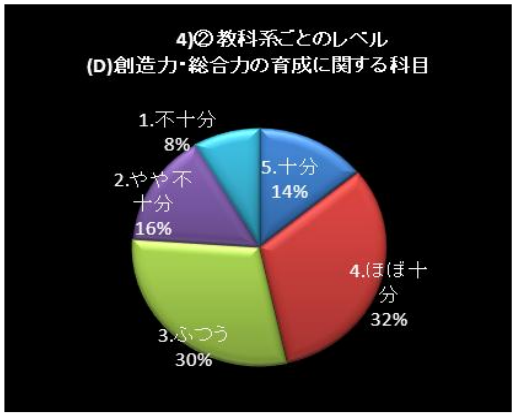


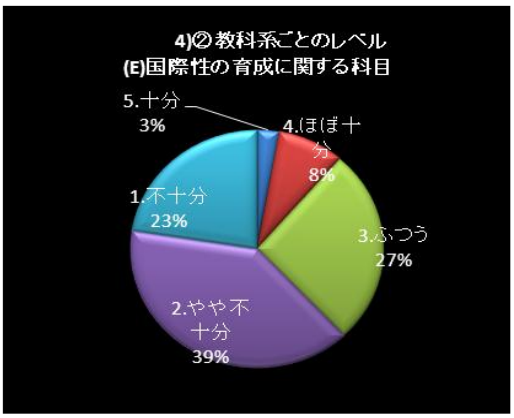


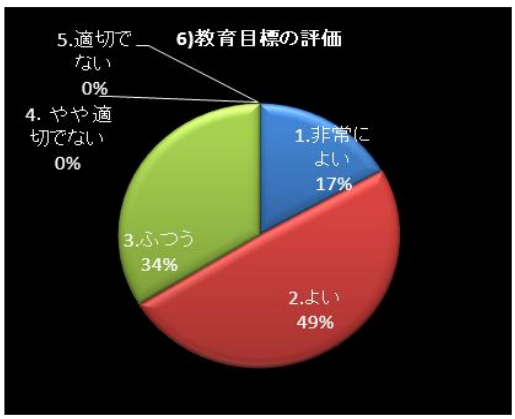




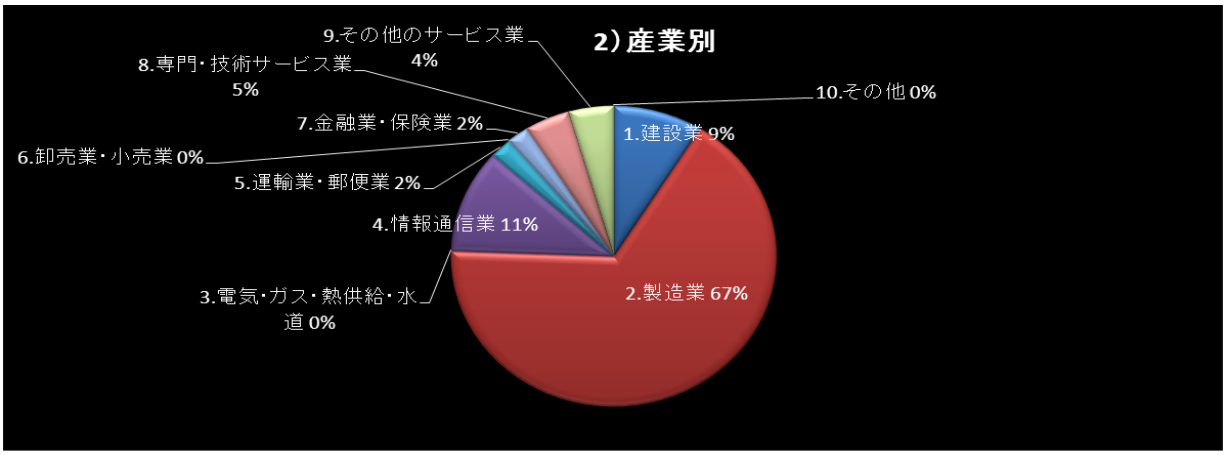


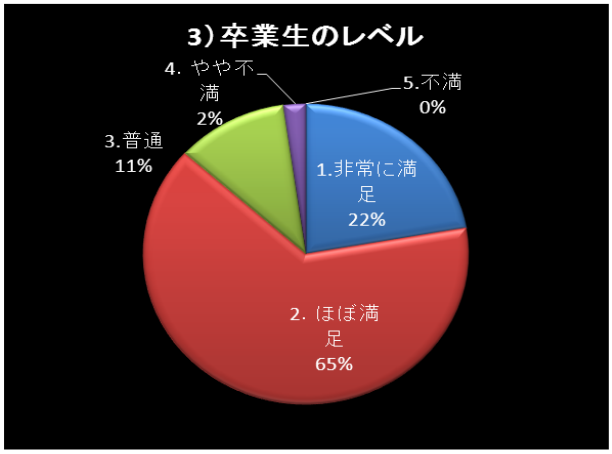


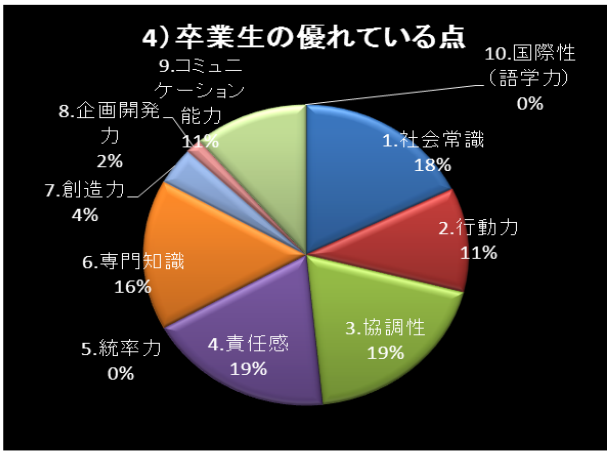


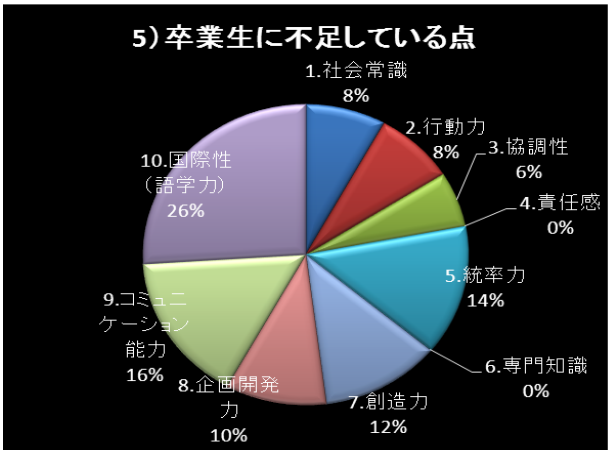


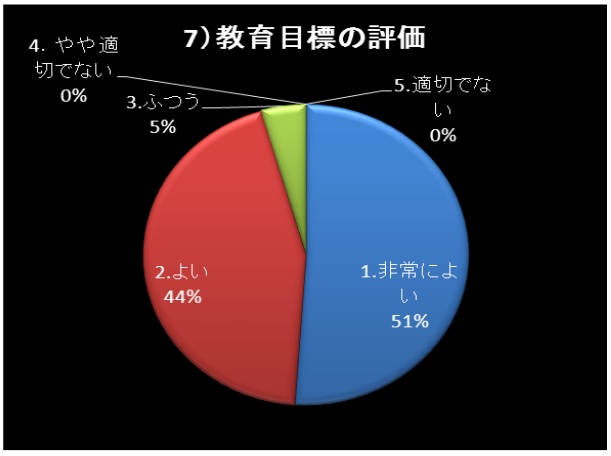
「アンケート集計結果」（２）


2）産業別
9.その他のサービス業 4%
8.専門・技術サービス業 5%
10.その他 0%
7.金融業・保険業 2%
1.建設業 9%
6.卸売業・小売業 0%
5.運輸業・郵便業 2%
4.情報通信業 11%
3.電気・ガス・熱供給・水道 0%
2.製造業 67%


3）卒業生のレベル
4. やや不満 2%
5.不満 0%
3.普通 11%
1.非常に満足 22%
2. ほぼ満足 65%

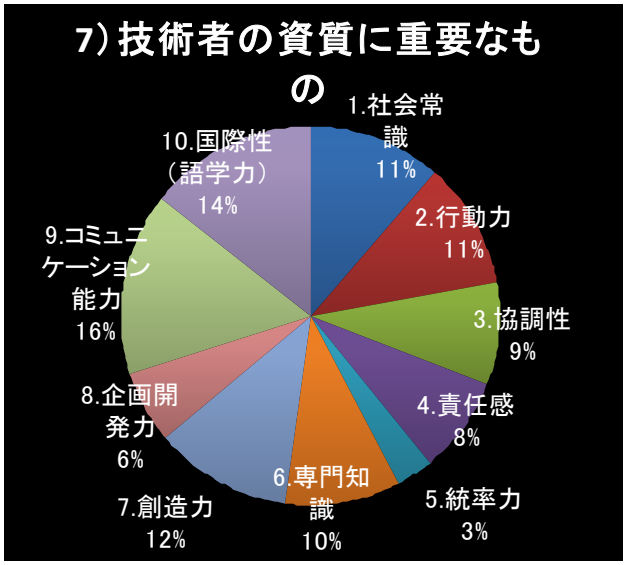

4）卒業生の優れている点
9.コミュニケーション能力 11%
10.国際性（語学力） 0%
8.企画開発力 2%
1.社会常識 18%
7.創造力 4%
2.行動力 11%
6.専門知識 16%
3.協調性 19%
5.統率力 0%
4.責任感 19%


5）卒業生に不足している点
1.社会常識 8%
2.行動力 8%
3.協調性 6%
10.国際性（語学力） 26%
4.責任感 0%
5.統率力 14%
9.コミュニケーション能力 16%
6.専門知識 0%
8.企画開発力 10%
7.創造力 12%

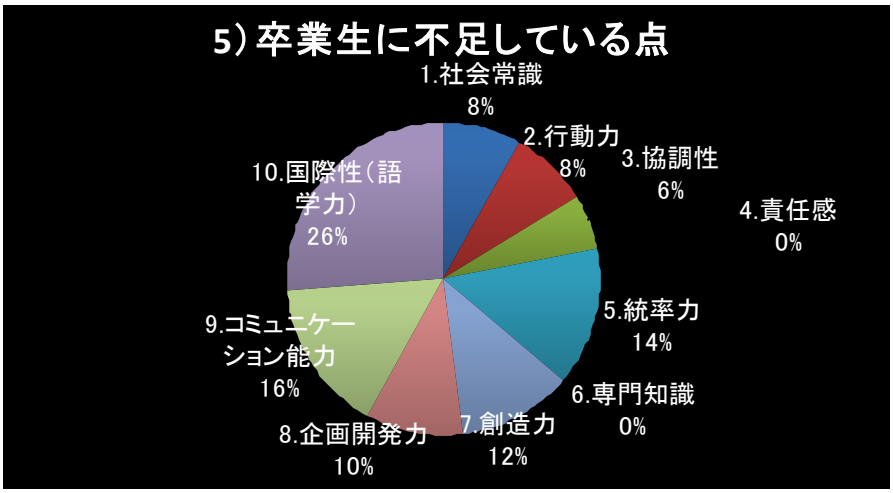

7）教育目標の評価
4. やや適切でない 0%
3.ふつう 5%
5.適切でない 0%
2.よい 44%
1.非常によい 51%

「アンケート集計結果」（３）

【卒業生・修了生の意識と企業の評価の比較】



卒業生・修了生の意識



企業からの評価

（出典　旭川高専の教育に関するアンケート調査集計表）

資料９－１－②－13

「同窓会連絡協議会案内」

平成 22 年 3 月吉日

旭川工業高等専門学校　校長・副校長・教務主事・学生主事・寮務主事
地域共同テクノセンター長・事務部長
後援会長　各位様

旭川工業高等専門学校同窓会
会長　村　上　孝　志

学校・同窓会連絡協議会の開催について

謹啓　今年もまた，卒業生を送り出す時節となりましたが，貴職に置かれましては恙無くお過ごしのこととお慶び申し上げます。
さて，本年も標記の件につきまして，下記の通り開催させていただきたくご案内申し上げます。時節柄ご多用のこととは存じますが，ご出席いただきますようお願い申し上げます。
敬具

記

日時　　平成 22 年 3 月 18 日　午後 4 時から 6 時まで
会場　　旭川工業高等専門学校　中会議室
議題　　学校より・・・学校の現況
同窓会への要望
学校創立 50 周年への取り組み
同窓会より・・学校への要望

その他

（出典：総務課資料）

資料９－１－②－14

［意見箱設置関係文書-１］

22.7.12

旭川高専意見箱等の設置について（案）

１．趣旨

旭川高専における学校運営上の課題、問題点等を早期に把握し、その改善に資することを目的として、教職員、学生、保護者等からの意見、要望、指摘等を直接受け付けることのできる体制を整備する。

２．各意見の受付方法

(1) 教職員からの意見

警備員室前の設置されている教員ポストを教職員意見箱として使用し、投稿を受け付ける。

(2) 学生からの意見

学生掲示板横に学生意見箱を設置し、投稿を受け付ける。

(3) 保護者、一般市民からの意見

郵送又は公式HPからのメール（様式任意）により、投稿を受け付ける。

３．投稿意見等の取扱い

(1) 教職員からの意見

①総務課において、毎週月曜日に投稿を回収し、校長連絡会へ報告する。

②校長は、その内容に応じ関係者（担当委員会、担当課等）へ調査確認、対応策等の検討を指示し、校長が改善すべき事項と判断した場合はその方策を講じる。

③検討結果等は整理のうえ、必要に応じ教員会議または学内専用ＨＰにおいて、周知する。

(2) 学生からの意見

①総務課において、毎週月曜日に投稿を回収し、投稿内容が学生相談室において処理すべき案件と校長が判断したものを除き、校長連絡会へ報告する。

②校長は、その内容に応じ関係者（担当委員会、担当課等）へ調査確認、対応策等の検討を指示し、校長が改善すべき事項と判断した場合はその方策を講じる。

③検討結果等は整理のうえ、必要に応じ学生掲示板等において、周知する。

(3) 保護者、一般市民からの意見

①総務課において、投稿を回収し校長連絡会へ報告する。

②校長は、その内容に応じ関係者（担当委員会、担当課等）へ調査確認、対応策等の検討を指示し、校長が改善すべき事項と判断した場合はその方策を講じる。

③検討結果等は整理のうえ、必要に応じ公式ＨＰ等において、公開する。

４．運用開始時期　　平成22年8月1日～

５．周知方法

(1) 教職員へは7月下旬開催予定の教員会議またはメールにて、趣旨や投稿方法等について通知する。

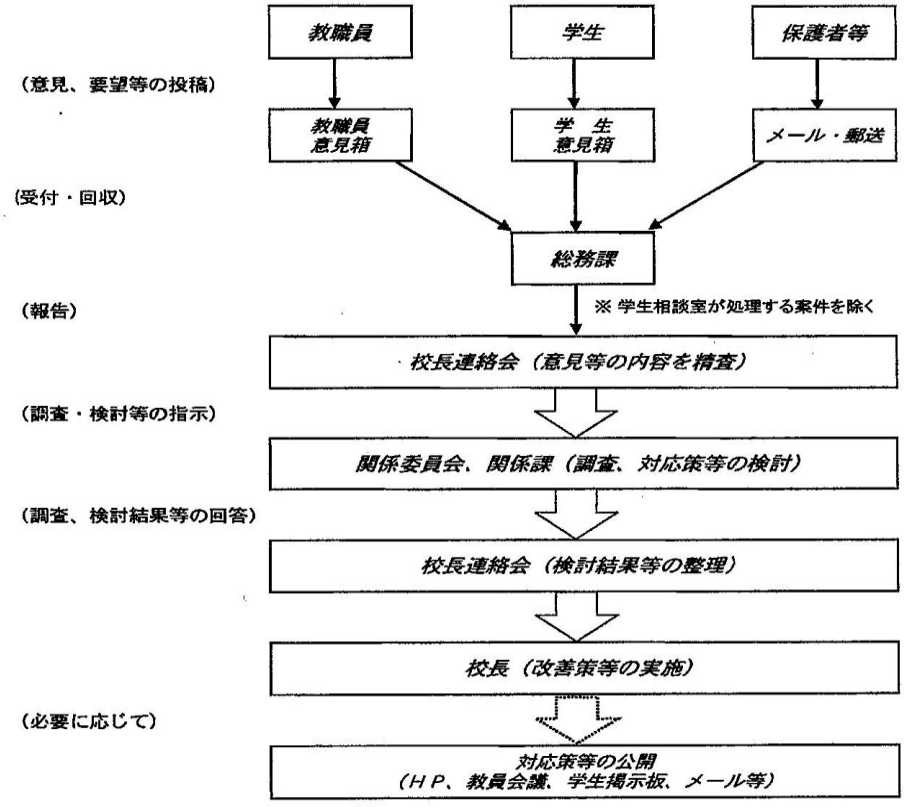
(2) 学生に対しては、7月下旬に学生掲示板において、意見箱の設置について告知する。また、投稿内容については、学校運営にかかる要望、意見等に限定しないで、学校内で生じている様々な問題に対する指摘など、幅広く投稿を受け付けることとする。

(3) 保護者に対しては、7月下旬に発送予定の「学校だより」に併せて、文書により案内するほか、公式ＨＰからもメールにより、保護者・一般市民からも学校への意見等を受け付けている旨の案内文を掲載する。

［意見箱設置関係文書-２］

６．その他留意事項等
①投稿内容が機構の「公益通報の処理等に関する規則」に規定する通報等に該当する場合には、当該規則により取り扱う。
②意見、要望、指摘等を投稿したことを理由に、当該教職員、学生に対し、不利益な取り扱いを行わない。（ただし、虚偽、誹謗中傷等不正を目的とする内容の場合を除く。）
③匿名の投稿も可とする。（ただし、様式には氏名、所属等の欄を設ける）

【処理フロー図】



※ 学生の学業上の悩みや心身の健康相談については、学生相談室で対応

［意見箱設置関係文書-３］

旭川高専意見箱投稿記入用紙

年　　月　　日

区 分	1. 教員　2. 職員　3. 学生　4. 保護者　5. その他（　　）				
所属学科課等		氏 名		連絡先	
ご意見・ご要望など、ご自由にお書き下さい。					

留意事項

1．匿名による投稿も受付けます。
2．投稿内容が機構の「公益通報の処理等に関する規則」に規定する通報に該当する場合には、当該規則により取り扱います。
3．投稿内容により、投稿者に対して不利益な取り扱いは行いません。（ただし、虚偽、誹謗中傷等不正を目的とする内容の場合を除く）

［意見箱設置関係文書-４］

平成２２年７月２３日

学生の皆さんへ

校　　長

「旭川高専意見箱」の設置について

このたび，旭川高専における学校運営上の課題，問題点等を早期に把握し，その改善に資することを目的として，下記のとおり「旭川高専意見箱」を設置することとしましたので，積極的に率直な意見，要望，指摘をお寄せください。

なお，投稿は，学校運営に関することに限らず，学校内で生じている様々な問題に対する指摘など，幅広く受け付けます。

記

１．設置方法

「学生相談箱」の隣に，「学生意見箱」を設置しました。

※「学生相談箱」との違いは，匿名での投稿を受け付ける点です。

２．運用開始日時

平成２２年８月１日から

３．投稿意見等の取り扱い

①投稿内容が学生相談室において対応すべき内容の場合は，学生相談室で対応します。

②投稿内容に応じ，調査確認，対応策等の検討を行い，改善すべき事項と判断した場合はその方策を講じます。

③検討結果等は整理のうえ，必要に応じて学生掲示板等で周知します。

４．留意事項

①投稿内容が高専機構の「公益通報の処理等に関する規則」に規定する通報等に該当する場合には，当該規則により取り扱います。

※「公益通報の処理等に関する規則」に規定する通報とは，犯罪行為及び法令違反行為の通報のことです。

②意見，要望，指摘等を投稿したことを理由に，当該教職員，学生に対し，不利益な取扱いを行いません。（ただし，虚偽，誹謗中傷等不正を目的とする内容の場合を除きます。）

③匿名の投稿も受け付けます。（ただし，様式には氏名，所属等の欄を設けます。）

（出典　学生課資料）

資料９－１－②－15
意見に対する対応状況（現地閲覧資料）

（分析結果とその根拠理由）

「学生による授業評価アンケート」を実施し，授業満足度を含めた授業全般に対する学生の意見・要望の聴取が行われている。さらに「授業進捗度確認票」を提出させることにより短期的に学生の意見・要望を知る体制がとられており，学生の意見の聴取が行われている。

また，教育課程等検討部会によりアンケート内容・方法を見直すなど，より良い点検・評価を目指した改善が行われている。さらに，この結果に対し，学生の意見・要望が教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

「旭川高専意見箱」や運営懇話会において学外者による教育活動等の点検評価が行われている。また，産業技術振興会の会員企業に対するアンケートにより，本校の教育研究活動等の状況について，企業の立場からの意見を聴取している。これらの意見の改善すべきものについては，該当する部署で検討されている。

以上のことから，学校の構成員及び学外者の意見聴取が行われ，その結果を基に教育の状況に関する自己点検・評価が適切な形で行われている。

観点９－１－③：　各種の評価の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され，教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校における教育の質の向上・改善に関するPDCAサイクルのシステムは，資料９－１－③－１のように整備されている。

教務委員会，JABEE対応委員会，教育課程等検討部会等が提案したプラン（PLAN）を各学科（科）・専攻の教職員が実行（DO）し，そのチェックを内部評価（自己評価，学生による授業評価アンケート，認証評価基準に係わるアンケート，意見箱）及び外部評価（運営懇話会，卒業生企業アンケート，同窓会，後援会，意見箱）により行う（CHECK)。評価事項は教育点検改善委員会で検討（ACTION）され，教務委員会等に検討事項を付議する。

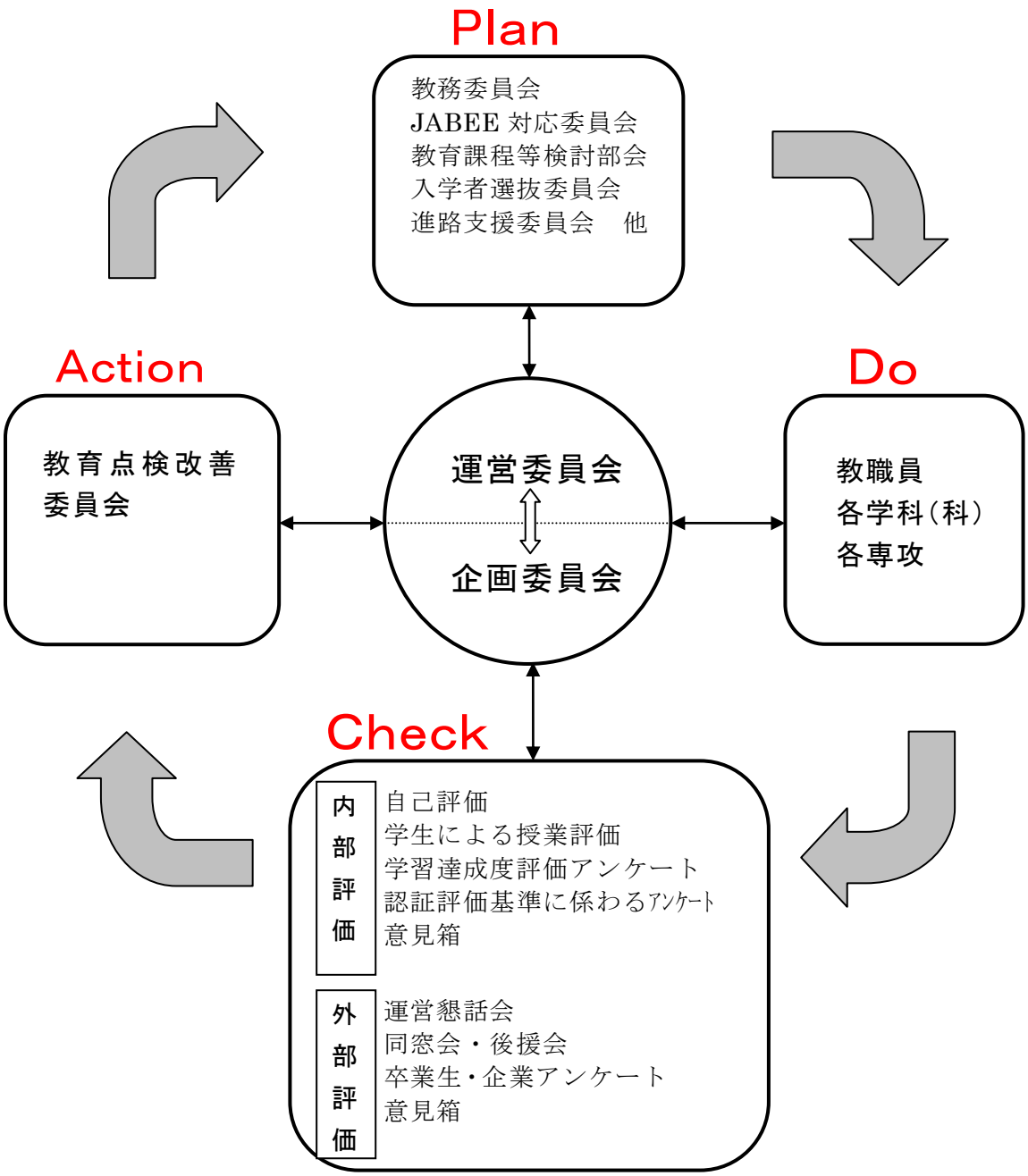
上記のPDCAサイクルのそれぞれの行程において，企画委員会と運営委員会が随時連携して協力している。

例えば，平成21年度にJABEE継続審査を受けた際，審査員による指摘事項について教育点検改善委員会からJABEE対応委員会をはじめとする関係委員会へ検討を依頼した（資料９－１－③－２，３）。これについて，各委員会で検討した結果について運営委員会に報告され（資料９－１－③－４），教育改善を各学科（科）・専攻に要請した。

資料９－１－③－１

「管理運営組織図」

PDCAサイクル



（出典　総務課資料）

資料９－１－③－２

「平成 21 年度第１回　教育点検改善委員会議事要旨」

教育点検改善委員会（平成21年度第１回）議事要旨

日　時　　平成21年12月９日（水）　15:00～15:26
場　所　　ミーティングルーム
出席者　　片山委員長，石井委員，篁委員，阿部委員，小林委員，平野委員，近藤委員
欠席者　　なし
事務部　　瀧田課長補佐

議事に先立ち，委員長から，資料１「旭川工業高等専門学校教育点検改善委員会規程」及び資料２「平成21年度教育点検改善委員会委員名簿」により本委員会の任務及び委員の構成について説明と確認があった。
また，教育点検改善委員会規程第４条第３項に基づく委員長の職務代行者には，委員長から小林委員が指名された。

【審議事項】
１　教育改善等の提案について
委員長から，資料３に基づき，11月15日から11月17日にかけて行なわれたＪＡＢＥＥ継続審査での指摘事項を受け，その指摘事項について関係委員会へ改善を提案するようＪＡＢＥＥ対応委員会から本委員会へ依頼があったもの，また，それ以外の事項で，改善を提案したほうがよいと思われるものについて教育改善等の提案を関係各委員会に行ないたい旨の説明があった。審議の結果，本委員会からの改善提案についての検討結果を平成22年２月末日までに関係各委員会から本委員会へ提出してもらうこととした。また，ＪＡＢＥＥ継続審査の指摘関係のうち，「６．各委員会の連携及び改善の見える化」の検討依頼先については，企画委員会から教務委員会，ＦＤ推進委員会及び専攻科委員会に変更し，「７．教育点検改善委員会の点検方法」については，本委員会から関係各委員会への提案内容と，改善の提案後に関係各委員会から２月末日までに提出されることになる検討結果を来年３月の運営委員会に報告することによって運営委員会による教育点検委員会の点検とすることとし，他は原案どおり了承された。

２　各種委員会等の見直しに係る検討について
委員長から，資料４に基づき，企画委員会から依頼のあった各種委員会等の見直しに係る検討について，本委員会は審議事項，委員の構成等妥当なものであり，現状のまま存続することで回答したい旨の提案の説明があり，審議の結果，原案どおり了承された。

以上

（出典　平成 21 年度第１回　教育点検改善委員会）

資料９－１－③－３

平成21年度 教育点検改善委員会改善提案事項一覧

委員会名	改善提案事項
JABEE対応委員会	1. 成績評価の統一について 成績評価に出席点など不適切な評価項目が含まれている科目も見受けられたため、成績評価に含む項目の整理と検討を要請する。 2. シラバスへの反映，内容確認システムの確立について 成績評価項目のシラバスへの正確な反映と、シラバスの内容が公に確認できるシステム作りの検討を要請する。 3. JABEE科目，効率的な成績エビデンス保管方法について JABEE受審時の審査および審査準備を円滑に進めるため、成績評価にかかわるエビデンスの保管について検討を要請する。 4. シラバスと授業進捗度確認システムの確立について 学級日誌による現確認方法は、授業担当教員に直接フィードバックされないという点が指摘されたので、システムの検討を要請する。
教務委員会	1. カリキュラムの見直しについて いびつな学年配当を見直し，各学科学年における時間配分を適切なものにされるよう検討されたい。 2. 各委員会の連携及び改善の見える化について 継続的改善が組織的に取り組んでいることが現状では分かりづらいので，年度末に当該年度の改善点一覧を作成し、教務委員会で改善したことが他の委員会からの依頼によるものか、または教務委員会の自主的ものなのかを明確にしたうえで、その改善点一覧を教育点検改善委員会に提出するよう要請する。 3. 成績評価の統一について（JABEE対応委員会への提案） 成績評価に出席点など不適切な評価項目が含まれている科目も見受けられたため、成績評価に含む項目の整理と検討を要請する。
FD推進委員会	1. 科目間連携の会議開催について JABEE継続審査受審の際に科目間ネットワーク、教員間ネットワークの不足が指摘されたので、活性化の検討を要請する。 2. 新任教員の教育について 現在は，採用時の研修しか行なわれてないが，授業方法に関する指導・教育も行なうことにより，新任教員の教育力を向上されるよう検討されたい。 3. 各委員会の連携及び改善の見える化について 継続的改善が組織的に取り組んでいることが現状では分かりづらいので，年度末に当該年度の改善点一覧を作成し、FD推進委員会で改善したことが他の委員会からの依頼によるものか、またはFD推進委員会の自主的ものなのかを明確にしたうえで、その改善点一覧を教育点検改善委員会に提出するよう要請する。
専攻科委員会	1. 認定専攻科審査に関する準備について 平成23年度に予定されている認定専攻科審査に向けて準備されたい。 2. 認定専攻科審査に向けた新カリキュラムの検討について 認定専攻科審査に向け，新カリキュラムの検討に着手されたい。 3. 各委員会の連携及び改善の見える化について 継続的改善が組織的に取り組んでいることが現状では分かりづらいので，年度末に当該年度の改善点一覧を作成し、専攻科委員会で改善したことが他の委員会からの依頼によるものか、または専攻科委員会の自主的ものなのかを明確にしたうえで、その改善点一覧を教育点検改善委員会に提出するよう要請する。
教育課程等委員会	1. 成績評価項目のシラバスへの反映、内容確認システムの確立 成績評価項目のシラバスへの正確な反映と、シラバスの内容が公に確認できるシステム作りの検討を要請する。
運営委員会	1. 教育点検改善委員会の点検方法について JABEE継続審査で教育点検改善委員会の点検方法について改善するよう指摘があったところです。教育点検改善委員会としては，年度末に関係各委員会から教育点検改善委員会に提出された当該年度の各委員会の改善点一覧を運営委員会に提出することにより、教育点検改善委員会の活動内容についての点検を運営委員会に行ってもらうよう依頼する。

（出典　平成 21 年度第１回　教育点検改善委員会）

資料９－１－③－４

「平成 21 年度 教育点検改善委員会からの改善提案事項に係る関係委員会の対応状況一覧」

平成21年度 教育点検改善委員会からの改善提案事項に係る関係委員会の対応状況一覧

委員会名	委員会での対応状況
JABEE対応委員会	1．成績評価の統一について 成績評価に含む項目の定義は教務委員会及び専攻科委員会において方針を決定し，シラバス説明会において周知を図ることとし，シラバスの原稿は教務主事が点検することとした。
	2．シラバスへの反映，内容確認システムの確立について 科目担当教員がJABEE学習・教育目標の設定を公に確認できるシステムとして，各学科に対応した学習・教育目標及びJABEE基準の関係図を学内ホームページに掲載することとした。 なお，JABEE学習・教育目標・JABEE基準・評価方法の確認体制として，各年度における科目の教育目標を，本科1～3年については教育課程等委員会，本科4･5年及び専攻科1･2年についてはJABEE対応委員会で協議・決定することとした。
	3．JABEE科目，効率的な成績エビデンス保管方法について 試験答案等のスキャンはこれまでどおり実施し，審査時には，主要科目の合格最低点の答案をプリントアウトしておくとともに，スキャンした電子データをCD－Rに収めて審査会場のPCで確認可能なようにしておくこととした。 なお，答案以外のエビデンスの一部は確実に保存することとした。
	4．シラバスと授業進捗度確認システムの確立について 学級日誌による授業進捗度確認作業を補完するため，学生コメントに対して科目担当教員が回答を記入し，クラスごとに集約したファイルをHR教室に保管することで学生の閲覧を可能とし，科目担当教員及び学生へのフィードバックを図ることとした。
教務委員会	1．カリキュラムの見直しについて 教育課程等委員会において，検討を開始した。カリキュラム改正に当たっては，制御情報工学科の名称変更及び専攻科との継続性も考慮し，専攻科委員会と連携しつつ検討を進めることとした。
	2．各委員会の連携及び改善の見える化について 年度末の委員会において，当該年度の協議(改善)事項一覧の作成・確認を行い，委員会での改善事項が他の委員会からの依頼によるものか，自主的なものかを明示することとした。
	3．成績評価の統一について(JABEE対応委員会への提案) 成績評価に含む項目を次のとおりとすることとした。 ・試験：定期試験，追試験，再試験，追認試験，その他の試験(中間試験)等を含む。 ・学習の取組み：小テスト，課題，レポート，発表内容等客観的に評価できるものを指す。「学習態度」及び「出席点」は学習の取組みではないため成績評価に含まない。 なお，各学科(科)において，成績評価確認表の提出状況を翌年度(5月)に回覧し，定義した項目により評価されているか否かについて教務主事及び専攻科長が確認することとした。
FD推進委員会	1．科目間連携の会議開催について 専門科目担当教員と一般科目担当教員の意見交換会を開始することとし，また，教員全体の意見交換会を開催することとした。
	2．新任教員の教育について 授業方法に関する指導・教育の一環として，新任教員による先輩教員の授業参観を行い，また，学科(科)長，先輩教員及び教務主事が新任教員の授業を参観して意見交換会を行い，新人教員が参観に係る報告書を教務主事に提出することとした。
	3．各委員会の連携及び改善の見える化について 教育点検改善委員会からの提案どおり行うこととした。
専攻科委員会	1．認定専攻科審査に関する準備について 教員の資格審査のため，各教員は旭川工業高等専門学校専攻科担当教員の資格審査要項1に規定する研究業績の要件を満たすよう，各委員から所属学科(科)の教員へ周知することとした。
	2．認定専攻科審査に向けた新カリキュラムの検討について 受審年度の平成23年度を目途に新カリキュラムの検討を進め，カリキュラムの改正に当たっては，本科のカリキュラムとの継続性も考慮し，教務委員会(教育課程等委員会)と連携しつつ検討を進めることとした。
	3．各委員会の連携及び改善の見える化について 年度末の委員会において，当該年度の協議(改善)事項一覧の作成・確認を行い，委員会での改善事項が他の委員会からの依頼によるものか，自主的なものかを明示することとした。
教育課程等委員会	1．成績評価項目のシラバスへの反映、内容確認システムの確立 各学科(科)の教育目標，JABEE学習・教育目標，JABEE基準，評価方法の確認体制として，各年度における各学科(科)の教育目標(本科1～5年)を審議・決定することとした。
運営委員会	1．教育点検改善委員会の点検方法について 教育点検改善委員会からの提案どおり行うこととした。

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

教務委員会等が提案したプラン（PLAN）を各学科（科）・専攻の教職員が実行（DO）し，そのチェックを内部評価及び外部評価により行った（CHECK）後，評価事項を教育点検改善委員会で検討（ACTION）し，再び教務委員会等に検討事項を付議するPDCAサイクルが整備されている。企画委員会と運営委員会は，随時連携してPDCAサイクルを廻す。

以上のことから，教育の質の向上・改善に役立つ組織的なシステムが整備され，教育の見直しに対する継続的な方策が講じられている。

観点９－１－④：　個々の教員は，評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図るとともに，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っているか。また，個々の教員の改善活動状況を，学校として把握しているか。

（観点に係る状況）

２年ごとに行われる学生による授業評価は集計され，「学生による授業評価報告書」（資料９－１－②－１（553 ページに前出））として刊行されるが，その際，教員一人ひとりが学生の評価及びコメントに対して回答することとしており，その中で授業の改善点・学生への要望等が記される。これにより，次年度以降の教育の方法が改善され，教育の質の向上が期待できる。

また，学生による授業評価報告書は，教育点検改善委員会において詳細に分析され，授業改善の方向性が全国高専教育フォーラム等に報告されている（資料９－１－④－１）。ちなみに，評価アンケート開始からの６年間の推移をまとめた報告（資料９－１－④－２）によると，学校全体として授業改善効果があがっている。

資料９－１－④－１

「平成 22 年度全国高専教育フォーラム目次」

論文発表プログラム（セッション別・発表順）

８月２７日　第Ⅰセッション（13:15～14:35）　　※休憩（14:35～14:45）

A会場

発表開始時間	論文番号	分野 教育研究	分野 学生指導	所属	発表者	題目	頁
13:15	5	○		苫小牧	小野 真嗣	北海道の自然や産業資源を活用した技術者のための環境教育	1
13:35	8	○		釧路	柳川 和徳	創造工学「ペーパークラフトの創造」実習環境の構築	5
13:55	25	○		小山	井上 次夫	名作のひと味違う音読発表会	7
14:15	19	○		福島	川崎 俊郎	仮説設定における教養科目の役割	11

B会場

発表開始時間	論文番号	分野 教育研究	分野 学生指導	所属	発表者	題目	頁
13:15	10	○		旭川	葦 耕司	フィードバックしやすい「学生による授業評価」アンケートの取り組み　－6年間の継続実施による授業改善効果－	15
13:35	2	○		函館	今野 慎介	学生による達成度点検・評価に関するWeb支援システム	19
13:55	20	○		福島	佐東 信司	異学年協働による市民に役立つモノづくり教育	21
14:15	36	○		長岡	佐々木 徹	マラ工科大学INTEC高専予備教育コースにおけるプログラミング教育	23

C会場

発表開始時間	論文番号	分野 教育研究	分野 学生指導	所属	発表者	題目	頁
13:15	98	○		広島商船	上杉 鈴一	小テストクリア方式による学力補充	27
13:35	72	○		豊田	松本 嘉孝	ＩＣＴを用いた授業手法支援ツールの充実化と全国展開に向けて	31
13:55	78	○		鈴鹿	西岡 勝美	今どきの高専生 －「不確実性の時代」、高専生は何を学ぶべきか－	33
14:15	117	○		阿南	坪井 泰士	学生が主体的に参加する授業を目指して －内発的動機を高める様々な手法－	37

D会場

発表開始時間	論文番号	分野 教育研究	分野 学生指導	所属	発表者	題目	頁
13:15	6	○		釧路	荒井 誠	産学連携による実践型人材育成事業の成果と今後	41
13:35	24	○		茨城	富永 学	文部科学省原子力人材育成プログラムによる科学技術教育の取り組み	45
13:55	136	○		佐世保	須田 義昭	国際的協業による実践的若年技術者の育成事業とその成果	49
14:15	109	○		徳山	養永 常宏	徳山高専における学習・教育レビュー室の活動	53

E会場

発表開始時間	論文番号	分野 教育研究	分野 学生指導	所属	発表者	題目	頁
13:15	17		○	仙台	佐藤 公男	高専における規律違反に対する停学処分のあり方についての一考察	57
13:35	29		○	小山	田中 昭雄	学内アイデアコンテストにおける学生指導と教育的効果	61
13:55	74		○	鳥羽商船	伊藤 友仁	鳥羽商船高専における衛星設計コンテストでの学生指導	63
14:15	85		○	奈良	内田 眞司	奈良高専学生寮における新型インフルエンザ対策	67

F会場

発表開始時間	論文番号	分野 教育研究	分野 学生指導	所属	発表者	題目	頁
13:15	46		○	長岡	田中 真由美	学科間連携による校内英語エッセーコンテストの実践 －初年度の試み－	71
13:35	14		○	仙台	笠松 富二夫	クラブ活動を通した成績不振部員の補習指導	75
13:55	59		○	福井	江本 晃美	技術者教育としての課外活動の可能性の提示と「人間力」につながる要素の考察	79
14:15	75		○	鈴鹿	川口 雅司	近年における全国高専体育大会剣道競技の試合結果についての一考察	81

（出典　平成 22 年度高専教育講演論文集）

資料９－１－④－２

「平成 22 年度高専教育講演論文集」（１）

フィードバックしやすい「学生による授業評価」アンケートの取り組み
－6 年間の継続実施による授業改善効果－

（旭川工業高等専門学校）○筧　耕司、沼田　ゆかり、石垣　剛、津田　勝幸

1. はじめに

学生による授業評価は、平成 18 年（2006 年）の高等専門学校や大学の設置基準の改正により、現在ほとんどの高等教育機関で行われるようになった。現在の高等専門学校設置基準第 17 条 4 では、「高等専門学校は、当該高等専門学校の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。」と書かれている。このための有効な手段として、「学生による授業評価」が様々な形態で各教育機関で取り組まれている。

多くの高等教育機関では、2006 年よりも前から自発的に授業の質向上や、教員の資質向上を目的として「学生による授業評価」を実施してきたが、組織的に取り組む困難さや問題点等があり、継続的に授業が改善されてきたかどうかを学校全体で把握することは難しかった。また、実施の煩雑さからアンケートの実施自体が形骸化され、実施を業者委託によって行うなど、授業改善に対し有効利用するための深い議論が行われていないこともみうけられる。

旭川高専では、2004 年度に「学生による授業評価」アンケート実施方法を大幅に見直し、全授業科目に対して、マーク式と記述式を融合させたユニークなアンケートを実施している。集計グラフでは、学生の授業への取組度、教員の授業に対する評価と学生の成績等をリンクして、授業担当教員が授業改善へフィードバックしやすいように工夫を行っている。[1] さらに、2006 年度からは中間報告・前回比較コメントを導入し、授業改善への意識を高める工夫を行い、授業担当教員がアンケート結果を授業改善へフィードバックしやすい様に継続的にアンケート実施内容も改善している。[2]

ここでは、本校で行っているフィードバックしやすい「学生による授業評価」について、2004 年、2006 年、2008 年度の実質 6 年間計 3 回の実施から得られた継続的なデータを分析し、授業改善効果について検討・報告する。

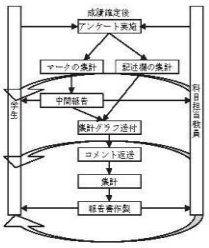
2. アンケート実施方法とこれまでの工夫

旭川高専では、ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の一環として、1998 年度から「学生による授業評価」を行っている。2004 年度からは、アンケート実施方法を大幅に見直し、隔年で卒業研究等を除くすべての授業（約 300 科目）に対して、成績確定後に「学生による授業評価」アンケートを行っている。

アンケートは、マークシートを利用し、無記名で実施した。質問内容は、学生の授業に対する取り組み姿勢（以下学習取組度）について 10 項目、学生による授業の評価（以下授業評価）について



図１　科目別アンケート結果の例



フィードバック

図２　アンケート結果のフィードバックの方法

10 項目、成績評価について 1 項目、資料のための調査（評価点・展示）について 2 項目の計 23 項目からなる。これを 5 段階の回答を設けマークシートに記入させた。また、マークシートの裏面には、自由記述欄を設け、良かった点と改善して欲しい点の 2 点について、学生の授業に対する意見や要望（以下学生コメント）を自由に記述させた。

図 1 および 2 のように、マークシートのデータは、専用ソフトウェアでグラフ化し、電子化された学生コメントを含む詳細な集計グラフを、各授業担当教員に配布しそれを受け、授業担当教員は前回比較と改善を主眼に各自アンケート結果を分析し、自己評価及び授業改善策等のコメント（以下教員コメント）を提出する。アンケート結果を教員の側から授業改善にフィードバックしやすい様、工夫したアンケート集計グラフを作成した。[1]

また、2006 年度にはアンケート実施から 1 ヶ月程度で学生への迅速な結果報告をする「中間報告」を導入した。これにより早いフィードバックの実現、学生教員間のアンケート実施に関する信頼性確保、科目間の比較や、自分の評価と他者の評価との比較ができるなどのメリットがある。さらに、教員コメントに「前回比較」というキーワードを盛り込むことにより、単発の評価ではなく、継続的に授業改善へのフィードバックを行っていくことを教員に喚起している。[2]

加えて、自由記述欄の意見を授業へフィードバックしやすくなるように、一つの意見が総意ではないこと、どのようなレベルの学生が具体的意見を書いているかなどを分かりやすくするため、成績評価別コメント一覧を作り、教員に配布する仕組みも作った。[2]

2004 年度と 2006 年度のデータ比較では、総合して明らかに 2006 年度の方が良い傾向が見られた。項目別にみると改善すべき点も多々あるが、全体的に見ると改善されている項目が多く、この 2 年間で学生の学習取組および、教員の授業が良い方向に向かっていることがデータで示された。[4]

3. 実質 6 年間の実施による授業改善効果

図 3 は、全科目についての平均値を 2004 年、2006 年、2008 年度を比較したものである。客観的に判断できるマーク方式部分について改善された項目を解析する。

- 学習取組度平均レーダーチャート（図 3 上左）および学習取組度平均年次推移（図 4 左）より

2004 年度から 2006 年度にかけて全体的に大幅な改善が見られたが、2008 年度は 2006 年度とほぼ同様な結果となった。その中でも、レポート、提出期限に関する項目に対する平均値が高くなっている傾向が見られる。また若干ではあるが、興味、学習満足度に対する項目も改善がみられる。ほとんどの項目に対して 2006 年度より平均値が高いの

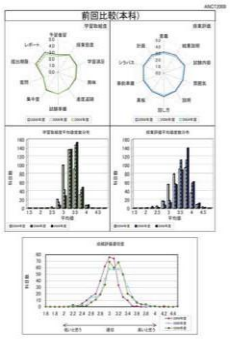


図３　2004、2006、2008 年度の全科目平均値比較

「平成 22 年度高専教育講演論文集」（２）



で、学生が授業に望む取り組みが良い状態を継続していると思われる。

- 授業評価平均レーダーチャート（図３上右）及び授業評価平均年次推移（図４右）より

ほぼ全ての項目で、2006 年度より平均値が高くなっている。2004 年度から 2006 年度に改善したほど、大きな数値の変化ではないが、着実に授業に対する学生の評価が良い傾向に向かっている。特に宿題、計画、シラバスの項目に対する平均値の上昇が他と比べて大きく、教員がなぜこの授業を行うのかを学生に説明し、シラバスの計画通り授業を進めることが定着してきた証拠がうかがえる。それ以外の項目も平均値が若干高くなっており、教員の授業の進め方が学生にとっても納得できるものへと改善していることが読みとれる。

- 学習取組度平均値度数分布（図３中央左）より

2004 年度、2006 年度、2008 年度と比べていくと分布が平均値の高い方に偏る傾向が見られており、学生の学習取り組みが改善されている授業が増えていることを表している。特に、2004 年度の平均が 3 付近にあった科目数が、2008 年度は 3 分の 1 以下になり、代わりに 3.5 付近の科目数が大幅に増えた。このことから、年々学生の学習取り組みの底上げが出来てきているといえる。

- 授業評価平均値度数分布（図３中央右）より

2004 年度、2006 年度、2008 年度と比べていくと、分布は全体的に高い方に移っている様子が見られる。特に、2006 年度平均が 3.5 付近であった科目が減り、代わりに 3.75 付近の科目が増えている。また、3.5 以下の科目をみても 2006 年度より若干減っていることが分かる。このことは、年々改善されている授業が増えていることを示している。学生の学習取り組みと連動して、相乗効果を生んでいると思われる。

- 成績評価適切度（図３下）より

3 が「評価が適切と思う」の項目なので、2004 年度と比べると学生が思っているよりも高い評価であった科目の割合が増えているが、2006 年度と同等な結果を得ている。2006 年度とほぼ同様な評価にも関わらず、2008 年度の学習取組度や授業評価の結果が良い方に向かうということは、授業が確かによりよいものになっていると言っても良いと考えられる。

これらから、全体的に 2004 年度から 2006 年度、2008 年度と年々改善されてきている項目が増えている。2006 年度は、学生による授業評価を、学生自身の学習取組度と教員の授業評価の２本立てとし自己反省を促しながら教員の授業を評価するスタイルをとって３回目の実施であった。この期間継続して改善が続くということは、授業評価等を参考にしながら、学生と教員が一緒に授業をよりよいものにしようと心がけてきた結果であると思われる。すなわち、教員が授業を改善するだけでなく、学生も授業を通じて学習の取り組みを改善することが必要であるが、2008 年度のアンケート結果では、ほぼ全ての項目において、改善がみられ、それを証明する結果となった。もちろん個々の科目においての次回への改善点は少なからずあると思われる。学生との相性の問題や科目の性質上、改善しにくい項目も多数あると思われるが、学生に迎合せず、教員に改善する努力がみられれば、学生も同じように学習取組を努力してさらによりよい授業になることが期待できる。

図４　項目別全科目平均値の年次推移

この通論につながる具体的な改善効果の例を示す。図４の授業評価の意義の項目で、年々数値が特に高くなっている。「授業の意味を伝える」地道な努力の結果がグラフに現れており、授業内容を学習することの意味を学生が理解する割合が増えたことがわかる。これは学習取組度の予習復習、レポート提出、授業態度の項目が年々改善されていることにつながっている。さらに、テストの結果説明もきちんと行われているので、学生が自らを振り返る機会が増え、その結果、学習取組度に反映されているという良い循環が現れていると分析できる。

また、1999 年から 2002 年まで実施した方法（旧方式）と 2004 年から 2008 年まで実施した現方法（新方式）で評価数値の分析を行った。旧方式および新方式それぞれの開始年度を基準として授業評価数値の上昇率の年次推移をみると、旧方式では 1999 年から 2000 年までは 2%上昇したが、2000 年から 2002 年にかけてはほとんど変わらなかった。一方、新方式では 2004 年から 2006 年まで 3%、2006 年から 2008 年まで 2%と上昇し続けている。加えて上昇幅も旧方式より高くなっていることがわかった。これは現方式の有効性を示す結果である。

4　まとめ

旭川高専で実施したフィードバックしやすい「学生による授業評価」について、実質６年間の授業改善効果を検討した。その結果、学校全体の平均値をみると全体的には間違いなく授業改善が行われていることがわかった。

2004 年度に変更した集計グラフの工夫により、改善点が発見しやすくなったことが授業改善に少なからずつながっている。また、成績水準毎にアンケート結果を分析できるようにしたことで、アンケートのデータの信頼性が増したという意見もある。僅がつくレベルの学生は学習取組度も高く、可がつくレベルの学生は学習取組度も低い傾向があることも分かった。どのようなレベルの学生が、どのように授業に取り組んで、どのように授業を評価しているかの情報を得やすくなり、授業担当教員が授業改善へフィードバックしやすい環境が整ったことで、改善結果がデータとして現れてきた。そして、本校の取り組みのように、学生自身の評価を同時に行うことによって学生自身の授業取り組みへの反省を促し、教員と学生が一体となって授業改善する意識付けを行えば、積極的な意見を促すことができ、授業改善へつながることが証明されたのではないか。

また、一方でアンケート実施にかかわる学生・教員の負担増や同じ作業の連続によるマンネリ化が表面化することが懸念される。本校の学生による授業評価が開講された全科目に対し隔年で実施している理由は、①組織的に継続して長期間にわたって授業を改善していきたいこと、②アンケート科目選択により学生の意見を反映できない授業を減らすこと、③アンケート実施の頻度を少なくすることにより学生・教員双方の負担を減らすことである。

教員の資質向上には、長期にわたるこのような組織的な取り組みは欠かせない。継続して行うためには、組織的にはアンケートを実施しない年もあってよいと思われる。教員個人の資質向上が目的であるから、短期間に何度もアンケートをとるのではなく、隔年程度で行う方がより実をとれるのではないかと考えている。本校の調査によるとアンケート用紙へのいたずらがきなどの不適切なマークシートの頻度は全体のほぼ 5%以下であった。これは教員と学生の信頼関係のしるしである。これ以上回数を増やすと学生は始きてデータの信頼性が低くなることが懸念される。アンケート項目数を少なくして全科目を行うか、アンケート項目をそのままにして科目数を絞るか、負担を減らす方法はいろいろあるが、少なくとも本校の方法では、授業改善効果がデータとして見えているので、本取組方法が組織的アンケートの方法として重要であることを示唆している。

日常の授業改善は組織的に行うより、教員単位で行う方が、改善点を見つけやすい。そのきっかけを作るのが組織的なＦＤである。一回の実施でアンケート結果をフィードバックする機会を増やす方が効率がよいのではないか。

これまでのアンケート結果は、我々をエンカレッジさせてくれるものが多かった。隔年実施の本校の「学生による授業評価」が、継続的に授業の改善にフィードバックできるよう、今後もアンケート方法の改善も含めた継続が欠かせない。

参考文献

1) 富樫司：「学生による授業評価アンケート集計のためのソフトウェア開発」，pp. 236 237，平成 17 年度工学・工業教育研究講演会講演論文集(2005)
2) 富樫司他：「フィードバックしやすい「学生による授業評価」アンケートの取り組み」，pp. 175 178，平成 19 年度高専教育講演論文集(2007)
3) 富樫司他：「フィードバックしやすい学生による授業評価アンケートの実践と集計」，pp. 87 89，平成 19 年度工学・工業教育研究講演会講演論文集(2007)
4) 富樫司他：「フィードバックしやすい「学生による授業評価」アンケートの取り組み」，pp. 67 68，平成 20 年度高専教育講演論文集(2008)

（出典　「平成 22 年度高専教育講演論文集」P.15-18）

（分析結果とその根拠理由）

２年ごとの「学生による授業評価報告書」に記される教員の回答には，授業の改善点・学生への要望等が含まれる。このようにして教員の授業内容の継続的改善が図られている。

また，上記報告書の内容を，教育点検改善委員会が詳細に分析し，個々の教員の改善活動状況を把握するとともに，学校全体としての教育改善の方向性を示す。

以上のことから，個々の教員は評価結果に基づき，質の向上を図り，授業の改善を行っており，また，その状況を学校として把握している。

観点９－１－⑤：　研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

（観点に係る状況）

教員の研究活動は毎年発刊されている研究紀要『旭川工業高等専門学校研究報文』の中で「研究業績目録」として,「学術論文」「総説，解説，評論等」「学会シンポジウム（講演論文）」等に区分されて掲載されている（資料９－１－⑤－１）。学会やシンポジウム等では，準学士課程における卒業研究や専攻科課程における特別研究の成果が学生により数多く発表されており，これらの多くは指導教員の研究と密接な関わりのある研究内容となっている（資料９－１－⑤－２）。

学生が学会で発表した際に賞を受賞した場合など,「学術振興表彰」として表彰しており（資料９－１－⑤－３），教育の質の改善の成果が現れている。

資料９－１－⑤－１

「教員の研究成果の発表状況（平成 17～22 年度分)」

教員の研究成果の発表状況

（平成17年11月～平成22年10月）

種別	年度	機械システム工学科	電気情報工学科	制御情報工学科	物質化学工学科	一般人文科	一般理数科	（一般科目）	合計
学術論文	18	4	1	4	7	3	6	9	25
	19	2	1	3	1	2	4	6	13
	20	3	1	3	2	3	2	5	14
	21	2	1	4	6	3	1	4	17
	22	2		3	13	6	1	7	25
その他の論文（総説，解説，評論等）	18				3	6	1	7	10
	19	2	8		3	18	1	19	32
	20	3	12	1	1	16	2	18	35
	21	1	14	2	5	25	1	26	48
	22		3	1	5	12	1	13	22
著書（共著含む）	18				2	4		4	6
	19						1	1	1
	20						1	1	1
	21	2				4		4	6
	22					1		1	1
学会シンポジウム（講演論文）	18	9	5	4	12	4	6	10	40
	19	16	7	10	24	1	6	7	64
	20	12	22	25	16	3	3	6	81
	21	23	29	18	21	6	2	8	99
	22	12	23	29	34	10	3	13	111
その他の発表	18	1	4	1	2	5	1	6	14
	19								
	20								
	21								
	22								
特許	18			1					1
	19			1	1				2
	20		1		1				2
	21	1	1						2
	22				2				2

（出典　総務課資料）

資料９－１－⑤－２

【平成 22 年度　学会等発表者】

学生	指導教員（専門分野）	発表テーマ	発表機関名	発表日
[redacted]	戸村　豊明（知覚情報）	拡張現実感を用いた NUI アプリケーションの開発	2010 年度精密工学会春季大会学術講演会	H22．3
	宮越　昭彦（触媒化学）	誘電加熱を利用するメタンの高度転換プロセスの開発	日本化学会北海道支部 2010 年夏季研究発表会	H22．7
	宮越　昭彦（触媒化学）	タンの直接芳香族化のための触媒開発 -触媒の水素処理と表面炭素析出種の関係について	日本化学会北海道支部 2010 年夏季研究発表会	H22．7
	宮越　昭彦（触媒化学）	マイクロ波加熱を利用する木質素材由来活性炭の調製と吸着特性	日本化学会北海道支部 2010 年夏季研究発表会	H22．7
	宮越　昭彦（触媒化学）	エトリンガイト由来結晶化物の調製条件とフッ素吸着特性	化学系学協会北海道支部 2011 年冬季研究発表会	H23．2
	宮越　昭彦（触媒化学）	マイクロ波加熱を利用するエトリンガイト由来結晶化物の多孔質化とフッ素吸着特性	化学系学協会北海道支部 2011 年冬季研究発表会	H23．2
	大柏　哲治（機械力学・制御）	収穫ロボットが日本の農業を救う～技術立国日本における農業:韓国の事情を参考に	旭川ウェルビーイング・コンソーシアム２０１０年度連携公開講座	H22．6
	大柏　哲治（機械力学・制御）	大根収穫機の移動の自動化に関する研究	日本機械学会北海道学生会第４０回学生員卒業研究発表講演会	H23．3
	沼田ゆかり（高分子）	熱機械分析による機能性バクテリアセルロースゲルの評価	第 45 回高分子学会北海道支部研究発表会	H23．1
	千葉　誠（腐食防食）	$Cu2^{+}$ および Cl^{-} イオンを含む高温水溶液中におけるアルミニウム合金の腐食挙動	表面技術協会	H22．9
	千葉　誠（電気化学）	多肉植物の光合成メカニズムを利用した発電システムの開発	日本化学会北海道支部	H23．2
	千葉　誠（腐食防食）	Cl^{-}, $Cu2^{+}$ を含む高温水溶液中におけるアルミニウム合金の腐食について	日本化学会北海道支部	H23．2
	千葉　誠（腐食防食）	高温流水中における鉄の腐食形態におよぼすリン酸塩インヒビターの影響	日本化学会北海道支部	H23．2
	千葉　誠（腐食防食）	応力による銅表面のホウ酸塩水溶液中における酸化挙動の影響	日本化学会北海道支部	H23．2
	千葉　誠（腐食防食）	高温流水中における鉄の腐食に対するインヒビターの影響	表面技術協会	H23．3
	富樫　巌（微生物制御）	生活環境にみられるカビの防除－精油の防カビ性能－	化学会系北海道支部 2011 年冬季研究発表会	H23．2
	富樫　巌（腐食防食）	酵母に対する有機酸水溶液の殺菌性能	化学会系北海道支部 2011 年冬季研究発表会	H23．2
	富樫　巌（腐食防食）	木炭を用いた固定化トリコデルマの木材腐朽阻害活性	化学会系北海道支部 2011 年冬季研究発表会	H23．2
	森川　一（医用生体）	歯列模型 STL データ編集プログラムの開発	日本機械学会北海道学生会第 40 回学生員卒業研究発表講演会	H23．3
	森川　一（医用生体）	Java Applet 等を利用した制御工学 e ラーニング・コンテンツの拡充	日本機械学会北海道学生会第 40 回学生員卒業研究発表講演会	H23．3

（出典　学生課資料）

資料９－１－⑤－３

〔「学術振興表彰受賞学生一覧」（平成 17～22 年度分）〕

平成17年度から22年度までで、「学術振興表彰」として表彰した学生一覧

年度	氏名	学科・学年	機関名・受賞名目	内容
17	[redacted]	5S	日本精密工学会 北海道支部学術講演会優秀プレゼンテーション賞	2005年度精密工学会北海道支部学術講演会優秀プレゼンテーション賞受賞
		2P	日本精密工学会 北海道支部学術講演会優秀プレゼンテーション賞	2005年度精密工学会北海道支部学術講演会優秀プレゼンテーション賞受賞
		1A	京都大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 関西テクノアイデアコンテスト大学の部生活アイデア部門準グランプリ	関西テクノアイデアコンテスト'05大学の部生活アイデア部門において準グランプリを受賞
		2P	日本機械学会北海道学生会 最優秀プレゼンテーション賞	日本機械学会北海道学生会第35回学生員卒業研究発表講演会において最優秀プレゼンテーション賞を受賞した
		4E	(社)日本工業英語協会 文部科学大臣奨励賞	平成17年度文部科学省認定工業英語能力検定試験において優秀な成績で合格し，文部科学大臣奨励賞を受賞した
18		1P	日本精密工学会 北海道支部学術講演会優秀プレゼンテーション賞	2006年度精密工学会北海道支部学術講演会優秀プレゼンテーション賞受賞
		2P	日本精密工学会 ベストプレゼンテーション賞	精密工学会春季大会において，ベストプレゼンテーション賞を受賞した
		5S	機械学会北海道学生会 ベストプレゼンテーション賞	機械学会北海道学生会において，ベストプレゼンテーション賞を受賞した
		2P	機械学会北海道学生会 ベストプレゼンテーション賞	機械学会北海道学生会において，ベストプレゼンテーション賞を受賞した
		2P	機械学会北海道学生会 ベストプレゼンテーション賞	機械学会北海道学生会において，ベストプレゼンテーション賞を受賞した
19		5S	機械学会北海道学生会 ベストプレゼンテーション賞	機械学会北海道学生会において，ベストプレゼンテーション賞を受賞した
20		2P	日本精密工学会 北海道支部学術講演会優秀プレゼンテーション賞	精密工学会北海道支部学術講演会において，優秀プレゼンテーション賞を受賞した
21		2P	日本軽金属学会 希望の星賞	軽金属学会から優秀と認められ，「希望の星」賞を受賞した
		3S	全国パテントコンテスト 特許出願支援対象者となり表彰	パテントコンテストで特許出願支援対象者となり表彰された
		4M	全国パテントコンテスト 特許出願支援対象者となり表彰	パテントコンテストで特許出願支援対象者となり表彰された

※ 22年度は該当者なし

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

教員の研究内容及び研究成果は，準学士課程の卒業研究や専攻科課程の特別研究等において直接活かされており，指導を受けた学生の研究発表が学会の賞を受賞している実績等がそれを示している。

以上のことから，教員の研究活動が教育の質の改善に寄与しているといえる。

観点９－２－①：　ファカルティ・ディベロップメントが，適切な方法で実施され，組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

（観点に係る状況）

「FD推進委員会」が主催する講演会が毎年行われている（資料９－２－①－１）。

教員相互の授業参観については，平成 16 年度以降毎年行われており，授業担当教員及び参観教員による意見交換会（資料９－２－①－２）が行われている。意見交換会で出された多くの意見を基に，授業改善が図られている（資料９－２－①－３）。

また，平成21年度から，保護者を対象とした「授業参観」を行っており（資料９－２－①－４），その際実施している授業参観アンケート（資料９－２－①－５）の解析により，教育の質の向上が図られている。平成23年１月には「やる気を引き起こすための授業に関するFD」を行い，組織としての教育改善に関する議論を行った（資料９－２－①－６）。

資料９－２－①－１

〔「FD 推進委員会」FD 事業報告（H17 年度)〕

平成１７年度ＦＤ事業一覧

(1)高等専門学校機構主催研修会
①新任教員研修会　　17.8.22(月)～24(水)　　３名参加 ②教員研修会（クラス経営・生活指導研修会) 17.9.13(火)～15(木)　　１名参加
(2)ＦＤ講演会
①科学研究費補助金説明会　　17.10.14(金)　(庶務課と共催) 講師：独立行政法人日本学術振興会　研究事業部研究助成課 次長　西 山 和 彦　氏 ②安全衛生に関する講演会　　17.12.17(水)　(安全衛生委員会と共催) 講師：中央労働災害防止協会　北海道安全衛生サービスセンター 技術専門役　衛生管理士　池 田 和 博　氏 ③厚生補導研究集会における講演　　18.1.6(金)　　(学生委員会と共催) 講演内容：「学校制度史における高等専門学校の意義と課題 －教員養成から技術者養成を考える－　」 講師：北海道教育大学岩見沢校教授　　門 脇 正 俊　氏 ④個人情報保護に関する講演会 講師：株式会社　北海道電子計算センター　情報セキュリティ管理室長 鎌 田 晃 一　氏
(3)北海道大学教育ワークショップ
期日：17.11.11(金)～12(土)　会場：奈井江町農業構造改善センター テーマ：「単位の実質化」 参加者：一般人文科　鈴木教員，物質化学工学科　高田教員
(4)ＦＤ研修会
期日：18.3.17 テーマ：授業における自学自習の導入方法
(5)教員相互の授業参観
期日：18.2.1～2　　意見交換会：2.13 参観授業：情報処理（後藤），発酵醸造工学（冨樫），応用物理（山中・岡島）

〔「FD 推進委員会」FD 事業報告（H18 年度)〕

平成１８年度ＦＤ事業一覧

(1)高等専門学校機構主催研修会
①新任教員研修会　　18.8.23(水)～25(金)　沼田，石垣，久志野，水野，松岡教員 ②教員研修会（クラス経営・生活指導研修会) 18.8.28(月)～30(水)　長岡，大島教員
(2)ＦＤ講演会
①知的財産に関する説明会　　18. 8.31(木)　(庶務課と共催) 講師：地域共同テクノセンター長　土 田 義 之 教授 ②科学研究費補助金説明会　　18.10.19(木)　(庶務課と共催) 講師：北海道大学大学院工学研究科　藤 川 重 雄 教授 ③ＦＤ講演会　－茨城高専における最近の改革への取り組み－　19. 2. 2(金) 講師：茨城工業高等専門学校副校長　柴 田 尚 志 教授　(企画室との共催) ④「学校における個人情報保護について」講演会 19. 3. 2(金) (情報推進室と共催) 講師：株式会社　北海道電子計算センター　鎌 田 晃 一　氏 ⑤安全衛生に関する講演会　　19. 3. 6(火)　(安全衛生委員会と共催) 講師：北海道大学大学院工学研究科安全衛生管理室長　覚 知 豊 次 教授 ⑥セクシャルハラスメント講演会　19. 3.15(木)　(庶務課と共催) 講師：旭川医科大学医学部　松 岡 悦 子 助教授 ⑦発達障害児に関する講演会　19. 3. 20(火)　(学生相談室と共催) 講師：北海道教育大学旭川校　安 達　潤 助教授
(3)北海道大学教育ワークショップ
期日：18.11.10(金)～11(土)　会場：北海道大学・ないえ温泉ホテル北の湯 テーマ：「単位の実質化」 参加者：大澤，高田教員
(4)ＦＤ研修会
期日：19.2.19(月) テーマ：カリキュラムの構成とシラバス 参加者：千葉，畑口，沼田，久志野，水野，松岡教員
(5)厚生補導研究集会
期日：19.1.6(金)　　(学生委員会と共催) テーマ：○担任業務に関して　○学生指導，寮務指導に関して

〔「FD 推進委員会」FD 事業報告（H18 年度)〕

(6)教員相互の授業参観
期日：19. 1.12　参観授業　「情報処理」（今野教員）　参観教員 15名 期日：19. 1.23　参観授業　「物理」（岡島教員）　参観教員　12名 期日：19. 1.30　意見交換会　参加教員　11名
(7)学生による授業評価アンケート
○実施対象科目　全科目（企業実習，卒業研究を除く。） ○対象学生　全学生 ○アンケート実施方法　マークシート（一部記述） ○実施時期　通年科目　10月中旬～下旬（授業時）一部は11月上旬 前期科目　10月中旬～11月上旬（HR担任又はFD推進委員） 後期科目　第５学年，専攻科第２学年 2月上旬～中旬（FD推進委員） ○中間報告　中間報告書作成　12月上旬　教員，学生に公表
(8)卒業生に対する学校評価アンケート
期日：　依頼18.12　回収19.1 対象：　平成14年3月本科卒業者（留学生を除く。）127名 回収率：14.2　%

〔「FD 推進委員会」FD 事業報告（H19 年度)〕

平成１９年度ＦＤ事業一覧

(1)高等専門学校機構主催研修会
①新任教員研修会　19.8.22(水)～24(金)　岡田，小山，青山教員 ②教員研修会（クラス経営・生活指導研修会） 19.8.27(月)～29(水)　横井，大澤教員
(2)ＦＤ講演会
①科学研究費補助金説明会　19.8.30(木)　(総務課と共催) 講師：北海道大学大学院工学研究科　増 田 隆 夫 教授 ②産業財産権に関する講演会　19.9.11(火)　(総務課と共催) 講師：ユビランド知的財産綜合事務所長　弁理士　星 野 裕 司 氏 ③セクシュアル・ハラスメント講演会　20.2.29（金）（総務課と共催） 講師：谷 口 牧 子 教授 ④ＦＤ講演会―技術士制度とＪＡＢＥＥ―　20.3.7（金）（地域共同ﾃｸﾉｾﾝﾀｰと共催） 講師：社団法人日本技術士会　専務理事　竹 下　功 氏 参加者教員　３６名，職員１４名 ⑤学生相談講演会―青少年の深刻な悩みとその対応―20.3.13（木）学生相談室と共催 講師：北海道立精神保健福祉センター　主任技師（医師）　上 田 敏 彦　氏 事例研修：「思春期事例から学生支援を考える」 北海道立精神保健福祉センター　主任技師（医師）　上 田 敏 彦　氏 福祉専門員（相談員）堀　美智枝　氏
(3)学生による授業評価アンケート実施
○実施対象科目　全科目（企業実習，卒業研究を除く。） ○対象学生　全学生 ○アンケート実施方法　マークシート（一部記述） ○実施時期　１８年度後期科目　第１～４学年，専攻科第１学年 4月中旬（学級担任，FD推進委員）
(4) 学生による授業評価報告書の作成（１８年度実施分）（自己点検・評価）
報告書原稿作成　10月 印刷発行　11月 送付　12月　高専機構・各高専・関係大学２７校 学生向け報告書作成・ホームページ登載　1月

〔「FD 推進委員会」FD 事業報告（H19 年度)〕

(5)北海道大学教育ワークショップ
期日：19.11.9（金）・10（土）　会場：北海道大学及び奈井江 テーマ：「単位の実質化を目指して」 参加者：篁教員
(5)厚生補導研究集会
期日：20.3.19（水） テーマ：学生指導関係，寮務指導関係 参加者：教員全員
(6)ＦＤ研修会
期日：20.2.18（月）　講師　教務主事 テーマ：新任教員等教務関係ガイダンス 参加者：江頭，岡田，小山，佐竹，青山各新任教員，富樫，宮越教員
(7)教員相互の授業参観
期日：20.2.7（木） 参観授業：「機械創造実習」２・３時限（立田・後藤教員）　参観教員15名 ：「化学」　４時限（青山教員）　〃　16名 意見交換会：17:15～　参加教員　14名

〔「FD 推進委員会」FD 事業報告（H20 年度)〕

平成 20 年度ＦＤ事業一覧

(1)高等専門学校機構主催研修会

①教員研修会（クラス経営・生活指導研修会）
20.7.23(水)～25(金)　降旗，高田教員（高専機構主催）
②新任教員研修会　20.8.27(水)～29(金)　江頭，堀川教員（　〃　）

(2)ＦＤ講演会

①八代高専報告会　20.6.19（木）
講師：宇野直嗣　准教授　参加者数　教員30名，職員10名
②競争的資金獲得に向けた説明会　20.8.29(金)（企画委員会主催）
講師：新エネルギー・産業技術総合開発機構北海道支部主査
イノベーション・オフィサー　佐々木　淳　氏
：校長講演　科学研究費補助金獲得３年計画
参加者数　教職員40名
③ＦＤ講演会　(高専機構主催　教育教員研究集会に参加して)　20.10.8
講師：長岡耕一教授，筐　耕司准教授
参加者数　教職員33名
④ＦＤ講演会　(高等専門学校におけるキャリア形成支援教育)　20.11.14
講師：八代高専　小林幸人准教授
参加者数　教職員35名
⑤ＦＤ講演会　(教育方法改善共同プロジェクト教員研究集会に参加して) 20.12.17
講師：青山陽子准教授
(北海道大学教育ワークショップに参加して)
講師：水野優子準教授
参加者数　教職員38名
⑥産業財産権に関する講演会　21.2.3　(企画委員会主催)
講師　プロメテ国際特許事務所　弁理士　田村　爾　氏

⑦セクシュアル・ハラスメント講演会　21.3.5(セクシュアルハラスメント対策室主催)
講師：谷口牧子　教授

〔「FD 推進委員会」FD 事業報告（H20 年度)〕

(3)学生による授業評価アンケート	
○実施対象科目	全科目（企業実習，卒業研究を除く。）
○対象学生	全学生（留学生のみの科目を除く。）
○アンケート実施方法	マークシート（一部記述）
○実施時期	通年科目　10月中旬～下旬（授業時）一部は11月上旬
	前期科目　10月中旬～11月上旬（HR担任又はFD推進委員）
	後期科目　第５学年，専攻科第２学年
	2月上旬～中旬（FD推進委員）
	〃　第１～４学年，専攻科第１学年
	4月中旬（学級担任，FD推進委員）
○中間報告	中間報告書作成　12月上旬　教員，学生に公表

(4) 北海道大学教育ワークショップ
○期日　20.11.7～8　会場：北海道大学及び奈井江
○テーマ　「魅力ある授業を目指して」
○参加者　水野優子　準教授

(5)厚生補導研究集会
○ 期日　21.1.9　（学生委員会が主催）
○ テーマ　本年度は講演　「発達障害の理解と支援～青年期の課題への対応」
講師　村田昌俊　氏（旭川市立桜岡中学校教頭）　参加者　教職員53名

(6) 教員相互の授業参観
○ 期日：　20.12.22　12.25
○ 参観授業：　12.22　：２時限　機器分析（物質化学工学科第４学年）
授業者　沼田ゆかり　助教　参観教職員　14名
12.25　：　２時限　基礎電磁気学（電気情報工学科第３学年）
授業者　大島功三　准教授　参観教職員　12名
○ 意見交換会　20.12.25　教員６名

〔「FD 推進委員会」FD 事業報告（H21 年度)〕

平成２１年度ＦＤ事業一覧

(1)高等専門学校機構主催研修会

①教員研修会（クラス経営・生活指導研修会）
21.8.17～8.18　青山准教授，倉持准教授
②新任教員研修会　　20.8.25～8.28　中村教員

(2)ＦＤ講演会

①高専報告会　　21.6.16（火）
講師：明官秀隆教授（久留米高専）
宮越昭彦教授（宇部高専）　　参加者数　教職員45名

②科学研究費補助金説明会　21.9.30(水)　(研究推進委員会主催)
講師：北海道大学大学院工学研究科教授　　幅崎　浩樹氏
科学研究費補助金申請書の作製に関する説明及び情報交換
参加者数　教職員31名

③ＦＤ講演会　　21.9.30（水）
講師：八代高専　北辻安次教授
科学技術教育支援を通じた高専浮揚　　参加者数　教職員35名

④ＦＤ講演会　　22.1.29（金）（情報処理センター運営委員会との共催）
講師：長岡技術科学大学経営情報系副系長　福村好美教授
高等教育におけるeラーニングの実践　　参加者数　教職員20名

⑤知的財産に関する講演会　　22.3.3（水）（地域共同テクノセンター長主催）
講師：株式会社知財ソリューション
弁理士　大松崎　明子氏

(3)学生による授業評価アンケート

○平成20年度後期開講科目に係るアンケートの実施
４月20日～４月28日

○「学生による授業評価報告書」の発行
11月13日　２５０部

〔「FD 推進委員会」FD 事業報告（H21 年度)〕

(4) 北海道大学教育ワークショップ
○ 開催日　21.11.6～21.11.7 （日程が合わず不参加)
(5)厚生補導研究集会
○ 開催日　22.1.8（金）（学生委員会が主催) ○ テーマ　本年度は講演　「支援を分類してみると･･･ ～やるべきことはたくさんあります～」 講師　松崎俊明氏（釧路高専一般理数科准教授）　参加者　教職員53名
(6) 教員相互の授業参観
○ 開催日　21.9.9, 21.9.10 ○ 参観授業：　21.9.9　４時限　数学Ⅲ（3 年制御） 授業者　冨永徳雄准教授　参観教職員　６名 21.9.10　４時限　英語Ⅱ（２年３組） 授業者　鈴木智己准教授　参観教職員　４名 ○ 意見交換会　21.9.10　教員７名
(7) 北海道地区ＦＤ・ＳＤ推進協議会設立総会
○ 開催日　21.10.8 道内５３校の大学・短大・高専が参加

〔「FD 推進委員会」FD 事業報告（H22 年度)〕

平成２２年度ＦＤ事業一覧

(1)高等専門学校機構主催研修会
①教員研修会（クラス経営・生活指導研修会） 22.8.30～9.1　井口，杉本教員 ②新任教員研修会 22.8.23～8.25　千葉良一，櫻井，木本，堺井教員
(2)ＦＤ講演会等
①競争的資金獲得に向けた説明会　（研究推進委員会主催） 22.9.24（金）「科学研究費補助金説明会」 講師：北海道大学教授　金井　理氏 ②ＦＤ講演会 22.9.22（水）「教職員と学生のための人材育成事業の取り組み方」 講師：熊本高等専門学校准教授　田中裕一氏　　参加者数　教職員34名 ③特許に関する講演会　（知的財産委員会主催） 23.2.9（水） 講師：科学技術振興機構　三井良一氏 ④知的財産に関する講習会　（知的財産委員会主催） 23.3.9（水） 講師：高専－技科大連合スーパー地域産学官連携本部　清水榮松氏 ⑤ハラスメントに関する講演会　（セクシュアル･ハラスメント対策室主催） 22.12.6（月） 講師：㈲ナチュラルハート　神田裕子氏 ⑥その他 「情報セキュリティに関する講演会」（情報セキュリティ管理委員会主催） 23.3.7（月）　講師：ＮＴＴデータ　山岡正輝氏 「リスクマネジメントに関する講演会」（危機管理委員会主催） 23.3.8（火）　講師：共立インシュアランス・ブローカーズ㈱ 中村秀一郎氏

〔「FD 推進委員会」FD 事業報告（H22 年度)〕

(3)学生による授業評価アンケート
○平成22年度前期及び通年開講科目に係るアンケートの実施 10月20日～11月12日の期間で実施（学級担任，ＦＤ推進委員） 12月に中間報告書を公表 ○平成22年度後期開講科目 23年１月～２月（５年生，専攻科２年生） 23年４月～５月（１～４年生，専攻科１年生） （報告書は，23年10月頃発行予定）
(4) 北海道大学教育ワークショップ
○開催日　22.11.5（金）～11.6（土） ○テーマ　「授業設計と教育倫理」 ○参加者　木本教員
(5)厚生補導研究集会
○開催日　23.1.7（金）（学生委員会が主催） ○テーマ　「学生のメンタルヘルス支援と教職員のためのストレス対策」 講師　ラ・フォーレ天童　佐々木大輔氏
(6) 教員相互の授業参観
○開催日　23.1.17（月），23.1.20（木） ○参観授業：　23.1.17　３時限　材料力学Ⅱ（４Ｓ） 授業者　阿部教員　　参観教職員　６名 23.1.20　４時限　英語Ⅲ（３Ｍ） 授業者　櫻井教員　　参観教職員　10名 ○意見交換会　23.1.20　11名
(7) 北海道地区ＦＤ・ＳＤ推進協議会総会
○開催日　22.10.20（水） ○場所　　北海道大学　（学生課長が代理出席）
(8) 専門学科教員と一般科目担当教員との意見交換会
○開催日　22.10.7（木） 理科及び数学担当教員と専門学科担当教員との意見交換 理科４名，数学６名，専門18名
(9) 教員間ネットワーク構築のための教員懇談会
○開催日　23.1.7（金） ○テーマ　「学生に自主的な学習意欲を啓発させるための方策」 参加教員：37名

（出典　学生課資料）

資料９－２－①－２

「平成22年度「教員相互の授業参観」実施要項

目 的 教員に対するＦＤの一環として教員相互の授業参観を行い，教員の資質向上に役立てる。

（平成２２年度第１回ＦＤ推進委員会了承）

対象授業

①阿部教員（制御情報工学科）

平成23年１月17日（月）３時限目 材料力学Ⅱ ４Ｓ

②櫻井教員（一般人文科）

平成23年１月20日（木）４時限目 英語Ⅲ ３Ｍ

意見交換会

日時：平成23年１月20日（木）16:45～

場所：中会議室

（出典　学生課資料）

資料９－２－①－３

「平成 22 年度の授業参観」「意見交換会」概要

日 時 平成２３年１月２０日（木） １７：４５～１８：４７
場 所 大会議室
参 加 者 教員１１名（津田，大島，篁，橋本，阿部，森川，中村，宮越，鈴木，倉持，櫻井）
参観授業 （１）・実施日時：平成２３年１月１７日（月） ３時限
・授業科目：材料力学Ⅱ（４Ｓ）
・担 当 者：阿部晶准教授（制御情報工学科）
・参観教員 ：６名
・教 室 ：４Ｓ教室
（２）・実施日時：平成２３年１月２０日（木） ４時限
・授業科目：英語Ⅲ（３Ｍ）
・担 当 者 ：櫻井靖子准教授（一般人文科）
・参観教員 ：１０名
・教 室 ：３Ｍ教室
（司会：津田ＦＤ推進委員会委員長）
司会から，参観授業を行なった阿部，櫻井両教員に謝辞が述べられ，授業の質の更なる向上を目的として意見交換会を行ないたい旨の説明があった。

○ 材料力学Ⅱ
・どのような点に留意して授業を行なっているのか？
・教科書に載っていないことを中心に授業をしている。
・学生に問題を解かせる。宿題・・・授業で解答を配る・・試験とリンク。
・プリントの回収はよかった。
・学生の力をもっと伸ばすための方策。
・ＪＡＢＥＥのエビデンスとして残るので冒険はできない。
・板書がきれいで分かりやすかった。
・授業中，学生が静かだった。

○ 英語Ⅲ
・３Ｍは，受け持っている中では反応の良いクラスである。
・今日のは難しい段落だった。書き換えのプリントを配付。
・人間関係・・教員と学生の雰囲気
・英語を使った授業は説明が多くなり過ぎる傾向があるので，視覚に訴える工夫も必要。
・眠気対策として，学生を動かす工夫。
・発音練習，みんな一緒だとダレるのでは？
・音読の目的は何か？
・All English １年次から英語を多用。
・E-lerning の活用

（出典　学生課資料）

資料９－２－①－４

「H22 年度保護者による授業参観実施要項」

目 的 保護者と本校の連携を深め，教育活動を一段と活性化することを目的とする。

日 時 平成22年４月28日(水) 13：05～14：50（５・６時限目）

※寮生の保護者（遠方在住者）に配慮し，閉寮日前日に実施する。

※希望者は４時限目（11：30～12：20）の参観も可とする。 ただし，この場合は事前申込を必要とする。

対象科目　HR教室における座学科目

※原則として授業時間割どおり実施する。

※実験・実習及び一部科目については，安全上等の理由から対象外とする。

※参観可能な科目を表示した時間割を保護者宛案内文書に同封する。

参観方法　・学生玄関において受付を行う。

・HR教室の後部出入口から入退室する。なお，途中の入退室は自由とする。

・教室内及び廊下での携帯電話の使用は不可とする。

そ の 他　・図書館前ロビー及び秀峰会館を休憩場所とする。

・参観に係る注意事項等を校内に掲示する。

・アンケート調査を実施する。（受付に回収箱を設置する）

（出典　学生課資料）

資料９－２－①－５

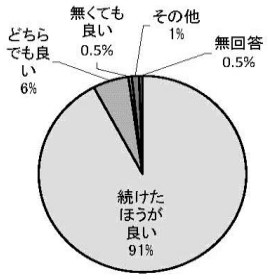
「H22 授業参観アンケート集計表」

授業参観アンケート （H21.4.28実施）

【来校者数】 199人　　【アンケート提出者数】 177人

1. 授業参観の継続について

続けたほうが良い	どちらでも良い	無くても良い	その他	無回答
163	10	1	2	1



（その他のご意見）

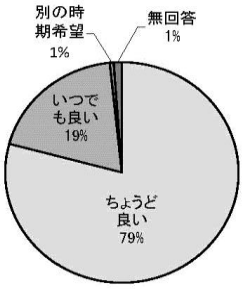
・保護者としては担任の先生との話せる場が欲しいと思います。
・参観出来る授業かどうか，きちんとプリントに書いておいて欲しいです。

2. 1で無くても良いと答えた理由

・実験室での事で教室内で参観出来ずにとても残念でした。時間割等でわかりやすくしてもらいたいです。

3. 授業参観の時期について

ちょうど良い	いつでも良い	別の時期に	無回答
140	34	1	2

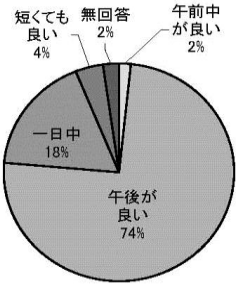


（時期についてのご意見）

・長期休み(GW等)休みの前後は，時間休みにしてもとりずらく，
　見に来るのが大変なので6，7月の一般の水曜とか木曜が助かります。

4. 授業参観の時間帯について

午前中が良い	午後が良い	一日中	短くても良い	無回答
3	132	31	7	4



（時間についてのご意見）

・午前2時間，午後2時間はどう？でしょうか。
・今日くらいがよい。
・14:00～15:00だともっといい。

「H22 授業参観アンケート集計表」

・帰りに子供(生徒)と一緒に帰れる方が良い。

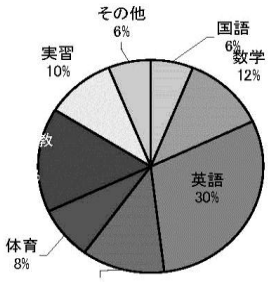
5. 授業参観したクラスと授業名

クラス	参観人数	授業名		
1－1	25	情報基礎	英語Ⅰ	社会
1－2	29	国語	情報基礎	
1－3	18	英語Ⅰ	化学Ⅰ	
1－4	24	化学Ⅰ	数学ⅠA	英語Ⅰ
2－1	13	地理	物理Ⅱ	国語
2－2	17	歴史	地学	地理
2－3	11	基礎英会話	歴史	数学ⅡA
2－4	12	地学	数学ⅡB	生物
3－M	7	数学Ⅲ	歴史	
3－E	5	英語Ⅲ	基礎電磁気学	
3－S	5	CAD/CAM演習	数学Ⅲ	
3－C	6	無機化学Ⅱ	生化学	
4－M	2	ｾﾝｼﾝｸﾞ工学Ⅰ	英語ⅣA	
4－E	3	英語ⅣA	ソフトウエア工学	
4－S	7	電子計算機Ⅰ	電子工学Ⅰ	
4－C	7	応用数学Ⅰ	【材】材料化学Ⅰ	
			【生】生物工学Ⅰ	
5－M	0	機械システム工学ゼミナール		
5－E	1	環境エネルギー工学		
5－S	2	自動加工学Ⅰ		
5－C	0	環境分析		

注・複数クラス参観含む。人数欄に空白があったため来場者数と一致せず。

6. 参観対象授業以外に参観してみたい授業

国語	3
数学	6
英語	15
化学実験	6
体育	4
専門教科	8
実習	5
その他	3



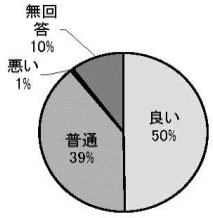
(その他のご意見)
・オフィスアワーやL.H.R
・パソコン関係
・体育祭

「H22 授業参観アンケート集計表」

7. 参観した授業の印象 (複数回答可)

(1)雰囲気

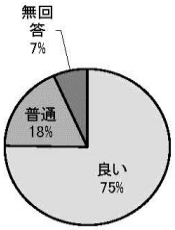
良い	普通	悪い	無回答
68	54	1	14



(良い理由)
・生徒の気持ちと進み方が一致してて，参加してる側も授業を楽しめた。
(悪い理由)
・化学室の参観でしたので，参観が出来ない。時間割でホームルームになっているのが違い，不満。
(無回答の理由)
・実験の為，入室できなかった。

(2)教員

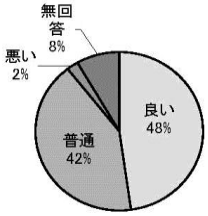
良い	普通	悪い	無回答
171	41	0	15



(良い理由)
・個性的で楽しそう。
・とてもわかりやすいと感じました。ありがとうございました。
(無回答の理由)
・パソコンが起動できない子が2人いました。1人は残り10分になるまで気付いてもらえませんでした。
学生の責任も大きいのですが…。

(3)学生

良い	普通	悪い	無回答
85	74	4	15

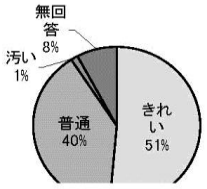


(悪い理由)
・話が多い。
・一部の学生だけ授業しているようで。
・髪の毛の色，ピアス。

(普通の理由)
・寝ている子が気にかかる。
・発言が少ない。

(4)教室

きれい	普通	汚い	無回答
91	70	2	14



「H22 授業参観アンケート集計表」

8. その他，自由記述

（授業，教員についてのご意見）

・わかりやすい授業でしたが，もう少し大きい声で話された方がよいかと思いました。
・英語が難しく理解できているか不安です。
・All Englishでとても緊張感のある50分でした。
・英語の授業ではAll Englishということで，ダジャレ等いれながら工夫されていたと思いますが，
学生の反応がほとんどなく(発言，発表)先生が御苦労されているなぁと気の毒に思いました。
学生さんはわからなくて反応しないのでしょうか，それとも親がいるのでやっぱり恥ずかしいのでしょうか？
社会は現代社会ということで、親として懐かしく一緒に勉強させてもらいました。ありがとうございました。
・英語の授業驚きました。全てえいごなんですね…。数学，社会，とても面白かったです。
・英語の水野先生の日本語を話さない授業，とても良いと思いました。
学生にもっと英語を読む，答える機会を与えて下さい。
・社会の授業は，私自身がとても勉強になりました。
日々の社会情勢などは新聞等で把握しているつもりでしたが，書籍等は好みのものしか読まなくなり，
授業を受けて(参観ですが)興味深く思いました。ありがとうございました。
・授業の内容は，確かに中学校とは異なり専門的で難しくなっていますね。
分数の計算ができない子がいたりして驚きました。レベルの差があることを
廊下にいた先生からご説明を受けました(入学時からすでにある)。
今日の授業から来年はどの位授業の内容がすすむのか，また子どもが理解しているのか？
先生の努力などを知り，保護者が5年間子どもたちを後押しできるためにも参観を続けて下さい。
・根本先生おもしろかったです。
・根本先生の授業は，とてもおもしろかったです。又，あの様に授業が進むと歴史が楽しくなります。
他の先生方もそれぞれに個性があり，とてもためになりました。
この様な機会を下さりありがとうございます。

（実験の参観についてのご意見）

・実験室での授業も参観したい。実験への取り組み姿勢，その反応等も見たい。
・今年は授業参観できて良かったのですが，去年は実験とかで参観できませんでした。
このへんの調整はできないものなのでしょうか？
・今日，6時間目が化学工学室での授業だったのですが入室できない授業でした。参観の意味がないような？
・一年に一度か二度の事だと思います。参観に来る時間を作って来ていますので，時間割，注記等にそって行って頂き，
来る側の楽しみも考えて頂けると助かります。高専で良かったと思える参観内容を…！
・せっかく来たのに，廊下での参観で残念です。
・5，6時間目の参観だったので，6時間目に来た所，見学出来ず残念でした。
・参観が廊下からで残念でした。
・6時限目は化学実験室での授業だったので参観できなかった。
事前に知らせてくれたら5時限目を参観したのに…。連絡してほしいと思います。

（授業参観ついてのご意見）

・教室に入りづらい。
・参観される方が少なくて残念でした。
・高校等の授業参観はないと思っておりましたが，授業と授業の間の子供達の様子もわかり，
とても親としていい時間でした。今後もこの様な機会があればと思っております。
・1年2回あったらいいと思います。
・1年に1回ですが，授業風景を見れてうれしいです。これからも，是非続けていただければ幸いです。
・参観日があることで友達がわかったり，学校の様子や先生の名前だけでなくわかるので，
今後もあれば参観したいと思います。

「H22 授業参観アンケート集計表」

・教室での子供の様子や友達がわかりとても良かった。
・いすがあり，ゆっくり参観できて良かったです。
・ありがとうございました。子どもの様子が見られて良かったです。

（学生についてのご意見）
・後ろの席の数名に落ち着きのなさが見られた。他は落ち着いて授業を受けていたように思いました。
・学生が皆楽しそうでした。(ちょっと自由すぎる学生もいましたが…。)
・前の方が眠っている子が何人もいて，せめて注意してあげたらと思います。
・1人も参観に来ている人が教室にいないと入りづらいですが，ろうかより拝見してきました。
皆さん真面目に授業を受けている姿に感心しました。
・皆，一生懸命でとても良かったです。
・参観日してくれてありがとうございます。クラスみんな，まじめに勉強していて安心しました。
・子供を送迎していますが，学生が車すれすれに歩き，リュックの金具で車が少しこすれました。
指導おねがいします。

（学校施設ついてのご意見）
・学校見学の際にすみずみに綿ぼこり(大きい)が沢山ありました。自販のうしろから，モァーッと出てきました。
今日はなかったようですが，あまり清掃の方に力を入れた学校でないイメージでした。
・整備されている恵まれた環境で学ばせていただけることに感謝しています。
・コート掛けがあると良いと思いました。
・トイレに寄らせていただきましたが，トイレの輪がくっきりとあり，あまり清潔とはいえない気もあり！！

（その他のご意見）
・教室迄の道のりがわかりやすくてよかった。
・遠方より来るため，希望者に担任や寮の相談会があるとよいと思います。

（出典　学生課資料）

資料９－２－①－６

〔「FD 教員懇談会」実施要項（平成 22 年度)〕

「ＦＤ教員懇談会」実施要項

目　　的　　教員に対するＦＤの一環として懇談会の場を設け，教員間ネットワークの向上と教員の資質向上に役立てる。

（平成２２年度第１回ＦＤ推進委員会了承）

日　　時　　平成23年1月7日（金）　１３：３０～１５：３０

場　　所　　大会議室

テ ー マ　　学生に自主的な学習意欲を啓発させるための方策

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

講演会，教員相互の授業参観，保護者を対象とした「授業参観」,「やる気を引き起こすための授業に関するFD」等のファカルティ・ディベロップメントが適切な方法で実施されている。また，これらのファカルティ・ディベロップメント関係の事業の解析・検討により，学校全体としての教育の質の向上が図られている。

以上のことから，本校ではファカルティ・ディベロップメントが，組織として適切な方法で実施され，教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。

観点９－２－②：　教育支援者等に対して，研修等，その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

新任の職員に対しては，高等教育機関としての本校の役割及び職員としての自覚を認識させるため，年度の始めに説明会が行われている（資料９－２－②－１）。

技術創造部においては，技術職員研修や技術職員SD研修会等を通じて技術職員の能力を高めるとともに，毎年３月に「技術創造部発表報告会」を開き，活動成果及び研究の報告を行っている（資料９－２－②－２）。技術職員には各種技能資格の取得と，各種発表会（資料９－２－②－３）への積極的に参加を勧めている。また，平成22年より校長裁量経費の重点配分プロジェクトに応募できるようにした。（資料９－２－②－４）

事務職員は，他機関が実施している研修の実施一覧のとおり，参加している（資料９－２－②－５）。

資料９－２－②－１

「平成 23 年度新任教職員説明会実施要項等」

平成 23 年度新任教職員説明会実施要項

1　趣旨

本校に新たに採用された教職員（転入者等を含む）に対し，高等教育機関としての本校の役割及び教職員としての自覚を認識させ，もって本校の教育目標の実現及び円滑な業務遂行への意識の高揚を図る。

2　日時

平成 23 年 4 月 5 日(火)　09：00～16：55

6 日(水)　13：30～16：15

3　場所

大会議室（管理・専攻科棟２階）

4　説明内容及び説明者

別紙１のとおり

5　受講対象者

平成 23 年 4 月 1 日付け採用者（別紙２のとおり）

※平成 22 年度中の中途採用者及び転入者等を含み管理職を除く。

（出典　総務課資料）

資料９－２－②－２

「平成 22 年度（第２回）技術創造部発表報告会　案内文書＋レジュメ」

教職員 各位

技術創造部長　今野　廣

第 2 回技術創造部発表報告会の開催について

技術創造部では，技術職員の平成 22 年度の活動成果とし て発表報告会を企画し，下記の通り開催することとしました。

つきましては，年度末のご多忙な時期ではありますが，多数の教職員の皆様方に技術創造部の活動内容を知っていただきたいと考えております。

なお，資料の準備等の都合もありますので，出席の有無について 3 月 10 日（木）の 12:00 までに創造開発グループの江口までメールにてご連絡願います。

記

＜日　　時＞　平成２３年３月１５日（火）　１３時３０分～１６時３０分
＜会　　場＞　階段教室
＜内　　容＞　技術創造部技術職員の今年度の活動成果報告
＜参加 対象者＞　本校教職員

（出典　技術創造部資料）

資料９－２－②－３

「技術職員研修等」

技術職員学外研修(平成22年度)

	氏　名	用務先	用務内容
平成22年度	小林　一誠	国立オリンピック記念 青少年総合センター	平成22年度独立行政法人 国立高等専門学校機構中堅職員研修会
	江口　篤史	苫小牧市テクノセンター	技術講演会
	小林　一誠	中央労働災害防止協会 東京安全衛生教育センター	衛生工学衛生管理者コース
	鈴木　利結樹	長岡市　長岡技科大	東日本地域高等専門学校技術職員研修
	三田村　均	北海道大学	平成22年度北海道地区国立大学法人等 技術職員研修
	小牧　悟	株式会社ダイヘンテクノス 六甲FAセンター	ダイヘン溶接機スクール
	小林　一誠	三鷹光器株式会社、 アマダ・ソリューションセンター	加工設備および先端技術に関する調査
	佐藤　陽亮 他1名	熊本大学	平成22年度熊本大学総合技術研究会
	山内　広也 他1名	KKRホテル札幌	産学官連携戦略展開研修会
	山内　広也 他1名	KKRホテル札幌	第3回　テクノ・イノベーションフォーラム

旭川工業高等専門学校技術職員研修（平成17年度～平成22年度）

実施年度	研修内容				
平成17年度	講義	「環境汚染の動向」	一般理数科	教授	松久　喜一
	講義	「レーザー技術を活用した機械加工・計測の話題」	機械システム工学科	助教授	横井　直倫
	技術実習	専門分野に関する技術実習 ・旋盤による基礎加工	技術室	技術専門職員	田川　清三
平成18年度	講義	「人類最古の氷を求めて」	物質化学工学科	助教授	古崎　睦
	講義	「電子材料としての半導体のポテンシャル」	電気情報工学科	助教授	篁　耕司
	技術実習	専門分野に関する技術実習 ・溶接基礎実習	技術室	技術専門職員	小牧　悟
平成19年度	講義	「極低温の観測装置で超高温の宇宙をみる」	一般理数科	准教授	久志野彰寛
	講義	「特許を中心とした産業財産権について」	一般人文科	教授	谷口　牧子
	校外研修	施設見学　旭川市工芸センター	旭川市		
	校外研修	施設見学 北海道立北方建築総合研究所	旭川市		
平成20年度	講義	「金属材料と電気化学」	校長		高橋　英明
	講義	「多軸制御加工と次世代NC」	制御情報工学科	教授	三井　聡
	技術実習	専門分野に関する技術実習 ・3次元CADソリッドワークスの基	技術室	技術職員	小林　一誠
平成21年度	講義	「高専を取り巻く環境と今後の技術創造部	副校長	技術創造部長	片山　則昭
	講義	「文書の起案と書き方」	総務課	総務課長	横道　勤
	技術実習	専門分野に関する技術実習 ・フルモールド鋳造法	技術創造部	技術専門職員	江口　篤史
平成22年度	講義	「微生物利用と微生物制御」	物質化学工学科	教授	富樫　巌
	講義	「技術士取得のための制度の紹介	日本技術士会北海道支部 青年技術士交流委員会	青年技術士交流委員会幹事長	奈良　照一
	講義	「機械部門技術士講話」	日本技術士会北海道支部	機械部門技術士	丸池　可記
	講義	「情報工学部門技術士講話」	日本技術士会北海道支部	情報工学部門技術士	朝日　孝輔
	講義	「技術士会等に関するフリーディスカッション」	日本技術士会北海道支部	総合技術監理部門　技術士	山本　太郎
	校外研修	施設見学 「北海道住電精密株式会社」	奈井江町		

SD研修会（平成21年度～平成22年度）

平成21年度　各高専活動報告

函館工業高等専門学校	技術教育支援センター　センター長	高橋　一英
苫小牧工業高等専門学校	技術教育支援センター　技術長	林　忠夫
旭川工業高等専門学校	技術創造部　技術長	山内　広也
釧路工業高等専門学校	教育研究支援センター　技術長	小林　勲

技術トピックス紹介

函館工業高等専門学校	「技術教育支援センターにおける公開講座への取り組み」	長谷川　亮
函館工業高等専門学校	「エネルギー体験プログラム「エネルギーラボ」の開発	鳴海　敏治
苫小牧工業高等専門学校	「自動車廃窓ガラスを利用した発泡ガラスの作製」	照井　文哉
苫小牧工業高等専門学校	「エコカー製作」	蘇武　栄治
旭川工業高等専門学校	「技能検定への取り組み」	江口　篤史
旭川工業高等専門学校	「人力発電機を用いた体験型実験装置の開発」	舟木　聡
釧路工業高等専門学校	「学科選択制での”ものづくり”について」	的野　卓司
釧路工業高等専門学校	「釧路高専校内LAN提出システムの開発」	高坂　宣宏

討論会

協議題
（1）専門別に行う技術習得のための研修会実施の可否について
（2）技術職員の組織化・センター化のメリット・デメリットについて
（3）今後のSD研修会の在り方について
（4）定年者の定員補充に関して

承合事項
（1）技術職員支援センター組織の特色及び組織化における工夫点
（2）業務の割り当てと演習室などの支援体制（特に専攻科）について
（3）組織化以降の支援業務（業務量、内容、範囲）の変化について
（4）支援センター事務室の利用頻度と効率について

平成22年度　各高専活動報告

函館工業高等専門学校	技術教育支援センター　センター長	高橋　一英
苫小牧工業高等専門学校	技術教育支援センター　技術長	照井　文哉
釧路工業高等専門学校	技術教育支援センター　副技術長	福地　敏春
旭川工業高等専門学校	技術創造部　技術長	山内　広也

技術トピックス紹介

函館工業高等専門学校	「実習工場での危険物管理に対する取り組み」	阿部　努
苫小牧工業高等専門学校	「夏休み工作教室～「思い出をもって帰ろうよ！」実施報告」	川上　光博
釧路工業高等専門学校	「釧路高専電子工学科におけるものづくり基礎」	横山　安弘
旭川工業高等専門学校	「旭川高専におけるガス溶接技能講習について」	小牧　悟
函館工業高等専門学校	「スターリングエンジンを活用した公開講座について」	川合　政人
苫小牧工業高等専門学校	「支援センターの地域貢献活動報告－出前授業・科学実験教室－」	高橋　正一
釧路工業高等専門学校	「斜向配向されたFW円筒殻の振動特性」	樋上　磨
旭川工業高等専門学校	「旭川高専技術創造部における公開講座の実施について」	江口　篤史

討論会

協議題
（1）平成23年度の道内4高専技術職員SD研修会について
（2）技術職員新人教育の各高専現状について
（3）資質向上の研修と技術支援・技術伝承研修の比較から学内研修の実態につ
（4）担当業務改善報告書について

照合事項
（1）各高専が中期計画に掲げている項目への教育支援センターの役割と対応につ
（2）実習・実験など日常的に行う教育・研究に関わる技術支援以外の業務について
a）ネットワークに関する技術職員の関わりについて
b）クラブ活動における技術職員の指導・関わりの実態について
（3）技術職員の人事交流について

（出典　技術創造部資料）

資料９－２－②－４

「平成 22 年度校長裁量経費の重点配分プロジェクト申請要領」

平成22年度校長裁量経費重点配分プロジェクト申請要領
（申請書様式に従い、A4版4ページ以内で作成すること）

各項目の説明
1）申請者：非常勤講師を含む本校教員および技術創造部職員であること。
2）プロジェクト標題：プロジェクトの内容を簡潔にわかりやすく表す標題とすること
3）種類：①研究促進費、②教育改善費、③学校公開活動費、④その他から一つを選んで記入すること。
4）経費：今年度に重点配分を希望する経費の総額を記入する。経費総額は、プロジェクトの内容によるが、①20万円、②40万円、③80万円および④120万円が申請の一応の目安となる。
5）目的：プロジェクトの①目的、②企画に至った背景、③特に重点配分経費を必要とする理由などを具体的に記入する。申請プロジェクトの基礎となる既存の成果内容などは②に引用する。
6）計画：プロジェクト実施の①計画・方法・日程や②個人・共同研究（活動）の別、あるいは、学生などとの関連および実施体制についてできるだけ具体的に記入する。
7）予想される成果：本プロジェクトの成果は、①いつ頃、②どのような手段で達成され、③成果の達成度はどのような方法で評価されるかを記入する。
8）経費の内訳：以下の項目にわけて記載する。①物品費（主な設備備品と消耗品に分けて記載）②旅費（回数、旅行先、旅行目的、旅行予定なども記載）③謝金等（支払い相手も記載）④その他（上記以外の経費。印刷費（論文投稿費、別刷り費を除く）、運搬費など）重点配分経費の使途と他の財源とを併せて使用する場合には、それとの関連などを記入する。
9）これまでの成果の公表および競争的資金申請・獲得状況：本プロジェクトに関連する①学会誌・高専教育・本校紀要、②著書、③口頭発表、④特許、⑤科学研究費補助金申請・獲得、⑥その他の競争的資金申請・獲得の状況を記入する。
10）報告：平成17年度ー平成21年度において「校長裁量経費重点配分プロジェクト」報告書を提出した者は、提出年度を記入する。

＊校長裁量経費の重点配分を行うプロジェクトは、運営委員会の中から校長が指名した5名程度の諮問委員の助言を経て校長が選定し、運営委員会に報告する。
*採択された者は、その成果あるいは経過について、翌年の３月末までに別紙「平成22年度校長裁量経費重点配分プロジェクト実績報告書」を提出する。採択されたプロジェクトの報告書は、同一申請者より提出される次年度以降のプロジェクトの選定の参考資料となる。
＊ 本申請の提出期限は6月4日(金)とする。
提出先：総務課財務係　電話：内線 8111, e-mail: s_zaimu@asahikawa-nct.ac.jp

平成22年度校長裁量経費「研究成果公開促進費」申請要領
（様式任意）

◎ 平成22年4月1日ー平成23年3月31日にレフリー制度のある専門誌に、掲載が決定された論文(オリジナル論文、速報論文、Note, letterを含むが、総説、解説は除く)について申請すること。但し、学外の機関（教育研究機関・企業を含む）との共同研究の場合には、申請者がトップオーサーであること。

1）申 請 者：非常勤講師を含む本校教員および技術創造部職員であること。
2）論 文 名：日本語の場合には日本語題目、外国語の場合には日本語訳も一緒に記入。
3）掲 載 誌：掲載誌名、刊号、ページ（最初ー最終）
4）執 筆 者：執筆者全員の氏名を、論文に書かれた順に記入。
5）申請金額：国内学会誌に掲載決定の場合、10万円、外国雑誌の場合、15万円とする。
6）決定通知：掲載が決定された旨を知らせる葉便、Fax、e-mail のコピーを添付。

＊ 申請時期は、掲載決定の通知を受けたのち、1ヶ月以内とする。
＊ 論文が専門誌に掲載された際には、別刷りあるいは、コピーを一部提出すること。
＊ 本年度の申請件数を確定できないので、申請件数が多い場合、本年度の予算をオーバーすることが予想されるが、その場合には、来年度の予算から配分するものとする。
＊ 提出先：総務課財務係　電話：内線 8111, e-mail: s_zaimu@asahikawa-nct.ac.jp

（出典　総務課資料）

資料９－２－②－５

「研修実施一覧」

教育支援者等研修（平成18年度～平成22年度）

漢字氏名	所属	（研修）名称
前田　未帆	総務課	平成20年度北海道地区学生指導研修会
中西　浩一	総務課	平成20年度北海道地区大学等留学生担当職員研修
和田　道拓	総務課	独立行政法人日本学生支援機構主催 平成18年度北海道地区学生指導研修会修了
和田　道拓	総務課	平成22年度図書館等職員著作権実務講習会修了（文化庁）
澤谷　真実	総務課	平成18年度目録システム講習会図書コース修了
髙橋　弘	総務課	平成１８年度北海道地区学生指導研修会修了
髙橋　弘	総務課	平成２１年度留学生担当者研修会修了
永井　淳一	学生課	平成20年度厚生補導事務研修会
及川　久美子	学生課	第46回全国学生相談研修会
宮本　武朗	学生課	平成21年度北海道地区学生指導研修会
須藤　淳一	学生課	平成22年度留学生担当職員研修会（日本学生支援機構）修了
水野　麗子	学生課	平成20年度北海道地区大学等留学生担当職員研修
石坂　裕子	学生課	独立行政法人日本学生支援機構主催平成１９年度北海道地区学生指導研修会修了
館田　尚弘	技術創造部	平成19年度北海道地区国立大学法人等技術職員研修修了
江口　篤史	技術創造部	ルネサス半導体トレーニングセンター主催　定期開催セミナー「C言語入門コース」修了
江口　篤史	技術創造部	国立高等専門学校機構主催　平成20年度東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（機械系）修了
佐藤　陽亮	技術創造部	平成21年度東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（電気・電子系）
三田村　均	技術創造部	国立高等専門学校機構主催　平成20年度東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（機械系）修了
三田村　均	技術創造部	平成22年度北海道地区国立大学法人等技術職員研修（国大協北海道地区支部・北海道大学）修了
舟木　聡	技術創造部	平成20年度北海道地区国立国立大学法人等技術職員研修（国立大学協会北海道地区支部・北海道大学）修了
舟木　聡	技術創造部	平成22年度第4/四半期情報システム統一研修（第1回ネットワーク技術コース）（総務省）修了
小林　一誠	技術創造部	平成18年度国立大学法人北海道教育大学初任職員研修修了
鈴木　利結樹	技術創造部	平成22年度東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（情報系）修了（高専機構）

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

新任の職員に対する新任教職員説明会，技術職員に対する技術職員研修や技術職員SD研修会及び事務職員に対する各種研修会等が適切に行われている。また，技術職員には各種技能資格の取得と，各種発表会への参加の機会を与えるとともに，校長裁量経費の重点配分プロジェクトへの応募資格を与えている。

以上のことから，教育支援者に対して，資質の向上を図るための取組が適切に行われている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- 学生による授業評価報告書のなかに教員の評価に対する回答が書かれており，これが授業改善に大いに役立っている。
- 技術職員に校長裁量経費の重点配分プロジェクトへの応募資格を与えており，これが技術職員の教育改善の意欲を高めている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準９の自己評価の概要

本校では，教育活動のデータや資料を収集し保管する体制が整備されている。また自己点検・評価を継続的に行い，委員会の見直しにより，教育改善に対する体制を整備している。

「学生による授業評価アンケート」及び「授業進捗度確認票」により，中短期における学生の意見・要望を知る体制がとられている。また，教育課程等検討部会による継続的改善が行われている。

「旭川高専意見箱」，運営懇話会及び企業等へのアンケートにより，本校の教育研究活動等の状況について，外部からの意見を聴取している。

教育点検改善委員会を中心とするPDCAサイクルが整備されており，継続的な教育の質の改善に貢献している。

学生による授業評価に対して教員が真摯に回答することにより，教員の授業内容の継続的改善が図られるとともに，それらを詳細に分析することにより，学校全体としての教育改善の方向性を示す。

学生の研究発表が学会の賞等を多数受賞していることから，教員の研究成果が卒業研究・特別研究等に活かされていると推察される。

種々のファカルティ・ディベロップメントが適切な方法で実施されており，学校全体としての教育の質の向上に役立てられている。

教育支援者に各種の研修会・発表会への積極的な参加を勧めるとともに，技術職員には各種技能資格の取得と，校長裁量経費の重点配分プロジェクトへの応募資格を与えている。

基準10　財務

（１）観点ごとの分析

観点10－１－①：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また，債務が過大ではないか。

（観点に係る状況）

本校の資産は，平成 16 年４月の法人化移行の際に国から出資・継承された土地及び建物・構築物等であり，教育研究活動を将来にわたって適切にかつ安定して遂行するため，高等専門学校設置基準に基づいて整備されている。平成 23 年３月末現在におけるその資産の現在額及び保有状況は，固定資産一覧表及び資産（施設）の保有状況一覧に示すとおりである（資料 10－１－①－１，２）。

また，債務の状況については，平成 18～22 年度の貸借対照表（資料 10－１－①－３）を財務分析した結果，債務が過大になっている状況にない。

資料10－１－①－１

固定資産一覧表　（単位：円）

財産	不動産		土　地	102,670.99㎡ 1,205,730,684
			樹　木	732本 34,783,800
			建／延べ	14,699㎡ ／29,617㎡
			建　物	1,995,820,106
			工作物	82件 115,601,313
	物品	資産	車両・運搬具	3件 10,372,157
			工具・器具	281件 432,278,613円
			ソフトウェア	4件 2,147,287円
			その他の物品	1件 2,500,000円

（出典　総務課資料）

資料10－１－①－２

資産（施設）の保有状況一覧

施　設
Facilities

1 敷地 Site（総面積 Total Area 102,670㎡）

(1)春光台 Syunkohchau					(2)春光町 Syunkohchau
校舎 School Buildings	寄宿舎 Dormitory	屋外運動場 Outdoor Sports Grounds	職員宿舎 Employees' Apartment	その他 Others	職員宿舎 Employees' Accommodations
44,053㎡	10,942㎡	38,849㎡	4,889㎡	3,480㎡	460㎡

2 建物 Buildings（総面積 Total Area 29,617㎡）

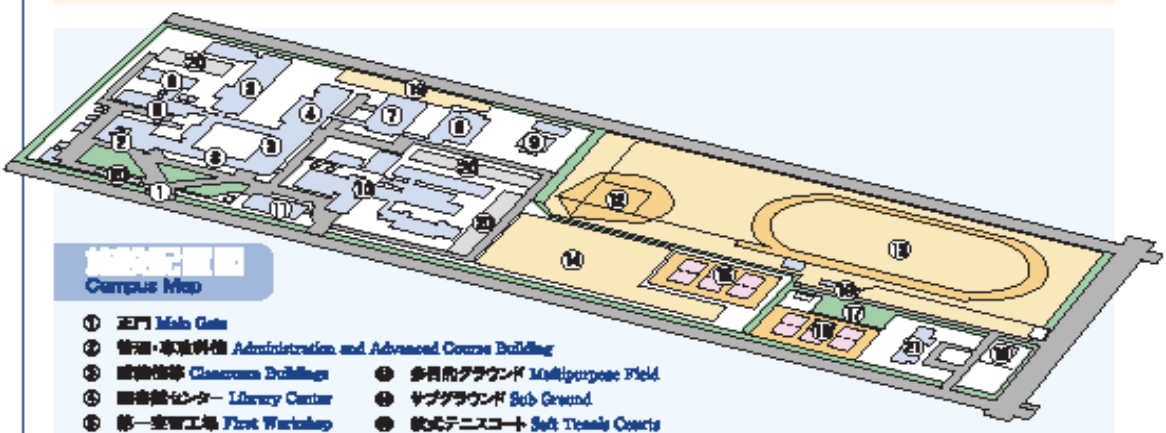
校舎 School buildings				寄宿舎 Dormitory
管理・講義棟等 Office & Classroom Buildings	第一室習工場 First Workshop	第二室習工場 Second Workshop	図書館センター Library Center	
16,305㎡	681㎡	456㎡	864㎡	6,166㎡

屋内運動場 Indoor sports buildings						
第一体育館 First Gym	第二体育館 Second Gym	武道場 Material Arts Gym	合宿所 Training Camp House	渡り廊下・他 Connecting Corridor・Others	福利施設 Welfare Facilities	車庫・倉庫・その他 Garage・others
996㎡	880㎡	289㎡	412㎡	147㎡	908㎡	1,283㎡

職員宿舎 Employees' Accommodations
1,228㎡

3 屋外運動場 Outdoor Sports Grounds

野球場（9,800㎡）1面　On Baseball Ground (9,800㎡)
多目的グラウンド（15,615㎡）350mトラック　Multipurpose Field (15,615㎡) 350m Track
テニスコート（4,771㎡）軟式3面，硬式3面　Tennis Court (4,771㎡), 3 for Soft Tennis and 3 for Tennis.
アーチェリーコート（1,116㎡）4的　Archery Court (1,116㎡), 4 Marks.
ゴルフ練習場（745㎡）7打席　Golf Practice Ground (745㎡), 7 plates.
サブグラウンド（6,802㎡）1面　Sub Ground (6,802㎡)



施設配置図 Campus Map

① 正門 Main Gate
② 管理・専攻科棟 Administration and Advanced Course Building
③ 講義棟等 Classroom Buildings
④ 図書館センター Library Center
⑤ 第一室習工場 First Workshop
⑥ 第二室習工場 Second Workshop
⑦ 第一体育館 First Gym
⑧ 第二体育館 Second Gym
⑨ 武道場 Martial Arts Gym
⑩ 寄宿舎 Dormitory
⑪ 福利施設 Welfare Facilities
⑫ 野球場 Baseball Ground
⑬ 多目的グラウンド Multipurpose Field
⑭ サブグラウンド Sub Ground
⑮ 軟式テニスコート Soft Tennis Courts
⑯ 合宿所 Training Camp House
⑰ ゴルフ練習場 Golf Practice Ground
⑱ 硬式テニスコート Tennis Courts
⑲ アーチェリーコート Archery Court
⑳ 駐車場 Parking Lot
㉑ 職員宿舎 Employees' Accommodations

35

（出典　平成22年度学校要覧 P.35）

資料10－１－①－３

平成１８年度～平成２２年度貸借対照表

１８年度決算

貸　借　対　照　表
（平成１９年３月３１日）

（単位：円）

[資産の部]				
Ⅰ　流動資産				
現金及び預金		377,175,635		
未収学生納付金収入		821,100		
棚卸資産		275,845		
前渡金		－		
前払費用		620,255		
未収収益		－		
未収入金		0		
短期貸付金		－		
その他の流動資産		3,586,302		
流動資産合計			382,479,137	
Ⅱ　固定資産				
１　有形固定資産				
建物	1,935,305,918			
建物減価償却累計額	△ 609,173,205	1,326,132,713		
構築物	123,688,519			
構築物減価償却累計額	△ 51,636,678	72,051,841		
車両運搬具	10,372,157			
車両運搬具減価償却累計額	△ 3,893,628	6,478,529		
工具器具備品	174,307,061			
工具器具備品減価償却累計額	△ 80,624,644	93,682,417		
土地		1,205,730,684		
建設仮勘定		－		
その他の有形固定資産		2,500,000		
有形固定資産合計		2,706,576,184		
２　無形固定資産				
特許権		－		
ソフトウェア		1,304,102		
電話加入権		90,000		
その他の無形固定資産		－		
特許権仮勘定		840,000		
無形固定資産合計		2,234,102		
３　投資その他の資産				
長期前払費用		13,226		
その他の投資その他の資産		13,680		
投資その他の資産合計		26,906		
固定資産合計			3,091,316,329	
[本支店勘定]				
[本支店]函館工業高専		－		
[本支店]苫小牧工業高専		－		
[本支店]釧路工業高専		－		
[本支店]旭川工業高専		－		
（以下、各高専は省略）				
～				
[本支店]機構本部		△ 1,194,414		
本支店勘定合計			△ 1,194,414	
資産合計				3,090,121,915
[負債の部]				
Ⅰ　流動負債				
運営費交付金債務		1,519		
預り補助金等		－		
預り寄附金		4,689,268		
一年以内返済予定長期借入金		－		
未払金		382,286,108		
未払費用		13,876,982		
前受受託研究費等		800,000		
前受受託事業費等		－		
前受金		－		
預り金		1,212,827		
流動負債合計			402,866,704	
Ⅱ　固定負債				
資産見返負債				
資産見返運営費交付金等	130,042,982			
資産見返補助金等	0			
資産見返寄附金	4,005,490			
資産見返物品受贈額	36,927,306			
建設仮勘定見返施設費	－			
特許権仮勘定見返運営費交付金等	840,000	171,815,778		
長期預り寄附金		－		
長期借入金		－		
長期未払金		18,439,801		
長期前受受託研究費等		－		
固定負債合計			190,255,579	
負債合計				593,122,283
[純資産の部]				
Ⅰ　資本金				
政府出資金		2,759,616,314		
資本金合計			2,759,616,314	
Ⅱ　資本剰余金				
資本剰余金		395,887,794		
損益外減価償却累計額(△)		△ 652,593,466		
損益外減損損失累計額(△)		△ 240,000		
損益外固定資産除売却差額（△）		△ 5,671,010		
資本剰余金合計			△ 262,616,682	
Ⅲ　利益剰余金				
当期未処分利益		0		
利益剰余金合計			0	
純資産合計				2,496,999,632
負債純資産合計				3,090,121,915

（出典　総務課資料）

資料10－１－①－３

平成１８年度～平成２２年度貸借対照表

１９年度決算

貸　借　対　照　表

（平成２０年３月３１日）

（単位：円）

［資産の部］				
Ⅰ　流動資産				
現金及び預金		69,304,889		
未収学生納付金収入		553,800		
棚卸資産		－		
前渡金		－		
前払費用		64,219		
未収収益		－		
未収入金		720		
短期貸付金		－		
その他の流動資産		3,822,126		
流動資産合計			73,745,754	
Ⅱ　固定資産				
１　有形固定資産				
建物	1,971,451,455			
建物減価償却累計額	△ 733,860,601	1,237,590,854		
構築物	119,662,148			
構築物減価償却累計額	△ 55,699,869	63,962,279		
車両運搬具	10,372,157			
車両運搬具減価償却累計額	△ 6,265,202	4,106,955		
工具器具備品	195,536,860			
工具器具備品減価償却累計額	△ 107,383,695	88,153,165		
土地		1,205,730,684		
建設仮勘定		－		
その他の有形固定資産		2,500,000		
有形固定資産合計		2,602,043,937		
２　無形固定資産				
特許権		－		
ソフトウェア		2		
電話加入権		90,000		
その他の無形固定資産		－		
特許権仮勘定		1,066,000		
無形固定資産合計		1,156,002		
３　投資その他の資産				
長期前払費用		7,718		
その他の投資その他の資産		13,680		
投資その他の資産合計		21,398		
固定資産合計			2,603,221,337	
［本支店勘定］				
［本支店］函館工業高専		－		
［本支店］苫小牧工業高専		－		
［本支店］釧路工業高専		－		
［本支店］旭川工業高専		－		
（以下、各高専は省略）				
～				
［本支店］機構本部		7,194,762		
［本支店］機構本部　管理課		158,350,109		
本支店勘定合計			165,544,871	
資産合計				2,842,511,962
［負債の部］				
Ⅰ　流動負債				
運営費交付金債務		－		
預り補助金等		－		
預り寄附金		6,981,633		
一年以内返済予定長期借入金		－		
未払金		182,633,022		
未払費用		14,610,790		
前受受託研究費等		－		
前受受託事業費等		－		
前受金		－		
預り金		55,771,586		
流動負債合計			259,997,031	
Ⅱ　固定負債				
資産見返負債				
資産見返運営費交付金等	146,690,975			
資産見返寄附金	14,707,319			
資産見返物品受贈額	26,763,794			
建設仮勘定見返施設費	－			
特許権仮勘定見返運営費交付金等	1,066,000	189,228,088		
長期預り寄附金		－		
長期借入金		－		
長期未払金		12,339,360		
長期前受受託研究費等		－		
固定負債合計			201,567,448	
負債合計				461,564,479
［純資産の部］				
Ⅰ　資本金				
政府出資金		2,759,616,314		
資本金合計			2,759,616,314	
Ⅱ　資本剰余金				
資本剰余金		396,740,345		
損益外減価償却累計額(△)		△ 767,210,772		
損益外減損損失累計額(△)		△ 240,000		
損益外固定資産除売却差額（△）		△ 11,118,078		
資本剰余金合計			△ 381,828,505	
Ⅲ　利益剰余金				
当期未処分利益		3,159,674		
利益剰余金合計			3,159,674	
純資産合計				2,380,947,483
負債純資産合計				2,842,511,962

（出典　総務課資料）

資料10－１－①－３

平成１８年度～平成２２年度貸借対照表

２０年度決算

貸　借　対　照　表

（平成２１年３月３１日）

（単位：円）

[資産の部]				
Ⅰ　流動資産				
現金及び預金		76,993,632		
未収学生納付金収入		1,466,250		
棚卸資産		－		
前渡金		－		
前払費用		58,524		
未収収益		－		
未収入金		953,164		
短期貸付金		－		
その他の流動資産		3,387,699		
流動資産合計			82,859,269	
Ⅱ　固定資産				
１　有形固定資産				
建物	1,973,361,405			
建物減価償却累計額	△ 859,161,674	1,114,199,731		
構築物	146,086,613			
構築物減価償却累計額	△ 62,150,087	83,936,526		
車両運搬具	10,372,157			
車両運搬具減価償却累計額	△ 8,205,366	2,166,791		
工具器具備品	252,751,942			
工具器具備品減価償却累計額	△ 136,398,455	116,353,487		
土地		1,205,730,684		
建設仮勘定		－		
その他の有形固定資産		2,500,000		
有形固定資産合計		2,524,887,219		
２　無形固定資産				
特許権		－		
ソフトウェア		2,652,652		
電話加入権		90,000		
その他の無形固定資産		－		
特許権仮勘定		1,711,090		
無形固定資産合計		4,453,742		
３　投資その他の資産				
長期前払費用		10,136		
その他の投資その他の資産		13,680		
投資その他の資産合計		23,816		
固定資産合計			2,612,224,046	
[本支店勘定]				
[本支店]函館工業高専		－		
[本支店]苫小牧工業高専		－		
[本支店]釧路工業高専		－		
[本支店]旭川工業高専		－		
（以下、各高専は省略）				
～				
[本支店]機構本部		△ 5,151,557		
[本支店]機構本部　管理課		201,241,181		
本支店勘定合計			196,089,624	
資産合計				2,891,172,939
[負債の部]				
Ⅰ　流動負債				
運営費交付金債務		－		
預り補助金等		－		
預り寄附金		12,202,997		
一年以内返済予定長期借入金		－		
未払金		198,883,645		
未払費用		13,994,922		
前受受託研究費等		60,000		
前受受託事業費等		－		
前受金		－		
預り金		77,839,454		
流動負債合計			302,981,018	
Ⅱ　固定負債				
資産見返負債				
資産見返運営費交付金等	180,462,026			
資産見返寄附金	10,451,927			
資産見返物品受贈額	19,695,212			
建設仮勘定見返施設費	－			
特許権仮勘定見返運営費交付金等	1,711,090	212,320,255		
長期預り寄附金		－		
長期借入金		－		
長期未払金		6,010,119		
長期前受受託研究費等		－		
固定負債合計			218,330,374	
負債合計				521,311,392
[純資産の部]				
Ⅰ　資本金				
政府出資金		2,759,616,314		
資本金合計			2,759,616,314	
Ⅱ　資本剰余金				
資本剰余金		420,680,345		
損益外減価償却累計額(△)		△ 884,369,911		
損益外減損損失累計額(△)		△ 240,000		
損益外固定資産除売却差額（△）		△ 11,642,078		
資本剰余金合計			△ 475,571,644	
Ⅲ　利益剰余金				
当期未処分利益		2,957,608		
利益剰余金合計			2,957,608	
純資産合計				2,287,002,278
負債純資産合計				2,808,313,670

（出典　総務課資料）

資料10－１－①－３

平成１８年度～平成２２年度貸借対照表

２１年度決算

貸　借　対　照　表

（平成２２年３月３１日）

（単位：円）

[資産の部]				
Ⅰ　流動資産				
現金及び預金		79,368,055		
未収学生納付金収入		747,050		
棚卸資産		3,272,758		
前渡金		－		
前払費用		990,607		
未収収益		－		
未収入金		111,399,193		
短期貸付金		－		
その他の流動資産		3,556,769		
流動資産合計			199,334,432	
Ⅱ　固定資産				
１　有形固定資産				
建物	1,995,820,106			
建物減価償却累計額	△ 970,319,161	1,025,500,945		
構築物	148,096,113			
構築物減価償却累計額	△ 70,248,150	77,847,963		
車両運搬具	10,372,157			
車両運搬具減価償却累計額	△ 9,644,811	727,346		
工具器具備品	385,054,985			
工具器具備品減価償却累計額	△ 164,325,533	220,729,452		
土地		1,205,730,684		
建設仮勘定		－		
その他の有形固定資産		2,500,000		
有形固定資産合計		2,533,036,390		
２　無形固定資産				
特許権		－		
ソフトウェア		2,925,547		
電話加入権		90,000		
その他の無形固定資産		－		
特許権仮勘定		1,950,790		
無形固定資産合計		4,966,337		
３　投資その他の資産				
長期前払費用		5,622		
その他の投資その他の資産		13,680		
投資その他の資産合計		19,302		
固定資産合計			2,737,356,461	
[本支店勘定]				
[本支店]函館工業高専		－		
[本支店]苫小牧工業高専		－		
[本支店]釧路工業高専		－		
[本支店]旭川工業高専		－		
（以下、各高専は省略）				
～				
[本支店]機構本部		△ 7,163,605		
[本支店]機構本部　管理課		137,657,544		
本支店勘定合計			130,493,939	
資産合計				2,867,850,400
[負債の部]				
Ⅰ　流動負債				
運営費交付金債務		－		
預り補助金等		－		
預り寄附金		15,630,309		
一年以内返済予定長期借入金		－		
未払金		245,348,769		
未払費用		14,144,996		
前受受託研究費等		－		
前受受託事業費等		－		
前受金		－		
預り金		82,153,203		
流動負債合計			357,277,277	
Ⅱ　固定負債				
資産見返負債				
資産見返運営費交付金等	207,523,052			
資産見返補助金等	98,261,044			
資産見返寄附金	9,994,201			
資産見返物品受贈額	13,511,377			
建設仮勘定見返施設費	－			
特許権仮勘定見返運営費交付金等	1,950,790	331,240,464		
長期預り寄附金		－		
長期借入金		－		
長期未払金		－		
長期前受受託研究費等		－		
固定負債合計			331,240,464	
負債合計				688,517,741
[純資産の部]				
Ⅰ　資本金				
政府出資金		2,759,616,314		
資本金合計			2,759,616,314	
Ⅱ　資本剰余金				
資本剰余金		420,680,345		
損益外減価償却累計額(△)		△ 988,649,400		
損益外減損損失累計額(△)		△ 240,000		
損益外固定資産除売却差額（△）		△ 11,911,078		
資本剰余金合計			△ 580,120,133	
Ⅲ　利益剰余金				
当期未処分利益		△ 163,522		
利益剰余金合計			△ 163,522	
純資産合計				2,179,332,659
負債純資産合計				2,867,850,400

（出典　総務課資料）

資料10－１－①－３

平成１８年度～平成２２年度貸借対照表

２２年度決算

貸　借　対　照　表

（平成２３年３月３１日）

（単位：円）

［資産の部］			
Ⅰ　流動資産			
現金及び預金		81,198,043	
未収学生納付金収入		169,200	
棚卸資産		4,532	
前渡金		－	
前払費用		1,347,030	
未収収益		－	
未収入金		86,942	
短期貸付金		－	
その他の流動資産		5,110,580	
流動資産合計			87,916,327
Ⅱ　固定資産			
１　有形固定資産			
建物	1,995,820,106		
建物減価償却累計額	△ 1,078,652,365	917,167,741	
構築物	150,385,113		
構築物減価償却累計額	△ 78,560,588	71,824,525	
車両運搬具	10,372,157		
車両運搬具減価償却累計額	△ 10,372,154	3	
工具器具備品	432,278,613		
工具器具備品減価償却累計額	△ 214,770,813	217,507,800	
土地		1,205,730,684	
建設仮勘定		－	
その他の有形固定資産		2,500,000	
有形固定資産合計		2,414,730,753	
２　無形固定資産			
特許権		－	
ソフトウェア		2,147,287	
電話加入権		90,000	
その他の無形固定資産		－	
特許権仮勘定		2,546,340	
無形固定資産合計		4,783,627	
３　投資その他の資産			
長期前払費用		10,136	
その他の投資その他の資産		13,680	
投資その他の資産合計		23,816	
固定資産合計			2,507,454,523
［本支店勘定］			
［本支店］函館工業高専		－	
［本支店］苫小牧工業高専		－	
［本支店］釧路工業高専		－	
［本支店］旭川工業高専		－	
（以下、各高専は省略）			
～			
［本支店］機構本部		△ 7,000,083	
［本支店］機構本部　管理課		180,524,886	
本支店勘定合計			173,524,803
資産合計			2,680,979,326
［負債の部］			
Ⅰ　流動負債			
運営費交付金債務		5,009,823	
預り補助金等		－	
預り寄附金		21,549,449	
一年以内返済予定長期借入金		－	
未払金		157,497,331	
未払費用		14,892,976	
前受受託研究費等		400,000	
前受受託事業費等		－	
前受金		－	
預り金		79,598,493	
流動負債合計			278,948,072
Ⅱ　固定負債			
資産見返負債			
資産見返運営費交付金等	213,841,512		
資産見返補助金等	82,253,531		
資産見返寄附金	10,179,595		
資産見返物品受贈額	7,744,633		
建設仮勘定見返施設費	－		
特許権仮勘定見返運営費交付金等	2,546,340	316,565,611	
長期預り寄附金		－	
長期借入金		－	
長期未払金		－	
長期前受受託研究費等		－	
固定負債合計			316,565,611
負債合計			595,513,683
［純資産の部］			
Ⅰ　資本金			
政府出資金		2,759,616,314	
資本金合計			2,759,616,314
Ⅱ　資本剰余金			
資本剰余金		420,680,345	
損益外減価償却累計額(△)		△ 1,088,018,661	
損益外減損損失累計額(△)		△ 240,000	
損益外固定資産除売却差額（△）		△ 11,983,419	
資本剰余金合計			△ 679,561,735
Ⅲ　利益剰余金			
当期未処分利益		5,411,064	
利益剰余金合計			5,411,064
純資産合計			2,085,465,643
負債純資産合計			2,680,979,326

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育研究活動を安定して遂行できる校地・校舎・設備等の資産を有し，その増減及び異動の管理を適切に行っている。また，その都度，施設等の充実を図ったことにより，必要な施設・設備が整備され，教育研究活動には十分にふさわしい環境を維持している。

また，貸借対照表により債務の状況について分析した結果，長期借入金等の過大な債務はなく健全な運営を行っている。

以上のことから，教育研究活動を安定して遂行できる資産を有し，債務が過大となっていない。

観点10－１－②：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための，経常的収入が継続的に確保されているか。

（観点に係る状況）

本校の目的に沿った教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行するため，高専機構本部から配分される運営費交付金収入及び学生からの授業料等収入（資料 10－１－②－１）を教育研究活動の基本的財源としている。

資料10－１－②－１

旭川工業高等専門学校収入額状況一覧　（単位：円）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
運営費交付金	1,241,206,744	1,014,417,376	984,794,187	972,949,871	945,832,218
授　業　料	181,756,350	186,503,000	190,162,850	195,206,750	201,191,850
入　学　料	17,029,700	17,850,600	17,343,000	16,327,800	16,327,800
検　定　料	5,944,900	6,105,000	7,375,500	6,996,000	6,930,000
雑　収　入	7,895,778	7,989,784	9,347,699	7,849,891	7,947,836
合　　計	1,453,833,472	1,232,865,760	1,209,023,236	1,199,330,312	1,178,229,704

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

運営費交付金収入については，事業年度毎に高専機構本部から配分されている。学生数は定員を充足し，授業料，入学料，検定料，雑収入の自己収入については，過去５年間の収入状況から安定した収入が確保されており，教育研究活動を安定的に行うための経常的収入が継続的に確保されているものの,運営費交付金が５年間で２億 950 万円（－24%）削減されており，財政事情がひっ迫しつつある。

以上のことから，教育研究活動を安定的に行うための経常的収入が継続的に確保されている。

観点10－１－③：　学校の目的を達成するために，外部の財務資源の活用策を策定し，実行しているか。

（観点に係る状況）

学校の目的を達成するための，全校的な外部資金獲得に向けた取組として，科学研究費補助金については，教員への獲得を推進させるために，「科学研究費補助金説明会」（資料10－１－③－１）を実施している。平成 21 年度から科学研究費補助金の申請に先立ち，応募希望者は校長の申請書のチェック及びアドバイスを受けることができる体制（資料 10－１－③－２）を整備している。また，各種研究助成金については，平成 20 年度から公募情報等を学内専用ホームページに掲載し，学内に周知（資料 10－１－③－３）を図っている。

受託研究，受託事業，共同研究等については，本校が地元・地域企業と連携して地域に貢献するためにも積極的に受入れていく必要があり，平成 14 年度に旭川工業高等専門学校産業技術振興会を設立し，会員企業と本校教職員との産学技術交流会（研究シーズ及び技術ニーズ発表）（資料 10－１－③－４）や地域企業との懇談会（資料 10－１－③－５）を開催している。また，研究シーズ集（資料 10－１－③－６）を，ホームページで公開しているほか，刊行物としてもイベント等で積極的に配付を行う等外部資金獲得に向けた取組を行っている（資料 10－１－③－７）。

資料10－１－③－１

「科学研究費補助金説明会」実施要領等

「科学研究費補助金説明会」実施要領

１．目　　的　運営費交付金が毎年削減されるなか，競争的資金の獲得が，学術研究を推進するうえで極めて重要になっており，本校においても競争的資金の獲得に向けて積極的に取り組む必要がある。

今回，競争的資金の一つである科学研究費補助金の獲得に向けた下記説明会を実施し，科学研究費補助金の獲得に対する本校教職員の意識を啓発するとともに応募を促し，更なる科学研究費補助金の獲得を目指す。

２．開 催 日 時　平成２２年９月２４日(金)　１５：００ ～ １６：３０

３．会　　場　大会議室

４．対 象 者　本校教職員

５．内　　容　科学研究費補助金申請書の作成に関する説明及び情報交換

６．講　　師　北海道大学 大学院情報科学研究科

システム情報科学専攻　システム情報設計学研究室

教授　金井　理　氏

（出典　総務課資料）

資料10－１－③－１

「科学研究費補助金説明会」実施要領等

「科学研究費補助金説明会」を実施

本校では、去る９月２４日(金)に教職員を対象とした「科学研究費補助金説明会」を開催しました。

この説明会は、科学研究費補助金の獲得に対する教職員の意識を向上させるとともに、科学研究費補助金への応募件数及び採択件数を増加させることを目的として実施されたもので、４０名余りの教職員が受講しました。

当日は、競争的研究資金などで獲得経験の豊富な北海道大学大学院情報科学研究科の 金井 理 教授を講師に招き、申請書作成のノウハウなど、自らの経験談を交えながら、約１時間にわたる説明会が行われました。

説明会終了後には、受講した教職員から科学研究費申請のポイントについて活発な質問が出されました。

法人化以降、外部資金の獲得がますます重要となってくるなか、出席した教職員にとって、今回の説明会は大変有意義なものとなりました。



▲熱心に聴講する教職員



▲講演する金井教授

旭川高専ホームページへ

（出典　総務課資料）

資料10－１－③－２

平成２３年度科学研究費補助金の公募について（通知）及び別紙「スケジュール表」

平成２２年９月１３日

教　員　各　位

校　　長

平成２３年度科学研究費補助金の公募について

このことについて，文部科学省研究振興局長及び独立行政法人日本学術振興会理事長から下記の科学研究費補助金について公募がありましたのでお知らせします。

本校では，科学研究費補助金の新規採択件数が，ここ数年減少傾向にあり，各教員においては，さらに積極的に応募し，競争的研究資金の獲得に努めるようお願いします。

ついては，応募希望者は別紙「スケジュール表」を参照のうえ，各期日までに報告及び提出願います。

また，平成２３年度科学研究費補助金公募における前年度からの主な変更点についての通知も添付いたしますので，そちらも併せてご参照ください。

記

文部科学省　・新学術領域研究
・特定領域研究
・特別研究促進費
・研究成果公開促進費（研究成果公開発表）

日本学術振興会　・特別推進研究
・基盤研究
・挑戦的萌芽研究
・若手研究（Ａ・Ｂ）
・研究成果公開促進費（学術定期刊行物・学術図書・データベース）

（出典　総務課資料）

資料10－１－③－２

平成２３年度科学研究費補助金の公募について（通知）及び別紙「スケジュール表」

■ 平成23年度科学研究費補助金スケジュール表

研究代表者			総務課研究協力係	
【申請予定の報告】 平成23年度科研費の申請予定種目をご連絡願います。 ※初めて申請する教員にはID・パスワード通知します。また，ID・パスワードをお忘れの方は，研究協力係まで連絡願います。	報告期限 10月1日（金） （研究協力係まで）	→	□ **【今年度の科研費申請予定者の把握】**	―
↓			↓	
【研究計画調書の提出】 作成した研究計画調書を電子申請システム上で確認完了・提出処理をしてください。併せて処理完了の旨，研究協力係まで連絡願います。 **なお，校長も申請書に目を通しますので，希望者はその旨，併せてご連絡願います。** ※研究計画調書作成作業に入っていただく際の注意点 モノクロ印刷した研究計画調書が審査委員に送付されるため，印刷した際，内容が不鮮明とならないよう，作成にあたっては留意してください。 ※ 基盤研究，若手研究等の応募受付は完全電子化されていますので申請書を必要部数製本する作業は特にありません。 但し，研究成果公開促進費に応募する場合は，必要部数を製本し，提出する必要があります。	提出期限 10月18日（月） （研究協力係まで）	→	**【研究計画調書の内容確認】** 提出いただいた研究計画調書について不備等ないか確認し，確認作業終了後，修正点があればその旨，ご連絡し，電子申請システム上で一旦，却下処理をします。	受領後、2～3日程度
↓			↓	
【研究計画調書の修正】（該当者のみ） 修正した後，再度，電子申請システムで確認完了・提出処理をしてください。併せて処理完了の旨，研協まで連絡願います。	修正期限 11月1日（月）	→ ←	**【研究計画調書の最終確認及び電子申請システム上での一括承認】** 各教員から取り纏めた申請書類を最終確認した後，電子申請システム上で一括して承認処理を行います。（この後，修正等は一切できません。）	11月5日（金）まで
				以上で完了です。

（参考）文部科学省・日本学術振興会の申請期限

- 「特別推進研究」
  「若手研究(A・B)」
  「基盤研究」
  「挑戦的萌芽研究」
  「新学術領域研究」
  「特定領域研究」
  「特別研究促進費」　…11月10日(水)
- 「研究成果公開促進費」…11月11日(木)～11月16日(火)

※ 公募要領・研究計画調書等は，下記ホームページからダウンロードしてください。
なお，研究計画調書等を作成する際，所定の様式を変更することは認められませんのでご注意ください。
※ 応募情報（web入力項目）については，電子申請システムホームページからID・パスワードを入力し，ログインして作成ください。
（ログインする際のID・パスワードについては，**府省共通研究開発管理システム（e－Rad）で使用しているID・パスワードでログイン**することとなりますのでご注意願います。）

・文部科学省（公募要領・申請書様式 他）	http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/main5_a5.htm
・日本学術振興会（公募要領・申請書様式 他）	http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/index.html
・日本学術振興会（電子申請システムHP）	http://www-shinsei.jsps.go.jp/index.html

（出典　総務課資料）

資料10－１－③－３

各種研究助成等に係る申請書提出一覧（平成２３年度学内ＨＰ画面）

各種研究助成等に係る申請書提出一覧（平成23年度）

※　URLのないものについては、総務課研究協力係で案内等を閲覧できます。

※　**この一覧に掲載のない各助成金等を申請する場合も機関として申請を行いますので締切日の１週間前までに総務課研究協力係まで申請書を提出願います。**

受付No.	件　　名	学内提出期限	詳細
23-01	公益信託マイクロソフト知的財産研究助成基金 第8回 研究助成金，マイクロソフト知的財産研究賞	平成23年4月25日(月)	http://www.mskoueki.info/
23-02	(財)クリタ水・環境科学振興振興財団 平成23年度助成研究事業	平成23年 5月12日(木)	http://www.kwef.or.jp/i_koku.html
23-03	(独)科学技術振興機構 平成23年度戦略的創造研究推進事業「CREST」	平成23年 5月 9日(月)	http://www.senryaku.jst.go.jp/teian.html
23-04	(独)科学技術振興機構 平成23年度戦略的創造研究推進事業「さきがけ」	平成23年 4月25日(月)	http://www.senryaku.jst.go.jp/teian.html
23-05	(財)マツダ財団　第27回(2011年度)マツダ科研助成 -科学技術振興関係-	平成23年 5月20日(金)	http://mzaidan.mazda.co.jp/
23-06	北海道 産学連携道産低炭素化技術振興モデル事業委託業務	平成23年5月12日(木)	http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/ssg/sangaku_model/23top.htm
23-07 NEW	日本学術振興会 「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」	平成23年6月20日(月)	http://www.jsps.go.jp/j-zunoujunkan2/index.html
23-08 NEW	日本学術振興会 平成24年度　外国人招へい研究者及び外国人特別研究員事業	平成23年8月10日(水)	http://www.jsps.go.jp/j-inv/main.htm

（出典　総務課資料）

資料10－１－③－４

旭川高専振興会産学技術交流会の開催について（通知）等

旭商産振発第 102 号
平成 22 年 11 月 18 日

旭川工業高等専門学校　教職員各位

旭川工業高等専門学校産業技術振興会
会　長　佐々木　通　彦

旭川高専振興会 産学技術交流会の開催について

謹啓　時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
当振興会の運営につきましては、平素より格別のご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、標記交流会を下記日程にて開催致しますので、ご多用中誠に恐縮とは存じますが諸事お差繰りご出席くださいますようご案内申し上げます。

敬　具

記

日　時　　平成 22 年 12 月 6 日(月)
技術交流会　18 時 00 分～19 時 30 分　　懇親会　19 時 30 分～

場　所　　ロワジールホテル旭川(旭川市 7 条通 6 丁目)
技術交流会・懇親会　3 階 ボールルーム

内　容　　(1)技術交流会[全体発表] ･･･････････････････ 1時間30分

◆創造工学～マイスターによるものづくり教育

創造工学では旭川高専同窓会の有志が、専攻科の学生を対象にものづくりの課題解決力を高める狙いで授業を行っています。開発テーマとしては地元企業などのニーズを掘り起こし、それをテーマとして取組んでいます。今回は、授業の現状、開発事例、今後の展望などについてご説明いたします。

1)じゃがいも選別機の開発
2)ドライブレコーダーシステムの合理化
3)高さ調整可能な車いすの開発
4)ビートハーベスター駆動部の機構開発

(2)懇　親　会･･･････････････････････ 1時間30分
参加料　　3,000 円(懇親会費)

出欠の有無を、11 月 26 日(金)までに「旭川工業高等専門学校総務課研究協力係」へご連絡願います。

［事務局］ 旭川商工会議所 産業支援部産業振興課　担当：[redacted]
〒070-8540 旭川市常盤通 1 丁目　TEL：22-8413　FAX：22-2600

旭川高専産学技術交流会 参加申込書　【期限】11/26

産学技術交流会に(出席する　・　欠席する)

懇親会に　　(出席する　・　欠席する)

※○印を付けてください

ご芳名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（出典　総務課資料）

資料10－１－③－４

旭川高専振興会産学技術交流会の開催について（通知）等

「産学技術交流会」を開催

去る１２月６日(月)、平成２２年度「産学技術交流会」を旭川市内のホテルで開催しました。

この交流会は、本校と旭川工業高等専門学校産業技術振興会が主催し、地元企業関係者と本校教職員との日常的な接点を設けることにより、両者間の人と情報の交流や相互理解のほか、本校の研究シーズと企業の技術ニーズのマッチングを促進するため例年開催しているものです。

今回の交流会には、旭川商工会議所を始め、地域企業、金融機関及び同校など併せて約７０名の参加がありました。

交流会では、始めに同振興会の佐々木会長(株式会社エフ・イー代表取締役社長)から挨拶があった後、本校専攻科で開講され、地域企業のニーズに基づいて制作物を企画・立案・作成等一連の「ものづくり」教育を実践している『創造工学』について、非常勤講師（マイスター）の源津 憲昭 氏による講演が行われました。



▲交流会の様子



▲源津氏による講演

旭川高専ホームページへ

（出典　総務課資料）

資料10－１－③－５

平成２２年度「地域企業等との懇談会」実施要項等

平成２２年度「地域企業等との懇談会」実施要項

１．主　　催　　旭川工業高等専門学校，旭川工業高等専門学校産業技術振興会

２．趣　　旨　　道北地域を中心とする産官学連携の推進を図り，地域社会の発展に資するため，旭川高専と地域企業，団体，公的機関等が意見交換・懇談を行う。

３．内　　容　　旭川高専の教職員と企業が懇談・交流を行い，「地域における技術的ニーズと高専の研究シーズとの融合」を図ることにより，産官学連携の推進を目指す。

４．参 加 者　　道北地域に所在する企業，団体，公的機関等職員及び旭川高専教職員

５．開催日程（１）開催日　平成２３年２月１６日（水）　１８時００分～２０時３０分
（２）日　程　17:30～18:00　受　付
18:00～18:20　開会挨拶と旭川高専の地域連携・社会貢献近況報告
旭川工業高等専門学校長　高橋　英明
18:20～19:20　講　演
「観光資源・産業観光（産学官連携）からの地域振興」
社団法人　旭川観光協会専務理事　重野　健一氏
19:30～20:30　全体交流会
20:30　閉　会

６．会　　場　　ロワジールホテル旭川（市内７条通６丁目）
｛開会・講演｝イーストルーム（２階）
｛交　流　会｝ライラック　（２階）

７．会　　費　　交流会参加費用として５，０００円
（但し，旭川高専教職員は３，０００円）

（出典　総務課資料）

資料10－１－③－５

平成２２年度「地域企業等との懇談会」実施要項等

「地域企業等との懇談会」を開催

去る２月１６日(水)、平成２２年度「地域企業等との懇談会」を旭川市内のホテルで開催しました。

この懇談会は、本校と旭川工業高等専門学校産業技術振興会が主催し、道北地域を中心とする産官学連携の推進を図り、地域社会の発展に資するため、本校と地域企業、団体、公的機関等が意見交換・懇談を行うことを目的に例年開催しているものです。

今回は、地域企業、金融機関及び本校など併せて約６０名の参加がありました。

懇談会では、本校高橋校長から今年度の地域貢献、産学連携に関する報告の後、旭川観光協会専務理事の重野　健一氏が、「観光資源・産業観光（産学官連携）からの地域振興」と題し、観光を始めとする旭川の地場産業の優位点や問題点を示しつつ、今後いかに発展させるべきかを具体例をまじえて講演した。参加者からは、旭川の産業に秘められたチャンスがあることを聞き、地元だからこそ気づかないことがあるということを認識した。出席者からは、今後の活動に活かしたい、との感想が聞かれました。



▲高橋校長の報告と会場の様子



▲講演する重野氏

旭川高専ホームページへ

（出典　総務課資料）

資料10－１－③－６

研究シーズ集・目次等





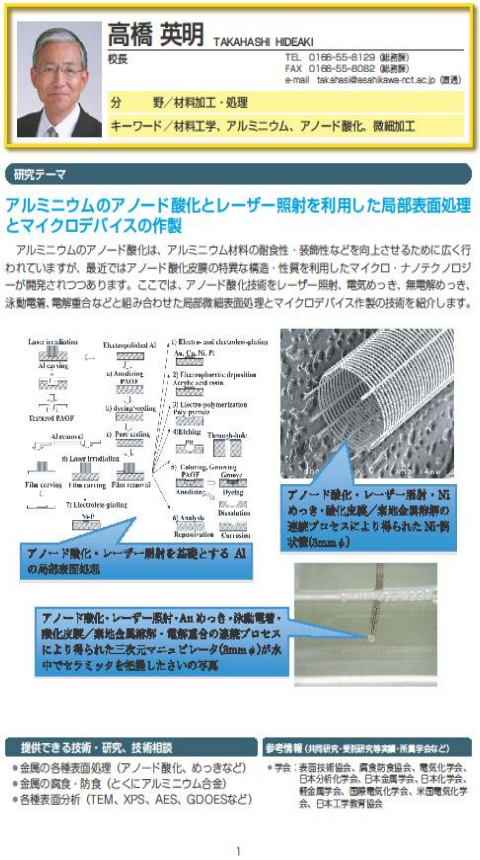
目　次

○校長研究シーズ …… 1

○教員研究シーズ
- 機械システム工学科 …… 2
- 電気情報工学科 …… 12
- 制御情報工学科 …… 21
- 物質化学工学科 …… 31
- 一般人文科 …… 42
- 一般理数科 …… 54
- 技術創造部 …… 64

○研究設備
- 分析装置一覧 …… 69
- 計測・試験装置一覧 …… 70

○キーワード検索 …… 71



高橋 英明　TAKAHASHI HIDEAKI

校長

TEL 0166-55-8129 (総務課)
FAX 0166-55-8082 (総務課)
e-mail takahasi@asahikawa-nct.ac.jp (直通)

分　野／材料加工・処理

キーワード／材料工学、アルミニウム、アノード酸化、微細加工

研究テーマ

アルミニウムのアノード酸化とレーザー照射を利用した局部表面処理とマイクロデバイスの作製

アルミニウムのアノード酸化は、アルミニウム材料の耐食性・装飾性などを向上させるために広く行われていますが、最近ではアノード酸化皮膜の特異な構造・性質を利用したマイクロ・ナノテクノロジーが開発されつつあります。ここでは、アノード酸化技術をレーザー照射、電気めっき、無電解めっき、泳動電着、電解重合などと組み合わせた局部微細表面処理とマイクロデバイス作製の技術を紹介します。

アノード酸化・レーザー照射を基礎とする Al の局部表面処理

アノード酸化・レーザー照射・Ni めっき・酸化皮膜／素地金属溶解の連続プロセスにより得られた Ni-柄状管(3mmφ)

アノード酸化・レーザー照射・Au めっき・泳動電着・酸化皮膜／素地金属溶解・電解重合の連続プロセスにより得られた三次元マニュピレータ(3mmφ)が水中でセラミックを把握したさいの写真

提供できる技術・研究、技術相談
- 金属の各種表面処理（アノード酸化、めっきなど）
- 金属の腐食・防食（とくにアルミニウム合金）
- 各種表面分析（TEM、XPS、AES、GDOESなど）

参考情報（共同研究・受託研究等実績・所属学会など）
- 学会：表面技術協会、腐食防食協会、電気化学会、日本分析化学会、日本金属学会、日本化学会、軽金属学会、国際電気化学会、米国電気化学会、日本工学教育協会

1

（出典　総務課資料）

資料10－１－③－７

旭川工業高等専門学校外部資金受入状況一覧　（単位：円）

		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
外部資金	寄附金	1件	0件	6件	9件	8件
		400,000	0	2,711,207	3,462,500	6,381,981
	同窓会等からの寄附金	2件	4件	4件	5件	5件
		4,517,000	8,266,000	7,297,000	6,257,410	6,643,876
	共同研究費	6件	4件	5件	5件	6件
		1,850,000	960,000	560,000	1,280,000	1,300,000
	受託研究費	1件	3件	4件	1件	0件
		2,000,000	8,600,000	7,898,485	2,000,000	0
	受託事業費	0件	0件	2件	2件	1件
		0	0	1,582,280	6,121,630	309,050
	補助金	0件	0件	0件	2件	2件
		0	0	0	114,518,891	3,905,240
	科学研究費補助金	（申請件数）21件	（申請件数）29件	（申請件数）31件	（申請件数）29件	（申請件数）28件
		（採択件数）7件	（採択件数）12件	（採択件数）10件	（採択件数）7件	（採択件数）9件
		5,100,000	17,080,000	13,180,000	9,790,000	12,910,000
	科学研究費補助金（分担者）	0件	0件	2件	3件	4件
		0	0	490,000	728,000	1,339,000
	その他助成金	6件	3件	3件	2件	3件
		2,328,500	1,070,193	914,867	600,000	688,320
	合計	16,195,500	35,976,193	34,633,839	144,758,431	33,477,467
技術開発相談室の相談件数		19件	22件	61件	29件	21件

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

外部資金については，全校的に獲得に向けた取組を実施しており，科学研究費補助金においては，学内説明会及び校長の申請書チェック・アドバイスによるフォロー体制の整備により，平成 19 年度からは申請件数も増加し，交付金額も増加している。また，各種研究助成金においては，学内ホームページによる広報活動を行っており，随時，案内の通知等があり次第，最新の情報を提供している。

産学連携としての受託研究費等においても，本校地域共同テクノセンターと地元・地域企業を主な会員とする旭川工業高等専門学校産業技術振興会の共催による産学技術交流会や地域企業との懇談会を開催している。また，産学技術交流会においては，本校の研究シーズと企業の技術ニーズのマッチングを促進する等，地域産業界との連携を促進し，外部資金の獲得に役立たせている。

以上のことから，外部資源の活用策を策定し，実行している。

観点10－２－①：　学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されているか。

（観点に係る状況）

収支計画については，高専機構本部から配分された収入・支出予算を基に，高専機構本部及び本校の中期計画（年度計画）に沿った学校の目的を達成するために，教育研究活動の推進等に配慮した予算配分方針（案）及び学内予算配分（案）（現地閲覧資料）を校長と総務課財務担当で作成し，校長連絡会での事前調整及び運営委員会での審議・了承のうえ決定後，関係部署に対して適切に予算配分している。

決定された学内予算配分の内容については，運営委員会のメンバーを通じて学内の関係部署に明示しているとともに，ウェブサイトに運営委員会議事要旨（資料 10－２－①－２）として報告し，周知している。なお，平成 23 年度より運営委員会において前年度の決算報告を行っている（資料 10－２－①－３）。

また，財政状況（収入・支出）に関しては，毎年度学校要覧（資料 10－２－①－４）に掲載することで明示している。

資料10－２－①－１

予算配分方針（案）及び学内予算配分（案）（現地閲覧資料）

資料10－２－①－２

運営委員会（平成２２年度第２回）議事要旨（抜粋）

日　　時　平成２２年５月１８日（火）１６：４５～１８：３７

場　　所　中会議室

出 席 者　高橋校長，今野副校長，津田教務主事，石本学生主事，後藤寮務主事，三井専攻科長，石井学科長，吉本学科長，橋本学科長，古崎学科長，十河科長，長岡科長，川口事務部長

陪 席 者　総務課長，学生課長，技術長，総務課課長補佐（総務担当），総務課課長補佐（財務担当），学生課課長補佐，総務係長

議　事

協議事項

３．学科等教育研究経費の配分方針について　（資料３）

校長から，学科等教育研究経費の配分方針について諮られ，総務課課長補佐（財務担当から，資料３に基づき，説明があった後，協議の結果，了承された。

なお，専攻科長から，今年度は「配分方針３」に該当する学科はない旨の説明があった。

（出典　平成２２年５月開催運営委員会議事要旨）

運営委員会（平成２２年度第３回）議事要旨（抜粋）

日　　時　平成２２年６月８日（火）１６：４５～１７：４３

場　　所　中会議室

出 席 者　高橋校長，今野副校長，津田教務主事，石本学生主事，後藤寮務主事，三井専攻科長，石井学科長，吉本学科長，橋本学科長，古崎学科長，十河科長，長岡科長，川口事務部長

陪 席 者　総務課長，学生課長，技術長，総務課課長補佐（総務担当），総務課課長補佐（財務担当），学生課課長補佐，総務係長

議　事

協議事項

２．平成２２年度学内予算配分（案）について　（資料２）

校長から，平成２２年度学内予算配分（案）について諮られ，総務課課長補佐（財務担当）から資料２に基づき説明があった後，協議の結果，特段の変更がない場合，１週間後の６月１５日（火）をもって成立することが了承された。

（出典　平成２２年６月開催運営委員会議事要旨）

資料10－２－①－３

運営委員会（平成２３年度第３回）議事要旨（抜粋）

日　　時　平成２３年６月１３日（月）１６：４５～１８：００

場　　所　中会議室

出 席 者　高橋校長，今野副校長，津田教務主事，石本学生主事，後藤寮務主事，三井専攻科長，石井学科長，吉本学科長，橋本学科長，古崎学科長，十河科長，長岡科長，村田事務部長

陪 席 者　総務課長，学生課長，技術長，総務課課長補佐（総務担当），総務課課長補佐（財務担当），学生課課長補佐，総務係長

議　事

審議事項

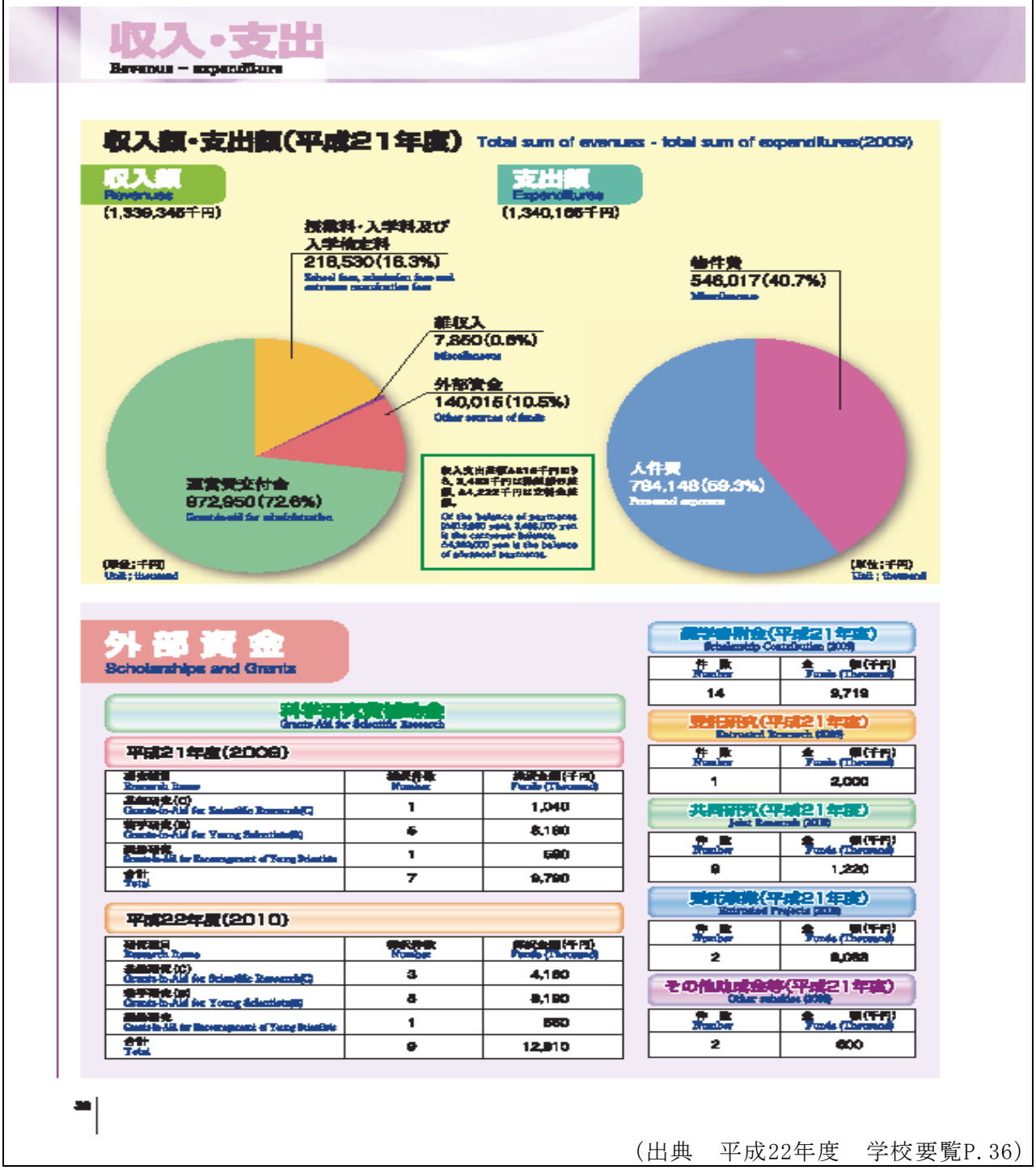
２．平成２２年度決算報告について（資料１）

校長から，平成２２年度決算報告について諮られ，総務課長から，資料１に基づき，説明があった後，審議の結果，了承された。

（出典　平成２３年６月開催運営委員会議事要旨）

資料10－２－①－４

財政状況（収入・支出）一覧



（出典　平成22年度　学校要覧P. 36）

（分析結果とその根拠理由）

収支に係る予算配分に関しては，校長連絡会で事前調整し，運営委員会で審議・了承の上，決定された予算配分方針を踏まえ，学内の関係部署へ適切に配分されている。

また，学内の関係者に対して，ウェブサイトにより運営委員会議事要旨を周知しているほか，財政状況（収入・支出）に関しては，毎年度学校要覧に掲載することで学内・学外

の関係者等に明示している。

以上のことから，適切な収支に係る計画が策定され，学内外に明示されている。

観点10－２－②：　収支の状況において，過大な支出超過となっていないか。

（観点に係る状況）

高専機構会計規則第 17 条及び第 18 条によって，本校は，高専機構本部から事業年度毎に収支予算額が配分され，その額を超えて支出はできない構造になっている（資料 10－２－②－１）。本校の損益計算書を示すと資料 10－２－②－２のとおりとなっており，過大な支出超過となっていない。

なお，平成 21 年度損益計算書において，当期総利益が損失となっているがこれについては，会計処理上，貸倒れにより生じたものであり，支出超過ではない。

資料10－２－②－１

「高専機構会計規則」（抜粋）

（予算実施計画の作成）
第１７条　理事長は，毎事業年度開始前に通則法第３１条第１項に定める年度計画に基づいて，予算実施計画を作成し，これに基づいて収入及び支出を管理しなければならない。
２　理事長は，機構の効率的，効果的な運営に常に配慮するものとする。

（予算実施計画の通知）
第１８条　理事長は，前条で作成した予算実施計画に基づく予算額を契約担当役及び出納命令役に通知するものとする。

（出典　独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第34号）

資料10－２－②－２

平成１８年度～２２年度損益計算書

１８年度決算

損　益　計　算　書

（平成１８年４月１日 ～ 平成１９年３月３１日）

（単位：円）

［経常費用］		
業務費		
教育・研究経費	192,480,497	
教育研究支援費	47,162,594	
受託研究費	3,050,000	
共同研究費	0	
受託事業費	1,818,127	
役員人件費	－	
教員人件費	692,573,704	
職員人件費	391,769,262	1,328,854,184
一般管理費		179,091,248
財務費用		
支払利息	1,010,642	
雑損		－
経常費用合計		1,508,956,074
［経常収益］		
運営費交付金収益		1,228,417,891
授業料収益		196,712,100
入学金収益		17,029,700
検定料収益		5,944,900
講習料収益		34,500
受託研究等収益		3,050,000
受託事業等収益		1,818,127
補助金等収益		8,792,226
寄附金収益		3,423,000
施設費収益		－
資産見返負債戻入		
資産見返運営費交付金等戻入	21,438,501	
資産見返補助金等戻入	0	
資産見返寄附金等戻入	1,658,671	
資産見返物品受贈額戻入	12,761,530	35,858,702
財務収益		
受取利息		－
雑益		
財産貸付料収入	7,874,929	
物品受贈益	－	
間接経費収入	0	
不要物品売払代	0	
その他の雑益	0	7,874,929
経常収益合計		1,508,956,075
経常利益		1
［臨時損失］		
固定資産除却損		△ 1
固定資産売却損		－
その他の臨時損失		0 △ 1
［臨時利益］		
資産見返運営費交付金等戻入		－
資産見返物品受贈額戻入		0 0
［当期純利益］		0
［当期総利益］		0

（出典　総務課資料）

資料10－２－②－２

平成１８年度～２２年度損益計算書

１９年度決算

損　益　計　算　書

（平成１９年４月１日～平成２０年３月３１日）

（単位：円）

［経常費用］		
業務費		
教育・研究経費	186,345,152	
教育研究支援費	25,929,785	
受託研究費	5,681,250	
共同研究費	400,000	
受託事業費	－	
役員人件費	－	
教員人件費	607,282,059	
職員人件費	315,009,470	1,140,647,716
一般管理費		156,595,106
財務費用		
支払利息		798,087
雑損		－
経常費用合計		1,297,242,822
［経常収益］		
運営費交付金収益		1,007,629,015
授業料収益		200,930,900
入学金収益		17,935,200
検定料収益		6,105,000
講習料収益		164,200
受託研究等収益		8,360,416
受託事業等収益		－
補助金等収益		－
寄附金収益		8,926,902
施設費収益		4,155,949
資産見返負債戻入		
資産見返運営費交付金等戻入	23,315,546	
資産見返寄附金等戻入	4,458,359	
資産見返物品受贈額戻入	10,163,512	37,937,417
財務収益		
受取利息		－
雑益		
財産貸付料収入	7,806,684	
物品受贈益	－	
間接経費収入	1,230,000	
その他の雑益	18,900	9,055,584
経常収益合計		1,301,200,583
経常利益		3,159,674
［臨時損失］		
固定資産除却損		－
固定資産売却損		－
その他の臨時損失		－
［臨時利益］		
物品受贈益		－
債権受贈益		－
［当期純利益］		3,159,674
［当期総利益］		3,159,674

（出典　総務課資料）

資料10－２－②－２

平成１８年度～２２年度損益計算書

２０年度決算

損　益　計　算　書

（平成２０年４月１日～平成２１年３月３１日）

（単位：円）

［経常費用］		
業務費		
教育・研究経費	187,431,931	
教育研究支援費	28,947,239	
受託研究費	4,528,991	
共同研究費	500,000	
受託事業費	1,582,280	
役員人件費	－	
教員人件費	540,597,423	
職員人件費	264,511,869	1,028,099,733
一般管理費		192,002,472
財務費用		
支払利息		577,559
雑損		－
経常費用合計		1,220,679,764
［経常収益］		
運営費交付金収益		940,199,722
授業料収益		188,585,516
入学金収益		17,258,400
検定料収益		7,375,500
講習料収益		79,600
受託研究等収益		8,398,485
受託事業等収益		1,582,280
補助金等収益		－
寄附金収益		8,701,050
施設費収益		0
資産見返負債戻入		
資産見返運営費交付金等戻入	26,364,758	
資産見返寄附金等戻入	5,755,380	
資産見返物品受贈額戻入	7,068,582	39,188,720
財務収益		
受取利息		1,524
雑益		
財産貸付料収入	7,937,497	
物品受贈益	－	
間接経費収入	3,000,000	
その他の雑益	1,285,278	12,222,775
経常収益合計		1,223,593,572
経常利益		2,913,808
［臨時損失］		
固定資産除却損		－
固定資産売却損		－
その他の臨時損失		415,800
		△ 415,800
［臨時利益］		
物品受贈益		－
債権受贈益		459,600
		459,600
［当期純利益］		2,957,608
［当期総利益］		2,957,608

（出典　総務課資料）

資料10－２－②－２

平成１８年度～２２年度損益計算書

２１年度決算

損　益　計　算　書

（平成２１年４月１日 ～ 平成２２年３月３１日）

（単位：円）

［経常費用］		
業務費		
教育・研究経費	230,578,593	
教育研究支援費	29,672,098	
受託研究費	2,000,000	
共同研究費	1,220,000	
受託事業費	2,038,069	
役員人件費	－	
教員人件費	551,384,316	
職員人件費	242,763,889	1,059,656,965
一般管理費		164,471,783
財務費用		
支払利息	348,759	
雑損		－
経常費用合計		1,224,477,507
［経常収益］		
運営費交付金収益		923,361,905
授業料収益		198,597,215
入学金収益		16,412,400
検定料収益		6,996,000
講習料収益		80,500
受託研究等収益		3,220,000
受託事業等収益		2,038,069
補助金等収益		13,438,063
寄附金収益		9,083,001
施設費収益		－
資産見返負債戻入		
資産見返運営費交付金等戻入	32,855,475	
資産見返補助金等戻入	2,819,784	
資産見返寄附金等戻入	2,631,225	
資産見返物品受贈額戻入	6,183,834	44,490,318
財務収益		
受取利息		－
雑益		
財産貸付料収入	7,109,100	
物品受贈益	－	
間接経費収入	2,298,000	
不要物品売払代	30,555	
その他の雑益	629,736	10,067,391
経常収益合計		1,227,784,862
経常利益		3,307,355
［臨時損失］		
固定資産除却損		△ 3,446,229
固定資産売却損		－
その他の臨時損失		△ 24,650
		△ 3,470,879
［臨時利益］		
資産見返運営費交付金等戻入		－
資産見返物品受贈額戻入		2
		2
［当期純利益］		△ 163,522
［当期総利益］		△ 163,522

（出典　総務課資料）

資料10－２－②－２

平成１８年度～２２年度損益計算書

２２年度決算

損　益　計　算　書

（平成２２年４月１日 ～ 平成２３年３月３１日）

（単位：円）

［経常費用］			
業務費			
教育・研究経費	255,691,364		
教育研究支援費	23,481,275		
受託研究費	0		
共同研究費	900,000		
受託事業費	4,383,990		
役員人件費	－		
教員人件費	554,245,337		
職員人件費	293,903,120	1,132,605,086	
一般管理費		105,106,519	
財務費用			
支払利息	111,381		
雑損		－	
経常費用合計			1,237,822,986
［経常収益］			
運営費交付金収益		897,786,760	
授業料収益		206,105,135	
入学金収益		16,412,400	
検定料収益		6,930,000	
講習料収益		110,900	
受託研究等収益		900,000	
受託事業等収益		4,383,990	
補助金等収益		3,905,240	
寄附金収益		9,604,267	
施設費収益		23,415,000	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	38,457,090		
資産見返補助金等戻入	16,007,513		
資産見返寄附金等戻入	2,839,026		
資産見返物品受贈額戻入	5,766,743	63,070,372	
財務収益			
受取利息		－	
雑益			
財産貸付料収入	7,011,907		
物品受贈益	－		
間接経費収入	2,949,000		
不要物品売払代	38,010		
その他の雑益	621,929	10,620,846	
経常収益合計			1,243,244,910
経常利益			5,421,924
［臨時損失］			
固定資産除却損		△ 1	
固定資産売却損		－	
その他の臨時損失		△ 175,950	△ 175,951
［臨時利益］			
資産見返運営費交付金等戻入		－	
資産見返物品受贈額戻入		1	
その他の臨時利益		165,090	165,091
［当期純利益］			5,411,064
［当期総利益］			5,411,064

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

高専機構会計規則第 17 条及び第 18 条に基づき，通知された予算額をもって執行計画を策定し，予算執行しているため，収支は均衡している。

以上のことから，過大な支出超過となっていない。

観点10－２－③：　学校の目的を達成するため，教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し，適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

学内の予算配分については，限られた資源を効率的に配分するため，教育研究活動の推進等に配慮した配分方針，校長裁量経費に関する配分方針等を校長連絡会において事前調整し，運営委員会において審議・了承のうえ決定後，教育研究経費を確保するとともに各学科及び教育研究施設等へ毎事業年度の状況に応じて適正に配分している。（現地閲覧資料）

高専教育の改善充実等を図るために必要な校長裁量経費については，各学科，教員等からの申請により予算を重点的に配分する学内競争資金【教育研究プロジェクト経費（重点配分プロジェクト経費）】を従前から導入しており，教育研究経費の重点化を行い，校長のリーダーシップの下，予算の有効な配分に努めている。（資料 10－２－③－１）

また，施設・設備の整備については，施設・防災委員会等において全校的見地から整備・将来計画を検討した後，予算要求すべきものは高専機構本部に概算要求等により予算の確保を図り，計画的な整備に努めている。また，学内予算においても毎年一定の額を計上して施設・設備の維持に支障のないようにしている（資料 10－２－③－２，３）。

資料10－２－③－１

平成２２年度校長裁量経費　重点配分プロジェクト応募要領

平成22年5月18日

平成22年度校長裁量経費
重点配分プロジェクト応募要領

校長　高橋英明

「平成22年度校長裁量経費」重点配分プロジェクトを以下のように募集致しますので奮って応募ください。

① 研究促進費：教員個人の研究をサポートするための経費であるが、二人以上の共同研究、学科の垣根を越えた共同研究、あるいは他研究機関との共同研究を奨励する。また、研究成果公開の観点から、これまでの実績（専門誌への投稿、本校紀要への投稿、学会口頭発表、特許申請、競争的資金申請・獲得等）を重視する。また、新任教員のスタートアップ経費についても考慮する。

② 研究成果公開促進費：研究成果を学会誌に投稿する際の投稿料、あるいは別刷り料などをサポートするものである。

③ 教育改善費：教員個人の教育改善をサポートするものであるが、学校全体、学科全体の取り組み、あるいは、学年、教授科目ごとなどの共同改善を優先する。また、本校の国際化促進の取り組みについて考慮する。成果公開の観点から、「高専教育」などにその成果を投稿するなど、これまでの実績を重視する。

④ 学校公開活動費：公開講座、地域公開特別授業、出前授業など本校の社会貢献、地域貢献の取り組みをサポートするものである。成果公開の観点から、「高専教育」などにその成果を投稿するなど、これまでの実績を重視する。

⑤ その他：①～⑤に当てはまらないカテゴリーに属するものである。これまでの実績を重視する。

なお、①、③～⑤については、従来と同様に年度当初におけるプロジェクト申請方式とし、②については、投稿論文が受理(accept)された段階において申請するものとする。

平成22年度校長裁量経費重点配分プロジェクト申請要領
（申請書様式に従い、A4版4ページ以内で作成すること）

各項目の説明

1) 申請者：非常勤講師を含む本校教員および技術創造部職員であること。
2) プロジェクト標題：プロジェクトの内容を簡潔にわかりやすく表す標題とすること
3) 種類：①研究促進費、②教育改善費、③学校公開活動費、④その他から一つを選んで記入すること。
4) 経費：今年度に重点配分を希望する経費の総額を記入する。経費総額は、プロジェクトの内容によるが、①20万円、②40万円、③80万円および④120万円が申請の一応の目安となる。
5) 目的：プロジェクトの①目的、②企画に至った背景、③特に重点配分経費を必要とする理由などを具体的に記入する。申請プロジェクトの基礎となる既存の成果内容などは②に引用する。
6) 計画：プロジェクト実施の①計画・方法・日程や②個人・共同研究（活動）の別、あるいは、学生などとの関連および実施体制についてできるだけ具体的に記入する。
7) 予想される成果：本プロジェクトの成果は、①いつ頃、②どのような手段で達成され、③成果の達成度はどのような方法で評価されるかを記入する。
8) 経費の内訳：以下の項目にわけて記載する。①物品費（主な設備備品と消耗品に分けて記載）②旅費（回数、旅行先、旅行目的、旅行予定なども記載）③謝金等（支払い相手も記載）④その他（上記以外の経費。印刷費（論文投稿費、別刷り費を除く）、運搬費など）重点配分経費の使途と他の財源とを併せて使用する場合には、それとの関連などを記入する。
9) これまでの成果の公表および競争的資金申請・獲得状況：本プロジェクトに関連する①学会誌・高専教育・本校紀要、②著書、③口頭発表、④特許、⑤科学研究費補助金申請・獲得、⑥その他の競争的資金申請・獲得の状況を記入する。
10) 報告：平成17年度～平成21年度において「校長裁量経費重点配分プロジェクト」報告書を提出した者は、提出年度を記入する。

＊ 校長裁量経費の重点配分を行うプロジェクトは、運営委員会の中から校長が指名した5名程度の諮問委員の助言を経て校長が選定し、運営委員会に報告する。
＊ 採択された者は、その成果あるいは経過について、翌年の3月末までに別紙「平成22年度校長裁量経費重点配分プロジェクト実績報告書」を提出する。採択されたプロジェクトの報告書は、同一申請者より提出される次年度以降のプロジェクトの選定の参考資料となる。
＊ 本申請の提出期限は6月4日(金)とする。
提出先：総務課財務係　電話：内線 8111, e-mail: s_zaimu@asahikawa-nct.ac.jp

平成22年度校長裁量経費「研究成果公開促進費」申請要領
（様式任意）

◎ 平成22年4月1日～平成23年3月31日にレフリー制度のある専門誌に、掲載が決定された論文(オリジナル論文、速報論文、Note, letterを含むが、総説、解説は除く)について申請すること。但し、学外の機関（教育研究機関・企業を含む）との共同研究の場合には、申請者がトップオーサーであること。

1）申 請 者：非常勤講師を含む本校教員および技術創造部職員であること。
2）論 文 名：日本語の場合には日本語題目、外国語の場合には日本語訳も一緒に記入。
3）掲 載 誌：掲載誌名、刊号、ページ（最初～最終）
4）執 筆 者：執筆者全員の氏名を、論文に書かれた順に記入。
5）申請金額：国内学会誌に掲載決定の場合、10万円、外国雑誌の場合、15万円とする。
6）決定通知：掲載が決定された旨を知らせる郵便、Fax、e-mail のコピーを添付。

＊ 申請時期は、掲載決定の通知を受けたのち、1ヶ月以内とする。
＊ 論文が専門誌に掲載された際には、別刷りあるいは、コピーを一部提出すること。
本年度の申請件数を確定できないので、申請件数が多い場合、本年度の予算をオーバーすることが予想されるが、その場合には、来年度の予算から配分するものとする。
＊ 提出先：総務課財務係　電話：内線 8111, e-mail: s_zaimu@asahikawa-nct.ac.jp

（出典　総務課運営委員会資料）

資料10－２－③－２

施設整備の状況

施　設　整　備　の　状　況

年度／区分	予算区分		工事等名	金額
平成１８年度	施設整備費	施設整備費	重油地下タンク配管改修	2,205,000
	施設整備費	施設整備費	第１体育館アスベスト除去	1,218,000
	運営交付金	緊急営繕	第１体育館他耐震改修	41,475,000
	運営交付金	緊急営繕	第１体育館防災設備	493,500
	運営交付金	耐震診断	校長裁量経費	耐震診断	3,990,000
	運営交付金	寄宿舎費		寄宿舎避難口屋根取付	1,197,000
	運営交付金	寄宿舎費	校長裁量経費	寄宿舎渡廊下屋根葺替	630,000
	運営交付金	校地維持整備費	校長裁量経費	駐車場・道路補修	1,470,000
	運営交付金	維持管理費		第１体育館耐震設計業務	2,992,500
	運営交付金	維持管理費		体育館ストリップヒーター改修	2,415,000
	運営交付金	維持管理費		校舎ウォシュレット取付	997,500
	運営交付金	維持管理費		警報設備配線	1,743,000
	運営交付金	維持管理費		制御棟照明設備改修	2,029,650
	運営交付金	維持管理費		Ｎ棟教室換気扇取付	2,123,100
	運営交付金	維持管理費		Ｎ棟教室換気扇電源	
	運営交付金	維持管理費		Ｎ棟教室換気扇窓改修	

年度／区分	予算区分		工事等名	金額
平成１９年度	財経交付金	特別営繕		武道場耐震改修工事	5,008,500
	運営交付金	特別営繕		緊急地震速報システム設置	834,750
	その他自己収入	地域共同テクノセンター経費		加工システム実験室等改修	4,441,500
	その他自己収入	地域共同テクノセンター経費		加工システム実験室等改修機械設備	
	その他自己収入	地域共同テクノセンター経費		加工システム実験室等改修電気設備	
	その他自己収入			校舎３階情報処理センター改修	2,420,250
	その他自己収入			校舎３階情報処理センター改修電気設備	
	運営交付金	寄宿舎費	校長裁量経費	女子寮外部面格子取付	141,750
	運営交付金	寄宿舎費	校長裁量経費	寄宿舎２棟改修	1,668,450
	運営交付金	寄宿舎費	校長裁量経費	寄宿舎２棟電気設備改修	
	運営交付金	寄宿舎費	校長裁量経費	寄宿舎２棟機械設備改修	
	運営交付金	寄宿舎費		寄宿舎便所改修	2,345,700
	運営交付金	寄宿舎費		寄宿舎便所改修電源	
	運営交付金	寄宿舎費		寄宿舎便所改修機械	
	運営交付金	維持管理費		校舎教員室等網戸取付工事	1,155,000
	運営交付金	維持管理費		校舎等室ドア改修他	1,186,500
	運営交付金	維持管理費		図書館照明器具取替工事	1,827,000
	運営交付金	維持管理費		校舎教室等網戸取付	1,260,000
	運営交付金	維持管理費		エレベーター前遮炎・遮煙シート取付	2,394,000
	運営交付金	維持管理費		視聴覚室等照明器具取替	1,557,150
	運営交付金	維持管理費	校長裁量経費	構内道路標識他設置	357,000
	運営交付金	維持管理費	校長裁量経費	サブグラウンド排水溝蓋板設置	357,000
	運営交付金	業務委託費	校長裁量経費	女子寮耐震診断	494,550
	運営交付金	業務委託費	校長裁量経費	樹木剪定	924,000
	運営交付金	維持管理費	校長裁量経費	ネットフェンス増設	126,000
	運営交付金	維持管理費	校長裁量経費	駐車場区画線	90,300
	運営交付金	維持管理費	校長裁量経費	実験室等ドア改修	672,000
	運営交付金	維持管理費	校長裁量経費	実験室他棚固定工事	787,500
	運営交付金	維持管理費	校長裁量経費	Ｎ棟１階流し台取付	158,550
	運営交付金	維持管理費	校長裁量経費	武道場耐震改修設計業務	981,750
	運営交付金	維持管理費	校長裁量経費	教室等鍵取替	131,250

年度／区分	予算区分		工事等名	金額
平成２０年度	財経交付金	特別営繕		野球場外野ネット取替	23,940,000
	運営交付金	特別営繕		第２体育館等外部改修	19,110,000
	その他自己収入	間接経費		化学棟等網戸取付	1,617,000
	その他自己収入	寄宿舎生活環境整備費		寄宿舎便所改修機械	2,041,200
	その他自己収入	寄宿舎生活環境整備費		寄宿舎１棟等洗濯乾燥機取替	2,336,250
	その他自己収入	間接経費		校舎実験室等網戸取付	1,383,000
	その他自己収入	寄宿舎生活環境整備費		寄宿舎１棟居室壁等改修	4,882,500
	その他自己収入	寄宿舎生活環境整備費		寄宿舎３棟照明器具取替	1,785,000
	その他自己収入	寄宿舎生活環境整備費		寄宿舎３棟洗濯乾燥機取替	2,336,250
	その他自己収入		校長裁量経費	校舎ソーラーパネル設備	150,000
	運営交付金	維持管理費		実習工場渡り廊下改修	1,680,000
	運営交付金	維持管理費		視聴覚室等換気設備取設	2,047,500
	運営交付金	維持管理費		囲い込み（目張りシーリング打設）	1,155,000
	運営交付金	維持管理費		流体工学実験室天井アスベスト除去工事	2,289,000
	運営交付金	維持管理費		自転車置場塗装	997,500
	運営交付金	維持管理費		変電室他屋根塗装	990,150

年度／区分	予算区分		工事等名	金額
平成２１年度	運営交付金	営繕事業		第２体育館内部改修	12,458,250
	運営交付金	営繕事業		第１体育館外部改修	14,490,000
	運営交付金	寄宿舎費		寄宿舎２棟北側居室等建具改修	2,310,000
	運営交付金	寄宿舎費		女子寮自転車置き場新設	2,278,500
	運営交付金	寄宿舎費		寄宿舎鍵取替	2,331,000
	運営交付金	寄宿舎費		寄宿舎融雪マット新設	420,000
	運営交付金	維持管理費		４年教室黒板取替	997,500
	運営交付金	維持管理費		４年教室掲示板・教壇取替	621,600
	授業料収入	維持管理費	校長裁量経費	福利施設特別支援室改修	1,638,000
	授業料収入	維持管理費		倉庫屋根塗装	1,331,400
	授業料収入	維持管理費		第一体育館ほか建具新設	1,995,000
	授業料収入	維持管理費		自転車置き場屋根板金張替	1,482,600

年度／区分	予算区分		工事等名	金額
平成２２年度	財経交付金	特別営繕		第一実習工場外部改修	19,110,000
	財経交付金	特別営繕		実習工場便所改修	4,305,000
	財経交付金	特別営繕		実習工場便所改修電気設備	
	財経交付金	特別営繕		実習工場便所改修機械設備	
	その他自己収入	寄宿舎費		女子寮居室等建具改修工事	1,890,000
	その他自己収入	寄宿舎費		寄宿舎３棟居室等建具改修工事	1,648,500
	その他自己収入	寄宿舎費		寄宿舎電気錠取設工事	871,500
	その他自己収入	寄宿舎費		寄宿舎電気錠取設電気工事	672,000
	その他自己収入	間接経費		駐車場舗装工事	2,289,000

（出典　総務課資料）

資料10－２－③－３

設備整備概算要求等状況

設　備　整　備　概　算　要　求　等　状　況

（単位：千円）

年度	事業種別	事業名	要求金額
18	特別教育研究経費	ものづくり教育実践システムの構築・整備	8,000
18	特別教育研究経費	課外教育に関する学習支援システムの構築	10,000
18	特別教育研究経費	非接触三次元計上計測システム	41,107
19	特別教育研究経費	課外教育に関する学習支援システムの構築（継続申請）	6,606
19	特別教育研究経費	電子回路製作支援システムによるものづくり教育研究	24,000
19	特別教育研究経費	学科横断型研究開発システムの構築	50,000
19	臨時経費	X線分析装置　一式	48,090
19	臨時経費	フライス盤	7,533
20	特別教育研究経費	課外教育に関する学習支援システムの構築（継続申請）	5,250
20	特別教育研究経費	電子回路製作支援システムによるものづくり教育研究	24,000
20	特別教育研究経費	学科横断型研究開発システムの構築	50,000
20	高度化先端設備	複雑かつ精密な加工に対応した設計・解析・製造統合システム	60,000
20	高度化先端設備	EPMA（電子プローブ・マイクロアナライザー）	60,000
21	特別教育研究経費	微少領域解析のための全学共同利用顕微分析システムの構築	48,043
21	特別教育研究経費	電子回路製作支援システムによるものづくり教育研究	24,000
21	設備整備補助金（更新）	重油溶解炉	28,200
21	設備整備補助金（更新）	帯旋盤	1,910
21	設備整備補助金（更新）	スケヤシャー	7,200
21	設備整備補助金（更新）	精密旋盤	4,050
21	設備整備補助金（更新）	フライス盤	4,700
21	設備整備補助金（更新）	定量示差熱分析装置	12,600,000
21	設備整備補助金（更新）	絶対分子量決定システム	17,950,000
21	設備整備補助金（更新）	精密材料試験機　島津製作所 オートグラフ AG-250kNX	14,820,000
21	設備整備補助金（更新）	色彩輝度計	2,800,000
21	設備整備補助金（更新）	走査型電子顕微鏡	9,950,000
21	設備整備補助金（更新）	マニュアル3次元測定機	4,095,000
21	設備整備補助金（更新）	BET比表面積測定装置	4,888,000
21	設備整備補助金（更新）	ガスクロマトグラフ質量分析計	14,070,000
21	設備整備補助金（新規）	EPMA（電子プローブ・マイクロアナライザ）	60,000,000
21	設備整備補助金（新規）	次世代太陽光発電，温度差発電のための先端半導体新材料探索	58,000,000
21	設備整備補助金（新規）	5軸加工機（工作機械）	50,000,000
21	設備整備補助金（新規）	イオンプロマトグラフィー分析システム	10,400,000
21	設備整備補助金（新規）	非接触式高速形状測定評価装置	9,800,000
21	設備整備補助金（新規）	JEOL製　可搬型走査電子顕微鏡JCM-5700	9,000,000
21	設備整備補助金（新規）	菱電湘南エレクトロニクス製　超音波探傷器 UI-25	2,800,000
21	設備整備補助金（新規）	National Instruments社製　NI　ELVIS　バンドルキット（フルバンド	2,520,000
21	設備整備補助金（新規）	ハルツォク・ジャパン株式会社　試料切断機　MICURACUT200	2,100,000
22	マスタープラン（更新）	3Dプロッター（NC加工機械）	25,000
22	マスタープラン（更新）	X線分析装置・多目的試料水平対向型X線回折装置・卓上型蛍光	39,900
22	マスタープラン（更新）	スパッタ装置	52,000
22	マスタープラン（更新）	レーザ加工機	36,750
22	マスタープラン（更新）	曲げ加工機（ベンディングマシン）	9,750
22	マスタープラン（更新）	高速液体クロマトグラフィー・質量分析装置（LC/MS）	30,000
22	マスタープラン（更新）	物質分光・分散測定装置　（紫外可視・赤外分光／円二色性分散	23,520
22	マスタープラン（更新）	フライス盤	7,665
22	マスタープラン（更新）	平面研削盤	9,482
22	マスタープラン（更新）	原子吸光分析装置	7,500
22	マスタープラン（更新）	フルオートバンドソー	6,393
22	マスタープラン（更新）	ガスクロマトグラフ装置	4,800
22	マスタープラン（更新）	精密高速旋盤　（2台）	14,202
22	マスタープラン（更新）	CNC旋盤	13,500
22	マスタープラン（新規）	半導体特性評価システム	10,535
22	マスタープラン（新規）	物理特性測定システム	70,838

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

学内の予算配分については，校長連絡会において事前調整し，運営委員会において審議・了承のうえ決定された教育研究活動の推進等に配慮した配分方針，校長裁量経費に関する配分方針等に基づき，各学科及び教育研究施設等へ毎事業年度の状況に応じて適切な予算配分がなされている。さらに，校長裁量経費において，学校の年度計画等を実行・推進するため，教育研究プロジェクト経費等を助成し，柔軟な予算執行を行っている。

また，施設・設備の整備については，施設・防災委員会等において全学的見地から整備・将来計画を検討した後，概算要求等により予算の確保を図り，計画的な整備に努めている。

以上のことから，教育研究活動に対し，適切な資源配分がなされている。

観点10－３－①：　学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

（観点に係る状況）

本校は，高専機構として統一された財務会計システムによって財務会計処理を行っており，このシステムによって作成された高専機構全体の財務諸表は，高専機構会計規則第 44 条（資料 10－３－①－１）に基づき，高専機構本部のウェブサイト上で公表されている（資料 10－３－①－２）。

なお，本校においても，財務状況に関して社会への説明責任を果たす必要から積極的に情報提供を行っており，本校の「財務情報（貸借対照表、損益計算書）」をウェブページ上で公表している（資料 10－３－①－３）。また，「収入支出決算額」についても，毎年度の「学校要覧」（資料 10－２－①－４（640 ページに前出））に概要を掲載しているほか，本校のウェブサイトでも公表している。

資料10－３－①－１

「高専機構会計規則」（抜粋）

（年度末決算）

第４４条　年度末決算に際しては，当該年度末における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に関し真正な数値を把握するための各帳簿の締め切りを行い，資産の評価，債権・債務の整理，その他決算整理を的確に行って，所定の手続きに従って決算数値を確定しなければならない。

２　理事長は，前項の整理を行った後，翌事業年度５月末日までに次の各号に掲げる書類を作成しなければならない。

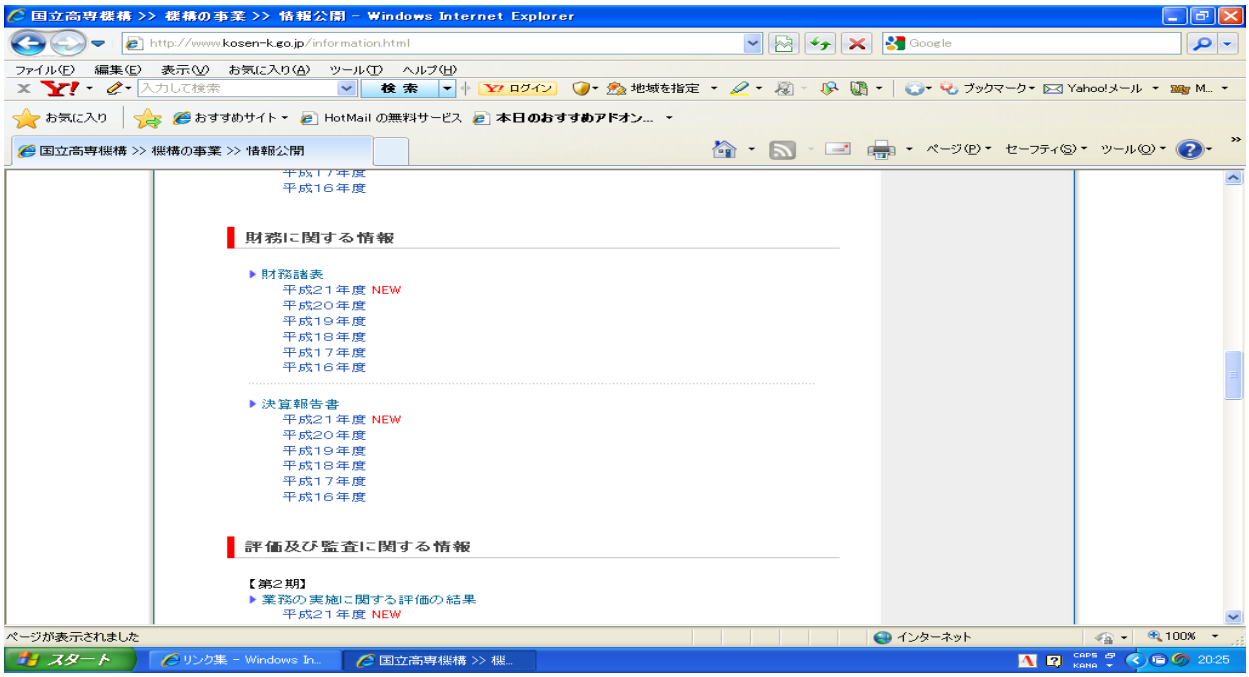
一　貸借対照表
二　損益計算書
三　キャッシュ・フロー計算書
四　利益の処分又は損失の処理に関する書類
五　行政サービス実施コスト計算書
六　附属明細書

３　前項各号の書類の様式は，別に定めるものとする。

（出典　独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第34号）

資料10－３－①－２

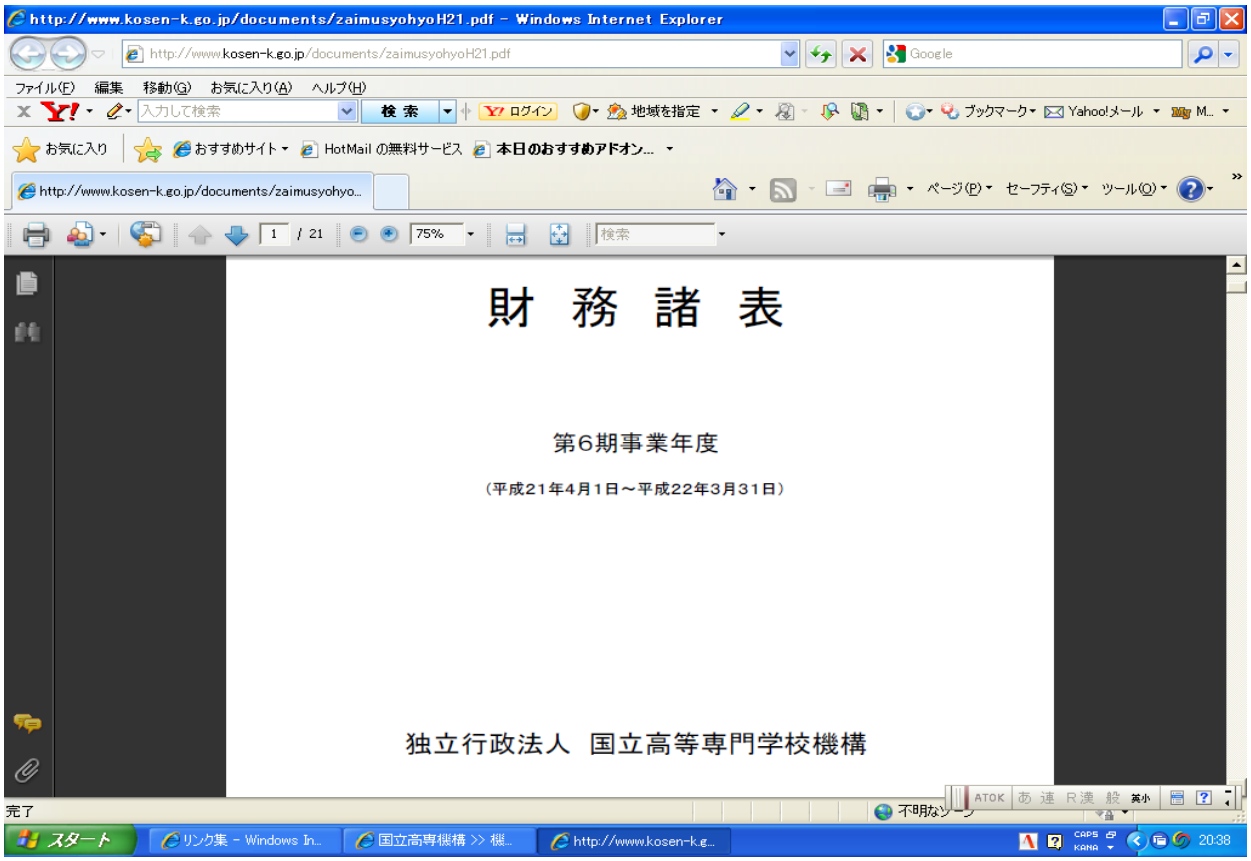
「高専機構本部のウェブサイト」



（出典　独立行政法人国立高等専門学校機構のウェブサイト）

資料10－３－①－２

「高専機構本部のウェブサイト」



（出典　独立行政法人国立高等専門学校機構のウェブサイト）

資料10－３－①－３

「旭川工業高等専門学校ウェブサイト」



（出典　旭川工業高等専門学校のウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

高専機構全体の財務諸表は，高専機構会計規則第 44 条に基づき，高専機構本部のウェブサイト上で公表されており，本校の「財務情報（貸借対照表、損益計算書）」及び「収入支出決算額」についても，ウェブサイト，学校要覧等を用いて広く公表されている。

以上のことから，財務諸表等は，適切な形で公表されている。

観点10－３－②：　財務に対して，会計監査等が適正に行われているか。

（観点に係る状況）

本校においては，独立行政法人通則法第39条に基づく会計監査人による監査（期末）を平成22年６月に，監事による監査を平成22年12月に受けている（資料10－３－②－１～３）。また，高専機構会計規則第45条に基づく高専機構本部による内部監査を平成22年12月に受け，高専間による高専相互会計内部監査を平成20年12月，平成21年12月，平成22年11月に受けている（資料10－３－②－４～６）ほか，本校会計監査実施規程に基づく内部監査による定期会計監査が実施されている（資料10－３－②－７～８）。

資料10－３－②－１

「独立行政法人通則法」（抜粋）

（会計監査人の監査）
第三十九条　独立行政法人（その資本の額その他の経営の規模が政令で定める基準に達しない独立行政法人を除く。）は，財務諸表，事業報告書（会計に関する部分に限る。）及び決算報告書について，監事の監査のほか，会計監査人の監査を受けなければならない。
（会計監査人の選任）
第四十条　会計監査人は，主務大臣が選任する。
（会計監査人の資格）
第四十一条　会計監査人は，公認会計士（公認会計士法（昭和二十三年法律第百三号）第十六条の二第五項に規定する外国公認会計士を含む。）又は監査法人でなければならない。
２　公認会計士法の規定により，財務諸表について監査をすることができない者は，会計監査人となることができない。
（会計監査人の任期）
第四十二条　会計監査人の任期は，その選任の日以後最初に終了する事業年度の財務諸表についての主務大臣の第三十八条第一項の承認の時までとする。
（会計監査人の解任）
第四十三条　主務大臣は，会計監査人が次の各号の一に該当するときは，その会計監査人を解任することができる。
一　職務上の義務に違反し，又は職務を怠ったとき。
二　会計監査人たるにふさわしくない非行があったとき。
三　心身の故障のため，職務の遂行に支障があり，又はこれに堪えないとき。

（出典　独立行政法人通則法　平成11年法律第103号）

資料10－３－②－２

「会計監査人の監査について（通知）」

事　務　連　絡
平成２２年４月１９日

旭川工業高等専門学校
事　務　部　長　殿

国立高等専門学校機構本部事務局
財務課長　飯　田　雄　介

会計監査人の監査について

今般，平成２１年度会計監査人として有限責任監査法人トーマツが文部科学大臣から選任されました。独立行政法人通則法第３９条の規定に基づき会計監査人の監査を受けるにあたって，有限責任監査法人トーマツから監査計画について連絡がありましたので，下記のとおり通知します。

会計監査人の監査は，従来のいわゆる監査とは異なり，会計経理等について指摘を目的とするものではなく，適正な財務諸表等を作成するための指導的な意味合いのものですので，この点にご留意いただくとともに，日頃の疑問点の解決の場とする等積極的な対応をお願いします。

なお，日程は変更される場合もありますのでご了承ください。

また，詳細な日程及び準備資料等については，追ってご連絡いたします。

記

平成２２年６月２日（水）～４日（金）

（出典　総務課資料）

資料10－３－②－３

「平成22年度監事監査の実施について（通知）」

平成２２年１１月１日

旭川工業高等専門学校長　殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
監　事　　斎　藤　秀　俊
監　事　　松　本　　香

平成２２年度監事監査の実施について（通知）

平成２２年度監事監査を下記のとおり実施しますのでお知らせします。

記

１ 監査の項目
（１）教育研究活動について
（２）会計経理の実施状況について
　　（財務事項に係る内部統制の状況、施設整備費補助金等の執行状況等）
（３）契約の状況について
（４）産学連携・地域連携等の状況について
（５）入試業務の実施状況について
（６）保有個人情報の管理の状況について
（７）その他
（注）監査の実施状況により、監査項目を追加することがあります。
２ 監査の実施時期
　平成２２年１２月２０日（月）～１２月２２日（水）
３ 監査の従事者
　人事課長　堀川　俊行
　監査室（呉高専総務課会計室長）　岩佐　達也
　財務課財務企画係長　内藤　大輔
　施設課施設企画係長　杉本　正和

（出典　総務課資料）

資料10－３－②－４

「高専機構会計規則（抜粋）」

（内部監査）
第４５条　理事長は，予算の執行及び会計処理の適正を期するため，必要と認めるときは，特に命令した教職員に内部監査を行わせるものとする。
２　内部監査について必要な事項は，別に定めるものとする。
（会計機関の義務及び責任）
第４６条　会計機関は，機構の財務及び会計に関し，適用又は準用される法令並びにこの規則に準拠し，かつ，予算で定めるところに従い善良な管理者の注意をもって，その職務を行わなければならない。
２　会計機関は，故意又は重大な過失により前項の規定に違反して，機構に損害を与えた場合は，その損害を弁償する責めを負わなければならない。

（出典　独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第34号）

資料10－３－②－５

「平成22年度内部監査の実施について（通知）　」

平成２２年１１月１日

旭川工業高等専門学校長　殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
理事長　林　　勇 二 郎

平成２２年度内部監査の実施について（通知）

平成２２年度内部監査を下記のとおり実施しますのでお知らせします。

記

１ 監査の項目
（１）会計経理の実施状況について
（財務事項に係る内部統制の状況、施設整備費補助金等の執行状況等）
（２）契約の状況について
（３）産学連携・地域連携等の状況について
（４）入試業務の実施状況について
（５）保有個人情報の管理の状況について
（６）情報セキュリティ対策等について
（７）人事労務管理の状況について
（８）その他
（注）監査の実施状況により、監査項目を追加することがある。
２ 監査の実施時期

平成２２年１２月２０日（月）～１２月２２日（水）

３ 監査の従事者

人事課長　堀川　俊行

監査室（呉高専総務課会計室長）　岩佐　達也

財務課財務企画係長　内藤　大輔

施設課施設企画係長　杉本　正和

（出典　総務課資料）

資料10－３－②－６

「平成22年度高専相互会計内部監査の実施について（通知）」

平成２２年１１月８日

旭川工業高等専門学校事務部長 殿

苫小牧工業高等専門学校

事務部長　板　橋　　博

（公印省略）

平成２２年度高専相互会計内部監査の実施について

平成２２年度高専相互会計内部監査を、下記のとおり実施しますのでお知らせします。

記

１ 監査の項目

（１） 会計経理に関する規則等の適用に関する事項

（２） 予算実施計画に関する事項

（３） 金銭等の出納保管（金庫管守を含む。）その他資金管理に関する事項

（４） 資産の取得、管理及び処分に関する事項

（５） 決算報告書及び財務諸表に関する事項

（６） 帳簿及び証拠書類に関する事項

（７） 契約に関する事項

（８） 旅費に関する事項

（９） 科学研究費補助金その他外部資金に関する事項

（１０） その他預り金に関する事項

（１１） その他理事長が必要と認める事項

２ 監査の実施時期

平成２２年１１月１８日（木）～１１月１９日（金）

３ 監査の従事者

苫小牧工業高等専門学校総務課課長補佐　佐々木　茂夫

苫小牧工業高等専門学校総務課財務係長　小笠原　智紀

苫小牧工業高等専門学校総務課施設管理係長　斉藤　　学

（出典　総務課資料）

資料10－３－②－７

「旭川工業高等専門学校会計監査実施規程」

（平成９．３．２５　達第７号）

改正　平成16．4．1　達第42号　　平成19．3.13　達第56号

旭川工業高等専門学校会計監査実施規程

（目的）

第１条　この規程は，独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則（平成16年規則第34号）第45条の規定に基づき，旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）における会計経理に関する監査（以下「監査」という。）の実施について必要な事項を定め，もって会計経理の適正を図ることを目的とする。

（監査の実施責任者）

第２条　監査の実施責任者は事務部長とする。

（監査員）

第３条　校長は，監査を突施するため，総務課所属の職員のうちから，監査員を命ずるものとする。ただし，必要があると認めたときは，総務課所属職員以外の職員に監査員を命ずることができる。

（監査事項及び方法）

第４条　監査は，会計経理に関し，次に掲げる事項について実施に行うものとする。

(1) 会計経理に関する規則等の適用に関する事項
(2) 予算決算に関する事項
(3) 収入支出に関する事項
(4) 債権に関する事項
(5) 物品に関する事項
(6) 不動産に関する事項
(7) 契約に関する事項
(8) 旅費に関する事項
(9) 寄附金及び科学研究費補助金等に関する事項
(10)帳簿等及び証拠書類に関する事項
(11)その他校長が必要と認めた事項

２ 監査の実施細目は事務部長が定める。

３ 事務部長は，監査を実施する前に，監査事項及び実施細目を監査員に指示するものとする。

（監査時期）

第５条　監査は，毎会計年度1回実施するものとする。ただし，校長が必要と認めるときは，その都度臨時に実施することができる。

（監査の通知）

第６条　事務部長は監査を実施しようとするときは，監査の日時，監査員の職名，氏名その他

必要な事項をあらかじめ関係者に通知するものとする。
（監査の立会等）
第７条　前条の規定により通知をうけた関係者は，帳簿，証拠書類その他必要な書類等を整備し，監査に立ち会わなければならない。
２　監査員は，監査上必要に応じて書類及び物品等の提示を求め，又関係者から説明若しくは調書の提出を求めることができる。
（監査報告）
第８条　監査員は，監査を終了したときは，速やかに監査結果を監査報告書（別紙様式）により，事務部長を経由して校長に報告しなければならない。
２　事務部長は，必要があると認めたときは，監査結果に対する意見を付すことができる。
（是正改善の措置）
第９条　校長は，監査の結果，会計経理に関し是正改善を必要とする事項があると認めたときは，直ちにその措置をとり又は当該関係職員に対し，その措置をとることを求めなければならない。
２　前項の規定による是正改善の措置を命ぜられた関係職員は，直ちにその措置をとり，結果について校長に報告しなければならない。

附　則
１　この規程は，平成９年４月１日から施行する。
２　文部省所管物品管理事務取扱規程第３５条第１項の規定に基づく検査は，第５条第２項第１号の定期監査に合わせて，その実施最終日に行うものとする。
附　則（平成１６．４．１　達第４２号）
この規程は，平成１６年４月１日から施行する。
附　則（平成１９．３．１３　達第５６号）
この規程は，平成１９年４月１日から施行する。

（出典　本校ウェブサイト）

資料10－３－②－８

「平成２２年度定期会計監査の実施について（通知）」

平成２２年１０月１２日

（各学科長・科長・各課長・技術創造部長）　殿

事　務　部　長

平成２２年度定期会計監査の実施について

旭川工業高等専門学校会計監査実施規程第５条に基づき，平成２２年度定期会計監査を下記のとおり実施します。

なお，監査の実施による物品確認等のため，当該教職員に連絡し，設置場所へ伺うこともありますのでご了承ください。

記

１．実施期間
　　平成２２年１０月２５日（月）～平成２２年１０月２９日（金）

２．監査員の職名・氏名
　　別紙のとおり

３．監査対象期間
　　平成２１年度分

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

外部監査については，独立行政法人通則法第39条に基づく会計監査人の監査，監事の監査を受け，内部監査については，高専機構会計規則第45条に基づく高専機構本部による内部監査及び高専間による高専相互会計内部監査を受けている。また，学内監査については，本校会計監査実施規程に基づく内部監査による定期会計監査を毎年実施している等，財務に対して，必要と認められる会計監査等が適正に行われている。

以上のことから，会計監査等は，適正に行われている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・　学習・教育目標を達成するための限られた資源を効率的に活用するため，予算の重点的配分や外部資金の獲得の努力を行っている。

（改善を要する点）

・　文部科学省や日本学術振興会の科学研究費補助金あるいは，各種財団等の教育・研究助成等の申請及び採択率を上げるための取組を一層強化する必要がある。

（３）基準10の自己評価の概要

本校が中期計画で掲げている教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行するために必要な土地，建物，施設，設備，備品等の資産を有している。

資金面では，高専機構本部から配分される運営費交付金が配分され，自己収入の源である入学数も定員以上を確保しており，授業料，入学料，検定料，雑収入の基本的財源を安定的に確保している。また，外部資金の獲得に向けての取組を強化しており，安定して事業を行える財務基盤を有している。

予算配分については，限られた予算をより効果的に配分するため，校長のリーダーシップの下で，教育研究経費や学生支援のための経費に重点配分を行っている。

高専機構本部及び本校の財務諸表等については，それぞれのウェブサイトで公表している。また，財務会計処理に関する監査においては，会計監査人による外部監査，高専機構本部・高専間による高専相互会計内部監査等が行われており，適正な財務会計処理を行っている。

基準11　管理運営

（１）観点ごとの分析

観点11－１－①：　学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，校長のリーダーシップの下で，効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

（観点に係る状況）

本校の目的を達成するために，校長の職務を補佐する者として，副校長及び校長補佐（教務主事，学生主事，寮務主事及び専攻科長）が配置され，各職務，役割については，学則，教員等組織規程で明確に定められ，系統的に業務分担が行われている（資料11－１－①－１，２）。

さらに，学科長・科長，図書館長，情報処理センター長，地域共同テクノセンター長，学生相談室長，セクシュアル・ハラスメント相談室長，特別支援室長，技術創造部長が校長の下に置かれ，それぞれ各種委員会を組織し，校長を補佐する態勢がとられている（資料11－１－①－３，４）。

各種委員会で審議された学校運営に関わる重要事項等については，校長が主宰する運営委員会の審議を経て，校長が最終的な意思決定を行い，その決定した事項については，教員会議等を通じて周知されている（資料11－１－①－５）。

また，校長は，企画委員会及び定期的に校長連絡会（組織：校長・副校長・３主事・専攻科長・事務部長）を開催し，運営委員会の議事整理のほか，学校運営の重要事項，教育効果の向上等に関して，連絡・調整を行うとともに企画委員会，国際交流委員会などの委員長を兼ね，将来構想，点検評価などの重要事項の決定の迅速化に努めている（資料 11－１－①－６）。

資料11－１－①－１

旭川工業高等専門学校学則（抜粋）

第８条　本校に，校長，教授，准教授，講師，助教，助手，事務職員及び技術職員を置く。
２　教職員の職務は，学校教育法その他法令の定めるところによる。
第９条　本校に，教務主事，学生主事及び寮務主事を置く。
２　教務主事，学生主事及び寮務主事は，それぞれ校長の命を受け，教務主事にあっては教育計画の立案その他の教務に関すること，学生主事にあっては学生の厚生補導に関すること，寮務主事にあっては寄宿舎における学生の厚生補導に関することを掌理する。
３　教務主事は教授，学生主事及び寮務主事は教授又は准教授をもって充てる。

（出典　旭川工業高等専門学校学則　抜粋）

資料11－１－①－２

旭川工業高等専門学校教員等組織規程

第１章　総則

（目的）

第１条　この規程は，旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教員の責任体制を確立し，かつ，連絡を密にして教育効果の向上を図ることを目的とする。

（定義）

第２条　この規程で「教員」とは，学校教育法第１２０条並びに本校学則第８条第１項に定める校長，教授，准教授，講師，助教及び助手をいう。

（設置）

第３条　本校に，副校長及び校長補佐を置く。

第４条　本校に，学校教育法施行規則第１７５条並びに本校学則第９条の規定に基づき，教務主事，学生主事及び寮務主事をそれぞれ若干名置く。

第５条　本校に，教務主事補，学生主事補及び寮務主事補をそれぞれ若干名置く。

第６条　本校の各学級に，学級担任１名を置く。

第７条　本校の各学科に学科長１名，一般人文科及び一般理数科に科長各１名を置く。

第８条　本校専攻科に，専攻科長を置く。

第９条　本校専攻科に，専攻主任を置く。

（任期）

第１０条　第８条に規定する専攻科長の任期は２年とし，第５条から第７条まで及び前条に規定する各職の任期は１年とする。ただし，補欠者の任期は，前任者の残任期間とする。

２　前項に規定する者は，再任されることができる。

第２章　副校長及び校長補佐

（資格）

第１１条　副校長は，教授をもって充てる。

第１２条　校長補佐は，本規程第４条に掲げる教務主事，学生主事及び寮務主事並びに第８条に掲げる専攻科長をもって充てる。

（職務）

第１３条　副校長は，校長の命により校長の職務を補佐するとともに，その一部を処理する。

２　副校長は，校長が不在のときはその職務を代行する。

第１４条　各校長補佐は，本校学則第９条第２項並びに本規程第２６条に掲げる職務のほか，校長の命により校長の職務を補佐する。

第３章　教務主事，学生主事及び寮務主事

（資格）
第１５条　教務主事は教授をもって，学生主事及び寮務主事は教授又は准教授をもって充てる。
（職務）
第１６条　教務主事は，校長の命を受け，教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
２　学生主事は，校長の命を受け，学生の厚生補導に関することを掌理する。
３　寮務主事は，校長の命を受け，寄宿舎における学生の厚生補導に関することを掌理する。

（略）

第６章　学科長及び科長

（資格及び任期）
第２３条　学科長及び科長は，各学科及び科の教授をもって充てる。
２　学科長及び科長は，翌年度の学科長又は科長候補者を定め，２月中に校長に申し出，これに基づき校長が任命する。
（職務）
第２４条　学科長及び科長は，次の職務を行う。
(1) 当該学科又は科を代表し，責任者となる。
(2) 当該学科又は科の教育計画を立案し，その実施を図る。
(3) 当該学科又は科の教員に対し，教育指導及び研究の推進を図る。
(4) 当該学科又は科の教員と緊密な連絡を持ち，教員の研究，勤務，出張等につき十分把握する。
(5) 当該学科又は科の基本的運営について，学科又は科の教員を掌握する。
(6) 当該学科の学生の教育，指導に関し，学科又は科内の教員と連絡調整し，その最終責任者となる。

第７章　専攻科長

（資格及び任期）
第２５条　専攻科長は，専攻科を担当する教授をもって充て，校長がこれを任命する。
（職務）
第２６条　専攻科長は校長の命を受け，専攻科に関することを掌理する。

（略）

第９章　運営委員会

（設置）
第２９条　本校に，教育効果の向上及び学校運営の適正，かつ，円滑な調整を図るため，旭川工

業高等専門学校運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。
２　運営委員会に関することは，別に定める。

第１０章　教員会議

（設置）
第３０条　校長が，校務運営方針を教員に伝達し，かつ，教員の意見を聴し，学校運営の円滑化を図るための諮問機関として，旭川工業高等専門学校教員会議（以下「教員会議」という。）を置く。
（構成）
第３１条　教員会議は，校長，教授，准教授，講師（専任），助教及び助手をもって構成する。
２　校長は，この会議に事務部長及び課長を出席させる。
３　校長は，必要に応じて課長補佐及び係長を出席させる。
（会議）
第３２条　教員会議は，校長が招集して主宰する。
第３３条　校長は，教員会議において，次の事項を諮問する。
(1) 学校運営の重要事項に関すること。
(2) 教育効果の向上に関すること。
(3) 学生に関して，校長より諮問した事項
(4) その他学校に関する重要事項及び校長の諮問事項
第３４条　教員会議は，原則として毎月１回開催する。なお，必要に応じて臨時に開催することがある。
（庶務）
第３５条　教員会議の庶務に関することは，総務課が処理する。

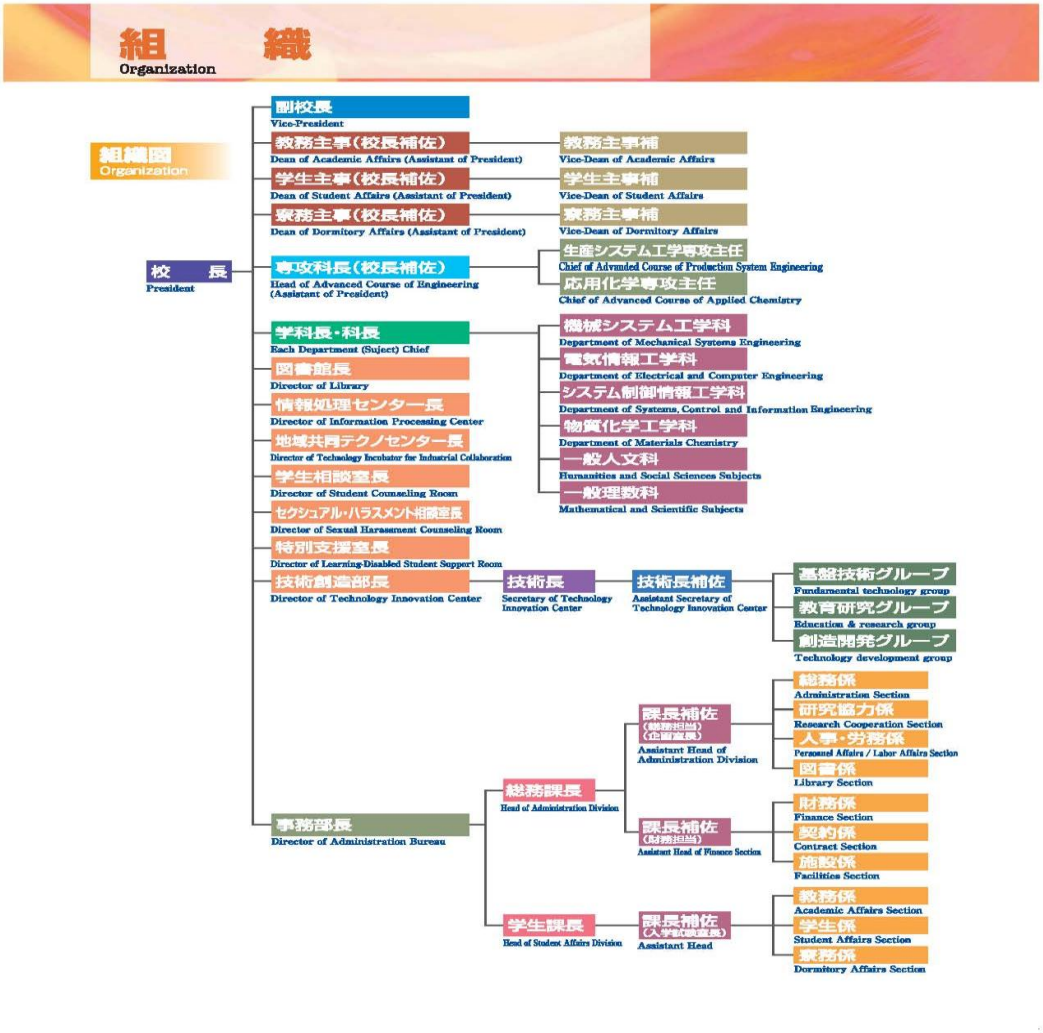
第１１章　委員会等

（設置）
第３６条　本校に，校長の命により，委員会等を置く。
２　委員会等に関することは，別に定める。

（出典　旭川工業高等専門学校教員等組織規程）

資料11－１－①－３

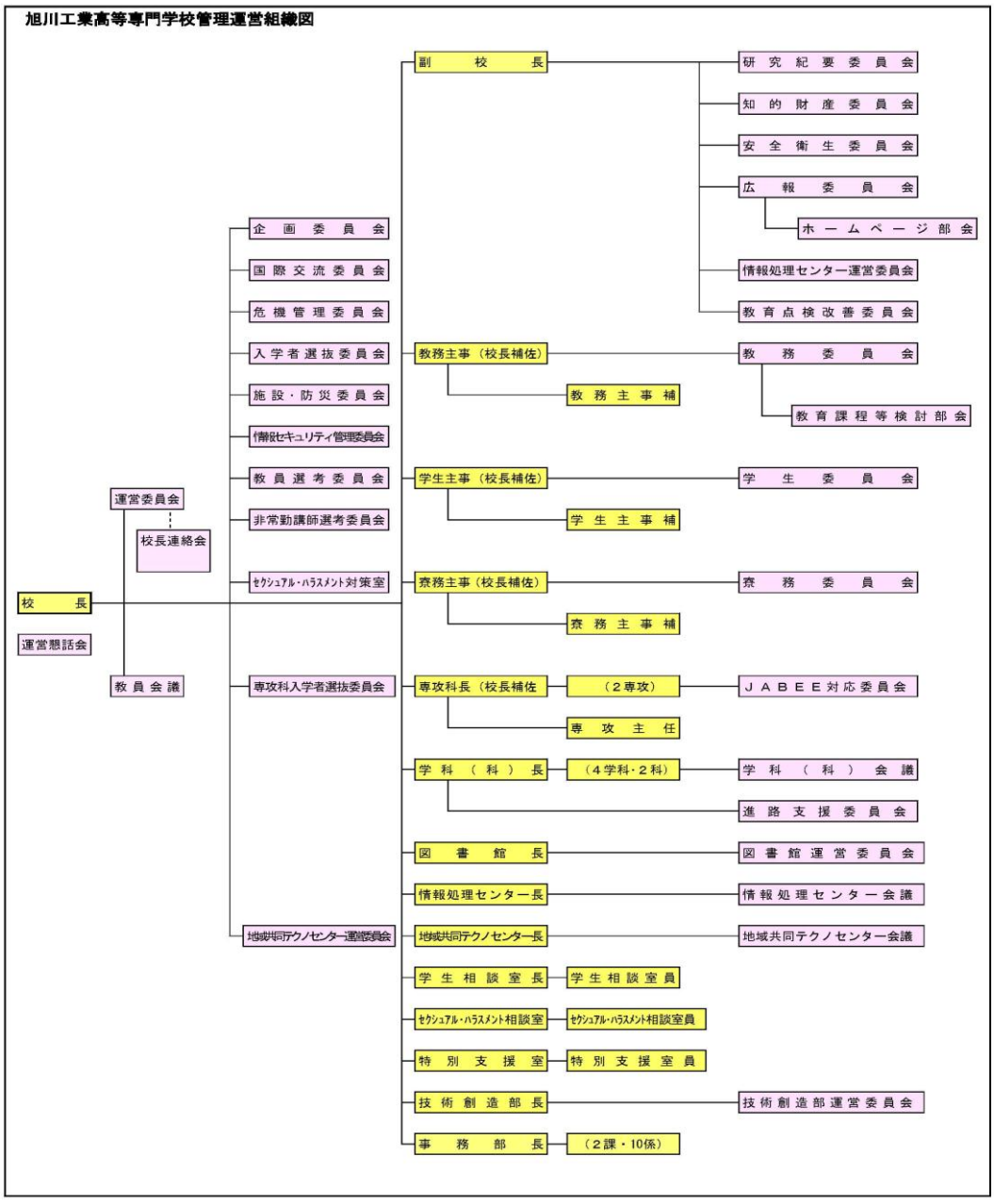
組織図



（出典　学校要覧）

資料11－１－①－４

「管理運営組織図」



（出典　総務課資料）

資料11－１－①－５

旭川工業高等専門学校運営委員会規程

（趣旨）

第１条　この規程は，旭川工業高等専門学校教員等組織規程（昭和４１年旭高専達第１９号）第２９条の規定に基づき，旭川工業高等専門学校運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

（審議事項）

第２条　委員会は，校長の諮問に応じて次に掲げる事項を審議する。

(1) 学校運営を円滑に行うために必要な事項

(2) 教育効果の向上に関する事項

(3) 組織，運営に係る将来計画に関する事項

(4) 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成１３年法律１４０号）に基づく情報公開に関する事項

(5) 独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成１５年法律５９号）に基づく個人情報に関する事項

(6) 自己点検及び評価に関する事項

(7) 他機関,企業等との共同研究及び受託研究の推進に関する事項

(8) 寄附金の受入に関する事項

(9) 研究推進に関する事項

(10) その他学校運営について重要と認められる事項

（組織）

第３条　委員会は，次に掲げる者をもって組織する。

(1) 校長

(2) 副校長

(3) 教務主事，学生主事及び寮務主事

(4) 専攻科長

(5) 各学科長及び科長

(6) 事務部長

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。

２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

３　委員長に事故があるときは，副校長がその職務を代行する。

（会議）

第５条　委員会は，原則として毎月１回開催するものとする。ただし，委員長が必要と認めたときは，臨時に開催することができる。

（議事）

第６条　委員会は，委員の３分の２以上の出席をもって成立する。

２　議事は，出席者の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。

（代理出席）
第７条　委員長は，第３条第５号の委員が委員会に出席できないときは，代理の者を出席させることができる。
２　代理の者には，議決権を与える。
３　第１項に規定する代理者は，教授とする。
（委員以外の者の出席）
第８条　委員会が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，説明又は意見を聴くことができる。
（ワーキング・グループ）
第９条　委員会に，専門的事項について調査，検討するため，必要に応じてワーキング・グループを置くことができる。
２　ワーキング・グループに関して必要な事項は，別に定める。
（庶務）
第１０条　委員会の庶務に関することは，総務課において処理する。

（出典　旭川工業高等専門学校運営委員会規程）

資料11－１－①－６

校長連絡会開催要領

１　趣旨
旭川高専における管理運営の円滑化と連携の強化を図るための懇談の場として，定期的に校長連絡会（以下「連絡会」という。）を開催する。
２　構成
連絡会は，次に掲げる者をもって構成する。
(1) 校長
(2) 副校長
(3) 教務主事
(4) 学生主事
(5) 寮務主事
(6) 専攻科長
(7) 事務部長
３　開催時期
連絡会の開催は，原則として月１回程度とし，校長が招集する。
なお，校長が必要と認めるときは，臨時に連絡会を開催することがある。
４　開催場所
連絡会の開催場所は，原則として校長室とする。
５　懇談内容

連絡会の懇談内容は，学内外に関する事項で連絡調整が必要なものとする。
なお，資料を配付するときは，当該者が事前に必要部数を用意するものとする。

6　庶務

連絡会の開催に関する庶務は，総務課総務係長が処理する。

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

学校の目的を達成するために，校長を補佐する副校長，各校長補佐が系統的に校務を分担し，検討課題等に応じて各委員会等で審議・検討後，校長が主宰する運営委員会で，最終的な判断を行う態勢をとっている。

また，校長は，将来構想，中期目標・中期計画，外部評価等に係る事項を審議する企画委員会をはじめとする他委員会の委員長も兼ねており，自らが各種業務の効率的，合理的処理を図り，意思決定の迅速化に努めている。

以上のことから，校長，副校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，意思決定プロセス等を含め，校長が全体を把握し，リーダーシップを発揮して効果的な意思決定が行われる態勢となっている。

観点11－１－②：　管理運営の諸規程が整備され，各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動しているか。また，危機管理に係る体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

本校の管理運営に係る諸規程は整備され，例規集として公式ホームページに掲載することにより，公開されている（資料 11－１－②－１）。

資料11－１－②－１

旭川工業高等専門学校例規集

旭川高専例規集

第１編 校長制定例規
第１章 学則及び組織等
学則
事務組織規程
技術創造部組織規程
教員等組織規程
企画委員会規程
運営委員会規程
技術創造部運営委員会規程
運営懇話会規程
運営委員会情報公開・個人情報保護ワーキング・グループ要項
自己評価等に関する規程
セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程
セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程の運用について（通知）
教員選考規程
主事補の選出に関する申合せ
非常勤講師等の給与の算出基準
産学連携研究員実施要項
科学研究支援員実施要項
第２章 事務管理
文書処理規程
文書管理規程
公印取扱規則
図書館利用要領
研究紀要規程
研究報文投稿要領
事務情報化推進委員会規程
事務情報化推進委員会専門委員会内規
ソフトウェア管理規程
建設コンサルタント選定委員会規程

第３章 施設管理
不動産管理規則
施設等の点検・評価に関する取扱要項
施設の有効活用に関する規程
エネルギーの使用の合理化に関する規程
体育施設管理規程
図書館運営規程
情報処理センター運営規則
情報処理センター利用内規
地域共同テクノセンター規則

旭川工業高等専門学校
例規集

内容現在 平成２３年３月１８日

お願い
例規集ホームページは，ブラウザの文字サイズを最小にしてご覧ください。

Get Acrobat Reader
別表や様式に、PDFファイルを使用している個所があります。
PDFファイルを表示したり印刷できる、無償配布のAdobe Acrobat Readerをダウンロードしてください。
（言語やプラットフォームの種類によって、提供されないバージョンもあります）

http://www.asahikawa-nct.ac.jp/info/reikihp/index.html[2011/05/11 19:53:49]

（出典　ウェブサイト）

事務部には２課，２室，10 係が設置され，各課，各係においては，各々の所掌に基づき，各種委員会等の構成員又は陪席者として参画するとともに庶務的業務に携わり，管理運営業務を円滑に遂行するため，その役割を担っている（資料 11－１－②－２～４）。また，課長補佐以上をメンバーとする部課長連絡会を毎週開催し，各課が緊密な連携を図りながら，事務処理を行っている。

資料11－１－②－２

旭川工業高等専門学校事務組織規程

第１章　総則

（目的）

第１条　この規程は，旭川工業高等専門学校学則(昭和３７年制定)第１０条の規定に基づき，旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及び事務分掌の範囲を定めることを目的とする。

第２章　事務組織

（事務部）

第２条　本校に事務部を置く。

（事務部の課）

第３条　事務部に次の２課を置く。

総務課

学生課

（課の室及び係）

第４条　各課にその所掌事務を処理するため室及び係を置く。

２　総務課に企画室，総務係，研究協力係，人事・労務係，図書係，財務係，契約係及び施設係を置く。

３　学生課に入学試験室，教務係，学生係及び寮務係を置く。

（事務部長）

第５条　事務部に事務部長を置く。

２　事務部長は，事務職員をもって充てる。

３　事務部長は，校長の命を受け，事務部の事務を総括し，調整する。

（課長）

第６条　課に課長を置く。

２　課長は，事務職員をもって充てる。

３　課長は，上司の命を受け，課の事務を処理する。

（課長補佐）

第７条　総務課に課長補佐（総務担当）及び課長補佐（財務担当）並びに学生課に課長補佐を置く。

２　課長補佐は，事務職員をもって充てる。

（室長）

第８条　企画室に企画室長を置き，課長補佐（総務担当）をもって充てる。

２　入学試験室に入学試験室長を置き，学生課の課長補佐をもって充てる。

（係長）

第９条　係に係長を置く。
２　係長は，事務職員又は技術職員をもって充てる。
３　係長は，上司の命を受け，係の事務を処理する。
（主任）
第１０条　係に主任を置くことができる。
２　主任は，事務職員又は技術職員をもって充てる。
３　主任は，上司の命を受け，係長を補佐し，高度の知識又は経験を必要とする事務を処理する。

第３章　課及び室の所掌事務

（総務課）
第１１条　総務課においては，次の事務をつかさどる。
(1) 本校の事務部の所掌事務に関し，連絡調整すること。
(2) 機密に関すること。
(3) 儀式その他の会議に関すること。
(4) 学則その他諸規程の制定及び改廃に関すること。
(5) 学術団体等との連絡に関すること。
(6) 渉外に関すること。
(7) 公文書の接受，発送，編集及び保管に関すること。
(8) 公印の管守に関すること。
(9) 国際交流に関すること。
(10) 事務情報化に関すること。
(11) 情報公開及び個人情報保護に関すること。
(12) 本校の組織及び機構に関すること。
(13) 自己点検評価及び外部評価に関すること。
(14) 科学研究費等外部資金に関すること。
(15) 学術助成，研究協力等に関すること。
(16) 内地及び在外研究員等に関すること。
(17) 広報に関すること（入試広報に関することを除く。）。
(18) 教職員の任免，分限，懲戒及び服務等に関すること。
(19) 教職員の給与に関すること。
(20) 教職員の定員に関すること。
(21) 教職員の研修及び勤務評定に関すること。
(22) 教職員の安全衛生及び安全管理に関すること。
(23) 教職員の災害補償に関すること。
(24) 共済組合に関すること。
(25) 退職手当に関すること。
(26) 栄典及び表彰に関すること。
(27) 人事記録に関すること。
(28) 図書館資料の受入並びに整理及び保存等に関すること。
(29) 図書館資料の閲覧，貸出等利用に関すること。
(30) 図書館における参考奉仕（検索指導，読書相談等）に関すること。
(31) 調査統計，その他諸報告に関すること。
(32) 予算及び決算に関すること。

(33) 債権の管理に関すること。
(34) 会計経理の監査及び検査に関すること。
(35) 収入及び支出に関すること。
(36) 現金，小切手，預貯金通帳及び有価証券に関すること。
(37) 教職員給与等の支払に関すること。
(38) 所得税及び住民税の徴収に関すること。
(39) 物品の管理に関すること。
(40) 支出契約決議及び支払決議に関すること。
(41) 不動産の維持管理に関すること。
(42) 土地及び建物の貸付並びに借入に関すること。
(43) 教職員宿舎の管理に関すること。
(44) 土地，建物及び工作物の整備復旧並びに維持保全に関すること。
(45) 営繕工事の企画及び設計に関すること。
(46) 学校環境の整備保全に関すること。
(47) その他，他の課の所掌に属しない事務を処理すること。

（学生課）

第１２条　学生課においては，次の事務をつかさどる。
(1) 入学者の選抜に関すること。
(2) 学生の修学指導に関すること。
(3) 教育課程の編成及び授業に関すること。
(4) 学生の学業成績の整理及び記録に関すること。
(5) 学生の学籍に関すること。
(6) 学生の学外実習及び見学に関すること。
(7) 入試広報に関すること。
(8) 研究生，聴講生及び科目等履修生に関すること。
(9) 学生の課外教育に関すること。
(10) 教育方法の改善・充実に関すること。
(11) 学生及び学生団体の指導監督に関すること。
(12) 学生に対する奨学金，入学料・授業料の減免及び猶予並びに経済援助に関すること。
(13) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。
(14) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
(15) 学生の進学に関すること。
(16) 学生の就職に関すること。
(17) 学生旅客運賃割引証に関すること。
(18) 学生の傷害保険の事務に関すること。
(19) 学生相談に関すること。
(20) 学生寮の管理運営に関すること。
(21) 学生の入退寮に関すること。
(22) 寮生の指導監督に関すること。
(23) 外国人留学生に関すること。
(24) その他教務，学生補導及び寮務に関する事務を処理すること。

第４章　課長補佐及び係の事務分掌

（総務課の事務分掌）

第１３条　総務課の所掌事務は，課長補佐，企画室及び各係において次のとおり分掌する。
２　課長補佐（総務担当）は，次の事務をつかさどる。
(1) 所管事項の事務改善の推進に関すること。
(2) 総務課（総務担当）所掌事務の総括及び各係の業務調整に関すること。
(3) 教職員の能率に関すること。
(4) 教職員の安全衛生の総括に関すること。
(5) その他総務課の所掌事務のうち，上司の命を受けた総務に係る事項に関すること。
３　課長補佐（財務担当）は，次の事務をつかさどる。
(1) 所管事項の事務改善の推進に関すること。
(2) 総務課（財務担当）所掌事務の総括及び各係の業務調整に関すること。
(3) 会計機関の公印に関すること。
(4) 予算及び決算の総括事務に関すること。
(5) 会計検査及び会計監査に関する専門的事項に関すること。
(6) 損害保険プログラムに関すること。
(7) 教職員の安全管理の総括に関すること。
(8) 施設マネジメントの総括に関すること。
(9) その他総務課の所掌事務のうち，上司の命を受けた財務に係る事項に関すること。
４　企画室においては，次の事務をつかさどる。
(1) 本校の管理運営，将来計画及び改革についての企画立案及び連絡調整に関すること。
(2) 自己点検評価及び外部評価の総括に関すること。
(3) 本校の組織及び機構に関すること。
(4) 高専改革に係る情報の収集及び分析に関すること。
(5) 広報活動についての総括及び連絡調整に関すること。
５　総務係においては，次の事務をつかさどる。
(1) 事務部所掌事務の連絡調整に関すること。
(2) 機密に関すること。
(3) 秘書事務に関すること。
(4) 儀式その他諸行事に関すること。
(5) 運営委員会，教員会議その他諸会議に関すること（他の課係等の所掌に属するものを除く。）。
(6) 学則その他校内諸規程の制定及び改廃に関すること。
(7) 渉外に関すること。
(8) 学術団体等との連絡に関すること。
(9) 文書管理に関すること。
(10) 公印の管守に関すること（会計機関に関する公印を除く。）。
(11) 国際交流事業に関すること。
(12) 事務情報化，情報公開及び個人情報保護に関すること。
(13) 教職員の旅行命令に関すること。
(14) 海外渡航に関すること。
(15) 教職員の休暇に関すること。
(16) 教職員のレクリエーションに関すること。
(17) 所掌事務に係る調査統計，その他諸報告に関すること。
(18) その他，他の課係等の所掌に属しない事務に関すること。
６　研究協力係においては，次の事務をつかさどる。

(1) 本校の管理運営，将来計画及び改革についての企画調査に関すること。
(2) 自己点検評価及び外部評価に関すること。
(3) 科学研究費等外部資金の申請，受入及び報告に関すること。
(4) 学術助成及び研究協力等に関すること。
(5) 地域共同テクノセンターに関すること。
(6) 地域との連携に関すること。
(7) 公開講座に関すること（出前講座を含む。）。
(8) 内地及び在外研究員等に関すること。
(9) 学校要覧，その他広報に関すること（入試広報に関することを除く。）。
(10) 知的財産（発明・特許）に関すること。
(11) 本校の沿革史及び諸記録の編纂並びに保存に関すること。
(12) 調査統計資料の収集，整理，保存及び利用に関すること。
(13) 所掌事務に係る調査統計，その他諸報告に関すること。
(14) その他研究協力に関すること。

7　人事・労務係においては，次の事務をつかさどる。
(1) 教職員の任免，分限，懲戒及び服務等に関すること。
(2) 教職員の定員並びに級別定数に関すること。
(3) 教職員の給与に関すること。
(4) 教職員の研修及び勤務評定に関すること。
(5) 教職員の労働時間に関すること。
(6) 教職員の安全衛生に関すること。
(7) 教職員の財産形成貯蓄，財形年金，財形住宅及びその他福利に関すること。
(8) 教職員の災害補償に関すること。
(9) 共済組合の長期給付に関すること。
(10) 退職手当に関すること。
(11) 栄典及び表彰に関すること。
(12) 人事記録に関すること。
(13) 教職員の諸証明に関すること。
(14) 職員団体に関すること。
(15) 所掌事務に係る調査統計，その他諸報告に関すること。
(16) その他人事に関すること。

8　図書係においては，次の事務をつかさどる。
(1) 図書及び学術雑誌の整備計画に関すること。
(2) 図書及び学術雑誌の購入に関すること。
(3) 図書及び学術雑誌の受入，整理及び保管に関すること。
(4) 図書及び学術雑誌の分類及び装備に関すること。
(5) 図書及び学術雑誌基本目録及び閲覧目録に関すること。
(6) 図書及び学術雑誌の閲覧及び貸出に関すること。
(7) 学術文献情報の提供に関すること。
(8) 図書及び学術雑誌の寄附に関すること。
(9) 図書及び学術雑誌の利用相談，読書相談等に関すること。
(10) 研究紀要の編集及び配付に関すること。
(11) 図書及び学術雑誌の相互利用（図書の貸借，文献複写等）に関すること。
(12) 所掌事務に係る調査統計，その他諸報告に関すること。

(13) その他図書に関すること。
9　財務係においては，次の事務をつかさどる。
(1) 総務課（財務担当）所掌事務の連絡調整に関すること。
(2) 予算及び決算に関すること。
(3) 財務関係伝票等の確認に関すること。
(4) 会計諸規程に関すること。
(5) 債権の管理に関すること。
(6) 会計経理の監査及び検査に関すること。
(7) 収入及び支出に関すること。
(8) 収入及び支出に係る伝票の作成に関すること。
(9) 現金、小切手、預貯金通帳及び有価証券に関すること。
(10) 教職員給与等の支払に関すること。
(11) 所得税及び住民税の徴収に関すること。
(12) 旅費，諸謝金及び退職手当の経理及び支払に関すること。
(13) 科学研究費等外部資金の経理及び支払に関すること。
(14) 入札の立会に関すること。
(15) 諸納付金の支払に関すること。
(16) 共済組合に関すること（長期給付に関することを除く。）。
(17) 金庫の管守に関すること。
(18) 所掌事務に係る計算証明書及び調査統計，その他諸報告に関すること。
(19) その他，財務に関して他の係に属しない事務に関すること。
１０　契約係においては，次の事務をつかさどる。
(1) 物品の購入，修繕及び役務等の契約に関すること。
(2) 物品及び役務の検収に関すること。
(3) 物品の管理に関すること。
(4) 物品の寄附採納に関すること（図書係の所掌に属するものを除く。）。
(5) 物品の管理換及び供用換並びに分類換に関すること。
(6) 物品の不用決定及び処分に関すること。
(7) 物品の管理関係諸帳簿記帳に関すること。
(8) 支出契約決議及び支払決議に関すること。
(9) 科学研究費等外部資金の契約に関すること。
(10) 光熱水料及び電話料の経理に関すること。
(11) 自動車の運行及び管理に関すること。
(12) 構内の清掃，衛生及びその他労務作業に関すること。
(13) 所掌事務に係る調査統計，その他諸報告に関すること。
(14) その他契約に関すること。
１１　施設係においては，次の事務をつかさどる。
(1) 施設整備費及び営繕関係費の要求に関すること。
(2) 施設の整備計画，環境整備及び保全に関すること。
(3) 営繕工事の企画及び設計に関すること。
(4) 営繕工事等の契約及び施工に関すること。
(5) 教職員の安全管理に関すること。
(6) 支出契約決議及び支払決議に関すること。
(7) 電気，水道，ガス，電話，暖房等付帯設備の維持管理に関すること。

(8) 不動産の維持管理に関すること。
(9) 土地及び建物の貸付並びに借入に関すること。
(10) 教職員宿舎の管理に関すること。
(11) 所掌事務に係る調査統計，その他諸報告に関すること。
(12) その他施設に関すること。
（学生課の事務分掌）
第１４条　学生課の所掌事務は，課長補佐，入学試験室及び各係において次のとおり分掌する。
２　課長補佐は，次の事務をつかさどる。
(1) 所管事項の事務改善の推進に関すること。
(2) 学生課所掌事務の総括及び各係の業務調整に関すること。
(3) 教育方法の改善・充実に関すること。
(4) その他学生課の所掌事務のうち，上司の命を受けた事項に関すること。
３　入学試験室においては，次の事務をつかさどる。
(1) 入学者の選抜の実施及び選抜方法の改善に関すること。
(2) 進学情報の提供並びに進学説明会及び中学校訪問に関すること。
(3) 入学者の選抜情報の調査及び収集に関すること。
(4) 入試広報に関すること。
(5) その他入学者の選抜に関すること。
４　教務係においては，次の事務をつかさどる。
(1) 学生課所掌事務の連絡調整に関すること。
(2) 入学試験室の業務に関すること。
(3) 学生の修学指導に関すること。
(4) 教育課程の編成及び授業に関すること。
(5) 学生の学業成績の整理及び記録に関すること。
(6) 学生指導要録の整理，記録及び保管に関すること。
(7) 学科，学級及び学生定員に関すること。
(8) 入学，進級及び卒業に関すること。
(9) 転科及び転学に関すること。
(10) 休学，復学及び退学に関すること。
(11) 教科書及び教材に関すること。
(12) 学生の出欠席に関すること。
(13) 学生及び卒業生の諸証明に関すること。
(14) 学生の住所変更，転籍，保証人変更等の諸届けに関すること。
(15) 研究生，聴講生及び科目等履修生に関すること。
(16) 学生の学外実習及び見学に関すること。
(17) 学生の課外教育に関すること。
(18) 教務関係の会議に関すること。
(19) 所掌事務に係る調査統計，その他諸報告に関すること。
(20) その他学生課の事務で，他の係等の所掌に属しない事務に関すること。
５　学生係においては，次の事務をつかさどる。
(1) 学生の課外活動に関すること。
(2) 学生の団体及び集会に関すること。
(3) 学生の印刷物の配布，掲示等に関すること。

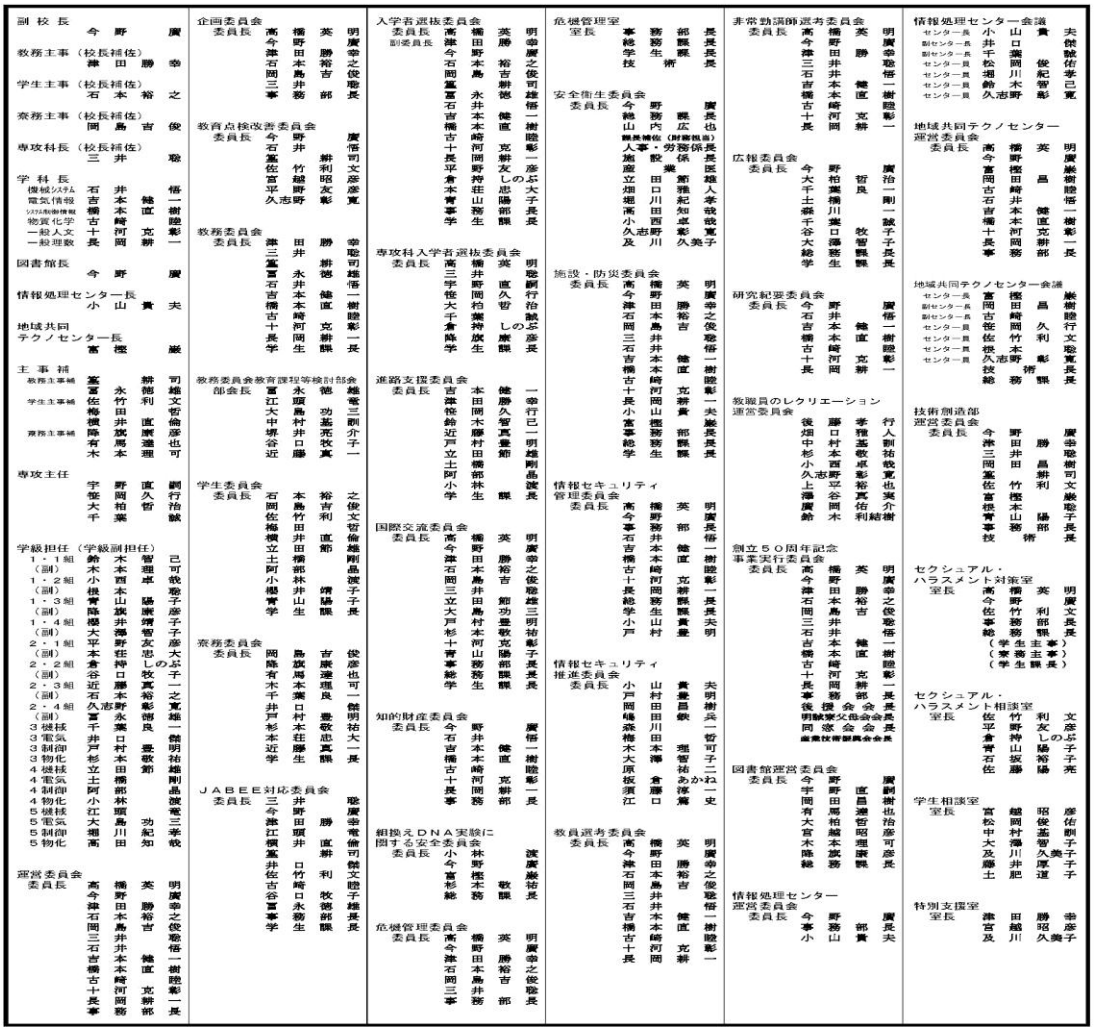
(4) 学生の表彰及び懲戒に関すること。
(5) 奨学生及び奨学金に関すること。
(6) 入学料，授業料の免除及び徴収猶予に関すること。
(7) 学生の厚生施設及び校舎の施設，設備の使用に関すること。
(8) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
(9) 学生の進学に関すること。
(10) 学生の就職に関すること。
(11) 学生の旅客運賃割引証に関すること。
(12) 学生の通学等の証明に関すること。
(13) 学生の傷害保険の契約及び給付金の支払請求に関すること。
(14) 学生相談に関すること。
(15) 学生の厚生補導関係の会議に関すること。
(16) 高専体育大会等に関すること。
(17) 所掌事務に係る調査統計，その他諸報告に関すること。
(18) その他学生の厚生補導に関すること。

6　寮務係においては，次の事務をつかさどる。
(1) 学生寮の管理運営に関すること。
(2) 学生の入寮及び退寮に関すること。
(3) 寮生の指導監督に関すること。
(4) 寮費の収入及び支出に関すること。
(5) 寮生の給食に関すること。
(6) 寮生の保健衛生に関すること。
(7) 学生寮の環境衛生に関すること。
(8) 寮生の郵便物の収受，電話の取次ぎ，連絡等に関すること。
(9) 学生寮関係の会議に関すること。
(10) 外国人留学生に関すること。
(11) 所掌事務に係る調査統計，その他諸報告に関すること。
(12) その他寮務に関すること。

（出典　旭川工業高等専門学校例規集）

資料11－１－②－３

各種委員会委員等名簿



平成２３年度　各種委員会委員等名簿

平成23年4月14日現在

情報処理センター会議
センター長　貴　夫
副センター長　俊紀智彰
副センター長　山口満岡川木野
副センター長　小井千松湖鈴久志
センター員　
センター員　
センター員　

地域共同テクノセンター運営委員会委員長　明廣巌樹聴悟一樹彰一長

地域共同テクノセンター会議
センター長　巌樹聴行文聡寛長長
副センター長　昌　久利　彰
副センター長　櫛田崎岡竹本野　術
副センター長　富岡古笹佐根久志　務
センター員　
センター員　
センター員　

技術部通部運営委員会委員長　廣幸聡樹司文巌聡子長

セクシュアル・ハラスメント対策室長　英　利部課事）
（副室長）　利友し陽裕陽
（副室長）　昭俊基智久美
（学生担当）　文座ポ子子亮

セクシュアル・ハラスメント相談室長　竹野神山坂藤
佐平青青石佐

学生相談室長　麟岡村澤林川井
富松中大及藤土

特別支援室長　幸座子美
勝昭久

非常勤講師選考委員会委員長　英　勝　健直　克耕
橋野田井本崎河岡　野柏廣横川廣口湯務生
高今井三石吉橋古十長

広報委員会委員長　今大千土森千谷大総学　野　哲　牧智課課
野柏廣横川廣口湯務生

研究紀要委員会委員長　今石吉橋古十長　廣悟一樹聴彰一　健直　克耕　野井本本崎阿岡

教職員のレクリエーション運営委員会　行人訓祐戦寛也実介樹結
後畑中杉小久上湯廣鈴　孝稚基敬卓彰裕真佑利　藤口村本酉野忍谷岡木

創立５０周年記念事業実行委員会委員長　明廣幸之俊聡悟一樹聴彰一長長長長
高今津石岡三石吉橋古十長　英　勝裕吉　健直　克耕部課
後明誠窓会会会会
同技術職員会会長

図書館運営委員会委員長　廣嗣樹也治彦可彦長
今宇岡有大倉木陳総　直昌邊哲昭理課課　野務山

情報処理センター運営委員会委員長　廣長夫
今事小　貴　部

危機管理室長　明廣幸之俊聡悟一樹聴彰一長
安全衛生委員会委員長　今総山　野務内事・人施産立畑堀高小久及　田口川田西野川　毅　業　術　係　課課　広（財務課長）　労務係　術　紀知卓彰久美　恵

施設・防災委員会委員長　明廣幸之俊聡悟一樹聴彰一長長医越人孝戦戦寛子美
高今津石岡三石吉橋古十長　英　勝裕吉　健直　克耕貴　部課課
橋野田本島井井本本崎阿岡山　樫務生
事総学技

情報セキュリティ管理委員会委員長　明廣幸之俊聡悟一樹聴彰一長長夫明
高今事石吉橋古十長総学小戸　英　部　健直　克耕課課貴量
橋野務井本本崎阿岡務生山村

情報セキュリティ推進委員会委員長　山村田田川田本澤　倉藤口　貴量徹　理管祐あか彦篤
小戸岡嶋森檜木大原板須江

牧員選考委員会委員長　明廣幸之俊聡悟一樹聴彰一
高今津石岡三石吉橋古十長　橋野田本島井井本本崎阿岡　英　勝裕吉　健直　克耕

入学者選抜委員会委員長　明幸廣之俊聡悟一樹聴彰一彦ぶ大子長
副委員長　英　勝　裕吉耕徳　健直　克耕友しの　忠陽部課
高津今石岡篤富石吉橋古十長平倉本青事学　橋田野本島　永井本本崎阿岡野持荘山務生

専攻科入学者選抜委員会委員長　明聡嗣行治誠ぶ彦長
高三学佐大千倉陣学　橋井野岡柏業持旗生　英　直久哲　しの　廣課

専攻科主任　網行治誠
学生委員会委員長　之俊文哲倫彦也可　裕吉利　直節　靖陽課　石岡佐梅横立土阿小櫛育学　本島竹田井田田横部林井山生

寮務委員会委員長　岡陳有木千　井戸杉本近学　島旗馬木澤口村本荘藤生　吉廣連理良　曼敬節　牧真裕彰部良　曼敬節　永竹田井岡　永業　野柏業　本本崎阿岡　石吉橋古十長　櫻　守笹大千　野岡柏業　直久哲　永竹田井旗馬本　櫻富佐梅横陳有木　耕部利　直廣遵理理　司雄文哲倫彦也可　耕徳　克耕課　勝裕吉　部　英　勝裕吉　部　廣幸之俊聡長　明廣幸之俊聡長　廣悟司文彦彦寛　幸聡司雄悟一樹聴彰一長　廣治一剛一誠子子長　廣長也　廣　今　野　廣　今　野　廣　治　貴　夫　廣　巌　聡　司　雄　文　哲　倫　彦　也　可　廣　幸　之　俊　廣　悟　司　文　彦　彦　寛　廣　幸　聡　司　雄　悟　一　樹　聴　彰　一　長

企画委員会委員長　明廣幸之俊聡長
教育点検改善委員会委員長　野井　竹雄野野　志　今石塩佐富平久　耕利彰友　部　英　勝裕吉　部　橋野田本島井　高今津石岡三　事

教務委員会委員長　幸聡司雄悟一樹聴彰一長
津三篤富石吉橋古十長学　勝　耕徳　健直　克耕　田井　永井本本崎阿岡野持荘生

教務委員会教育課程等検討部会部会長　雄常三訓介子一　徳　功基充牧真　永原島村井口藤　本田岡木藤村田橋部林生

学生委員会委員長　之俊文哲倫彦也可　裕吉利　直節　靖陽課　石岡佐梅横立土阿小櫛育学　本島竹田井田田横部林井山生

寮務委員会委員長　岡陳有木千　井戸杉本近学　島旗馬木澤口村本荘藤生　吉廣連理良　曼敬節　牧真裕彰部良　曼敬節　永竹田井岡　永業　野柏業　本本崎阿岡　石吉橋古十長　櫻　守笹大千　野岡柏業　直久哲　永竹田井旗馬本　櫻富佐梅横陳有木　耕部利　直廣遵理理　司雄文哲倫彦也可　耕徳　克耕課　勝裕吉　部　英　勝裕吉　部　廣幸之俊聡長　明廣幸之俊聡長　廣悟司文彦彦寛　幸聡司雄悟一樹聴彰一長

学級担任（学級副担任）
１・１組　鈴木　己可
（副）　管理卓　戦聡子子彦大ぶ子一之寛雄一
１・２組　西本山　陽廣靖智友忠しの
（副）　牧真裕彰部良　曼敬節
１・３組　井澤野佳神口藤本
（副）　永業　野柏業　本本崎阿岡
１・４組　大平本倉谷近石　久富千井戸杉立土阿小江大堀高
（副）
２・１組　小根青陳機大平本倉谷近石　久富千井戸杉立土阿小江大堀高
（副）
２・２組
（副）
２・３組
（副）
２・４組
（副）
３機械　林　田　橋部林　瞳島川田
３電気　電　三　孝戦
３制御　功紀知
３物化　英　勝裕吉　部
４機械　健直　克耕部
４電気　村本田橋部林　瞳島川田
４制御　敬　牧御部
４機械　野永業　日竹崎口永務生
５機械　井戸杉立土阿小江大堀高
５電気　電　三　孝戦
５制御　功紀知
５物化　英　勝裕吉　部

運営委員会委員長　明廣幸之俊聡悟一樹聴彰一長
高今津石岡三石吉橋古十長事　橋野田本島井井本本崎阿岡務　英　勝裕吉　健直　克耕部

JABEE対応委員会委員長　聡廣幸巌祐長
副委員長　勝　直耕　利　牧御部課
井野田本島井務
日竹崎口永務生
佐古谷富事学

組換えＤＮＡ実験に関する安全委員会委員長　流廣巌祐長
小今富杉総　敬　牧課

危機管理委員会委員長　明廣幸之俊聡長
高今津石岡三事　橋野田本島井務　英　勝裕吉　部

（出典　総務課資料）

資料11－１－②－４

旭川工業高等専門学校各種委員会の構成と所管事項

旭川工業高等専門学校各種委員会の構成と所管事項

委員会名	委員長	委員会構成	主な所管事項
運営懇話会	委員の互選による	校長に委嘱された10名以内の委員	本校の運営に関し，校長の求めに応じて意見を述べる
運営委員会	校長	副校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，各学科（科）長，事務部長	学校運営全般に関する重要事項
校長連絡会	校長	副校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，事務部長，総務課長，学生課長	旭川高専における管理運営の円滑化と連携の強化を図るための懇談の場
教員会議	校長	全教員	運営方針の伝達，意見の聴取，学校運営の円滑化を図るために必要な事項
企画委員会	校長	副校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，事務部長	将来構想，中期目標・中期計画，外部評価，高等専門学校間の交流に関する事項
入学者選抜委員会	校長	副校長，教務主事，学生主事，寮務主事，教務主事補，各学科（科）長，試験科目担当教員，事務部長，学生課長	入学者の募集，入学者選抜実施計画等入学者選抜に関する重要事項
専攻科入学者選抜委員会	校長	専攻科長，各専攻主任，一般人文科委員，一般理数科委員，学生課長	専攻科の入学者の募集，入学者選抜実施計画等入学者選抜に関する重要事項
国際交流委員会	校長	副校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，各学科（科）委員1名，事務部長，総務課長，学生課長	海外の教育研究機関との学術交流推進，海外の研究者等国際交流の推進，外国人留学生の受入れ，指導に関する専門的事項に関する重要事項
危機管理委員会	校長	副校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，事務部長	危機管理方針及び危機管理マニュアルの策定，危機管理教育，危機管理対策の評価及び見直し等危機管理に関する事項
危機管理室	事務部長	総務課長，学生課長，技術長，その他事務部長が指名す	危機管理全般にかかる庶務，委員会及び対策本部の庶務
施設・防災委員会	校長	副校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，各学科（科）長，各センター長，事務部長，総務課長，学生課長	施設の将来計画，改修，防火・防災，環境保全に関する事項
情報セキュリティ管理委員会	情報セキュリティ責任者（校長）	情報セキュリティ副責任者，情報セキュリティ専門委員会委員長，情報セキュリティ管理者，その他校長が認めた者	情報セキュリティポリシーの遵守状況調査及び周知徹底等情報セキュリティに関する事項
教員選考委員会	校長	副校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，各学科（科）長，校長が必要と認	高等専門学校設置基準に定める教員の資格を有する者の中から教員候補者の選考を行うこと
非常勤講師選考委員会	校長	副校長，教務主事，専攻科長，各学科（科）長	非常勤講師の任用に関する選考
創立50周年記念事業実行委員会	校長	副校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，各学科（科）長，図書館センター長，事務部長，後援会長，明誠寮父母会長，同窓会長，その他校長が必要と認めた者	記念行事の企画立案等記念事業の推進に関する事項
地域共同テクノセンター運営委員会	校長	副校長，センター長，副センター長，各学科（科）長，事務部長，その他校長が必要と認	センターの運営，地元自治体等との連携による技術交流，情報交換等に関すること
セクシュアル・ハラスメント対策室	校長	副校長，セクシュアル・ハラスメント相談室長，事務部長，総務課長	セクシュアル・ハラスメント防止等のための啓発活動の企画立案，環境改善案の策定等

セクシュアル・ハラスメント相談室	相談室員の中から校長が指名する者	校長により任命された相談員若干名	セクシュアル・ハラスメントに関する苦情の申し出及び相談対応
教育点検改善委員会	副校長	各学科（科）委員各1名	学習・教育目標の設定及び公開，学習・教育の量，教育手段について点検し，教育改善を提案すること。
知的財産委員会	副校長	各学科（科）長，事務部長，委員長が必要と認めたもの	教職員等の職務発明等にかかる新規性，出願の価値等の審査及び知的財産の権利化・活用等に関する事
安全衛生委員会	副校長	総務課長，衛生管理者，安全管理者，衛生管理担当者，安全管理担当者，産業医，安全衛生に関し経験を有するもののうちから校長が指名した者	教職員の健康障害の防止及び健康の保持増進，労働災害の防止等に関する重要事項
広報委員会	副校長	専攻主任1名，各学科（科）委員各1名，総務課長，学生課長	広報の企画，電子情報メディア利用の広報に関すること
研究紀要委員会	副校長	各学科（科）長，専攻主任1名	研究紀要の企画，発行等に関する事項
情報処理センター運営委員会	副校長	事務部長，センター長，その他校長が必要と認めた者	センターの管理運営，利用計画，情報教育及びコンピュータ支援教育等に関する事項
教務委員会	教務主事	教務主事補，各学科（科）長，学生課長	教育課程の編成，教育内容及び教育方法，授業内容・方法の改善等教務に関する重要事項
教育課程等検討部会	教務主事補	各学科（科）委員各1名	教育課程に関する専門的事項
学生委員会	学生主事	寮務主事，学生主事補，各学科（科）委員各1名，学生課長	学生の課外教育，生活指導等厚生補導に関する重要事項
寮務委員会	寮務主事	寮務主事補，各学科（科）委員各1名，学生課長	学生寄宿舎の生活指導，厚生福祉等寮務に関する重要事項
JABEE対応委員会	専攻科長	副校長，教務主事，各学科（科）委員各1名，事務部長，学生課長	JABEEへの対応及び教育プログラムの教育課程についての検討を行う
進路支援委員会	各学科（科）長	教務主事，各学科（科）長1名，専攻主任1名，第1から第3学年学級担任教員1名，第4学年学級担任教員，学生課長，委員長が必要と認めた者	学生の就職・進学支援等進路決定の支援に関すること
組換えDNA実験に関する安全委員会	安全主任者	副校長，安全主任者1名，実験責任者，実験に関係しない教員，総務課長	実験安全を確保するため，実験に関する規則の制定改廃，実験に関わる教育訓練及び健康管理等について校長に対し助言又は勧告を行うこと
情報セキュリティ推進委員会	情報セキュリティ推進責任者	情報セキュリティ推進員，情報セキュリティ副責任者が必要と認める者	情報セキュリティにおける専門的及び技術的な事項
教職員のレクリエーション運営委員会	委員の互選による	各学科（科）委員各1名，事務部職員4名	レクリエーションに係る助言及び指導，レクリエーション行事の企画及び実施等に関すること
図書館センター運営委員会	館長	専攻主任1名，各学科（科）委員各1名，総務課長	図書室の具体的な運用について協議
情報処理センター会議	センター長	副センター長，センター員	センター業務の具体的な執行方法等に関すること
地域共同テクノセンター会議	センター長	副センター長，センター員，技術長，総務課長，その他センター長が必要と認めた者	センター業務の事業計画立案及び実施等に関すること
技術創造部運営委員会	技術創造部長	教務主事，専攻科長，各学科（科）委員各1名，事務部長，技術長，その他校長が必要と認めた者	技術創造部の管理運営，業務計画の策定等技術創造部の重要事項

学生相談室	相談員の中から校長が選任した者	校長により任命された相談員若干名，補助相談員（看護師）	学生の個人的問題等について相談を受け，早期解決の手助けをすること等，学生相談に必要と認められること
特別支援室	教務主事	学生相談室長，看護師，その他校長が必要と認めた者	支援対象学生の決定，支援チームの設置等支援に関し必要と認められること

（出典　総務課資料）

本校の危機管理体制にあっては，全校的な危機管理の推進と組織の連携を図るため危機管理室を設置し，危機管理マニュアルを作成して危機管理の基本方針，危機管理体制等について，全職員に周知している。緊急時には，校長を本部長とする危機対策本部を設置して，迅速な対応を図る体制をとっている（資料 11－１－②－５，６）。

資料11－１－②－５

旭川工業高等専門学校危機管理要項

（目的）

第１条　この要項は，旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）において発生又は発生することが予想される様々な事象に伴う危機に，迅速かつ的確に対処するため，本校における危機管理体制及び対処方法等を定めることにより，本校の学生及び教職員（非常勤教職員を含む。）並びに近隣住民等の安全確保を図るとともに，本校の社会的な責任を果たすことを目的

とする。
（危機管理の対象）
第２条　この要項に定める危機管理の対象とする事象（以下「危機事象」という。）は，次の各号のいずれかに該当するものとする。
(1) 学生等の安全にかかわる重大な事態
(2) 教育研究等の活動の遂行に重大な支障がある事態
(3) 施設管理上の重大な事態
(4) 本校に対する社会的信頼を損なう事態
(5) 本校が別に定める危機管理マニュアルに規定する危機事象
(6) 前第１号から第４号に準ずるような事態
（校長等の責務）
第３条　校長は，本校における危機管理を統括する責任者であり，危機管理を推進するとともに，必要な措置を講じなければならない。
２　副校長は，校長を補佐し，危機管理の推進に努めなければならない。
３　教職員は，その職務の遂行に当たり，危機管理に努めなければならない。
（危機管理室）
第４条　本校に，危機管理を計画的かつ組織的に推進するために，旭川工業高等専門学校危機管理室（以下「管理室」という。）を置く。
２　管理室は，次に掲げる者をもって組織する。
(1) 校長
(2) 副校長
(3) 教務主事，学生主事及び寮務主事
(4) 専攻科長
(5) 事務部長
(6) 総務課長及び学生課長
(7) その他校長が必要と認める者
３　管理室は，次に掲げる業務を行う。
(1) 危機管理方針の策定に関すること。
(2) 危機管理マニュアルの策定に関すること。
(3) 危機管理教育，研修の企画・立案及び訓練の実施に関すること。
(4) 危機管理対策の評価及び見直しに関すること。
(5) 緊急時の組織体制及び情報伝達方法の整備並びに周知に関すること。
(6) 危機管理に関し，機構本部リスク管理本部と相互連携に関すること。
(7) その他危機管理に関すること。
４　管理室に室長及び副室長を置く。
５　室長には校長を，副室長には副校長をもって充てる。
６　副室長は，室長を補佐し，室長に事故があるときは，その職務を代行する。
７　管理室の庶務は，総務課が主管し，必要に応じて関係課が参画する。
（危機事象に関する通報等）
第５条　教職員は，緊急に対処すべき危機事象が発生又は発生する恐れがあることを発見した場

合は，本校が別に定める危機管理マニュアルに規定する責任部署等または危機管理室へ速やかに通報しなければならない。

２　責任部署等は，前項の通報を受け，又は自ら危機事象を察知した場合は，直ちに危機管理室に連絡するとともに，当該危機事象の状況を確認し，校長と対処方針を協議しなければならない。

（危機対策本部）

第６条　校長は，危機事象の発生時における対処のために必要に応じて危機対策本部（以下「対策本部」という。）を設置するものとする。

２　対策本部は，次に掲げる者をもって組織する。

(1) 第４条第２項第１号から第６号までに規定する者

(2) その他校長が指名する者

３　対策本部に，本部長及び副本部長を置く。

４　本部長は，校長を，副本部長は，副校長及び事務部長をもって充てる。

５　対策本部は，危機事象の対処終了をもって解散する。

６　対策本部の庶務は，総務課が主管し，必要に応じて関係課が参画する。

（危機対策本部の権限等）

第７条　対策本部は，本部長の指揮の下に，迅速に危機事象に対処しなければならない。

２　教職員及び学生は，対策本部の指示に従わなければならない。

３　対策本部は，危機事象の処理に際し，緊急を要する場合には，本校の学内規定等により必要とされる手続きの省略又は当該手続きを対策本部が行うことができる。

４　対策本部は，前項の手続きを省略した場合においては，危機事象の対処終了後に，運営委員会に必要な報告をしなければならない。

（機構本部リスク管理本部等との連携）

第８条　対策本部は，危機管理を総合的かつ有機的に実施するため，機構本部リスク管理本部と相互連携を図るものとするものとする。必要に応じて関係行政機関及び保護者等と連携して対応するものとする。

（校長が不在の場合の措置）

第９条　校長が出張等により不在の場合は，副校長がこの要項に基づき，危機管理に対処する。

（秘密保持の義務）

第１０条　本校の危機対策に関する業務に従事する教職員は，その業務に関して知ることができた秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も，同様とする。

（雑則）

第１１条　この要項に定めるもののほか，本校の危機管理に関し必要な事項は，別に定める。

（出典　旭川工業高等専門学校危機管理要項）

資料11－１－②－６

危機管理マニュアル（抜粋）

危機管理マニュアル



平成 23 年 5 月改訂

独立行政法人国立高等専門学校機構
旭川工業高等専門学校

目　次

Ⅰ 基本的事項 …… P１
１．目的
２．「危機管理」とは
（1）危機管理
（2）リスク
（3）危機事象
（4）現行規程等との関係
Ⅱ 危機管理体制 …… P３
１．危機管理の基本方針
２．危機管理体制
３．危機管理室
４．危機対策本部
５．責任部署等
Ⅲ 危機管理に対する基本姿勢 …… P６
１．平常時の対応
２．緊急時の対応
Ⅳ 平常時の危機対応 …… P７
１．危機管理の年間の流れ
２．リスクの把握・対策の検討・実施
３．連絡体制の整備
４．個別マニュアルの整備
（1）策定
（2）見直し
（3）一元管理
（4）基本事項
５．危機管理に関係する文書の整理等
６．訓練・研修・安全教育
Ⅴ 緊急時の危機対応 …… P１０
１．危機発生時の初動連絡体制
２．教職員の初期対応
（1）教職員の初期対応
（2）危機情報連絡のポイント
３．責任部署等の緊急対応
（1）緊急体制の構築
（2）情報の収集・発信・連絡・管理
４．危機管理室の緊急対応
５．危機対策本部の設置
６．緊急時の広報
（1）目的
（2）報道機関及び近隣住民等への情報提供
（3）保護者への対応
Ⅵ 収束時の危機対応 …… P１３
１．原因や背景の分析
２．危機管理対応の評価及び再発防止策
３．学生の心のケア
４．教職員の心のケア

【参考資料】
○ 緊急時の連絡網
○ 緊急時の連絡先一覧
○「危機情報連絡票」兼「危機事象発生状況報告書」
○ 緊急時対応の基本チェックリスト
○ 原因分析シート（原因分析シートの記載要領）

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

管理運営に関する各種委員会等の任務，目的は，諸規程により明確に規定され，事務部職員は，所掌する委員会に構成員又は陪席者として参画するとともに，教員と適切に役割を分担して効果的に活動している。また，危機管理体制についてもマニュアルを作成し，体制を整備している。

以上のことから，管理運営に係る諸規程を整備し，各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担して効果的に活動するとともに，危機管理体制も整備している。

観点11－２－①：　自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，その結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

本校の自己点検･評価については，全校的な事項に関しては運営委員会が担当し，その他の事項については，各学科・科，専攻科，事務部及び運営委員会が指定する各委員会が担当することが規定されている（資料 11－２－①－１）。

資料11－２－①－１

旭川工業高等専門学校自己評価等に関する規程

（趣旨）

第１条　旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）が，本校の教育水準の向上を図り，かつ，本校の目的及び社会的使命を達成するため，本校における教育研究活動等の状況について自ら行う点検及び評価（以下「自己評価等」という。）については，この規程の定めるところによる。

（会議）

第２条　旭川工業高等専門学校運営委員会（以下「運営委員会」という。）は，全校的な事項に関しての自己評価等を行うほか，次に掲げる事項を審議する。

(1) 自己評価等の基本方針及び実施基準等の策定に関すること。

(2) 自己評価等の実施に関すること。

(3) 自己評価等の結果の集約及び公表に関すること。

(4) その他自己評価等に関すること。

（実施組織）

第３条　自己評価等を行う組織等は，次のとおりとする。

(1) 学科及び科

(2) 専攻科

(3) 事務部

(4) 運営委員会が指定する委員会等

（実施事項）

第４条　自己評価等は，次に掲げる事項について実施するものとする。

(1) 本校の教育理念・目標に関すること。

(2) 教育活動に関すること。

(3) 研究活動に関すること。

(4) 施設設備に関すること。

(5) 国際交流に関すること。

(6) 生涯学習への対応に関すること。

(7) 社会との連携に関すること。

(8) 自己評価等の体制に関すること。

２　前項各号に係る具体的な点検項目は，別に定める。
（自己評価等の結果の対応）
第５条　校長は，運営委員会等が行った自己評価等の結果に基づき，改善が必要と認められるものについては，自らその改善に努めるものとし，必要がある場合は関係する委員会等にその改善策の検討を付議する。

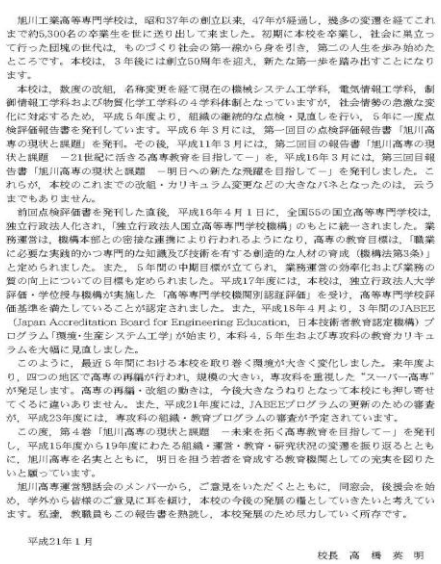
（出典　旭川工業高等専門学校自己評価等に関する規程）

自己点検･評価項目は，教育理念・目標等，教育活動，研究活動，施設設備，国際交流，生涯学習，社会との連携，管理運営等が対象となっており，これらに基づいて，自己点検･評価はこれまでに４回（平成５年度，10 年度，15 年度及び 20 年度）実施され，自己点検･評価報告書として刊行されて関係機関に送付されている。また，本校ウェブサイトに掲載され，公表されている（資料 11－２－①－２，３）。

資料11－２－①－２

自己点検・評価報告書（平成21年１月版抜粋）





ま　え　が　き

旭川工業高等専門学校は，昭和37年の創立以来，47年が経過し，幾多の変遷を経てこれまで約5,300名の卒業生を世に送り出して来ました。初期に本校を卒業し，社会に巣立って行った団塊の世代は，ものづくり社会の第一線から身を引き，第二の人生を歩み始めたところです。本校は，３年後には創立50周年を迎え，新たな第一歩を踏み出すことになります。

本校は，数度の改組，名称変更を経て現在の機械システム工学科，電気情報工学科，制御情報工学科および物質化学工学科の４学科体制となっていますが，社会情勢の急激な変化に対応するため，平成５年度より，組織の継続的な点検・見直しを行い，５年に一度点検評価報告書を発刊しています。平成６年３月には，第一回目の点検評価報告書「旭川高専の現状と課題」を発刊。その後，平成11年３月には，第二回目の報告書「旭川高専の現状と課題　－21世紀に活きる高専教育を目指して－」を，平成16年３月には，第三回目報告書「旭川高専の現状と課題　－明日への新たな飛躍を目指して－」を発刊しました。これらが，本校のこれまでの改組・カリキュラム変更などの大きなバネとなったのは，云うまでもありません。

前回点検評価書を発刊した直後，平成16年４月１日に，全国55の国立高等専門学校は，独立行政法人化され，「独立行政法人国立高等専門学校機構」のもとに統一されました。業務運営は，機構本部との密接な連携により行われるようになり，高専の教育目標は，「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材の育成（機構法第3条）」と定められました。また，５年間の中期目標が立てられ，業務運営の効率化および業務の質の向上についての目標も定められました。平成17年度には，本校は，独立行政法人大学評価・学位授与機構が実施した「高等専門学校機関別認証評価」を受け，高等専門学校評価基準を満たしていることが認定されました。また，平成18年４月より，３年間のJABEE（Japan Accreditation Board for Engineering Education，日本技術者教育認定機構）プログラム「環境・生産システム工学」が始まり，本科４，５年生および専攻科の教育カリキュラムを大幅に見直しました。

このように，最近５年間における本校を取り巻く環境が大きく変化しました。来年度より，四つの地区で高専の再編が行われ，規模の大きい，専攻科を重視した“スーパー高専”が発足します。高専の再編・改組の動きは，今後大きなうねりとなって本校にも押し寄せてくるに違いありません。また，平成21年度には，JABEEプログラムの更新のための審査が，平成23年度には，専攻科の組織・教育プログラムの審査が予定されています。

この度，第４巻「旭川高専の現状と課題　－未来を拓く高専教育を目指して－」を発刊し，平成15年度から19年度にわたる組織・運営・教育・研究状況の変遷を振り返るとともに，旭川高専を名実ともに，明日を担う若者を育成する教育機関としての完実を図りたいと願っています。

旭川高専運営懇話会のメンバーから，ご意見をいただくとともに，同窓会，後援会を始め，学外から皆様のご意見に耳を傾け，本校の今後の発展の礎としていきたいと考えています。私達，教職員もこの報告書を熟読し，本校発展のため尽力していく所存です。

平成21年１月

校長　高　橋　英　明

目　　次

まえがき

Ⅰ　教育理念・目標等

1　本校の教育理念・目標等……1
2　本校の将来構想……4
3　教育研究の活性化，充実のための取り組み……5

Ⅱ-Ⅰ　本科の教育・研究活動

1　学生の受入れ……13
(1)　学生募集，入学者選抜の方針と状況……13
(2)　編入学生募集，入学者選抜の方針と状況……15
(3)　研究生，聴講生，科目等履修生の受入れ……15
(4)　問題点とその改善の指針……17
2　カリキュラムの編成と教育実践……19
(1)　カリキュラム編成における一般教育と専門教育の関係……19
(2)　一般人文科……20
国語……20
社会……21
保健・体育……24
外国語……26
(3)　一般理数科……28
数学・応用数学……29
物理・応用物理……33
化学……34
生物・地学・理科総合……35
情報基礎……37
物理特講・自然科学概論……38
(4)　機械システム工学科……39
1）教育目標及びカリキュラムの編成……39
2）教育指導の在り方……40
3）教育実践の工夫・研究……43
4）問題点とその改善の指針……47
(5)　電気情報工学科……48
1）教育目標及びカリキュラムの編成……48
2）教育指導の在り方……49
3）教育実践の工夫・研究……53
4）問題点とその改善の指針……59
(6)　制御情報工学科……60
1）教育目標及びカリキュラムの編成……60
2）教育指導の在り方……61
3）教育実践の工夫・研究……62
4）問題点とその改善の指針……64
(7)　物質化学工学科……65
1）教育目標及びカリキュラムの編成……66
2）教育指導の在り方……68
3）教育実践の工夫・研究……71
4）問題点とその改善の指針……74
3　成績評価及び単位認定……84
(1)　履修状況並びに成績評価及び単位認定……84
(2)　問題点とその改善の指針……86
4　学生の進級状況及び進路指導……88
(1)　学生の進級状況……88
(2)　進路指導と進路の状況……92
(3)　問題点とその改善の指針……98
5　教育・教科指導全般における問題点の指摘とその改善の指針……99

Ⅱ-Ⅱ　専攻科の教育・研究活動

1　教育方針及び教育目標……105
(1)　専攻科の教育目標……105
(2)　各専攻の教育目標……105
2　学生の受入れ……105
(1)　学生募集，入学者選抜の方針と状況……105
(2)　研究生，聴講生，科目等履修生の受入れ……108
(3)　問題点とその改善の指針……108
3　各専攻における教育・研究の実践……109
(1)　教育目的とカリキュラム編成……109
(2)　教育指導の在り方……113
(3)　教育実践の工夫・研究……113
(4)　問題点とその改善の指針……114
4　成績評価及び単位認定……115
(1)　成績評価及び単位認定……115
(2)　インターンシップ，創造工学の成績評価……115
(3)　特別実験の成績評価……115
(4)　特別研究の成績評価……115
(5)　学士（工学）の学位申請……116
(6)　問題点とその改善の指針……116
5　学生の進路指導……116
(1)　進路指導と進路の状況……116
(2)　問題点とその改善の指針……117
6　JABEEへの対応……118
(1)　アンケート……118
(2)　TOEIC……119
(3)　インターンシップ……120
(4)　次期JABEEへの対応について……120
(5)　問題点とその改善の指針……120

Ⅲ　学生生活

1　学生生活に関連する事項……123
(1)　学生指導の方針と状況……123
(2)　学校行事……137
(3)　課外活動……137
(4)　ボランティア活動……146
(5)　学生相談室……146
(6)　奨学金，授業料免除……154
(7)　問題点とその改善の指針……157
2　寮生活に関連する事項……162
(1)　本校教育における位置付け……162
(2)　学生寮の運営状況……164
(3)　寮生活指導……169
(4)　問題点とその改善の指針……176

Ⅳ　研究活動

1　研究活動の状況……183
2　研究成果の発表状況等……183
3　研究費の財源（学外からの資金の導入状況）……184
4　知的財産権活動……191
5　問題点とその改善の指針……192

Ⅴ　施設設備

1　施設設備の将来計画……195
2　共同利用施設の設備・利用状況……195
(1)　図書館センター……196
(2)　情報処理センター……202
(3)　地域共同テクノセンター……207
(4)　実習工場……209
3　問題点とその改善の指針……213

Ⅵ　国際交流

1　留学生の受入状況と指導体制……215
2　学生の海外留学・研修の状況……217
3　教員の在外研究等……217
4　海外からの教育研究者の招へい状況……219
5　海外の教育機関との交流協定の締結状況……219
6　問題点とその改善の指針……219

Ⅶ　社会との連携

1　公開講座，地域開放特別事業及び出前授業の実施状況……221
2　地域の生涯学習事業に対する連携協力状況……224
3　教員の学外活動状況……225
4　学校施設の開放方針と状況……227
5　地域産業界との連携・交流状況……228
6　中小企業産学連携製造中核人材育成事業の実施状況……230
7　問題点とその改善の指針……232

Ⅷ　管理運営等組織

1　教職員現員の推移……235
2　事務組織……235
3　学内組織及び各種委員会……241
4　問題点とその改善の指針……242

Ⅸ　点検・評価体制

1　自己点検評価……243
2　機関別認証評価……243
3　JABEE認定……243
4　中期目標・中期計画……244

あとがき

（出典　ウェブサイト）

資料11－２－①－３

自己点検・評価報告書（平成21年１月版）送付先

番号	学校名	宛先	郵便番号	住所	備考	送付文書	送付部数
1	独立行政法人国立高等専門学校機構	総務課	193-0834	東京都八王子市東浅川町701-2		案１	15
2	文部科学省	高等教育局専門教育課	100-8959	東京都千代田区霞が関三丁目2番2号		案１	1
3	北海道大学	総務部総務課	060-0808	札幌市北区北８条西５丁目		案１	1
4	北海道教育大学	総務部総務課	002-8501	札幌市北区あいの里5条3丁目1-11		案１	1
5	北海道教育大学札幌校	総務部総務課	002-8501	札幌市北区あいの里5条3丁目1-11		案１	1
6	北海道教育大学函館校	総務・附属学校グループ	040-8567	函館市八幡町1番2号		案１	1
7	北海道教育大学旭川校	総務・附属学校グループ	070-8621	旭川市北門町９丁目		案１	1
8	北海道教育大学釧路校	総務・附属学校グループ	085-8580	釧路市城山1丁目１５番地55号		案１	1
9	北海道教育大学岩見沢校	総務グループ	068-8642	岩見沢市緑が丘2-34		案１	1
10	室蘭工業大学	総務課	050-8585	室蘭市水元町２７番１号		案１	1
11	小樽商科大学	総務課	047-8501	小樽市緑３丁目５番２１号		案１	1
12	帯広畜産大学	企画総務部総務課	080-8555	帯広市稲田町西２線１１番地		案１	1
13	旭川医科大学	総務部総務課	078-8510	旭川市緑ヶ丘東２条１丁目１番１号		案１	1
14	北見工業大学	企画広報課	090-8507	北見市公園町１６５番地		案１	1
15	国立大雪青少年交流の家	事業支援課	071-0235	上川郡美瑛町字白金		案１	1
16	国立日高青少年自然の家	事業支援課	090-8507	沙流郡日高町字富岡		案１	1
17	長岡技術科学大学	総務課	940-2188	長岡市上富岡町 1603-1		案１	1
18	豊橋技術科学大学	総務課	441-8580	豊橋市天伯町雲雀ヶ丘１－１		案１	1
19	函館工業高等専門学校	総務課	042-0953	函館市戸倉町14-1		案１	1
20	苫小牧工業高等専門学校	総務課	059-1275	苫小牧市字錦岡443		案１	1
21	釧路工業高等専門学校	総務課	084-0917	釧路市大楽毛西2丁目32-1		案１	1
22	北海道大学大学院工学研究科長	三　上　　隆	060-0813	札幌市北区北１３条西８丁目	運営懇話会委員	案２	1
23	旭川信用金庫会長	松　田　忠　男	070-8660	旭川市４条通８丁目右１０	運営懇話会委員	案２	1
24	旭川ガス（株）取締役社長	大　沼　克　己	070-8515	旭川市４条通１６丁目左６号	運営懇話会委員	案２	1
25	北海道教育庁上川教育局長	辻　　敏　裕	079-8612	旭川市永山６条１９丁目１―１	運営懇話会委員	案２	1
26	旭川商工会議所専務理事	佐　藤　和　明	070-0043	旭川市常盤通１丁目	運営懇話会委員	案２	1
27	中　尾　義　博		277-0823	千葉県柏市布施新町２－２－１２	運営懇話会委員	案２	1
28	北海道大学高等教育機能開発総合センター教授	山　岸　みどり	060-0817	札幌市北区北１７条西８丁目	運営懇話会委員	案２	1
29	旭川市経済観光部長	重　野　健　一	070-8525	旭川市６条通１０丁目	運営懇話会委員	案２	1
						送付部数計	43

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

自己点検･評価は，学校の教育・研究活動，学生指導，施設設備，管理運営等にわたる全般的な内容となっており，これまで４回（平成５年度，10 年度，15 年度及び 20 年度）実施している。

また，自己点検・評価の結果は，報告書としてとりまとめ，関係機関に配布するとともに本校のホームページ上でも公表している。

以上のことから，総合的な自己点検・評価を実施し，その結果についても公表している。

観点11－２－②：　自己点検・評価の結果について，外部有識者等による検証が実施されているか。

（観点に係る状況）

自己点検･評価報告書を刊行後，外部有識者である本校の運営懇話会委員に内容の検証を事前に依頼し，その後，開催する運営懇話会の席上においても自己点検･評価内容について説明し，後日，外部評価意見書の提出をもって，検証が実施されている。運営懇話会の議事内容については，外部評価報告書としてとりまとめ，関係機関へ配布するとともに本校ホームページに掲載し，公表している（資料 11－２－②－１～４）。

資料11－２－②－１

外部評価意見書提出依頼文（抜粋）

平成２１年２月２４日

《勤務先》
《氏名》 殿

旭川工業高等専門学校長
高　橋　英　明

「外部評価意見書」による御意見について（依頼）

この度の運営懇話会では，御多忙中にもかかわらず御出席の上，貴重な御意見並びに御評価をいただき誠にありがとうございました。

さて，外部評価のとりまとめにつきましては，自己点検・評価報告書の内容と運営懇話会の結果を踏まえて，別途，各委員から点検・評価項目毎あるいは学校運営全般に対する御評価等を「外部評価意見書」の形で頂戴し，運営懇話会の概要と併せ外部評価報告書としてまとめたいと考えております。

つきましては，懇話会当日の配付資料を御参考に，別添の「外部評価意見書」に御評価等をお示しいただきたく，ここにお願い申し上げます。

なお，誠に勝手ながら，３月２３日（月）までに御返送くださいますよう宜しくお願いいたします。（郵送・FAX・ﾒｰﾙ等どのような方法でも結構です。様式ファイルを御利用の方は，下記宛御連絡願います。）

《本件の送付先及び問い合わせ先》
〒071-8142旭川市春光台２条２丁目１番６号
旭川工業高等専門学校総務課
総務課課長補佐(総務担当)　●●　●●
TEL 0166-55-8115
FAX 0166-55-8082
(E-mail:s_sohosa@asahikawa-nct.ac.jp)

7

外 部 評 価 意 見 書

平成２１年　　月　　日

運営懇話会委員氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

以下の「旭川工業高等専門学校自己点検・評価報告書」の各項目に沿って，御意見，御評価，御提言等をお願いいたします。

なお，記入欄が不足の場合は，別途，用紙を添付いただいても結構です。

また，この「外部評価意見書」の様式は，評価項目が網羅されていれば任意の様式でも結構です。

おって，誠に勝手ながら「外部評価意見書」は，　３月２３日（月）までに御返送くださいますようよろしくお願いいたします。

○評価項目：**Ⅰ教育理念・目標等**

1

（出典　総務課資料）

資料11－２－②－２

旭川工業高等専門学校運営懇話会委員名簿

運営懇話会委員

役　職	氏　　名	現　　職
（会　長）	三　上　　隆	北海道大学大学院工学研究科長
（副会長）	松　田　忠　男	旭川信用金庫会長
	大　沼　克　己	旭川ガス（株）取締役社長
	辻　　敏　裕	北海道教育庁上川教育局長
	佐　藤　和　明	旭川商工会議所専務理事
	中　尾　義　博	旭川工業高等専門学校同窓会長
	山　岸　みどり	北海道大学高等教育機能開発総合センター　教授
	重　野　健　一	旭川市経済観光部長

8

（出典　平成20年度外部評価報告書Ｐ８）

資料11－２－②－３

外部評価報告書（平成20年度抜粋）



目　　次

まえがき
Ⅰ　運営懇話会
1　旭川工業高等専門学校運営懇話会規程 …… 1
2　運営懇話会委員名簿 …… 2
3　運営懇話会日程等 …… 3
4　運営懇話会の概要 …… 5
(1) 開　　会 …… 5
(2) 委員自己紹介 …… 5
(3) 本校関係者紹介 …… 5
(4) 旭川高専概要説明 …… 5
(5) 質疑応答・意見交換 …… 13
(6) 施設見学 …… 24
(7) 懇話会再開 …… 25
(8) 講評まとめ …… 33
(9) 校長謝辞 …… 33
Ⅱ　外部評価意見書
会長　三上　隆 …… 43
副会長　松田忠男 …… 46
委員　大沼克己 …… 48
委員　佐藤和明 …… 50
委員　重野健一 …… 52
委員　辻　敏裕 …… 56
委員　中尾義博 …… 58
あとがき

（出典　ウェブサイト）

資料11－２－②－４

外部評価報告書（平成20年度）送付先

番号	学校名	宛先	郵便番号	住所	備考	送付文書	送付部数
1	独立行政法人国立高等専門学校機構	総務課	193-0834	東京都八王子市東浅川町701-2		案１	18
2	文部科学省	高等教育局専門教育課	100-8959	東京都千代田区霞が関三丁目2番2号		案１	1
3	北海道大学	総務部総務課	060-0808	札幌市北区北８条西５丁目		案１	1
4	北海道教育大学	総務部総務課	002-8501	札幌市北区あいの里5条3丁目1-11		案１	1
5	室蘭工業大学	総務課	050-8585	室蘭市水元町２７番１号		案１	1
6	小樽商科大学	総務課	047-8501	小樽市緑３丁目５番２１号		案１	1
7	帯広畜産大学	企画総務部総務課	080-8555	帯広市稲田町西２線１１番地		案１	1
8	旭川医科大学	総務部総務課	078-8510	旭川市緑ヶ丘東２条１丁目１番１号		案１	1
9	北見工業大学	企画広報課	090-8507	北見市公園町１６５番地		案１	1
10	長岡技術科学大学	総務課	940-2188	長岡市上富岡町 1603-1		案１	1
11	豊橋技術科学大学	総務課	441-8580	豊橋市天伯町雲雀ヶ丘１－１		案１	1
12	函館工業高等専門学校	総務課	042-0953	函館市戸倉町14-1		案１	1
13	苫小牧工業高等専門学校	総務課	059-1275	苫小牧市字錦岡443		案１	1
14	釧路工業高等専門学校	総務課	084-0917	釧路市大楽毛西2丁目32-1		案１	1
15	北海道教育庁上川教育局		079-8612	旭川市永山６条１９丁目１－１		案１	1
16	旭川市経済観光部		070-8525	旭川市６条通１０丁目		案１	1
17	旭川商工会議所	産業支援部産業振興課	070-0043	旭川市常盤通１丁目道北経済センター		案１	1
18	旭川工業技術センター		078－8273	旭川市工業団地3条2丁目1番18号		案１	1
19	旭川産業高度化センター		078-8801	旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター		案１	1
20	北海道大学大学院工学研究科長	三　上　　隆	060-0813	札幌市北区北１３条西８丁目	運営懇話会委員	案２	1
21	旭川信用金庫理事長	杉　山　信　治	070-8660	旭川市４条通８丁目右１０	運営懇話会委員	案２	1
22	旭川ガス（株）取締役社長	大　沼　克　己	070-8515	旭川市４条通１６丁目左６号	運営懇話会委員	案２	1
23	北海道教育庁上川教育局長	菅　沼　　肇	079-8612	旭川市永山６条１９丁目１－１	運営懇話会委員	案２	1
24	旭川商工会議所専務理事	佐　藤　和　明	070-0043	旭川市常盤通１丁目道北経済センター	運営懇話会委員	案２	1
25	同窓会長	村　上　孝　志	050-0075	室蘭市中島本町1-22-3-1005	運営懇話会委員	案２	1
26	北海道大学高等教育機能開発総合センター教授	山　岸　みどり	060-0817	札幌市北区北１７条西８丁目	運営懇話会委員	案２	1
27	旭川市経済観光部長	立　花　謙　二	070-8525	旭川市６条通１０丁目	運営懇話会委員	案２	1
28	旭川信用金庫会長	松　田　忠　男	070-8660	旭川市４条通８丁目右１０	元運営懇話会委員	案２	1
29	北海道札幌南高等学校長	辻　　敏　裕	064-8611	札幌市中央区南18条西6丁目	元運営懇話会委員	案２	1
30	（社）旭川市観光協会専務理事	重　野　健　一	070-0043	北海道旭川市常盤通1丁目道北経済センター	元運営懇話会委員	案２	1
31	旭川市経済観光部ものづくり推進室長	植　村　俊　幸	070-0036	旭川市6条通り10丁目旭川第３庁舎	重野委員代理	案２	1
32	元同窓会長	中　尾　義　博	277-0823	千葉県柏市布施新町２－２－１２	元運営懇話会委員	案２	1
						送付部数	49

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

自己点検・評価の結果については，報告書を刊行後，外部有識者で構成する運営懇話会の委員に意見書の提出を依頼し，検証を実施している。また，運営懇話会の議事内容は，外部評価報告書としてとりまとめ，関係機関へ配付するとともに本校のウェブサイト上でも公表している。

以上のことから，自己点検・評価に対する外部有識者等による検証が実施されている。

観点11－２－③：　評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され，有効に運営されているか。

（観点に係る状況）

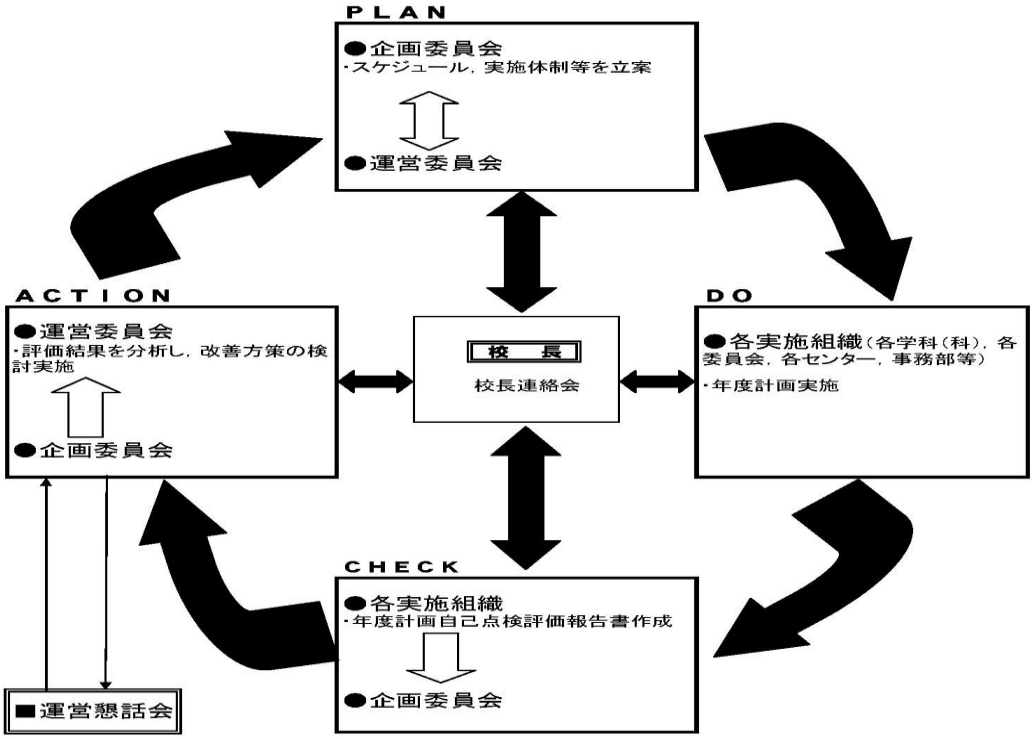
運営委員会等が行った自己評価，運営懇話会委員が行った外部評価等の結果は，報告書としてまとめられ，全教員等へ配布することにより内容が周知されている。

校長は，評価結果に基づき，改善が必要と認められるものについては，副校長，各校長補佐と連携し，自ら改善に努め，各委員会等にあっては，評価結果を踏まえた年度計画の作成→年度計画の実施→年度計画の点検・評価という PDCA サイクルを繰り返すことにより，管理運営上の改善に結び付けている（資料 11－２－③－１）。

管理運営上の改善事例としては，委員会の在り方について検討の必要性が指摘され，その後，企画委員会，運営委員会の審議を経て対応されている（資料 11－２－③－２～４）。

資料11－２－③－１

◆自己点検・評価実施の流れ



（出典　総務課資料）

資料11－２－③－２

外部評価意見書（抜粋）

外部評価意見書

会長　三上　隆
北海道大学大学院工学研究科長

Ⅰ　教育理念・目標等

○旭川高専としての教育理念・教育目標は，受け入れる学生の年齢層を考慮すると，本科と専攻科別々に掲げたほうが良いと思われる。特に本科の場合は，中学生にも容易に理解できるように，教育理念・目標の内容は同じだとしても，表現法等に工夫が必要と思われる。

Ⅱ－Ⅰ　本科の教育・研究活動

○高専教育の広報・啓発活動として，体験入学，中学校訪問，進学説明会等を積極的に開催していることは評価できる。
○入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）を定めているが，一般選抜（学力検査）及び推薦選抜に対して同じものであり，高専が求める学生像の特徴がみえてこない。
○教育カリキュラムの見直しの効果は，例えば，数学及び物理の学習到達度の結果にも現れており評価できる。

Ⅱ－Ⅱ　専攻科の教育・研究活動

○高専教育は，理数離れ等の影響をまだ受けていない学生を受け入れることが最大の特徴・特色です。この点を十分に生かした教育課程の編成を心掛けて頂きたい。
○新しい取組みの一つとして，低学年を対象にした混合学級を導入している。今後は，この学級の教育効果の検証を行い，改善・向上に努めて頂きたい。
○専攻科は，独自の教育理念・教育目標を明確に立てるのが自然と思われる。
○カリキュラム編成には，不断の努力が認められ敬意を表する。引き続き，社会の人材要請に応えられるよう期待する。特に，専攻科は７年間一貫した教育カリキュラムの編成が可能であり，このメリットを最大限生かし，専攻科の充実を目指して頂きたい。

Ⅲ　学生生活

○少ない教職員数の下で，校内生活・校外生活，課外・学外活動等，多岐にわたる指導を行っており敬意を表する。
○学生相談は件数が年々多くなる傾向にあり，また相談内容も対人関係・精神面の悩みに関するものが増加している。その対応は，教員以外では，専門カウンセラー（非常勤，週１回勤務）及び補助相談員（看護師，１名）が担当しているが，早急に相談体制の改善に取り組む必要が

あると思われる。

Ⅳ　研究活動

○研究についての高専の使命・役割は，大学のそれとは異なるものと考えられる。しかし，学生の教育に与える影響（卒業研究や専攻科の特定実験・特別研究を通じて）を考えれば，教員の研究は軽視できるものではない。
○研究資金は年々減少傾向にあるので，今後とも，科学研究費補助金等の競争的資金及び共同研究等の外部資金の獲得に向けた積極的な取組みが必要である。
○科学研究費補助金の申請状況は，平成 20 年度は 23 件，平成 21 年度は 26 件である。教員の現員（61 名）に対する申請件数は，多いとは言い難いようであり，一層の努力が必要と思われる。

Ⅴ　施設整備

○施設整備は，学生・教職員の安全・安心の確保の面，教育研究に相応しい環境の確保の面からも，アスベスト除去を優先しつつ，引き続き整備計画に基づき着実に進めて頂きたい。特に，「ものづくり創造センター」は，旭川高専の教育理念にも密接に関係する事業であり，早急な整備が望まれる。
○今後は，スペースに対する課金等を含めて，自前により整備・維持管理の在り方の工夫が必要である。

Ⅵ　国際交流

○旭川高専における国際交流の目的・将来像が明確になっていないようである。留学生の受け入れなのか，学生の相互交流なのか，目的・目標が明確になれば，その自己評価も可能となり，また検討・改善事項が見えてくると思われる。

Ⅶ　社会との連携

○地域の産業界との連携強化を図るために，地域共同テクノセンターを設置したことは評価される。また，センターを中心に様々な事業を展開していることも評価できる。
○今後は，事業の量よりも質に重きを置いた活動が強く望まれる。そのためにも，事業の評価とそれを今後の事業へ反映させる透明なシステムの構築が望まれる。

Ⅷ　管理運営等組織

○委員会の開催回数や委員会構成委員数等にもよるが，現在の管理運営体制が機動的なものになっているのか疑問である。

資料11－２－③－２

○先生方の教育・研究のための時間を最大限に確保してもらうためにも，委員会の見直し，室の導入等の検討が必要と思われる。

Ⅸ　点検・評価体制

○点検・評価体制では，点検・評価結果がいかにフィードバックされ，教育・研究，各種事業等の質向上・改善に生かされているかが重要である。この点に留意された自己点検・評価を期待する。

（出典　平成２０年度外部評価報告書　Ｐ43～45）

資料11－２－③－３

企画委員会議事要旨（平成23.1.19開催）抜粋

平成２２年度第５回　企画委員会　議事要旨

日　時　　平成２３年1月１９日（水）１６：４５～１８：００
場　所　　中会議室
出席者　　今野委員長，宇野，土橋，沼田，鈴木，川口，横道の各委員
欠席者　　堀川，青山，高見の各委員
陪席者　　原　課長補佐

議題

１．旭川高専における各種委員会等の見直し（案）について・・・資料１，参考資料

委員長から前回，１２月９日開催の本委員会で決定された事項と併せて，１２月２４日開催の校長連絡会で検討された事項を加え，資料１のとおり取りまとめた旨の説明があり，資料の内容について審議された。

新たに加えられた事項について，資料１に基づき，以下のとおり説明があった。

◆１頁：１．運営委員会

● 定足数等については，修正案の条文『３分の２以上の出席で開会。議決は過半数の同意とし，可否同数時は，議長が決定する。』に『代理人の出席について，構成員のうち，各学科長及び科長についてのみ認め，議決権を与える。代理人の職位は，教授に限る。』という趣旨の文言を加える。

◆２頁：２．企画委員会

● 構成員については，意見のあった将来構想理立案など事項によって，下部に専門部会を設置して対応することも考え，「専門部会を設置することができる」旨の条文，運営委員会との位置付けを明確にする文言を設置規定に加える。また，委員会の性格を検討機関とし，定足数等の文言は，削除する。

◆５頁：３．専攻科委員会

● 専攻科委員会については，原案どおり，発展的に解消し，入学者選抜に関する事項以外の審議事項は，教務委員会に移行し，新たに『専攻科入学者選抜委員会』を設置して専攻科の入学者選抜に関する事項を審議する。専攻科入学者選抜委員会の構成員は，校長，専攻科長，専攻主任，一般人文科及び一般理数科の教員のうちから各１名とする。

◆５頁：４．入学者選抜委員会

● 入学者選抜委員会については，構成員から「専攻科長」を，審議事項から「専攻科入試に関すること」を削る。

◆６頁：５．進路支援委員会

● 進路支援委員会については，名称を原案どおり『進路支援委員会』とする。構成員については，「学科長のうちから１名」を加えて，同人を委員長とし，「第４学年学級担任のうちから１名」を「第４学年各学級担任」とする。

- 1 -

（出典　企画委員会議事要旨）

資料11－２－③－４

運営委員会議事要旨（平成23.1．27開催抜粋）

運営委員会（平成２２年度臨時）議事要旨

日　　時　平成２３年1月２７日（木）１７：２０～１８：３５
場　　所　中会議室

出 席 者　高橋校長，今野副校長，津田教務主事，石本学生主事，後藤寮務主事，三井専攻科長，石井学科長，吉本学科長，橋本学科長，古崎学科長，十河科長，長岡科長，川口事務部長
陪 席 者　総務課長，学生課長，技術長，総務課課長補佐（総務担当），学生課課長補佐，総務係長

議　事
協議事項
１．旭川高専における各種委員会等の見直し（案）について　（資料１）
　校長から，旭川高専における各種委員会等の見直し（案）について諮られ，企画委員長である副校長から資料１に基づき説明があった後，協議を行い，委員長の選任及び委員会とするか室とするか在り方等について意見のあった進路支援委員会を除き，原案どおり了承された。
　なお，保留とした進路支援委員会については，改めて検討した上で次回の運営委員会で協議することとした。
　最後に校長から，進路支援委員会を除き，新年度に向けて委員選出の準備を進めていただきたい旨の依頼があった。

[redacted]

以　上

（出典　運営委員会議事要旨）

（分析結果とその根拠理由）

自己点検･評価，外部評価の結果については，全教員等へ周知され，改善が必要と認められるものについては，校長が自ら対応するとともに各委員会に諮問し，各委員会においては毎年，PDCA サイクルにしたがって管理運営上の改善に取り組んでいる。

以上のことから，自己点検･評価，外部評価の結果は，各組織等にフィードバックされ，各組織等は，改善のサイクルを循環させ，管理運営上の改善を図っている。

観点11－３－①：　外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）

本校では，規定に基づき，平成 15 年度から外部有識者等を委員とする運営懇話会を設置し（資料 11－３－①－１，２），毎年，本校の現況に対する意見・提言等を求め，また，観点 11－２－②でも記述したとおり，本校が自己点検･評価を実施した年度には外部評価という趣旨で，評価点検項目，学校運営全般について，意見等の提出を依頼している。

提出された意見等については，校長が主体となって対応策を検討し（資料 11－３－①－３），各委員会等は，この意見等を踏まえて，中期計画等を策定している。

直近の平成 20 年度には，管理運営上の改善事項として，前述したとおり，委員会の在り方についての検討が必要である旨，指摘があり，その後，企画委員会，運営委員会の審議を経て，委員会の見直しが行われた（資料 11－３－①－４）。

資料11－３－①－１

旭川工業高等専門学校運営懇話会規程（抜粋）

（趣旨）

第１条　旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，広く学外の有識者から意見を求めるため，旭川工業高等専門学校運営懇話会（以下「運営懇話会」という。）を置く。

（任務）

第２条　運営懇話会は，本校の運営に関し，校長の求めに応じて意見を述べるものとする。

（委嘱）

第３条　運営懇話会の委員は，人格識見が高く，広く社会の実情に通じ，かつ，本校の充実発展に関心と理解のある学外者のうちから，校長が委嘱する。

（組織）

第４条　運営懇話会は，１０名以内の委員で組織する。

（任期）

第５条　運営懇話会の委員の任期は，２年とし，再任を妨げない。

２　欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（会長及び副会長）

第６条　運営懇話会に会長及び副会長１名を置き，それぞれ委員が互選する。

２　会長は，運営懇話会の会務を総理する。

３　副会長は，会長を補佐し，会長に事故あるときはその職務を代理し，会長が欠けたときはその職務を行う。

（事務）

第７条　運営懇話会の事務は，総務課において処理する。

（雑則）

第８条　この規程に定めるもののほか，運営懇話会の運営に関し必要な事項は，校長が別に定める。

（出典　旭川工業高等専門学校運営懇話会規程）

資料11－３－①－２

運営懇話会日程等

2 運営懇話会日程等

1　日　　時　平成 22 年 3 月 26 日（金）13：00 ～ 15：00

2　開催場所　旭川工業高等専門学校大会議室

3　出 席 者　運営懇話会委員 6 名
佐藤委員（代理　松倉氏）、菅沼委員（代理　菅原氏）、
立花委員（代理　植村氏）、三上委員、村上委員、山岸委員

（本校陪席）高橋校長、津田教務主事、石本学生主事、後藤寮務主事、三井専攻科長、
富樫地域共同テクノセンター副センター長、今野制御情報工学科長、
川口事務部長、横道総務課長、高坂総務課課長補佐（総務担当）、大関総
務課課長補佐（財務担当）、瀧田学生課課長補佐、板倉総務課総務係長

4　会議次第　13：00　　校長挨拶
13：05 ～　開　　会
委員自己紹介
本校関係者紹介
13：10 ～　議　　事
15：00　　閉　　会

－ 3 －

（出典　平成21年度運営懇話会報告書Ｐ３）

資料11－３－①－３

外部評価意見書（平成21.2.24運営懇話会委員からの意見）及び回答（抜粋）

外部評価意見書（21.2.24運営懇話会委員からの意見）への対応について

運営懇話会委員からの意見	対　　応
Ⅰ　教育理念・目標等	
◎旭川高専としての教育理念・教育目標は，受け入れる学生の年齢層を考慮すると，本科と専攻科別々に掲げたほうが良いと思われる。特に本科の場合は，中学生にも容易に理解できるように，教育理念・目標の内容は同じだとしても，表現法等に工夫が必要と思われる。（三上会長）	◎ 本校の教育理念、教育目標、JABEE プログラムにおける教育目標、専攻科の教育目標については、制定した時期が同一でなく、整合性に欠ける部分もあるため、表現の変更を含めて議論中である。
◎教育理念は全く同感，すばらしい。教育目標は，全ての項目が網羅されていると思うが，実際の執行においてはメリハリをつける必要があるし，旭川高専としての独自性も大切と思う。（松田副会長）	◎ 本校における教育の目標は、「実践的研究開発型技術者の育成」にあり、その目標達成のため、一般の高校、あるいは大学とは異なる教育を行っている。近年の科学技術の進歩および高度化に対応するための「質の高い教育体制」に配慮しつつ、個性化・差別化を目指して行きたい。
◎専門性の高い教育・理論を詰め込むだけではなく，幅広い教養を養うことで在学中の研究活動，その後の企業での実務においても数多くの引き出しを作ることになり，発想力・応用力を高めることができる。また実験・実習等の体験学習の重視，教育を受けるという受身ではなく，自主的思考を育む教育方針についても引き続き実施していただきたい。（佐藤委員）	◎ 本校においては、一般教育科目および専門教育科目において、学生の自主性を育む内容を取り入れている他、特に卒業研究、特別研究、創造工学などにおいて、これまでに学習した知識および技術を総合的に駆使し、学生の能力を自ら引き出す授業を取り入れている。また、課外活動、学生会活動、寮生会活動においても、学生の自主性の向上に努めている。今後とも、自主的思考を育む教育の推進に努力したい。
◎人間性豊かな「実戦的研究開発型技術者」の育成は異論のないところであります。そうしたことを踏まえた，豊かな教養と幅広い思考力を養う教育は人間形成のみならず人生にとって様々な困難に立ち向かっ	◎ 本校における一般教育科目は、第３学年までは高等学校学習指導要領に基づいて行われているとともに、英語を道具として使用する授業を

資料11－３－①－３

外部評価意見書（平成21.2.24運営懇話会委員からの意見）及び回答（抜粋）

待します。（重野委員〔代理：植村〕） ◎様々な取組がなされており評価できます。子どもたちへの啓発活動及び地域人材の育成に向け一層のご尽力を願います。（辻委員）	
Ⅷ　管理運営等組織	
◎委員会の開催回数や委員会構成委員数等にもよるが，現在の管理運営体制が機動的なものになっているのか疑問である。先生方の教育・研究のための時間を最大限に確保してもらうためにも，委員会の見直し，室の導入等の検討が必要と思われる。（三上会長）	◎ 現在、委員会・室の大幅な見直しを行っており、平成 23 度より新体制で望むべく、規則の改正を含めて検討中である。また、事務の合理化・効率化についても現在進行中であり、更なる努力を今後とも進めていく。
◎特記すべきことなし。（松田副会長）	
◎経費削減は学校関係だけでなく，今や国内すべての企業でも最大の課題であり，新たな業務にも支障を来たしかねないが教職員，事務職員が現状を共有した中で努力して頂きたい。（大沼委員）	◎ 運営費交付金が毎年、1%程度削減される現在、経費の縮減を心がけているが、これをカバーするために競争的外部資金の獲得が、重要である。GP プログラムなどへの応募を積極的に行って参りたい。
◎独立行政法人化に伴い教職員の削減が行われるなど，厳しい状況にあるとは思うが，事務の合理化，効率化，アウトソーシングを推進し，効率的な管理体制を構築したことは評価できる。（佐藤委員）	
◎ 高専間の人事交流も多くないとのことです。内向き的に見受けられることから，もっと他の大学や高校課程にあっては他の高校との人事交流を積極的に実施していくとともに，高専の進むべき方向，存在のあり方も含め積極的に議論していくことを期待します。（重野委員〔代理：植村〕）	◎ 本校を含めた高専が、今後どのような方向に向かうのかは大変大きな問題であり、本校の最も強い関心事である。平成 21 年度より高専機構の第二期中期目標期間が始まり、本校においても「第二期中期計画」と定め、以下の基本方針を決定・遂行中である。すなわち、 1）実践性・創造性を重視した一貫教育をもとに，我が国のイノベーションを支え，国際的に活躍できる人材を育成する。

（出典　総務課資料）

資料11－３－①－４

各　種　委　員　会　見　直　し　後　の　編　成　状　況

【現　行】

	名称	校長	副校長	主事	主事補	専攻科長	専攻主任	センター長	副センター長	学科長	室長	担任	教員
1	運営委員会	●	●	●		●				●			
2	研究推進委員会		●	●		●		●		●			
3	企画委員会		●										▲
4	教育点検改善委員会		●										▲
5	教務委員会			●	●					●			
6	FD推進委員会			●		●							●
7	専攻科委員会												
8	学生委員会			●	●							●	
9	寮務委員会			●	●								●
10	JABEE対応委員会		●	●		●	●						●
11	入学者選抜委員会	●	●	●	●					●			●
12	進路支援委員会			●			●			●		●	
13	国際交流委員会		●	●	●		●						●
14	外国人留学生委員会				●								●
15	知的財産委員会		●							●			
16	組換えDNA実験に関する安全委員会		●										●
17	危機管理委員会	●	●	●		●							
18	安全衛生委員会		●										▲
19	施設・設備委員会		●	●		●		●		●			
20	安全・防災委員会	●	●	●		●		●		●			
21	情報セキュリティ管理委員会	●	●					●		●			
22	情報セキュリティ専門委員会							●					
23	教員選考委員会	●	●	●		●				●			
24	専攻科担当教員資格審査委員会	●	●	●		●							
25	非常勤講師選考委員会	●	●	●		●				●			
26	広報委員会		●					●					●
27	広報委員会管理部会	広報委員会委員のうちから選出											
28	研究紀要委員会		●					●		●			
29	教職員のレクリエーション運営委員会												●
30	図書館センター運営委員会							●	●				●
31	情報処理センター運営委員会		●						●				
32	地域共同テクノセンター運営委員会	●	●										
33	技術創造部運営委員会		●	●		●							●
34	情報公開・個人情報保護ワーキング・グループ	運営委員会委員のうちから校長が指名した者											
35	校長連絡会	●	●	●		●							
36	教育課程等委員会			●									●
37	広報委員会作業部会												●
38	情報処理センター会議							●	●				●
39	地域共同テクノセンターワーキング・グループ							●	●				●
40	地域共同テクノセンター技術開発相談室							●					
41	危機管理室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
42	学生相談室										●		
43	セクシュアル・ハラスメント対策室	●	●								●		
44	セクシュアル・ハラスメント相談室										●		
45	特別支援室			●							●		
		11	24	20	6	12	6	10	2	12	4	2	18

●委員会　31　※ ▲は，校長が指名する者
◆専門部会等（室を含む。）　14

【改　正　後】

	名称	校長	副校長	主事	主事補	専攻科長	専攻主任	センター長	副センター長	学科長	室長	担任	教員
1	運営委員会	●	●	●		●				●			
2													
3	企画委員会	●	●	●		●							
4	教育点検改善委員会		●										▲
5	教務委員会			●	●	●				●			
6													
7	専攻科入学者選抜委員会	●				●	●						●
8	学生委員会			●	●							●	
9	寮務委員会			●	●								●
10	JABEE対応委員会		●	●		●	●						●
11	入学者選抜委員会	●	●	●	●					●			●
12	進路支援委員会			●			●			●		●	
13	国際交流委員会	●	●	●		●	●						●
14													
15	知的財産委員会		●							●			
16	組換えDNA実験に関する安全委員会		●										●
17	危機管理委員会	●	●	●		●							
18	安全衛生委員会		●										▲
19	施設・防災委員会	●	●	●		●		●		●			
20													
21	情報セキュリティ管理委員会	●	●					●		●			
22	情報セキュリティ推進委員会							●					
23	教員選考委員会	●	●	●		●				●			
24	専攻科担当教員資格審査委員会	●	●	●		●							
25	非常勤講師選考委員会	●	●	●		●				●			
26	広報委員会		●				●						●
27													
28	研究紀要委員会		●							●			
29	教職員のレクリエーション運営委員会												●
30	図書館運営委員会						●	●					●
31	情報処理センター運営委員会		●					●					
32	地域共同テクノセンター運営委員会	●	●					●	●	●			
33	技術創造部運営委員会		●	●		●							●
34	情報公開・個人情報保護ワーキング・グループ	運営委員会委員のうちから校長が指名した者											
35	校長連絡会	●	●	●		●							
36	教育課程等検討部会			●									●
37	広報委員会ホームページ部会												●
38	情報処理センター会議							●	●				●
39	地域共同テクノセンター会議							●	●				●
40	地域共同テクノセンター技術開発相談室							●					
41	危機管理室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
42	学生相談室										●		
43	セクシュアル・ハラスメント対策室	●	●								●		
44	セクシュアル・ハラスメント相談室										●		
45	特別支援室			●							●		
		14	22	18	4	13	6	9	3	11	4	2	16

●委員会　28　※ ▲は，校長が指名する者
◆専門部会等（室を含む。）　12

（出典　運営委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，規定に基づき，外部有識者等を委員として委嘱し，毎年，運営懇話会を開催して，意見，提言等を受けている。これらの意見，提言等に対して，校長は主体的に対応策を検討し，各委員会等においても，それぞれ改善を図り，中期計画，年度計画を策定する際，それらの意見，提言等を反映させている。

以上のことから，外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されている。

観点11－３－②：　学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用しているか。

（観点に係る状況）

外部の教育資源を活用する本校の取組として，専攻科２年生を対象とする「創造工学」という授業科目で，本校 OB である企業経験者（マイスター）から指導を受け，地域の企業を巡って，各企業が抱えている課題を集約，整理したうえ，テーマを設定し，そのテーマを解決するため，学生が取り組んでいく問題解決型授業を展開している（資料 11－３－②－１）。

資料11－３－②－１

創造工学（平成23年度シラバス抜粋）

科目名	創造工学	JABEE科目	科目コード 618

学年・学科等名	2 学年	生産システム工学専攻	専門的・必修
単位数・開講期	2 単位	通年	
総時間数	90 時間	演習 60 ＋ 自学自習 30	
担当教員	三井　聡・宇野　直嗣・有馬　達也・戸村　豊明・沼田　ゆかり・非常勤講師		

JABEE関連	教育プログラム科目区分	303専門工学科目③課題解決系
	教育プログラムの学習・教育目標	D-3(60%) E-2(20%) E-3(20%)
	JABEE基準	deh

教科書名	
補助教材	
参考書	

A.　教育目標

工学基礎科目と専門基礎関連科目で展開し、学生の自発的学習、論理的思考、グループ活動、プレゼンテーションなどの能力を養成し、技術者・研究者として指導できる能力を育成することを目標とする。さらに、チームで協力しながら総合的なエンジニアリング・デザインを体験する。

B.　概要

豊富な知識と経験を持つ企業経験者（マイスター）による技術者教育を導入する。マイスターの指導のもとでチームごとに異なる課題を解決していくエンジニアリング・デザイン教育を実施する。

与えられた課題について、チームで様々な角度から取り組み方や具体化の方法を調査・検討し，発表する。次に、実際に具体化し、その結果を検証し，成果を発表する。

C.　学習上の留意点

チームごとに配置されたマイスターの指導のもとで、地域企業等のニーズを調査し、課題を探す。課題解決のため、調査に基づいて企画、立案し，進捗状況に応じて計画等の修正を行ないながら、具体化していき、その成果を発表する。毎週進捗レポートを提出し、２回のプレゼンテーションを行う。積極的に参加すること。

D.　評価方法

評価項目	学習・教育目標	指針	評価割合
企画・デザイン力（内容理解度）	D-3	・課題に対して，どのように実験，調査を進め，目標に到達できるかを考え，企画したか。 ・課題の内容を理解し，地域貢献，環境等に配慮した考え方ができるようになったか。 ・積極的に課題設定，調査方法，課題探求，実験方法等について検討，実行したか。	60 点
チームワーク	E-2	・チームメンバー間で強調し，討議を行いながら課題解決を進めたか。	20 点
創造性	E-3	・課題に関連する分野の知識，情報等を理解し，自ら考えて進めた内容・方法があったか。	20 点

（出典　シラバス）

また，市内５大学及び市との連携により，エリア内の教育・地域振興を図ることを目指すことを目的として立ち上げられた「旭川ウェルビーイング・コンソーシアム」に参加し，単位互換に関する協定を締結している（資料 11－３－②－２）。

資料11－３－②－２

協定書

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム
における単位互換に関する協定書

この協定に参加する高等教育機関（以下「学校」という。）は、各学校の規則に定めるところにより、各学校の学生がそれぞれ他の学校が指定する授業科目（多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる授業科目を含む。）を相互に履修の上、単位を修得することを認めることとし、次のとおり協定を締結する。

(受入れ)
第１条　この協定に参加する学校に在学する学生が、他の学校が指定する授業科目を履修し、単位の修得を希望するときは、当該学生を受け入れるものとする。

(単位互換履修生(特別聴講学生))
第２条　各学校は、前条により受け入れた学生を「単位互換履修生(特別聴講学生)」（以下「聴講学生」という。）として取り扱う。

(履修期間)
第３条　聴講学生の履修期間は、各学校の定めるところによる。

(授業科目の範囲及び単位数)
第４条　履修できる授業科目の範囲及び修得できる単位数は、各学校の定めるところによる。

(受入学生数)
第５条　各学校の受け入れる学生数は、各学校の定めるところによる。

(受入手続)
第６条　聴講学生の受け入れ手続は、各学校の定めるところによる。

(単位の認定)
第７条　聴講学生の履修方法、単位の認定については、科目開設学校の学生の場合と同様とする。

(授業料等)
第８条　聴講学生の検定料、入学料及び授業料等は、各学校において徴収しない。

(有効期間)
第９条　この協定の有効期間は、平成 22 年４月１日から効力を生ずるものとし、第 10 条の規定に定めるところによって終了されるまで効力を有する。

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科の授業科目に，本校 OB や企業技術者のアドバイスを活用する問題解決型の授業を取り入れ，地域の実情に即した人材育成，技術開発を図り，地域の発展に貢献するため，他大学，研究機関，企業とも積極的に交流している。

以上のことから，学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用している。

観点11－４－①：　高等専門学校における教育研究活動等の状況や，その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。

（観点に係る状況）

本校の教育研究活動等の状況や成果に関する情報については，刊行物として，教育目標，組織図，施設・設備概要，学生数等々，本校の全般的な情報を記載した「学校要覧」，各教員，技術職員の研究分野等を記載した「研究シーズ集」，センターの活動状況を記載した「テクノセンターニュース」，学校行事の実施状況，学生生活の様子を中心に記載した「学校だより」（名称「ＦＡＮＣＴ」）等を作成し，地域社会，産業界への広報活動に活用している。

また，これらの情報については，本校ホームページに掲載し，外部に発信している（資料11－４－①－１）。

資料11－４－①－１

広報関係刊行物等

●旭川工業高等専門学校ホームページ

◆トップページ：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/index_jp.html

◆学校要覧：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/info/gakkouyouran/H22gakkouyouran.pdf

◆研究シーズ集：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/tech/seeds/seeds.html

◆テクノセンターニュース：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/tech/news/technews01.pdf

◆学校だより：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/info/dayorihp/tayori106.pdf

（出典　本校ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

本校における教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報については，ホームページ及び刊行物により，地域社会に情報を提供している。

以上のことから，本校における教育研究活動等の状況や，その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・　学校の目的を達成するために，校長を補佐する体制が整備され，校長のリーダーシップの下，評価結果を基にした改善が組織的に行われる体制が構築されている。

　また，運営懇話会を毎年開催し，第三者による意見を参考にしながら，委員会の見直しなど学校の管理運営に活用している。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準11の自己評価の概要

学校の目的を達成するために，校長を補佐する体制として副校長，校長補佐（教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長）及び事務部長を中心とした体制が整備され，その役割が明確になっており，検討課題等に応じて各種委員会等で審議・検討が行われた後，校長が最終的な判断を行う意思決定態勢となっている。

管理運営に関する各種委員会等の任務，目的は，諸規程により明確に規定され，事務部職員は，教員と適切に役割を分担して効果的に活動し，危機管理体制についても体制を整備している。

自己点検･評価は，定期的に全般的な内容について実施し，報告書としてとりまとめ，ホームページ上で公表し，その結果については，外部有識者で構成する運営懇話会の委員による検証後，外部評価報告書としてとりまとめ，全教員等へ周知し，管理運営上の改善に反映させている。

また，専攻科において，本校 OB による指導の下，問題解決型授業を展開し，外部の教育資源を積極的に活用している。

本校の教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報については，ホームページ等により広くわかりやすく社会に発信している。